

青森市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集

三内丸山(2)・小三内遺跡

発掘調査報告書

平成5年度

青 森 市 教 育 委 員 会



調査区域空撮（南西 北東）
E区から青森湾をのぞむ



第2号円形周溝 確認面

序

青森県のほぼ中央に位置しております青森市は、北にむつ湾を、南に八甲田山系をひかえ、豊かな自然の食糧資源を基盤に1万年もの大昔から人間の生活適地として悠久の歴史を歩み続け、今日人口29万の県都として発展してきております。

本書に記載しております遺跡が所在している三内地区は、江戸時代の頃から土器の発見される場所として知られているほど、現在でも市内を代表する遺跡の宝庫として学術上貴重な地域であります。

この度、この三内地区に都市計画街路の敷設事業が計画され、予定路線が三内丸山(2)・小三内遺跡地内を通ることとなりましたことから、当委員会では、埋蔵文化財の取り扱いについて事業者側と協議を重ねてまいりました結果、事前に発掘調査を実施し遺跡の記録保存を図ることといたしました。本書は、三内丸山(2)・小三内遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

本書が研究者はもとより市民各位にとりましても、当市の歴史を紐解く鍵として、さらには文化財保護啓蒙にいささかでも役立つことができれば幸甚の至りと存じます。

最後となりましたが、ここに本書を刊行することができましたことは、調査指導員並びに調査員はじめ関係各機関・各位のご指導、さらには事業者である青森市都市開発部のご理解と三内地区各町会各位のご協力の賜ものによるものと、ここに深く感謝の意を表する次第であります。

平成6年3月

青森市教育委員会

教育長 花 田 陽 悟

例 言

1. 本書は、平成4・5年度に発掘調査を実施した青森市大字三内字丸山に所在する「三内丸山(2)遺跡」・「小三内遺跡」の発掘調査報告書である。

平成5年度末には、平成4年度の調査分の概要を概報として刊行している。なお、本書では概報に載せた遺構については再録せず、遺物については再録を図った。概報の内容は、当時の内容・所見を記述したものであり、本報告書の記述・図版がすべてに優先するものである。

2. 発掘調査は、青森市都市計画街路事業(3・4・15号里見丸山線)に先立って実施されたものである。
3. 発掘調査を実施した「三内丸山(2)遺跡」・「小三内遺跡」は、青森県遺跡台帳に、それぞれ遺跡番号01021番、01017番として登録されている周知の遺跡である。
4. 本書に掲載してある図版の縮尺は、各図版ごとに表示してあるが、ないものは任意の縮尺である。なお写真図版については、縮尺の統一を図っていない。
5. 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森市教育委員会で保管している。
6. 資料の鑑定・分析等は、次の方々に依頼した。(順不同・敬称略)

放射性炭素年代測定

財団法人 青森県工業技術教育振興会

八戸工業大学助教授

村中 健

鉄製品の分析

岩手県立博物館主任専門学芸調査員

赤沼 英男

石器の石質鑑定

青森県立黒石高等学校教諭

工藤 一彌

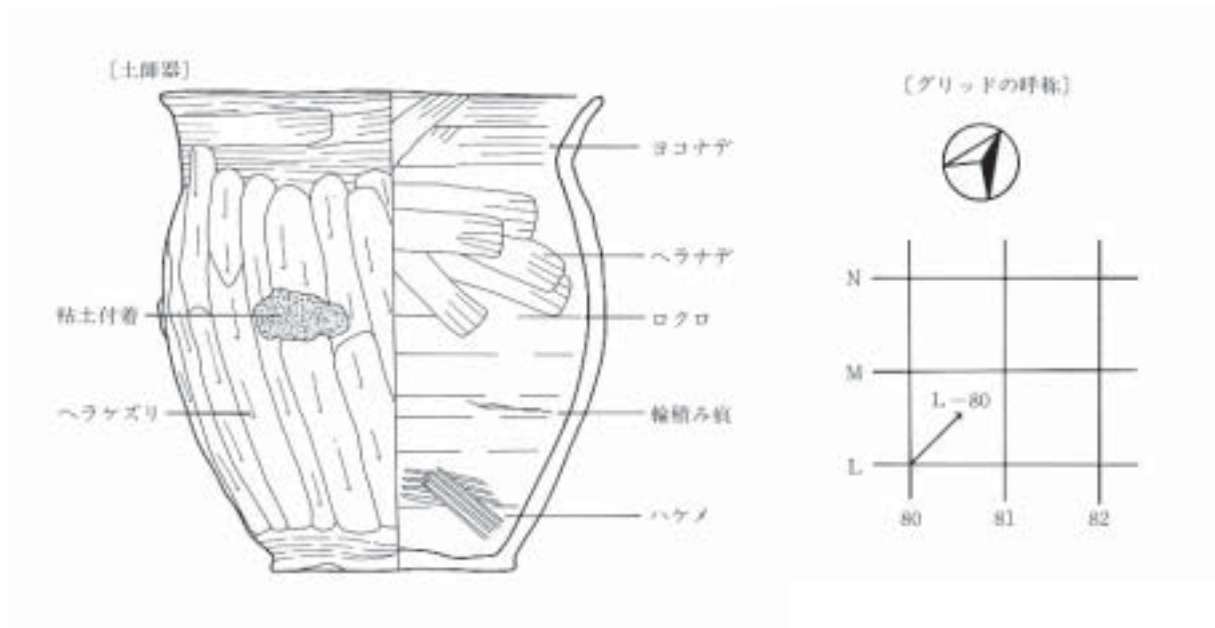
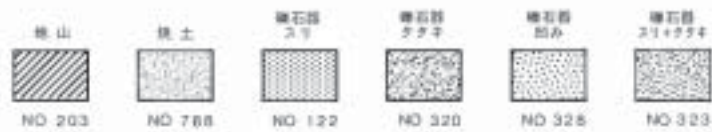
7. 執筆者名は、依頼原稿については文頭に記し、それ以外については主に調査担当者である長沼圭一が執筆した。
8. 発掘調査並びに報告書作成にあたり、次の機関・諸氏にご指導を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。(敬称略・順不同)

青森県教育庁文化課・青森県埋蔵文化財調査センター・青森県立郷土館・八戸市教育委員会・秋川市教育委員会・青森山田高等学校・地元各町会・青森市三内清掃工場
秋元 武榮・市川 金丸・三浦 圭介・成田 滋彦・畠山 昇・白鳥 文雄・中島 友文・岡田 康博・木村 真明・成田 悟・三浦 孝仁・阿部 美杉・長瀬 昇・工藤 直樹・中村 哲也・小笠原 雅行・宇部 則保・水田 政雄・岩田 満・坂本 洋一・古屋敷 則雄・長崎 勝巳・松橋 智佳子・関谷 学・関根 輝雄

凡 例

1.本文中及び図版・表に使用した略称・記号・スクリーンターン等の表示内容は、次のとおりである。

H・住居跡.....	縦穴住居跡	10土・土.....	土壌	円.....	円形周溝
埋.....	埋設土器遺構	焼.....	焼土状遺構	溝.....	溝状遺構
溝P.....	溝状ピット	P.....	ピット	P...土器	S...石器
LB.....	ロームブロック	B.....	ブロック		



目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	

第 章 調査に至る経過と調査要項

第 1 節 調査に至る経過.....	1
第 2 節 調査要項.....	1
第 3 節 調査方法.....	3
第 4 節 調査経過.....	6

第 章 遺跡の環境

第 1 節 遺跡周辺の自然環境.....	9
第 2 節 周辺の遺跡.....	12
第 3 節 遺跡の基本層序.....	14

第 章 調査の成果

第 1 節 A 区の調査	15
(1) 竪穴住居跡	16
(2) 土 壙	20
第 2 節 D 区の調査	23
(1) 竪穴住居跡	23
(2) 土 壙	23
(3) 溝状遺構	23
第 3 節 E 区の調査	30
縄文時代.....	30
(1) 竪穴住居跡	30
(2) 土 壙	68
(3) 埋設土器遺構.....	154
(4) 焼土状遺構.....	158

(5) 小ピット群.....	161
歴史時代	165
(1) 円形周溝.....	165
(2) 竪穴住居跡.....	169
(3) 溝状遺構.....	191
第4節 A・D・E区の出土遺物.....	193
縄文時代	193
(1) 土器.....	193
(2) 石器.....	222
(3) その他の遺物.....	226
歴史時代	279
(1) 土師器.....	279
(2) 須恵器.....	280
(3) その他の遺物.....	288
 第 章 分析と考察	
第1節 円形周溝	290
第2節 遺溝	292
 第 章 自然科学的分析	
第1節 三内丸山(2)遺跡出土鉄器・鉄塊・鉄滓の金属学的分析	296
第2節 放射性炭素年代測定結果について.....	309
 第 章 まとめ	310
 写真図版	313

第 章 調査に至る経過と調査要項

第 1 節 調査に至る経過

平成3年、青森市では市内三内地区に都市計画街路事業(3・4・15号里見丸山線)の計画を明らかにした。市都市計画課より計画予定地内に埋蔵文化財包蔵地が含まれているかどうかの照会があった。それに対し、市教育委員会社会教育課では、予定地の大半が二つの周知の埋蔵文化財包蔵地(三内丸山(2)遺跡・小三内遺跡)であることを通知するとともに、この遺跡の取り扱いについて事業者側と協議の結果、遺跡の記録保存として事前に発掘調査を実施することとした。調査期間は、平成4・5年の2年間とした。

第 2 節 調査要項

(平成4年度調査要項)

1. 調査目的 平成4年青森市都市計画街路事業(3・4・15号里見丸山線)に先立ち、当該地区に所在する三内丸山(2)遺跡の発掘調査を実施し、その記録保存を図るとともに、地域社会の文化財活用に資する。
2. 調査期間 平成4年5月12日から平成4年10月30日
3. 遺跡名及び 三内丸山(2)遺跡 (さんないまるやま)
所在地 青森市大字三内字丸山275 - 1外
4. 調査対象面積 10,000m²
5. 調査委託者 青森市都市開発部
6. 調査受託者 青森市教育委員会
7. 調査担当機関 青森市教育委員会社会教育課
8. 調査協力機関 青森県教育庁文化課
青森県埋蔵文化財調査センター
青森県青森土木事務所
財団法人青森県スポーツ振興事業団
9. 調査体制
調査指導員 村越 潔 弘前大学教授
調査員 小山 陽造 八戸工業高等専門学校教授
工藤 一彌 青森県立黒石高等学校教諭

	高橋 潤	青森山田高等学校教諭
調査協力員	佐藤 俊勝	三内丸山町会長
調査事務局	青森市教育委員会	
教 育 長	花田 陽悟	
理事・教育次長	阿部 祐之助	
社会教育課長	寺澤 松三郎	
”	課長補佐兼埋蔵文化財係長	遠藤 正夫
”	指導主事	長沼 圭一 (調査担当)
”	”	徳差 義男 (”)
”	”	小林 淳 (”)
”	主 事	武田 均
”	”	田澤 淳逸 (調査担当)
”	”	上野 隆博
	調査補助員	永井 治・金山 晃道・松橋 寛佳・一戸久美子・工藤 博美

(平成5年度調査要項)

1. 調査目的 平成4年青森市都市計画街路事業(3・4・15号里見丸山線)に先立ち、当該地区に所在する三内丸山(2)・小三内遺跡の発掘調査を実施し、その記録保存を図るとともに、地域社会の文化財活用に資する。
2. 調査期間 平成5年5月11日から平成5年12月3日
3. 遺跡名及び 三内丸山(2)・小三内遺跡(さんないまるやま・こさんない)
所在地 青森市大字三内字丸山250外
4. 調査対象面積 7,000m²
5. 調査委託者 青森市都市開発部
6. 調査受託者 青森市教育委員会
7. 調査担当機関 青森市教育委員会生涯学習部社会教育課
8. 調査協力機関 青森県教育庁文化課
青森県埋蔵文化財調査センター
青森県青森土木事務所
財団法人青森県スポーツ振興事業団
9. 調査体制
調査指導員 村越 潔 弘前大学教授

調 査 員	高島 成侑	八戸工業大学教授
	工藤 一彌	青森県立黒石高等学校教諭
	葛西 励	青森山田高等学校主事教諭
	高橋 潤	青森山田高等学校教諭
調査協力員	佐藤 俊勝	三内丸山町会長
調査事務局	青森市教育委員会	
教 育 長	花田 陽悟	
生涯学習部長	阿部 祐之助	
社会教育課長	寺澤 松三郎	
”	課長補佐	遠藤 正夫
”	主幹兼埋蔵文化財係長	塩谷 光男
”	指導主事	長沼 圭一（調査担当）
”	”	徳差 義男
”	”	小林 淳
”	主 事	武田 均
”	”	田澤 淳逸
”	”	上野 隆博
調査補助員	沼宮内 陽一郎・松橋 寛佳・一戸久美子・小鹿 みゆき	

第3節 調査方法

1. 調査区域の状況

調査区域の範囲は、県の総合運動公園拡張事業予定地内の東南側に当たる。その中に市の都市計画街路事業（3・4・15号里見丸山線）が含まれる。予定路線は、環状7号バイパスから三内の清掃工場（南西から北東）に向かって、幅20m・長さ約900mである。この範囲内に、三内丸山(2)遺跡と小三内遺跡が所在している。この二つの遺跡の位置関係については、環状7号バイパスの方から三内丸山(2)遺跡が大きく位置し、三内の清掃工場側約100m²に小三内遺跡が位置している。調査対象面積は、平成4年10,000m²、平成5年7,000m²の計17,000m²である。

調査対象の地域が広範囲にわたるため、遺跡全体を大きく環状7号バイパス側からA・B・C・D・Eの五つの地区に便宜上区分した。ただし、B区は丘陵だった所を宅地にしようとして、削平並びに土盛りにより整地してあったため、いくつかトレンチを組み確認した。またC区は、昭和52年の青森国体の前に近野遺跡の発掘調査が行われた際に、同じく調査（三内丸山



第1図 調査区名称

(2)遺跡)された後、道路となり今はコンクリート舗装である。現在道路として使用されており、この地区については今後協議することとなった。

2. グリッドの設定

調査区域が細長く南西から北東に向かって緩やかに弧を描いていることから、同一軸線によるグリッドの設定は困難であった。このため、A区とD区からE区とそれぞれ単独に軸線を設定し、グリッドを設定した。(B区とC区は除外した。)

3. 土層の呼称

自然堆積土層については、上位から下位へ・・・とアラビア数字を、遺構内の覆土については同じく上位から下位へ1・2・3と算用数字を付すこととした。

4. 粗掘り

粗掘りは、土層観察用のベルトを残しながら、グリッド単位で作業を進めることにした。粗掘りの深さは、第 層(表土)から第 層(地山ローム・最終的に無遺物層となる地山)上位付近までとした。

5. 遺物の取り上げ方法

出土遺物のうち、遺構内のものについては、原則としてレベル・ポイント・出土層位を記載し、場合によっては微細図を作成し、写真撮影を行い取り上げることにした。遺構外のものについては、グリッド単位に出土層位を記載した。また、取り上げに際しては、色分けしたカード(土器 白、石器 青、その他 赤)を使用した。

6. 遺構の調査

遺構は、調査区ごと各種類ごと確認順に番号を付した。遺構の精査は、原則として二分法ないしは四分法による平面・分層発掘で行った。

7. 実測図の作成

平面図 原則として、簡易遣り方測量によって作成した。縮尺は竪穴住居跡・土壇は20分の1、埋設土器遺構は10分の1とした。

断面図 標準土層は20分の1の縮尺で調査区域の主要な地点にセクションベルトを設け、土層断面図を作成した。遺構は、堆積状態と断面図を二方向にわたって作成した。

断面図には、各層ごとの土色・しまり具合・粒径・混入物・湿性・粘性の注記・埋没過程・遺物のあり方・遺構の新旧関係・その他の所見を書き込むことにした。

8. 写真記録

発掘調査に欠かせない作業に写真撮影がある。特に今回のように調査終了後には消滅して道路に生まれ変わろうとしている場合は、活字では表現できない後世に如実に伝えられる貴重な資料が写真である。このような観点に立ち、調査中は適宜、遺構・遺物等の写真撮影を行うことに努めた。その際に使用するカメラは2台で、使用するフィルムはモノクロとカラーリバーサルの2種類とした。撮影は、平面プランの確認状況、堆積土層、完掘、遺物出土状況、その他随時作業風景等を記録した。

第4節 調査経過

(平成4年度)

5月上旬、発掘調査にあたって、関係機関の担当者と調査打ち合わせ会議を市役所で開催した。会議では、青森市都市計画街路事業(3・4・15号里見丸山線)の説明と発掘調査の要項及び方法について協議した。

調査は、平成4年5月12日から開始した。調査にあたりその便宜上、調査区を環状7号バイパスに近い方からA・B・C・D・Eと五つの地区に区分して作業を進めた。はじめは、試掘のためのA区と盛り土をして更地にしてあるB区と現在県総合運動公園西駐車場への進入路であるC区の草刈りを行い、A区・B区・C区に杭打ち、仮グリッド設定及び粗掘り作業を進めていった。A区は、当初は遺跡の隣接地ということで全面発掘調査ではなく、試掘調査を行い、遺跡と確認した時点で全面発掘調査をすることで進めた。5月下旬には、遺構や遺物を確認したので遺跡と判断し、調査委託者側に木の伐採を依頼し、全面発掘調査を行うこととした。その間、B区・C区は盛り土とコンクリート道路のため、遺構や遺物を確認できなかったため、D区の粗掘り作業を開始した。D区は木と笹が生い茂っていた。

6月になると、D区において、数箇所から遺物が出土しはじめ、グリッド単位で遺物の一括取り上げを行った。中旬になるとA区の木の伐採も終わり、下旬には下枝等を片付けて、再びA区でグリッドを設定し粗掘り作業を開始した。

7月になると、天気が良好で土が乾き地割れが生じてきたため、地面に大量に水をかけた。24日には、調査指導員の弘前大学村越教授が来跡した。また25日には、市民を対象にした遺跡の現地見学会を行った。小雨の中117名の人が見学に訪れた。

8月になると、D区の土層観察用のベルトの除去作業と土層を観察するためのセクションを幅約2mで各地点実測した。17日には、教育長・理事・課長が来跡した。

9月になると、A区・D区のほかにE区の粗掘り作業にも取りかかった。6日と12日には、『生涯学習のまちづくりフェスティバル』の一環として、一日市民縄文遺跡調査団を結成して、一般市民と児童生徒を対象に遺跡の発掘体験を行った。また24日には、市内の中教研社会科部会の会員（30数名）が来跡した。

10月になると、A区は法面の表土はぎ、B区は盛り土を確認するため2か所の掘り下げ、E区は排土を除去する作業に重機を入れた。7日には、社会教育指導員の先生方が5名、20日には、調査委託者側の都市開発部の部長・次長・参事が来跡した。下旬には、遺構の精査も終了し、30日をもって無事に発掘調査を終了した。

（平成5年度）

調査は、平成5年5月11日から昨年度から引き続きのE区の萱の根とりと法部分の粗掘り作業を開始した。遺構確認面までの深さが比較的浅く、粗掘り作業とほぼ併行した状況で次々と遺構が確認され住居跡や土壌の精査に入った。下旬には、県埋蔵文化財調査センターの成田課長と安全対策のため近隣の学校を訪問した。

6月になると、山林の伐採に入った。8日には、八戸工業大学高島教授と県立郷土館市川補佐が来跡した。10日には、大阪市立大学辻講師と県埋蔵文化財調査センター成田課長と岡田主査が来跡した。中旬には、小屋跡や竹やぶを除去するため重機を投入した。

7月になると、N0.48～N0.45までの粗掘りを進めたところ、数多くの遺構が確認された。また下旬には、10mを越す環状を呈する溝が2基検出され、古墳ではないかと推測された。

8月になると、古墳のことについて青森山田高校葛西・高橋、八戸市教育委員会宇部主査・藤田主査と八戸市博物館大野学芸員、10日に弘前大学村越教授、国立歴史博物館吉岡教授、県立郷土館工藤主査が来跡し、古墳ではないかという丸い溝を古墳と認定してよいのではないかと所見をいただいた。お盆明けの18日には、古墳に関する記者発表を現場で行った。テレビはその日の夕方の放送、新聞は次の日に記事に取り上げられた。下旬にかけても、古墳のことについて多くの方々が来跡した。

9月になると、2日に調査協力員の三内丸山町会長佐藤俊勝氏、3日に県立郷土館市川補佐が来跡した。5日には、市民を対象にした遺跡の現地見学会を開催した。古墳の発見ということもあり、多くの市民の方々が見にこられた。古墳の位置している一帯の遺構精査も本格化し、直径2m、深さ2m前後の土壌が多いため、一つの遺構の精査に時間がかかるようになってきた。10日に村越教授と県埋蔵文化財調査センター三浦課長、14日に八戸市教育委員会村木主査・

小保内主事、20日に調査委託者側の都市開発部加福主幹・高橋主査、県埋蔵文化財調査センター三浦課長と岡田主査ほか多数来跡した。

10月になると、古墳の調査と遺構の精査が中心となった。15日に国学院大学小林教授・奈良教育大学の三辻教授・八戸工業高等専門学校小山教授・黒石高校工藤・鹿角市教育委員会秋元主任・文化課三宅班長、そして21日には、事業委託者側の都市開発部の部長・理事・課長・係長、29日に秋田埋文センター富樫所長が来跡した。当初は10月末で発掘調査を終える予定であったが、遺構が予想以上に検出されたためと古墳の発見等種々の要因により当初の予定を変更して、期間の延長を図った。

11月になると、排土の移動のために重機を投入した。調査は古墳の中の遺構や、道路幅ぎりぎりのところに10数基の土壌の精査が中心となった。8日に八戸市教委宇部主査、10日に県埋蔵文化財調査センター三浦課長、11日に県埋蔵文化財調査センター成田課長、17日に県立郷土館市川補佐が来跡した。

12月になると、3日に八戸工業大学高島教授が来跡し、同日遺構の精査も終了し2か年にわたった三内丸山(2)・小三内遺跡の発掘調査を無事に終了した。

第 章 遺跡の概要

青森県立黒石高等学校教諭 工藤 一彌

第 1 節 遺跡周辺の自然環境

青森平野は新生代第四紀に形成された海岸平野であり、東西約10km、南北約5kmのほぼ三角形をしている。北は陸奥湾に面し、南～東は八甲田山につらなる火山性の台地、西は標高50～150mの比較的緩傾斜の開析が進んだ丘陵に囲まれている。西部の丘陵地との境界には「入内断層」と呼ばれる南北方向の大きな断層が存在している。この断層は第四紀初頭から活動を始め、東側が最大で800m以上も北に落ち込んでおり、同時に進行していった海進によって非常に厚い地層が形成され、平野の原形が形成されていったものと考えられている。

南側の火山性台地は八甲田カルデラから噴出した八甲田火砕流堆積物、いわゆる「田代平溶結凝灰岩」からなる台地で、「入内断層」によってできた低地を埋め、緩やかな勾配で北西側に傾斜し、横内～駒込付近から平野に没し、試錐データによると断層の東側で1,000m、市の中心部では500m、市東部の矢田前付近では300mの深さまで達している。

西部の丘陵地は開析がすすみ、稜線の標高は50～150mで緩やかに北に傾斜している。砂・砂質シルト層からなる洪積世の岡町層を基盤に砂礫・砂・泥や八甲田火砕流堆積物などが重なり、最上位に火山灰層が堆積している。八甲田火砕流堆積物は村岡・長谷(1990)によると、大きく2つに区分され、そのうち1期のものには水底火砕流堆積物として産する場合があります、従来の鶴ヶ坂層がこれに相当するとされ、K-Ar法によって65万年前の活動としている。2期のものは従来の田代平溶結凝灰岩に相当し、陸上火砕流堆積物が主体であり、K-Ar法で40万年前の活動としている。

本地域の火山灰層は沢田(1977)により3層に区分され、下位から三内火山灰・大谷火山灰・月見野火山灰と呼ばれている。下位の三内火山灰は中部と最下部に浮石帯をもつ赤褐色粘土質降下火山灰で、中位の大谷火山灰は赤褐色粘土質降下火山灰と茶褐色浮石質降下火山灰よりなり、分布範囲は狭い。上位の月見野火山灰は最も広範囲に分布しており、黄褐色浮石質火山灰からなり、浮石流～火山灰流の部分も多い。

本遺跡は西部の丘陵地の北東縁に位置する。第四紀洪積世に形成された段丘面上に存在する。青森平野西部の浪館～三内にかけて比較的開析のすすんだ標高10～30mの平坦面が分布しており、氷河時代の海水準変動によって形成されたもので、浪館段丘と呼ばれており、標高によって2～3面に細分される。また、小規模ながら浪館段丘よりも低い標高5～10mにも平坦面が見られる。このような段丘は青森平野の西部に局部的に見られ、沖館川をはさみ、北の三内～石

江地区と南側の浪館地区に分布する。沖館川の沖積平野は250～300mの幅があり、北東方向へ約1kmで青森平野へと続く。遺跡は沖館川とその支流(現在は宅地化)にはさまれた丘陵面の南麓に位置しており、区域によって地形的な差が大きい。A区は丘陵地の尾根が比較的急傾斜で沖館川の支流に落ち込んでいる部分に存在する。B区は沖館川の支流へと続く谷であり、C区は丘陵地の東端に位置しているが、盛り土と舗装道路によって原地形が失われてしまっている。D区・E区は第四紀洪積世に形成された浪館段丘面の南麓に位置する。北の沖館川へとつづく谷底平野(現在は宅地化し、一部に湿地と沼が残る)に向かって段丘面から緩やかに傾斜している緩斜面上にD区・E区が並ぶ。D区・E区の境界付近には3箇所の厚い黒色土堆積地帯があり、谷底平野へ続く枝沢であったものと考えられる。A区では石英粒の多い溶結凝灰岩の基盤の上に月見野火山灰と考えられる約60cmの黄褐色火山灰が重なり、黒色土は10～20mと薄い。D区とE区でも石英粒の多い火砕流の粘土化した上部を基盤に月見野火山灰と考えられる褐色火山灰が重なる。火山灰と黒色土はその境界も複雑で、厚さも場所によって著しく異なるので、地形的にも侵食、再堆積した可能性がある。E区では炭化植物片と石英粒を含む黄褐色火山灰を最下部に砂質の石英粒を含む灰色粘土層、赤褐色粘土質火山灰、軽石を含む黄褐色火山灰、黒色土と重なる。一部で葉理を持つ石英の砂層があり、丘陵地や高位の段丘から供給されたものと考えられる。

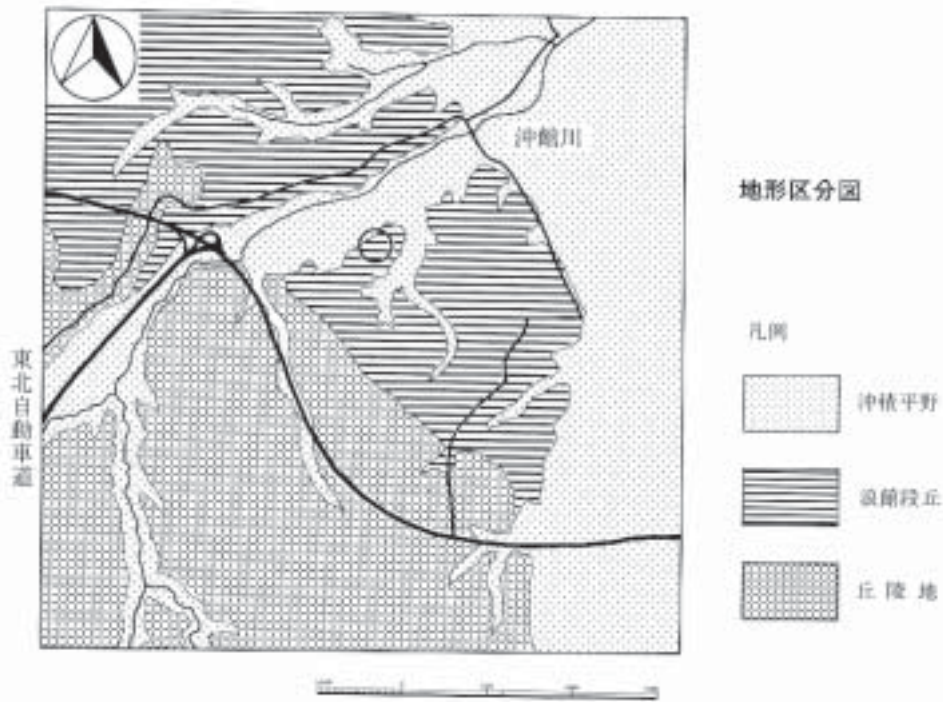
なお、本地域は宅地化が著しいので、地形区分では1948年・1969年・1991年撮影の航空写真を使用し、原地形での区分を行った。

引用・参考文献

- | | | |
|-----------|------|------------------------------------|
| 青森県教育委員会 | 1977 | 近野遺跡発掘調査報告書()
三内丸山()遺跡発掘調査報告書 |
| 青森県教育委員会 | 1979 | 近野遺跡発掘調査報告書() |
| 青森市教育委員会 | 1979 | 青森市の自然 |
| 青森県 | 1982 | 土地分類基本調査「青森西部」 |
| 村岡洋文・高倉伸一 | 1988 | 10万分の1八甲田地熱地域地質図・説明書 |
| 村岡洋文・長谷紘和 | 1990 | 5万分の1地質図幅 黒石地域の地質 |



国土地理院撮影 1969年 空中写真



第2図 遺跡周辺の地形

第2節 周辺の遺跡

本遺跡は、沖館川とその支流(現在は宅地化)にはさまれた丘陵面の南麓に位置し、同一丘陵上には小三内遺跡・三内丸山(1)遺跡、東側には近野遺跡・浪館(2)遺跡、北東側に浪館(1)遺跡、沖館川をはさんで対岸には三内霊園遺跡・三内沢部(1)遺跡・三内沢部(2)遺跡が所在している。

以上のように、本遺跡周辺には多くの遺跡が存在しており、市内でも有数の遺跡の密集地域であることから、これまでの発掘調査により多大な調査成果を上げてきている。

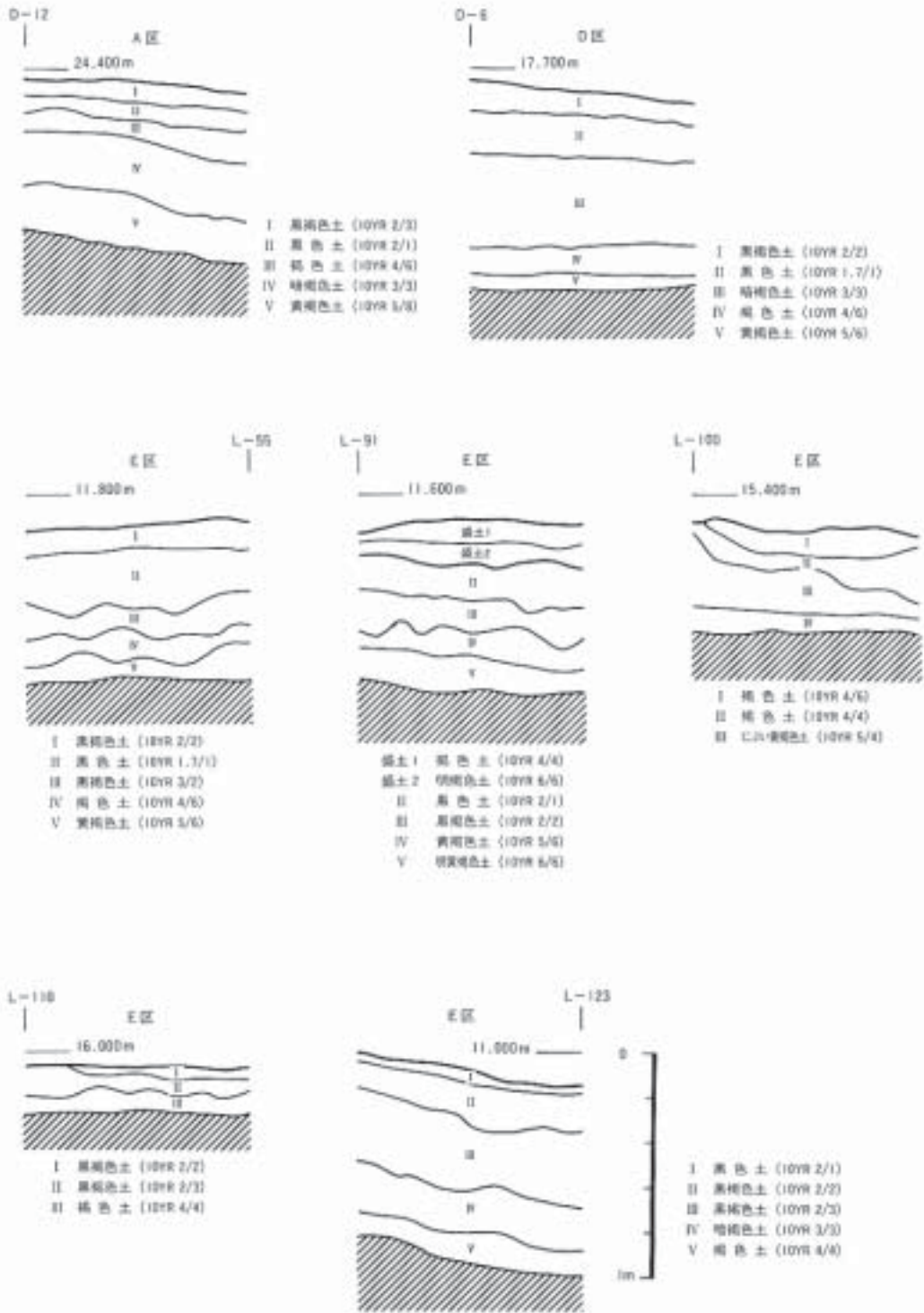
周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡	名所在地	種別	時代	文献	遺跡番号
1	三内丸山(2)	三内字丸山	集落跡	縄(前・中・後)	近野遺跡発掘調査報告書()、 三内丸山()遺跡発掘調査報告書	21
2	三内丸山(1)	三内字丸山	集落跡	縄(前・中・後)・平安	三内丸山遺跡()発掘調査報告書	20
3	小三内	三内字丸山	散布地	縄(前・中・後)・平安	日本考古学年報8	17
4	近野	安田字近野・三内字丸山	集落跡	縄(前・中・後・晩)・平安	近野遺跡発掘調査報告書 ~	65
5	三内	三内字丸山	集落跡	縄(前・中・後)・平安	三内遺跡埋蔵文化財調査報告書	19
6	三内沢部(1)	三内字沢部	集落跡	縄(早・前・中・後)・平安	三内沢部遺跡発掘調査報告書	64
7	三内沢部(2)	三内字沢部	散布地	縄(中)		162
8	浪館(1)	三内字丸山	散布地	縄(前)		11
9	浪館(2)	浪館字平岡	散布地	縄(中・晩)		12
10	安田(1)	安田字近野	散布地	縄(前)		15
11	安田水天宮	安田字近野	散布地	縄(前・中・後)		14
12	安田(2)	安田字近野・細越字栄山	散布地	縄(前・中)		16
13	細越館	細越字栄山	集落跡	平安	青森県の中世城館	66
14	三内霊園	三内字平山	散布地	縄(前・中)	三内霊園遺跡調査概報	18
15	石江	石江字平山	散布地	縄(前)		56
16	江渡	石江字江渡	散布地	縄(前)		163
17	細越	細越字種元	集落跡	縄(晩)・平安	細越遺跡発掘調査報告書	13
18	朝日山(2)	高田字朝日山	集落跡	縄・平安		197
19	朝日山(3)	高田字朝日山	集落跡	縄・平安		198
20	朝日山(1)	高田字朝日山	集落跡	縄・平安・中世	朝日山遺跡発掘調査報告書	165
21	高田城	高田字日野	城館	中世	青森県の中世城館	170
22	高田蝦夷館	高田字朝日山	城館	中世	青森県の中世城館	171



第3図 周辺の遺跡

第3節 遺構の基本層序



第4図 遺跡の基本層序

第 章 調査の成果

第 1 節 A 区の調査

本調査区域は、青森市西部の三内・安田地区を構成する台地の西側に位置し、この台地から北西に小さく突き出る小丘陵の先端部に所在している。丘陵の北側500m先には沖館川の沖積地が広がり、これに連なる沖積地が丘陵及び台地の北側から西側へ沢状に回り込んでいる。国道7号(環状7号バイパス)は、この沢状の地形を利用して敷設され、調査区西側に接するようになり、東北自動車道青森インターへ伸びている。

調査区域は、小丘陵の東西を横断しており、ちょうど、馬の背状の地形にグリッドの網を鞍状にかぶせた形となっている。この丘陵の尾根部をたどると、上部が平坦面となっているが、南側は、この平坦面から下る傾斜地となり、丘陵全体の中で最も急な勾配(12°)を呈している。このような地形のためか、小丘陵一帯は杉や松などの植林地として利用されている。

調査開始直後、10cm弱掘り下げた時点で第 層(包含層第1層)となり、また、空ビンが20cmほどの深さから出土するなど、元来上位に堆積していた層を埋め立て、排土になっているのではないかと思われたが、全体についての判断はできなかった。

調査の結果、遺物の包含層は、第 層と第 層上位(包含層第2層)であり、円筒上層b式の土器が第 層中位で2片ほど出土している。

検出した遺構は、第 層まで掘り下げた時点で確認した。遺構のほとんどが、前出の最も急な地点の北側(比較的緩やかな面)に集中し、特に、南北ライン7~11内にほぼ集中する。

本調査区域の面積は2,500m²で、標高は15~30m内にある。

なお、B区・C区については節をとって記述していないので、ここで簡単に概要を説明する。B区とC区は道路(山寅道路)をはさんで位置している。B区は、丘陵だった所を宅地にしようと削平並びに土盛により整地してあった。確認のため、いくつかのトレンチを組み調べてみた。C区は、その大半がコンクリートの道路であった。ここは昭和52年の青森国体の前に近野遺跡の発掘調査(三内丸山(2)遺跡)が行われた際に、舗装された後、道路となったのである。

検出遺構 竪穴住居跡3軒、土壙13基、埋設土器遺構1基である。第2号竪穴住居跡と第1号埋設土器遺構は、概報で報告してあるので本書では省略した。また、概報で報告してある土壙のうち、第5号・第6号・第7号土壙は第3号竪穴住居跡のピットとし、第17号土壙は第1号竪穴住居跡の炉とし、第3号土壙はその後検討の結

果遺構と認められず、土壌の数は概報で報告した18基より5基減って13基である。

(1) 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡(第6・7図)

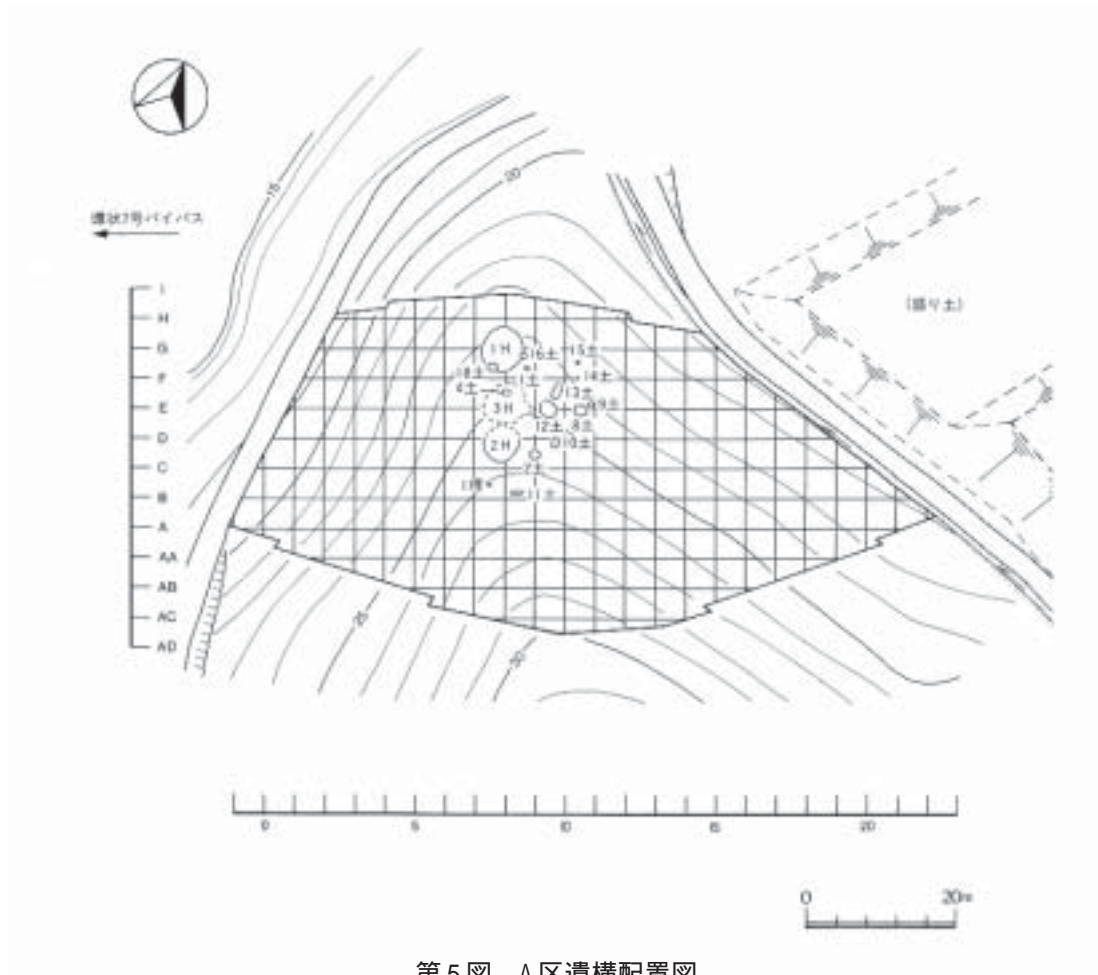
[位置] F・G - 7・8グリッド。

[重複] 16・18土と重複。

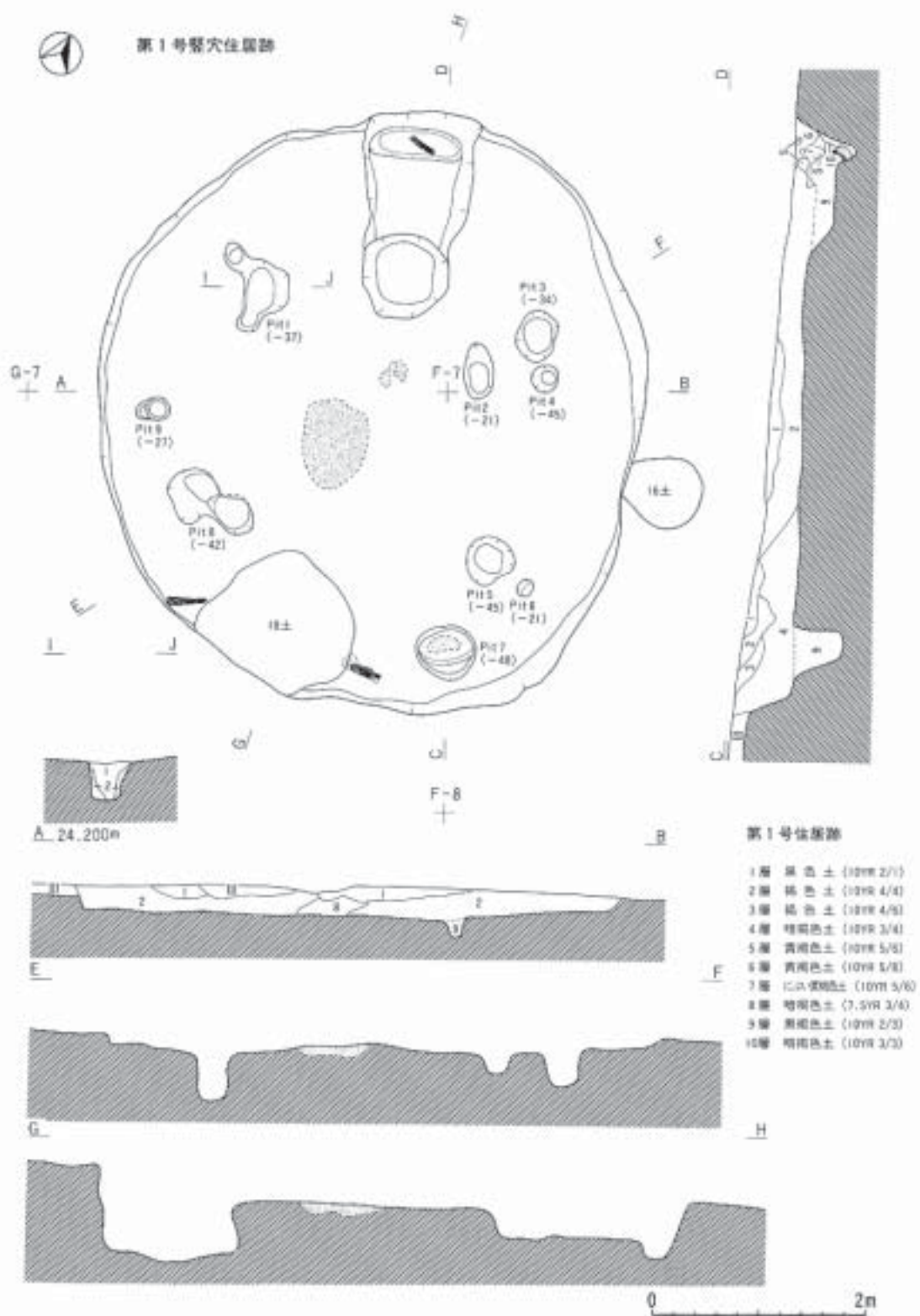
[規模と形状] 長軸5.7m、短軸5.2mの隅丸方形を呈す。

[壁・床] 壁高は、北壁5cm、南壁10cm、東壁15cm、西壁20cmである。床面はほぼ平坦である。

[柱穴] 床面からピット9個検出した。深さは、P₁ - 37cm、P₂ - 21cm、P₃ - 34cm、



第5図 A区遺構配置図



第6図 住居跡(第1号)

P₄ - 45cm、P₅ - 45cm、P₆ - 21cm、P₇ - 48cm、P₈ - 42cm、P₉ - 27cmである。

[炉] 住居跡の北西壁際に位置し、石の抜き取り痕は検出されなかったものの、青森市の三内沢部遺跡で検出されている沢部型複式炉と似ている。炉として使われたと思われる部分は、赤く焼けていて非常に堅緻である。また、浅い皿状のくぼみから北西壁際のピットにかけて、炭化物や炭化材・焼土が見られた。壁際のピットの覆土からは、大きな自然石を検出した。

[特殊施設] 確認されなかった。

[堆積土] 炭化物を含んだ褐色土と黄褐色土の土を主体とし、10層に分層した。

[出土遺物] 土器は縄文時代中期末葉と思われる。石器は石錐・スクレイパー(第178図)・凹石(第184図)が出土した。

第3号竪穴住居跡(第8図)

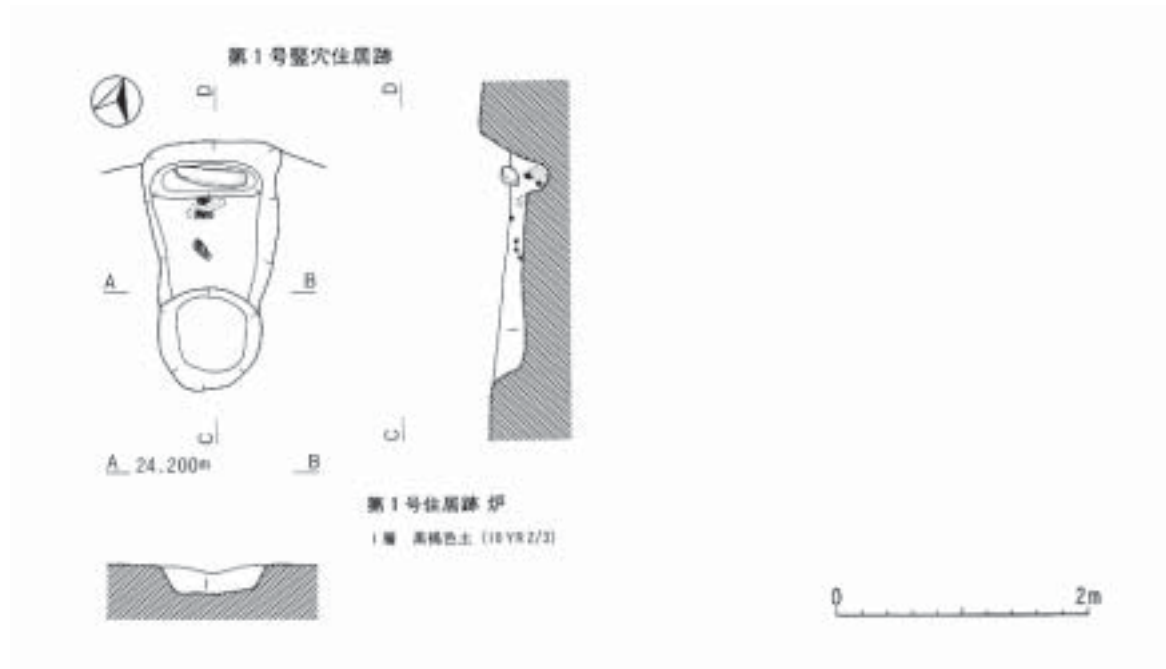
[位置] D・E - 7・8グリッド。

[重複] 4土と重複。

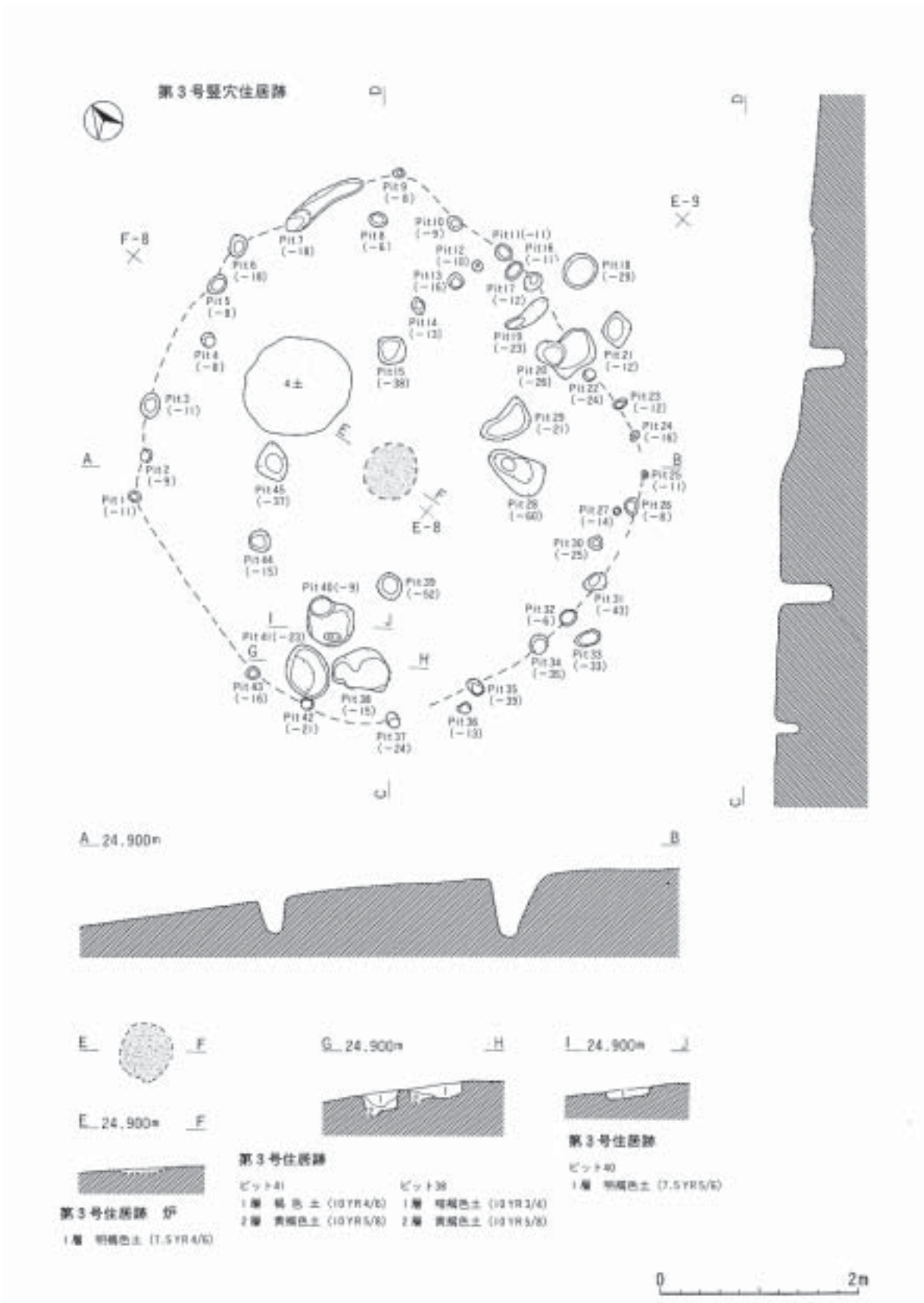
[規模と形状] 長軸5.6m、短軸5.2mの隅丸方形を呈す。

[壁・床] 壁ははっきりと確認できなかった。床面はなだらかに傾斜している。

[柱 穴] 床面からピット45個検出した。深さは、P₁ - 11cm、P₂ - 9cm、P₃ - 11cm、



第7図 住居跡(第1号)



第8図 住居跡(第3号)

P₄ - 8cm、P₅ - 8cm、P₆ - 18cm、P₇ - 18cm、P₈ - 6cm、P₉ - 8cm、P₁₀ - 9cm、P₁₁ - 11cm、P₁₂ - 10cm、P₁₃ - 16cm、P₁₄ - 13cm、P₁₅ - 38cm、P₁₆ - 11cm、P₁₇ - 12cm、P₁₈ - 29cm、P₁₉ - 23cm、P₂₀ - 26cm、P₂₁ - 12cm、P₂₂ - 24cm、P₂₃ - 12cm、P₂₄ - 16cm、P₂₅ - 11cm、P₂₆ - 8cm、P₂₇ - 14cm、P₂₈ - 60cm、P₂₉ - 21cm、P₃₀ - 25cm、P₃₁ - 43cm、P₃₂ - 6cm、P₃₃ - 33cm、P₃₄ - 35cm、P₃₅ - 39cm、P₃₆ - 13cm、P₃₇ - 24cm、P₃₈ - 15cm、P₃₉ - 52cm、P₄₀ - 9cm、P₄₁ - 23cm、P₄₂ - 21cm、P₄₃ - 16cm、P₄₄ - 15cm、P₄₅ - 37cmである。

- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆積土] 壁がはっきりと確認できなかったため、堆積状況はつかめなかった。
- [出土遺物] 土器は縄文時代中期末葉と思われる。

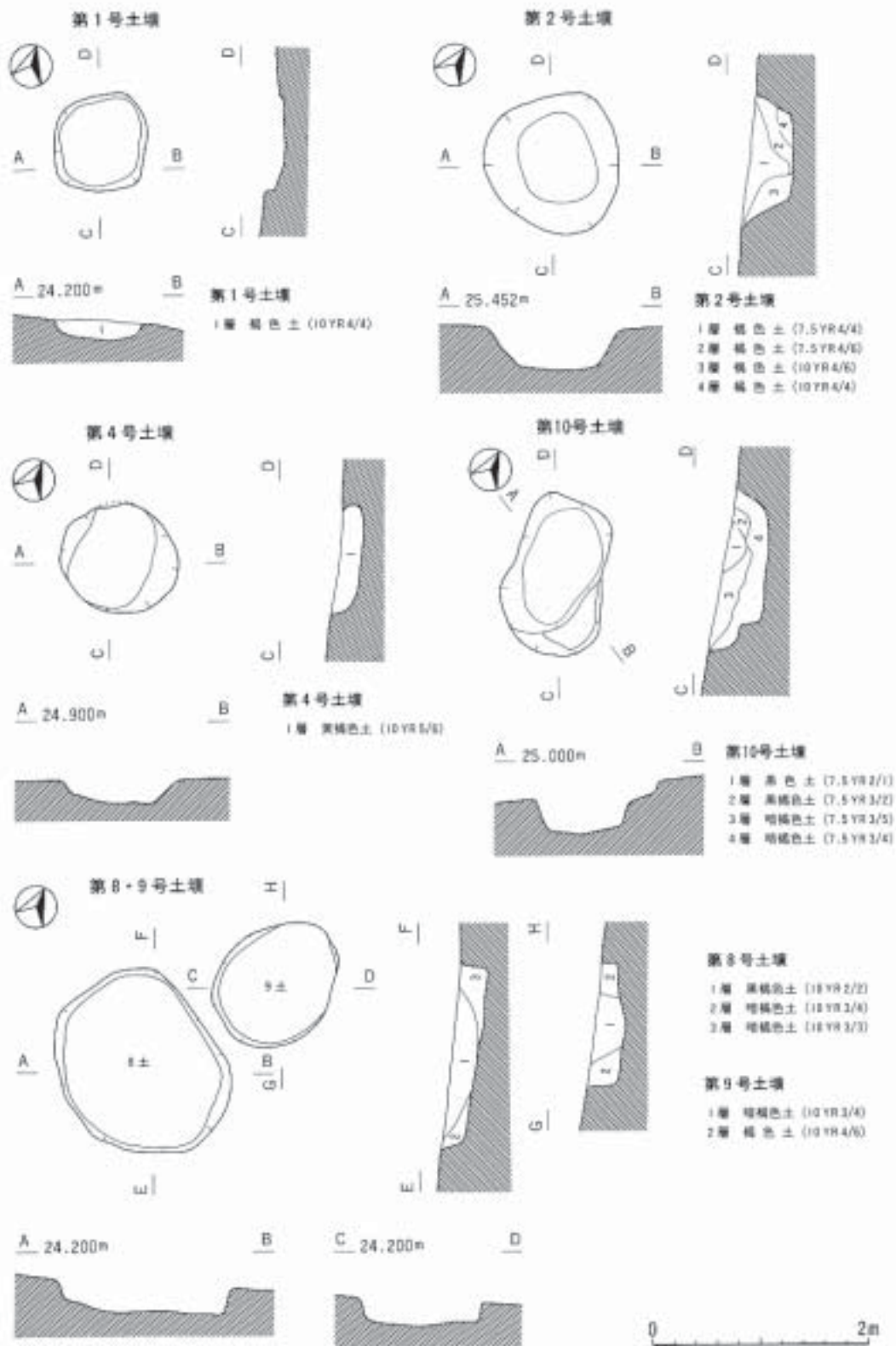
竪穴住居一覧表

番号	グリッド	形態	長径×短径(m)	炉	柱穴	出土遺物		時期	備考	長軸方向
						土器	石器			
1	F・G-7・8	隅丸方形	5.7×5.2	複式炉	9			中末	16・18土と重複	N-16°-W
2	C・D-7・8	不整円形	(4.6)×(4.3)	石囲炉	44			中末	北側の壁1/3を欠く	N-0°-S
3	D・E-7・8	隅丸方形	5.6×5.2	地床炉	45			中末	4土と重複	N-5°-E

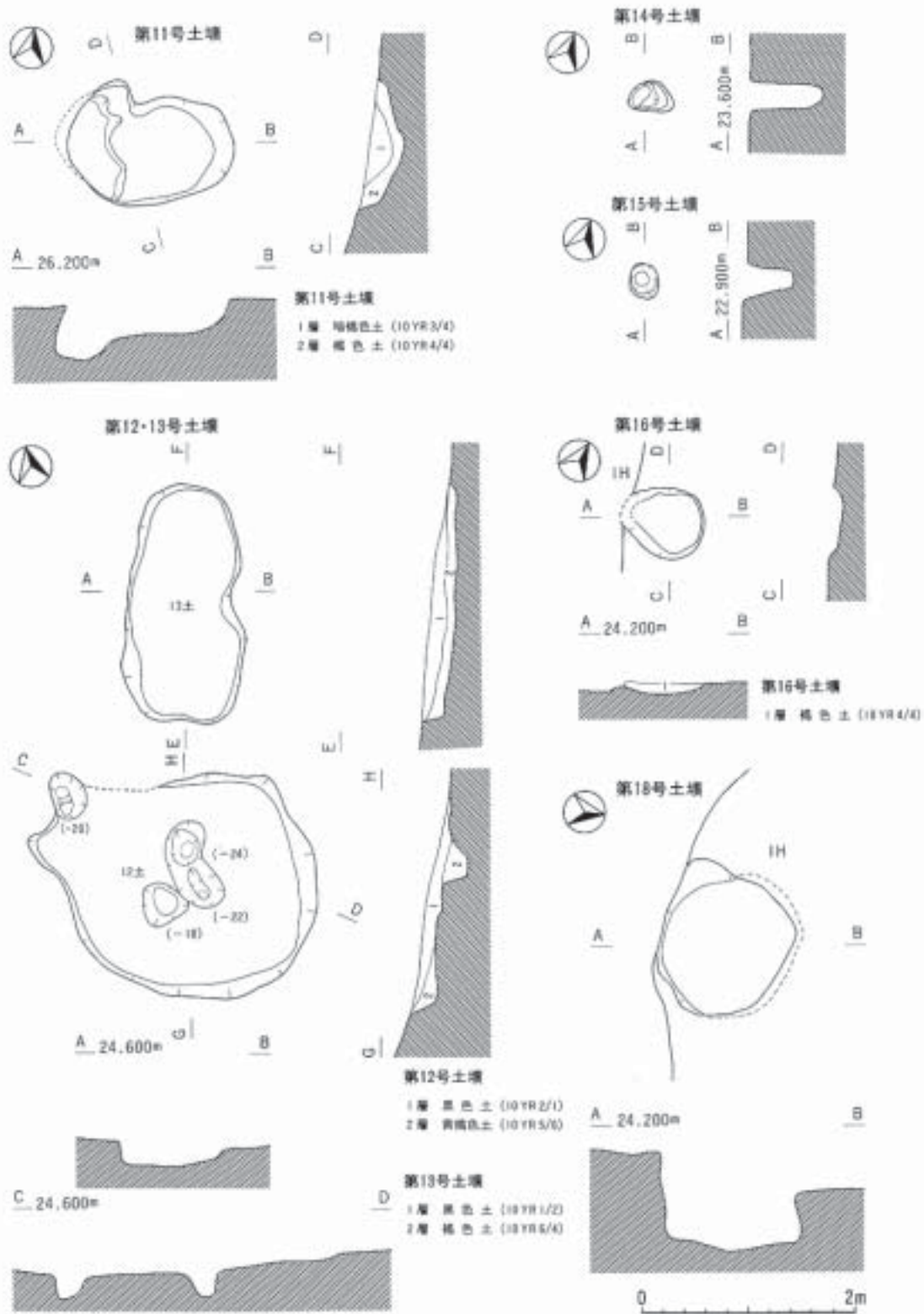
(2) 土 壌 調査の結果、土壌が13基検出された。

A区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計 測 値			出 土 遺 物			備 考
				(cm)			土器	石 器	備 考	
				開口部	墳底部	深さ				
1	F-8		円形	100×100	90×82	14				
2	C-8・9		不整円形	137×132	85×85	39				
4	E-7・8	3Hと重複	円形	110×102	100×70	20				3Hより新しい
8	D・E-10		不整円形	180×146	164×100	26				
9	E-10		楕円形	132×106	126×96	26				
10	C・D-9		不整楕円形	154×82	130×74	39				
11	B-8		不整楕円形	154×97	150×84	53				
12	D・E-9		不整楕円形	286×221	256×210	10				ピット4個
13	E-9		不整楕円形	226×100	218×89	25				
14	F-10		不整楕円形	42×34	22×10	68				
15	F-10		不整円形	36×29	14×12	46				
16	F-8	1Hと重複	不整楕円形	(80)×68	(72)×56	11				1Hより古い
18	F-7	1Hと重複	不整円形	150×126	136×130	54				1Hより古い



第9图 土壤 (第1·2·4·8·9·10号)



第10图 土壤(第11·12·13·14·15·16·18号)

第2節 D区の調査

D区は、県総合運動公園西駐車場から北側に緩やかに傾斜した台地の縁辺部にあたり、標高18～13mの平坦地と標高約11mの以前水田として利用されていた湿地からなる約4,000m²が調査対象区域である。本遺跡から南方約40mに、昭和51年に青森県教育庁文化課で発掘調査した縄文時代中期末葉の土壌墓群を伴う三内丸山()遺跡(『近野遺跡()・三内丸山()遺跡発掘調査報告書』青埋文報告書第33集)が、現在の西駐車場である。

D区の黒色土層は、標高の高い方が約50cmほどの厚さがあり、標高が低くなるにつれてだんだん黒土の厚さが薄くなっている。遺物の出土状況は、ほとんどのグリッドで地表面から20～30cmの層から出土し、層下部から層上部にかけて出土量が少なくなり、また湿地に向かうほど遺物の出土量は減少している。土器は、まとめて出土するというわけではなく、散布しているという状態で、摩滅したものやもろい土器が多く見られる。礫石器は多量に出土している。

検出遺構 竪穴住居跡1軒、土壌21基、溝状遺構1基である。第1号竪穴住居跡と第10号・第11号土壌は、概報で報告してあるので今回は省略した。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡一覧表

番号	グリッド	形態	長径×短径(m)	炉	柱穴	出土遺物		時期	備考	長軸方向
						土器	石器			
1	H-13	円形	2.8×2.8	地床炉	10			中末		N-36°-E

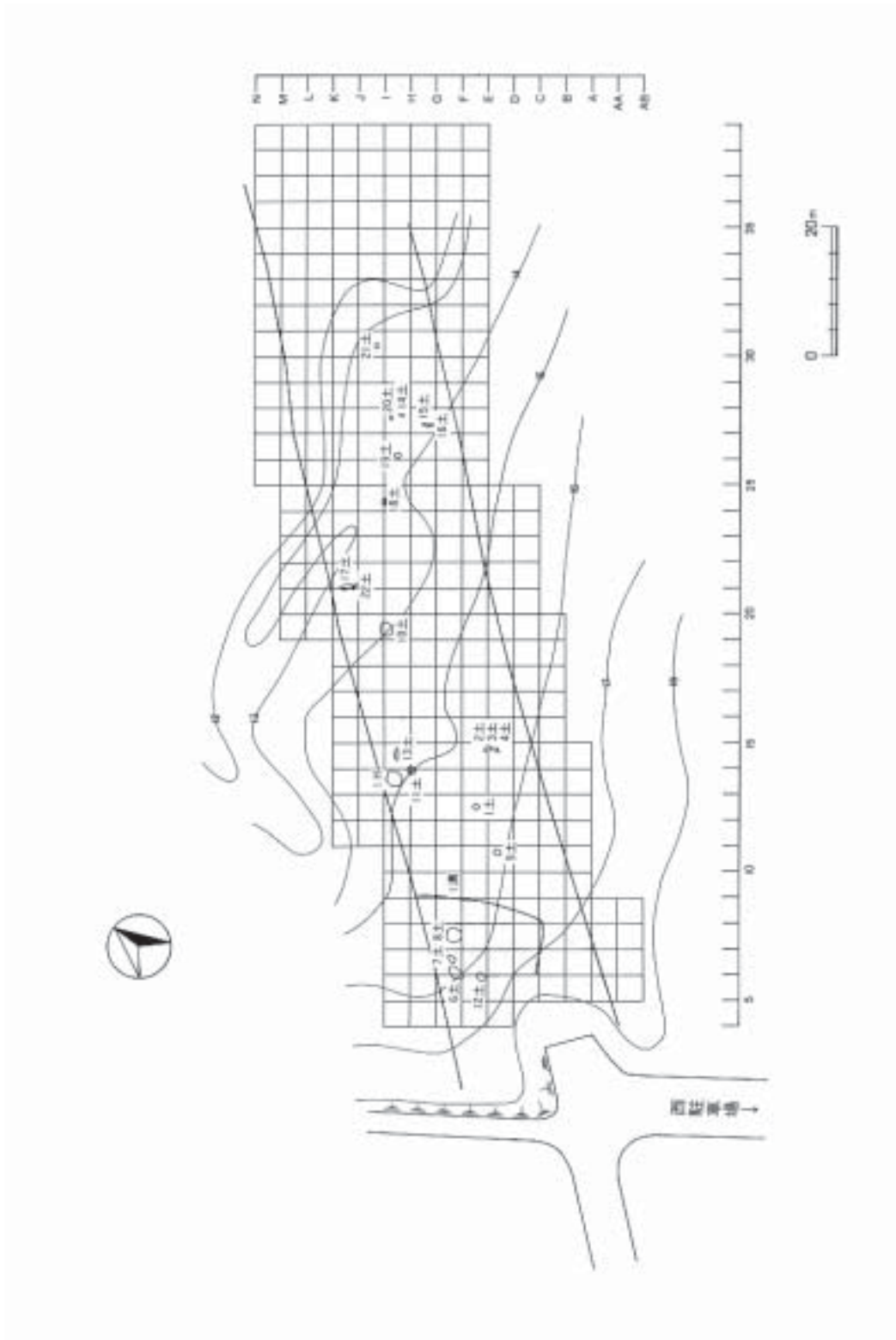
(2) 土 壌 調査の結果、土壌が21基検出された。

(3) 溝状遺構 調査の結果、溝状遺構が1本検出された。

第1号溝状遺構(第15図)

[位置と確認] B・C-6、B-7・8、C・D・E-8、F-8・9、G-9グリッドに位置し、第層を精査中に確認した。

[重複] なし。



第11图 D区遺構配置図

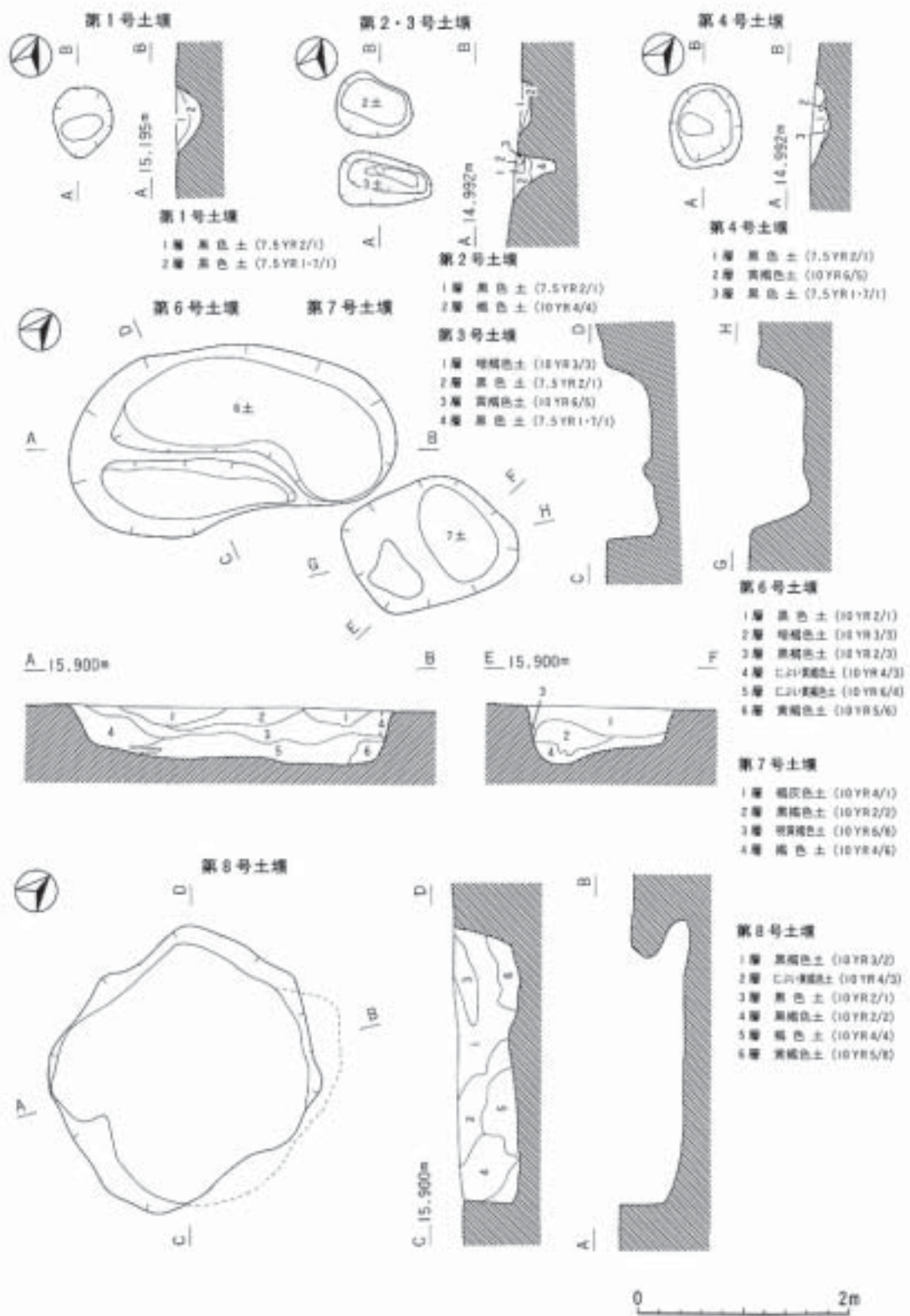
[平面形規模] 調査区の南側のはずれにあたり、C - 8グリッド付近で直角にカーブし傾斜の低くなる北側へ伸びる長い溝である。規模は、長さ約28m、幅40 ~ 50cm、深さ20 ~ 38cmである。

[壁 ・ 床面] 上端から底面にかけて傾斜しており、底面は多少凹凸がある。

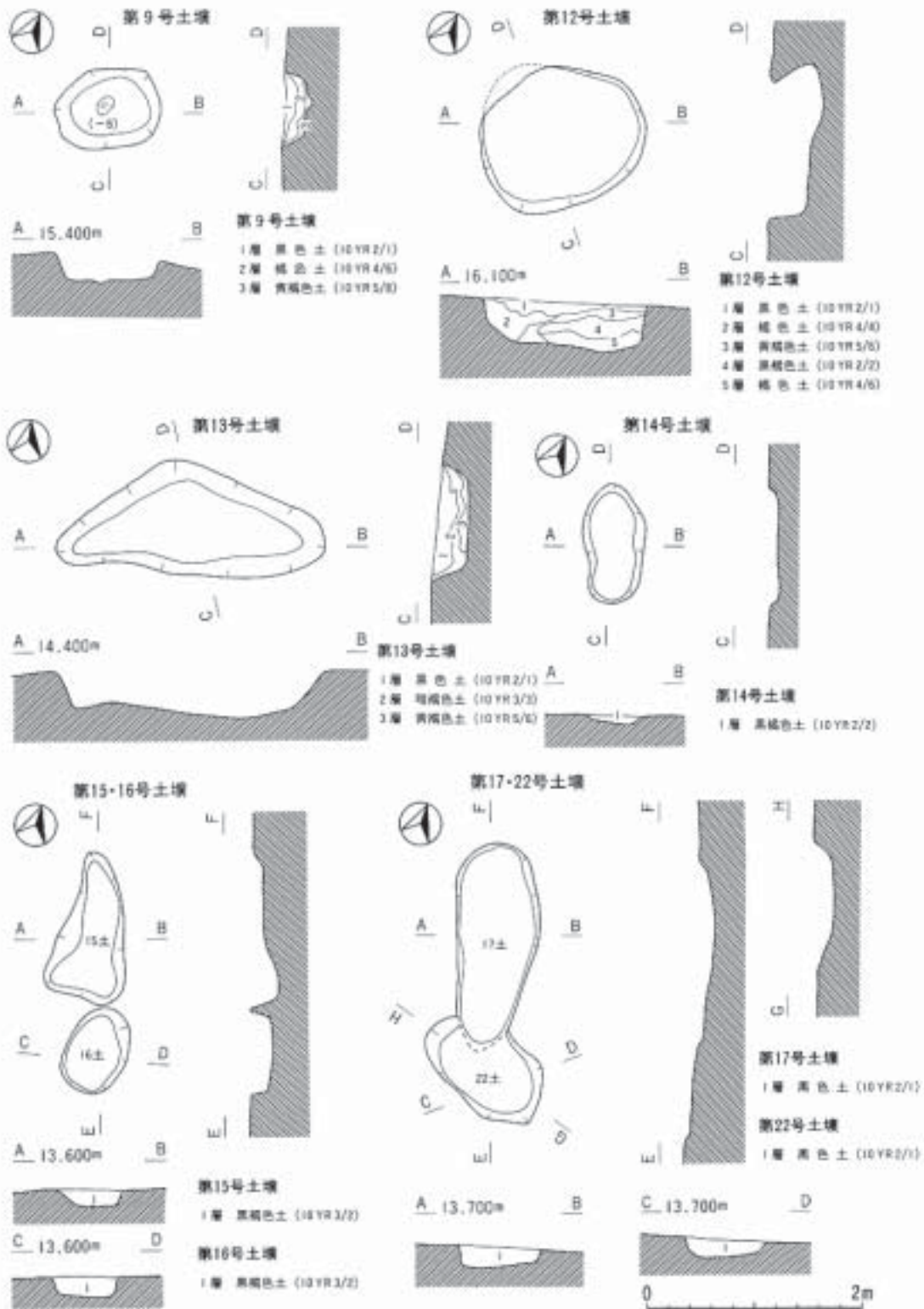
[堆 積 土] 2層に分けられ、堆積土全体にローム粒を含む。

D区(土壌観察表)

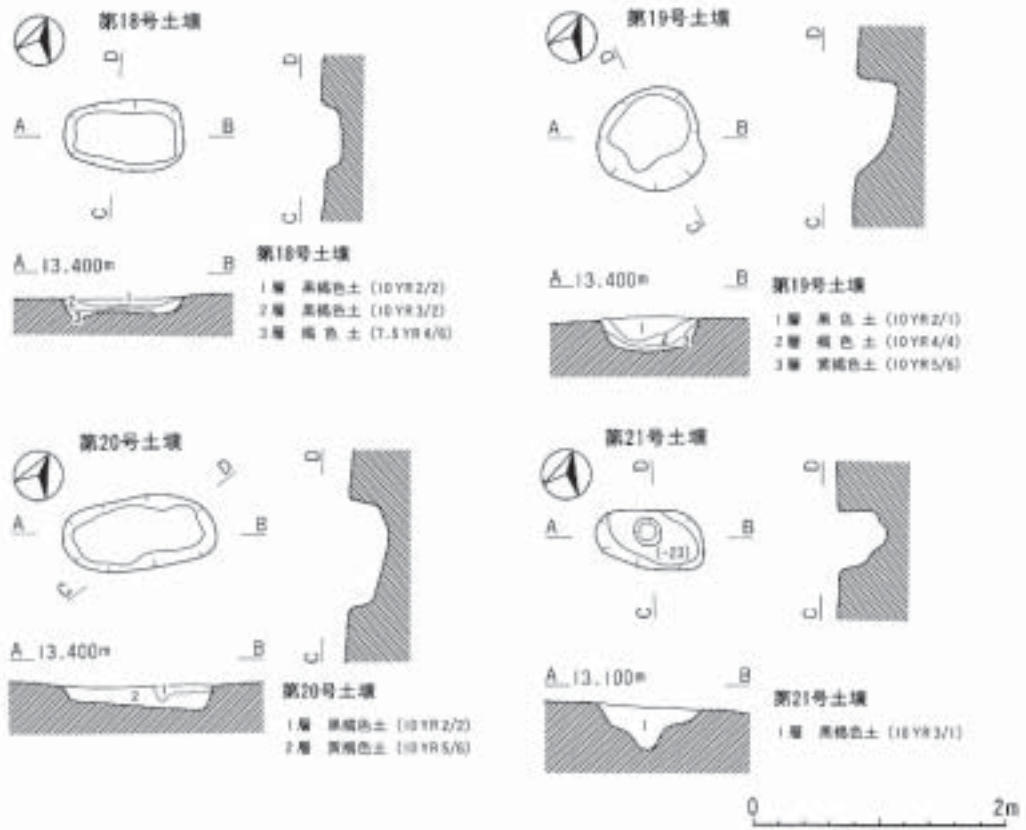
土壌 番号	グリッド	重 複	平面形	計 測 値			出 土 遺 物			備 考
				(cm)			土器	石	器	
				開口部	壙底部	深さ	有・無	剥片	礫	
1	E - 12		不整楕円形	69 × 60	40 × 22	25				
2	E - 14		不整楕円形	72 × 46	60 × 34	8				
3	D - 14		不整楕円形	90 × 48	10 × 6	38				
4	D - 14		不整楕円形	80 × 52	36 × 12	17				
6	E・F-5 F-6		楕円形	314 × 162	262 × 138	52				
7	F - 6		楕円形	172 × 120	124 × 96	54				
8	E・F - 7		不整楕円形	278 × 262	272 × 248	57				
9	D - 10		楕円形	100 × 72	76 × 54	25				ピット1個
10	H・I - 19		不整円形	280 × 230	180 × 136	82				
11	F・G - 13・14		円形	140 × 140	120 × 120	24				
12	E - 5・6		楕円形	155 × 130	145 × 144	51				
13	H - 14		不整形	253 × 104	216 × 80	46				
14	H - 27		不整楕円形	112 × 43	102 × 36	10				
15	G - 27		不整形	144 × 53	129 × 35	28				
16	G - 27		不整楕円形	85 × 58	73 × 50	22				
17	J - 21	22土と重複	楕円形	196 × 78	185 × 71	20				22土より新しい
18	H・I - 24		楕円形	96 × 56	79 × 38	15				
19	H - 26		不整円形	86 × 80	60 × 50	33				
20	H - 27		楕円形	123 × 58	105 × 47	33				
21	I - 30		楕円形	88 × 50	78 × 40	40				ピット1個
22	J - 21	17土と重複	不整楕円形	127 × 72	100 × 62	18				17土より古い



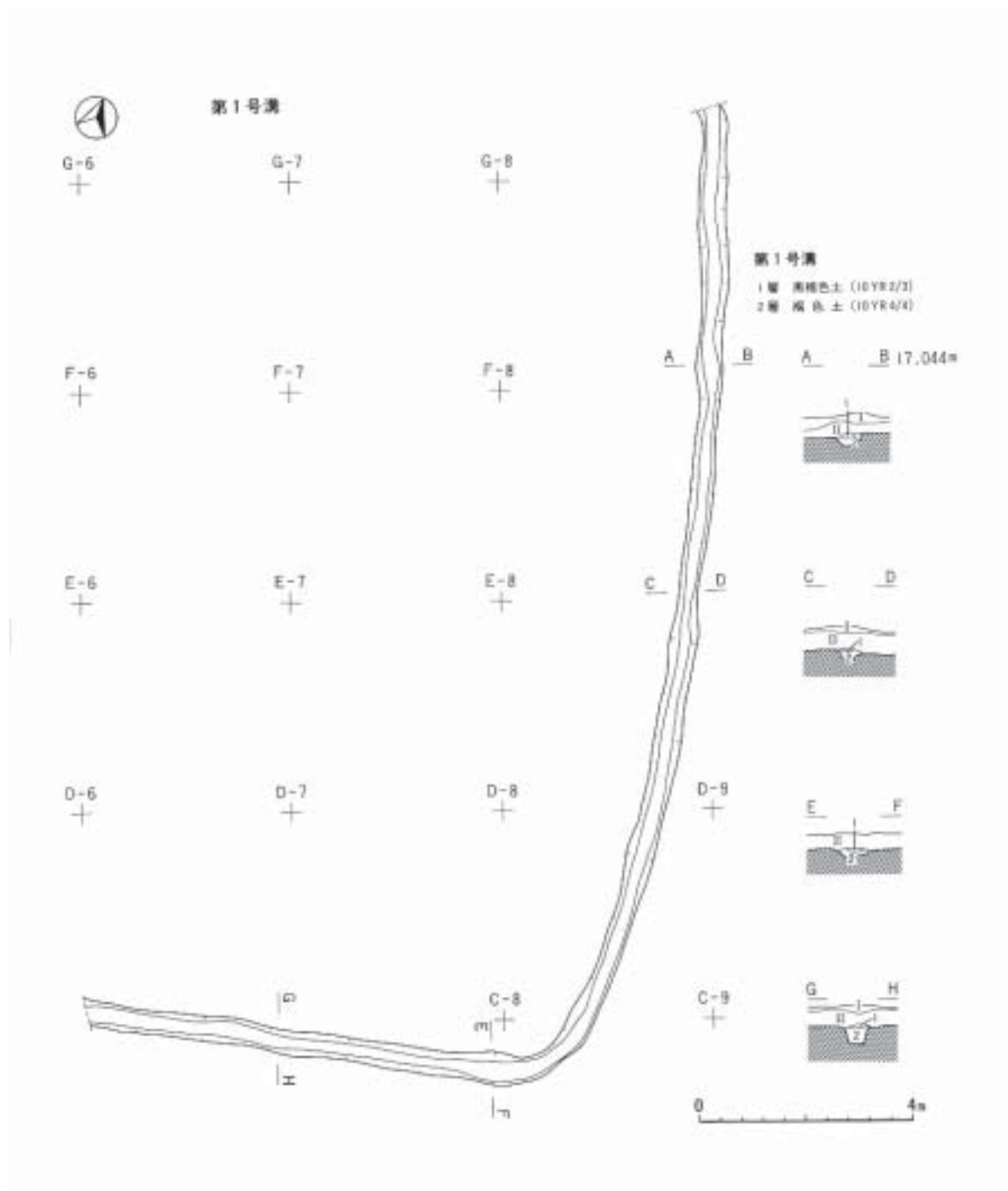
第12图 土壤(第1·2·3·4·6·7·8号)



第13图 土壤 (第9·12·13·14·15·16·17·22号)



第14图 土壤(18·19·20·21号)



第15图 溝(第1号)

第3節 E区の調査

E区は、D区の水芭蕉の湿地が途切れる所から三内清掃工場に向かって、緩やかに傾斜していく標高10～16mの緩斜面約7,000m²を調査対象区域とした。D区からのグリッド番号の75ラインから125ラインまでを発掘調査した。その結果、平成5年度の調査では縄文時代から歴史時代までの数多くの遺構や遺物が検出された。125ラインより三内清掃工場側（小三内遺跡）は、テストトレンチを入れて調べてみた。以前畑として使うために、小高くなっていた所を削平して整地したと思われる。また下の層は、その際に排土をもってきて埋めたとと思われる攪乱層があった。沢が1本走っており、2～3m下には「さるけ」と呼ばれている泥炭土が1m近くの厚さで堆積していて、その下から水がどんどん湧いてきた。遺構や遺物等は確認できなかった。

縄文時代

検出遺構 竪穴住居跡35軒、土壇317基、溝状ピット1基、埋設土器遺構4基、焼土状遺構6基、小ピット群5か所が検出された。

(1) 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡（第17図）

[位置と確認] I・J - 74・75グリッド。

[重複] なし。

[規模と形状] 長軸3.8m、短軸2.7mの隅丸方形を呈す。

[壁・床] 壁はやや緩やかな立ち上がりで北壁20cm、南壁8cm、東壁6cm、西壁15cmである。床面はほぼ平坦である。

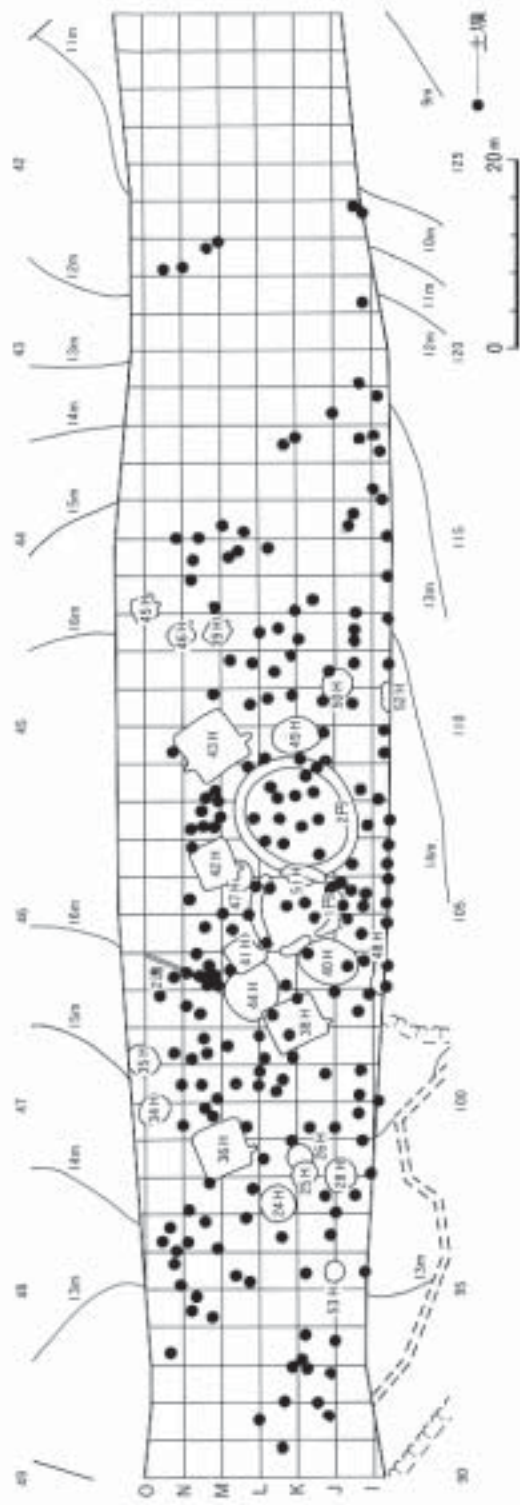
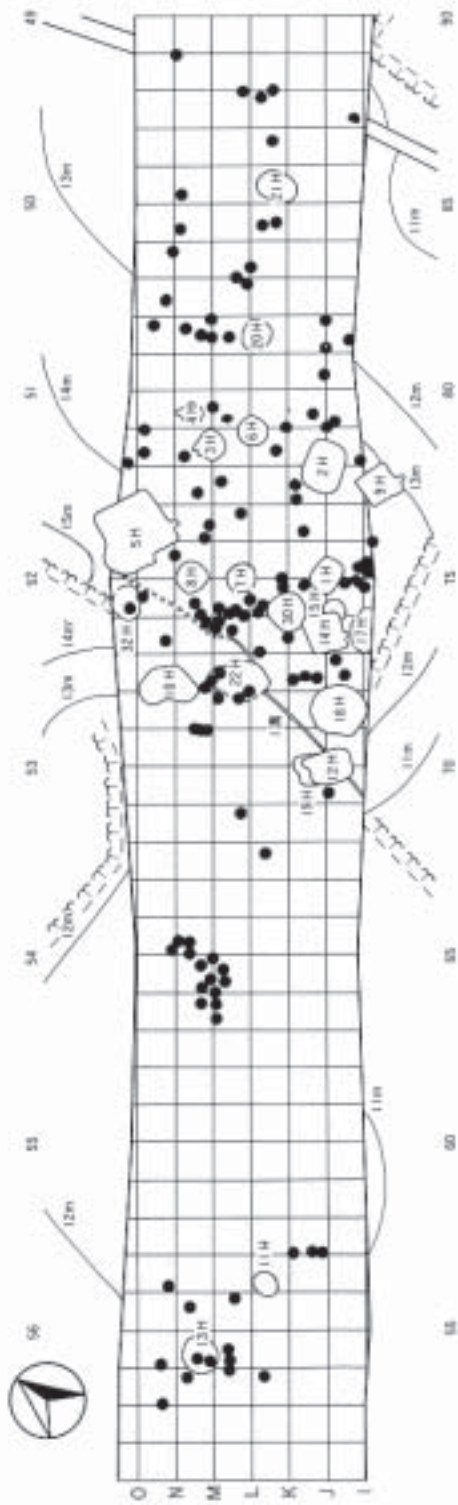
[柱穴] 床面からピット11個検出した。深さは、P₁ - 64cm、P₂ - 45cm、P₃ - 51cm、P₄ - 48cm、P₅ - 57cm、P₆ - 25cm、P₇ - 53cm、P₈ - 25cm、P₉ - 21cm、P₁₀ - 33cm、P₁₁ - 25cmである。

[炉] 確認されなかった。

[特殊施設] 東壁のほぼ中央で検出した。半円状にロームの盛土が巡らされており、内側にやや大きなピット（深さ45cm）と、その両脇に2個のピット（深さ64cmと51cm）が対になって検出された。

[堆積土] ローム粒を若干含んだ褐色土の1層である。

[出土遺物] 炉から円筒上層e式土器（第159図）が出土した。土器・石器ともに破片数



第 16 图 E 区遺構配置図

は少ない。

第2号竪穴住居跡（第18図）

[位置と確認] I・J - 77・78グリッド。

[重複] なし。

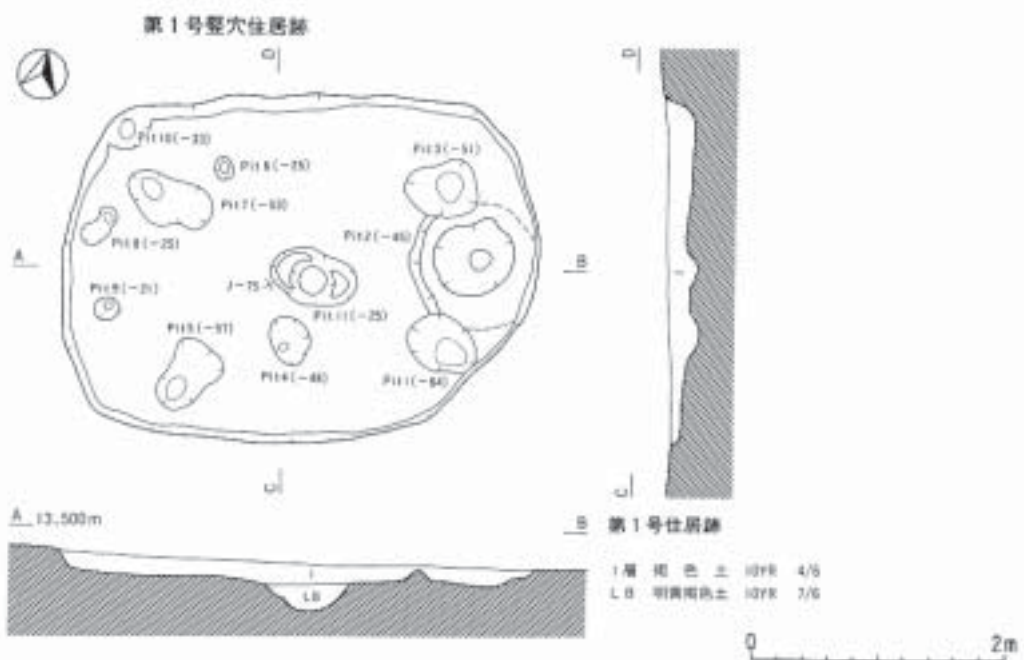
[規模と形状] 長軸5.1m、短軸4.5mの楕円形を呈す。

[壁・床] 壁高は、北壁50cm、南壁45cm、東壁30cm、西壁50cmである。床面はほぼ平坦である。

[柱穴] 床面から大小17個のピットを検出した。深さは、P₁ - 62cm、P₂ - 41cm、P₃ - 31cm、P₄ - 41cm、P₅ - 18cm、P₆ - 16cm、P₇ - 10cm、P₈ - 28cm、P₉ - 21cm、P₁₀ - 15cm、P₁₁ - 22cm、P₁₂ - 19cm、P₁₃ - 15cm、P₁₄ - 42cm、P₁₅ - 19cm、P₁₆ - 19cm、P₁₇ - 55cmである。

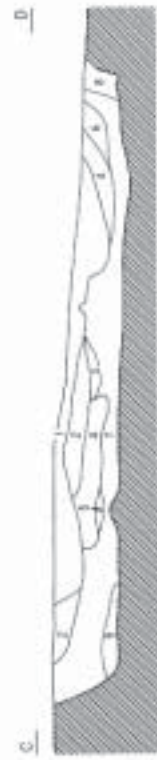
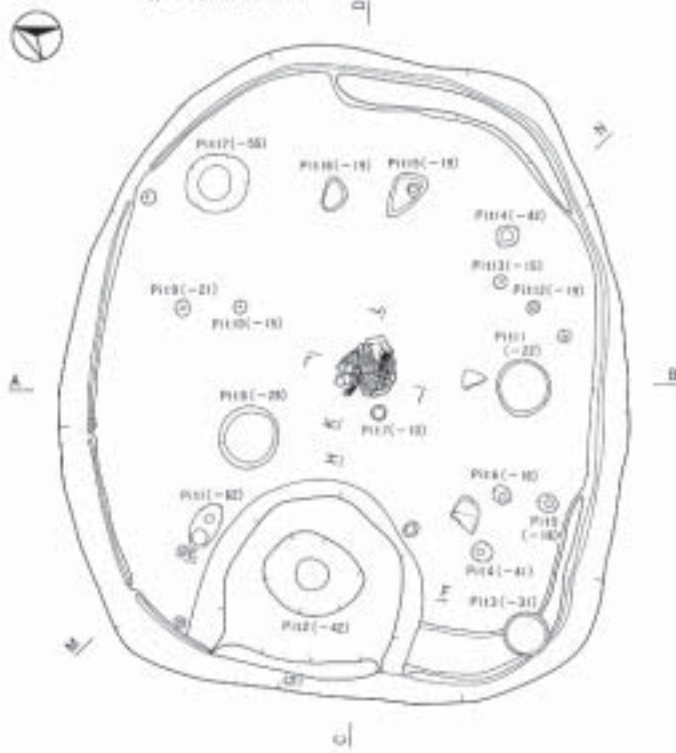
[炉] 土器敷詰炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

[特殊施設] 西壁のほぼ中央で検出した。半円状にロームの盛土（高さ10cm程）が巡らされており、内側は150cm × 140cmでほぼ円形状にくぼんでいた（深さ41cm）。



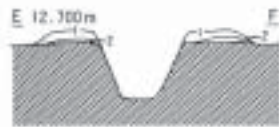
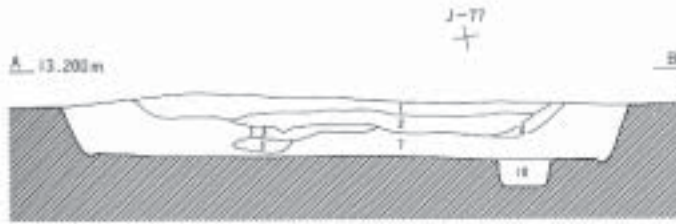
第17図 住居跡（第1号）

第2号整穴住居跡



第2号住居跡

- 1層 黒褐色土 7.5YR 2/2
- 2層 褐色土 7.5YR 4/8
- 3層 黒褐色土 7.5YR 3/2
- 4層 暗褐色土 7.5YR 3/3
- 5層 暗褐色土 7.5YR 3/4
- 6層 褐色土 7.5YR 4/4
- 7層 褐色土 7.5YR 4/3
- 8層 褐色土 7.5YR 4/4
- 9層 黒褐色土 10YR 2/3
- 10層 褐色土 10YR 4/4



第2号住居跡 ビット2
1層 暗褐色土 10YR 3/4
2層 褐色土 10YR 4/8

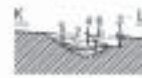


第2号住居跡 ビット2
1層 黒褐色土 10YR 2/2
2層 黒褐色土 10YR 2/3
3層 暗褐色土 10YR 3/4



第2号住居跡 炉

- 1層 黒褐色土 10YR 2/3
- 2層 黒褐色土 10YR 3/2
- 3層 褐色土 10YR 2/1
- 4層 暗褐色土 7.5YR 3/4
- 5層 明褐色土 7.5YR 5/6
- 6層 黒褐色土 10YR 2/2



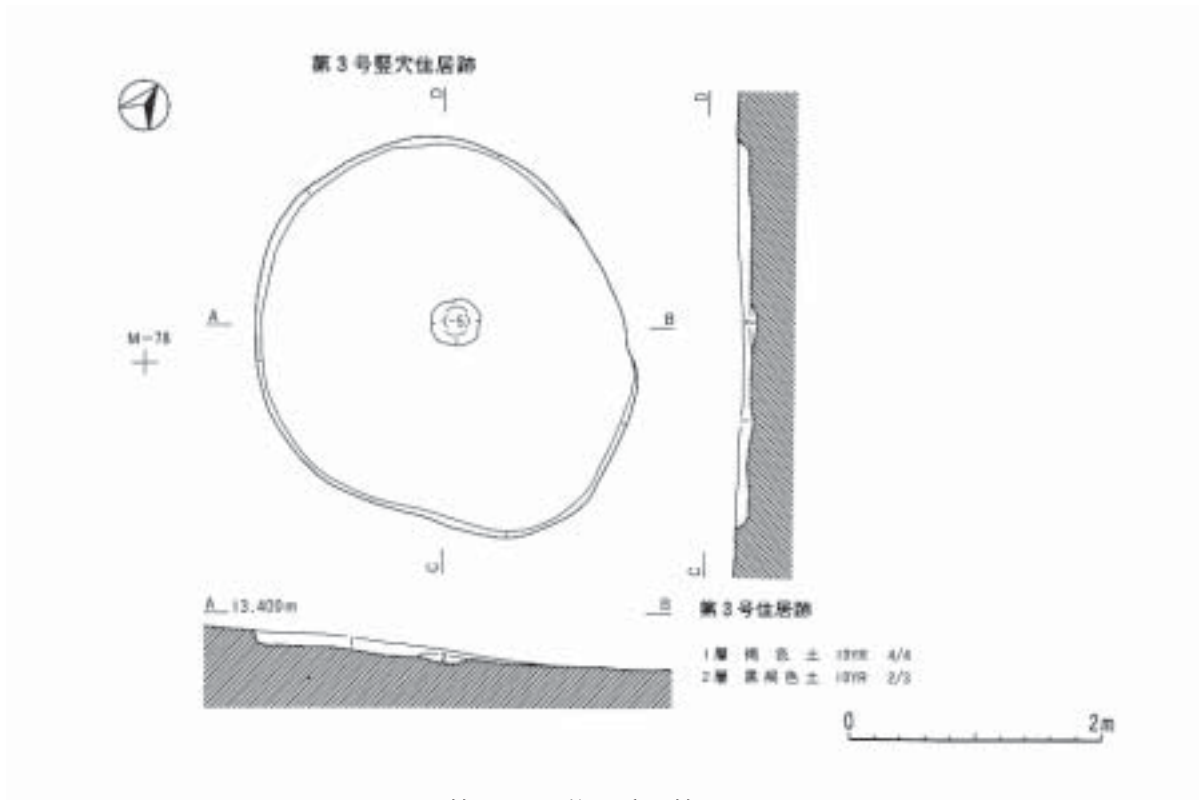
第18図 住居跡(第2号)



- [堆積土] ローム粒・炭化物粒を含んだ黒褐色の土を主体とし、10層に分層した。人為堆積の可能性が高い。
- [出土遺物] 土器は炉から円筒上層e式土器(第160図～第162図)が出土した。石器は石鏃6点(第193図)・石槍2点(第200図)・スクレイパー15点(第206図～第210図)・フレイク(第211図)・磨石(第213図)・凹石・敲石(第214図)が出土した。石製品は石棒1点(第221図)が出土した。

第3号竪穴住居跡(第19図)

- [位置と確認] L・M - 78グリッド。
- [重複] なし。
- [規模と形状] 長軸3.5m、短軸3.0mの楕円形を呈す。
- [壁・床] 壁高は、北壁10cm、南壁10cm、東壁5cm、西壁10cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱穴] 確認されなかった。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

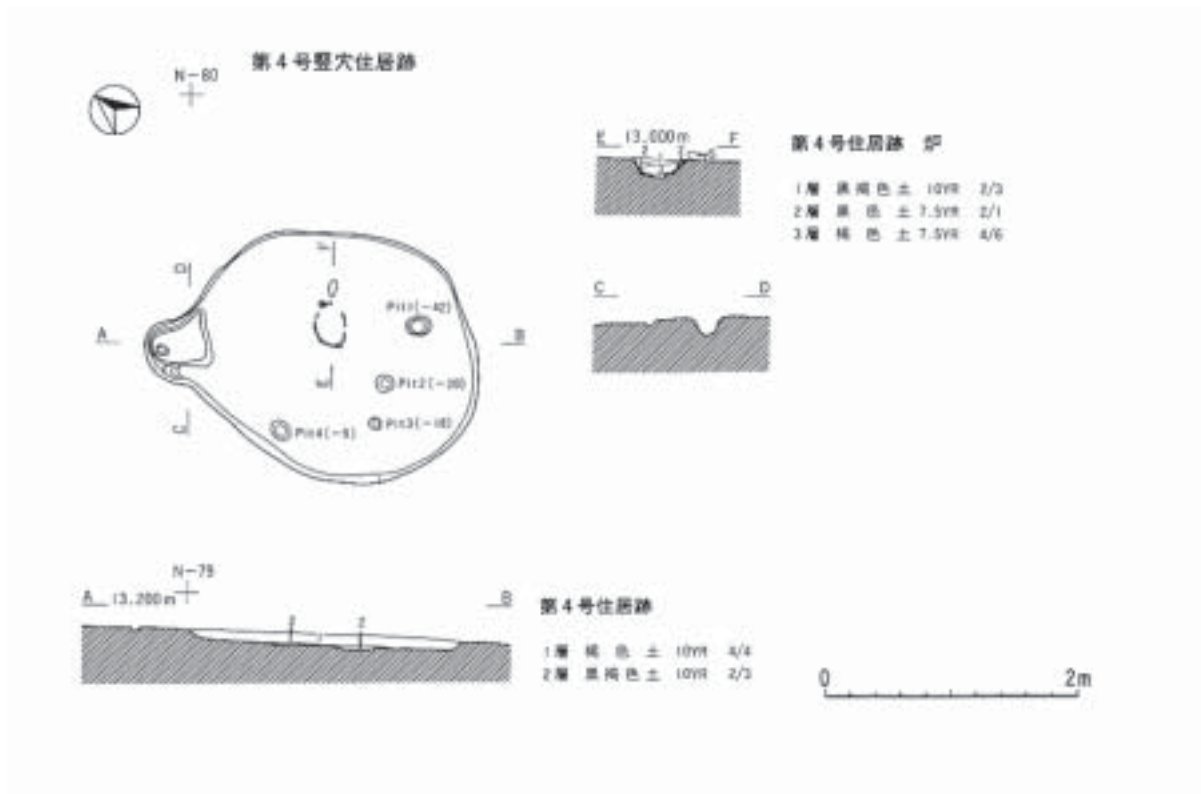


第19図 住居跡(第3号)

- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 2層に分層した。
- [出土遺物] 床直から円筒上層e式の土器片（第176図）が出土した。

第4号竪穴住居跡（第20図）

- [位置と確認] N - 80グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸2.7m、短軸2.2mの楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁6cm、南壁6cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット4個検出した。深さは、P₁ - 42cm、P₂ - 20cm、P₃ - 18cm、P₄ - 9cmである。
- [炉] 土器埋設炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 2層に分層した。
- [出土遺物] 床直から榎林式の土器片（第176図）が出土した。



第20図 住居跡（第4号）

第6号竪穴住居跡（第21図）

[位置と確認] K・L - 78・79グリッド。

[重複] なし。

[規模と形状] 長軸3.1m、短軸2.7mの楕円形を呈す。

[壁・床] 壁高は、北壁27cm、南壁43cm、東壁20cm、西壁40cmである。床面は多少凹凸がある。

[柱穴] 確認されなかった。

[炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

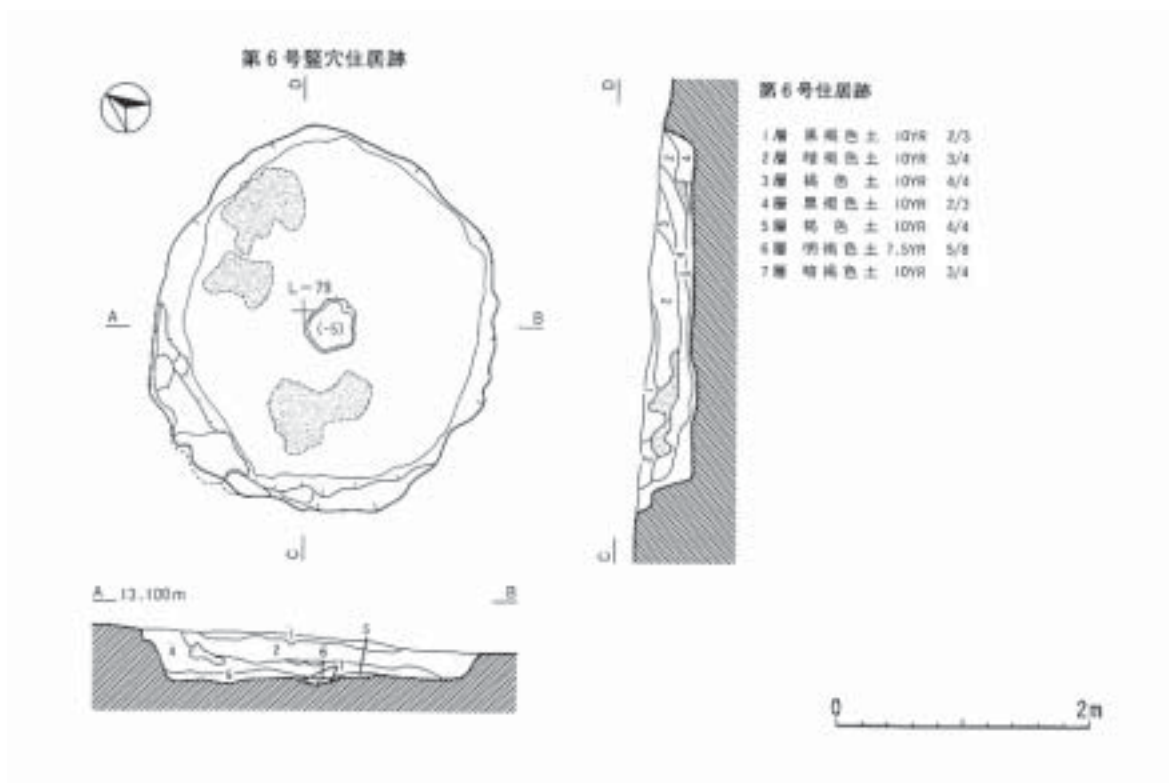
[特殊施設] 確認されなかった。

[堆積土] 褐色と黒褐色の土が主体で、7層に分層した。

[出土遺物] 土器は覆土から中期末の土器（第162図）が出土した。石器は石鏃8点（第193図）・石槍3点（第201図）、土製品は土偶1点（第218図）、石製品が1点（第220図）出土した。

第7号竪穴住居跡（第22図）

[位置と確認] K・L - 74・75グリッド。

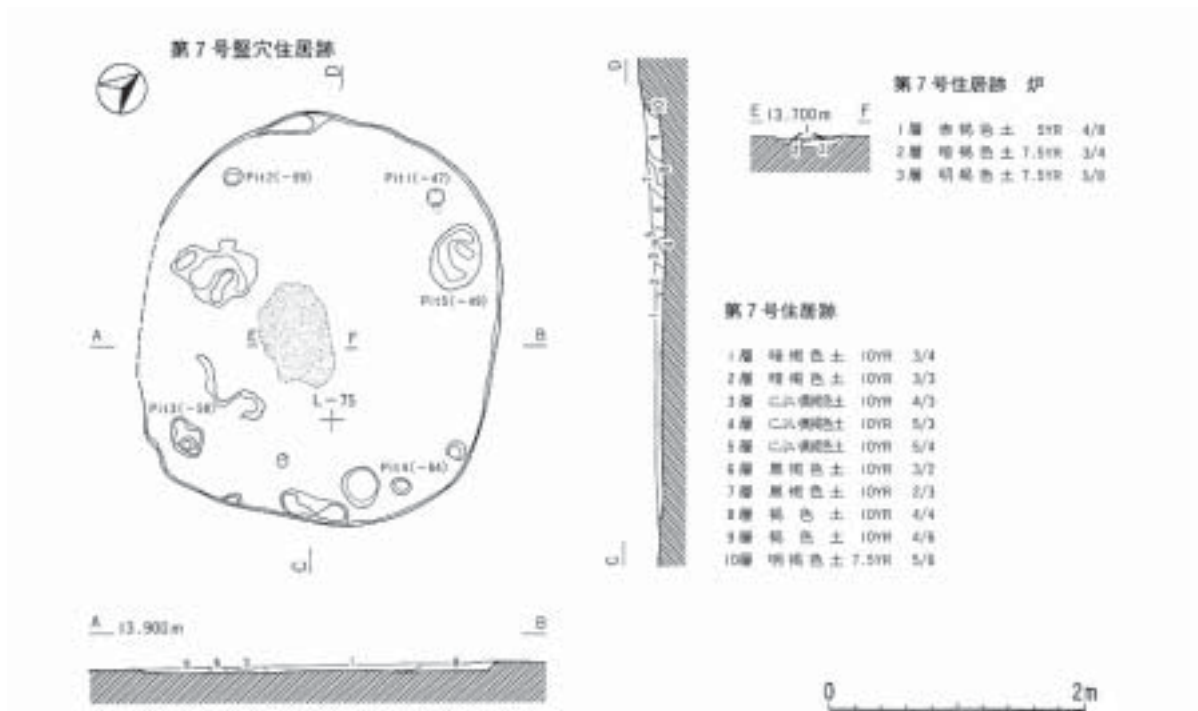


第21図 住居跡（第6号）

- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸 3.3m、短軸 (2.8m) の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 13cm、南壁 5cm、東壁 4cm、西壁 3cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 5 個検出した。深さは、P₁ - 47cm、P₂ - 59cm、P₃ - 58cm、P₄ - 64cm、P₅ - 49cm である。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 暗褐色の土が主体で、10 層に分層した。
- [出土遺物] 床直から円筒上層 e 式の土器片 (第 176 図) が出土した。

第 8 号竪穴住居跡 (第 23 図)

- [位置と確認] M - 74・75 グリッド。
- [重 複] 42 土と重複。
- [規模と形状] 長軸 3.3m、短軸 2.7m の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 70cm、南壁 55cm、東壁 40cm、西壁 70cm である。床面はほぼ平坦

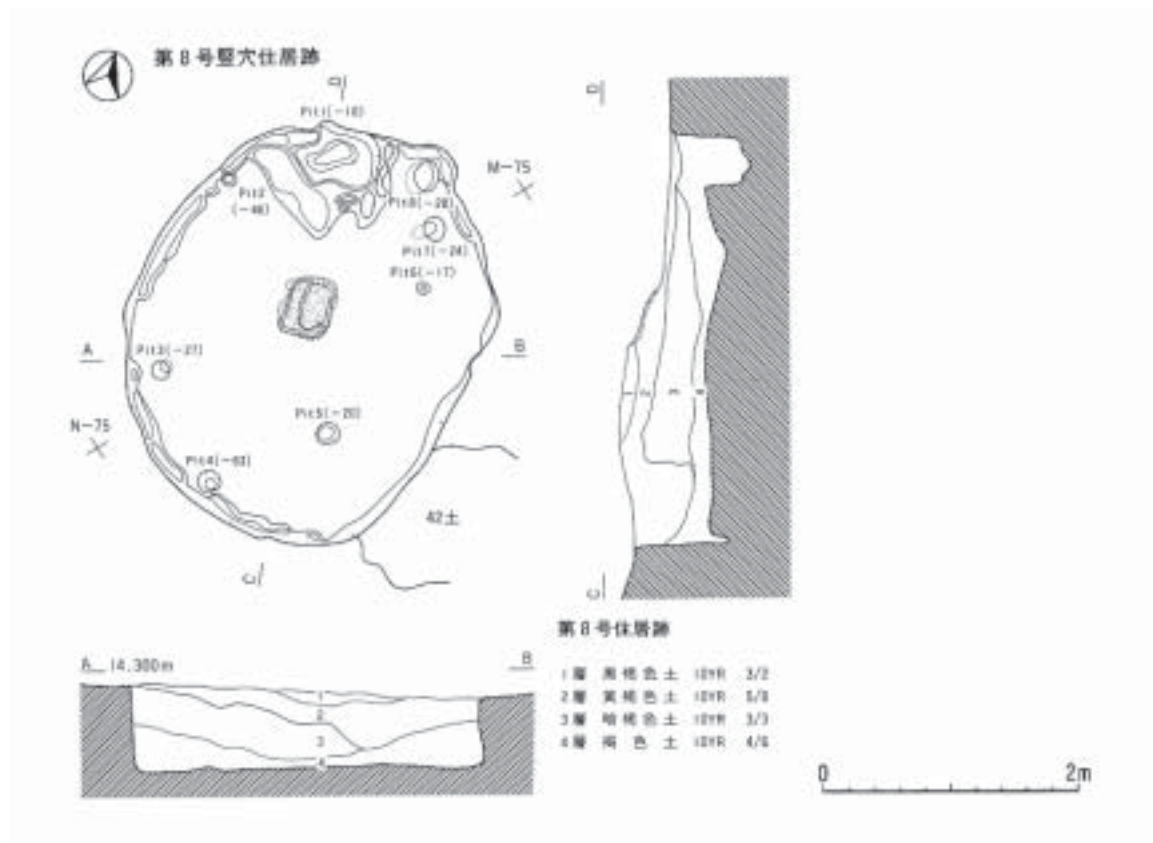


である。

- [柱 穴] 床面からピット8個検出した。深さは、P₁ - 18cm、P₂ - 46cm、P₃ - 27cm、P₄ - 63cm、P₅ - 20cm、P₆ - 17cm、P₇ - 24cm、P₈ - 38cmである。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 東壁で検出した。70cm × 40cmの楕円形にくぼんでいた。その両脇に2個のピット（深さ38cmと46cm）が、対になって検出された。
- [堆 積 土] 4層に分層した。
- [出土遺物] 土器は円筒上層e式の土器片が出土した。石器は石鏃2点（第193・194図）・石槍1点（第201図）が出土した。

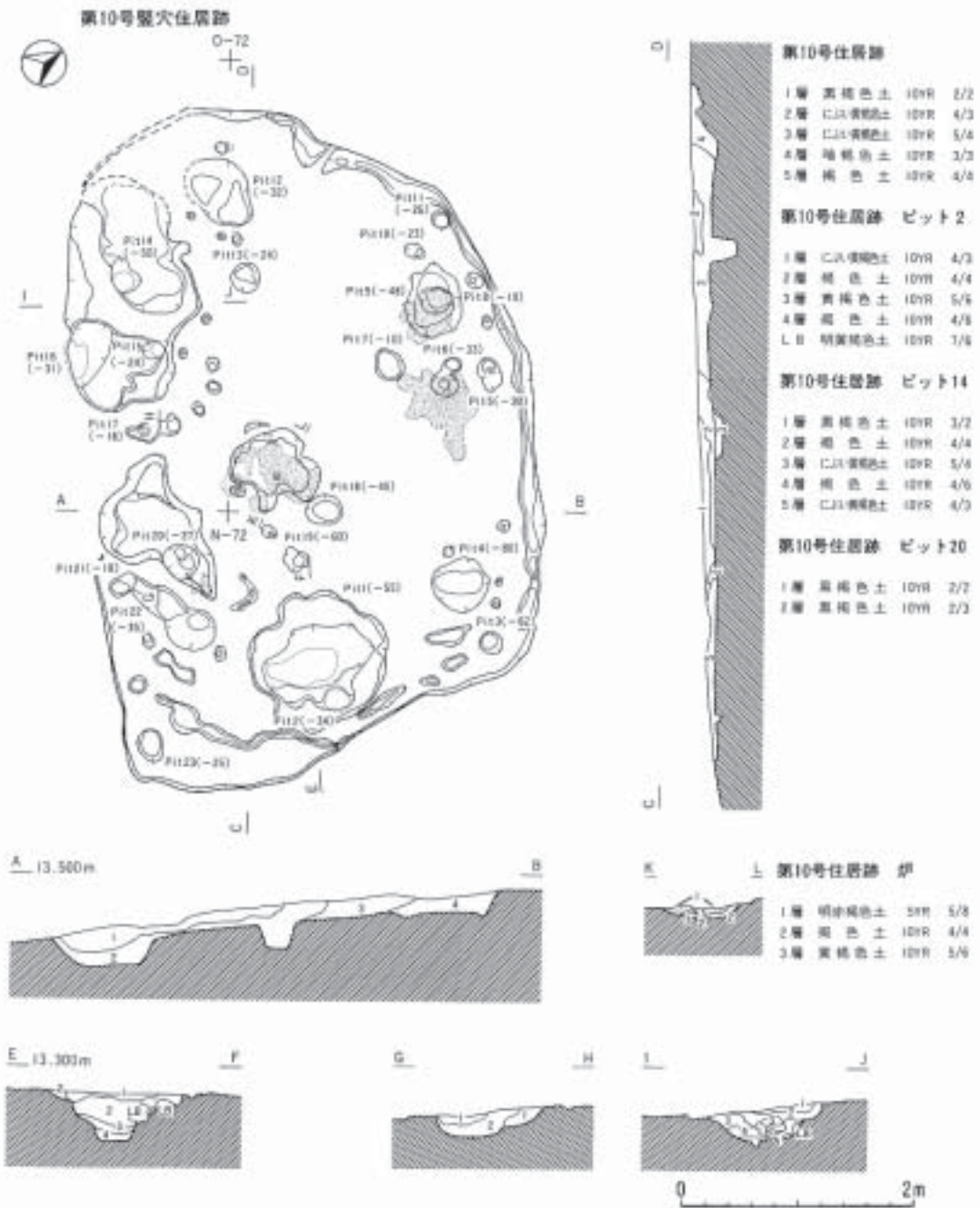
第10号竪穴住居跡（第24図）

- [位置と確認] M・N - 71・72グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸6.0m、短軸3.9mの楕円形を呈す。



[壁・床] 壁高は、北壁20cm、南壁5cm、東壁14cm、西壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

[柱 穴] 床面からピット23個検出した。深さは、P₁ - 55cm、P₂ - 34cm、P₃ - 62cm、



第24図 住居跡(第10号)

P₄ - 80cm、P₅ - 30cm、P₆ - 33cm、P₇ - 10cm、P₈ - 19cm、P₉ - 48cm、P₁₀ - 23cm、
P₁₁ - 26cm、P₁₂ - 32cm、P₁₃ - 24cm、P₁₄ - 50cm、P₁₅ - 24cm、P₁₆ - 31cm、P₁₇ -
18cm、P₁₈ - 45cm、P₁₉ - 60cm、P₂₀ - 27cm、P₂₁ - 18cm、P₂₂ - 35cm、P₂₃ - 25cm
である。

[炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

[特殊施設] 南東壁で検出した。120cm × 110cmの円形にくぼんでいた。

[堆積土] 5層に分層した。

[出土遺物] 土器は覆土から最花式土器（第162図）が出土した。石器は石鏃2点（第194
図）・石槍1点（第201図）・石筈1点（第204図）が出土した。

第11号竪穴住居跡（第25図）

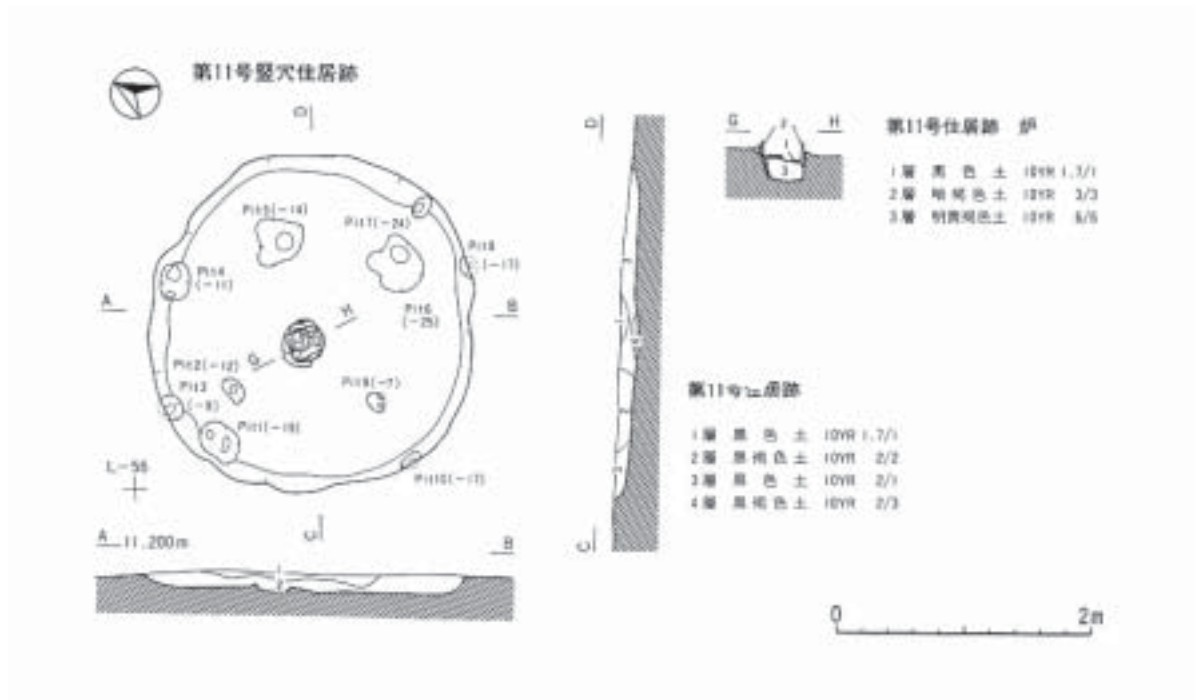
[位置と確認] K - 56グリッド。

[重 複] なし。

[規模と形状] 長軸2.7m、短軸2.6mの円形を呈す。

[壁 ・ 床] 壁高は、北壁14cm、南壁15cm、東壁10cm、西壁11cmである。床面はほぼ平坦
である。

[柱 穴] 床面からピット10個検出した。深さは、P₁ - 19cm、P₂ - 12cm、P₃ - 9cm、P₄
- 11cm、P₅ - 14cm、P₆ - 25cm、P₇ - 24cm、P₈ - 17cm、P₉ - 7cm、P₁₀ -



第25図 住居跡（第11号）

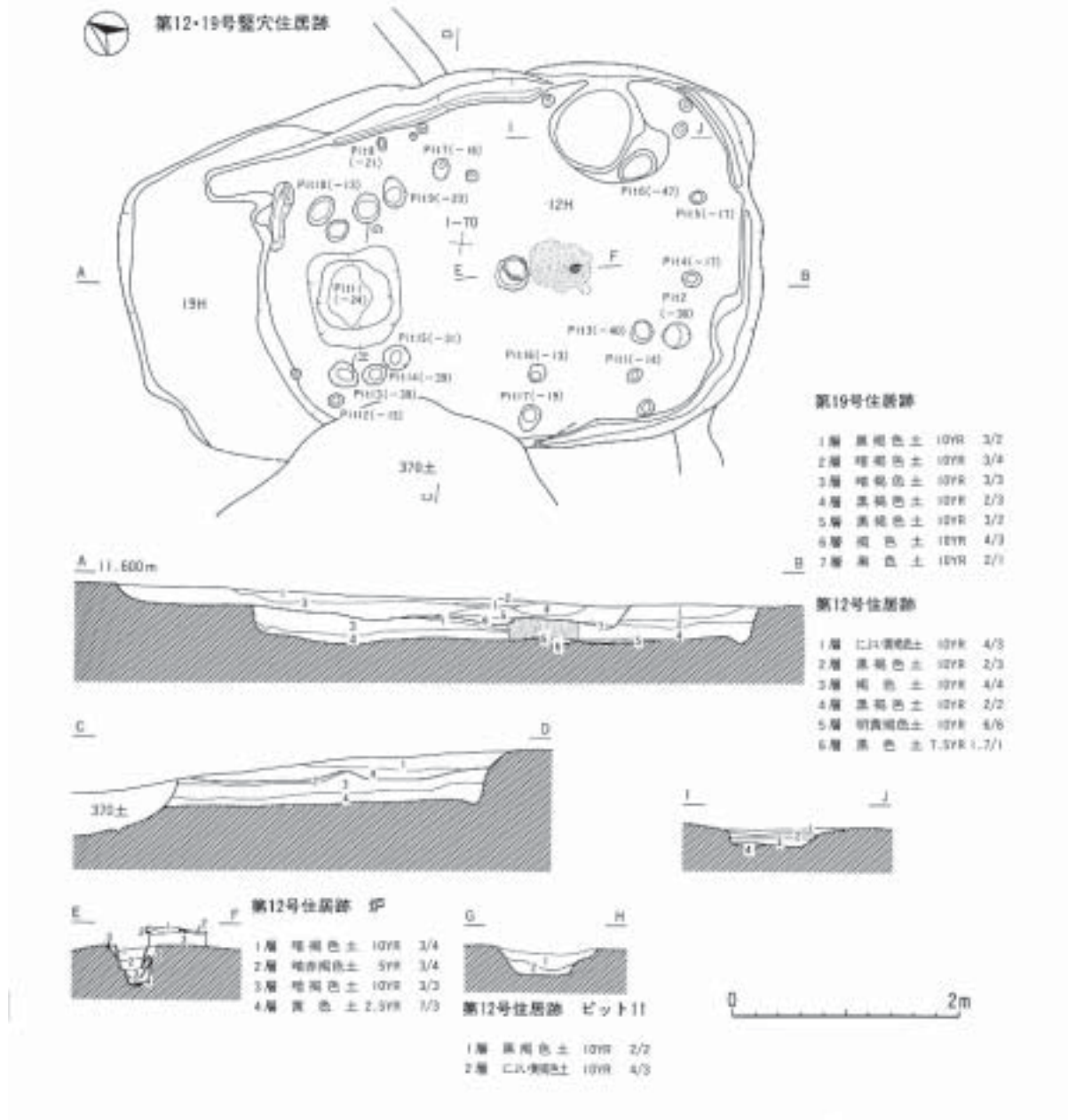
17cmである。

[炉] 土器埋設炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

[特殊施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黒色・黒褐色の土で、4層に分層した。

[出土遺物] 土器は床面直上から円筒上層d式の土器片(第175図)が出土した。石器は床直から石鏃1点(第194図)が出土した。



第26図 住居跡(12・19号)

第12号竪穴住居跡（第26図）

[位置と確認] I・J - 69・70グリッド。

[重複] 19H・370土と重複。

[規模と形状] 長軸4.5m、短軸3.4mの隅丸長方形を呈す。

[壁・床] 壁高は、北壁40cm、南壁25cm、東壁43cm、西壁37cmである。床面はほぼ平坦である。

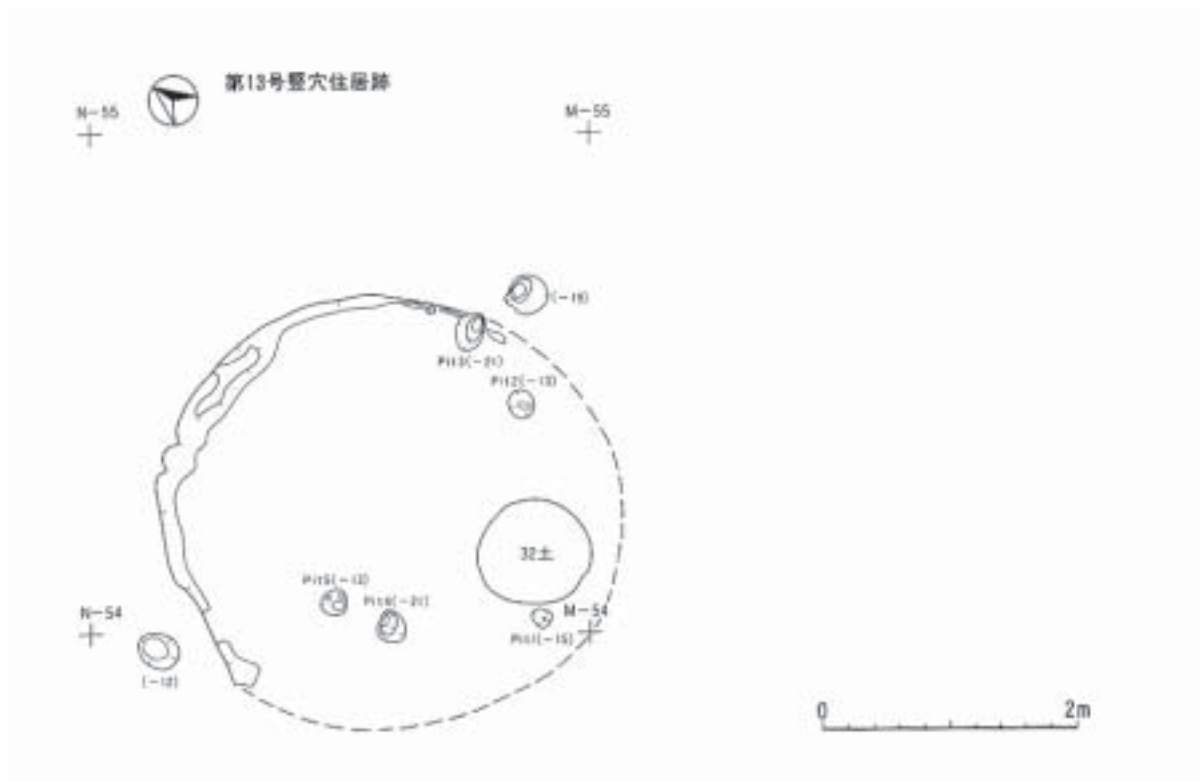
[柱穴] 床面からピット17個検出した。深さは、P₁ - 14cm、P₂ - 38cm、P₃ - 40cm、P₄ - 17cm、P₅ - 17cm、P₆ - 47cm、P₇ - 16cm、P₈ - 21cm、P₉ - 23cm、P₁₀ - 13cm、P₁₁ - 24cm、P₁₂ - 15cm、P₁₃ - 34cm、P₁₄ - 39cm、P₁₅ - 31cm、P₁₆ - 13cm、P₁₇ - 19cmである。

[炉] 土器埋設炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

[特殊施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黒褐色の土が主体で、6層に分層した。

[出土遺物] 土器は炉と覆土から円筒上層e式土器（第162・163図）が出土した。石器は石鏃7点（第194図）・石槍（第201図）・石筥（第204図）・スクレイパー（第208図）・磨石（第214図）・石冠（第216図）が各1点出土した。



第27図 住居跡（第13号）

第13号竪穴住居跡（第27図）

〔位置と確認〕 M - 54グリッド。

〔重 複〕 32土と重複。

〔規模と形状〕 長軸（3.5m）、短軸（3.4m）の円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁15cm、南壁14cm、東壁10cm、西壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱 穴〕 床面からピット5個検出した。深さは、P₁ - 15cm、P₂ - 13cm、P₃ - 21cm、P₄ - 21cm、P₅ - 13cmである。

〔 炉 〕 確認されなかった。

〔特殊施設〕 確認されなかった。

〔堆 積 土〕 ローム面で確認のため、堆積状況はつかめなかった。

〔出土遺物〕 なし。

第15号竪穴住居跡（第28図）

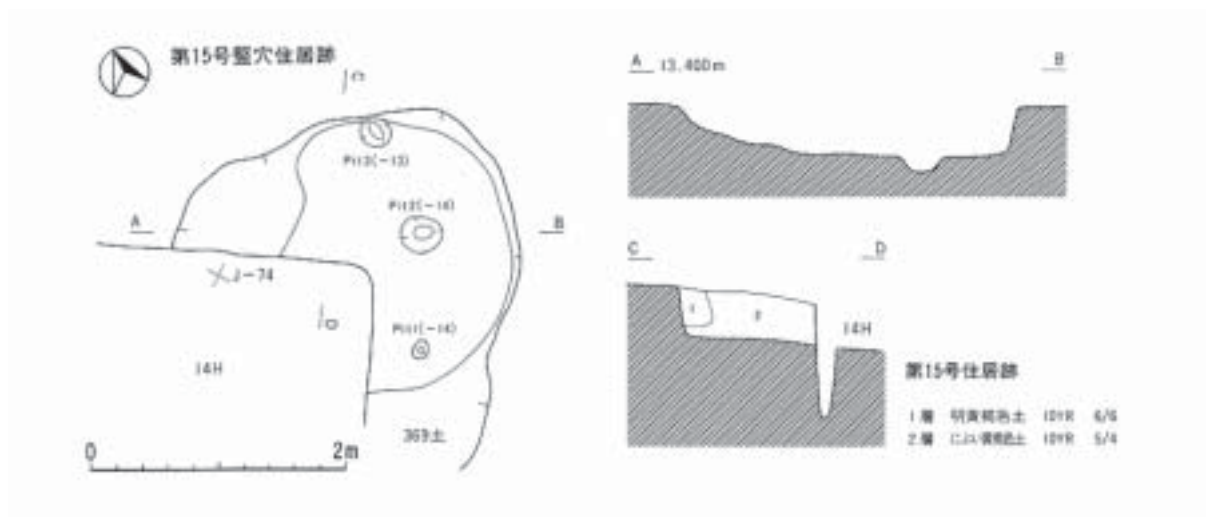
〔位置と確認〕 I - 74グリッド。

〔重 複〕 14H・369土と重複。

〔規模と形状〕 長軸（2.0m）、短軸（1.6m）の楕円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁37cm、南壁35cm、東壁38cm、西壁20cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱 穴〕 床面からピット3個検出した。深さは、P₁ - 14cm、P₂ - 14cm、P₃ - 13cmである。

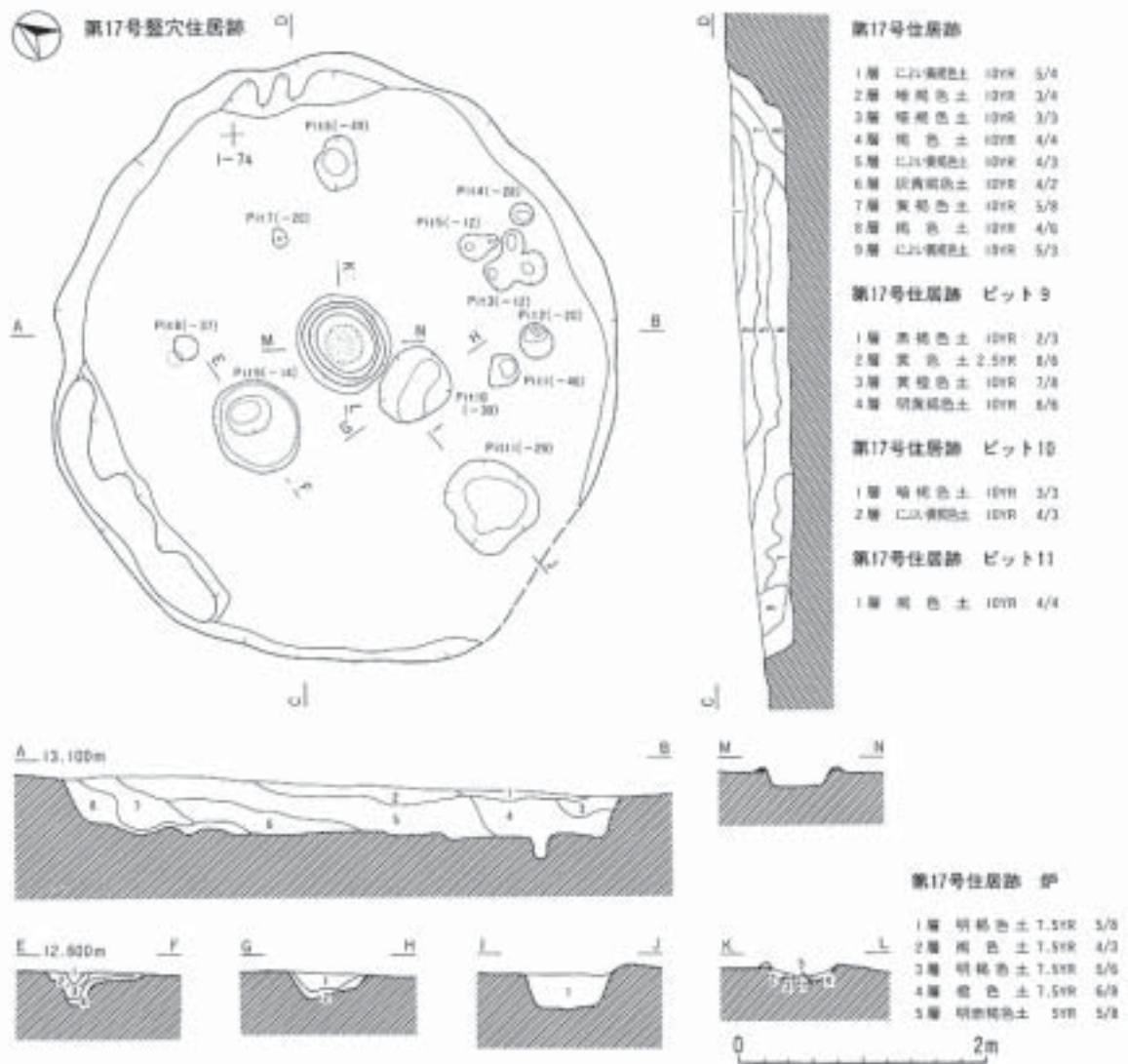


第28図 住居跡（第15号）

- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆積土] 2層に分層した。
- [出土遺物] なし。

第17号竪穴住居跡（第29図）

- [位置と確認] H・I - 73・74グリッド。
- [重 複] なし。



第29図 住居跡（第17号）

- [規模と形状] 長軸 5.0m、短軸 4.6m の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 40cm、南壁 33cm、東壁 40cm、西壁 25cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 11 個検出した。深さは、P₁ - 46cm、P₂ - 20cm、P₃ - 12cm、P₄ - 28cm、P₅ - 12cm、P₆ - 49cm、P₇ - 20cm、P₈ - 37cm、P₉ - 14cm、P₁₀ - 30cm、P₁₁ - 29cm である。
- [炉] 周堤炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] テラス有り。
- [堆 積 土] にぶい黄褐色の土が主体で、9 層に分層した。
- [出土遺物] 土器は底部付近の土器（第 164 図）が出土した。石器は石鏃 4 点（第 194・195 図）・磨石 1 点（第 214 図）が出土した。

第 18 号竪穴住居跡（第 30 図）

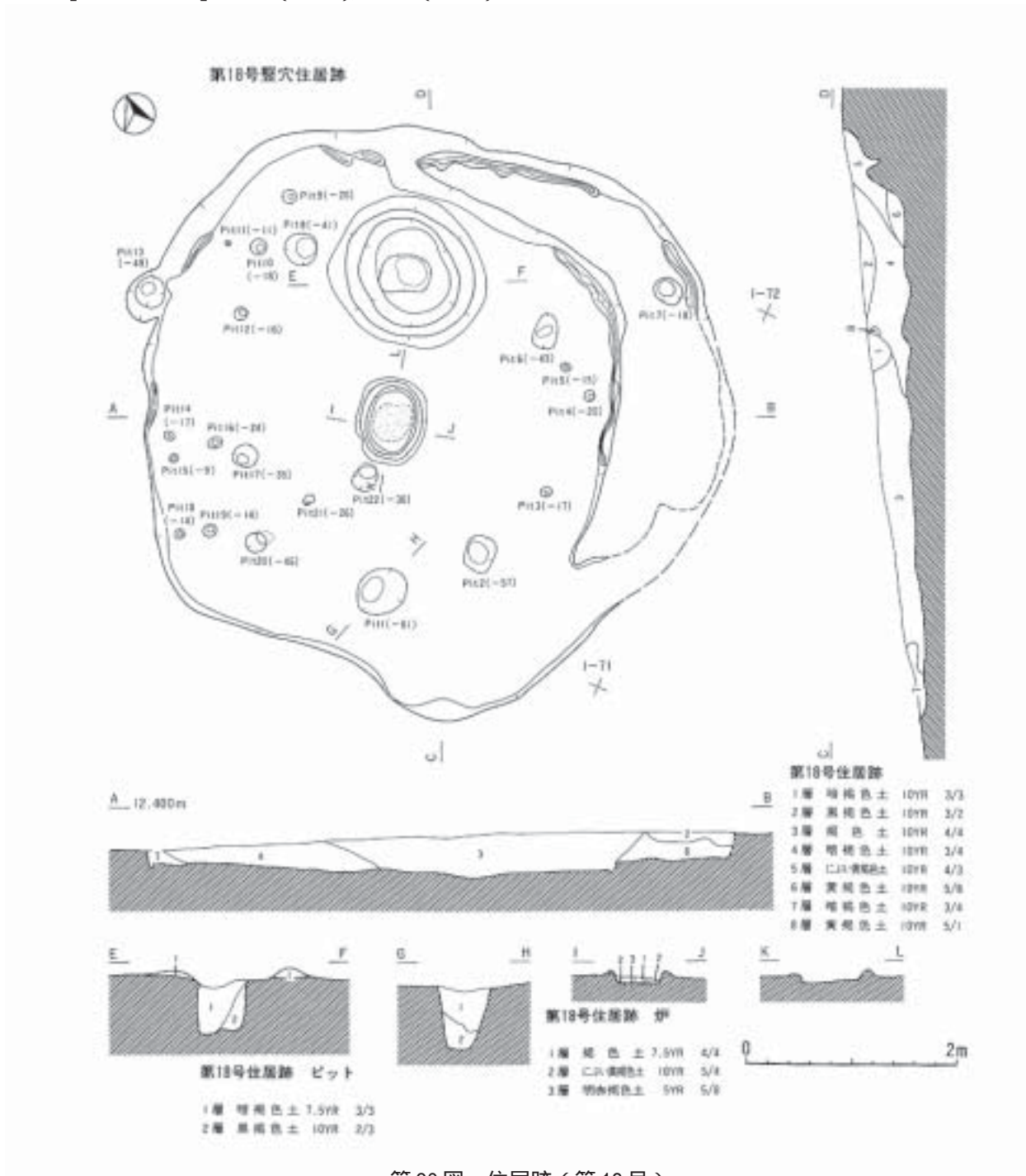
- [位置と確認] I・J - 69・70・71 グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸（5.8m）、短軸 5.3m の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 50cm、南壁 13cm、東壁 25cm、西壁 15cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 22 個検出した。深さは、P₁ - 61cm、P₂ - 57cm、P₃ - 17cm、P₄ - 20cm、P₅ - 15cm、P₆ - 43cm、P₇ - 18cm、P₈ - 41cm、P₉ - 20cm、P₁₀ - 18cm、P₁₁ - 11cm、P₁₂ - 16cm、P₁₃ - 49cm、P₁₄ - 17cm、P₁₅ - 9cm、P₁₆ - 24cm、P₁₇ - 35cm、P₁₈ - 14cm、P₁₉ - 14cm、P₂₀ - 45cm、P₂₁ - 26cm、P₂₂ - 30cm である。
- [炉] 周堤炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 北東壁で検出した。150cm × 150cm の円形にくぼんでいた。テラス有り。
- [堆 積 土] 暗褐色の土が主体で、8 層に分層した。
- [出土遺物] 土器は床面直上から円筒上層 e 式土器（第 164 図）が出土した。石器は石鏃（第 195 図）・縦型石匙（第 203 図）・磨石（第 213 図）・敲石（第 214 図）各 1 点が出土した。

第19号竪穴住居跡（第26図）

[位置と確認] 1・J - 69・70グリッド。

[重 複] 12Hと重複。

[規模と形状] 長軸（4.6m） 短軸（3.4m）の隅丸長方形を呈す。

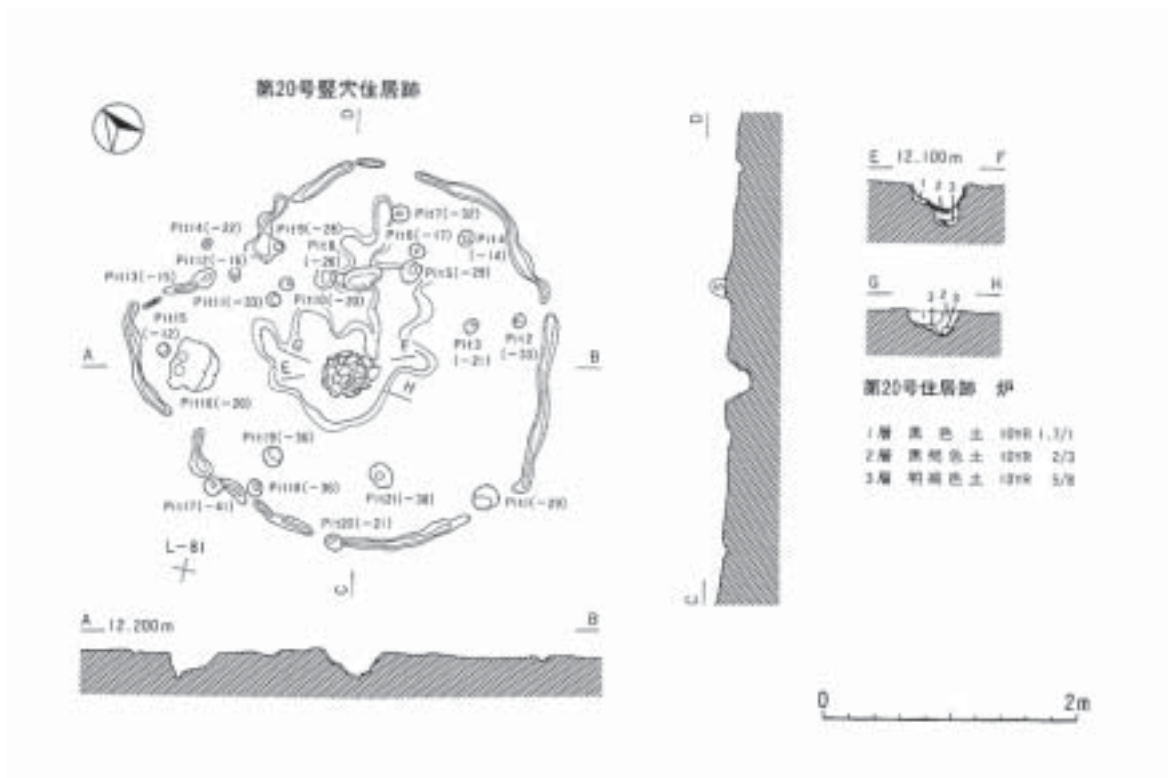


第30図 住居跡（第18号）

- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 16cm、南壁 15cm、東壁 14cm、西壁 15cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 確認されなかった。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 暗褐色の土が主体で、7 層に分層した。
- [出土遺物] なし。

第 20 号竪穴住居跡 (第 31 図)

- [位置と確認] K - 81 グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸 (3.5m)、短軸 (3.0m) の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 床面は多少凹凸がある。
- [柱 穴] 床面からピット 21 個検出した。深さは、P₁ - 29cm、P₂ - 33cm、P₃ - 21cm、P₄ - 14cm、P₅ - 29cm、P₆ - 17cm、P₇ - 32cm、P₈ - 26cm、P₉ - 28cm、P₁₀ - 20cm、P₁₁ - 33cm、P₁₂ - 16cm、P₁₃ - 15cm、P₁₄ - 22cm、P₁₅ - 12cm、P₁₆ -



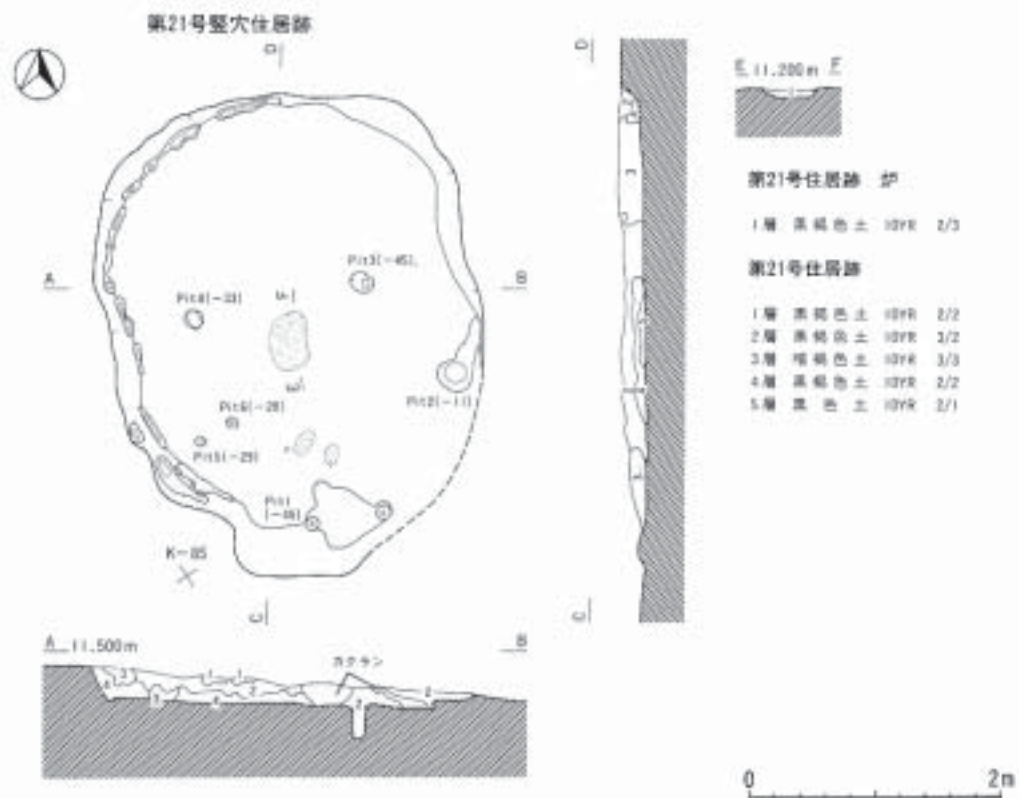
第 31 図 住居跡 (第 20 号)

20cm、P₁₇ - 41cm、P₁₈ - 36cm、P₁₉ - 36cm、P₂₀ - 21cm、P₂₁ - 38cmである。

- [炉] 土器片敷詰炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆積土] ローム面で確認のため、堆積状況はつかめなかった。
- [出土遺物] 炉に使用されたのは、円筒上層e式土器（第165図）である。

第21号竪穴住居跡（第32図）

- [位置と確認] K - 85グリッド。
- [重複] なし。
- [規模と形状] 長軸3.8m、短軸3.0mの楕円形を呈す。
- [壁・床] 壁高は、北壁18cm、南壁6cm、東壁6cm、西壁22cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱穴] 床面からピット6個検出した。深さは、P₁ - 45cm、P₂ - 11cm、P₃ - 45cm、P₄ - 33cm、P₅ - 29cm、P₆ - 28cmである。

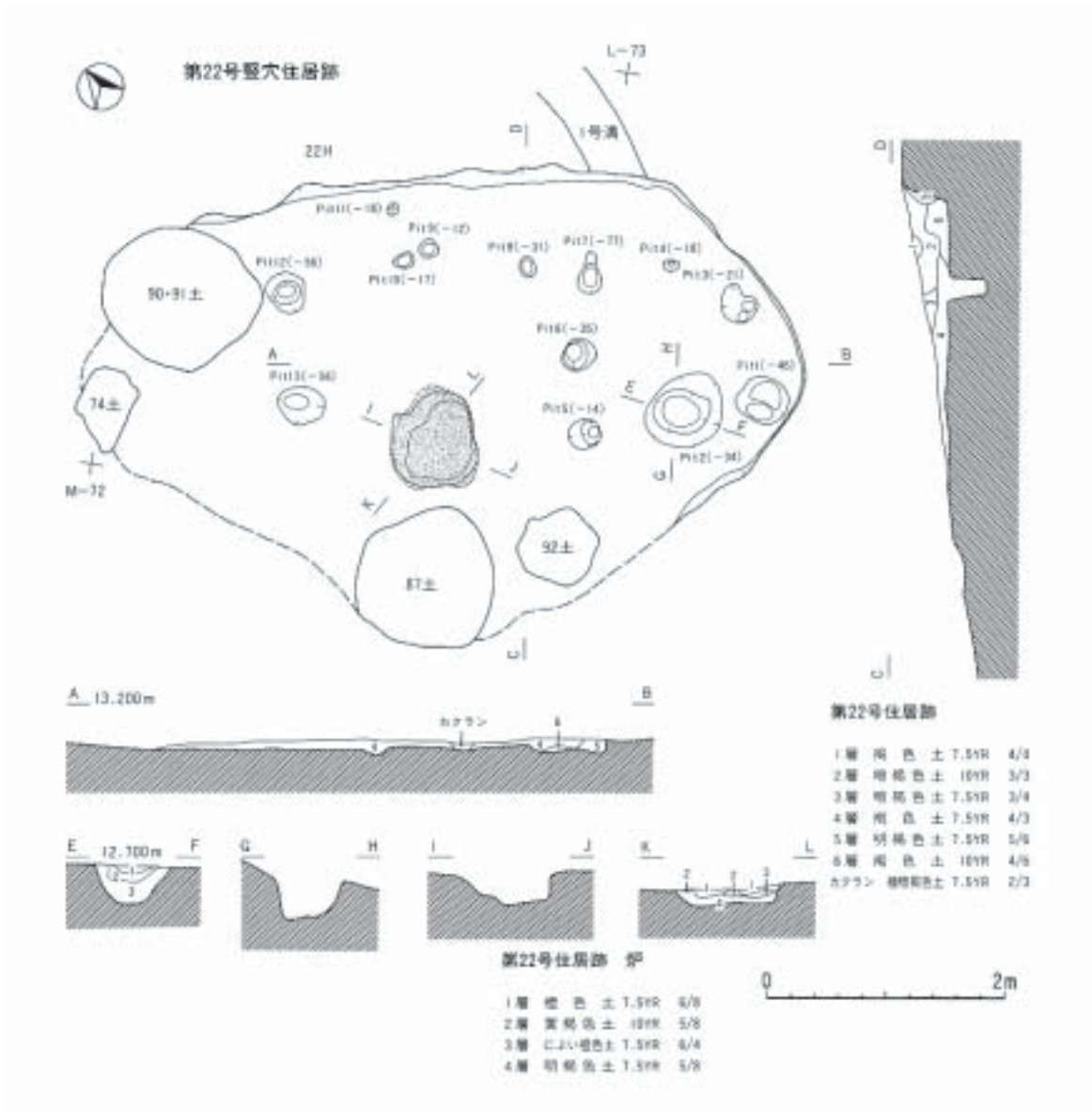


第32図 住居跡（第21号）

- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆積土] 黒褐色の土が主体で、5層に分層した。
- [出土遺物] 土器は床面直上から円筒上層e式の土器片（第176図）が出土した。石器は床直から石鏃1点（第195図）が出土した。

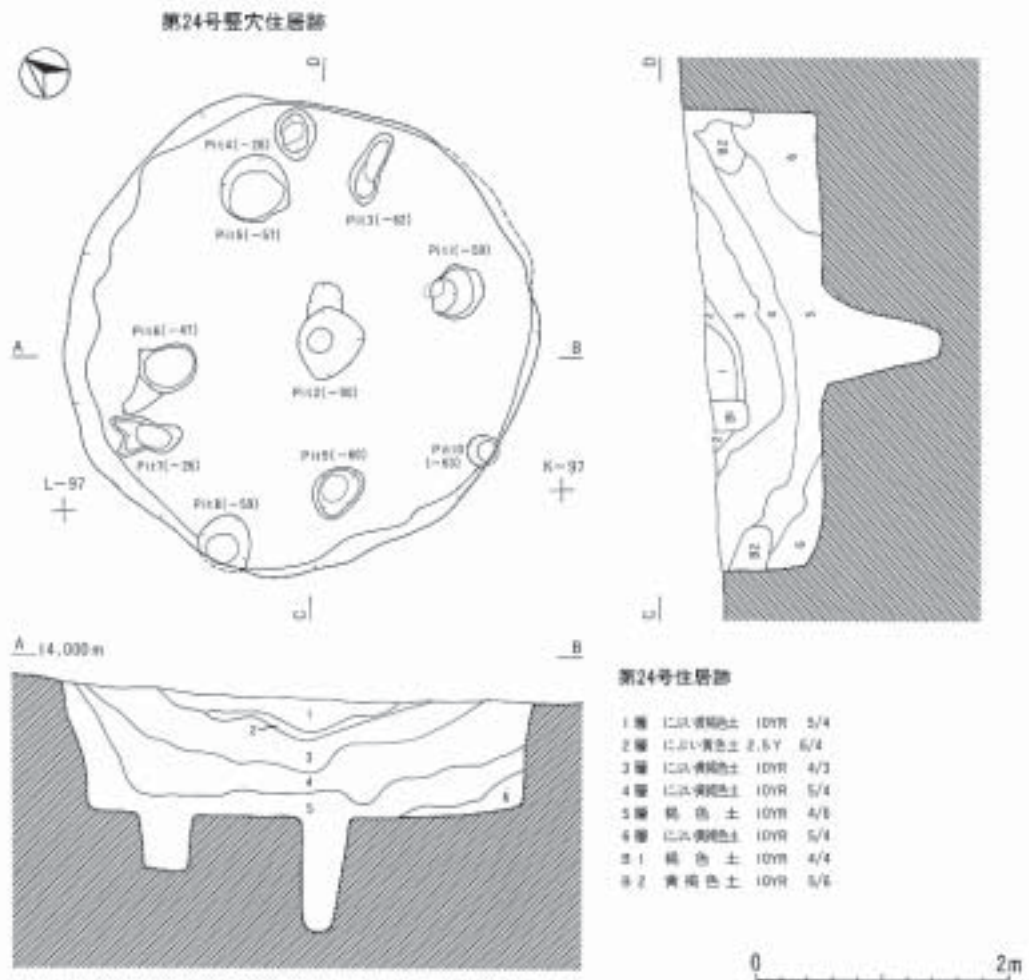
第22号竪穴住居跡（第33図）

[位置と確認] K・L - 72グリッド。



第33図 住居跡（第22号）

- [重 複] 74 土・87 土・90 土・91 土・92 土と重複。
- [規模と形状] 長軸（6.0m） 短軸（4.0m）の楕円形を呈す。
- [壁 床] 床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット13個検出した。深さは、P₁ - 46cm、P₂ - 34cm、P₃ - 21cm、P₄ - 18cm、P₅ - 14cm、P₆ - 35cm、P₇ - 77cm、P₈ - 31cm、P₉ - 12cm、P₁₀ - 17cm、P₁₁ - 18cm、P₁₂ - 56cm、P₁₃ - 56cmである。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 褐色の土が主体で、6層に分層した。
- [出土遺物] 土器は床面直上から円筒上層式の底部（第165図）が出土した。石器は磨石1点（第215図）・石冠1点（第216図）が出土した。



第34図 住居跡（第24号）

第24号竪穴住居跡（第34図）

〔位置と確認〕 K - 97グリッド。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 長軸3.8m、短軸3.7mの円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁95cm、南壁82cm、東壁108cm、西壁72cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 床面からピット10個検出した。深さは、P₁ - 59cm、P₂ - 90cm、P₃ - 62cm、P₄ - 28cm、P₅ - 57cm、P₆ - 47cm、P₇ - 26cm、P₈ - 59cm、P₉ - 60cm、P₁₀ - 63cmである。

〔炉〕 確認されなかった。

〔特殊施設〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 にぶい黄褐色の土が主体で、6層に分層した。

〔出土遺物〕 覆土から円筒上層の土器片が出土した。石器は磨石1点（第213図）・凹石1点（第214図）が出土した。

第25号竪穴住居跡（第35図）

〔位置と確認〕 J - 97・98グリッド。

〔重複〕 26Hと重複。

〔規模と形状〕 長軸3.1m、短軸2.5mの楕円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁73cm、南壁61cm、東壁55cm、西壁70cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 床面からピット14個検出した。深さは、P₁ - 25cm、P₂ - 74cm、P₃ - 22cm、P₄ - 64cm、P₅ - 23cm、P₆ - 50cm、P₇ - 42cm、P₈ - 50cm、P₉ - 15cm、P₁₀ - 30cm、P₁₁ - 69cm、P₁₂ - 15cm、P₁₃ - 47cm、P₁₄ - 61cmである。

〔炉〕 確認されなかった。

〔特殊施設〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 褐色の土が主体で、8層に分層した。

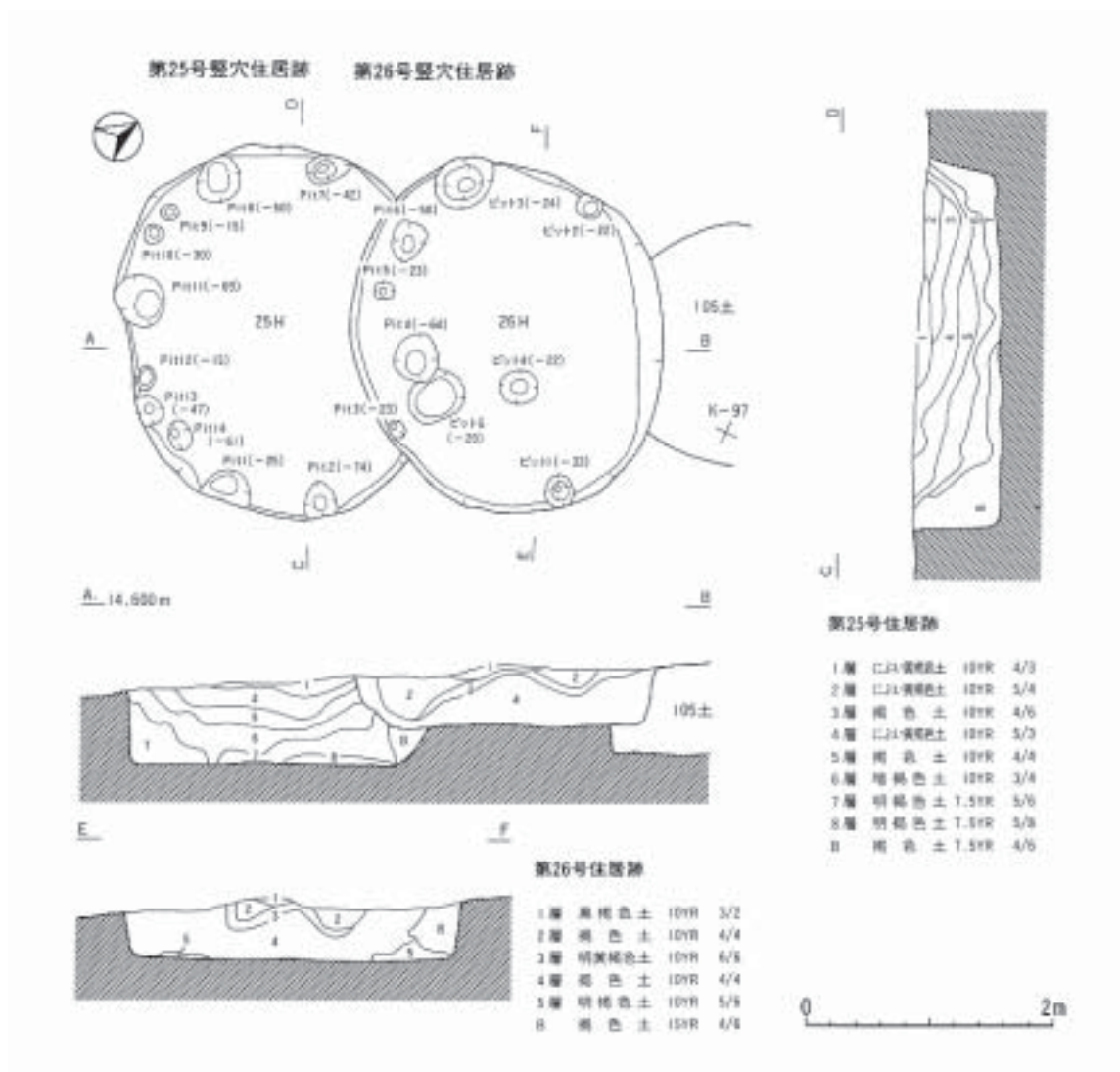
〔出土遺物〕 なし。

第26号竪穴住居跡（第35図）

〔位置と確認〕 J・K - 98グリッド。

〔重複〕 25H・105土と重複。

- [規模と形状] 長軸2.8m、短軸(2.5m)の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁45cm、南壁42cm、東壁36cm、西壁45cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット5個検出した。深さは、P₁ - 33cm、P₂ - 22cm、P₃ - 24cm、P₄ - 22cm、P₅ - 20cmである。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 褐色の土が主体で、5層に分層した。
- [出土遺物] 覆土から円筒上層の土器片が若干出土した。石製品は1点(第221図)出土した。



第35図 住居跡(第25・26号)

第28号竪穴住居跡（第36図）

〔位置と確認〕 1・J - 97・98グリッド。

〔重 複〕 154土・170土と重複。

〔規模と形状〕 長軸（3.6m） 短軸2.8mの楕円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁70cm、南壁84cm、東壁103cm、西壁74cmである。床面はほぼ平坦である。

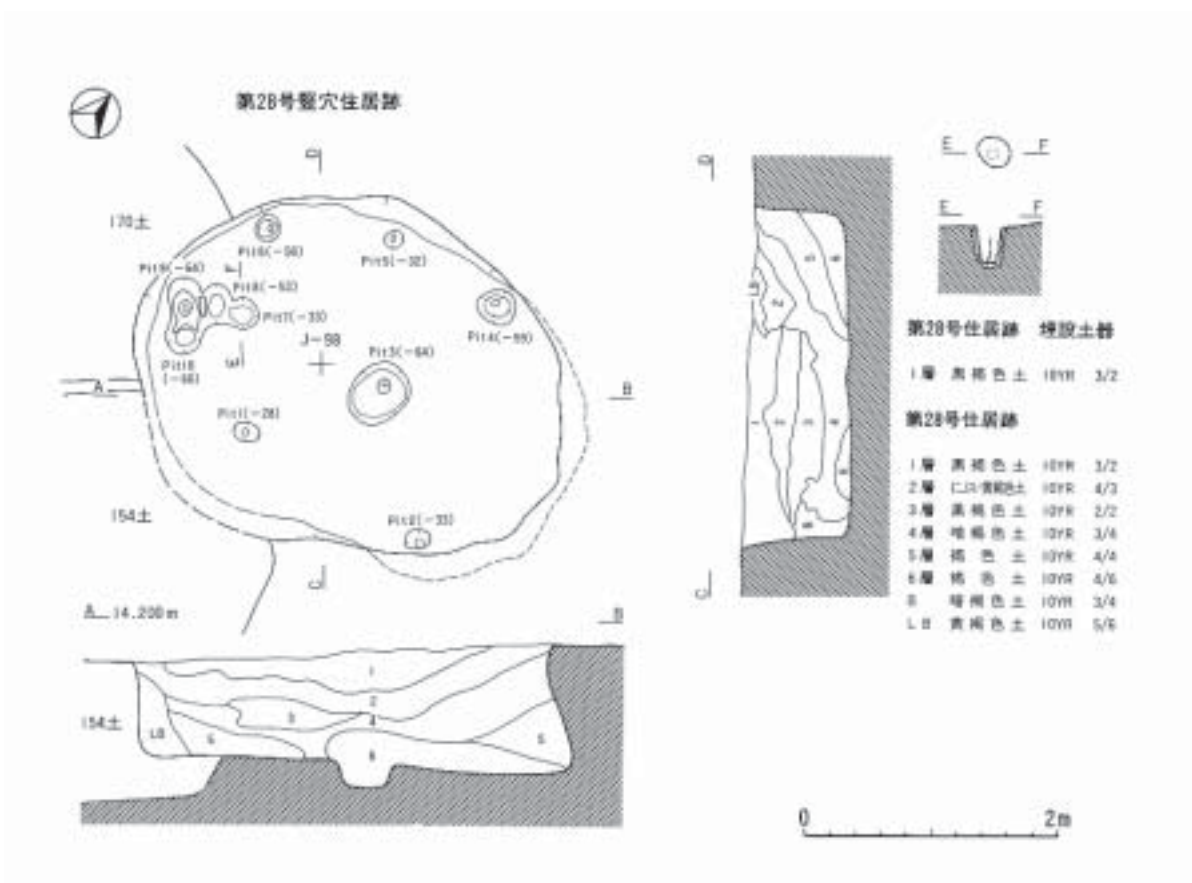
〔柱 穴〕 床面からピット10個検出した。深さは、P₁ - 28cm、P₂ - 33cm、P₃ - 64cm、P₄ - 59cm、P₅ - 32cm、P₆ - 56cm、P₇ - 33cm、P₈ - 53cm、P₉ - 64cm、P₁₀ - 66cmである。

〔 炉 〕 確認されなかった。

〔 特殊施設 〕 確認されなかった。

〔堆 積 土〕 褐色の土が主体で、6層に分層した。

〔 出土遺物 〕 床面のピット内から円筒上層c式土器（第165図）が出土した。



第36図 住居跡（第28号）

第30号竪穴住居跡（第37図）

〔位置と確認〕 J・K - 73・74グリッド。

〔重 複〕 62土と重複。

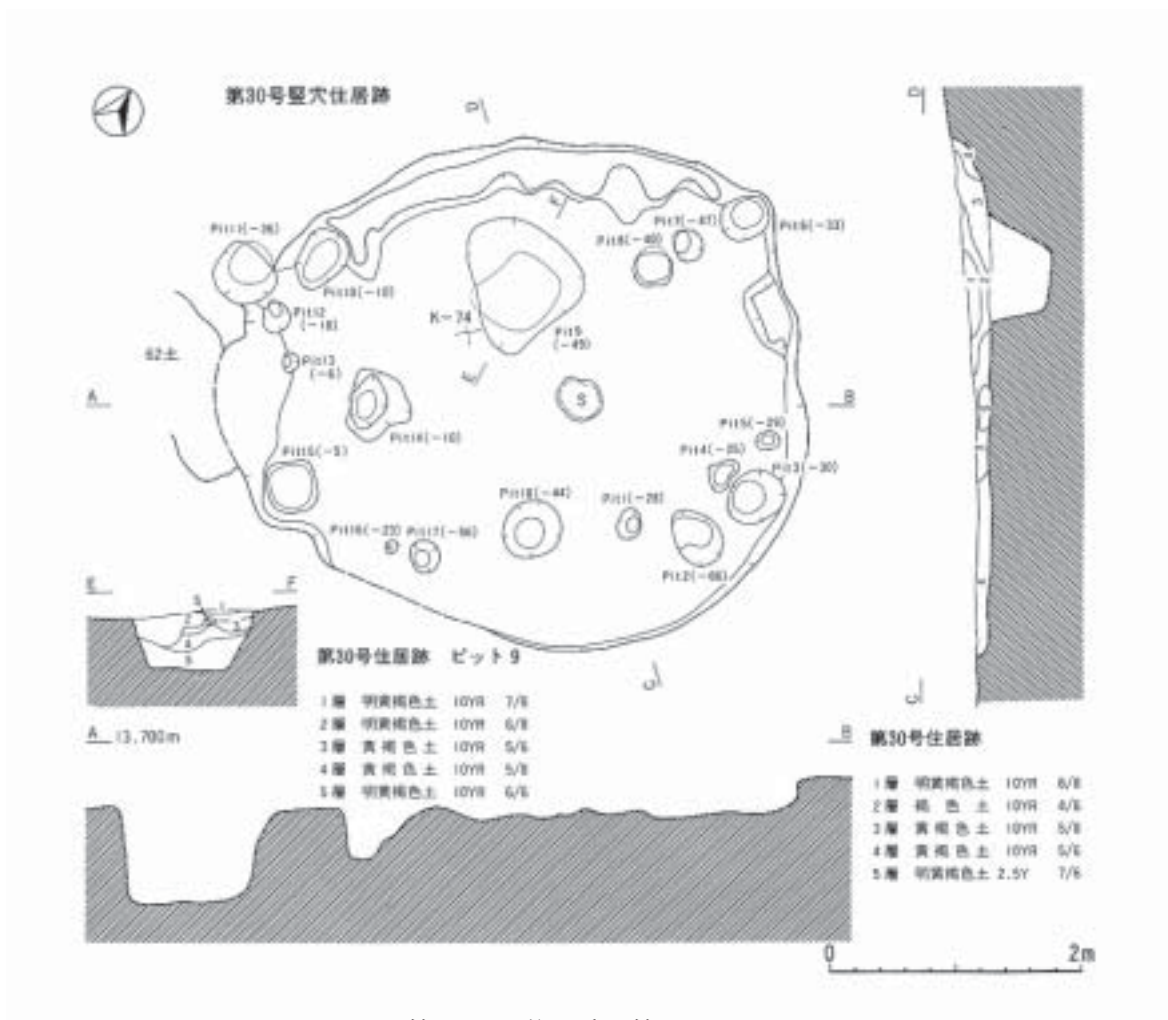
〔規模と形状〕 長軸4.6m、短軸4.0mの楕円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁20cm、南壁10cm、東壁20cm、西壁18cmである。床面は多少凹凸がある。

〔柱 穴〕 床面からピット18個検出した。深さは、P₁ - 28cm、P₂ - 66cm、P₃ - 30cm、P₄ - 25cm、P₅ - 29cm、P₆ - 33cm、P₇ - 47cm、P₈ - 40cm、P₉ - 49cm、P₁₀ - 10cm、P₁₁ - 36cm、P₁₂ - 18cm、P₁₃ - 6cm、P₁₄ - 10cm、P₁₅ - 5cm、P₁₆ - 23cm、P₁₇ - 56cm、P₁₈ - 44cmである。

〔 炉 〕 確認されなかった。

〔 特殊施設 〕 確認されなかった。



第37図 住居跡（第30号）

[堆積土] 黄褐色の土が主体で、5層に分層した。

[出土遺物] 土器は覆土から円筒上層e式土器(第166図)が出土した。石器は石鏃3点(第195図)・黒曜石のフレイク2点(第212図)・磨石2点(第213図)が出土した。

第32号竪穴住居跡(第38図)

[位置と確認] 0-74グリッド。

[重複] 163土・1溝Pと重複。

[規模と形状] 不明。

[壁・床] 床面は全面貼り床で、多少凹凸がある。

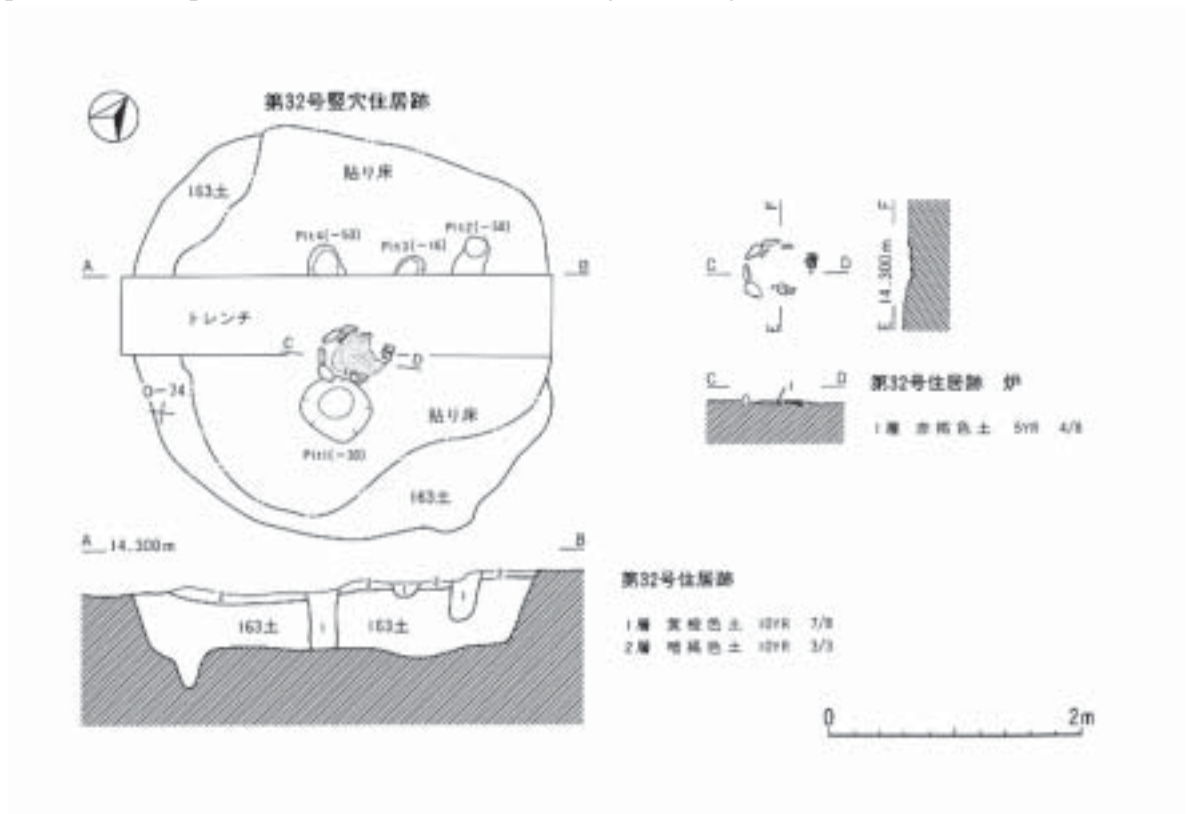
[柱穴] 床面からピット4個検出した。深さは、P₁ - 30cm、P₂ - 50cm、P₃ - 16cm、P₄ - 53cmである。

[炉] 土器片敷石囲炉で住居跡のほぼ中央に位置する。

[特殊施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黄橙色と暗褐色の2層に分層した。

[出土遺物] 炉から円筒上層e式土器の土器片(第166図)が出土した。



第38図 住居跡(第32号)

第34号竪穴住居跡（第39図）

〔位置と確認〕 N - 99・100グリッド。

〔重 複〕 なし。

〔規模と形状〕 長軸3.2m、短軸2.9mの楕円形を呈す。

〔壁・床〕 壁高は、北壁61cm、南壁75cm、東壁85cm、西壁60cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱 穴〕 床面からピット2個検出した。深さは、P₁ - 52cm、P₂ - 51cmである。

〔 炉 〕 確認されなかった。

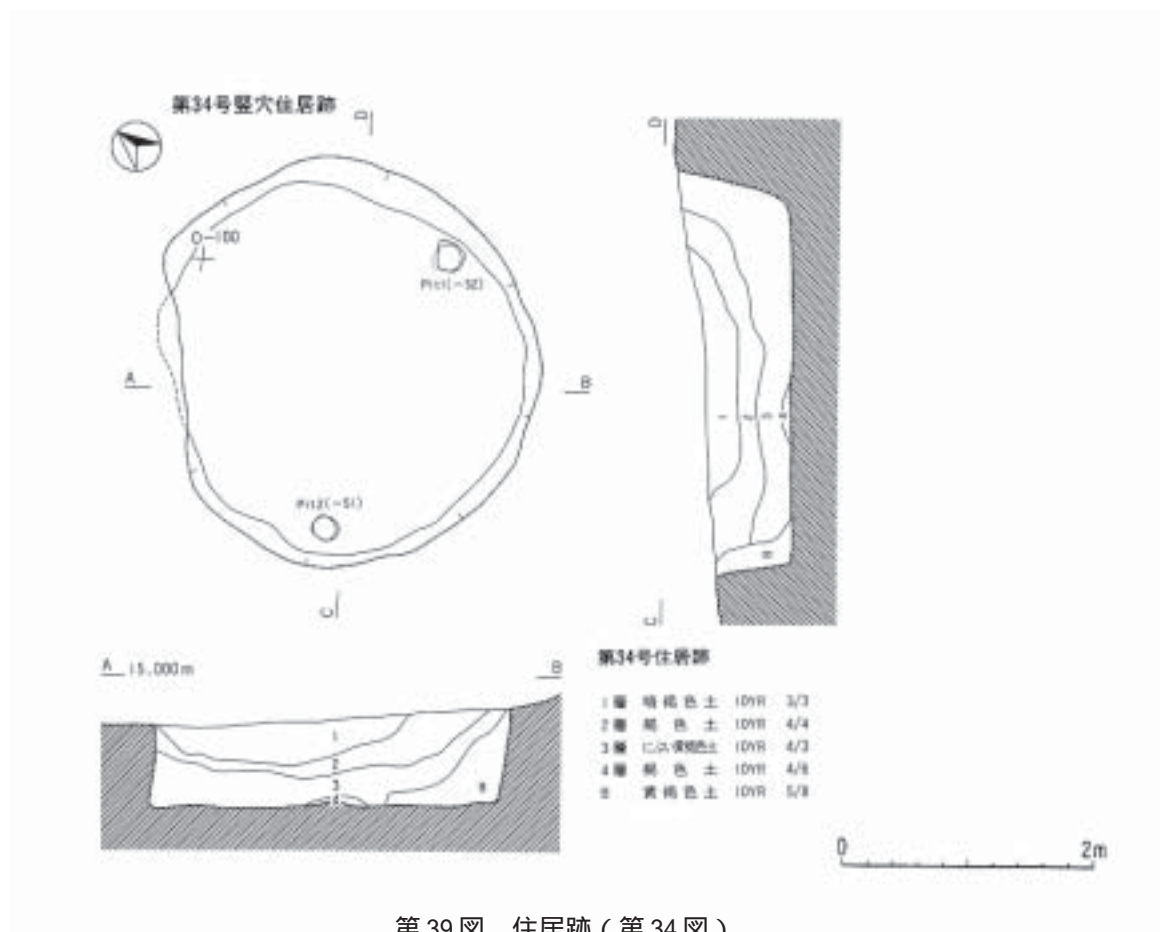
〔 特殊施設 〕 確認されなかった。

〔堆 積 土〕 褐色の土が主体で、4層に分層した。

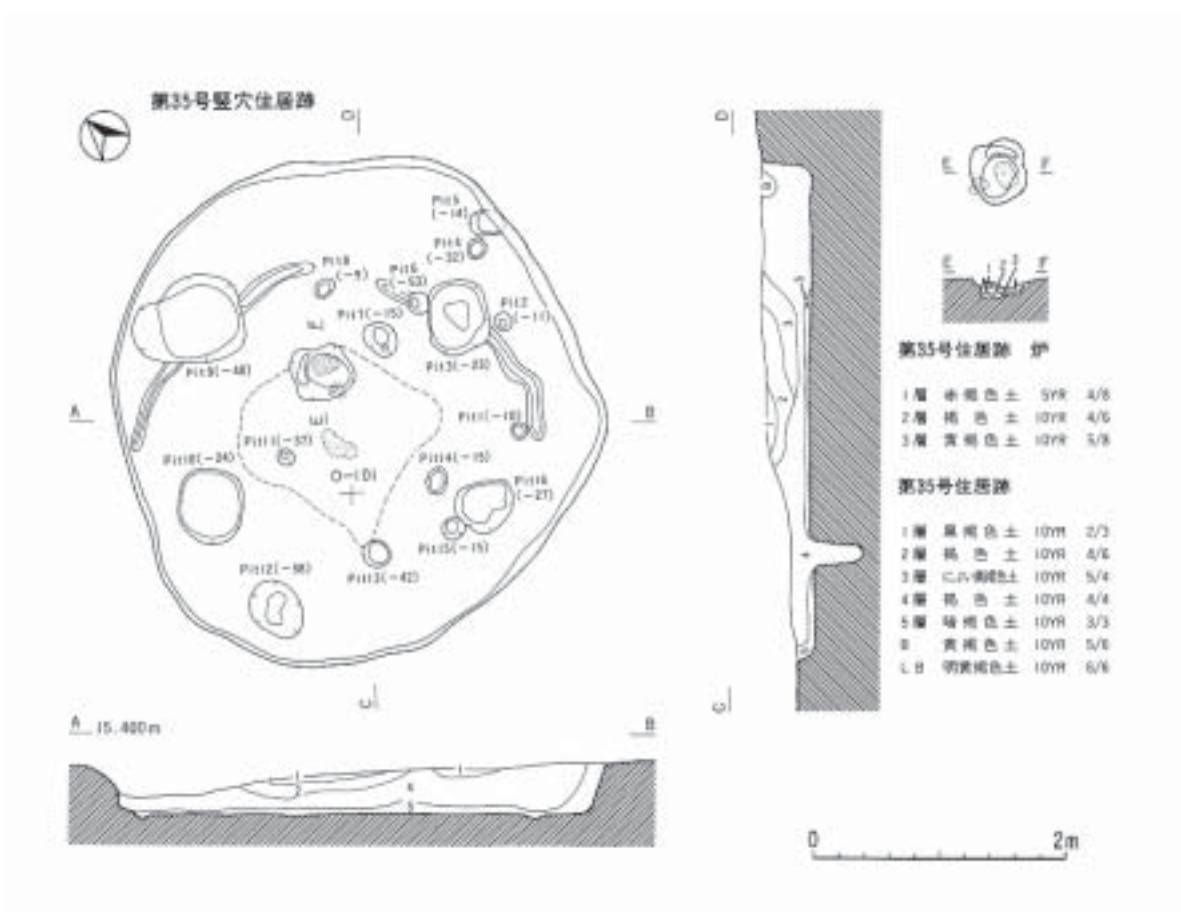
〔 出土遺物 〕 覆土から円筒上層の土器片が若干出土した。

第35号竪穴住居跡（第40図）

〔位置と確認〕 N・0 - 100・101グリッド。



- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸 3.9m、短軸 3.7m の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 20cm、南壁 40cm、東壁 40cm、西壁 15cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 16 個検出した。深さは、P₁ - 10cm、P₂ - 11cm、P₃ - 23cm、P₄ - 32cm、P₅ - 14cm、P₆ - 53cm、P₇ - 15cm、P₈ - 9cm、P₉ - 48cm、P₁₀ - 24cm、P₁₁ - 37cm、P₁₂ - 58cm、P₁₃ - 42cm、P₁₄ - 15cm、P₁₅ - 15cm、P₁₆ - 27cm である。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 褐色の土が主体で、5 層に分層した。
- [出土遺物] 土器は円筒上層の土器の底部（第 166 図）が出土した。石器は石鏃 3 点（第 195 図）・磨斧 1 点（第 215 図）土製品は土偶 1 点（第 218 図）が出土した。



第 40 図 住居跡（第 35 号）

第40号竪穴住居跡（第41図）

[位置と確認] I・J - 103・104グリッド。

[重複] 222土・223土・375土・376土と重複。

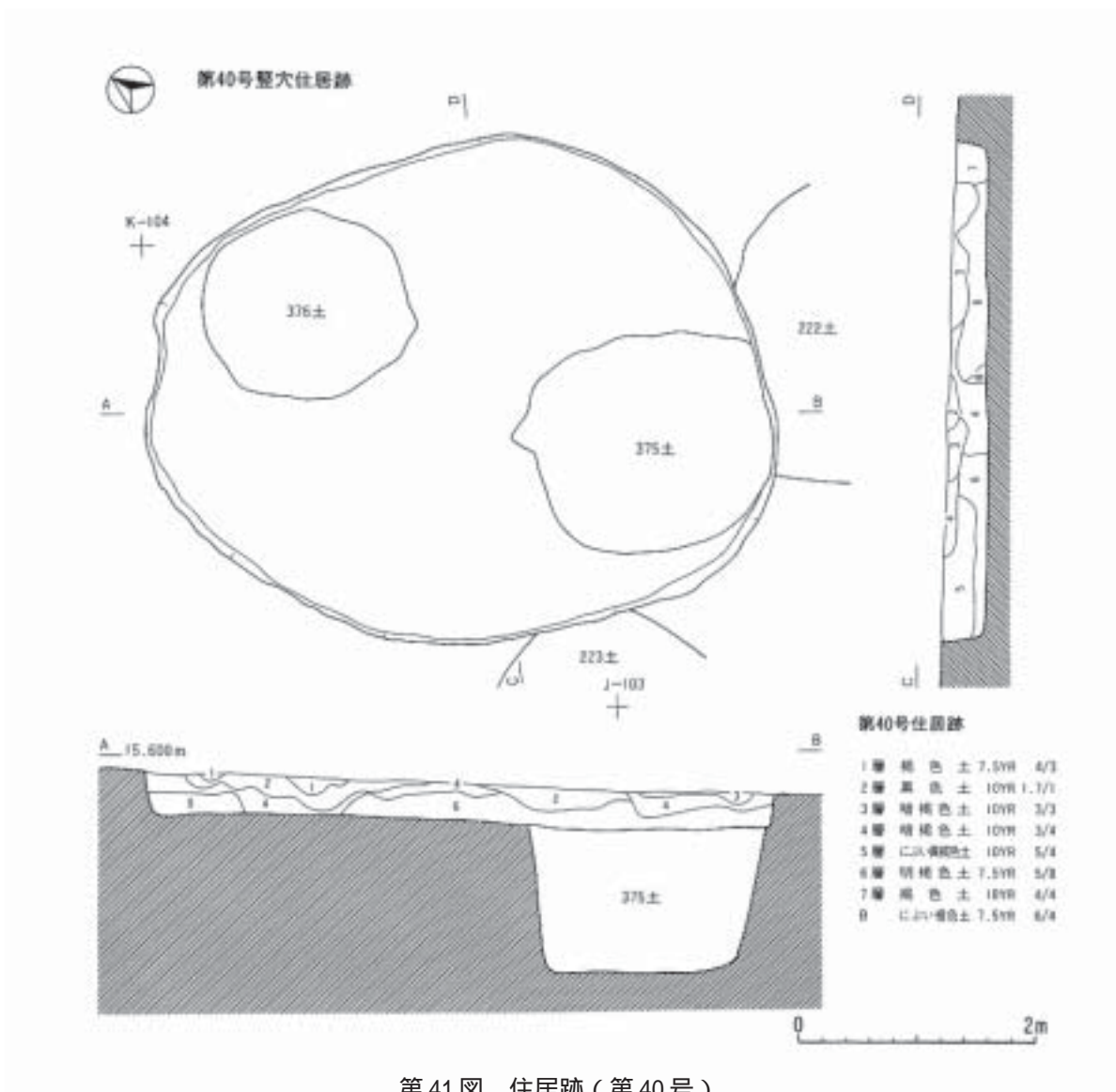
[規模と形状] 長軸5.4m、短軸4.3mの楕円形を呈す。

[壁・床] 壁高は、北壁35cm、南壁29cm、東壁25cm、西壁35cmである。床面はほぼ平坦である。

[柱穴] 確認されなかった。

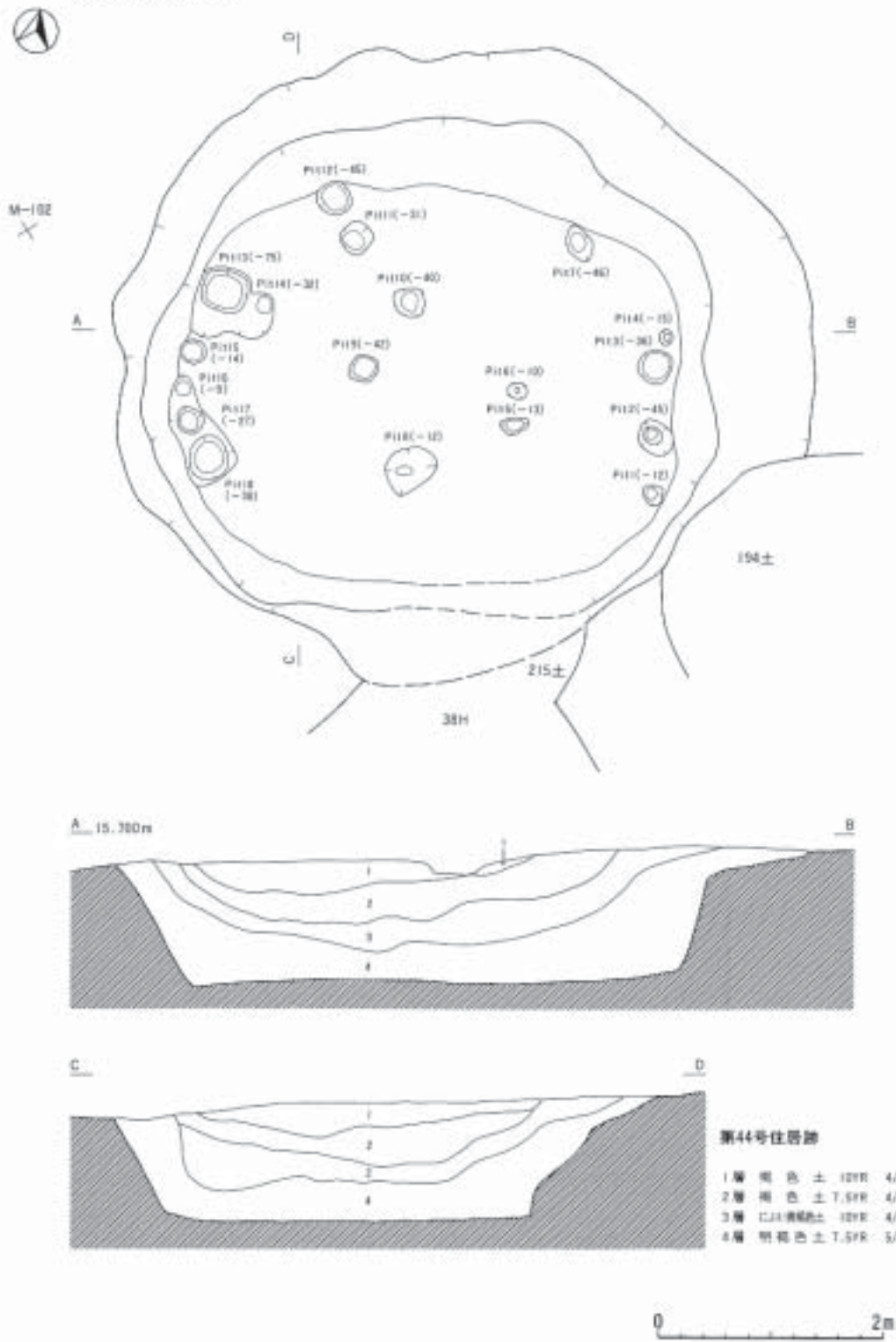
[炉] 確認されなかった。

[特殊施設] 確認されなかった。



第41図 住居跡（第40号）

第44号整穴住居跡

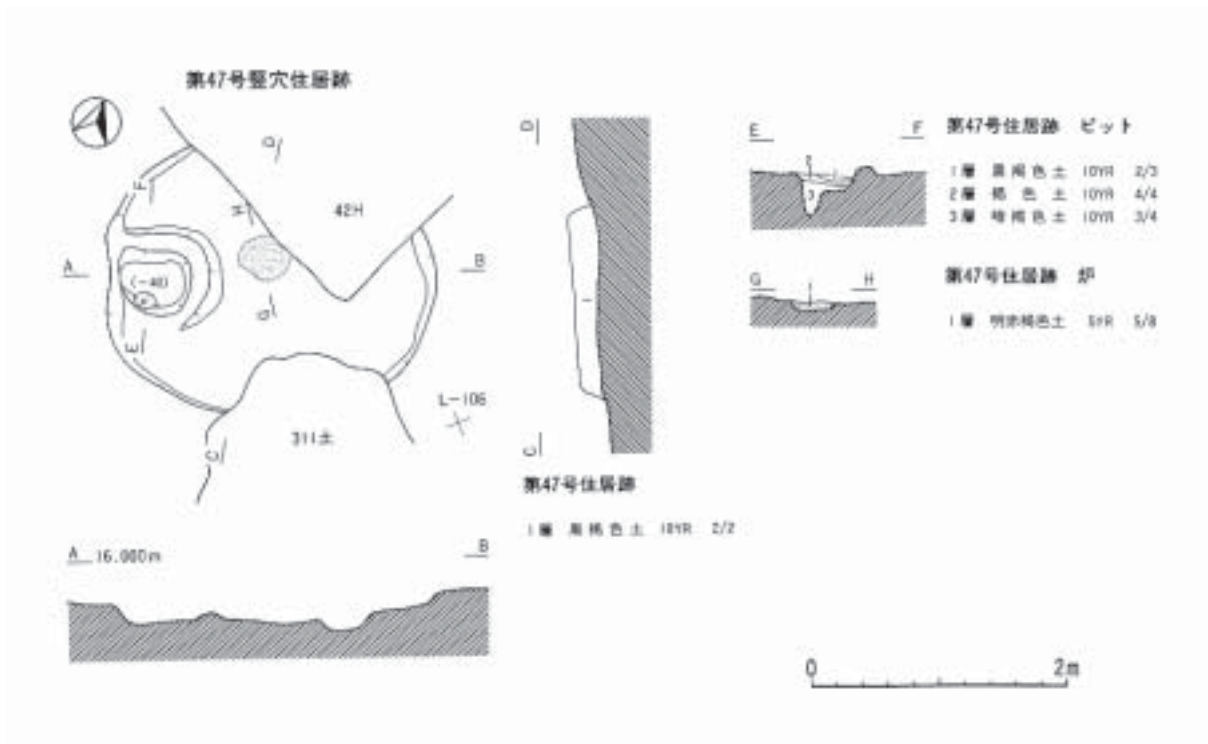


第42図 住居跡(第44号)

- [堆 積 土] 褐色と暗褐色の土が主体で、7層に分層した。
- [出土遺物] 土器は円筒上層e式の土器片が出土した。

第44号竪穴住居跡（第42図）

- [位置と確認] K・L - 102・103グリッド。
- [重 複] 38H・194土・215土と重複。
- [規模と形状] 長軸6.3m、短軸5.4mの楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁106cm、南壁95cm、東壁114cm、西壁120cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット18個検出した。深さは、P₁ - 12cm、P₂ - 45cm、P₃ - 36cm、P₄ - 15cm、P₅ - 13cm、P₆ - 10cm、P₇ - 46cm、P₈ - 12cm、P₉ - 42cm、P₁₀ - 40cm、P₁₁ - 31cm、P₁₂ - 45cm、P₁₃ - 75cm、P₁₄ - 32cm、P₁₅ - 14cm、P₁₆ - 9cm、P₁₇ - 27cm、P₁₈ - 38cmである。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 褐色の土が主体で、4層に分層した。
- [出土遺物] 石器は石鏃1点（第195図）が出土した。



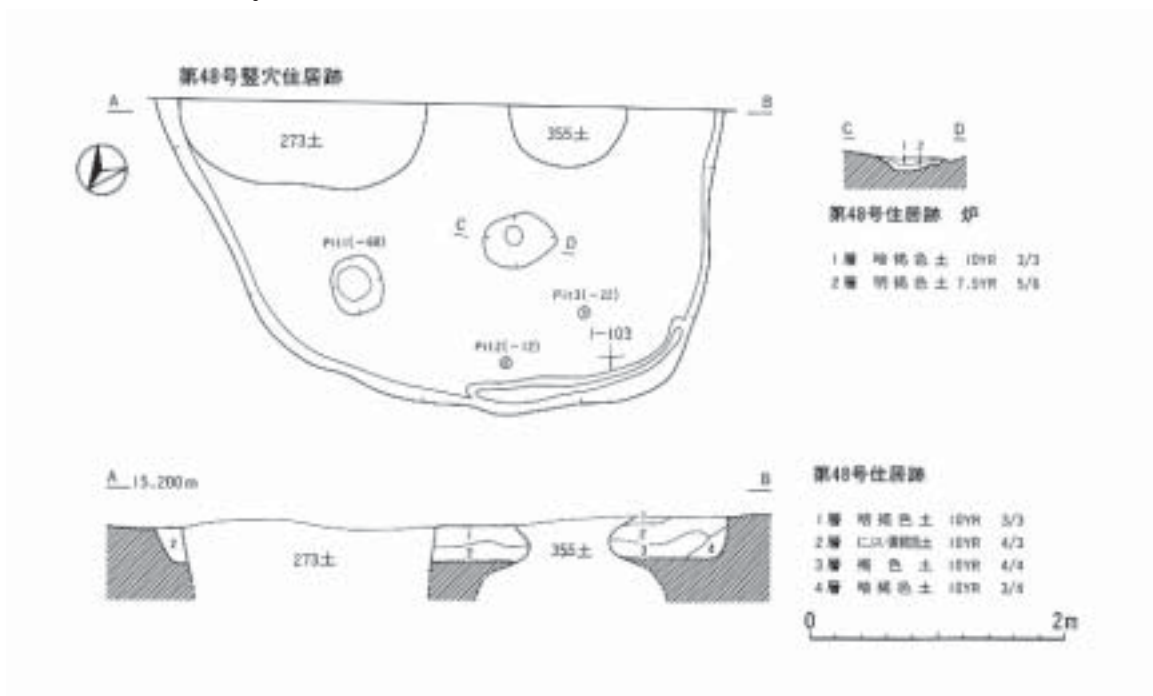
第43図 住居跡（第47号）

第47号竪穴住居跡（第43図）

- [位置と確認] L - 105グリッド。
- [重複] 42H・311土と重複。
- [規模と形状] 長軸2.6m、短軸(2.3m)の楕円形を呈す。
- [壁・床] 床面は多少凹凸がある。
- [柱穴] 確認されなかった。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 西壁で検出した。90cm × 80cmの楕円形にくぼみ、南側が途切れていた。
- [堆積土] 黒褐色土の1層である。
- [出土遺物] 覆土から円筒上層e式の土器片(第176図)が出土した。石器は石鏃2点(第195図)が出土した。

第48号竪穴住居跡（第44図）

- [位置と確認] H - 102・103グリッド。
- [重複] 273土・355土と重複。
- [規模と形状] 長軸4.3m、短軸(?)mの楕円形を呈す。
- [壁・床] 床面はほぼ平坦である。
- [柱穴] 床面からピット3個検出した。深さは、P₁ - 68cm、P₂ - 12cm、P₃ - 22cmである。

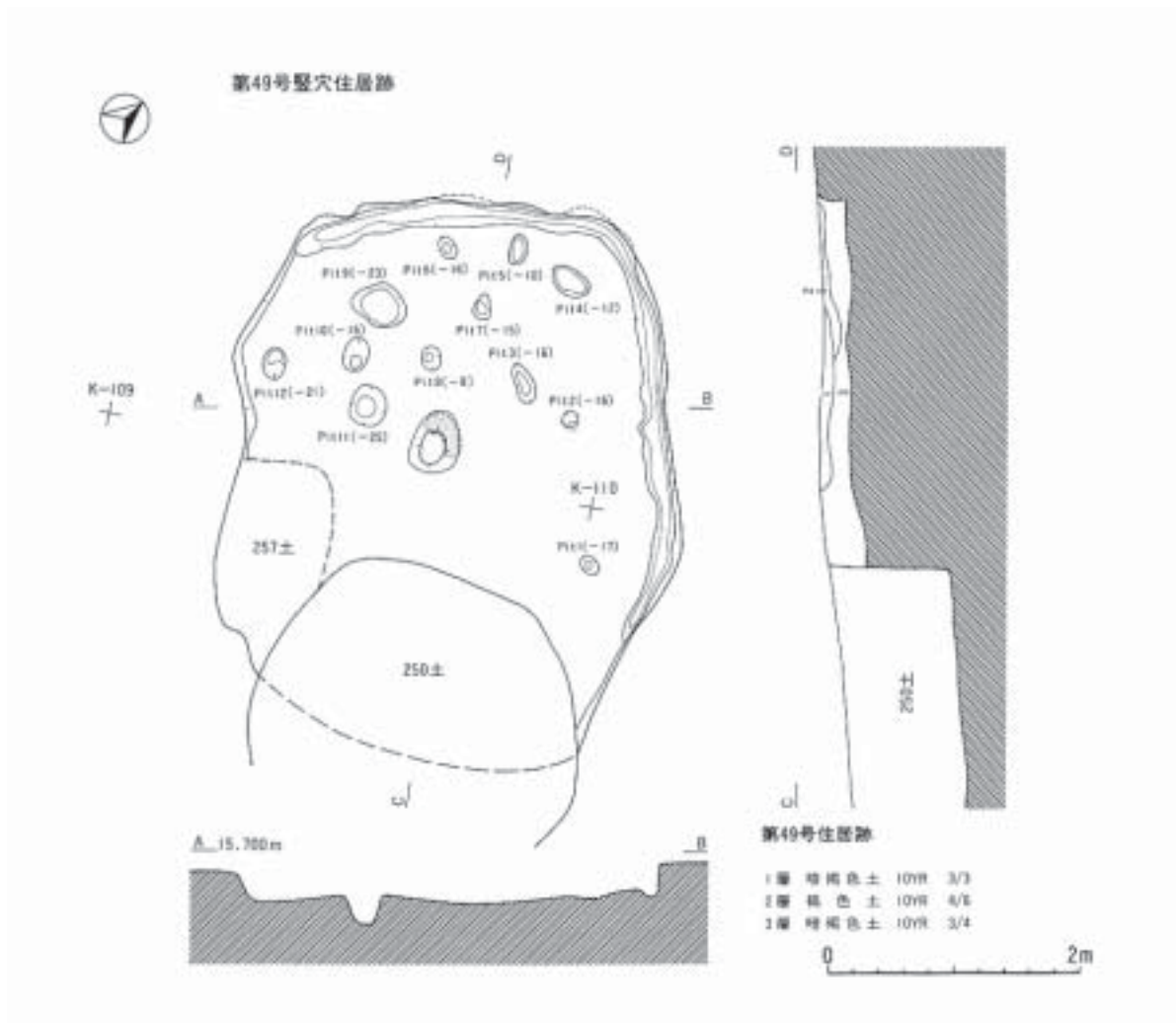


第44図 住居跡(第48号)

- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆積土] 暗褐色土の土が主体で、4層に分層した。
- [出土遺物] 覆土から床面にかけて円筒上層の土器片が若干出土した。石器は石槍1点(第202図)・黒曜石のUフレイクとフレイク各1点(第211・212図)が出土した。

第49号竪穴住居跡(第45図)

- [位置と確認] J・K - 109・110グリッド。
- [重複] 250土・257土と重複。

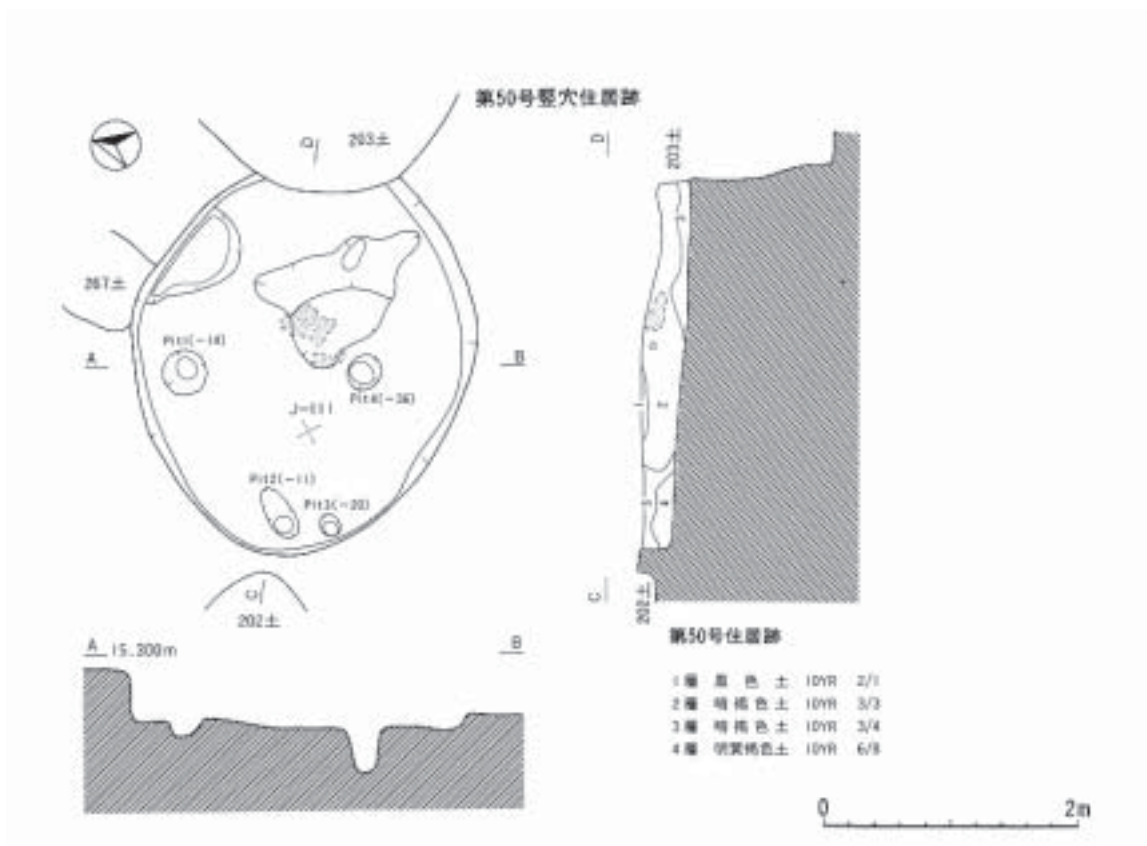


第45図 住居跡(第49号)

- [規模と形状] 長軸(?)m、短軸 3.5m の楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁 23cm、南壁 25cm、東壁 21cm、西壁 21cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 12 個検出した。深さは、P₁ - 17cm、P₂ - 16cm、P₃ - 16cm、P₄ - 12cm、P₅ - 10cm、P₆ - 16cm、P₇ - 15cm、P₈ - 8cm、P₉ - 23cm、P₁₀ - 16cm、P₁₁ - 25cm、P₁₂ - 21cm である。
- [炉] 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 3 層に分層した。
- [出土遺物] 覆土から床面にかけて円筒上層の土器片 (第 175 図) が出土した。

第 50 号竪穴住居跡 (第 46 図)

- [位置と確認] I・J - 110・111 グリッド。
- [重 複] 203 土・267 土と重複。
- [規模と形状] 長軸 (3.1m)、短軸 2.7m の楕円形を呈す。

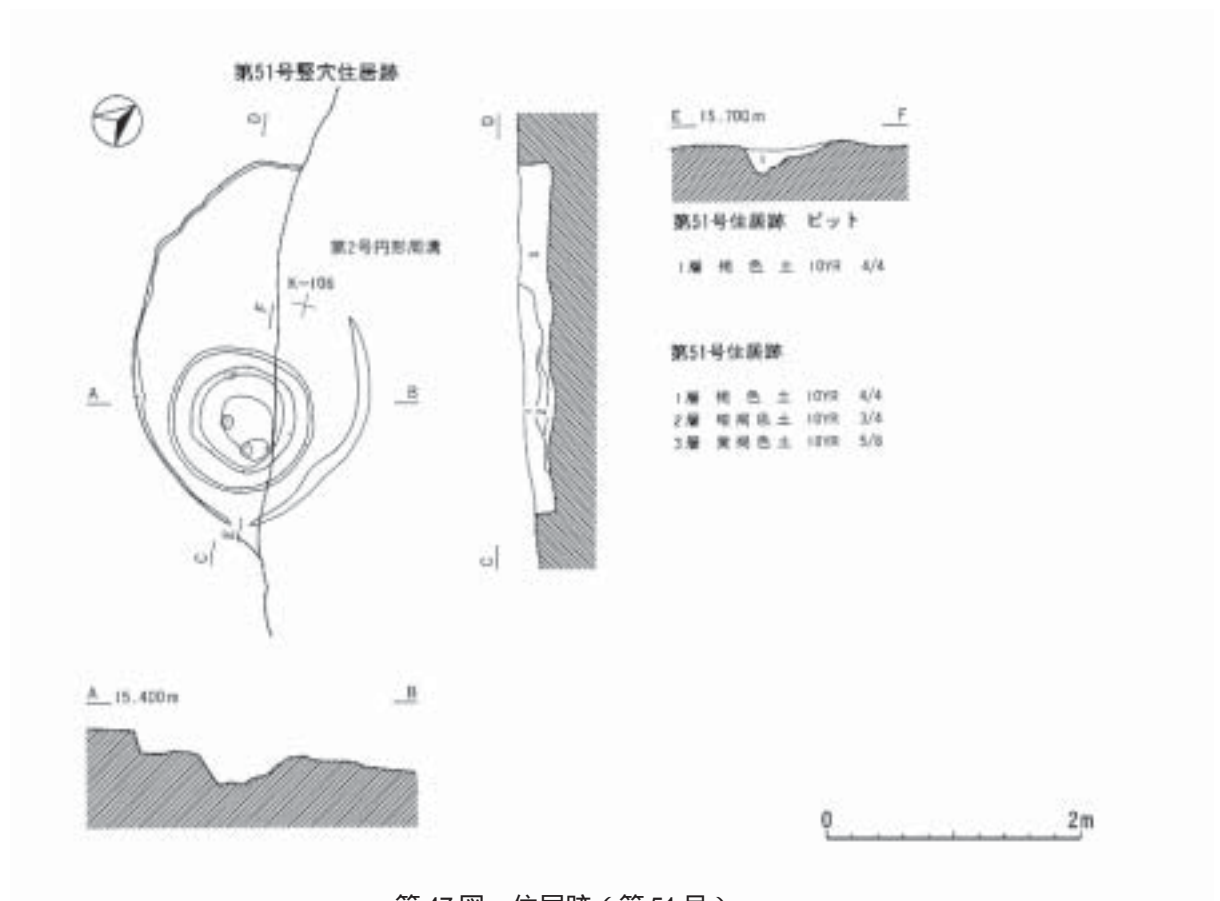


第 46 図 住居跡 (第 50 号)

- [壁 床] 壁高は、北壁 37cm、南壁 14cm、東壁 25cm、西壁 23cm である。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット 4 個検出した。深さは、P₁ - 14cm、P₂ - 11cm、P₃ - 20cm、P₄ - 36cm である。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 暗褐色の土が主体で、4 層に分層した。
- [出土遺物] 土器は床面直上から円筒上層の土器の底部（第 166 図）が出土した。

第 51 号竪穴住居跡（第 47 図）

- [位置と確認] J・K - 105・106 グリッド。
- [重 複] 2 円と重複。
- [規模と形状] 長軸・短軸とも不明。
- [壁 ・ 床] 床面は多少凹凸がある。

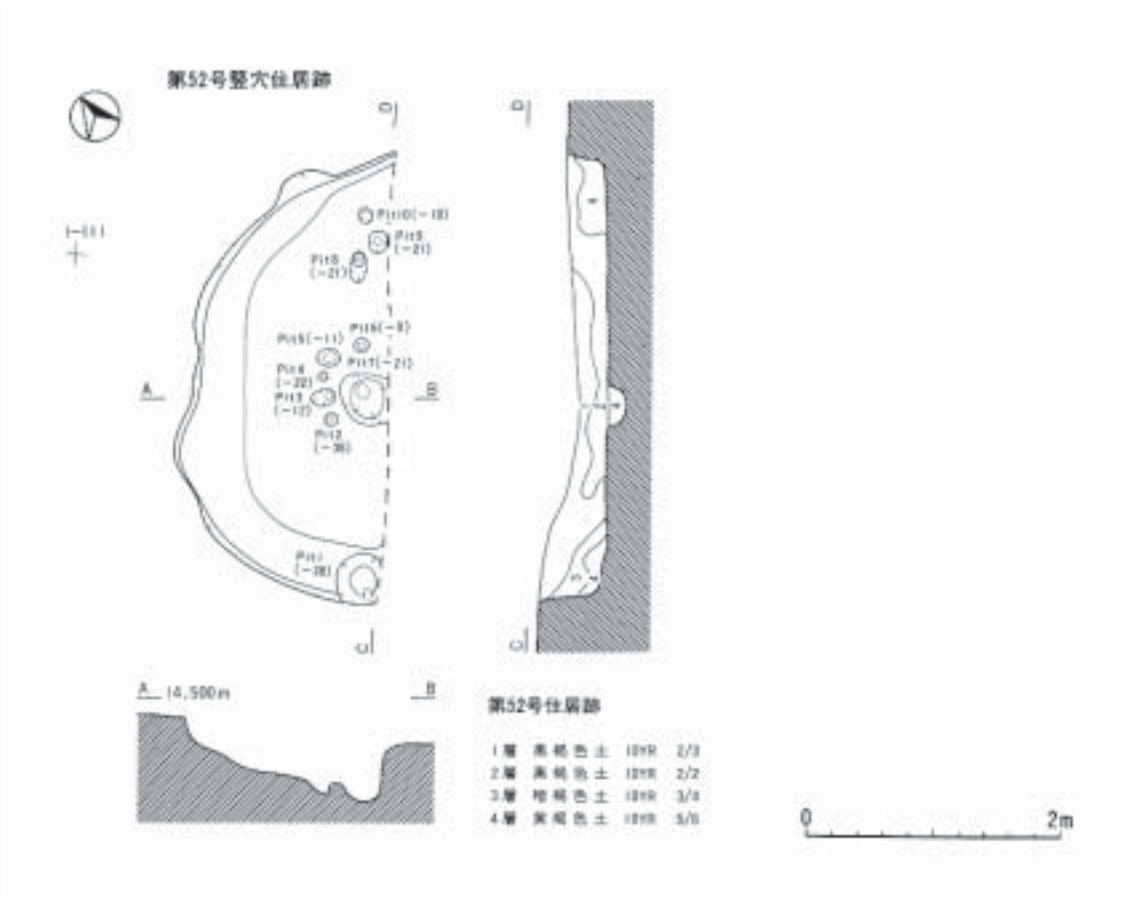


第 47 図 住居跡（第 51 号）

- [柱 穴] 確認されなかった。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 南壁で検出した。120cm × 120cm の円形にくぼんでいた。
- [堆 積 土] 3層に分層した。
- [出土遺物] 土製品は土偶1点(第219図)が出土した。

第52号竪穴住居跡(第48図)

- [位置と確認] H - 110・111グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸(3.6m)、短軸(?)mの楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット10個検出した。深さは、P₁ - 38cm、P₂ - 38cm、P₃ - 12cm、P₄ - 22cm、P₅ - 11cm、P₆ - 9cm、P₇ - 21cm、P₈ - 21cm、P₉ - 21cm、P₁₀ - 10cm

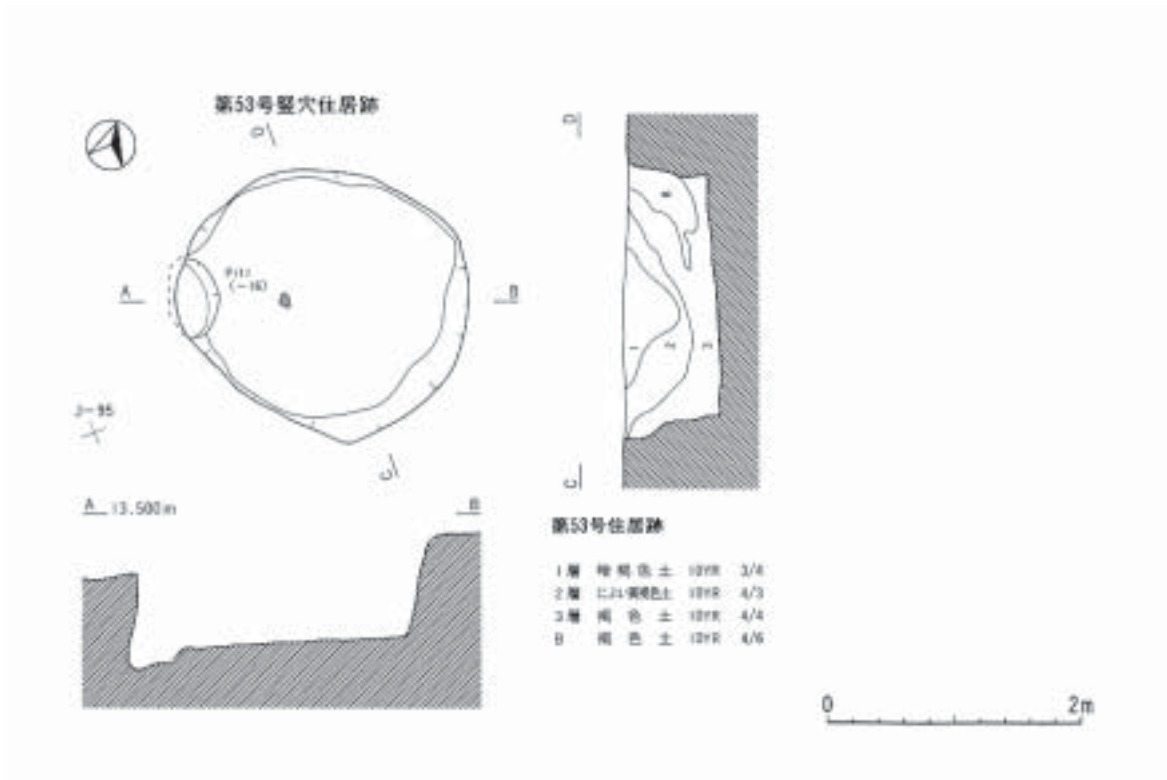


第48図 住居跡(第52号)

- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 黒褐色の土が主体で、4層に分層した。
- [出土遺物] なし。

第53号竪穴住居跡（第49図）

- [位置と確認] 1・J - 95グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸2.4m、短軸2.0mの楕円形を呈す。
- [壁 ・ 床] 壁高は、北壁54cm、南壁75cm、東壁77cm、西壁72cmである。床面はほぼ平坦である。
- [柱 穴] 床面からピット1個検出した。深さは、P₁ - 16cmである。
- [炉] 確認されなかった。
- [特殊施設] 確認されなかった。
- [堆 積 土] 3層に分層した。
- [出土遺物] 覆土から床面にかけて円筒上層の土器片が若干出土した。



第49図 住居跡（第53号）

竪穴住居跡一覧表

番号	グリッド	形態	長径×短径(m)	炉	柱穴	出土遺物		時期	備考	長軸方向
						土器	石器			
1	I・J - 74・75	隅丸方形	3.8×2.7	無	11			上e	特殊施設有り	N 85° -E
2	I・J - 77・78	楕円形	5.1×4.5	土器敷詰炉	17			"	特殊施設有り 石鑑6、石槍2、石棒1	N 78° -E
3	L・M - 78	楕円形	3.5×3.0	地床炉	無			"		N 87° -W
4	N - 80	楕円形	2.7×2.2	土器埋設炉	4				覆林	N 36° -W
6	K・L - 78・79	楕円形	3.1×2.7	地床炉	無			上e	石鑑8、石槍3、土偶1、石製品1	N 76° -E
7	K・L - 74・75	楕円形	3.3×(2.8)	地床炉	5			"		N 27° -W
8	M - 74・75	楕円形	3.3×2.7	地床炉	8			"	特殊施設有り 石鑑2、石槍1	N 75° -W
10	M・N - 71・72	楕円形	6.0×3.9	地床炉	23			最花	特殊施設有り 石鑑2、石槍1、石籠1	N 48° -W
11	K - 56	円形	2.7×2.6	土器埋設炉	10			上d	石鑑1	N 9° -W
12	I・J - 69・70	隅丸長方形	4.5×3.4	土器埋設炉	17			上e	19Hと重複 石鑑7、石槍1、石籠1、磨石1、石冠1	N 41° -W
13	M - 54	円形	(3.5)×(3.4)	無	5					N 15° -E
15	I - 74	楕円形	(2.0)×(1.6)	無	3				14H・369土と重複	N 78° -W
17	H・I - 73・74	楕円形	5.0×4.6	周堤炉	11				テラス有り 石鑑4、磨石1	N 77° -W
18	I・J - 69・70・71	楕円形	(5.8)×5.3	周堤炉	22			上e	特殊施設有り テラス有り 石鑑1、石匙1	N 60° -W
19	I・J - 69・70	隅丸長方形	(4.6)×(3.4)	無	無				12Hと重複	N 41° -W
20	K - 81	楕円形	(3.5)×(3.0)	土器片敷石囲炉	21			上e		N 41° -W
21	K - 85	楕円形	3.8×3.0	地床炉	6			"	石鑑1	N 7° -W
22	K・L - 72	楕円形	(6.0)×(4.0)	地床炉	13				74・87・90・91・92土と重複 磨石1、石冠1	N 48° -W
24	K - 97	円形	3.8×3.7	無	10				磨石1、凹石1	N 89° -E
25	J - 97・98	楕円形	3.1×2.5	無	14				26Hと重複	N 64° -W
26	J・K - 98	楕円形	2.8×(2.5)	無	5				25H・105土と重複 石製品1	N 60° -W
28	I・J - 97・98	楕円形	(3.6)×2.8	無	10			上c	154土・170土と重複	N 80° -E
30	J・K - 73・74	楕円形	4.6×4.0	無	18			上e	62土と重複 石鑑3、黒曜石2、磨石2	N 10° -W
32	O - 74	--	(-)×(-)	土器片敷石囲炉	4			"	163土・1溝Pと重複	- - -
34	N - 99・100	楕円形	3.2×2.9	無	2					N 13° -W
35	N・O - 100・101	楕円形	3.9×3.7	地床炉	16				石鑑3、磨斧1、土偶1	N 70° -E
40	I・J - 103・104	楕円形	5.4×4.3	無	無			上e	375土・376土と重複	N 32° -W
44	K・L - 102・103	楕円形	6.3×5.4	無	18				215土と重複 石鑑1	N 87° -E
47	L - 105	楕円形	2.6×(2.3)	地床炉	無				特殊施設有り 42H・311土と重複 石鑑2	N 74° -E
48	H - 102・103	楕円形	4.3×(-)	地床炉	3				273土・355土と重複 石槍1、黒曜石2	N 57° -E
49	J・K - 109・110	楕円形	(-)×(3.5)	地床炉	12				250土・257土と重複	N 44° -W
50	I・J - 110・111	楕円形	(3.1)×2.7	無	4				203土・267土と重複	N 86° -E
51	J・K - 105・106	楕円形	(-)×(-)	無	無				特殊施設有り・1円と重複 土偶1	N 43° -E
52	H - 110・111	楕円形	(3.6)×(-)	無	10					N 53° -E
53	I・J - 95	楕円形	2.4×2.0	無	1					N 79° -W

(2) 土 壙

調査の結果、土壙が317基検出された。

E区(土壙観察表)

土壙 番号	グリッド	重 複	平面形	計 測 値			出 土 遺 物			備 考
				(cm)			土 器		石 器	
				開口部	壙底部	深さ	有・無	剥片	礫	
1	K - 74・75	2土と重複	不整円形	102 × 90	66 × 54	60				2土より古い
2	K - 74	1土と重複	円 形	66 × 66	34 × 30	45				1土より新しい
3	K - 74		不整楕円形	68 × 58	46 × 34	30				
4	K - 74		不整円形	86 × 80	80 × 74	10				
5	L - 53・54	3埋と重複	円 形	129 × 108	118 × 104	36				3埋よりも古い
7	L - 79		不整円形	79 × 78	63 × 63	17				
8	M・N - 75		隅丸長方形	183 × 71	165 × 60	23				
9	L - 76		不整円形	100 × 90	65 × 64	54				
10	K - 78		不整楕円形	163 × 142	146 × 132	31				
11	J・K - 78・79		不整円形	105 × 96	84 × 80	19				
12	L - 79		不整形	64 × 63	51 × 51	9				
14	J - 76		方 形	212 × 190	189 × 167	30				ビット3個
15	M - 76		不整円形	76 × 74	62 × 54	5				ビット3個
16	M - 76		円 形	96 × 89	91 × 80	17				
17	M - 77		円 形	217 × 201	179 × 170	40				
18	L - 77		不整形	113 × 105	98 × 75	24				
19	M - 78		楕円形	149 × 132	(136) × 121	15				
20	J - 72		不整楕円形	125 × 117	89 × 81	46				
21	M - 72		不整円形	94 × 80	80 × 71	10				
24	L - 74		円 形	58 × (55)	(50) × 38	35				一部フラスコ・攪乱
26	M・N - 73		不整楕円形	276 × 226	250 × 203	27				ビット4個
27	K - 72・73		楕円形	286 × 262	297 × 234	170				フラスコ
28	M - 64		円 形	83 × 72	91 × 91	34				フラスコ
29	M - 64		不整円形	92 × 86	78 × 74	29				ビット1個
30	I・J - 81		不整円形	106 × 100	83 × 79	39				
31	I・J - 80・81		円 形	128 × 124	113 × 110	34				ビット1個
32	M - 54		円 形	93 × 84	93 × 90	31				フラスコ
33	N - 53		円 形	56 × 56	37 × 34	10				
34	M - 55		円 形	116 × 102	124 × 112	27				フラスコ・底面に焼土

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	墳底部	深さ	有・無	剥片	礫	
35	L - 55		不整楕円形	107 × 75	105 × 68	26				一部フラスコ
36	N - 56		隅丸長方形	279 × 83	230 × 47	22				ビット1個
37	K - 53		不整円形	132 × 114	98 × 43	40				
38	J・K - 56・57		楕円形	212 × 156	193 × 145	37				ビット2個
40	J - 56	4埋と重複	円形	70 × (67)	36 × 33	15				4埋より新しい
41	L - 74・75		不整円形	151 × 149	196 × 189	110				フラスコ
42	M - 74	8Hと重複	不整長方形	(180) × 115	114 × 49	75				新旧関係不明
44	L・M - 73	98土・104土と重複	不整円形	180 × 180	136 × 120	62				98土・104土より新しい
45	M - 53		不整形	161 × 98	139 × 42	24				
46	L - 54		不整形	193 × 100	131 × 17	24				
47	M - 63		不整楕円形	75 × 57	80 × 72	26				フラスコ
48	L・M - 63	49土Pitと重複	不整楕円形	(155 × 180)	109 × (55)	33				新旧関係不明
49	L・M - 63		円形	55 × 50	40 × 32	15				
50	M - 63・64		不整円形	78 × 75	62 × 59	13				
51	L - 64		円形	72 × 66	62 × 54	25				
52	M - 64		円形	80 × 77	62 × 58	21				底面に粘土
53	L - 64		円形	79 × 70	56 × 49	23				
55	M - 65	56土と重複	不整形	68	50 × 35	11				56土よりも古い
56	M - 65	55土・57土と重複	円形	119	104 × 98	29				55土より新しく、57土より古い
57	M・N - 65	56土と重複	円形	80 × 73	51 × 46	20				56土よりも新しい
58	N - 65		不整円形	86 × 81	68 × 62	22				
59	M - 64		円形	85 × 82	64 × 56	30				
62	J・K - 73	30Hと重複	不整長方形	135 × 86	96 × 71	82				30Hより新しい
63	I・J 72、I 73	14H・150土と重複	楕円形	231 × 186	244 × 179	20				14土より古い、150土とは新旧関係不明
64	N - 81		不整楕円形	214 × 135	136 × 90	37				
65	M - 84		楕円形	121 × 81	76 × 57	19				
66	M - 85		円形	119 × 112	106 × 101	27				覆土から炭化物、床面より焼土
67	J - 72		円形	77 × 75	71 × 62	74				
68	K - 67		不整円形	92 × 84	79 × 70	22				
69	K - 87・88		不整楕円形	154 × 134	138 × 131	65				一部フラスコ
70	K - 87		不整楕円形	195 × 110	176 × 96	41				ビット3個
71	L - 87・88		楕円形	173 × 159	151 × 150	64				一部フラスコ、ビット1個

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器		石器	
				開口部	墳底部	深さ	有・無	剥片	礫	
72	K - 86		円形	159 × 146	167 × 161	60				フラスコ
73	L - 71		不整形	112 × 68	91 × 25	39				
74	L・M - 72		不整形	72 × 50	43 × 25	51				ビット1個
77	M - 70	78土と重複	不整形	79 × 70	67 × 55	8				78土より新しい
78	M - 70	77土・79土と重複	楕円形	56 × ?	52 × 45	39				フラスコ、77土・79土より古い
79	M - 70	78土と重複	不整形円形	78 × 70	58 × 50	10				78土より新しい
80	O - 78		円形	71 × 59	54 × 47	10				
81	N - 78		不整形	233 × 220	193 × 172	48				ビット2個
82	N - 78		楕円形	285 × 120	267 × 196	50				
83	M・N - 80		不整形	184 × 140	121 × 120	28				
87	L - 71		不整形円形	120 × 120	113 × 109	16				
90	L - 72	91土と重複	円形	121	127 × 125	103				91土より新しい
91	L - 72	90土と重複	円形	?	?	56				フラスコ、90土より古い
92	K・L - 71・72	22Hと重複	不整形	71 × 67	54 × 41	35				新旧関係不明
93	K - 84		不整形楕円形	198 × 124	174 × 95	34				
94	K - 84		隅丸方形	188 × 132	139 × 96	57				
95	J - 79		不整形円形	107 × 105	104 × 98	57				一部フラスコ
96	K・L - 82		楕円形	130 × 100	117 × 91	20				
97	M - 83		円形	107 × 98	102 × 91	15				
98	L・M - 73	44土・99土と重複	円形	141 × (129)	105 × (94)	41				44土・99土より古い
99	L・M - 73	98土と重複	円形	63 × 58	45 × 44	14				98土より新しい
100	L - 74		不整形	108 × 86	91 × 56	17				ビット1個
101	L - 74	102土と重複	不整形	(203) × 127	157 × 102	44				ビット1個、102土より新しい
102	L - 73・74	101土と重複	不整形	189 × (162)	161 × (155)	23				ビット1個、101土より古い
103	L - 74		不整形楕円形	150 × 109	111 × 90	30				
104	L - 73	44土と重複	不整形方形	112 × 79	107 × 62	11				44土より古い
105	K - 98・99	26Hと重複	円形	(200) × 194	212 × 201	88				26Hより古い
106	I - 99	108土と重複	円形	262	245	48				新旧関係不明
107	I・J - 99		不整形楕円形	226 × 197	208 × 171	57				
108	I - 100	106土と重複	円形	254	245	48				新旧関係不明
109	J - 100		不整形楕円形	266 × 236	229 × 197	46				
111	J - 96		不整形円形	211 × 183	193 × 173	30				ビット3個

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	墳底部	深さ	有・無	剥片	礫	
112	I - 98・99		円形	275×262	222×210	72				ビット6個,放射状に溝7条,底面を全周する
113	J - 93		隅丸方形	112×103	82×71	43				
114	J - 93		不整形	131×126	67×56	111				
115	J・K - 92・93	116土と重複	不整形	130	120	55				116土より新しい
116	J・K - 92・93	115土と重複	不整形	(147)×120	89×71	66				115土より古い
118	J - 92		不整形	102×67	95×47	25				ビット5個
119	K - 91・92		不整形	146×111	135×90	59				
120	J - 91・92		不整形	116×85	91×84	38				ビット2個
121	L・M - 82		不整形楕円形	231×115	183×67	35				
122	M - 81		不整形	346×191	312×177	67				
123	J - 91		不整形	143×115	147×35	40				
124	J - 77		不整形楕円形	134×97	99×69	27				
125	J - 77		不整形楕円形	131×77	95×57	38				
126	I - 79		楕円形	121×94	99×71	58				
127	I・J - 80		不整形円形	149×129	126×96	66				
128	I - 81		隅丸長方形	180×65	147×52	72				
129	J - 92		不整形隅丸長方形	205×112	164×97	60				
130	J - 72		円形	80×70	69×64	48				
131	H - 75		不整形隅丸長方形	(139)×91	83×69	50				
132	H - 75		不整形	72×55	55×34	18				
133	L - 68		隅丸長方形	131×83	107×71	26				ビット1個
134	K - 90		円形	173×157	152×137	56				
136	K・L - 91		不整形楕円形	229×126	175×90	26				
137	L - 95		不整形円形	123×119	93×81	34				
138	L - 95		不整形円形	123×110	88×87	38				
139	L・M - 95・96		不整形円形	135×131	97×94	46				
140	L - 97		楕円形	287×(242)	235×208	130				ビット3個
141	L - 96・97		楕円形	348×278	265×257	132				ビット1個
142	N - 95		不整形円形	105×90	100×83	36				ビット1個
143	N - 93		不整形楕円形	125×88	102×56	62				
144	M - 96		不整形隅丸長方形	214×126	83×66	96				柱痕あり
145	M・N - 99		不整形円形	237×209	222×191	32				

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器		石器	
				開口部	墳底部	深さ	有・無	剥片	礫	
146	M-99・100		円形	(183)×154	178×160	116				
147	L-100		円形	184×150	150×147	148				一部フラスコ
148	M-101		円形	186×177	168×161	129				ビット1個
149	M-102		円形	227×(206)	191×(184)	110				ビット3個
150	J-72	63土と重複	円形	81×77	73×67	59				
151	I-100		円形	214×196	177×147	98				
152	J-99		円形	252×230	247×232	70				
153	H-99・100		楕円形	179×154	145×126	80				
154	J-97	28Hと重複	不整円形	312×291	304×269	120				
155	I・J-96・97		楕円形	242×204	289×265	146				ビット1個、溝2条
156A	H・I-97・98	156土Bと重複	円形	273	256	48				
156B	H・I-97・98	156土Aと重複	円形	67×67	82×78	222				フラスコ
157	L-81		円形	106×100	92×83	27				
158	N-82		楕円形	146×109	127×92	16				
161	M-88		円形	107×96	86×79	27				
162	H・I-78		円形	93×88	75×74	29				フラスコ
163	N・O-74	32H・1TPと重複	円形	355×321	296×287	59				ビット4個、32Hより古い
164	I-87		円形	104×93	75×68	35				
165	H-75		不整形	84×57	62×44	15				
166	H-75		不整形	111×82	100×68	30				ビット1個
167	I-74		不整楕円形	53×47	39×29	15				ビット2個
168	H-74		楕円形	103×79	89×73	19				ビット1個
169	J-74		楕円形	67×56	61×48	60				
170	J-97	28Hと重複	円形	(241)×231	(227)×224	48				新旧関係不明
171	M-94		隅丸方形	96×57	89×46	57				
172	M-94		楕円形	109×86	99×72	50				ビット1個
173	M-94		不整円形	79×62	68×54	23				
175	M-96		円形	99×93	67×77	75				
176	N-96		楕円形	122×83	108×62	74				
177	M・N-96		楕円形	113×102	100×88	25				
178	N-95		不整形	103×85	74×63	64				
179	M-97		円形	77×73	71×65	70				

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	墳底部	深さ		有・無	剥片	
180	N - 96		不整楕円形	110 x 96	102 x 80	29				
181	M - 100・101		楕円形	276 x 205	240 x 182	126				
182	M - 101		不整隅丸方形	83 x 72	55 x 53	35				
183	L - 101		不整円形	172 x 140	126 x 121	118				
184	M・N - 100		楕円形	248 x 211	224 x 172	91				
185	M - 100		円形	87 x 78	76 x 66	35				
187	K・L - 98	36Hと重複	円形	283 x 267	292 x 276	117				底面を溝が半周する、36Hより古い
188	K・L - 100・101	191土と重複	不整形	328 x 183	315 x 167	144				ビット1個、191土より新しい
189	M - 99	146土・190土と重複	方形	(172) x 153	(162) x 144	35				190土より新しい、146土より新しい
190	M - 99	189土と重複	円形	(141) x 132	139 x 125	75				ビット1個、189土より古い
191	K・L - 100	188土と重複	円形	294 x 272	251 x 186	133				ビット2個、188土より古い
192	K - 100		不整楕円形	222 x 129	204 x 106	62				
194	K - 102・103		円形	287 x 264	237 x 232	110				ビット6個
195	M - 104		不整円形	127 x 118	106 x 96	59				フラスコ
196	M・N - 105		不整楕円形	271 x 223	208 x 212	136				
197	L・M - 104・105	198土と重複	楕円形	198 x (150)	145 x 113	108				新旧関係不明
198	L・M - 104	197土と重複	不整円形	282	227 x (213)	83				新旧関係不明
199	I - 104		楕円形	226 x 191	207 x 183	146				
200	M・N - 102	149土と重複	隅丸方形	89 x 84	208 x (182)	112				フラスコ、149土より古い
201	L・M - 97・98	36Hと重複	円形	310 x 267	301 x 262	115				一部フラスコ、底面貼り床、36Hより古い
202	I - 110		円形	232 x 225	192 x 189	123				ビット1個
203	I - 111	50H・229土と重複	円形	260 x 250	237 x 229	150				ビット1個、229土より古い、50Hは不明
204	K・L - 112		不整円形	297 x 282	255 x 250	133				ビット3個
205	M - 110		不整円形	227 x 186	209 x 199	178				
206	J・K - 113	207土と重複	不整形	105 x 104	86 x 60	30				新旧関係不明
207	J - 113	206土と重複	円形	278 x 260	250 x 235	154				ビット1個、新旧関係不明
208A	J・L - 114	208B土と重複	不整円形	75	62 x 27	44				208土Bの方が古い
208B	J - 114	208A土と重複	円形	96 x (83)	80 x (65)	30				208土Aの方が新しい
209	I - 115	299土と重複	円形	286 x 236	241 x 217	131				299土より新しい
210	K - 105	311土、1古と重複	楕円形	222 x 155	189 x 147	123				311土より新しい
211	K - 112		不整形	138 x 120	109 x 92	42				
212	N - 102・103		円形	307 x 292	253 x 244	130				ビット2個

E区(土壌観察表)

土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	壙底部	深さ		有・無	剥片	
213	L - 99	36H、377土と重複	円形	230	174	96				36Hより古く377土より新しい、L 99出土の石皿と同一個体
214	J・K - 101	38H、254土と重複	円形	294 × (256)	248 × 229	198				ビット2個、38H・254土より古い
215	K - 102	38Hと重複	円形	187 × 172	168 × 155	114				ビット5個、新旧関係不明
216	J・K - 102	38Hと重複	不整円形	(188) × 167	159 × 157	155				新旧関係不明
218	I - 107		円形	256 × 256	228 × 239	122				
219	L - 103	41Hと重複	楕円形	(105) × 93	97 × 67	22				ビット1個、新旧関係不明
221	M - 106	42Hと重複	円形	250 × (215)	241 × 218	114				フラスコ、42Hより古い
222	I - 103	40H、375土と重複	円形	(294) × 286	236 × 228	140				ビット1個、40Hより古い
223	I・J - 102・103	40Hと重複	不整円形	270 × 237	151 × 150	195				一部フラスコ、新旧関係不明
226	L - 111		円形	90 × 78	64 × 57	15				
227	K - 111	255土と重複	円形	108 × (102)	92 × 87	39				255土より新しい
228	K - 111		円形	102 × 96	96 × 88	18				ビット1個
229	I - 112	203土・230土と重複	円形	155 × (153)	(132) × 119	57				203土より新しい、230土とは不明
230	I - 112	229土と重複	円形	184 × 178	211 × 201	102				フラスコ、新旧関係不明
231	I - 112・113		不整円形	143 × 135	140 × 113	29				
232	H - 112・113		円形	331	230	157				調査区外に伸びる
233	H - 113・114		円形	247 × 222	201 × 190	123				ビット2個
234	H - 114・115		円形	259	219	151				ビット1個、調査区外へ伸びる
235	H - 115・116		不整円形	273 × 230	217 × 190	141				ビット2個
236	H・I - 118		円形	349	258	163				ビット1個、調査区外へ伸びる
237	I・J - 117・118		楕円形	472 × 367	250 × 233	180				ビット11個
238	K - 117	239土と重複	楕円形	116 × (85)	105 × 79	35				ビット2個、239土より新しい
239	J・K - 117	238土と重複	円形	(283) × 231	236 × 217	127				ビット1個
240	I - 123		不整円形	185 × 156	158 × 145	41				
241	M - 122	260土と重複	隅丸長方形	212	171 × 58	28				260土より古い
242	M - 122		不整形	112 × 90	93 × 64	24				
243	M・N - 122		隅丸長方形	208 × 178	85 × 46	40				
244	N - 122		隅丸長方形	126 × 87	111 × 72	44				
245	L - 111		隅丸長方形	117 × 95	108 × 87	11				
246	I・J - 104・105		円形	226 × 181	192 × 166	161				
247	I - 105		楕円形	209 × 197	134 × 121	66				ビット2個
248	I - 108		円形	283 × 255	255 × 232	136				ビット3個、一部フラスコ

E区(土壌観察表)

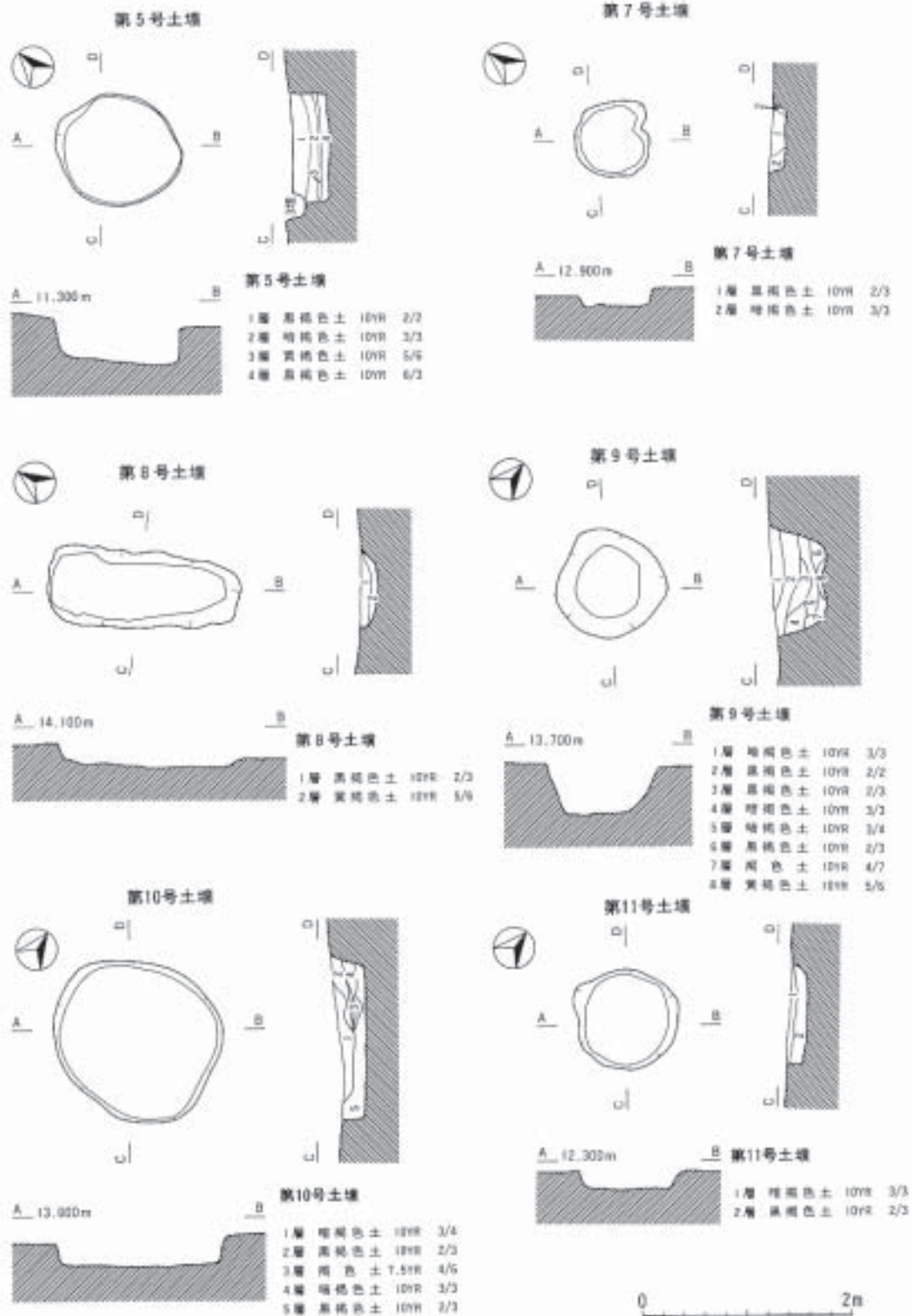
土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	壙底部	深さ	有・無	剥片	礫	
249	H・I - 109	266土と重複	円形	314×279	277×267	142				ビット7個、266土より新しい
250	J - 109	49Hと重複	円形	(314)×270	344×265	150				ビット2個、49Hより新しい
252	J - 110		不整形	218×81	205×75	24				
254	K - 101	38H・214土と重複	不整形円形	186×168	197×190	98				フラスコ、38Hより古く、214土より新しい
255	K - 111	227土と重複	円形	87	30×25	20				227土より古い
258	H・I - 117	288土と重複	円形	268	272	157				新旧関係不明、調査区外へ伸びる
260	I - 122	241土と重複	隅丸長方形	116	97	20				241土より新しい
261	H・I - 107・108		不整形	176×113	154×104	21				
263	N - 109		円形	(100)×95	145×145	94				フラスコ、南側攪乱
264	I - 102		円形	289×257	278×243	113				ビット3個
265	H - 111		楕円形	200×164	188×147	91				ビット1個
266	H・I - 109・110	249土と重複	円形	(265)	(260)	39				ビット1個、249土より古い、調査区外へ伸びる
267	J - 111	50Hと重複	円形	(74)×74	72×65	37				50Hより古い
268	H - 107		円形	200	198	171				
269	H - 106・107		円形	305	253	128				ビット2個、調査区外へ伸びる
270	H - 105・106	362土と重複	隅丸方形	292	248	87				ビット1個、362土より新しい、調査区外へ伸びる
271	H - 104	362土と重複	円形	336	179	168				ビット1個、362土より新しい、調査区外へ伸びる
273	H - 102・103	48Hと重複	隅丸方形	200	156	158				48Hより新しい
274	M - 107	367土と重複	隅丸方形	88	68	25				新旧関係不明
275	L・M - 107		不整形	105×90	141×115	75				フラスコ
276	M - 107・108	277土と重複	円形	150×(140)	125×119	45				277土より新しい
277	M - 108	276土と重複	円形	143×119	157×150	59				フラスコ、276土より古い、炭化材出土
278	L - 108		円形	93×88	82×74	18				
279	M・N - 103	358土360土2溝と重複	不整形	267×232	255×222	17				ビット1個、2溝より古く、358土360土とは新旧関係不明
280	M - 103		円形	105×103	94×92	109				
281	M - 103		楕円形	87×72	70×60	26				
282	M - 103	357土・2溝と重複	不整形円形	91×89	80×79	38				357土より新しく、2溝より古い
283	I - 102		円形	73×66	57×56	20				
284	I - 105		円形	85×75	69×67	14				
285	I - 105		円形	70×64	57×53	8				
286	I・J - 105		円形	91×72	84×66	14				ビット1個
287	K・L - 108・109		不整形円形	102×87	166×160	133				ビット1個、フラスコ

E区(土壌観察表)

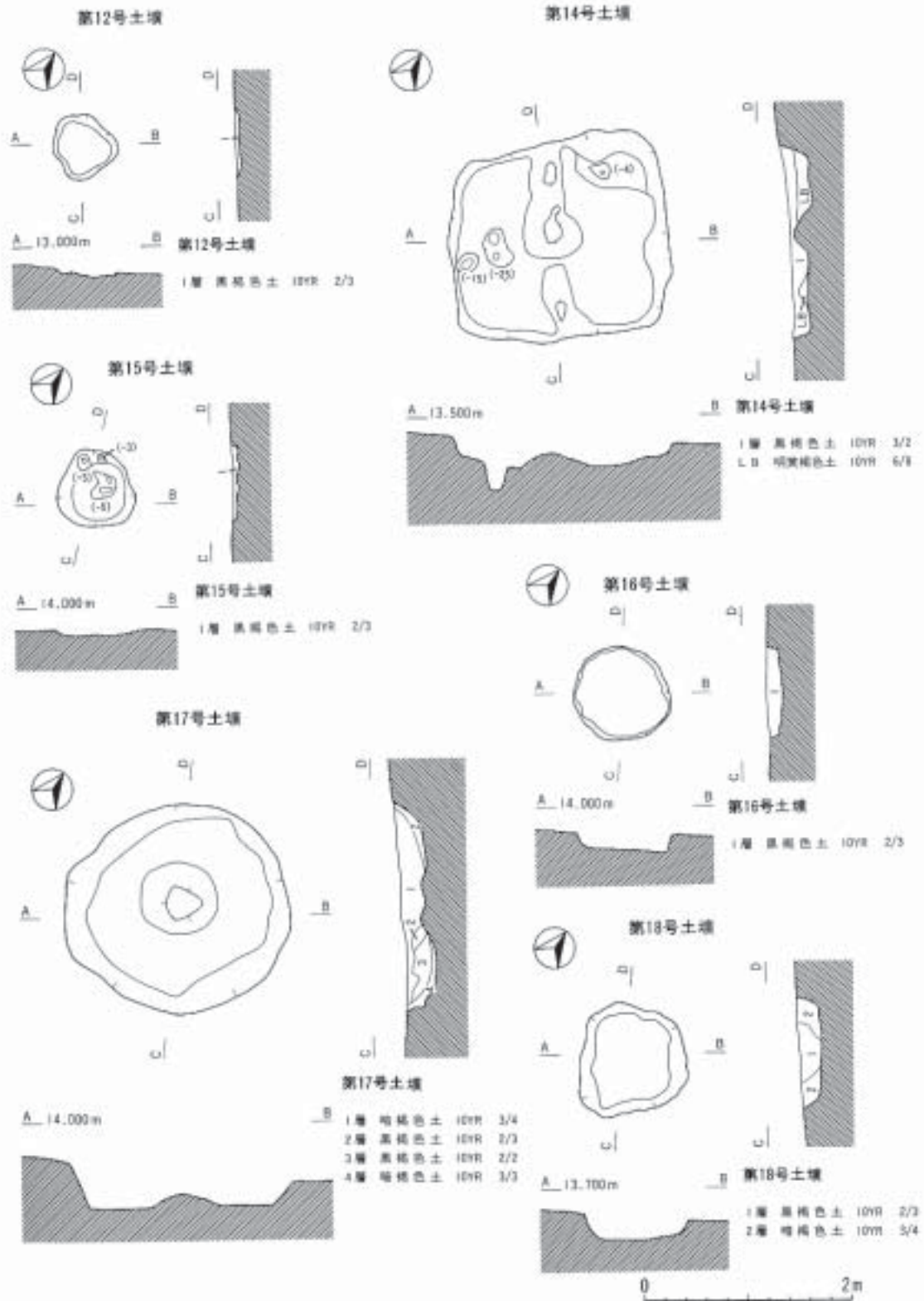
土壌	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				開口部	墳底部	深さ	有・無	剥片	礫	
番号						(cm)				
288	I - 117	258土と重複	不整形	368 × 317	207 × 120	102				新旧関係不明
289	J - 118・119		不整楕円形	143 × 75	106 × 54	29				ビット1個
290	L・M - 115		円形	99 × 89	96 × 87	27				一部フラスコ
291	M - 114・115		円形	116 × 108	77 × 60	40				
292	N - 114・115		円形	100 × 95	88 × 80	30				
293	M - 114		円形	106 × 97	91 × 84	31				
294	M - 113		円形	103 × 96	93 × 79	24				
295	L - 114		円形	103 × 95	85 × 84	30				
296	L - 114		楕円形	79 × 62	39 × 38	23				
297	L - 115		円形	78 × 75	77 × 75	45				一部フラスコ
298	I - 116		円形	100 × 98	102 × 96	40				フラスコ
299	I - 115	209土と重複	不整形	103	84	26				ビット3個、209土より古い
301	K・L - 108	3213262古と重複	不整形	341 × 318	287 × 275	161				
302	J - 107	3223242古と重複	円形	302 × 259	236 × 192	175				ビット1個
303	J - 107・108	321土・322土と重複	楕円形	(263) × (209)	218 × 180	105				322土より新しい、321土とは新旧関係不明
304	K - 106・107	325土と重複	楕円形	302 × 236	292 × 228	113				ビット1個、新旧関係不明
305	K・L - 106・107	306土・325土と重複	不整形	230	214	109				底面に焼土、新旧関係不明
306	K・L - 107	305土・325土と重複	円形	303 × 279	277 × 254	169				ビット2個、新旧関係不明
307	I・J - 106	2古と重複	円形	328 × (297)	299	110				ビット1個、新旧関係不明
308	J - 106	2古と重複	円形	156 × 144	157 × 145	77				2古より古い
309	J - 108・109	2古・317土と重複	円形	108 × (105)	103 × (101)	22				新旧関係不明
310	J - 108	2古と重複	楕円形	104 × 84	118 × 83	123				フラスコ、210土より古い
311	K - 105・106	1古・210土と重複	不整楕円形	188	147	122				210土より古い
312	J・K - 108・109	2古と重複	不整形	108 × 84	170 × 150	84				新旧関係不明
313	L - 104	1古と重複	円形	89 × 82	84 × 65	92				新旧関係不明
314	K - 105		楕円形	327 × 137	317 × 124	12				
315	J - 104・105	1古と重複	不整円形	(333) × 297	243	126				ビット1個、新旧関係不明
316	J - 105		円形	95 × 82	74 × 69	64				
317	J - 108	309土、2古と重複	楕円形	118 × 93	106 × 77	38				覆土より炭化材、新旧関係不明
319	I・J - 105	1古と重複	円形	167 × 162	148 × 135	93				ビット1個、新旧関係不明
320	J - 105	1古と重複	不整円形	86 × 77	135 × 102	67				フラスコ、新旧関係不明
321	J・K - 107・108	303土・322土と重複	不整形	255	248	77				新旧関係不明

E区(土壌観察表)

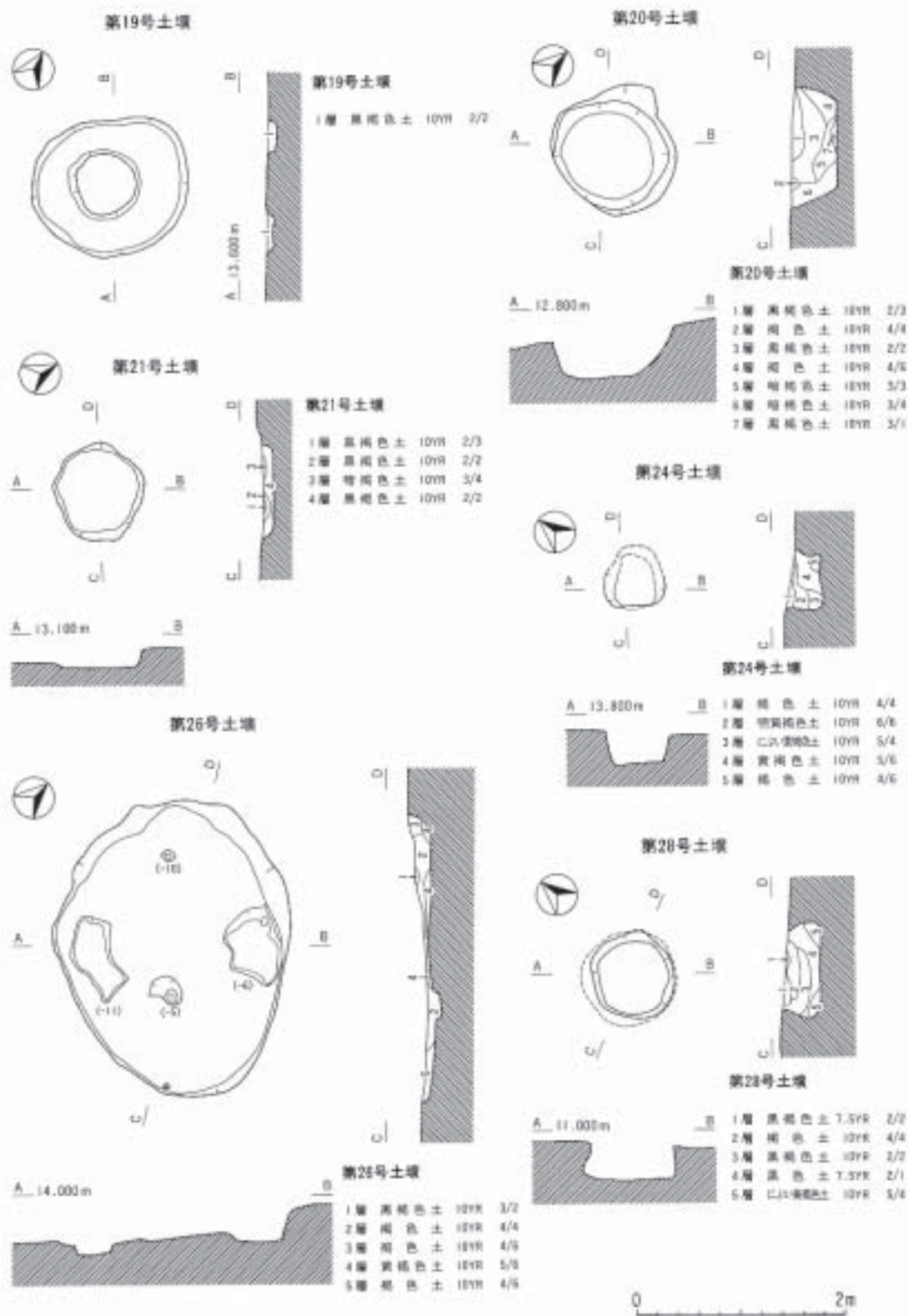
土壌 番号	グリッド	重複	平面形	計測値			出土遺物			備考
				(cm)			土器	石器		
				開口部	壇底部	深さ		有・無	剥片	
322	J - 107	302303321土と重複		198	100	70				302土・303土より古い、321土とは新旧関係不明
324	J - 107	2古・302土と重複	楕円形	320×95	284×96	61				2古より古い、302土とは新旧関係不明
325	K・L - 106・107	304305306328	円形	663×552	603×506	104				新旧関係不明
326	K - 107・108	301土と重複	楕円形	118	90×83	51				301土より古い
327	K - 104	1古と重複	楕円形	92	157×145	79				新旧関係不明
328	J - 107	325土と重複	楕円形	117	84	64				ビット1個、新旧関係不明
351	K - 112		不整形円形	93×90	73×73	33				
352	L - 110		円形	90×79	93×83	29				フラスコ
353	M - 113		不整楕円形	72×55	53×35	14				
354	I - 121		円形	120×101	111×92	46				
355	H・I - 102	48Hと重複	円形	185	170	112				フラスコ、48Hより新しい
357	M - 103	282358359土2溝と重複	楕円形	203×150	202×160	102				ビット1個、フラスコ、282・358・359土・2溝より古い
358	M - 103	279357土2溝と重複	円形	83×72	74×59	20				2溝より古く、357土より新しい。279土とは新旧関係不明
359	M - 103	357土・2溝と重複	円形	62×60	55×48	54				2溝より古く、357土より新しい
360	N - 103	279土・2溝と重複	楕円形	165×126	70×29	114				2溝より古く、279土とは新旧関係不明
361	H - 106		円形	84×77	69×67	29				
362	H - 105	270土・271土と重複	不整形円形			60				ビット3個、270土・271土より古い
363	K - 110		不整形円形	92×84	78×72	19				
364	K - 110		隅丸長方形	93×77	83×72	46				
366	M - 108		円形	85×77	65×61	29				ビット1個
367	M - 107	274土と重複	不整形円形	180×159	134×125	61				新旧関係不明
368	M - 107		楕円形	121×69	114×65	21				ビット1個
369	I - 73	14H・15Hと重複	円形			14				14Hより古い、15Hとは新旧関係不明
370	I・J - 69	12H・19Hと重複	円形	312×265	293×256	65				ビット1個、12H・19Hより新しい
371	K - 96		円形	271×244	257×233	65				ビット2個
372	H - 99・100		円形	228×203	221×198	22				ビット1個
373	J・K - 95		円形	333×327	300×296	63				
374	L・M - 101		円形	293×271	267×250	104				ビット1個
375	I・J - 103	40H・222土と重複	円形	(208)×182	169×168	122				ビット1個、40Hより古い、222土とは新旧関係不明
376	J - 103	40Hと重複	円形	182×162	157×146	109				ビット1個、40Hより古い
377	L - 99	36H・213土と重複	円形	370×340	311×309	155				ビット2個、36H・213土より古い
380	L - 108		円形	82×77	75×73	16				
ITP	N・O - 74	32H・163土と重複	長楕円形	366×40	332×16	80				32H・163土より新しい



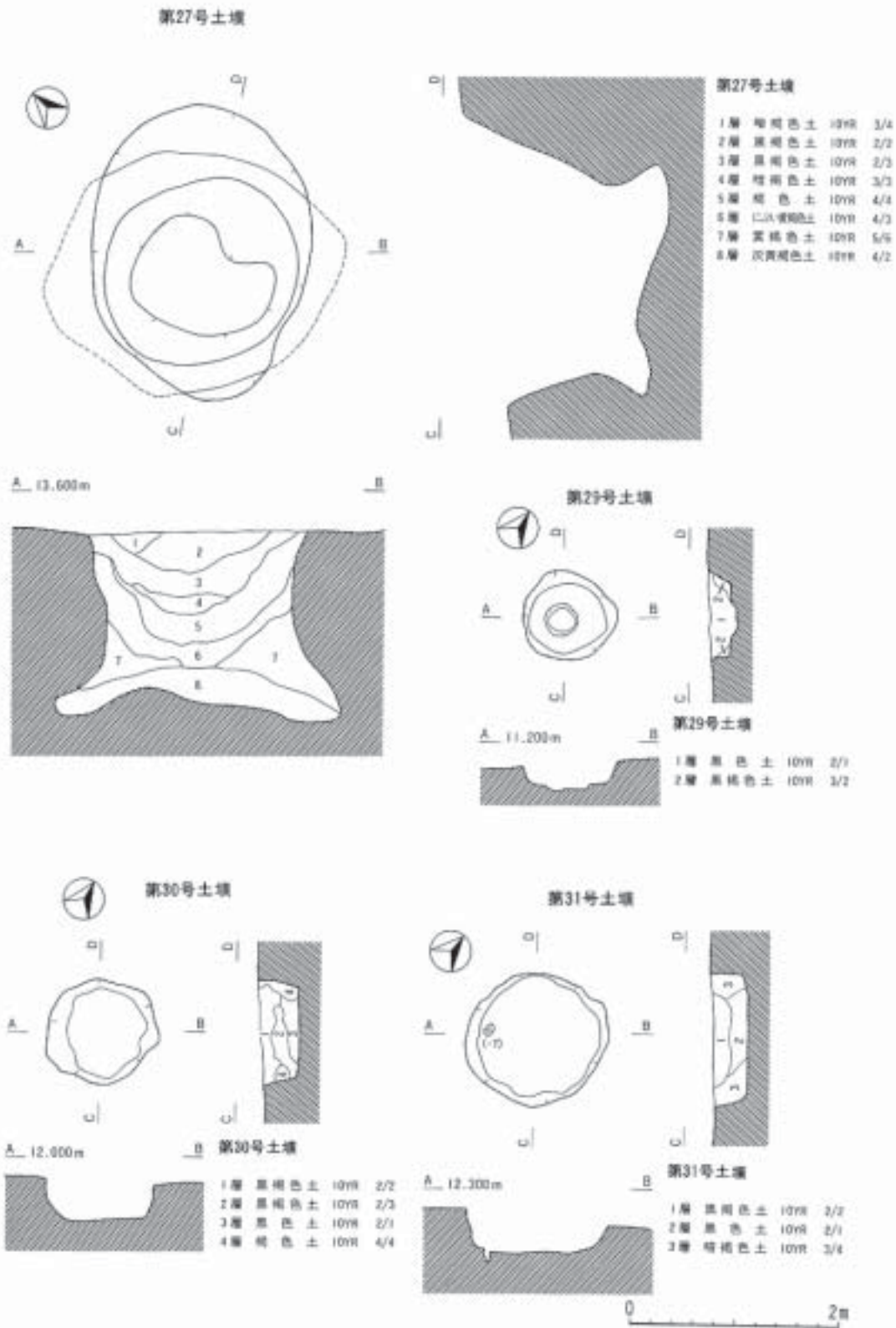
第50图 土壤1(第5·7·8·9·10·11号)



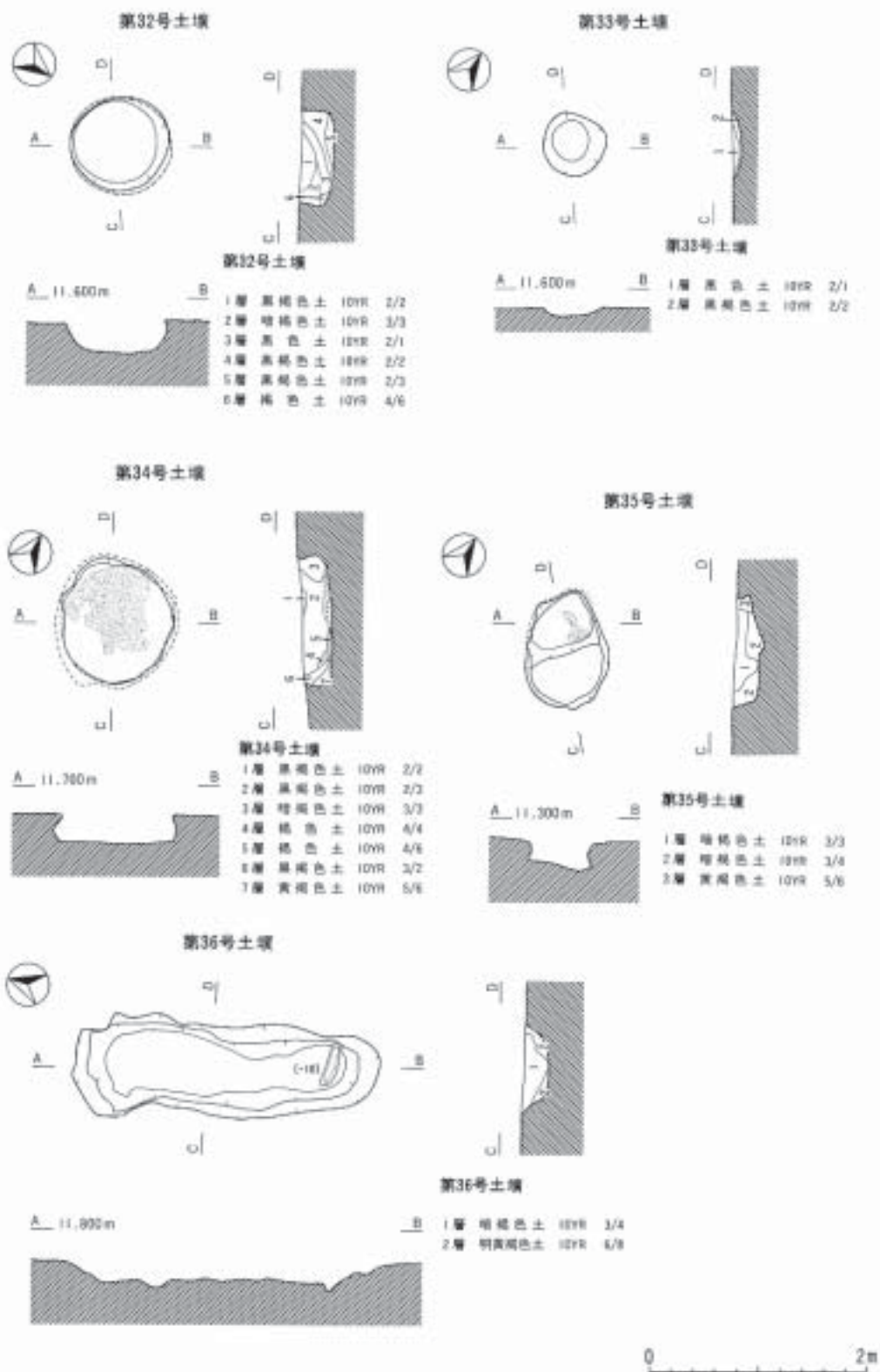
第51图 土壤2 (第12·14·15·16·17·18号)



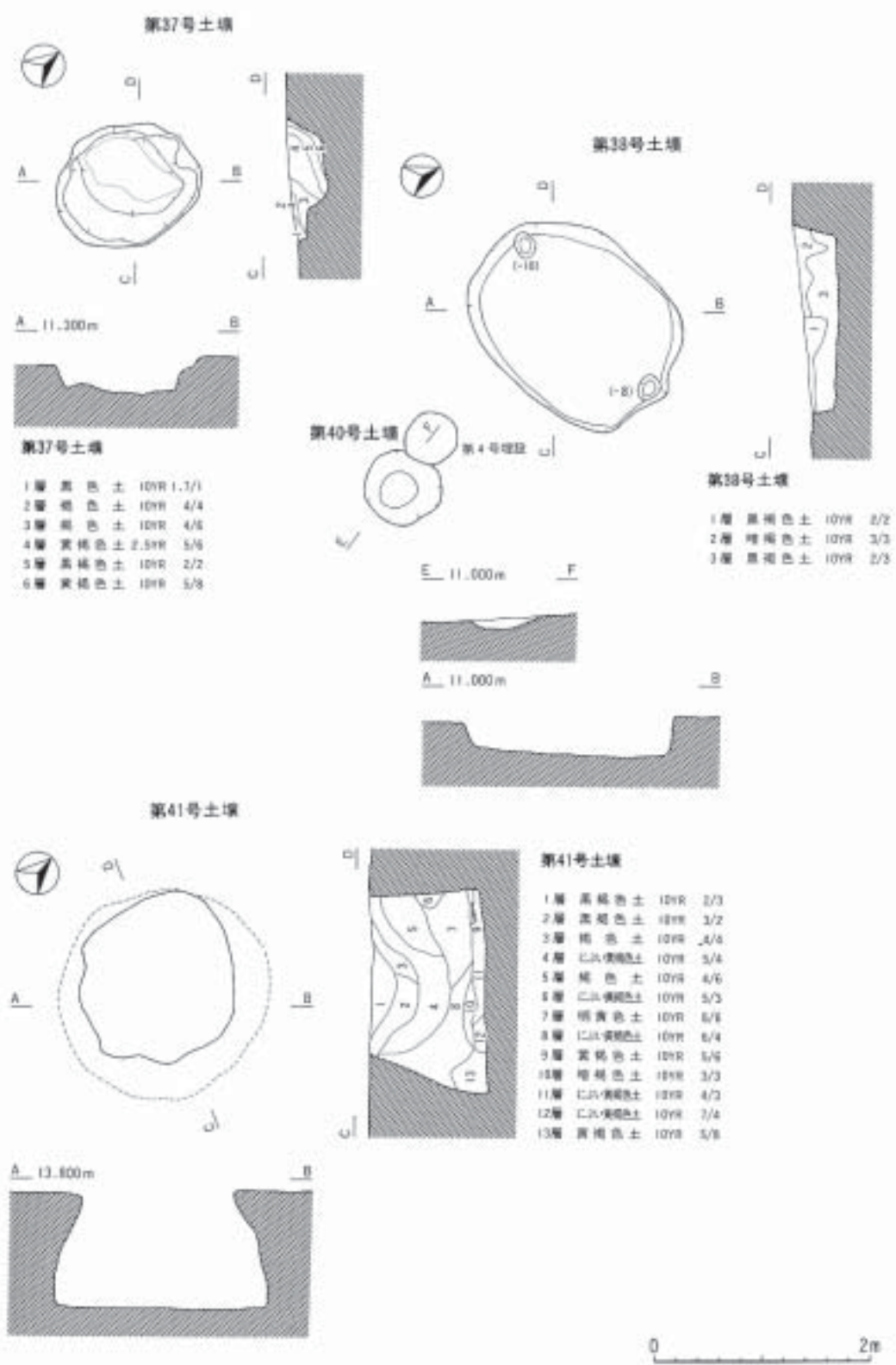
第52图 土壤3 (第19·20·21·24·26·28号)



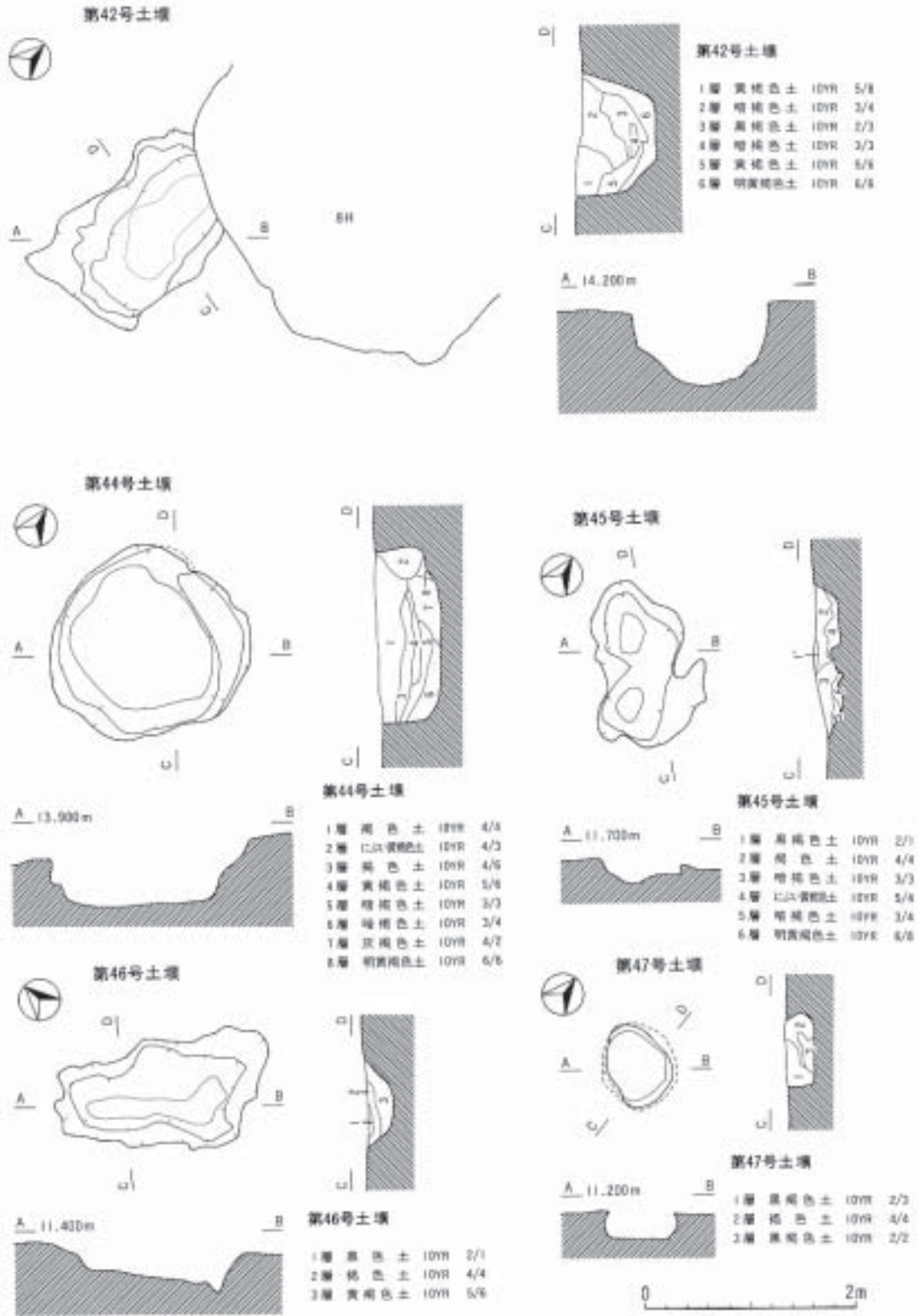
第53图 土壤4 (第27·29·30·31号)



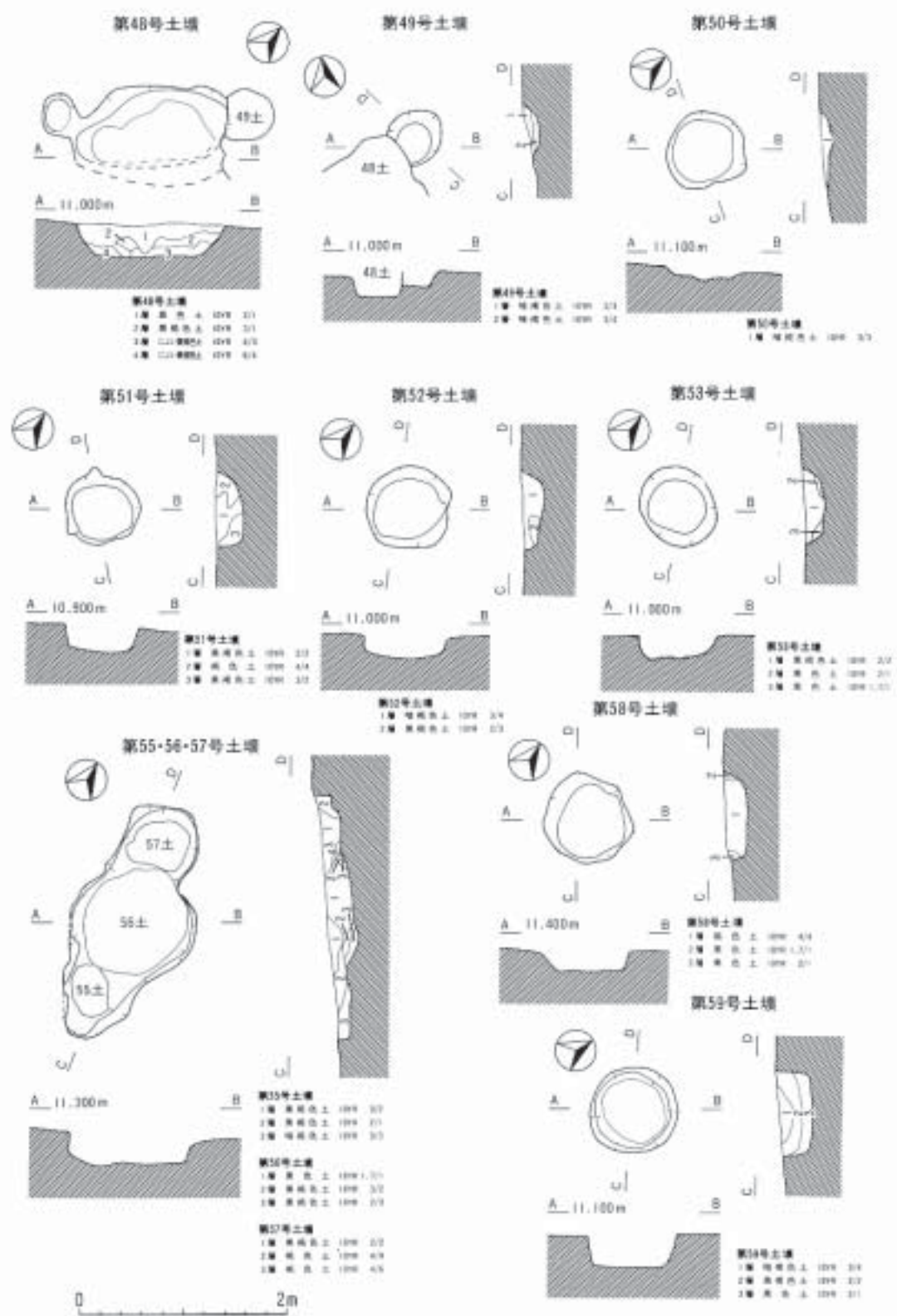
第54图 土壤5 (第32·33·34·35·36号)



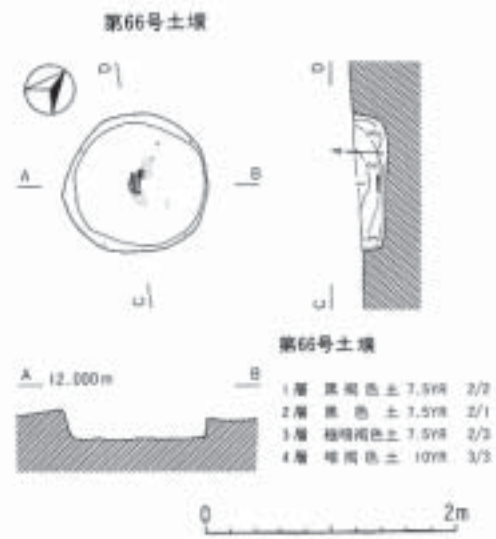
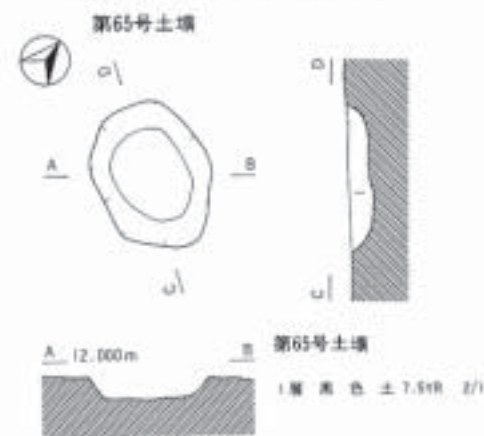
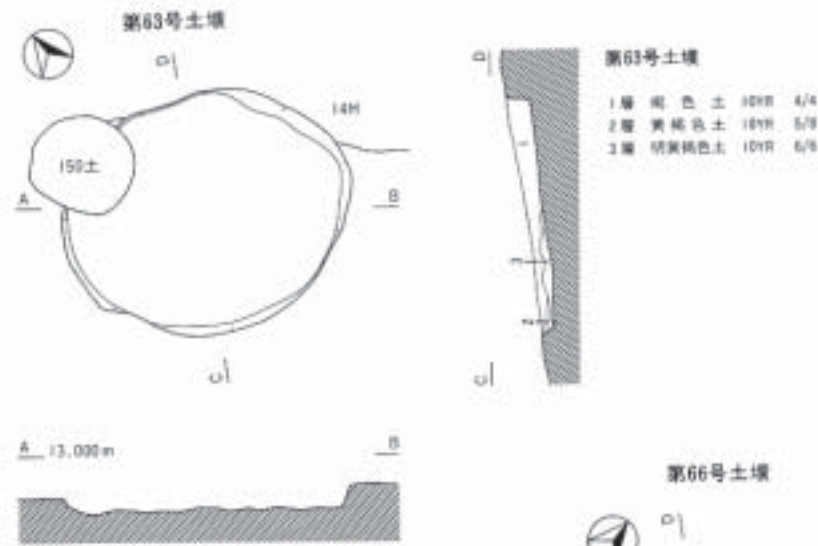
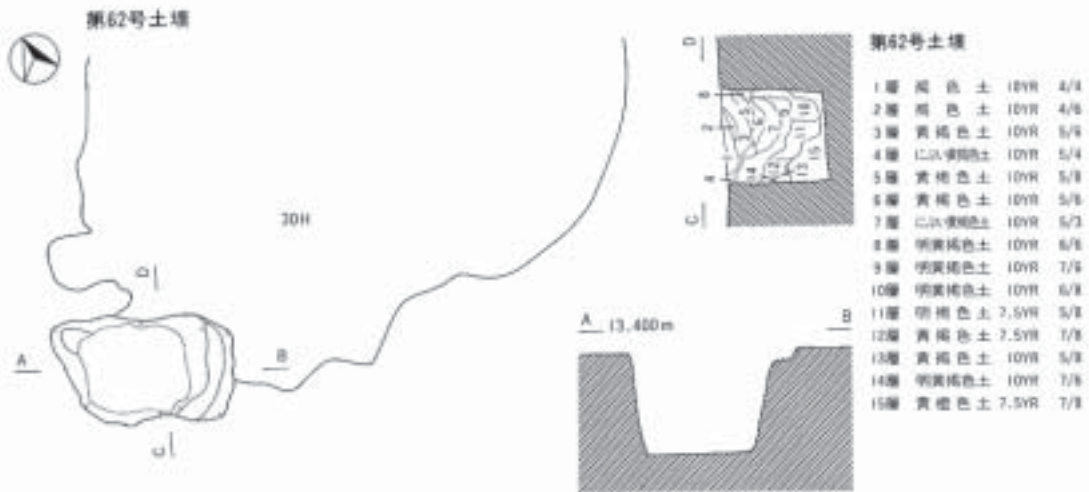
第55图 土 壤6 (第37·40·41号)



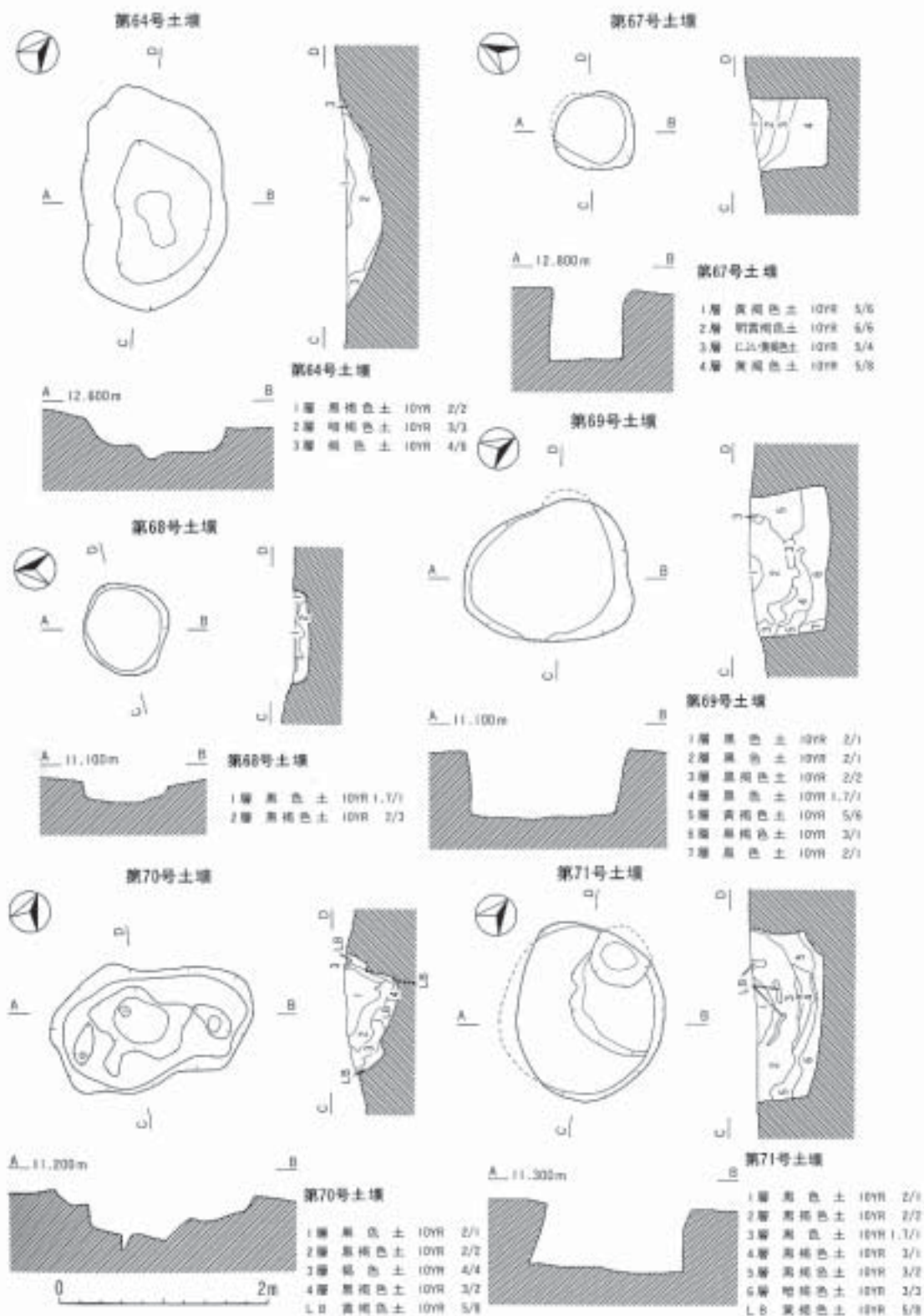
第56图 土壤7 (第42·44·45·46·47号)



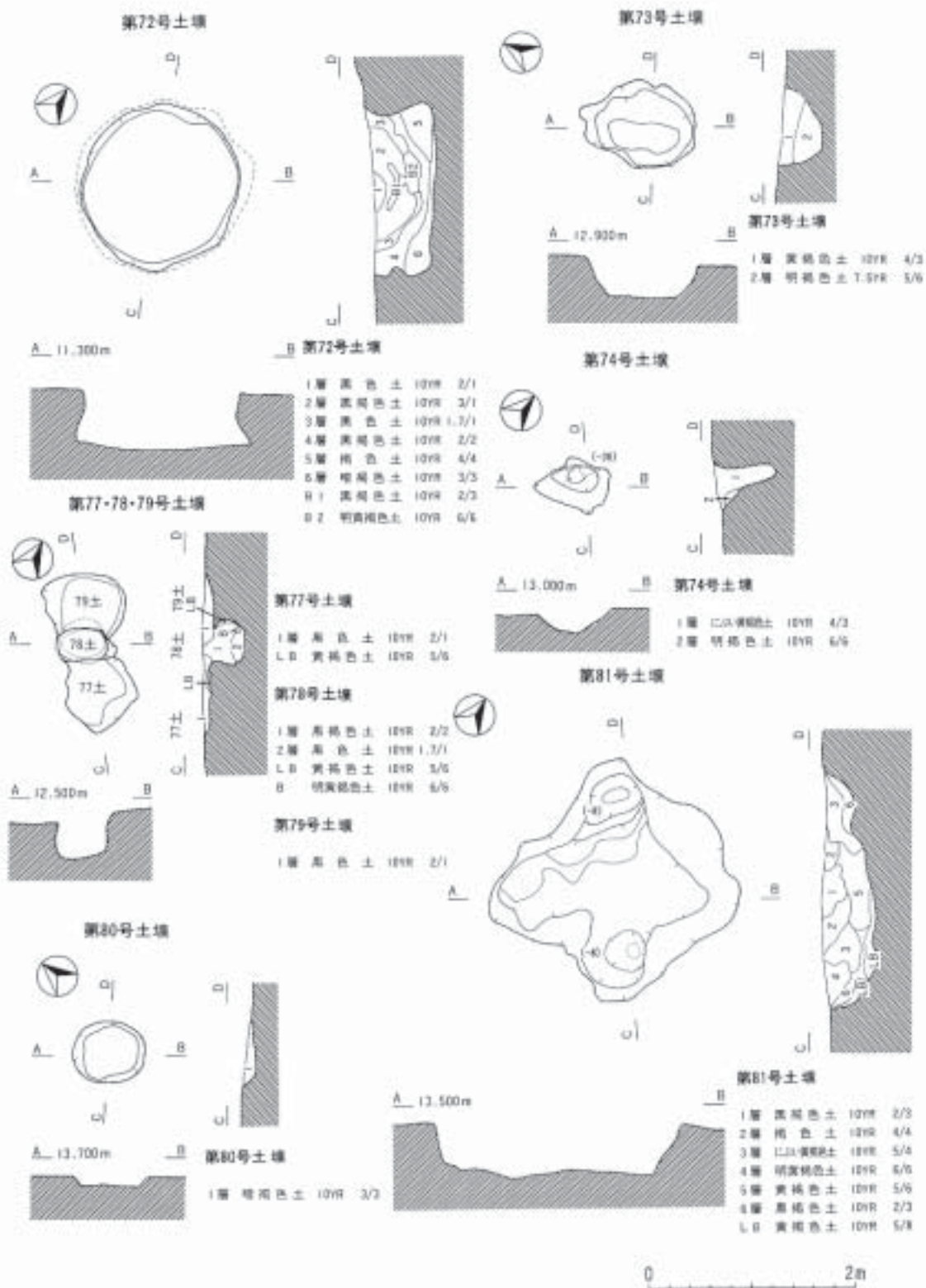
第57图 土坑8(第48·49·50·51·52·53·55·56·57·58·59号)



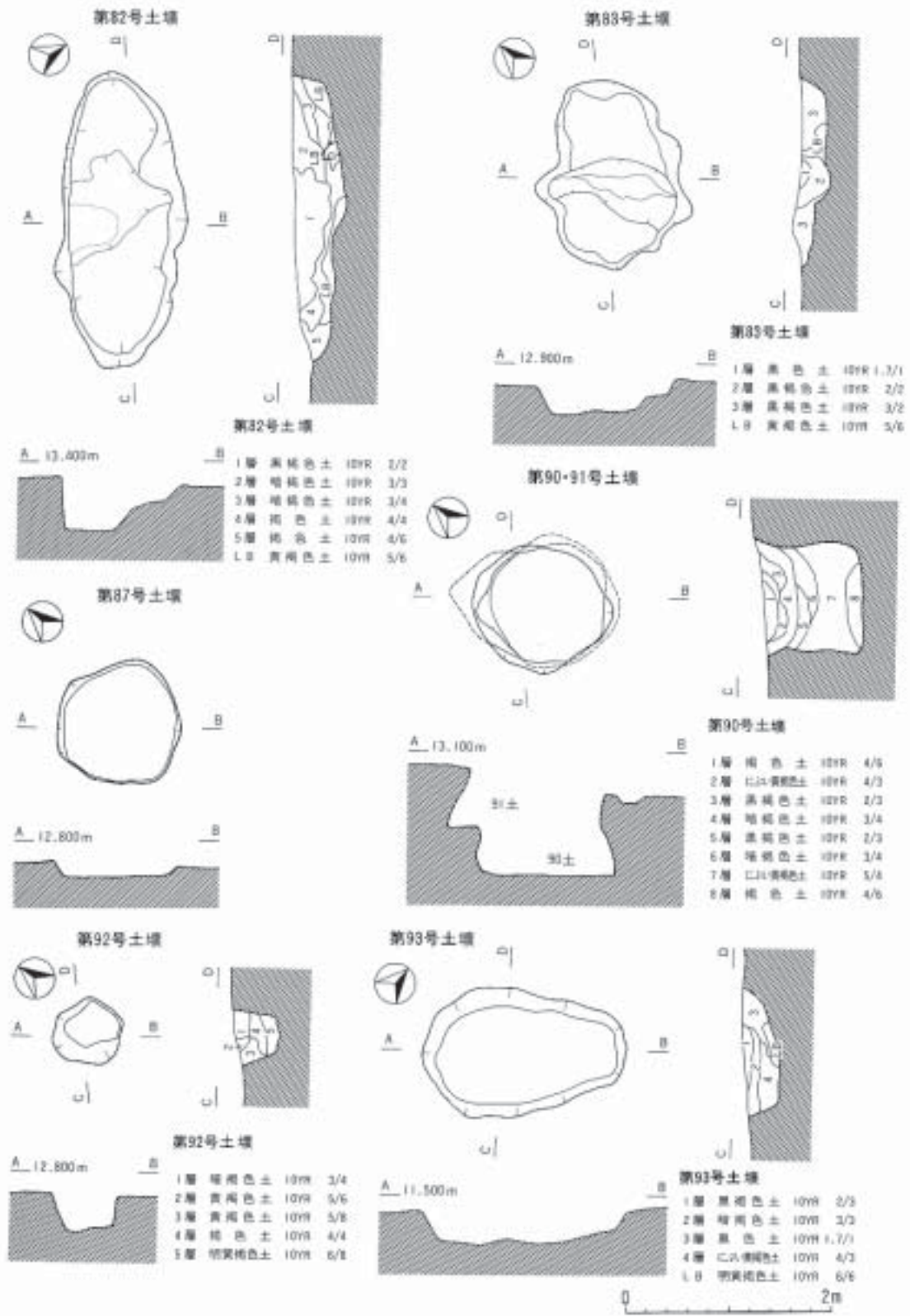
第58图 土壤9 (第62·63·65·66号)



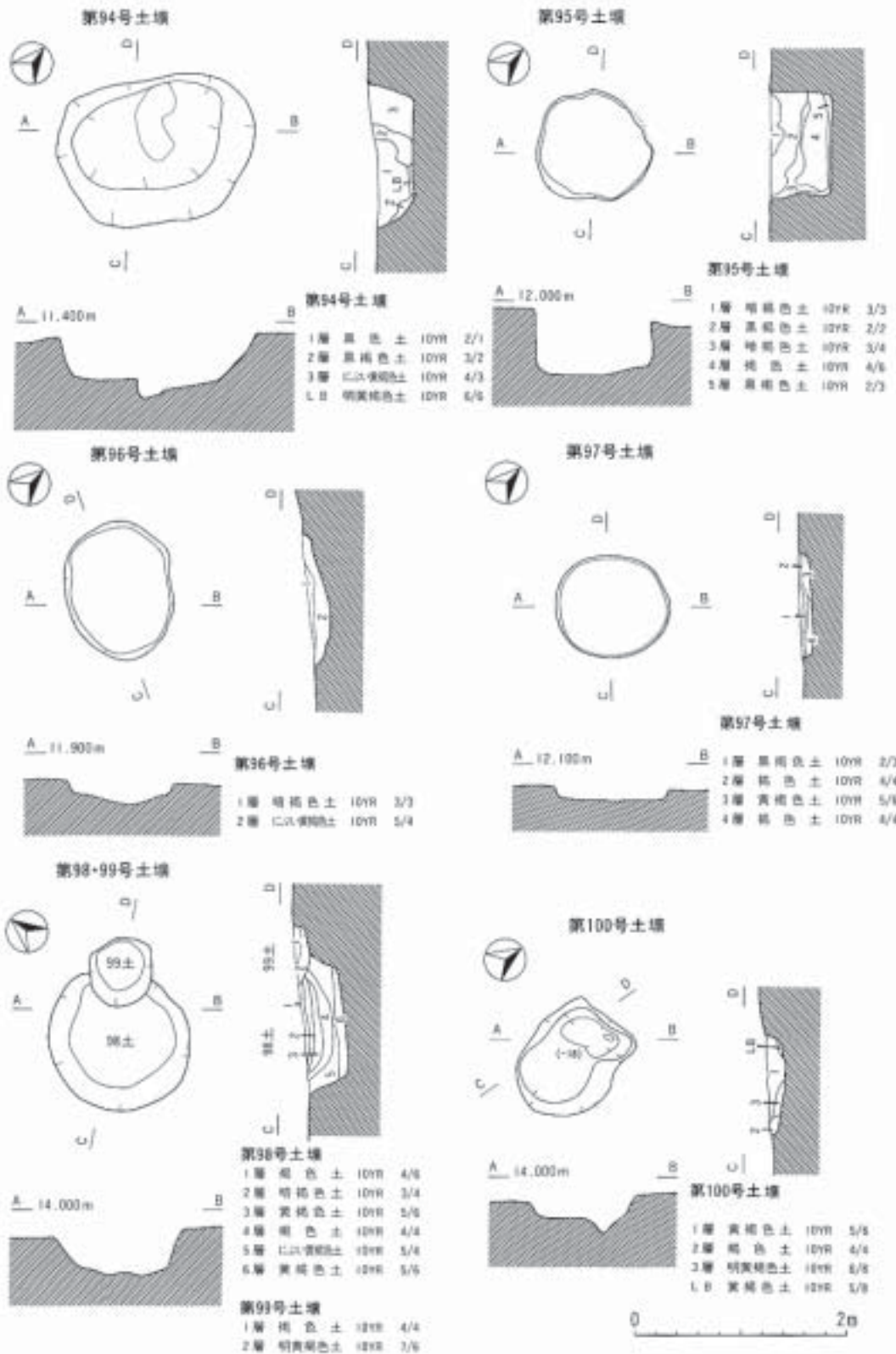
第59图 土壤10 (第64·67·68·69·70·71号)



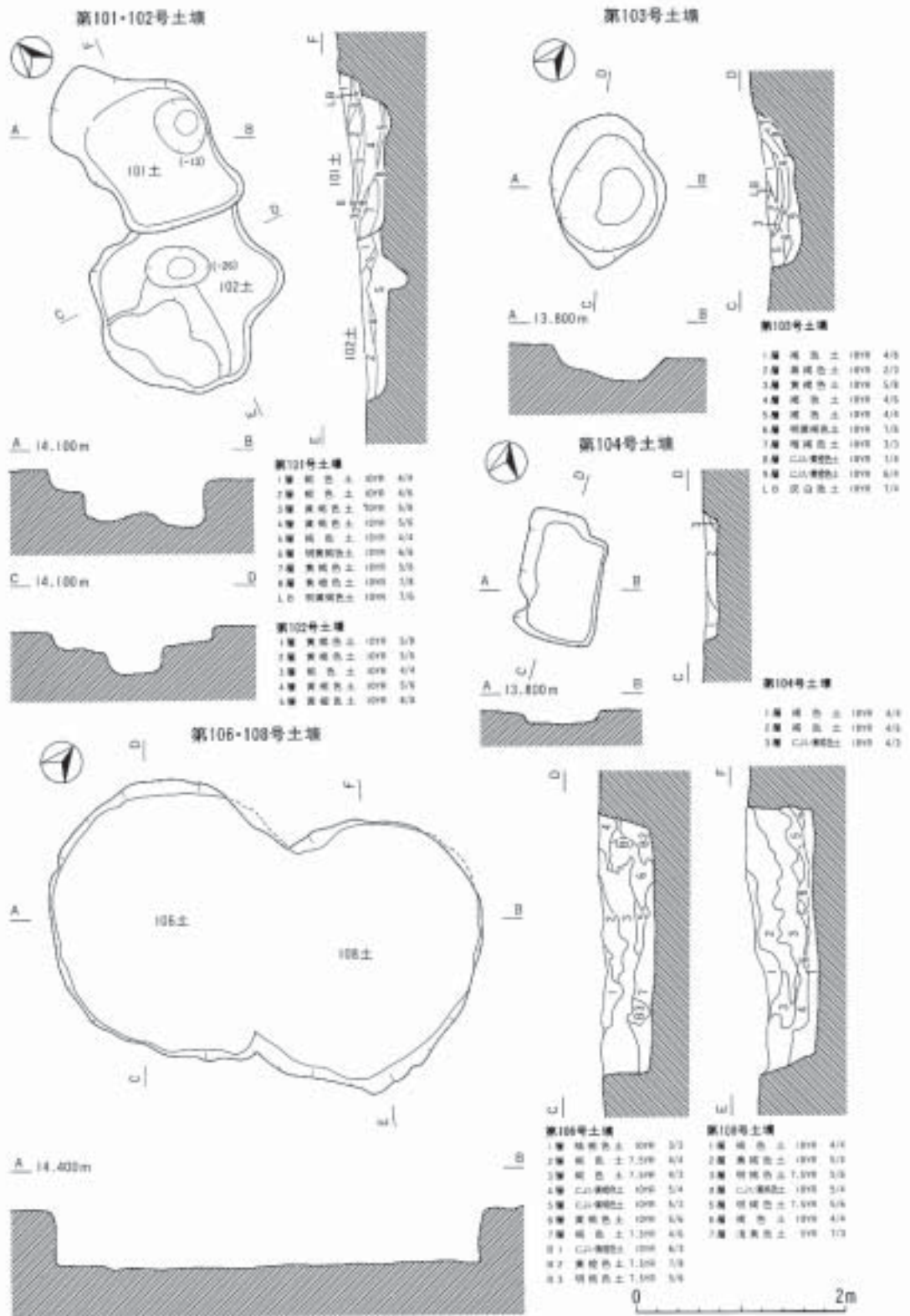
第60图 土壤11 (第72·73·74·77·78·79·80·81号)



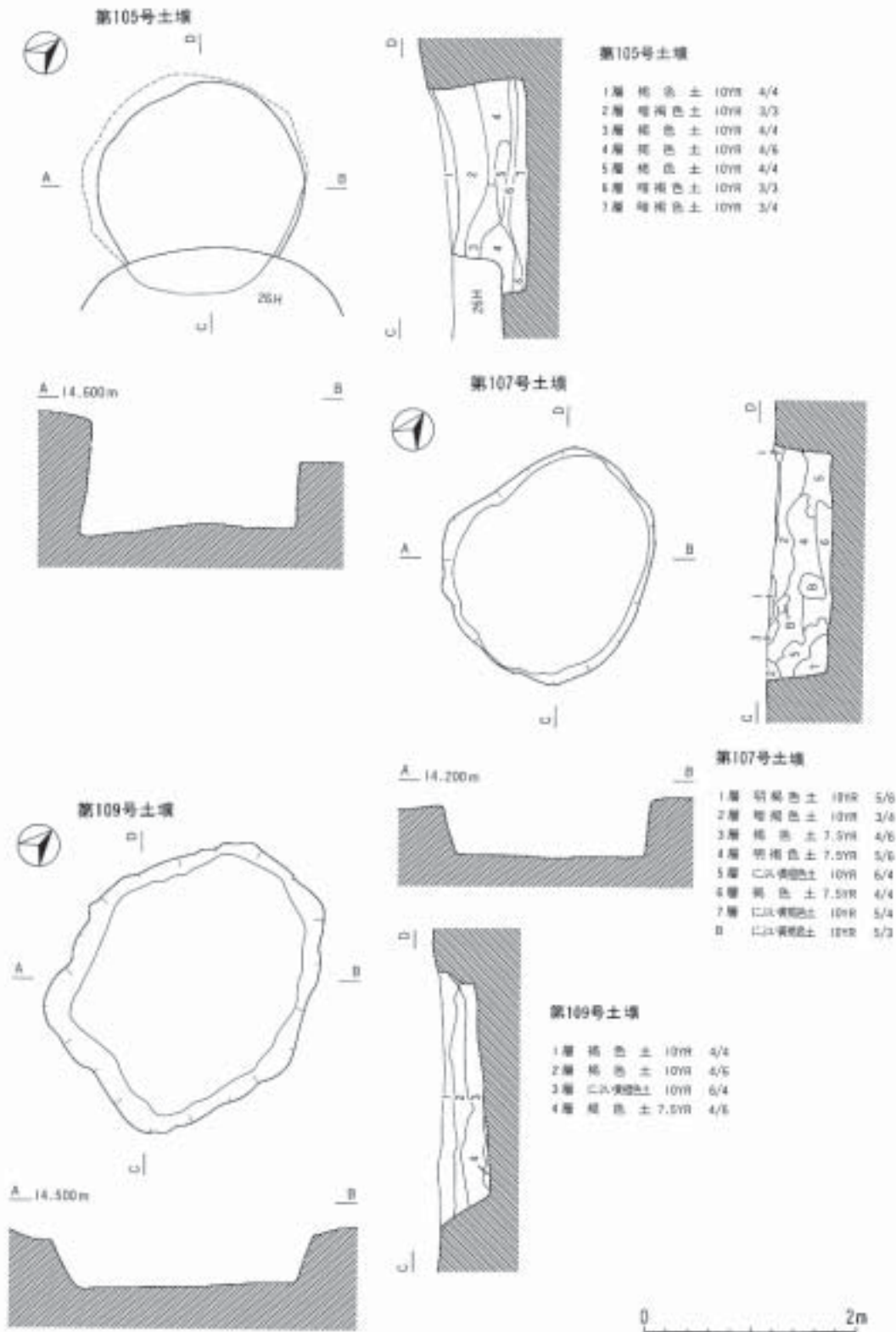
第61图 土壤12(第82·83·87·90·91·92·93号)



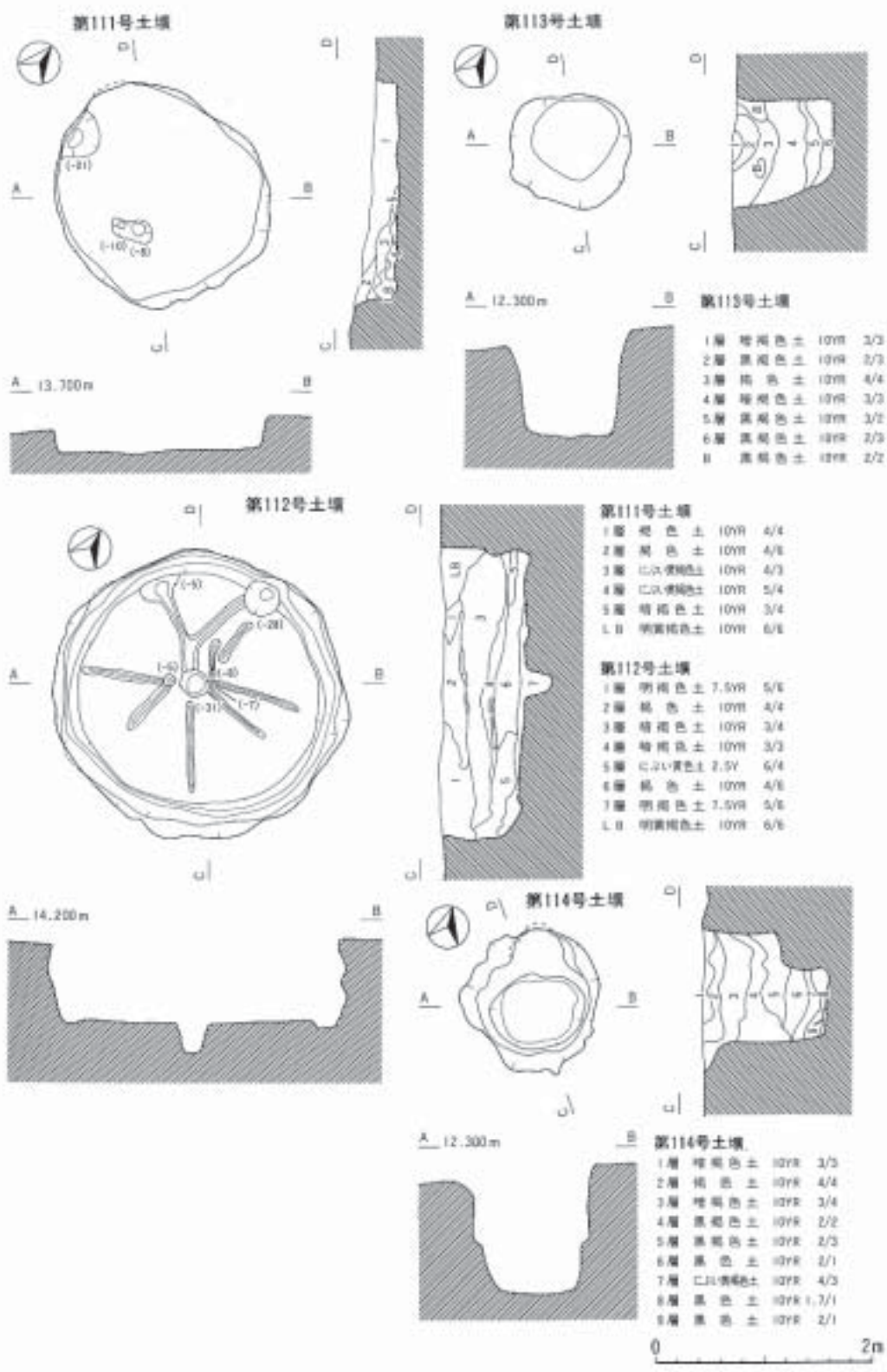
第62图 土 壤 13 (第94·95·96·97·98·99·100号)



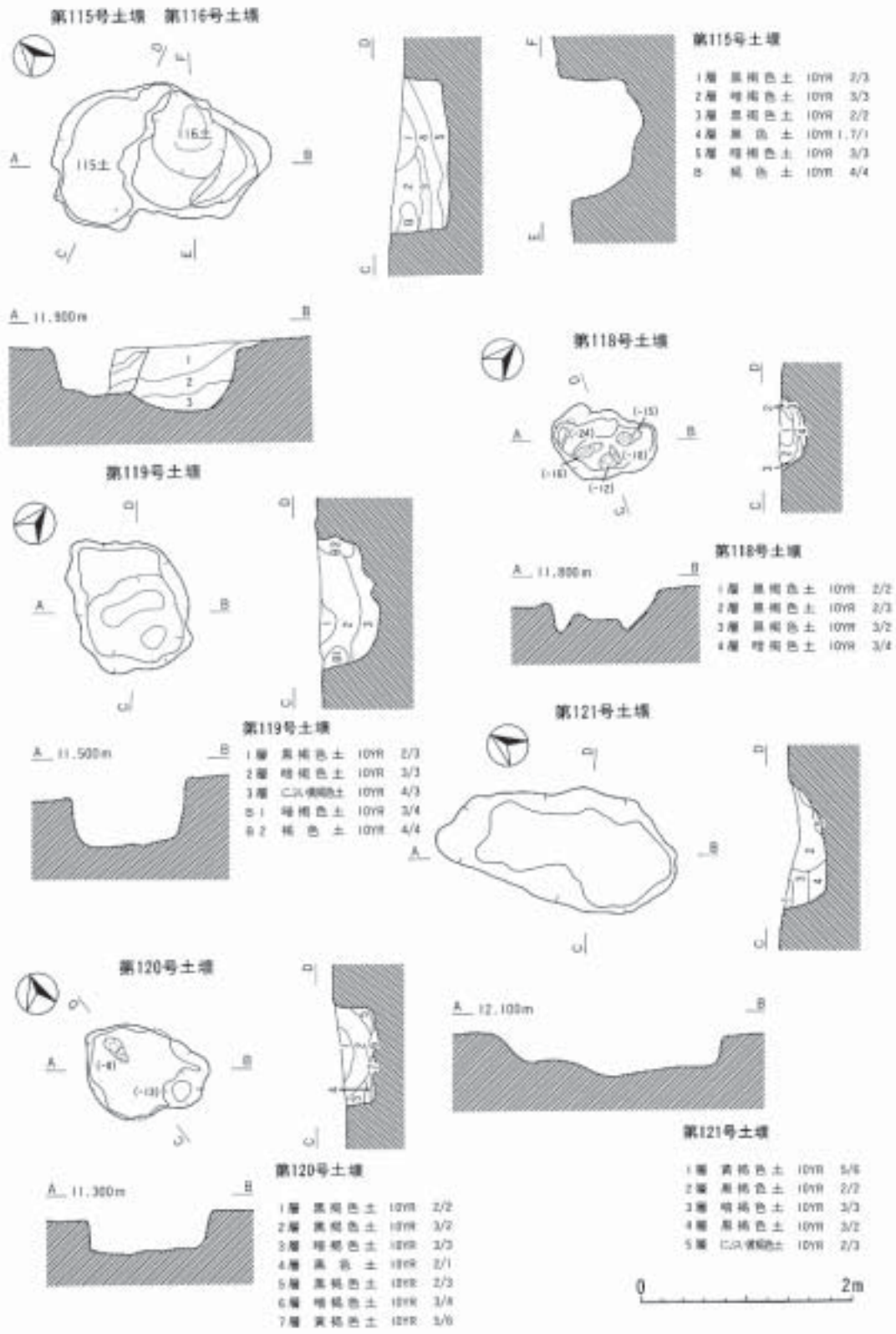
第63图 土壤14 (第101·102·103·104·106·108号)



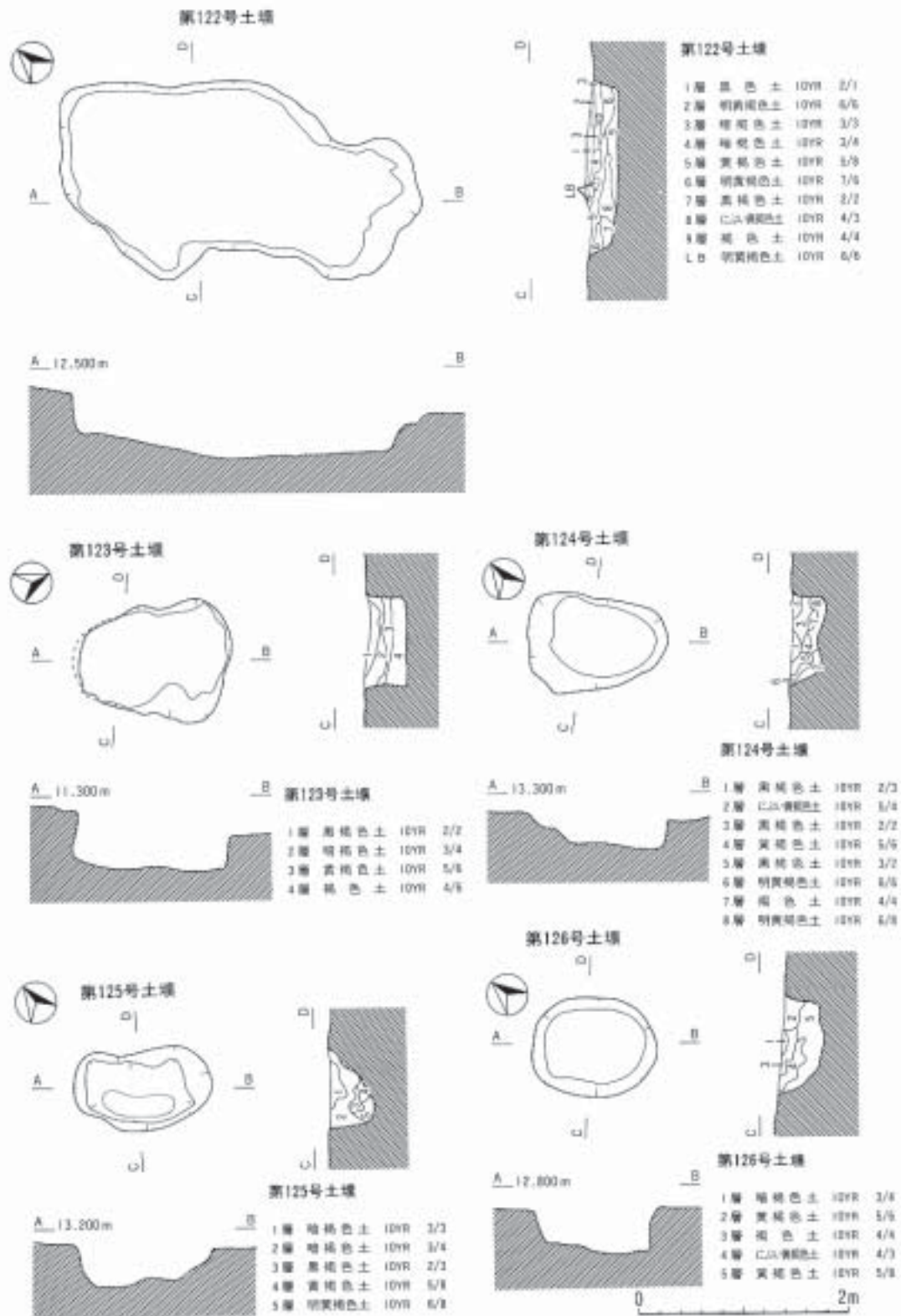
第64图 土壤15(第105·107·109号)



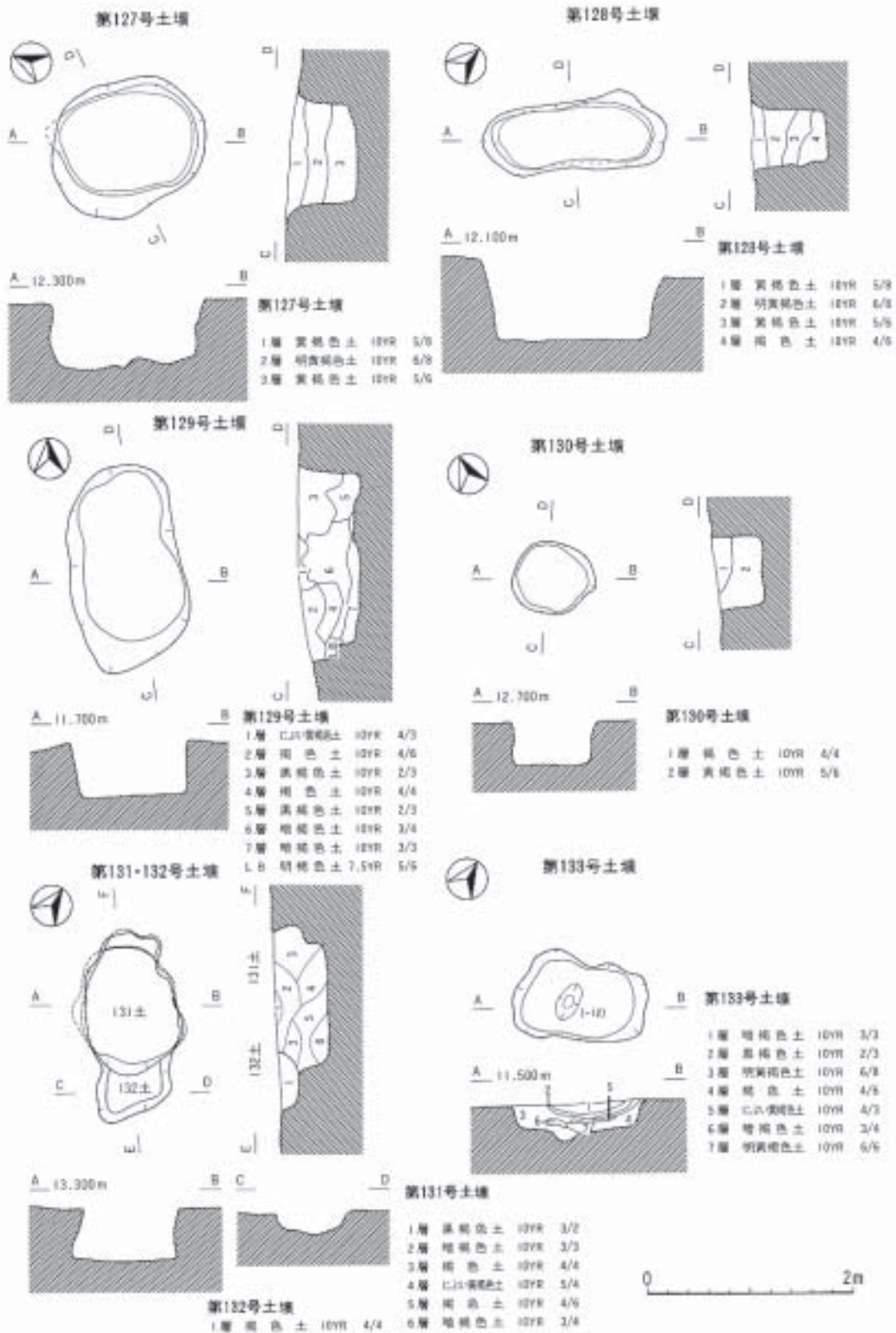
第65图 土壤16(第111·112·113·114号)



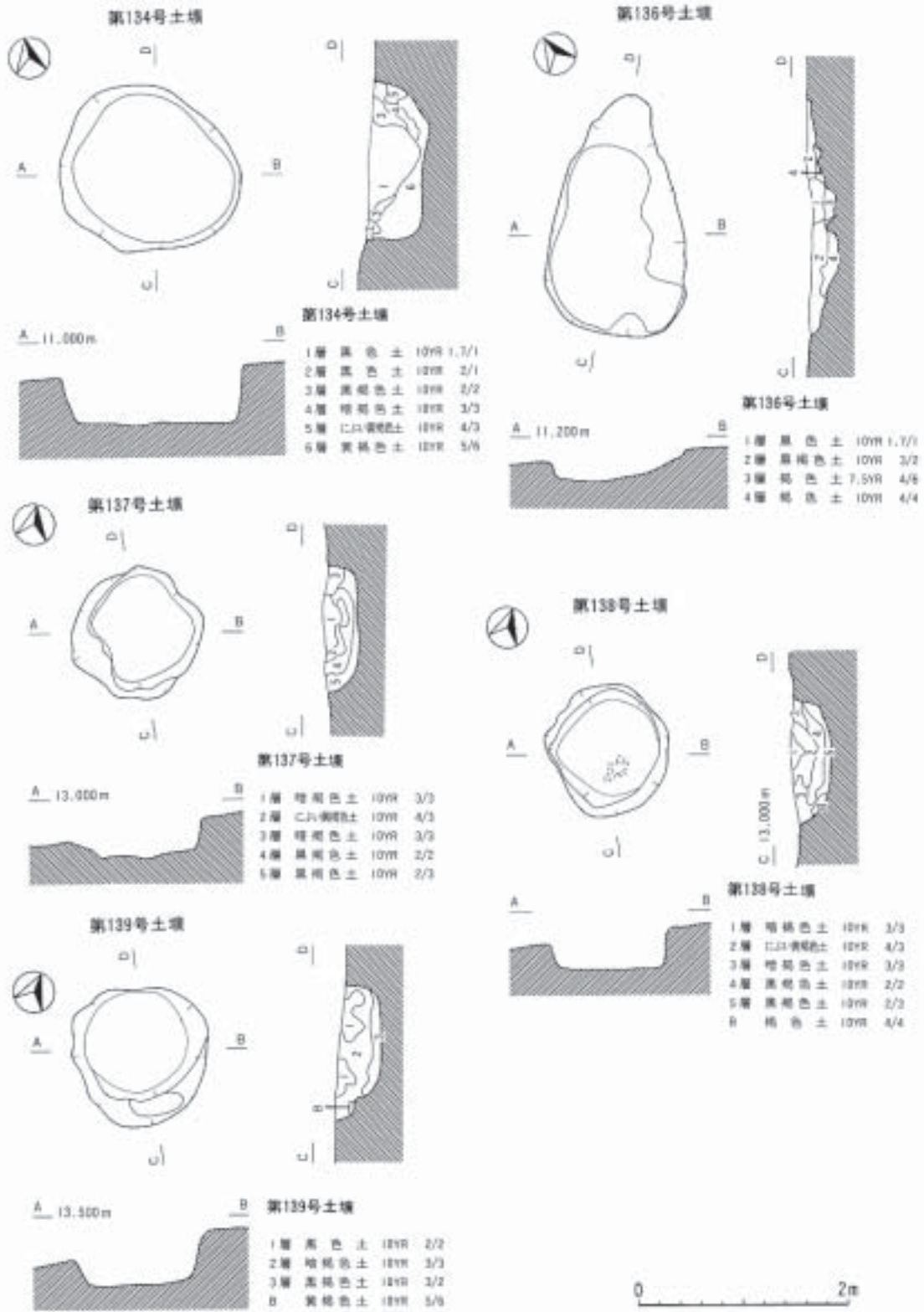
第66图 土壤17(第115·116·118·119·120·121号)



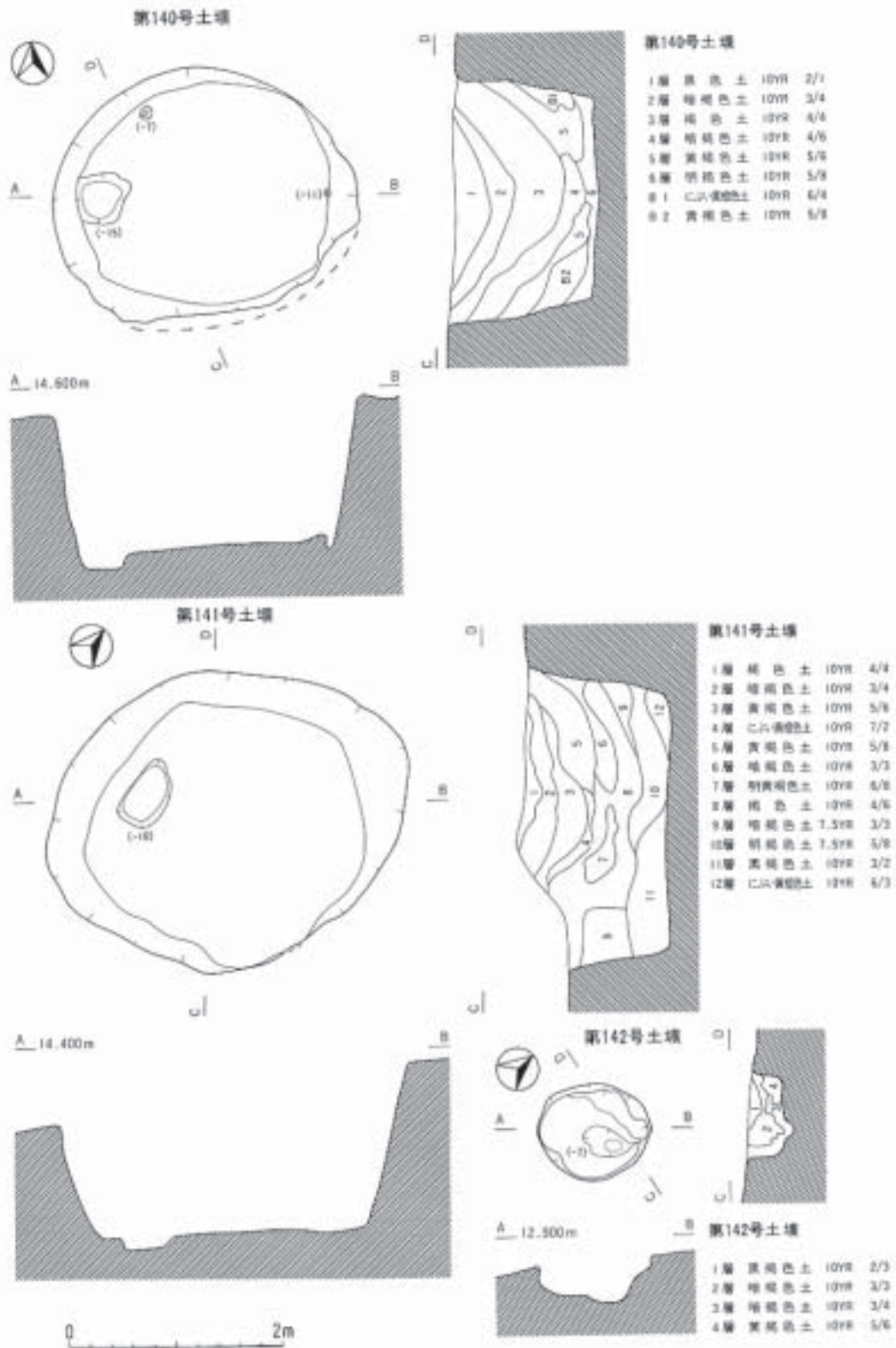
第67图 土壤18 (第122·123·124·125·126号)



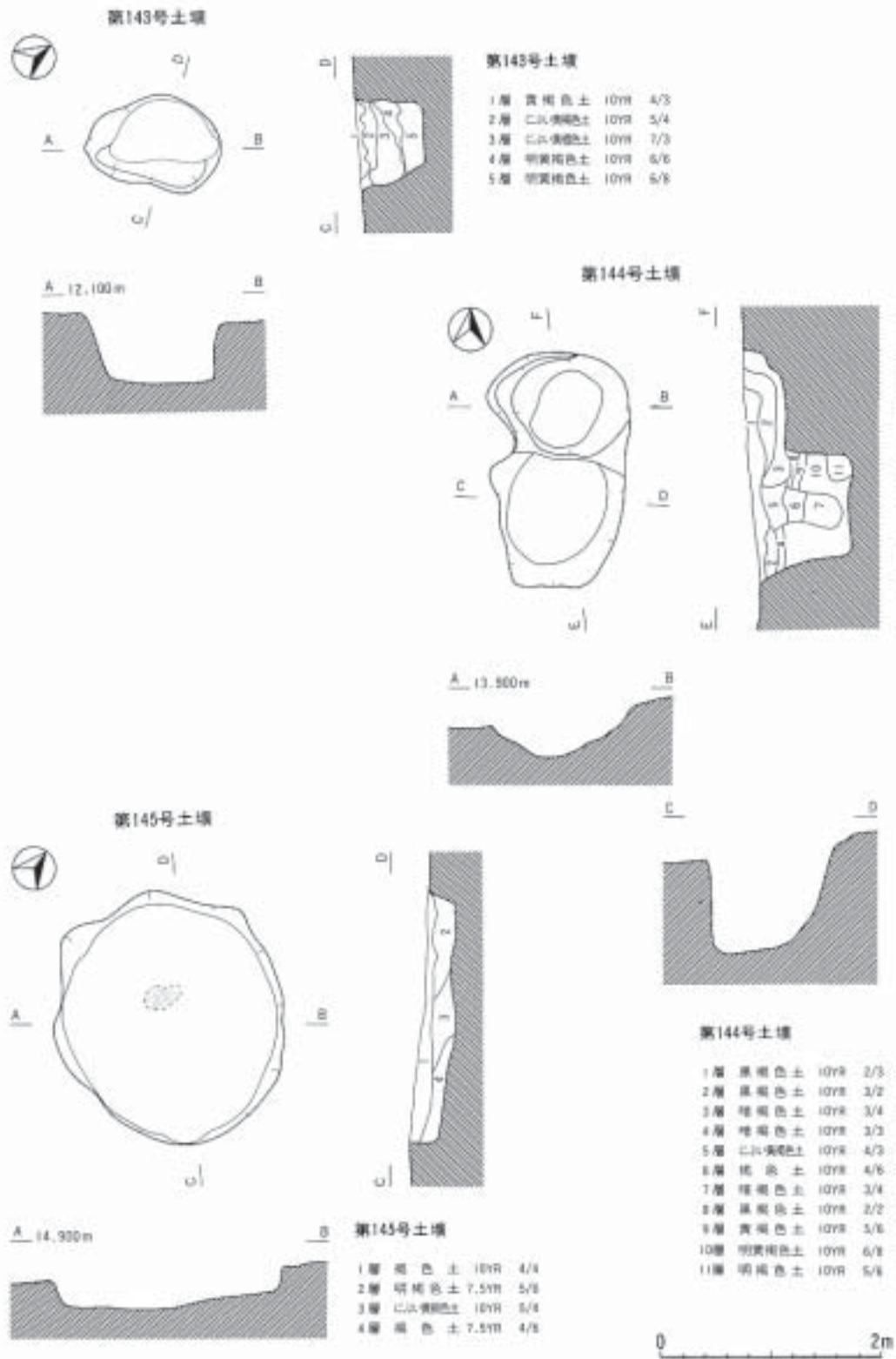
第68图 土坑19(第127·128·129·130·131·132·133号)



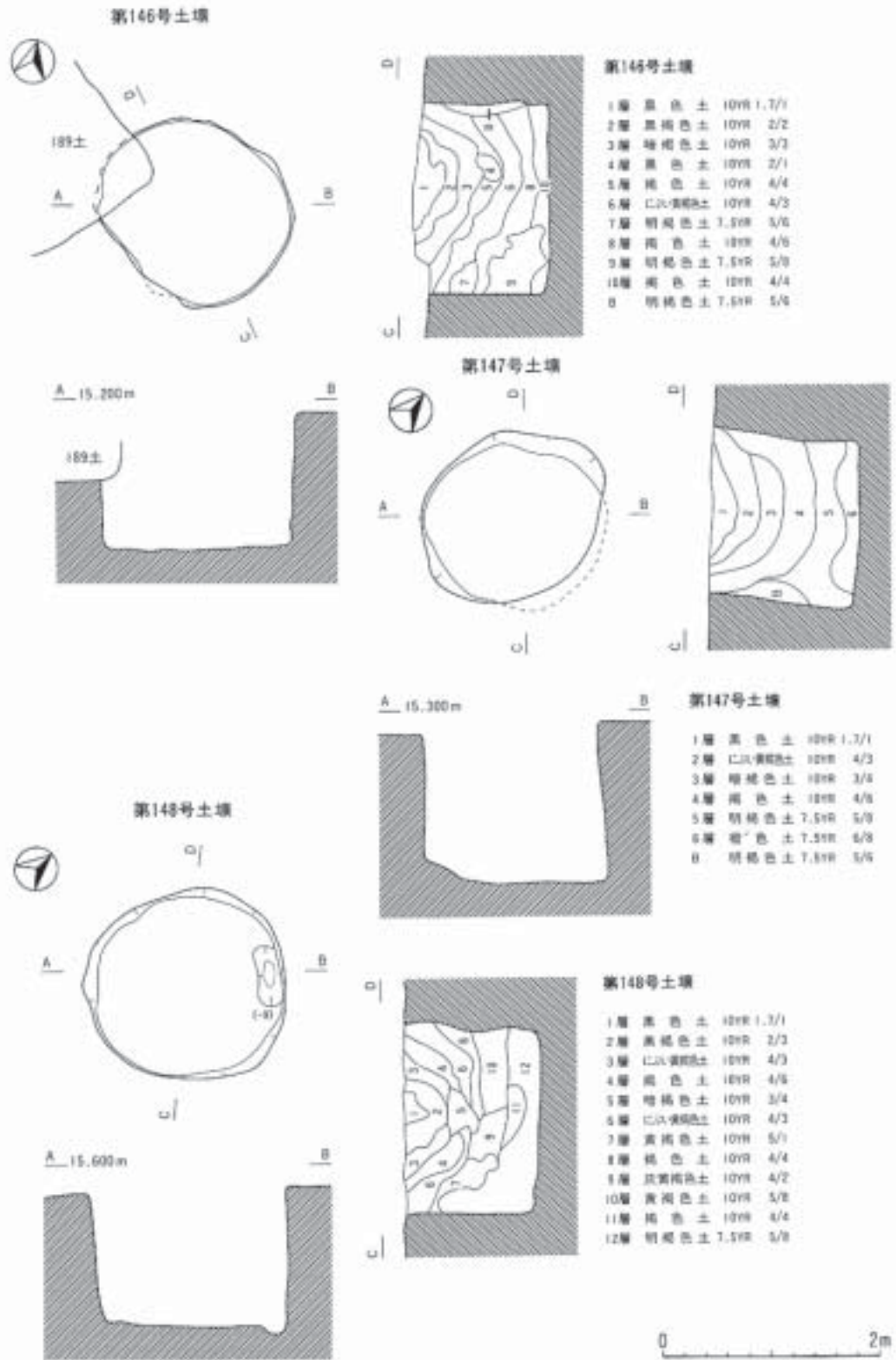
第69图 土壤20 (第134·136·137·138·139号)



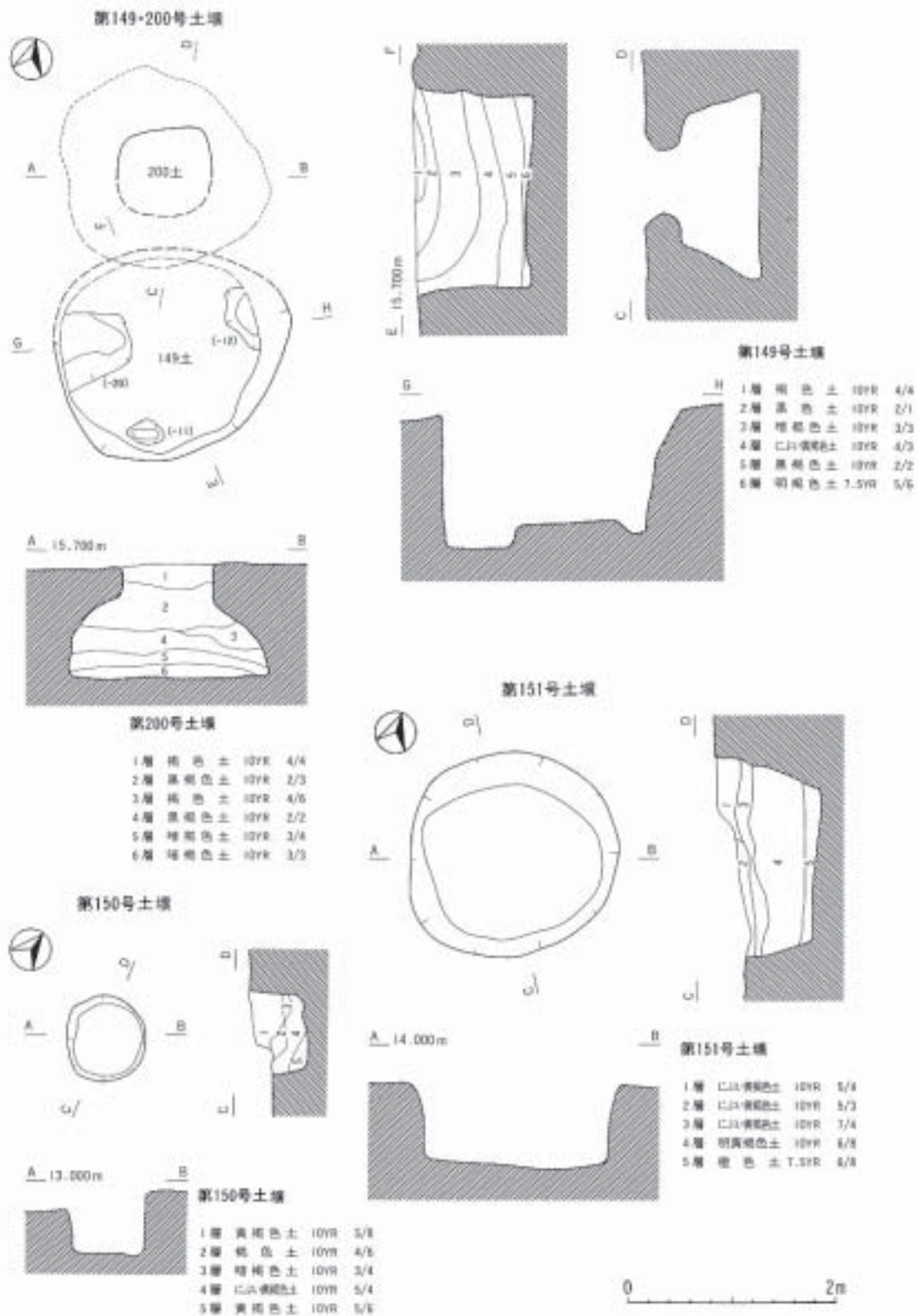
第70图 土坑21(第140·141·142号)



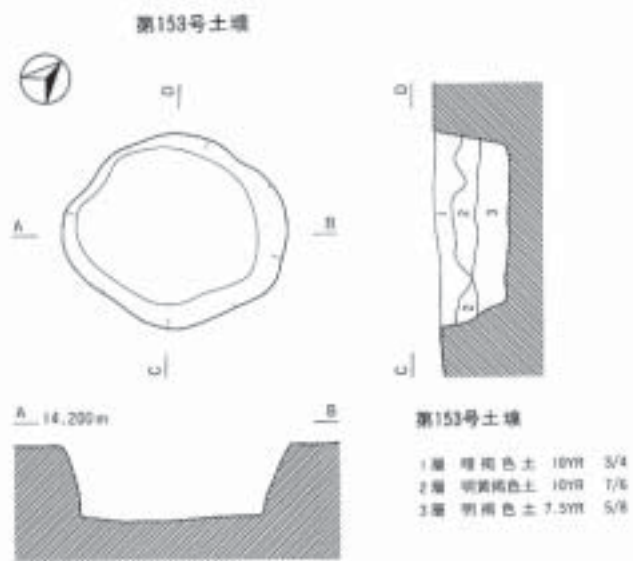
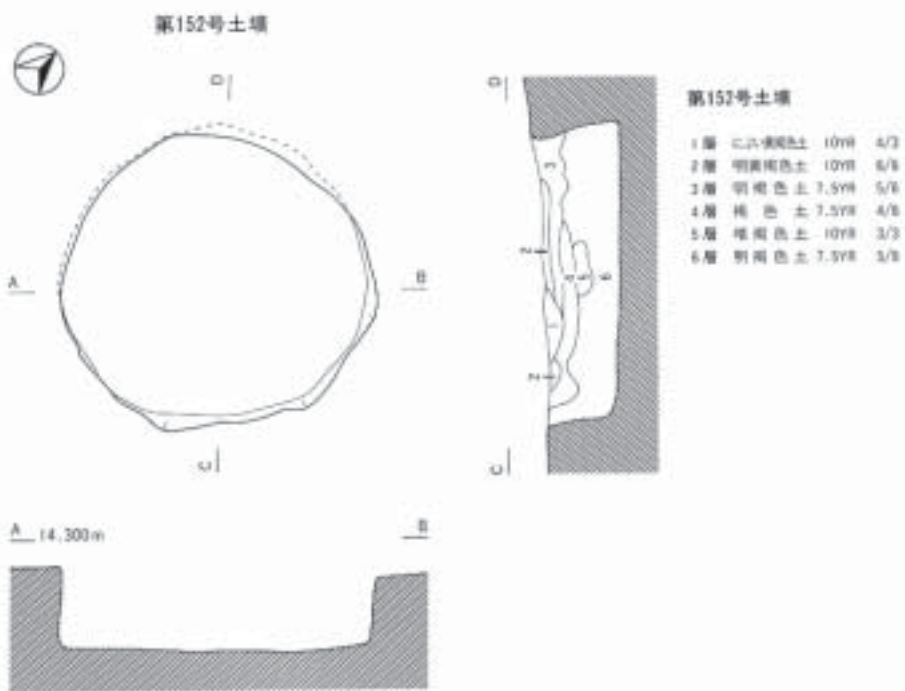
第71图 土壤22(第143·144·145号)



第72图 土壤23(第146·147·148号)

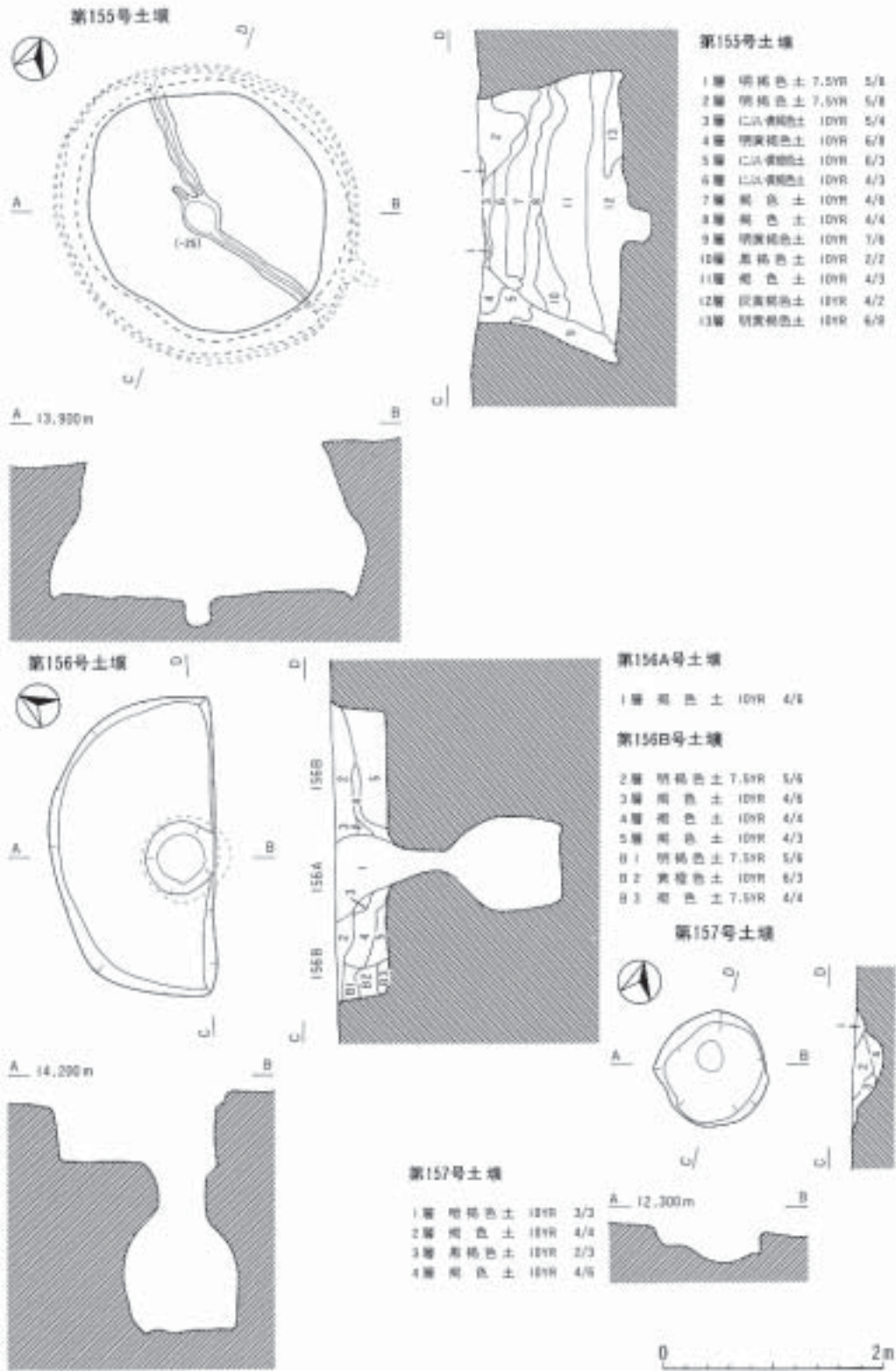


第73图 土壤24 (第149·150·151·200号)

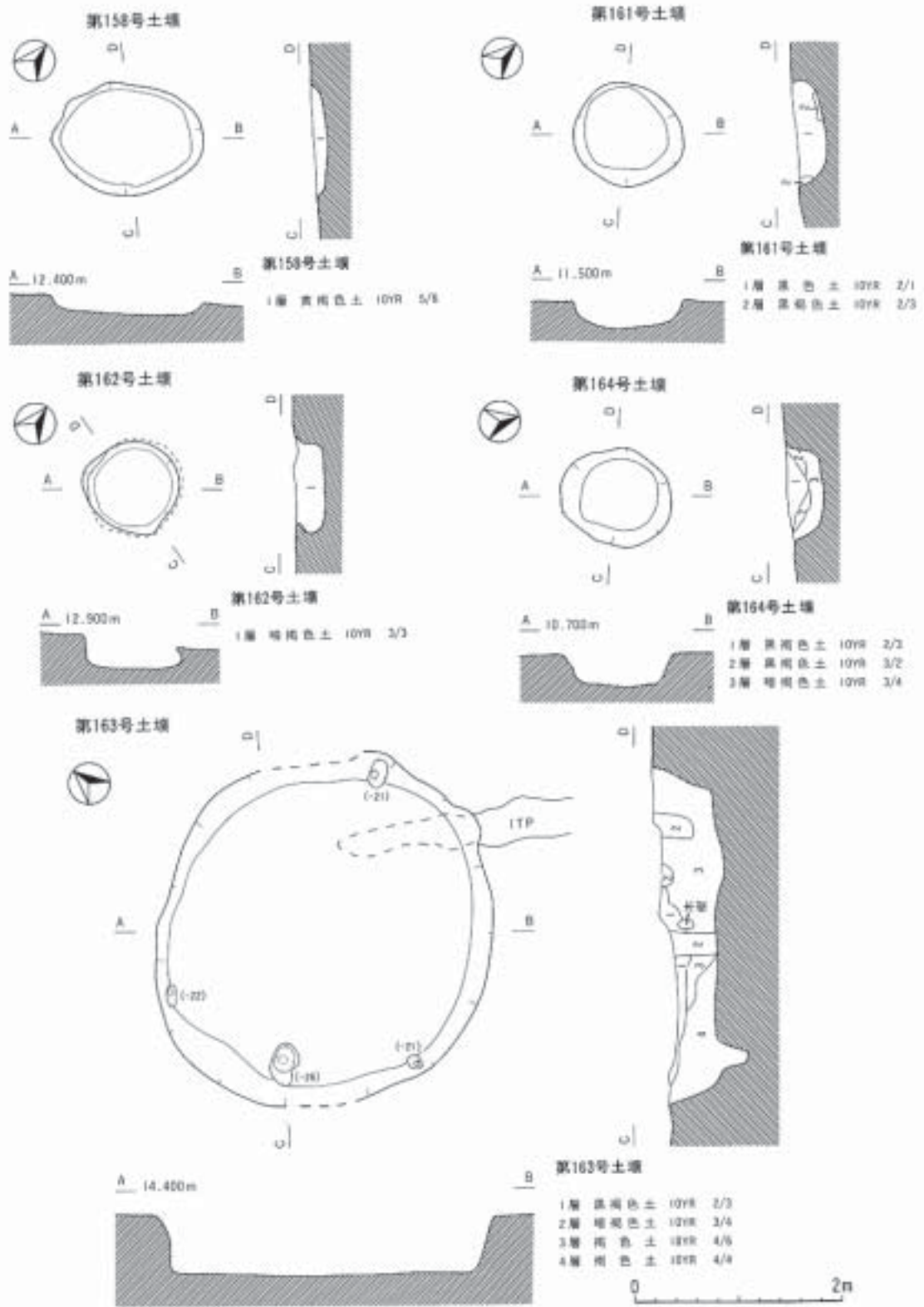


0 2m

第74图 土坑25(第152·153号)

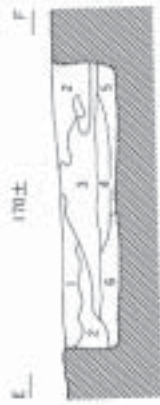
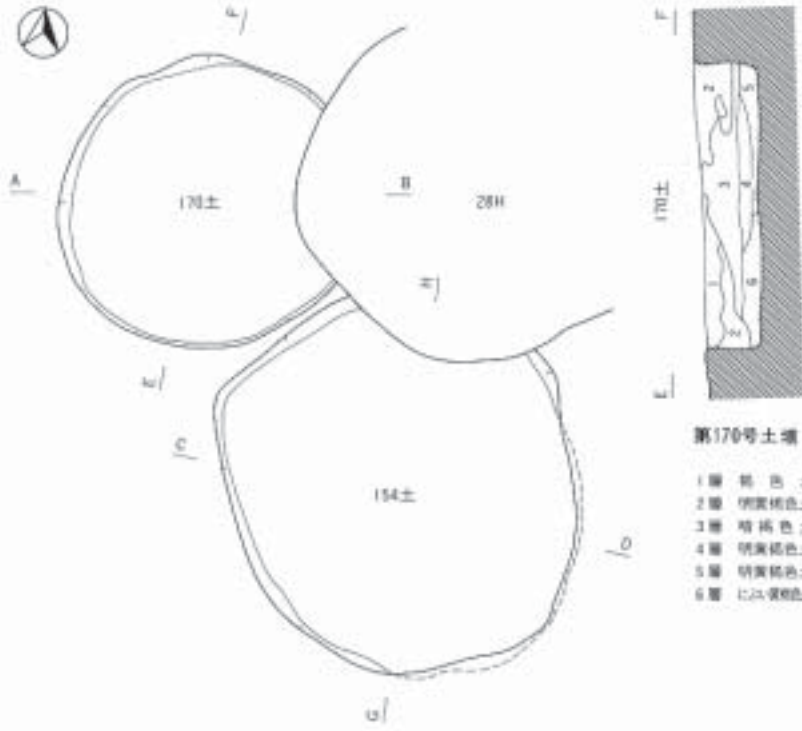


第75图 土壤26(第155·156·157号)



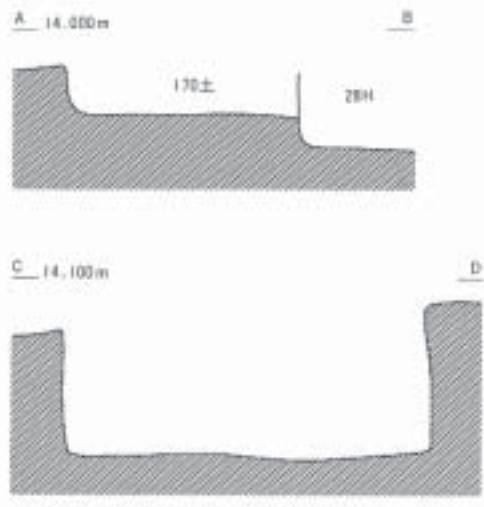
第76图 土坑27 (第158·161·162·163·164号)

第154·170号土壤



第170号土壤

- 1層 棕色土 10YR 4/3
- 2層 明黃棕色土 10YR 6/3
- 3層 暗棕色土 10YR 3/3
- 4層 明黃棕色土 10YR 6/3
- 5層 明黃棕色土 10YR 7/3
- 6層 紅黃棕色土 10YR 5/4

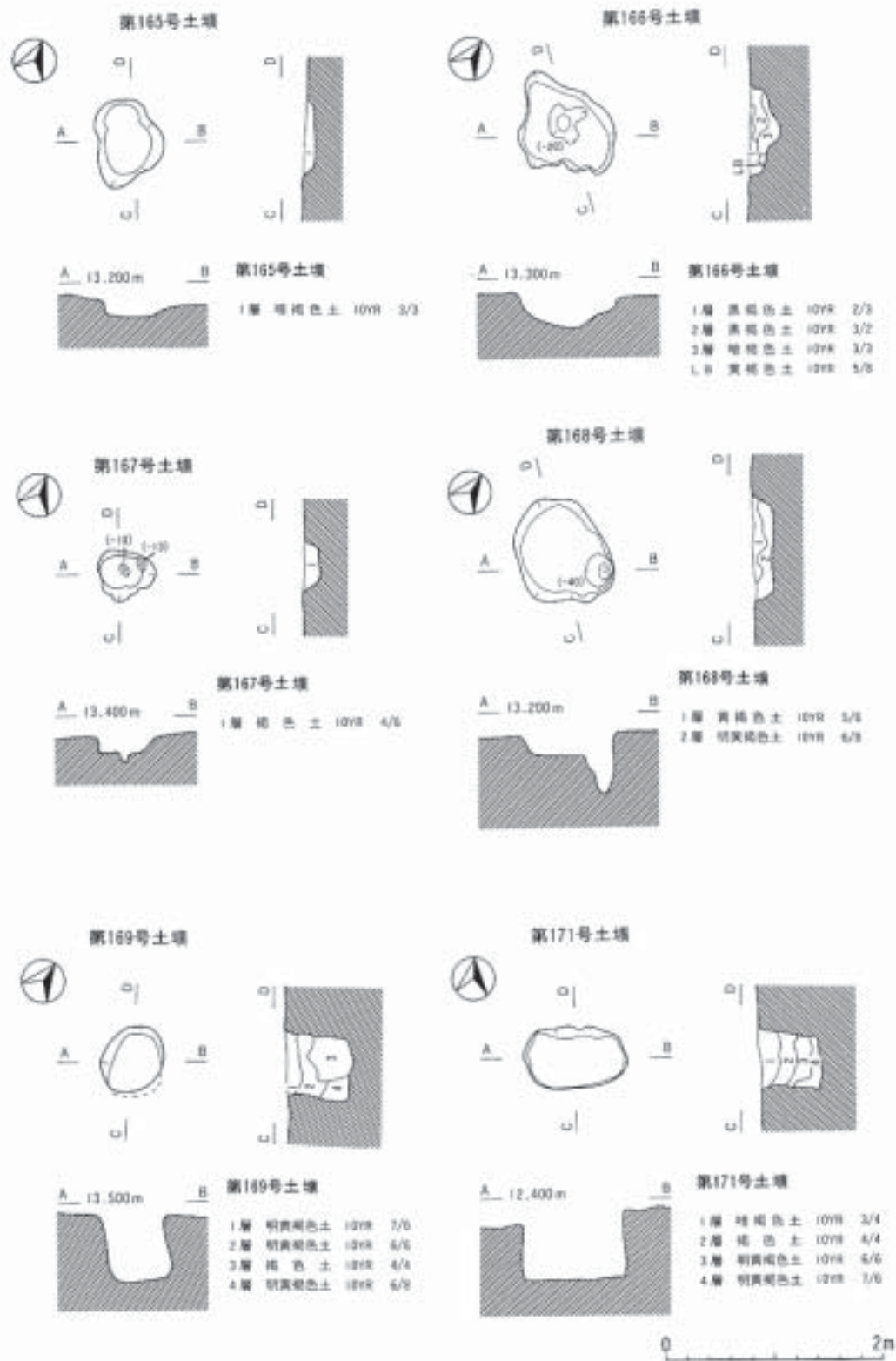


第154号土壤

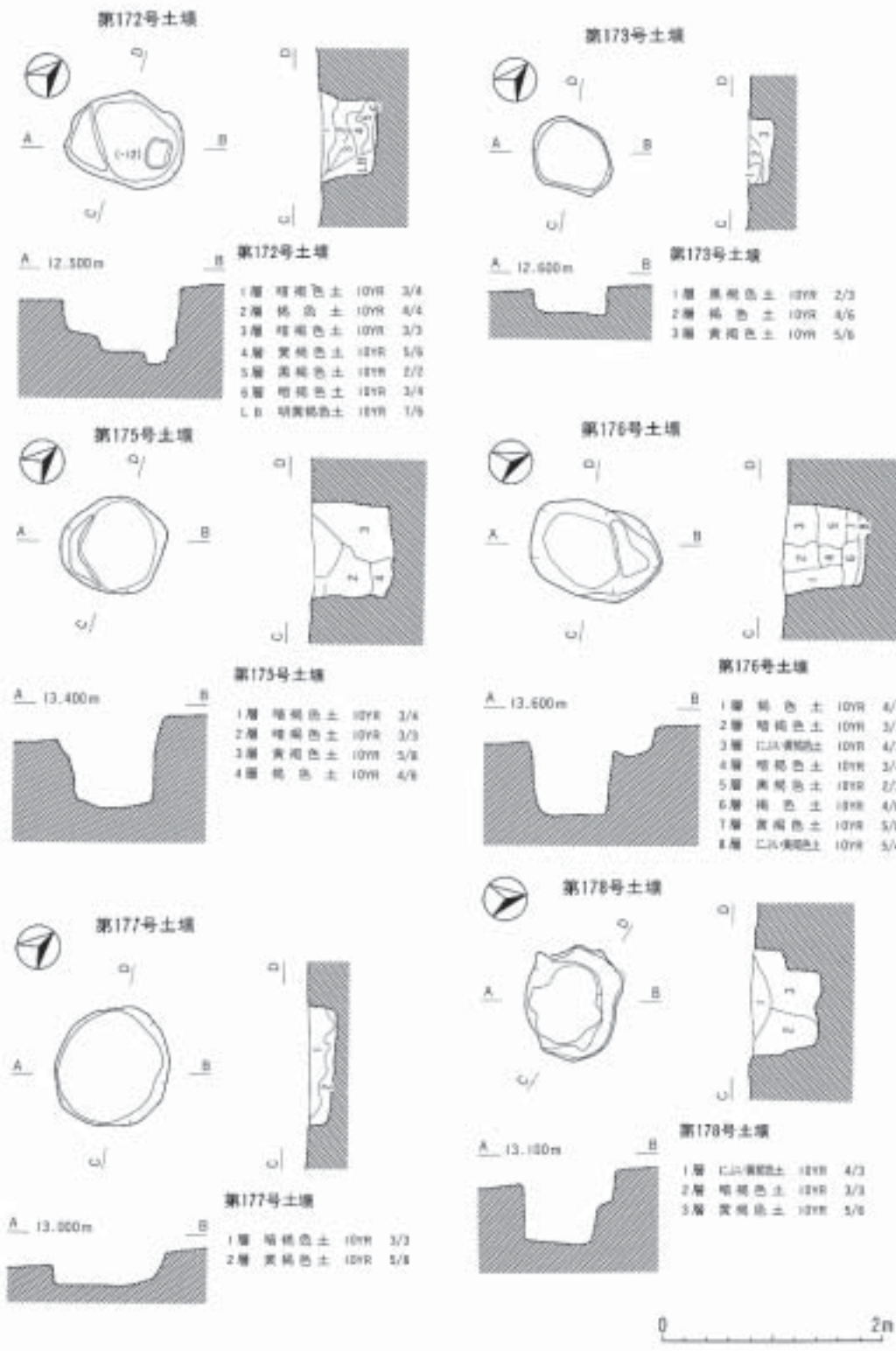
- 1層 紅黃棕色土 10YR 5/3
- 2層 明棕色土 7.5YR 5/3
- 3層 暗棕色土 10YR 3/3
- 4層 紅黃棕色土 10YR 5/4
- 5層 棕色土 10YR 4/3
- 6層 紅黃棕色土 10YR 5/3
- 7層 明棕色土 7.5YR 5/3
- 8層 明黃棕色土 10YR 7/3
- 9層 棕色土 7.5YR 6/3
- 10層 棕色土 7.5YR 6/3
- 11層 棕色土 10YR 4/4
- 12層 棕色土 10YR 4/3
- 13層 黃棕色土 10YR 5/3



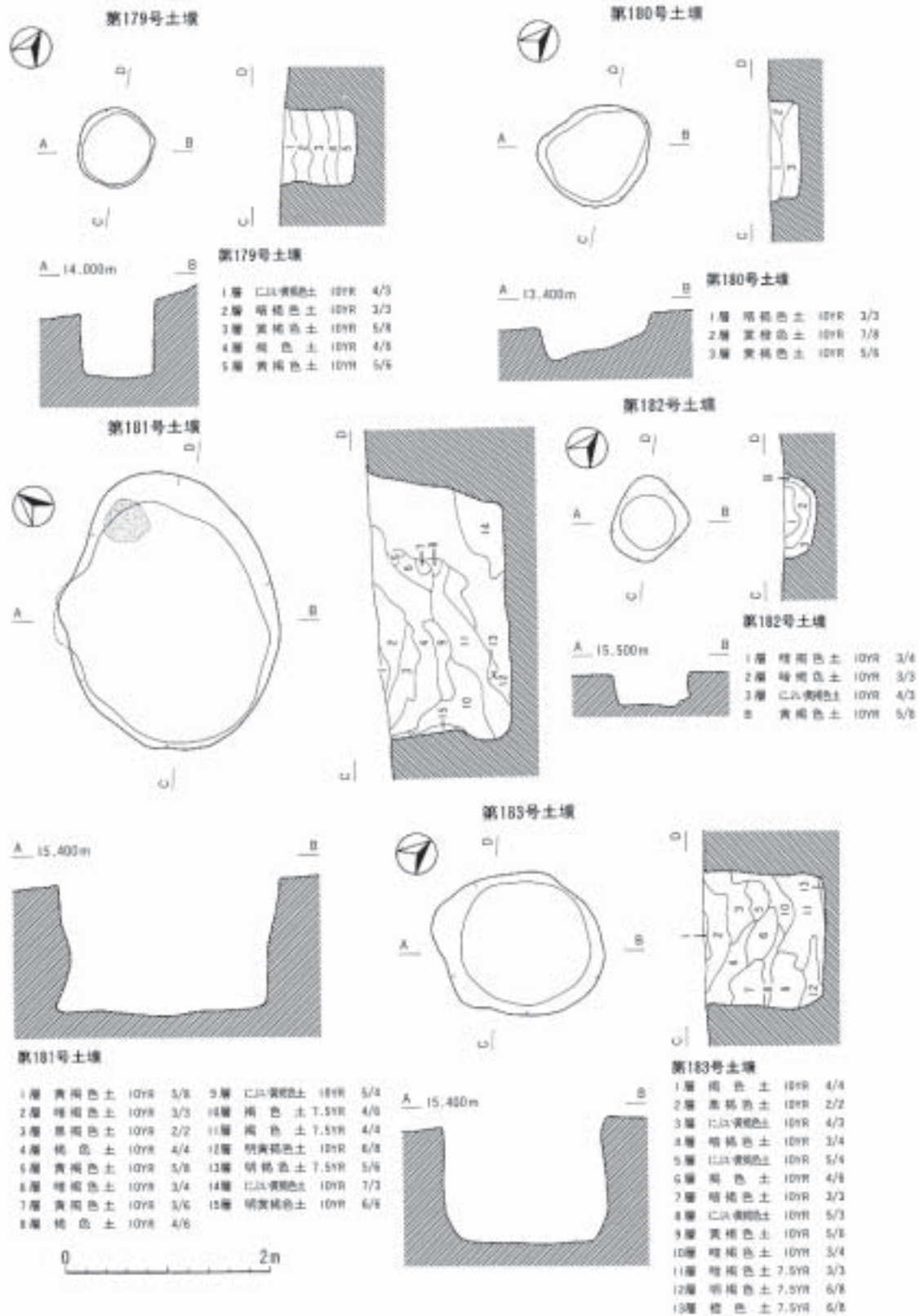
第77图 土壤28(第154·170号)



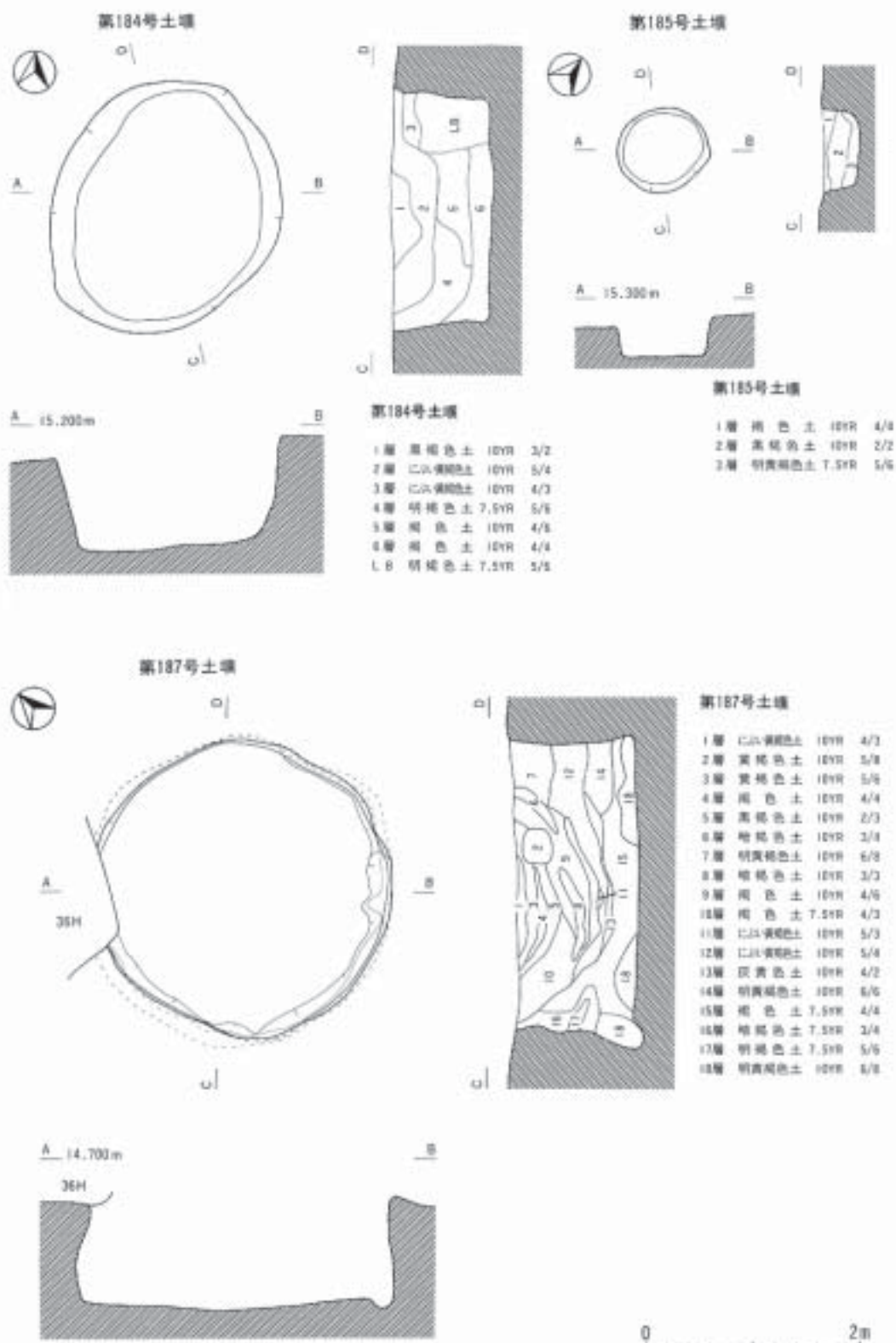
第78图 土壤29 (第165·166·167·168·169·171号)



第79图 土壤30 (第172·173·175·176·177·178号)

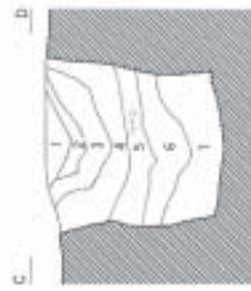
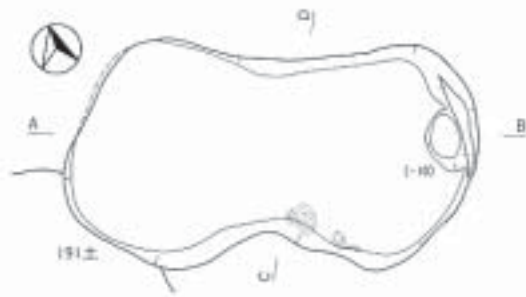


第80图 土壤31 (第179·180·181·182·183号)



第81图 土壤32(第184·185·187号)

第188号土壤



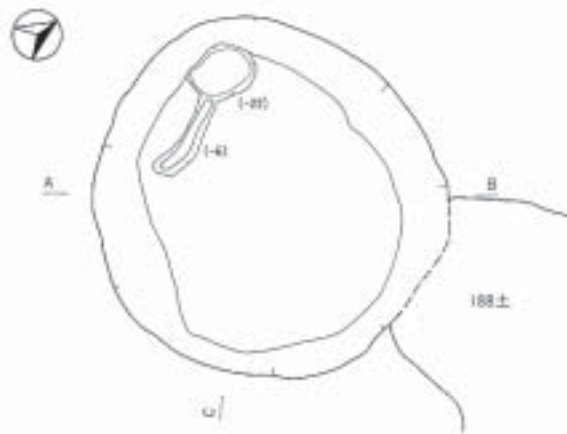
A_ 15.400m



第188号土壤

- 1层 灰色土 10YR 1.7/1
- 2层 暗棕色土 10YR 3/3
- 3层 棕色土 10YR 4/5
- 4层 红棕色土 10YR 4/3
- 5层 棕色土 7.5YR 4/5
- 6层 红棕色土 10YR 5/6
- 7层 红棕色土 10YR 7/6

第191号土壤



A_ 15.400m

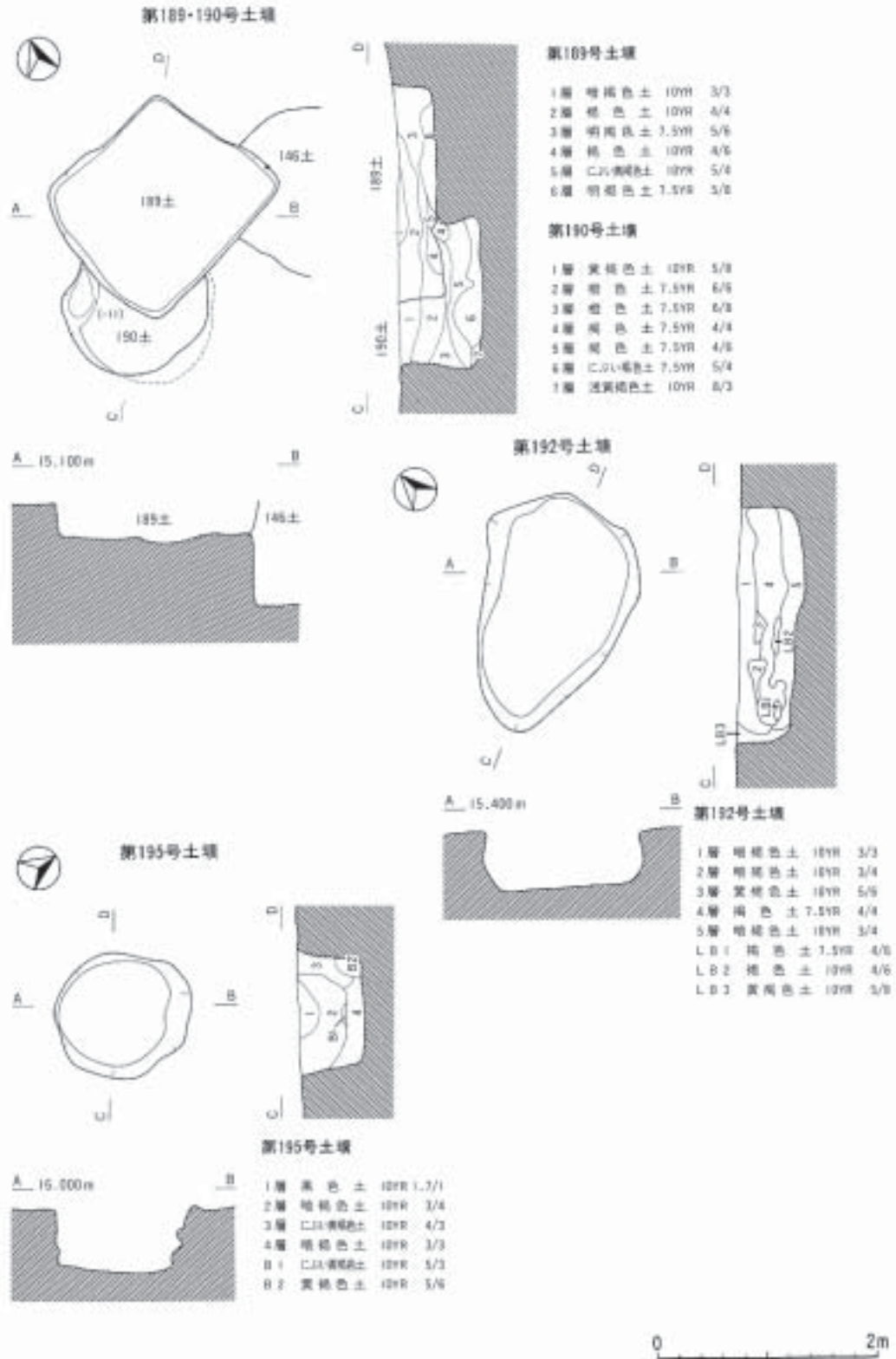


第191号土壤

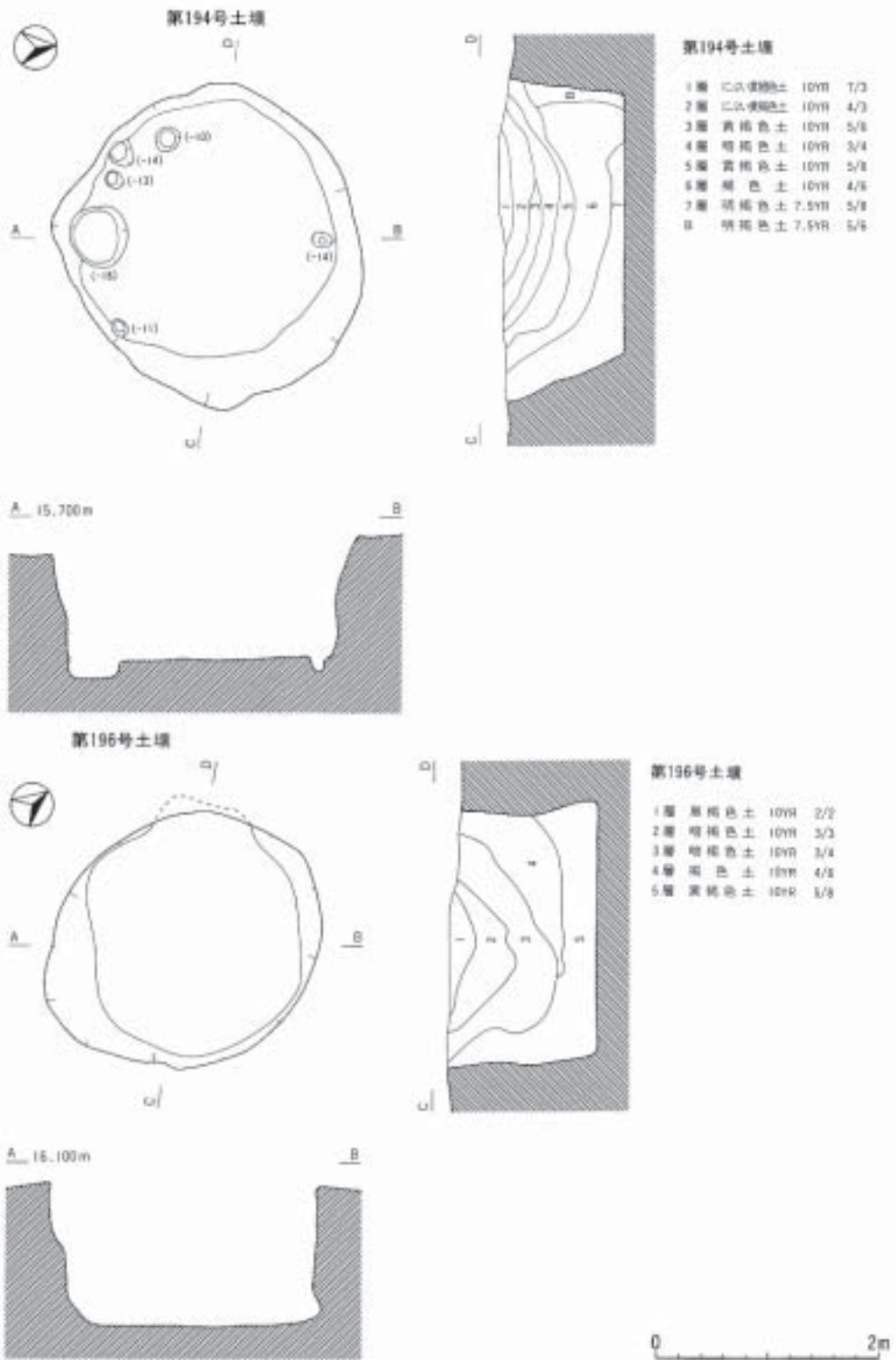
- 1层 棕色土 10YR 4/5
- 2层 红棕色土 10YR 7/3
- 3层 暗棕色土 10YR 3/4
- 4层 红棕色土 10YR 5/4
- 5层 棕色土 10YR 4/4
- 6层 红棕色土 10YR 4/3
- 7层 棕色土 7.5YR 4/4
- 8层 暗棕色土 7.5YR 5/5

0 2m

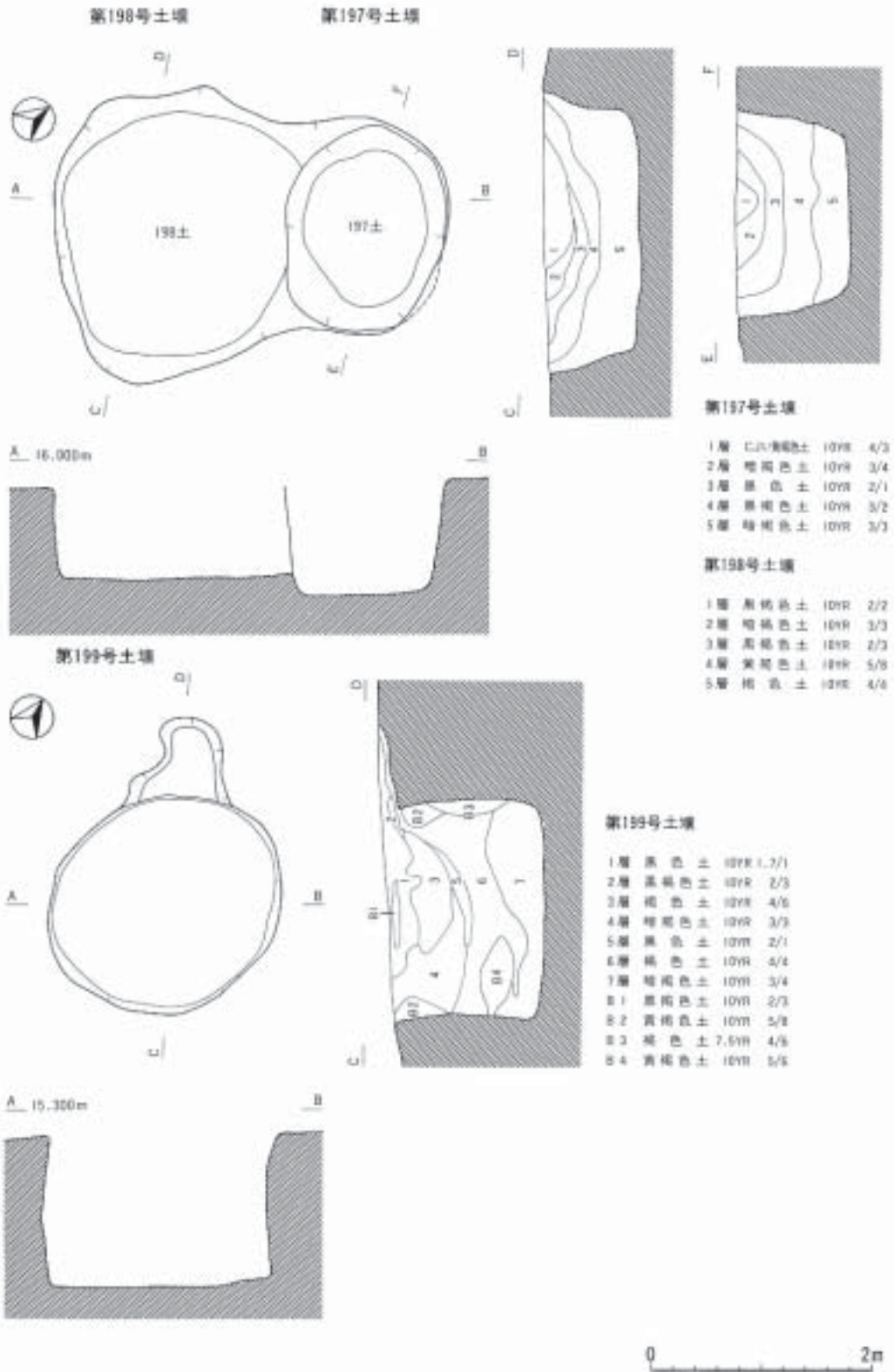
第82图 土壤33(第188·191号)



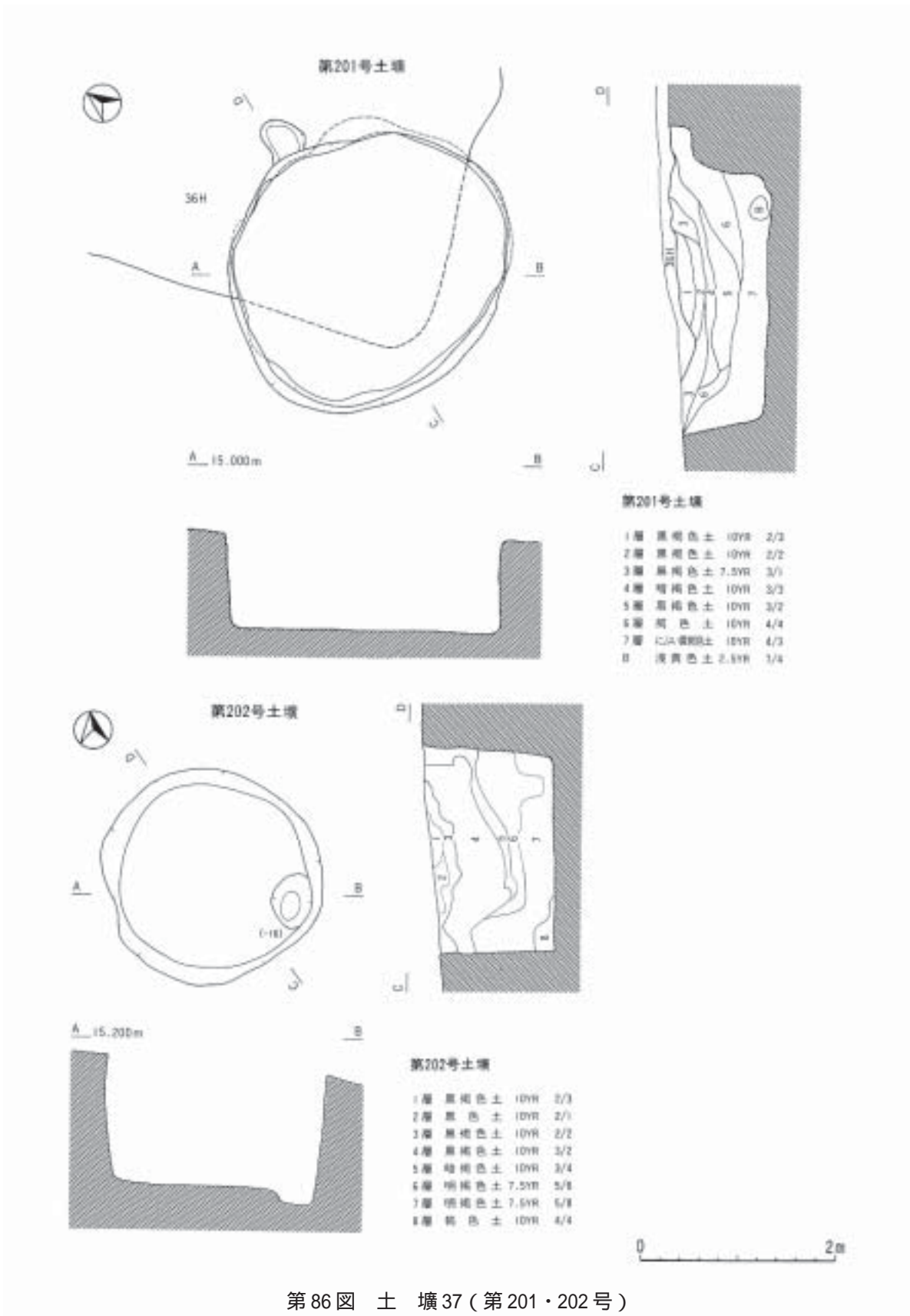
第83图 土壤34 (第189·190·192·195号)



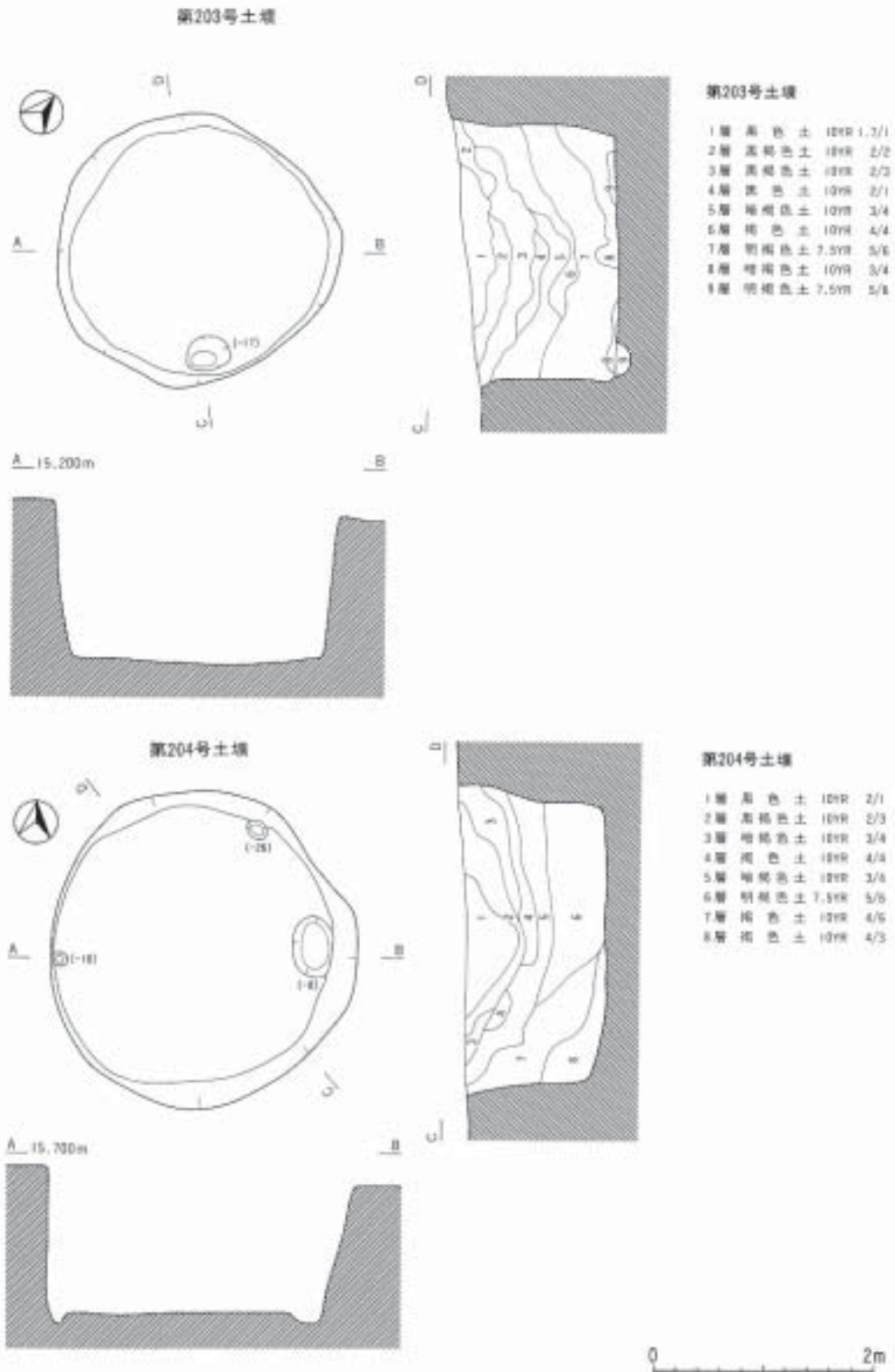
第84图 土壤35(第194·196号)



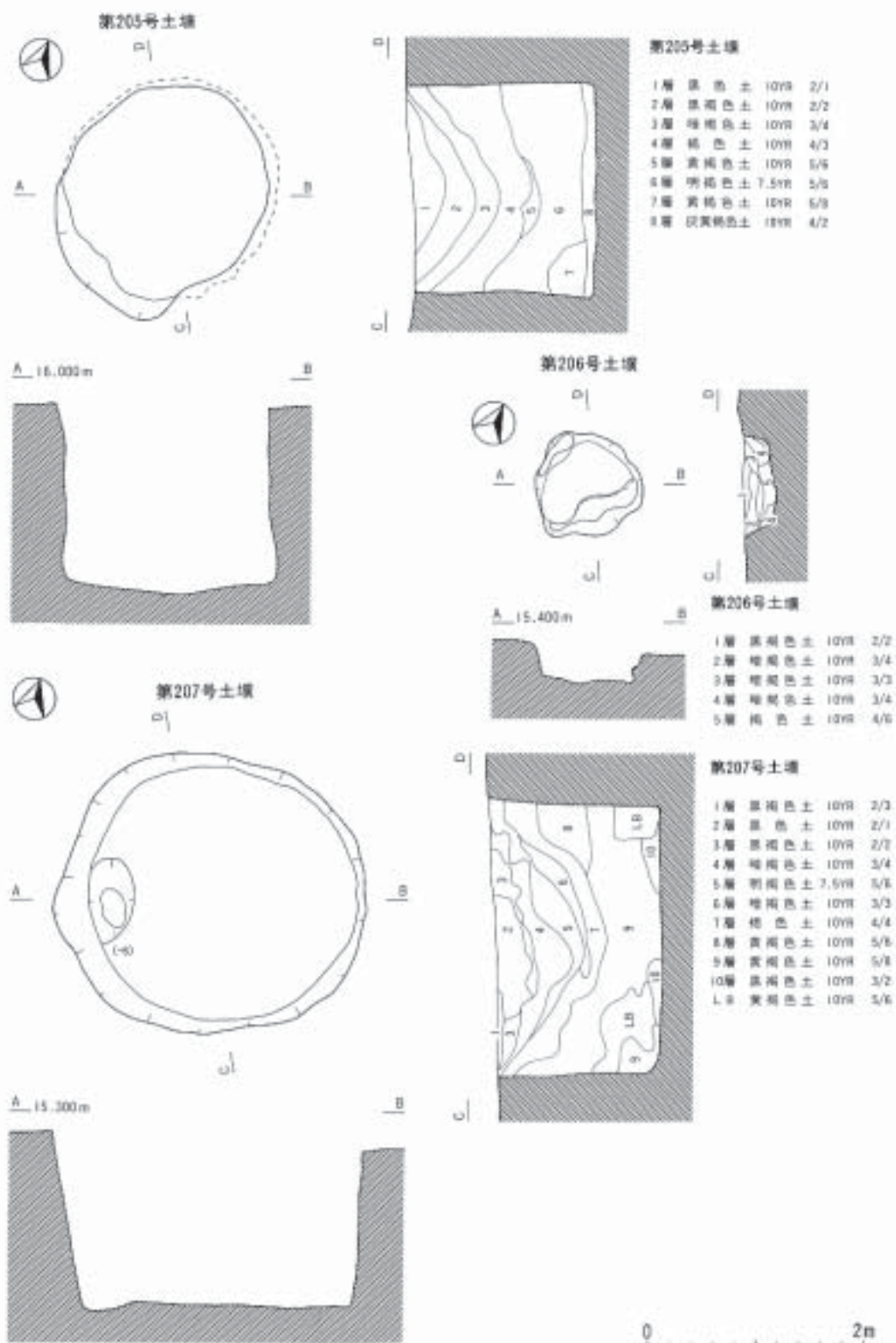
第85图 土 壙36(第197·198·199号)



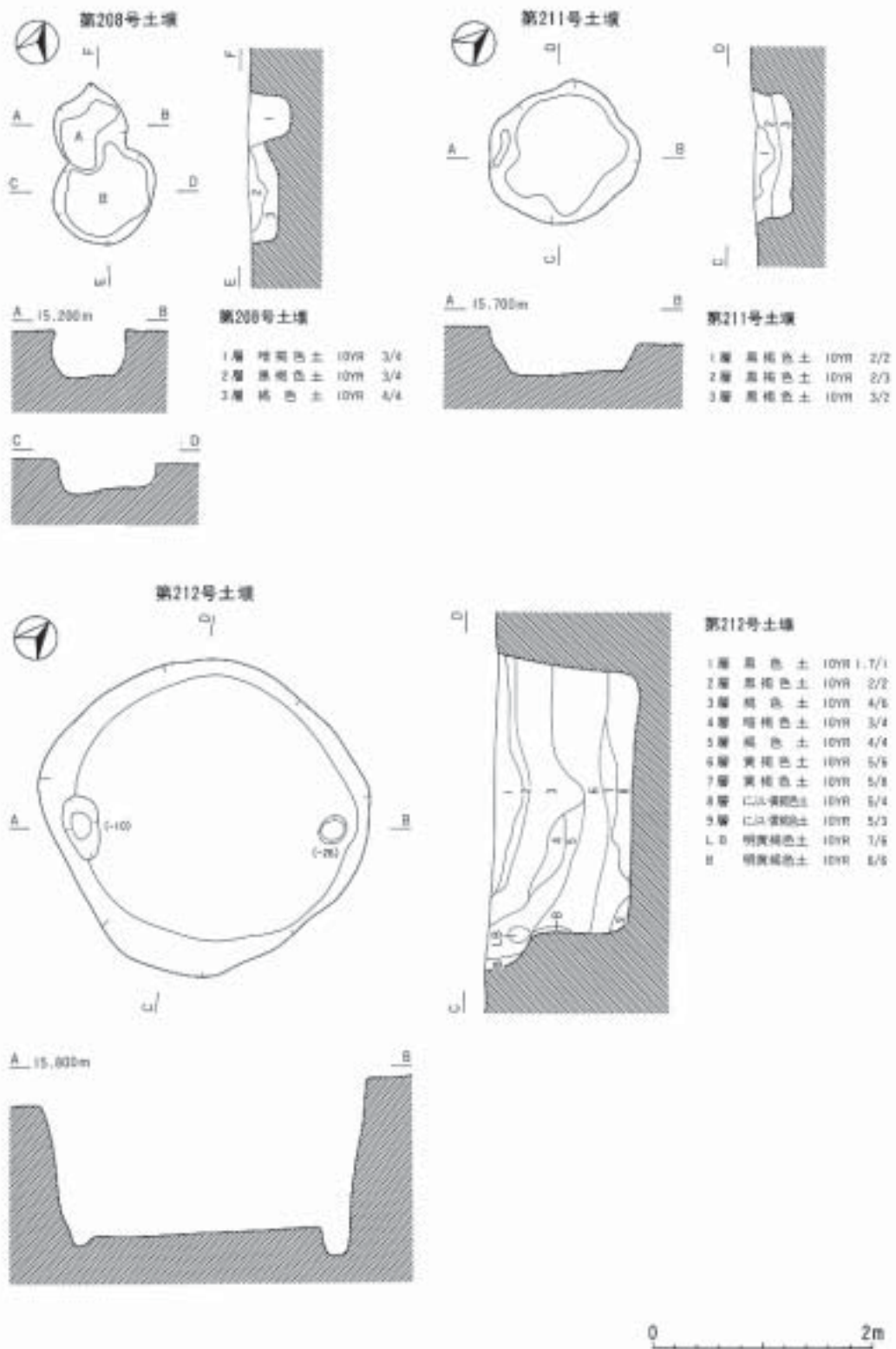
第86图 土壤37(第201·202号)



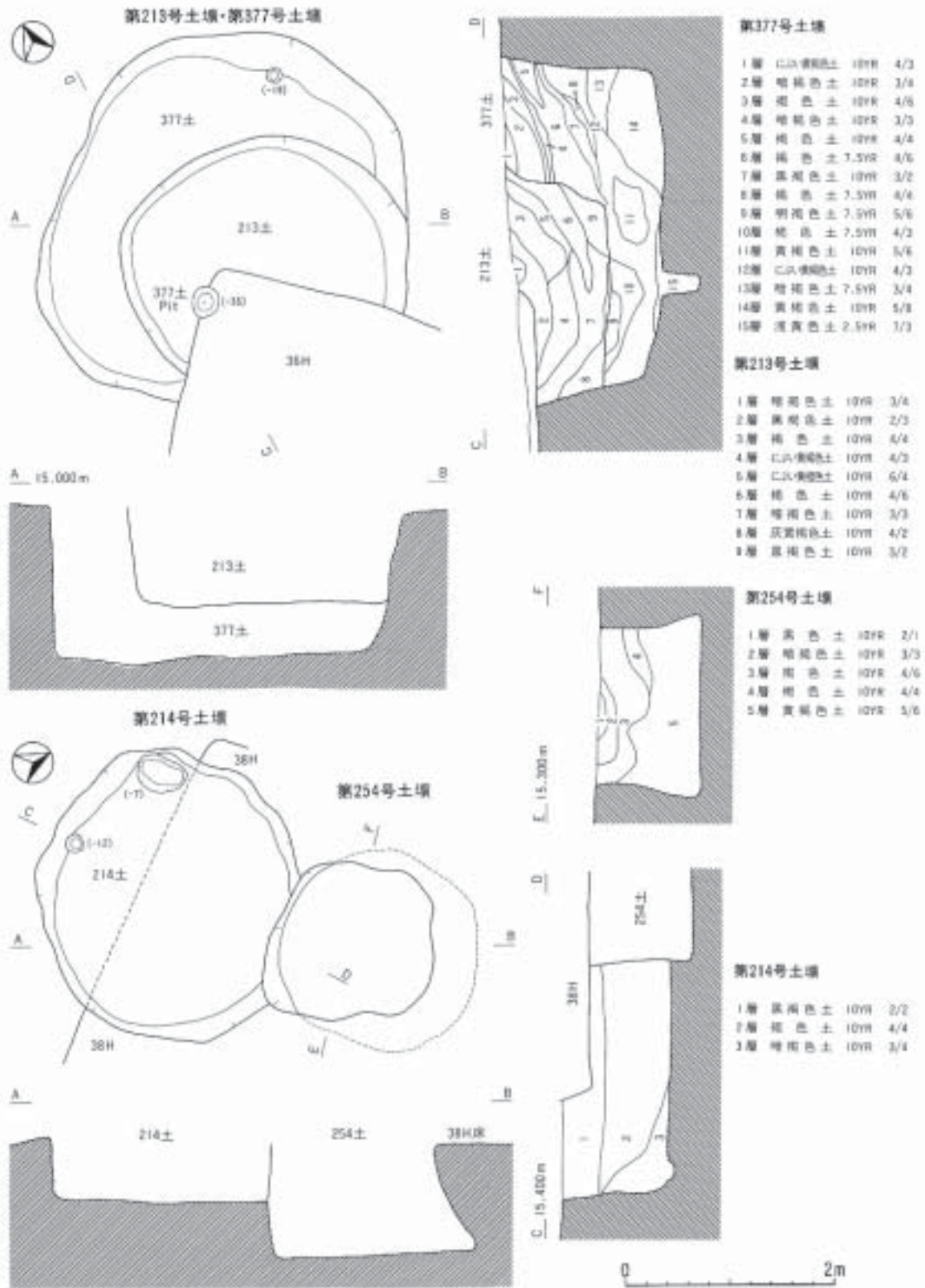
第 87 图 土 坑 38 (第 203 · 204 号)



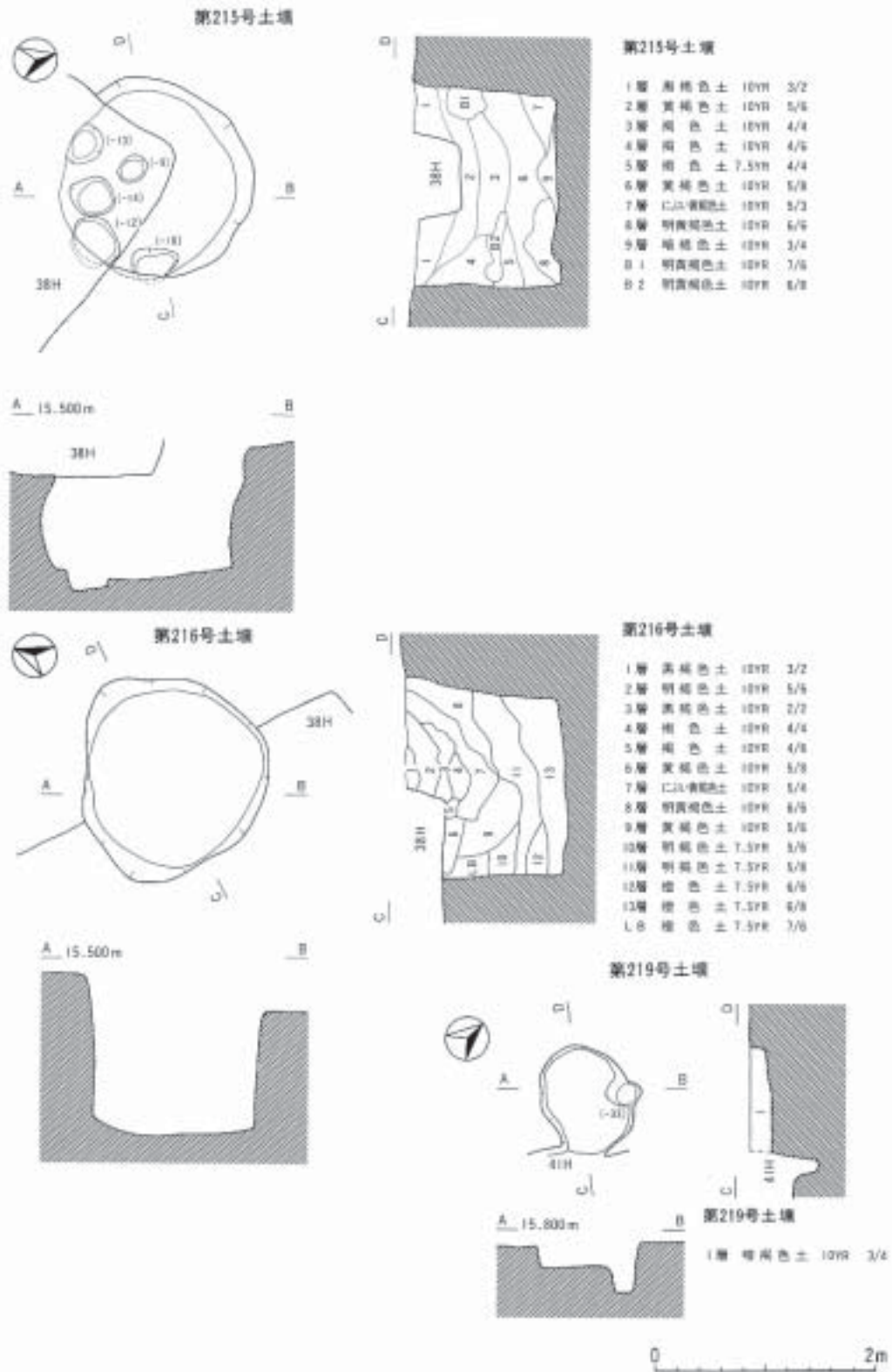
第88图 土壤39(第205·206·207号)



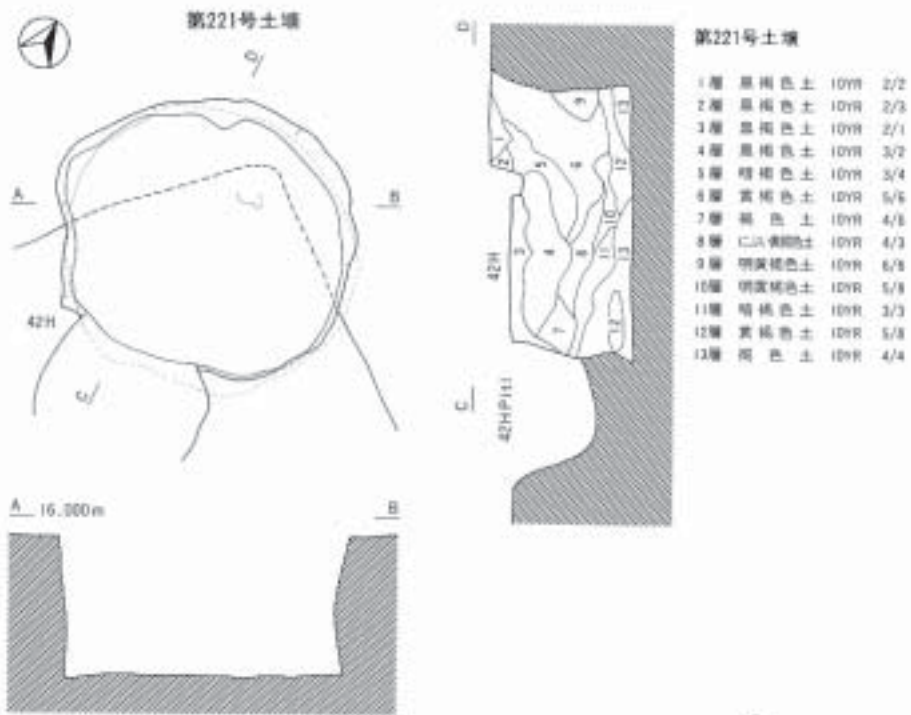
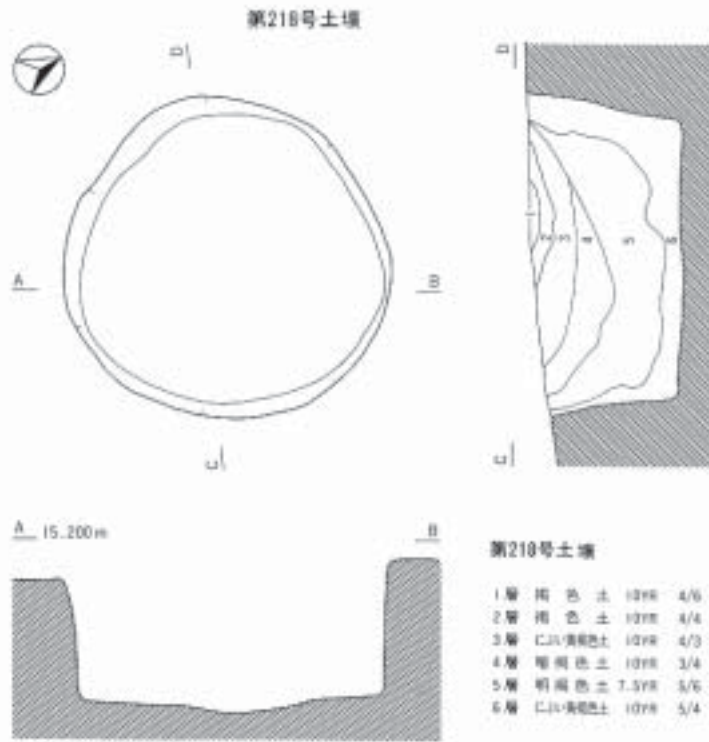
第89图 土壤40(第208·211·212号)



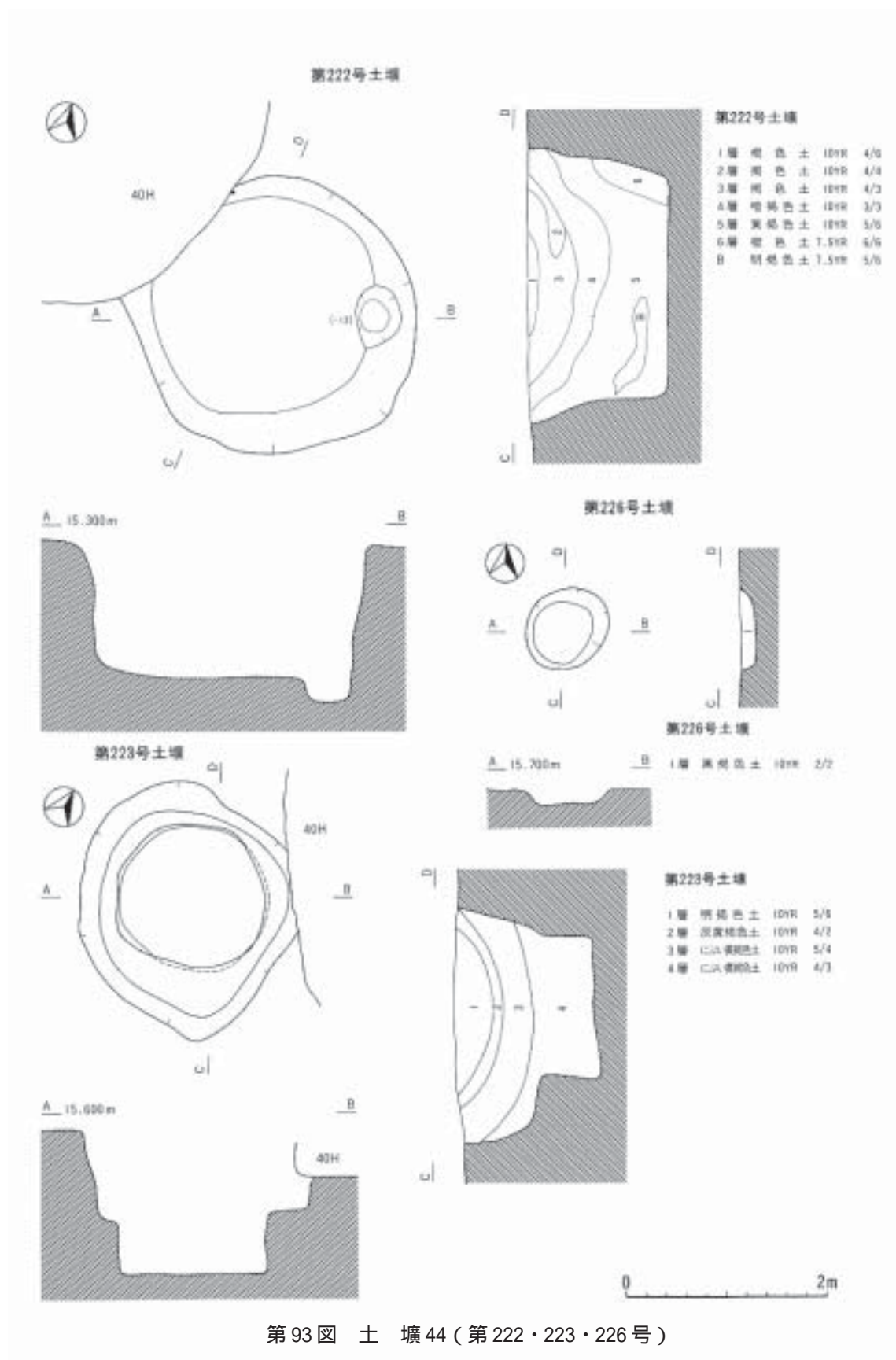
第90图 土壤41(第213·214·254·377号)



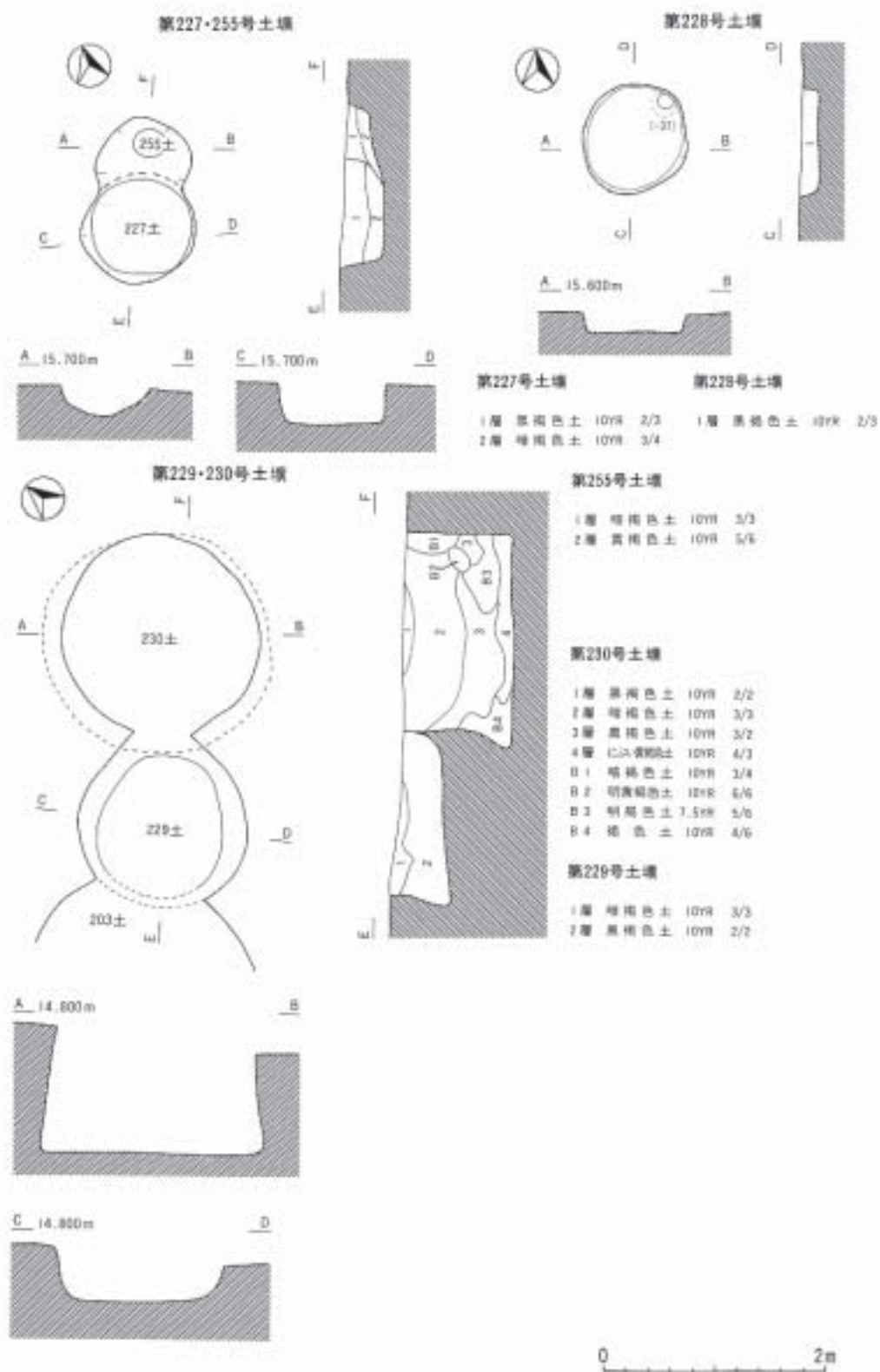
第91图 土壤42(第215·216·219号)



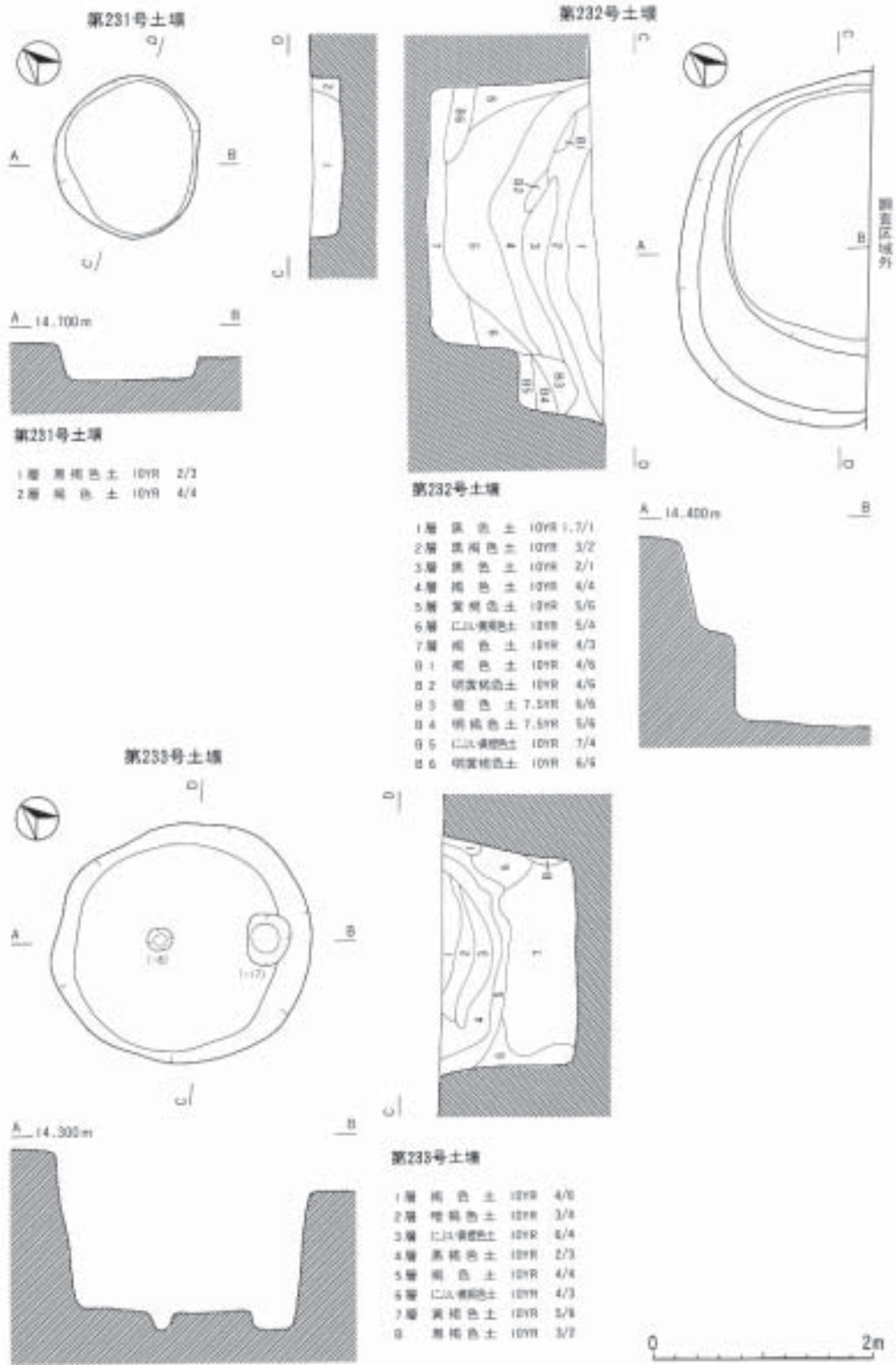
第92图 土壤43 (第218·221号)



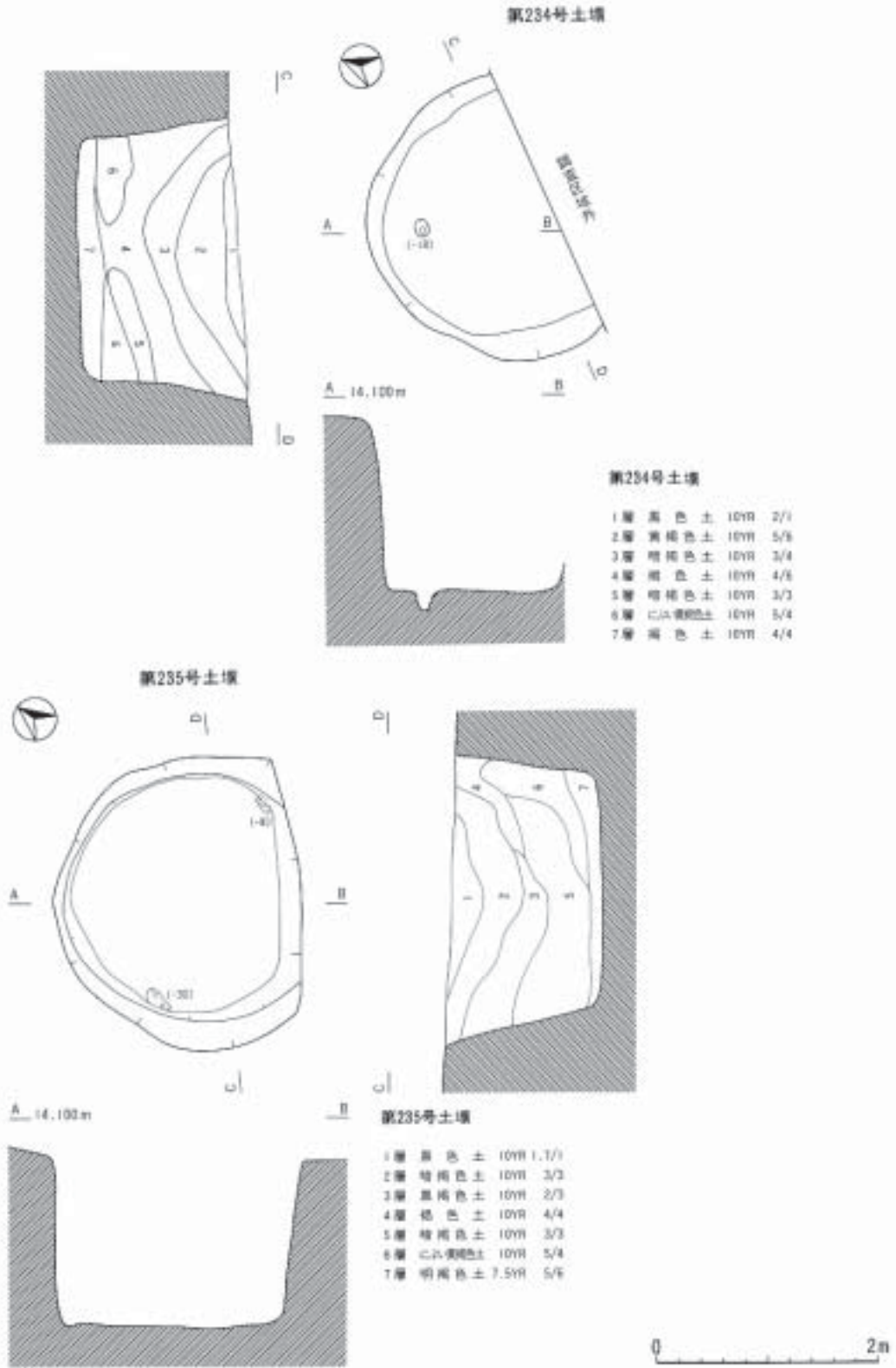
第93图 土壤44(第222·223·226号)



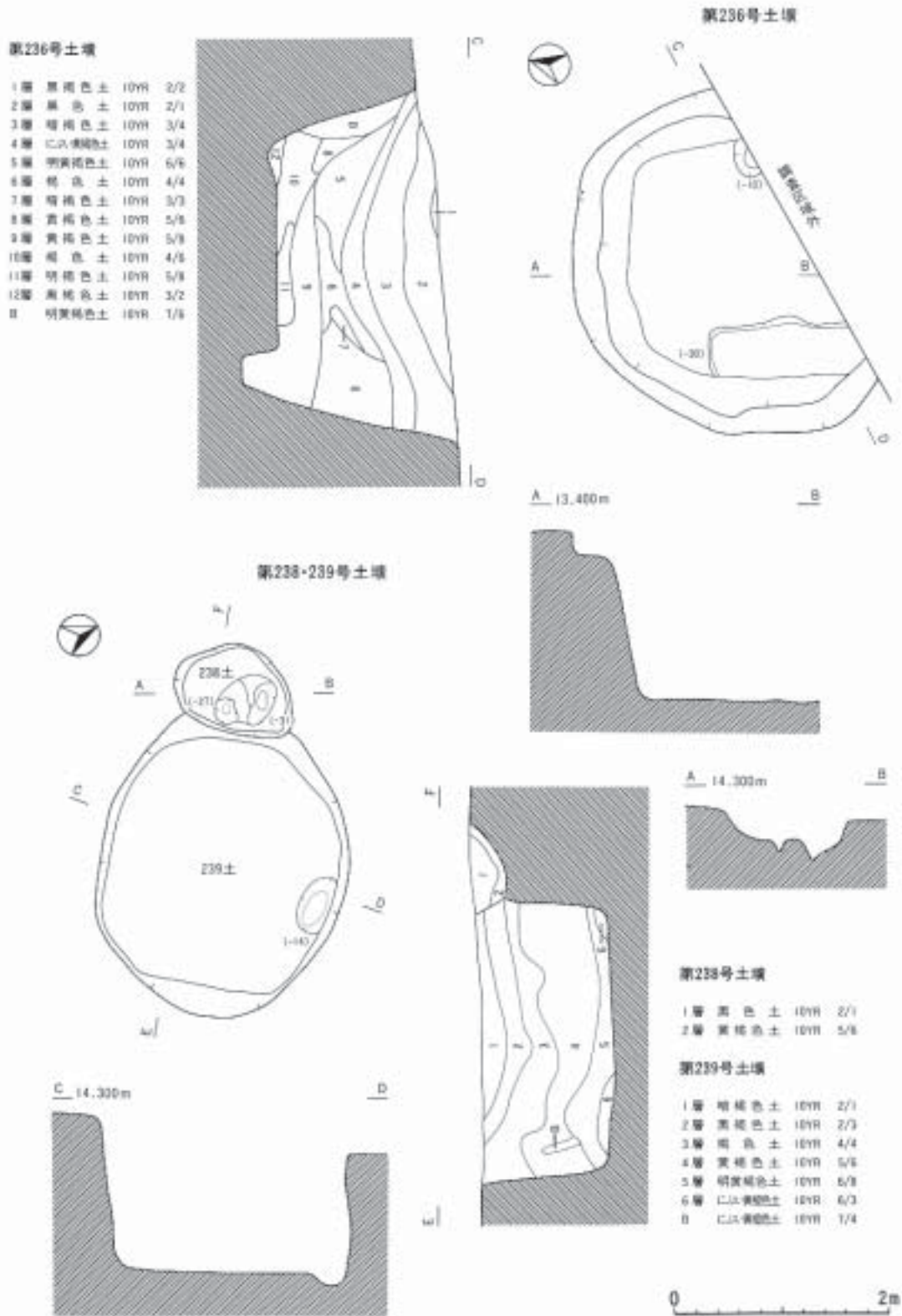
第94图 土坑45(第227·228·229·230·255号)



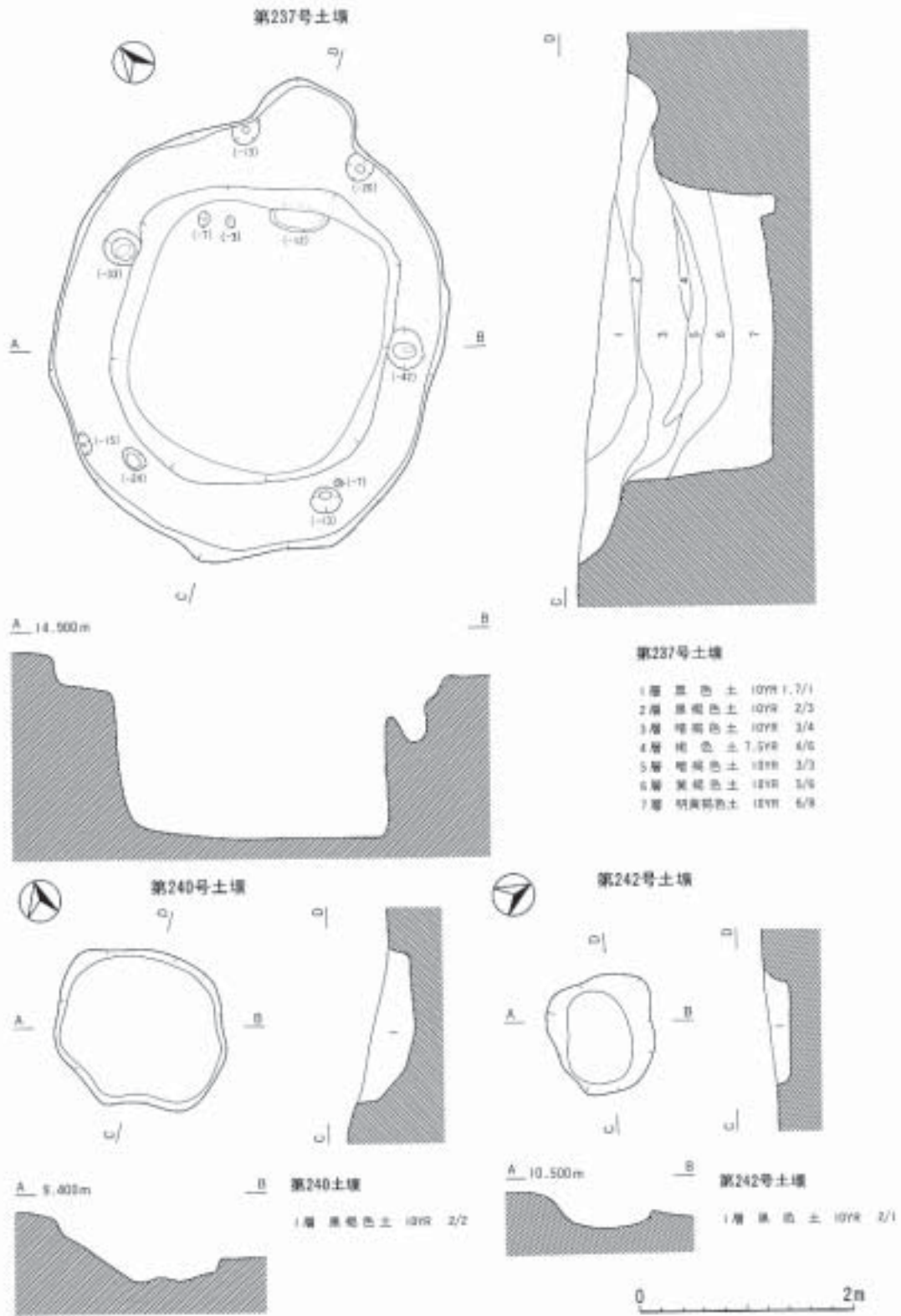
第95图 土 壤46(第231·232·233号)



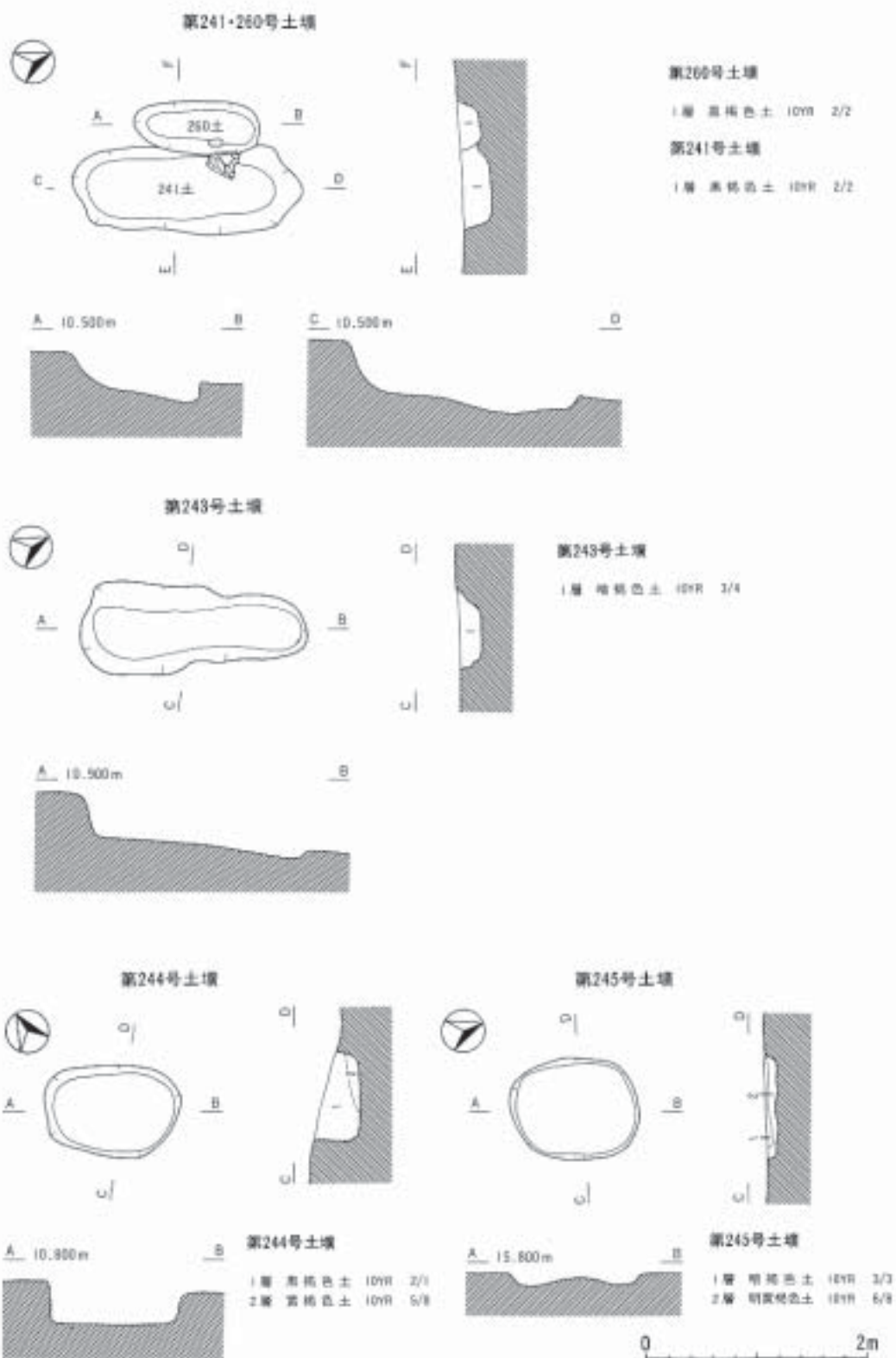
第96图 土 壤47(第234·235号)



第97图 土壤48(第236·238·239号)

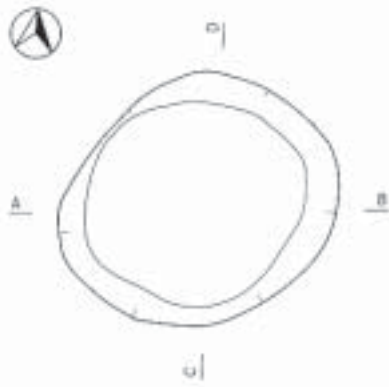


第98图 土壤49(第237·240·242号)



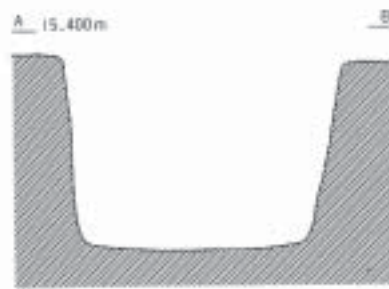
第99图 土壤50 (第241·243·244·245·260号)

第246号土壤



第246号土壤

- 1层 暗棕色土 7.5YR 5/8
- 2层 黄棕色土 10YR 3/2
- 3层 暗棕色土 10YR 3/3
- 4层 棕色土 7.5YR 4/4
- 5层 棕色土 7.5YR 4/6
- 6层 黑棕色土 10YR 3/1



第247号土壤

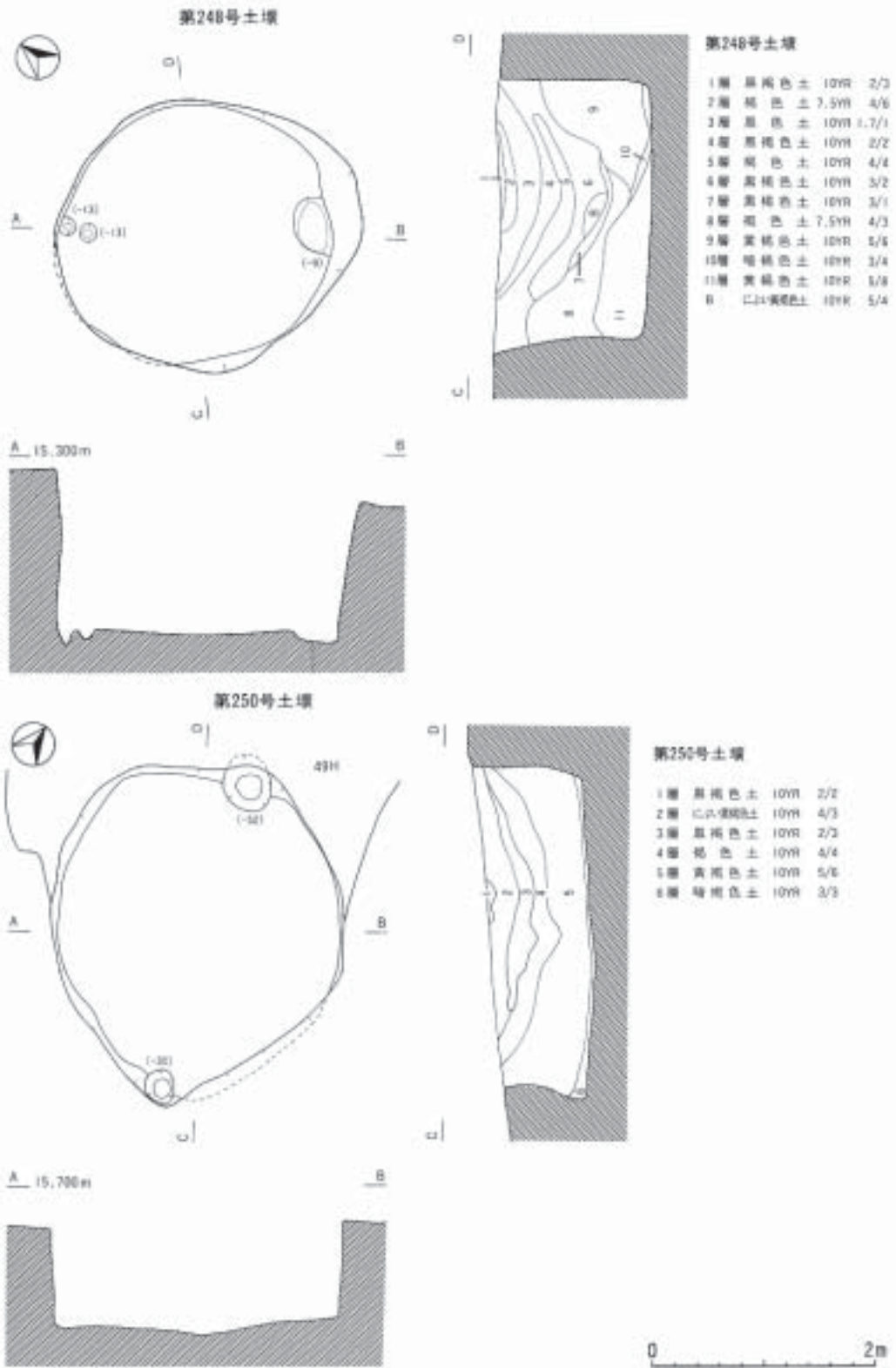


第247号土壤

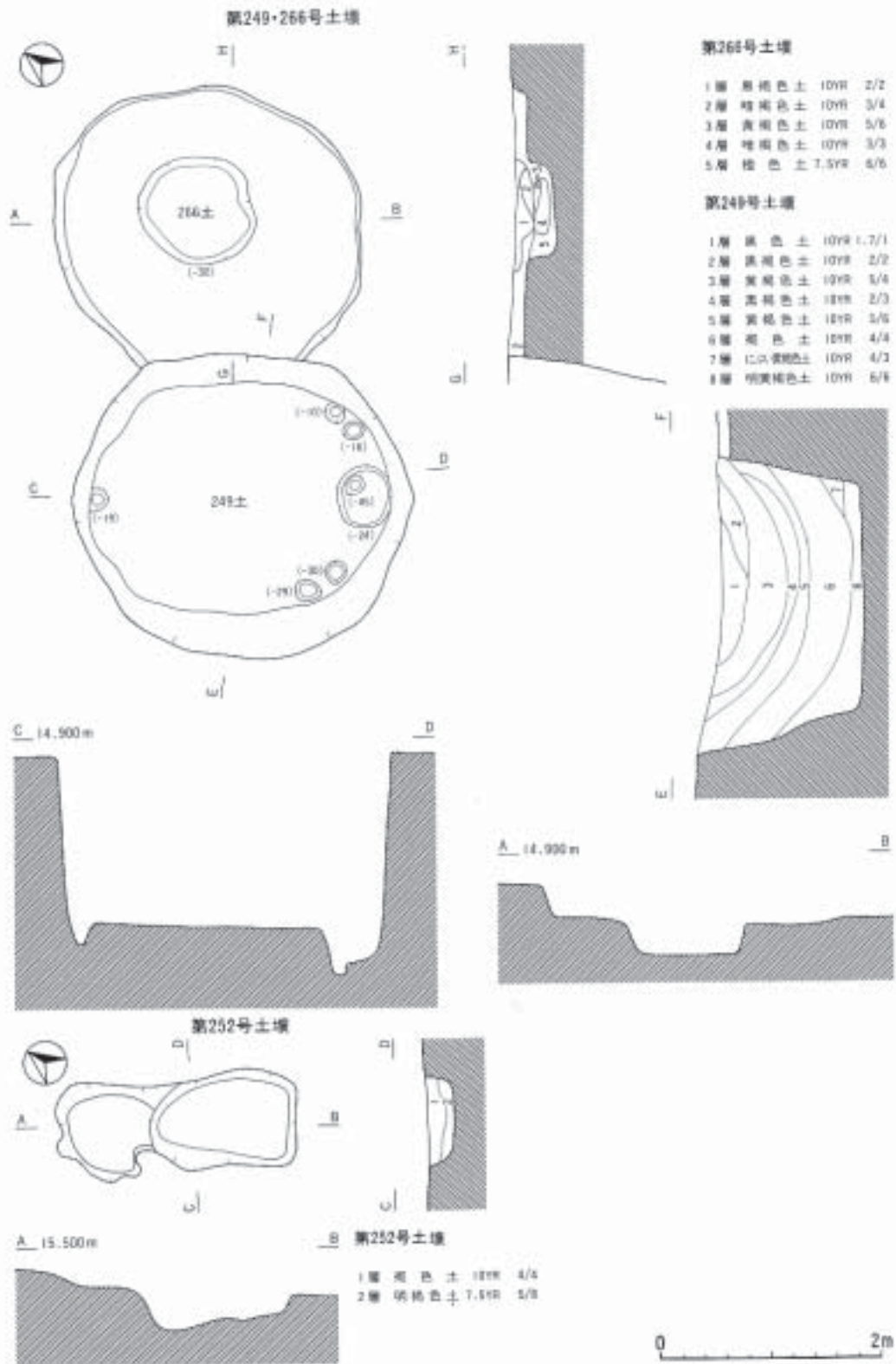
- 1层 暗棕色土 10YR 3/4
- 2层 棕色土 10YR 4/5
- 3层 黄棕色土 10YR 5/8
- 4 暗黄棕色土 10YR 6/8

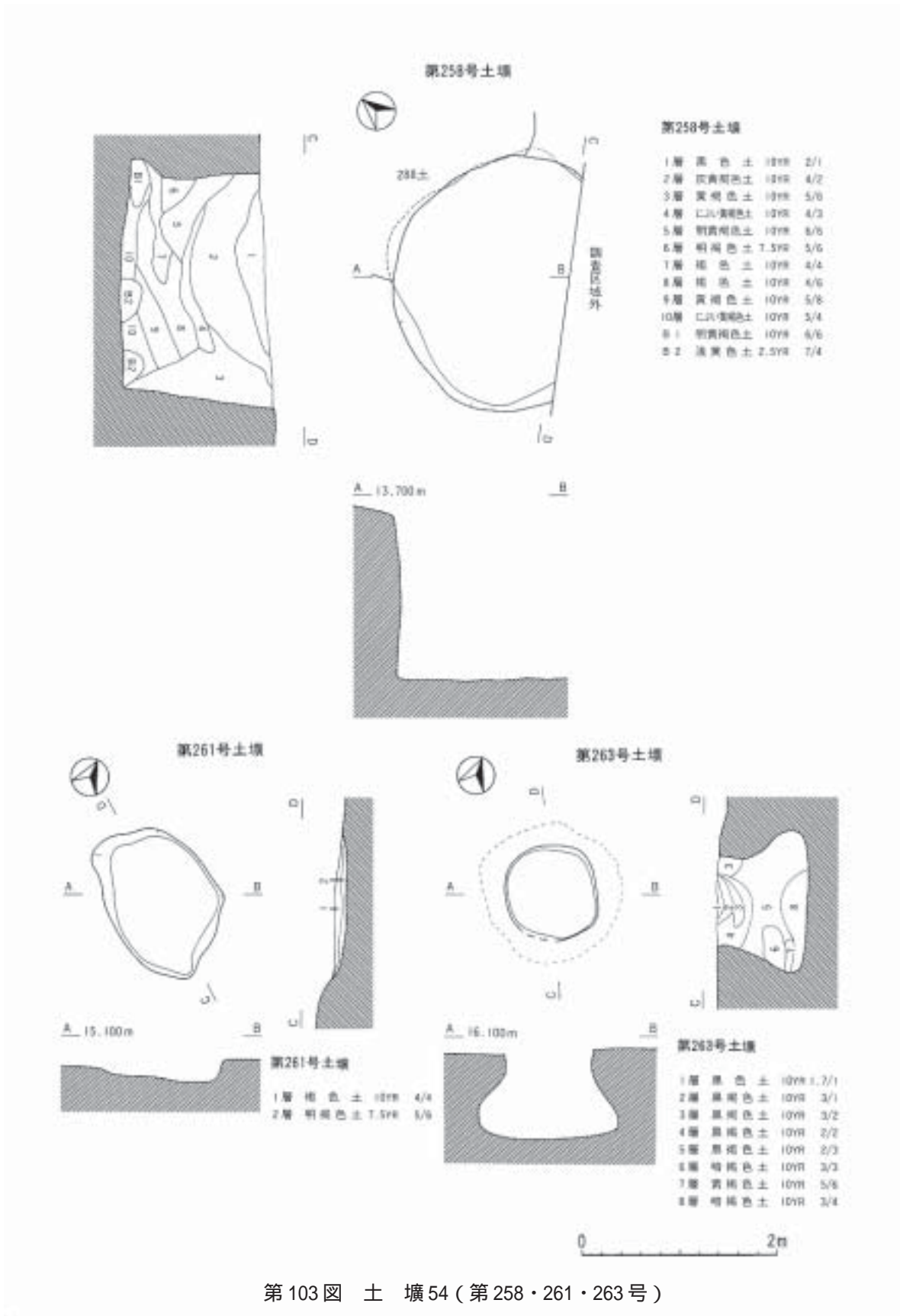


第100图 土壤51 (第246·247号)

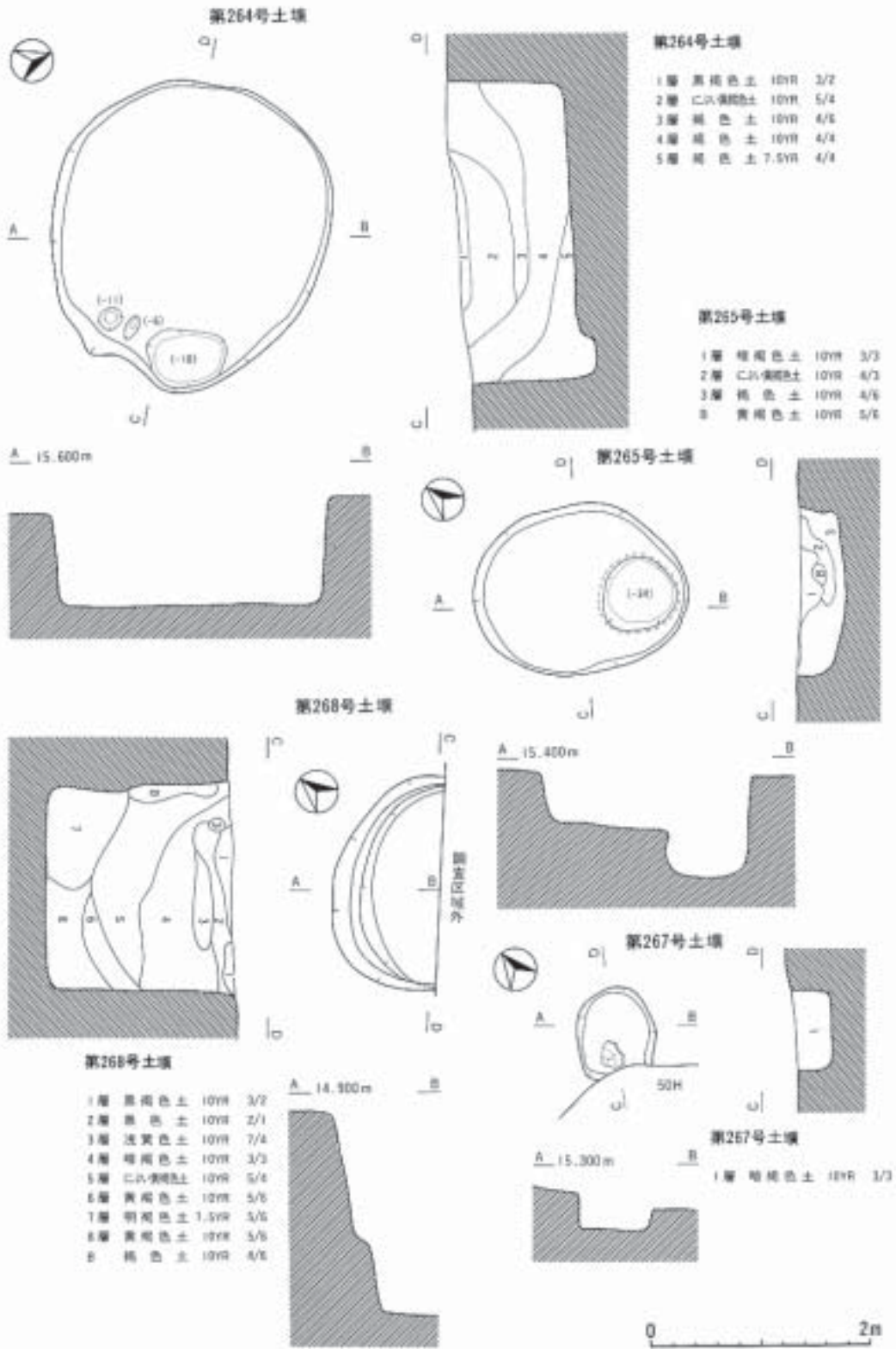


第101图 土壤52 (第248·250号)

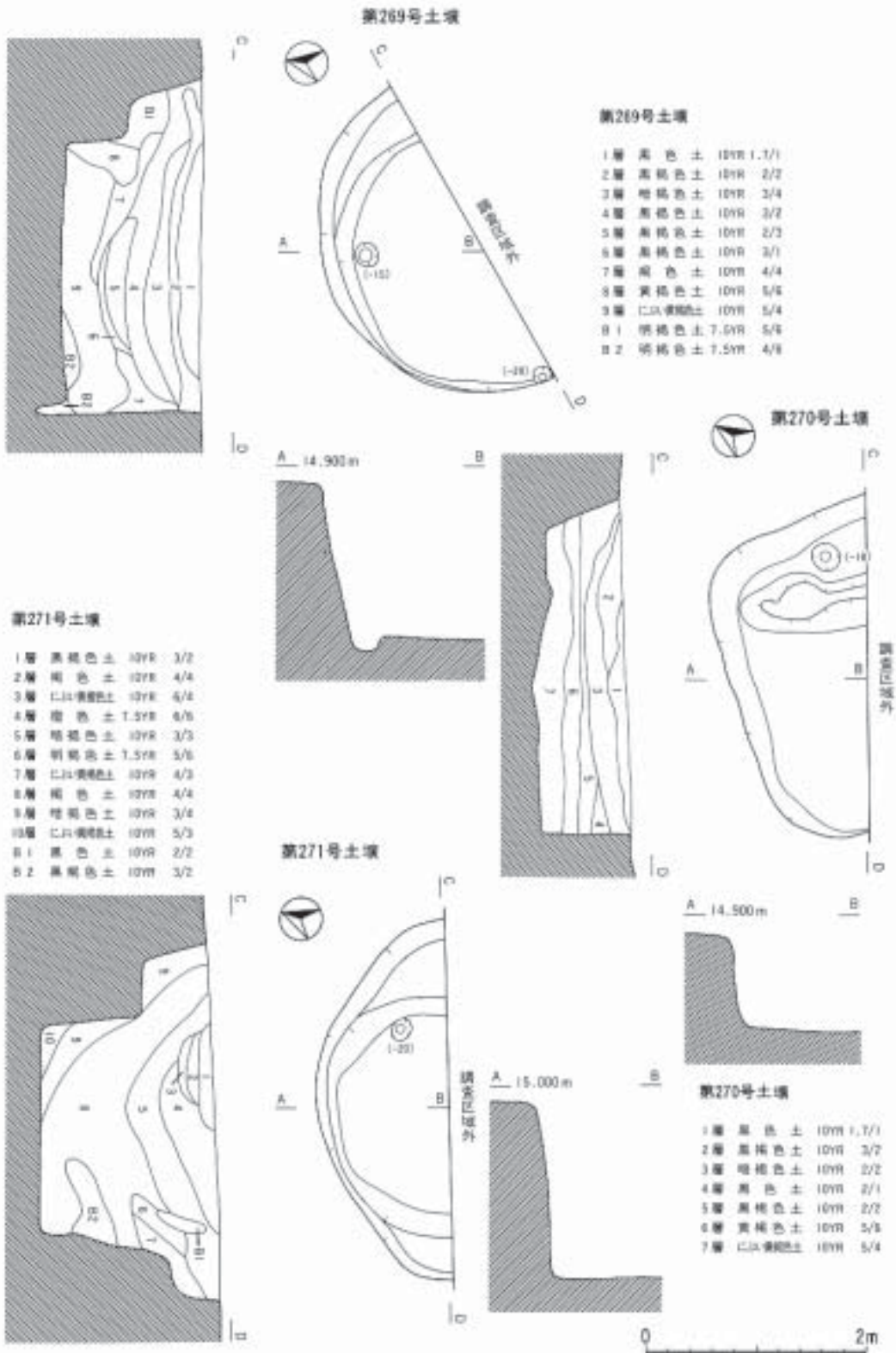




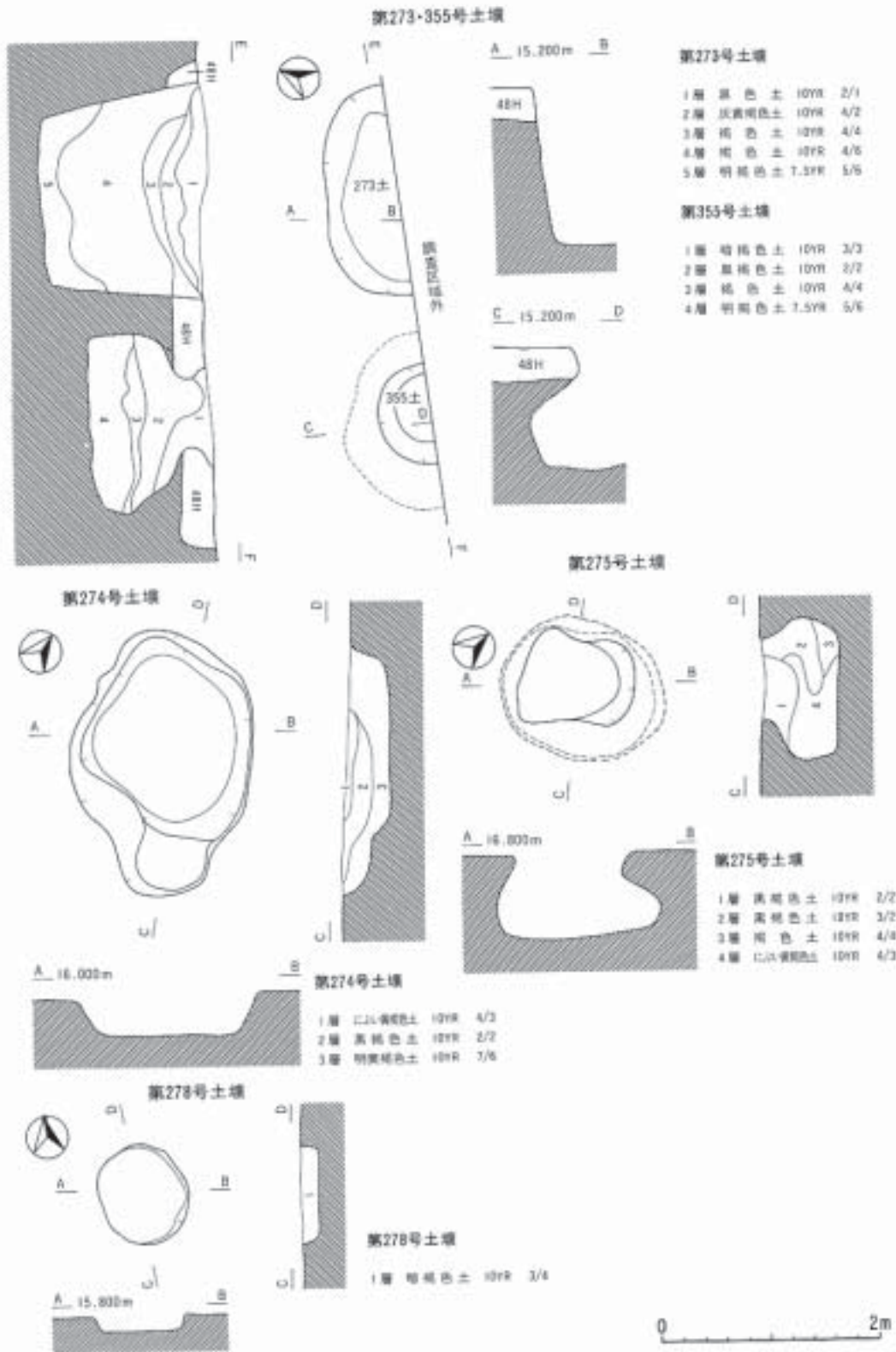
第103图 土壤54 (第258·261·263号)



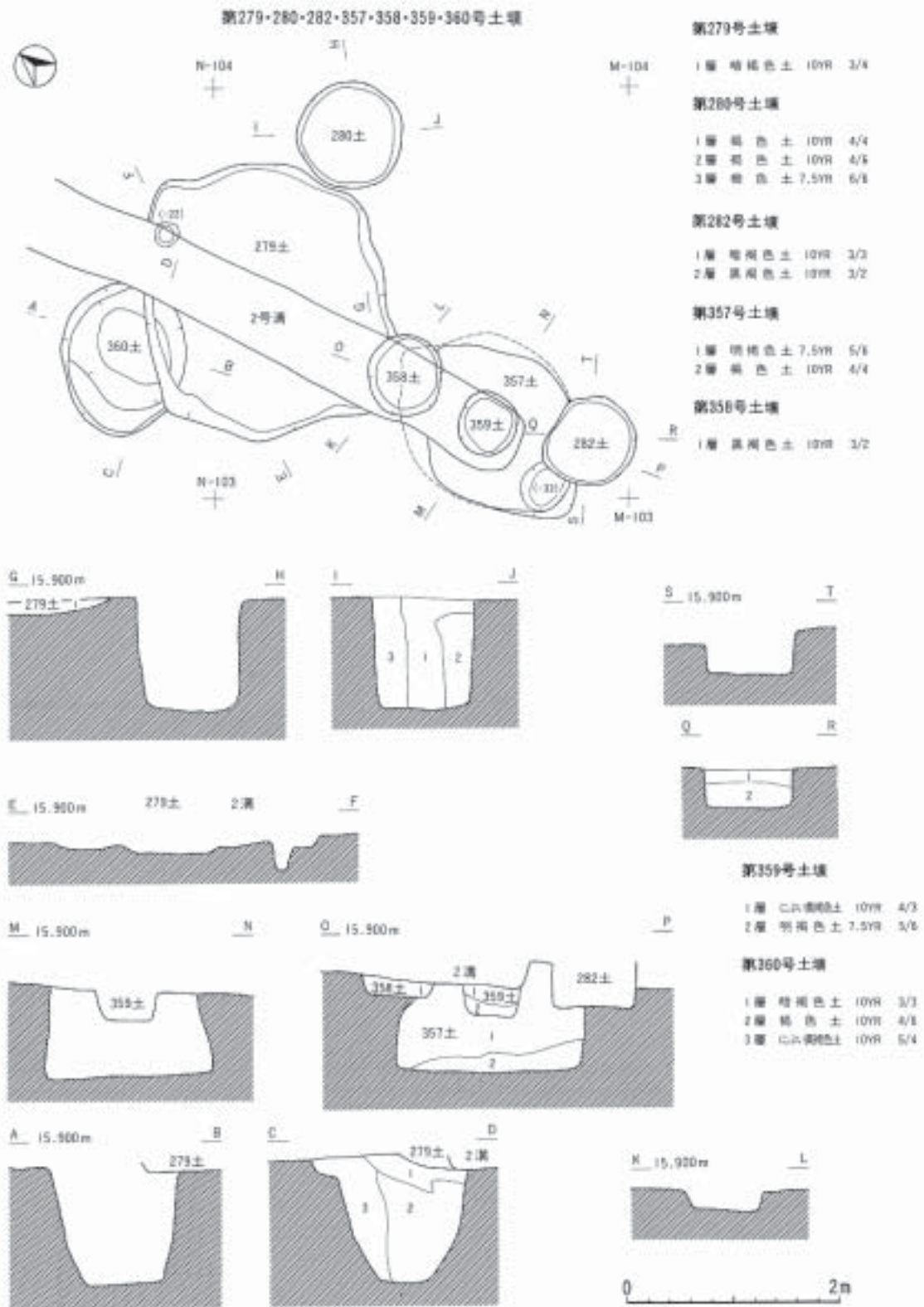
第104图 土壤55 (第264·265·267·268号)



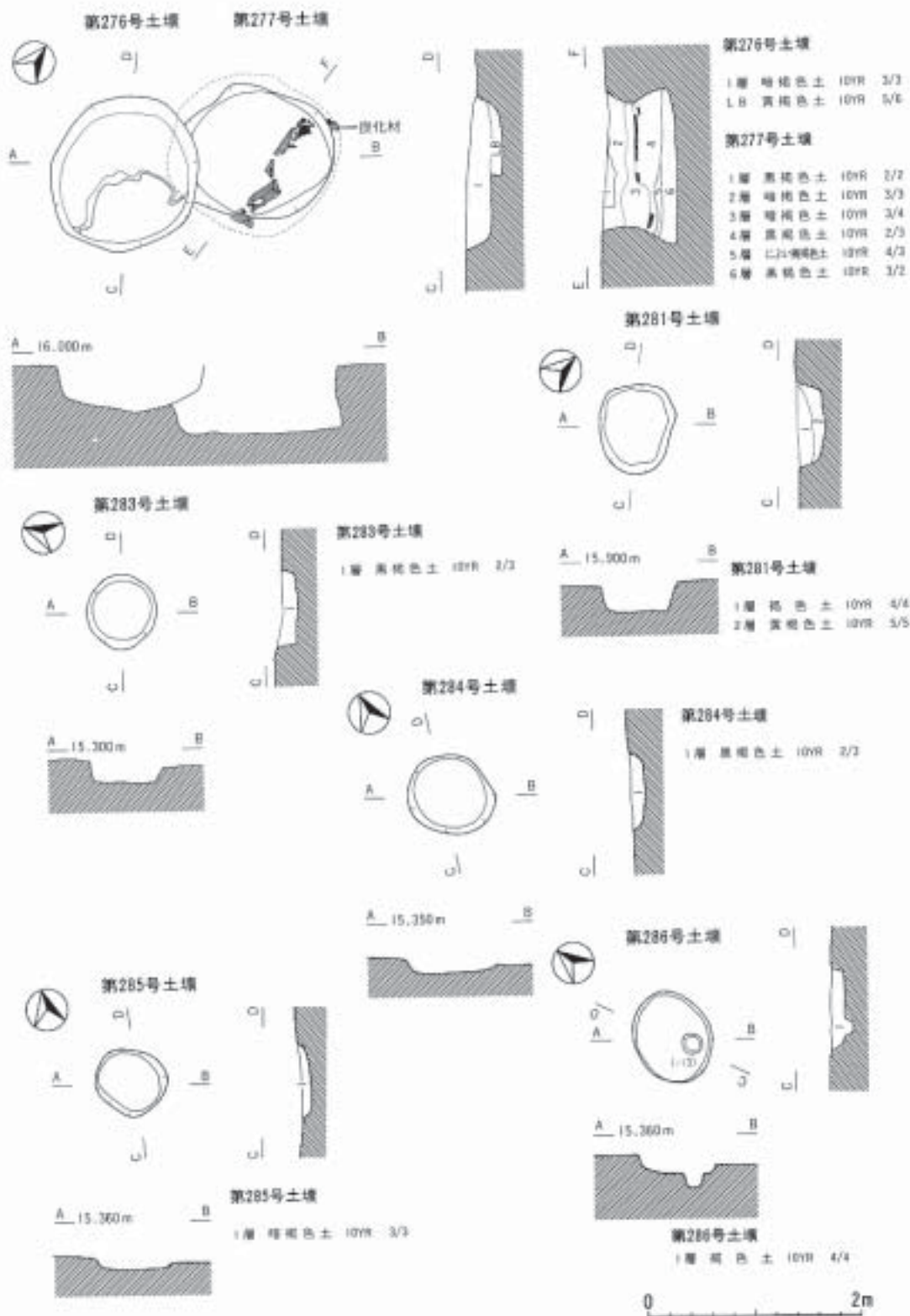
第105图 土壤56(第269·270·271号)



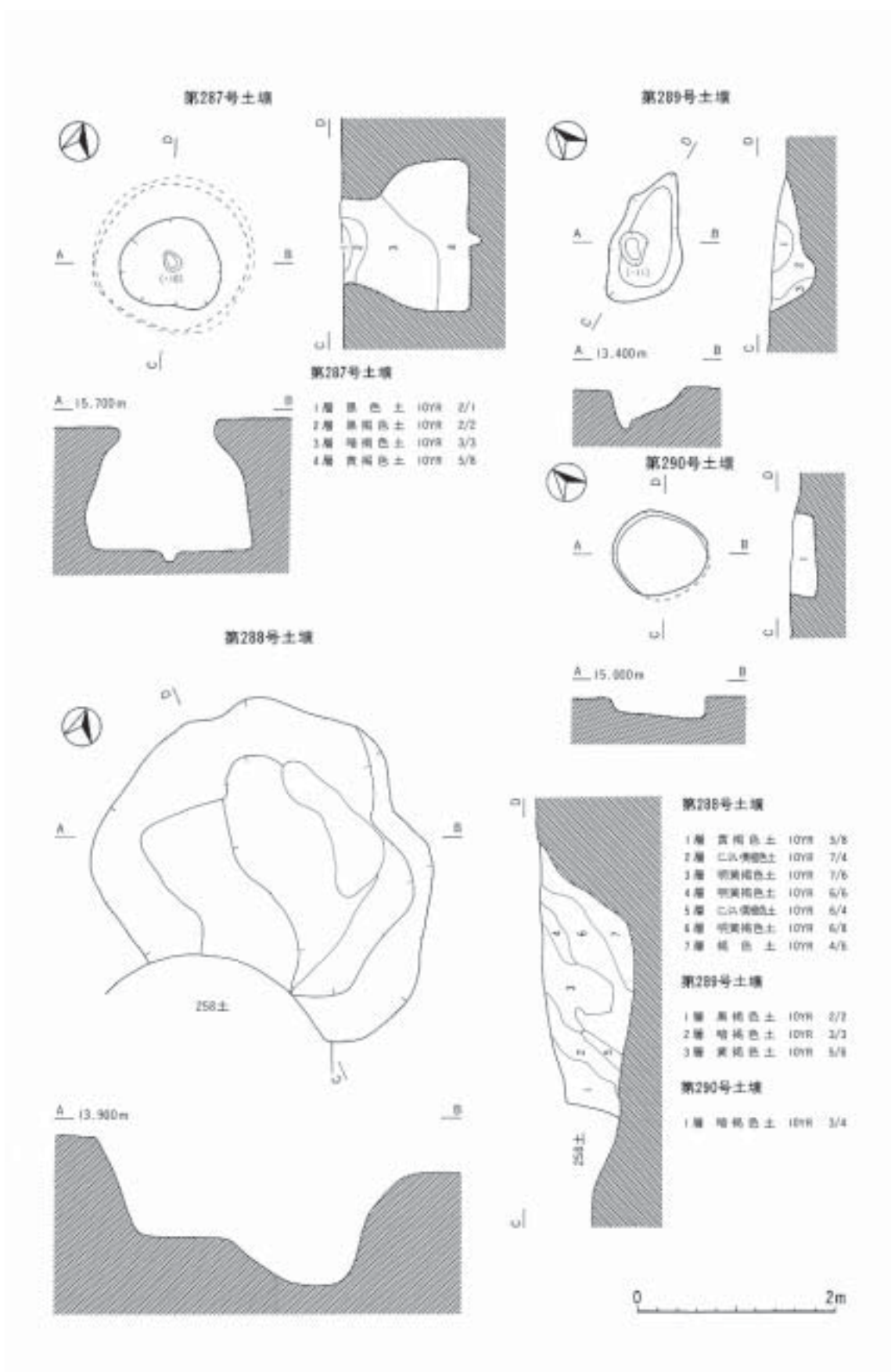
第106图 土壤57 (第273·274·275·278·355号)



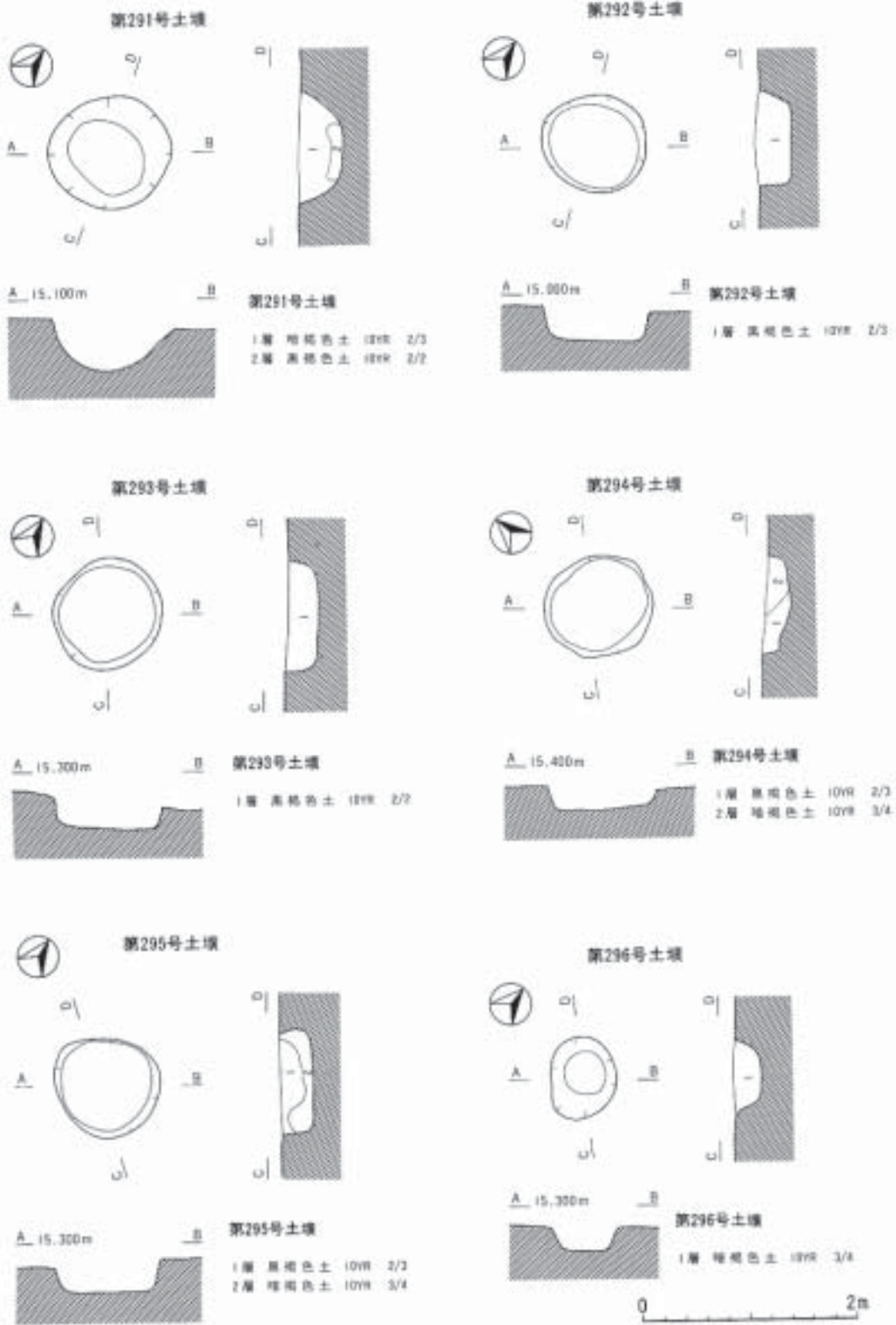
第107图 土壤58 (第279·280·282·357·358·359·360号)



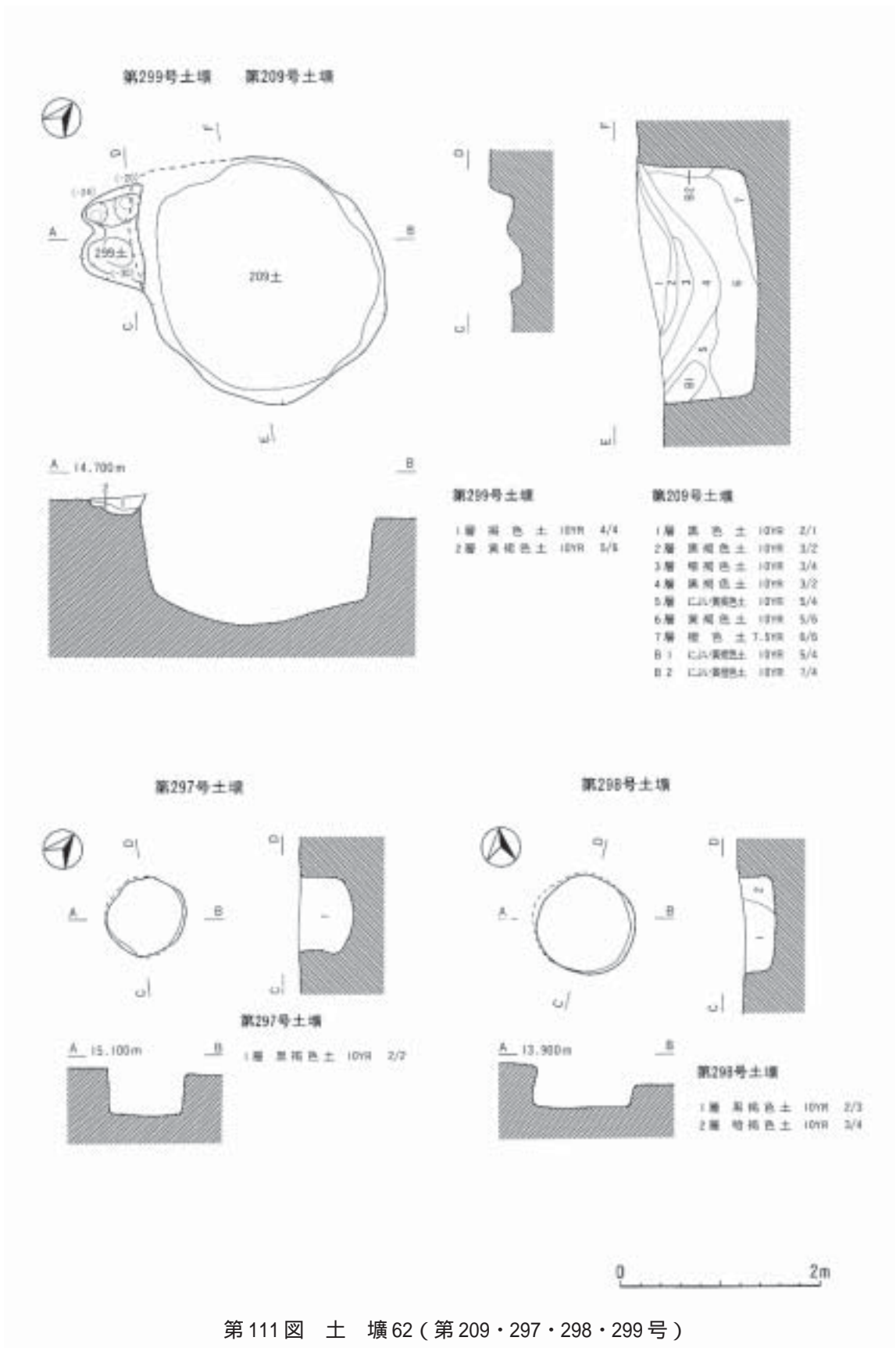
第108图 土壤59 (第276·277·281·283·284·285·286号)



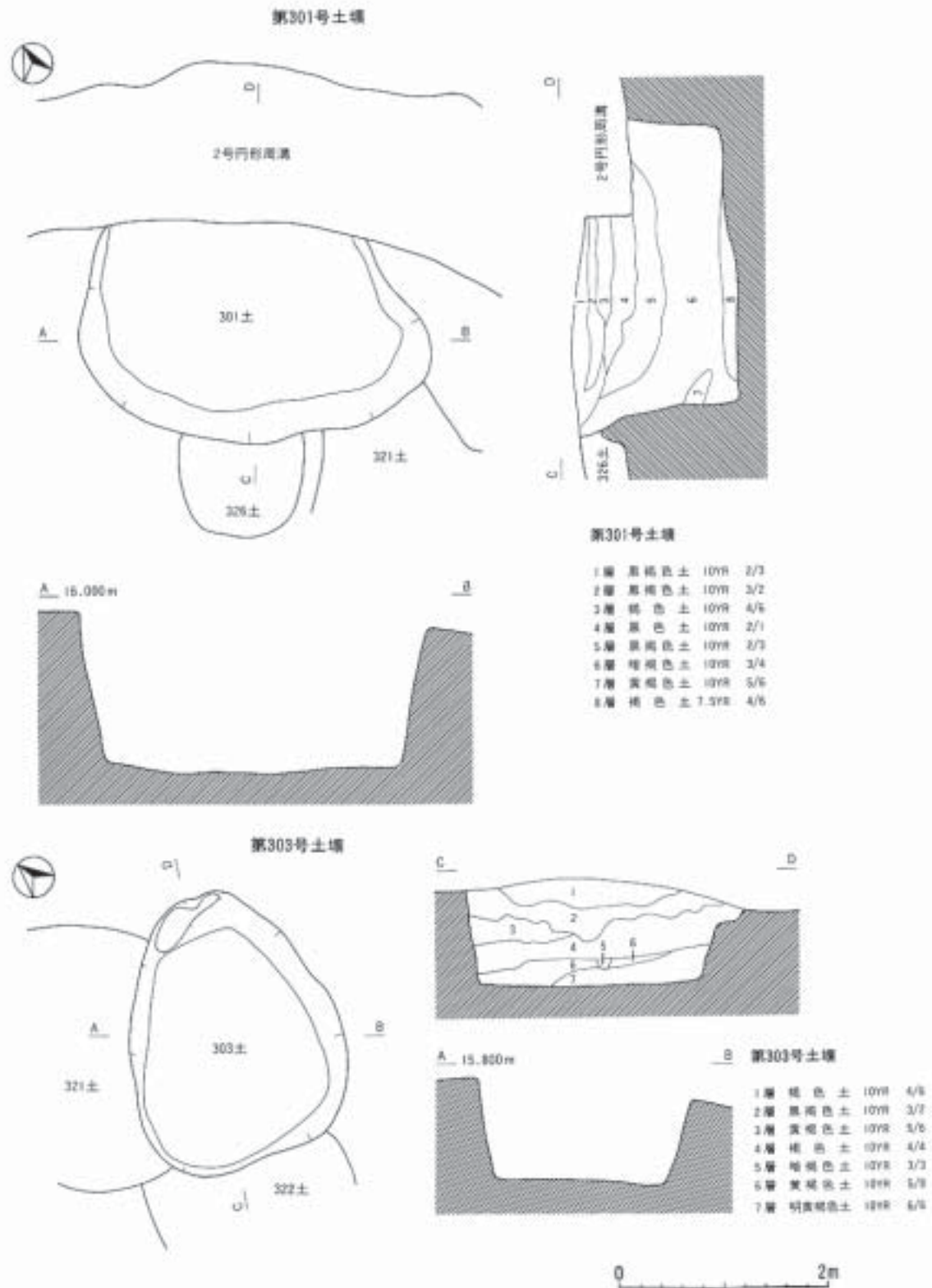
第109图 土壤60(第287·288·289·290号)



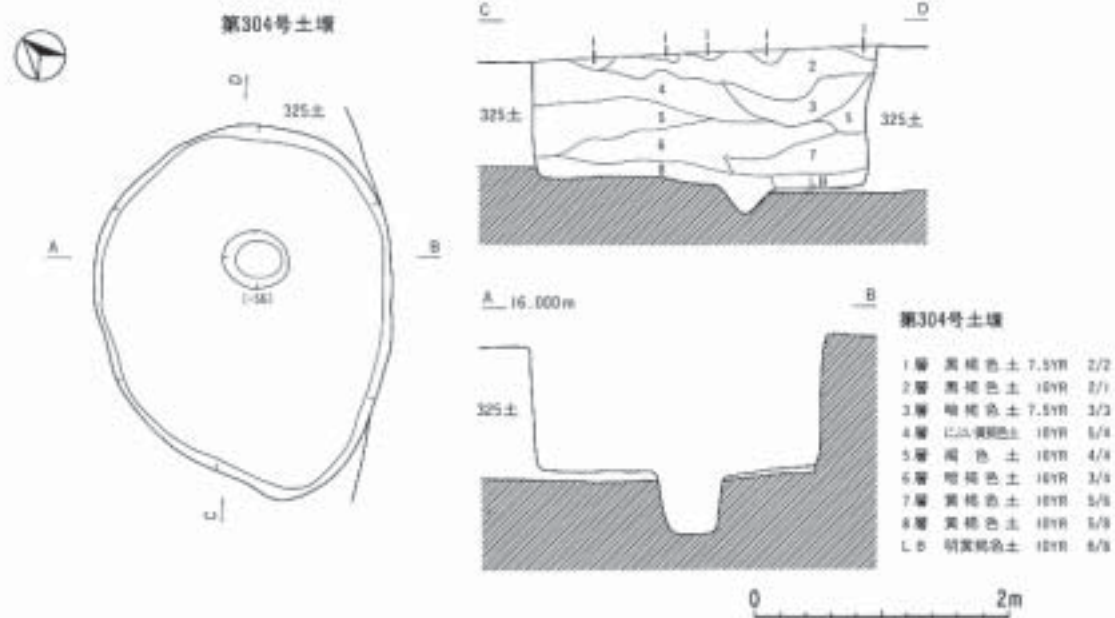
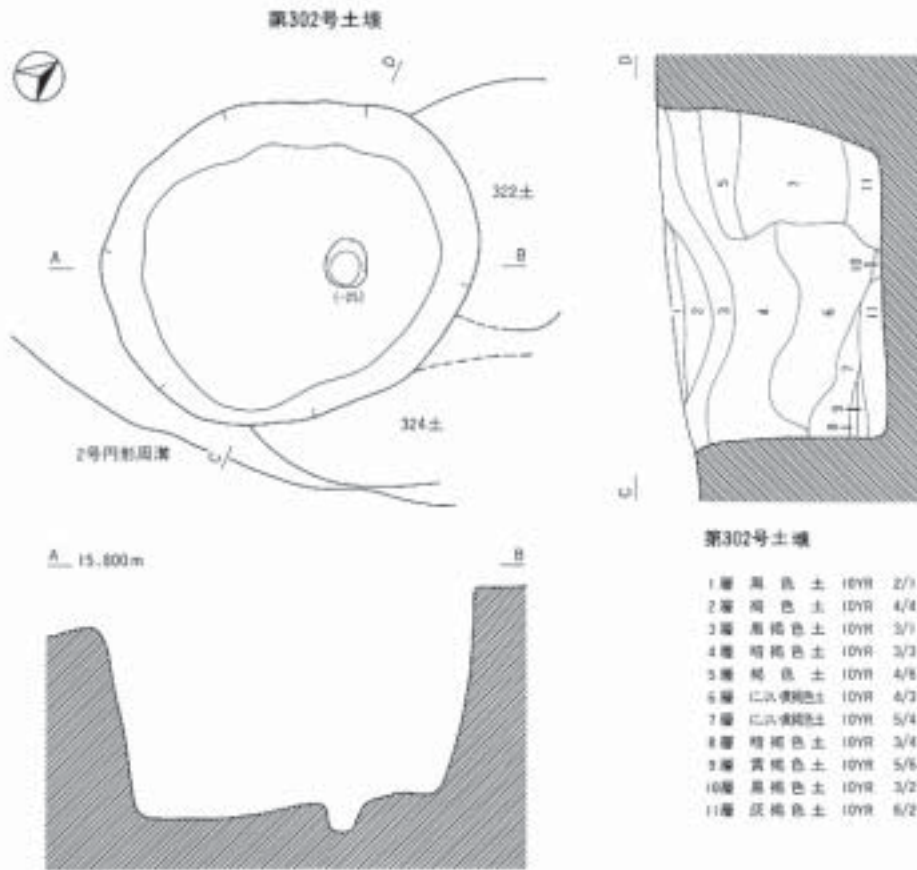
第110图 土壤61 (第291·292·293·294·295·296号)



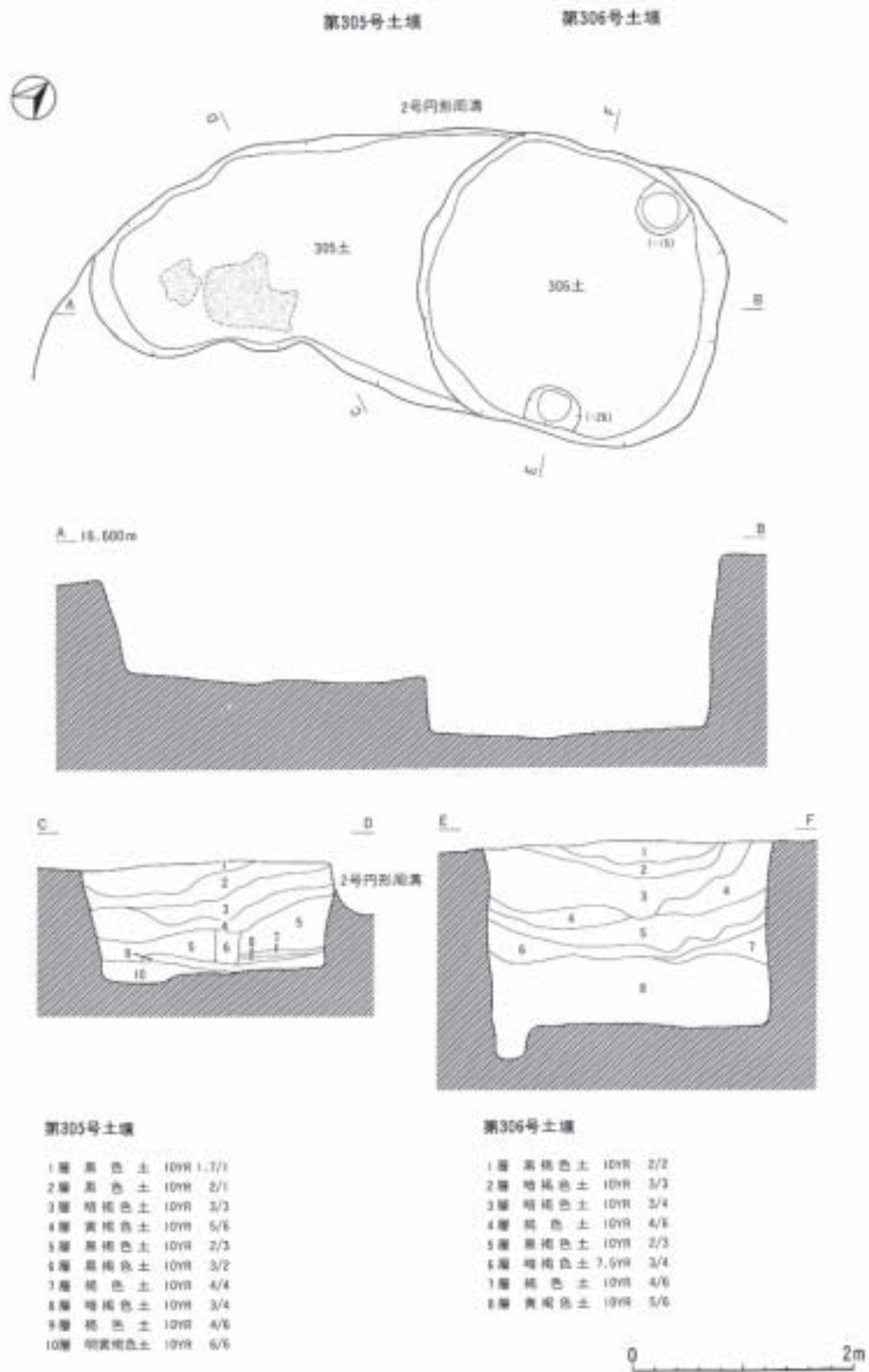
第111图 土壤62(第209·297·298·299号)



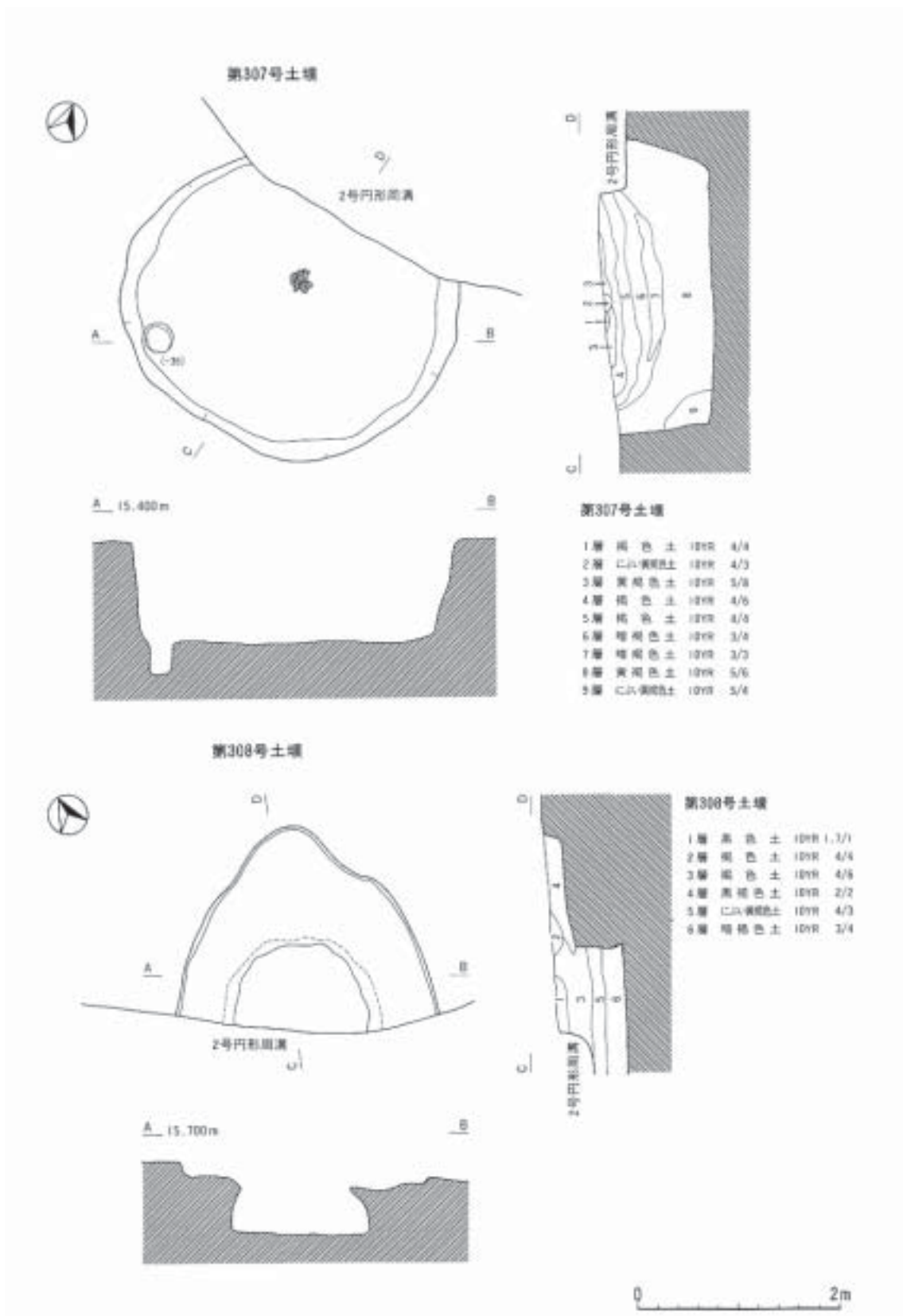
第112图 土壤63 (第301·303号)



第113图 土壤64 (第302·304号)

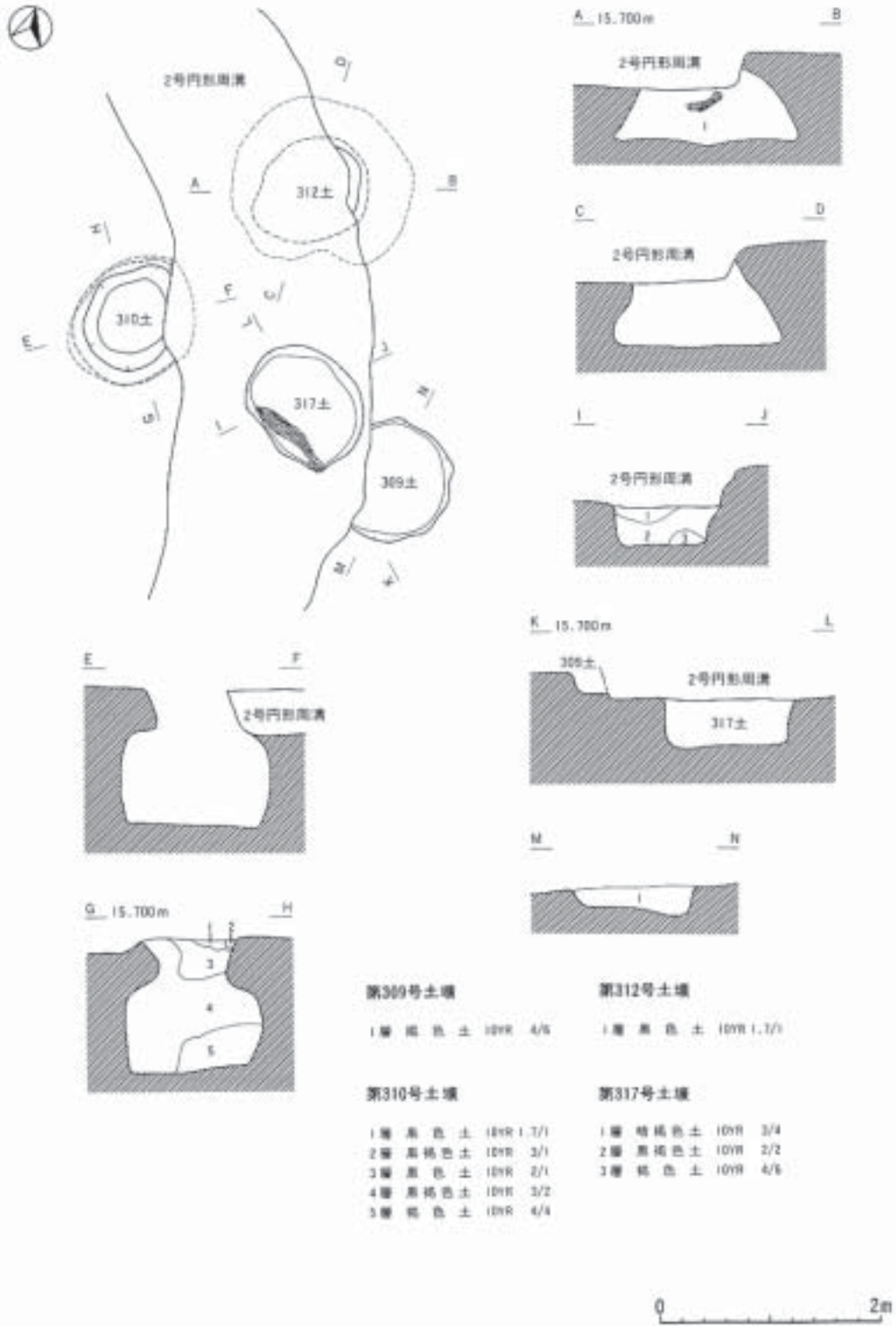


第114图 土壤65(第305·306号)

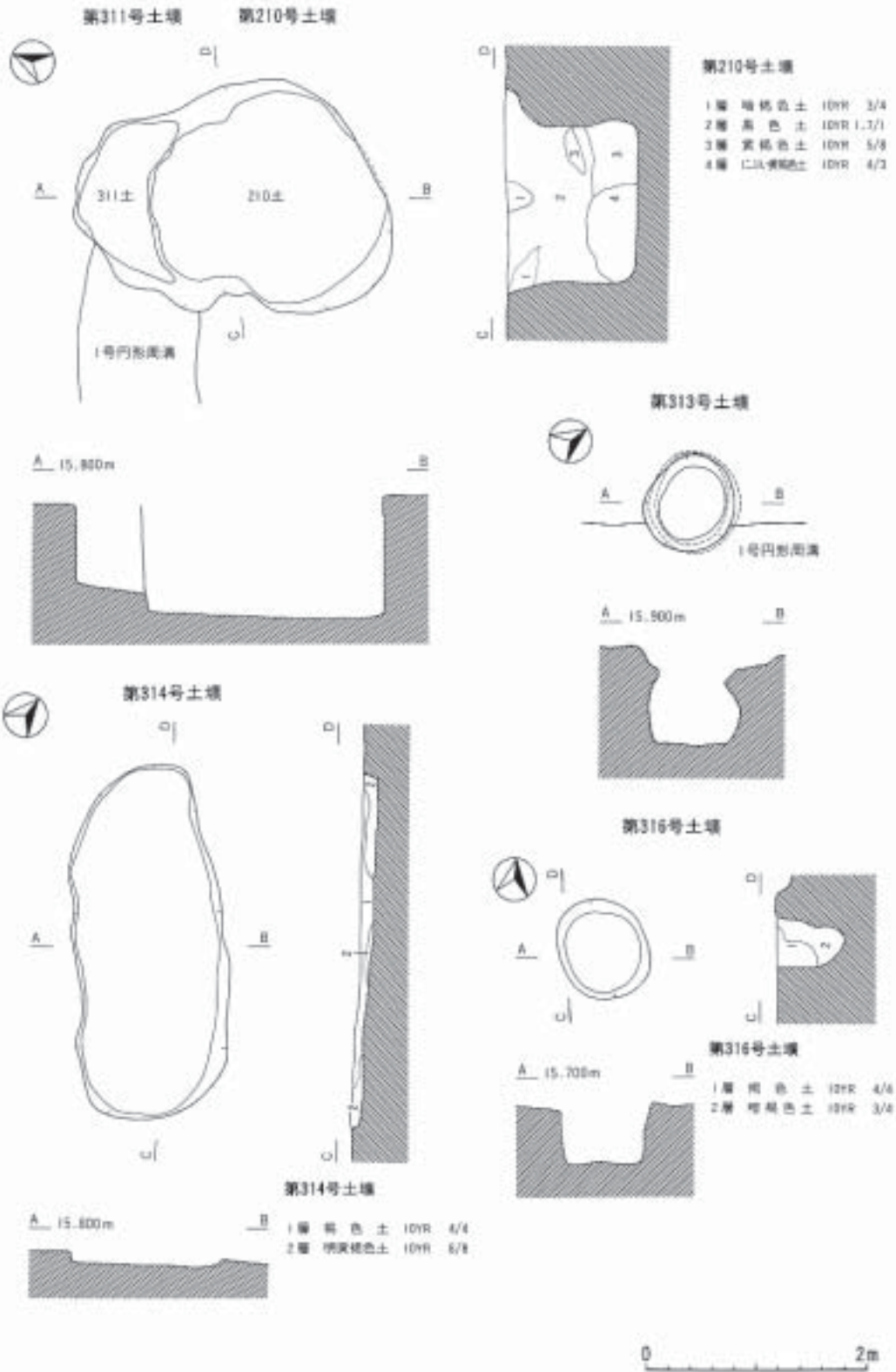


第115图 土壤66(第307·308号)

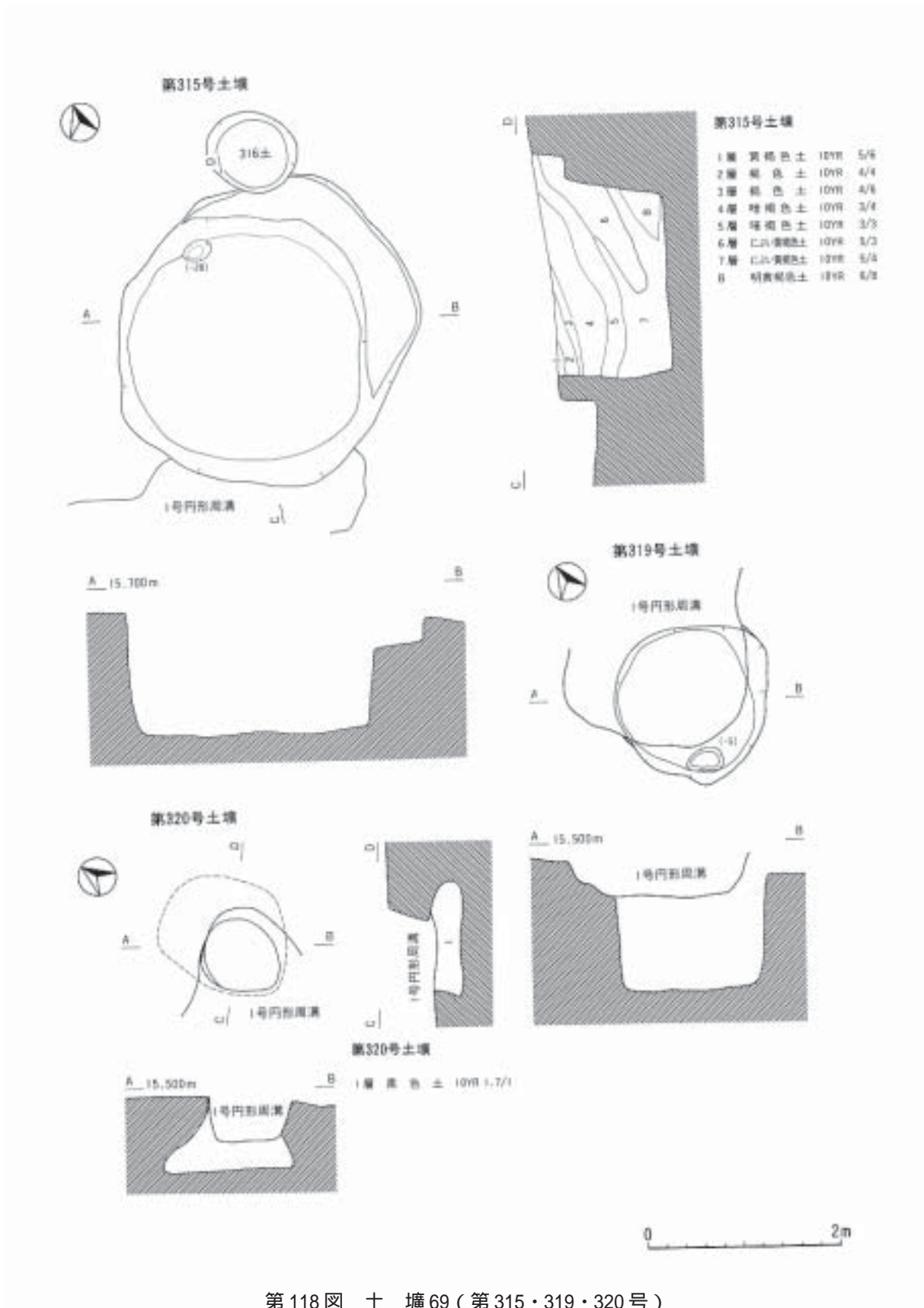
第309·310·312·317号土壤



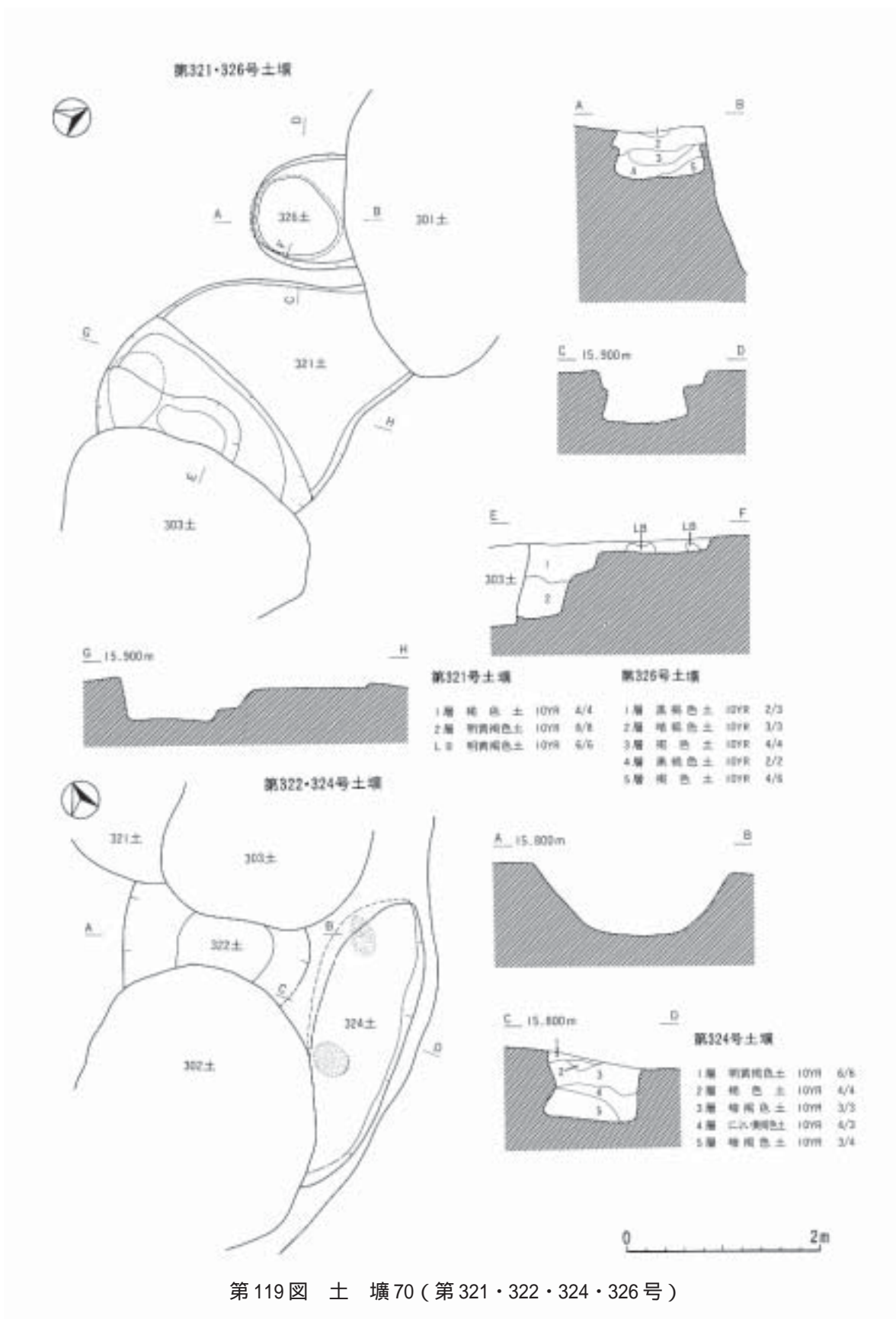
第116图 土壤67(第309·310·312·317号)



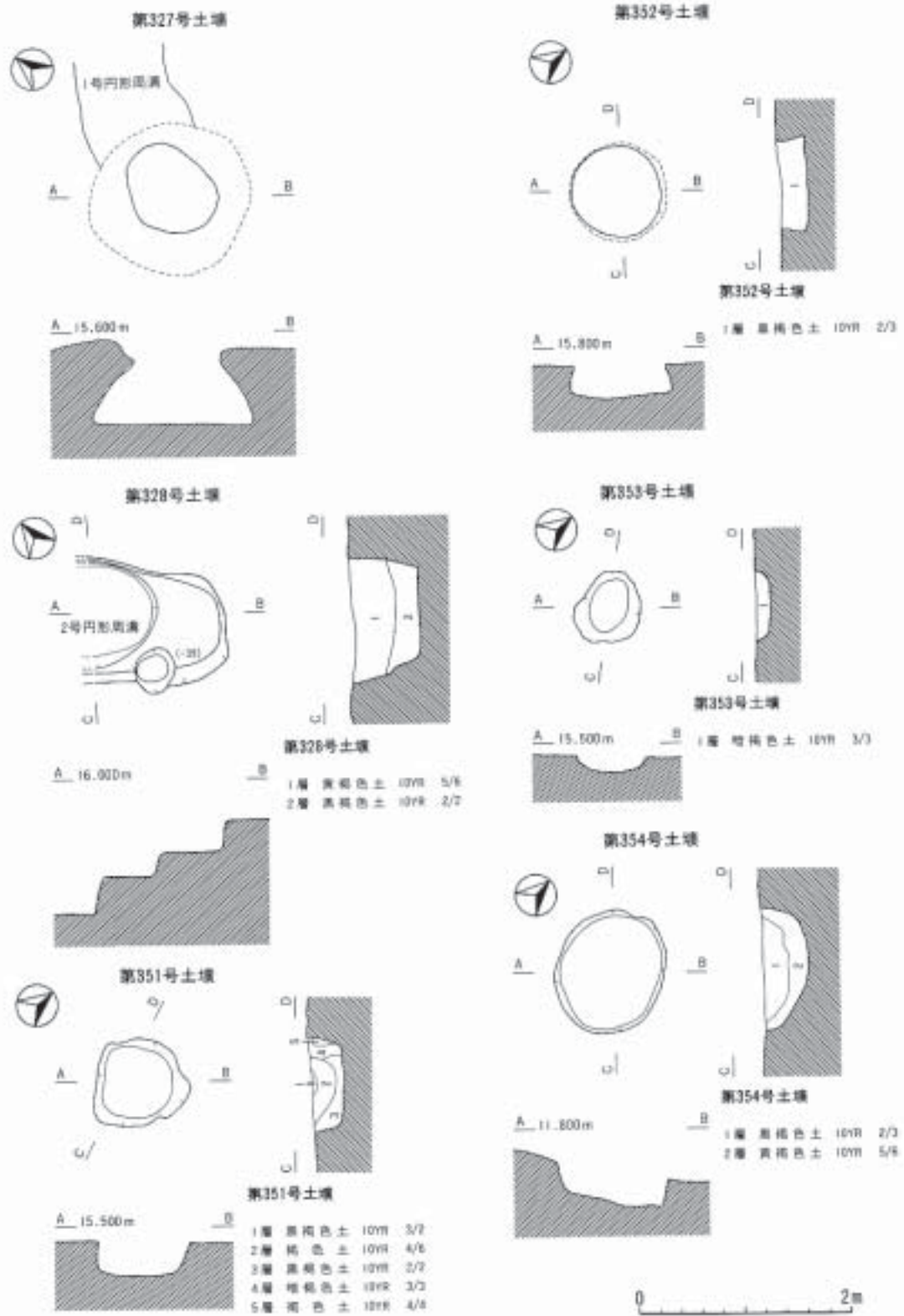
第117图 土壤68(第210·311·313·314·316号)



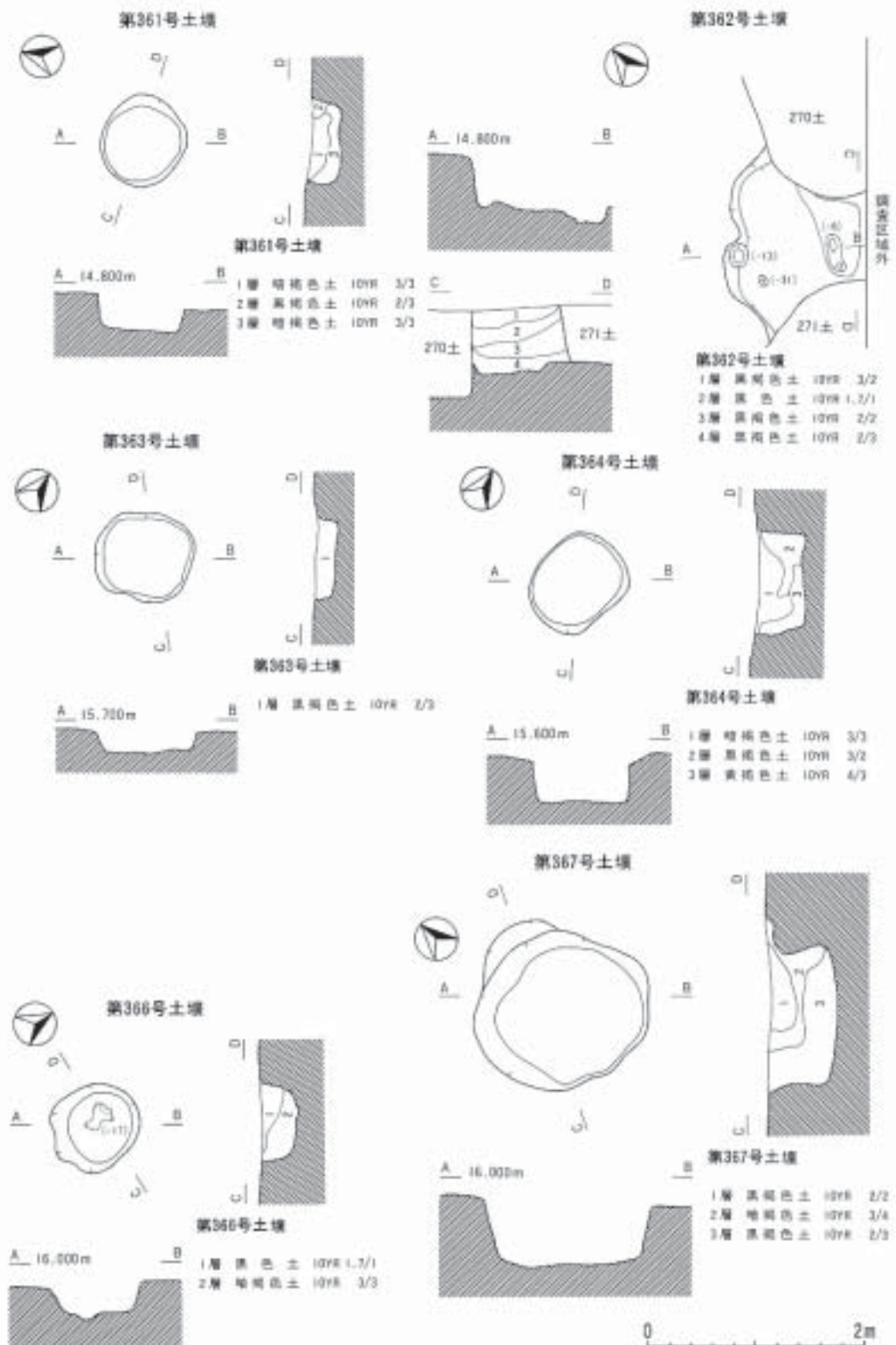
第118图 土壤69(第315·319·320号)



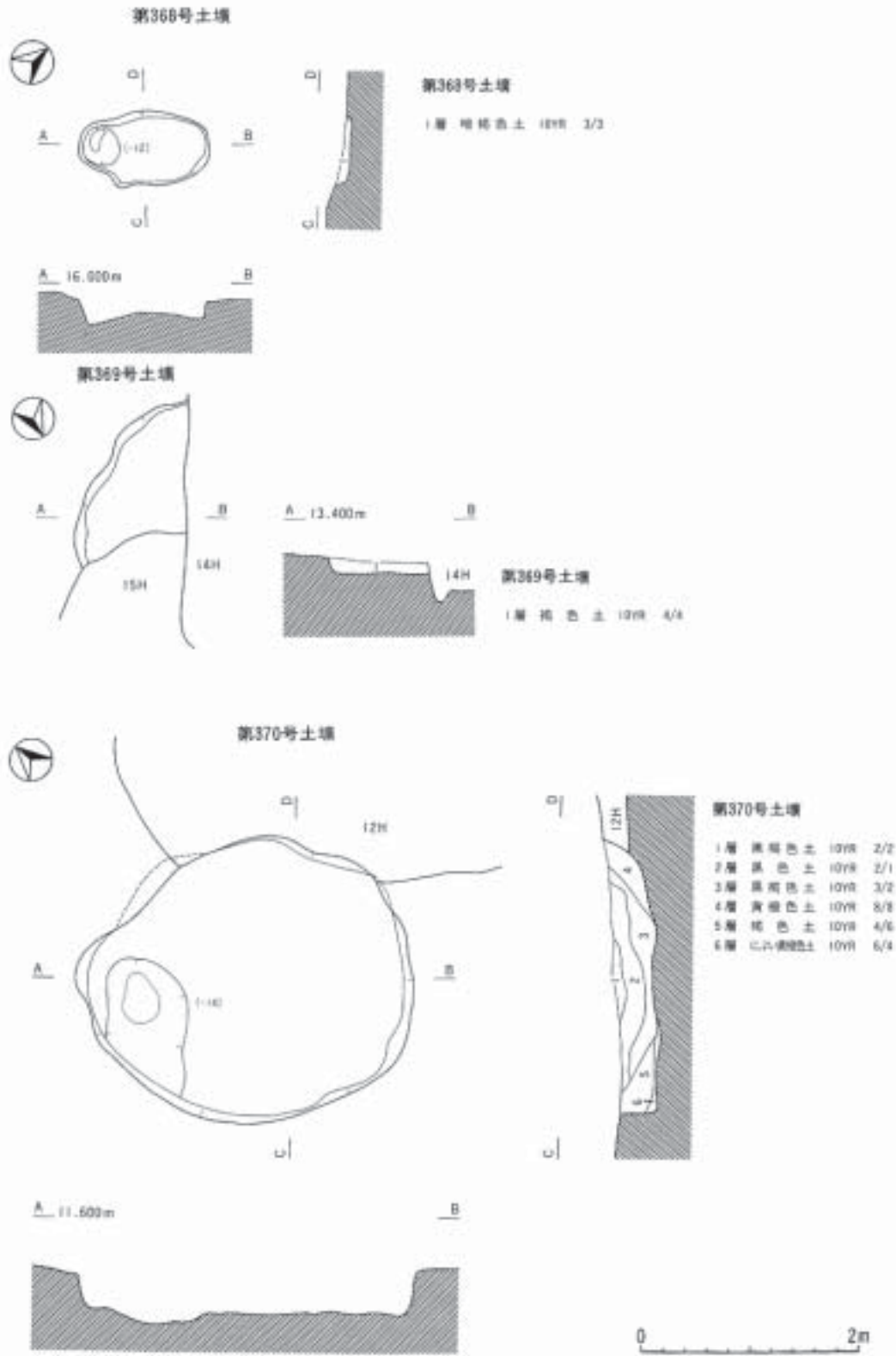
第119图 土壤70 (第321・322・324・326号)



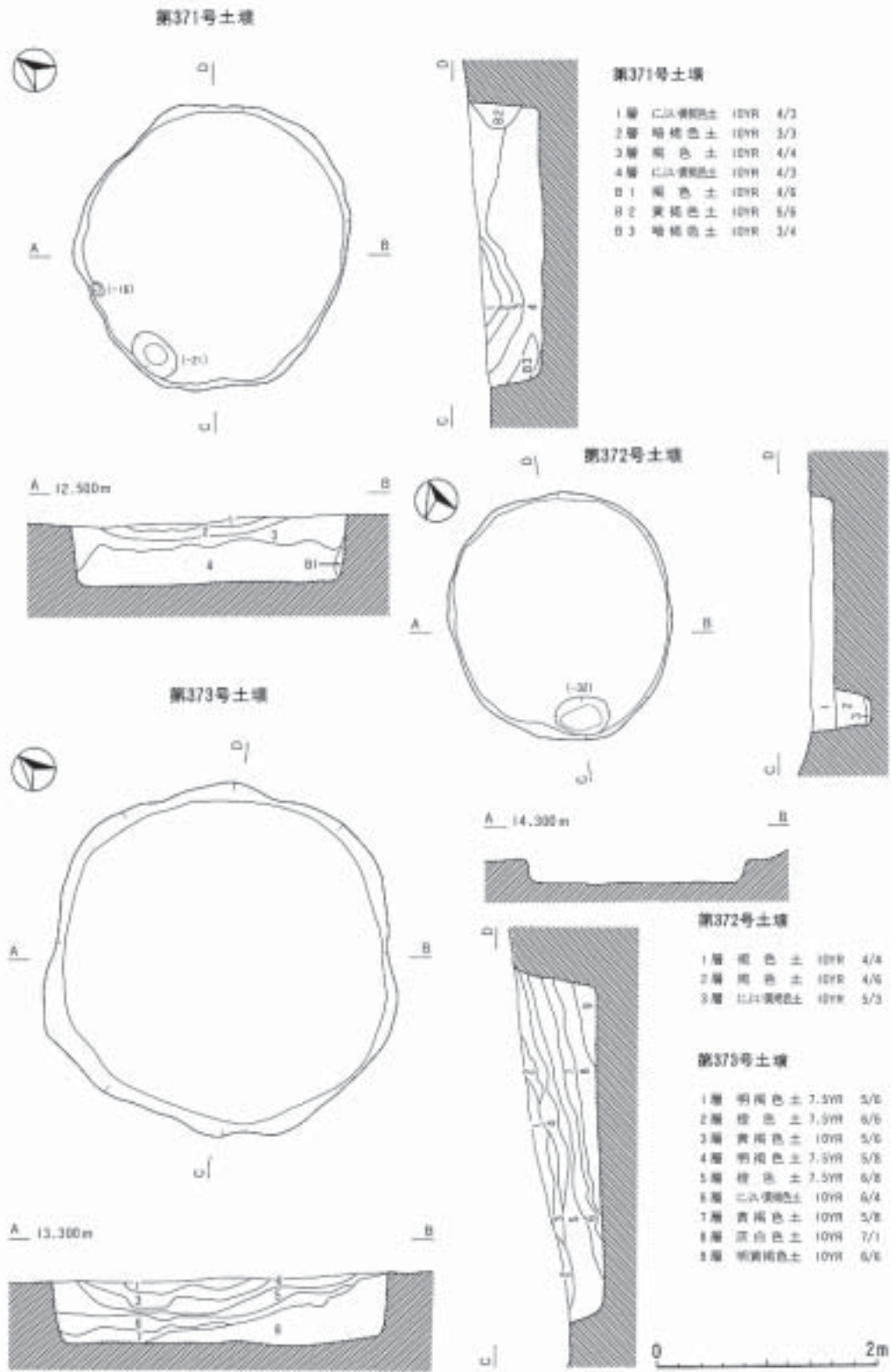
第120图 土壤71 (第327·328·351·352·353·354号)



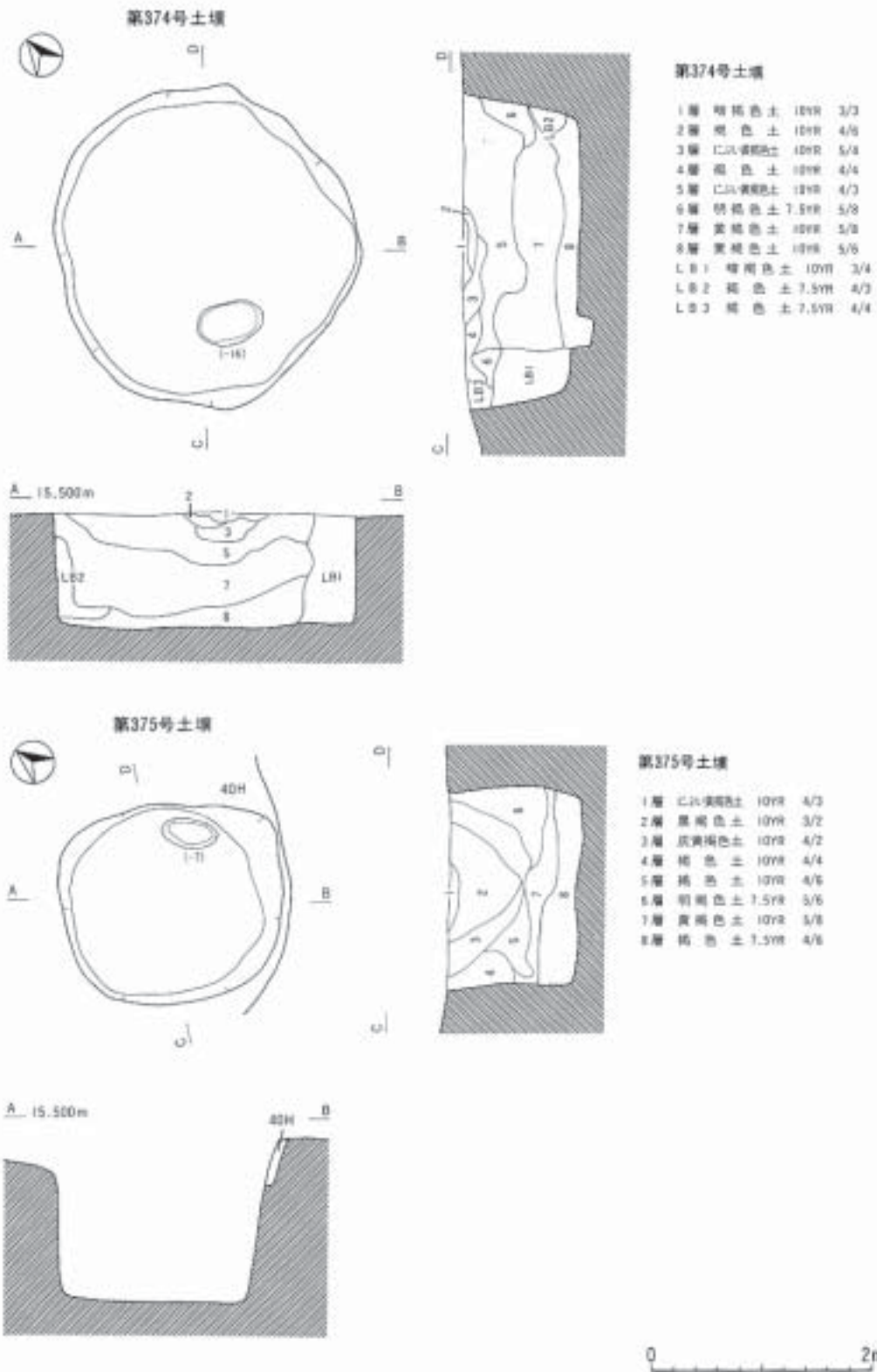
第121图 土壤72 (第361·362·363·364·366·367号)



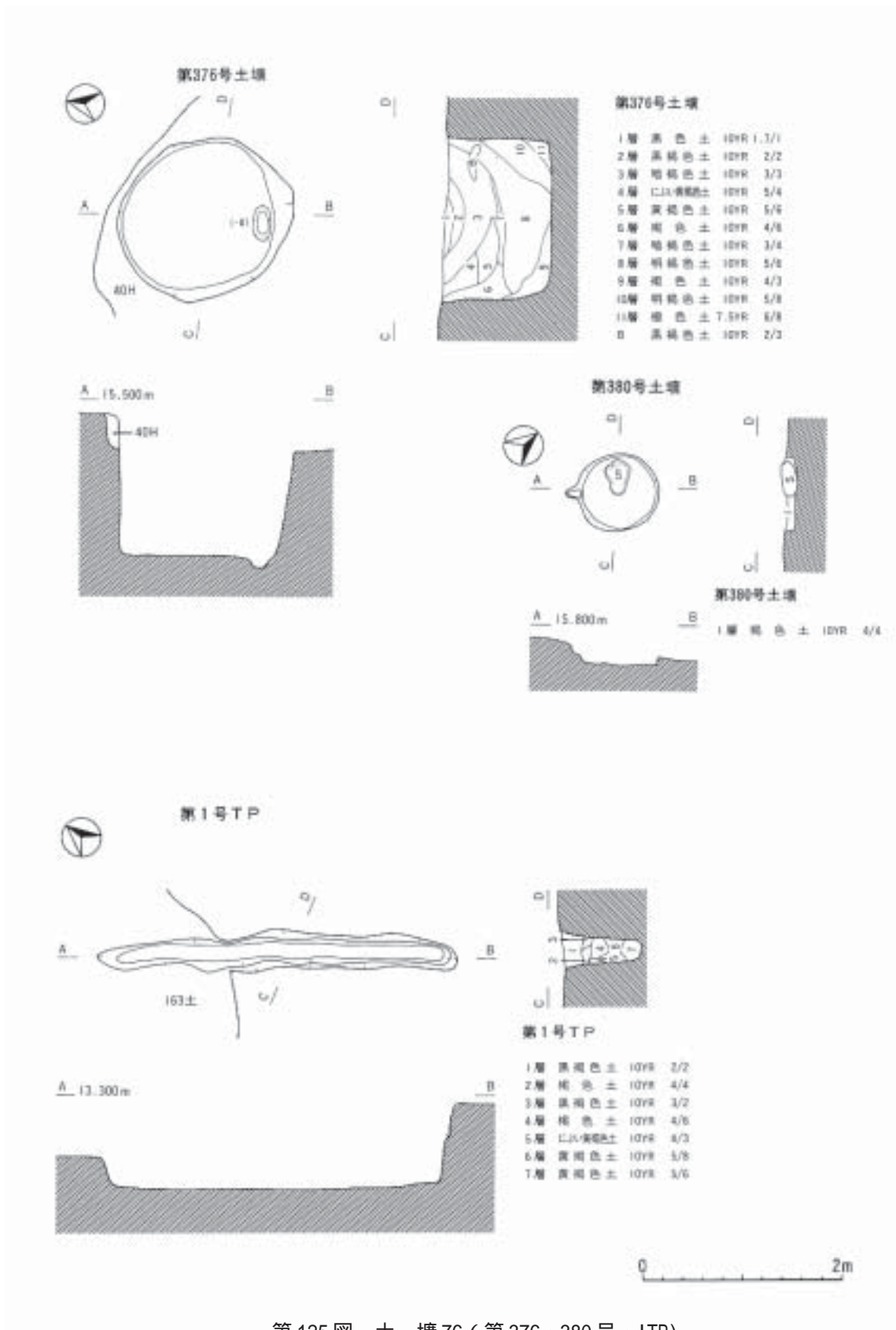
第122图 土壤73 (第368·369·370号)



第123图 土壤74 (第371·372·373号)



第124图 土壤75(第374·375号)



第125图 土壤76 (第376·380号·ITP)

(3) 埋設土器遺構 調査の結果、埋設土器遺構が4基検出された。

第1号埋設土器遺構(第126・127図)

[位置と確認] J-72グリッドに位置し、第1層を精査中に確認した。

[重複] なし。

[形態と規模] 東西に細長い楕円形の掘り方を有する。規模は長径78cm、短径54cm、深さ30cmを測る。土器は掘り方に対して、横位状態で埋設されていた。

[堆積土] 埋設土器、掘り方ともに分層できなかった。堆積土全体にローム粒子を含む。

[出土土器] 埋設土器は円筒上層b式土器で、器高62.2cm、口径40.4cm、胴径25.5cm、底径16.0cmを計る。口縁部に4つの突起を持ちRLの縄文を圧痕、口頸部に隆帯を張り付け、胴部は結束の羽状縄文が施されていた。

第2号埋設土器遺構(第126・129図)

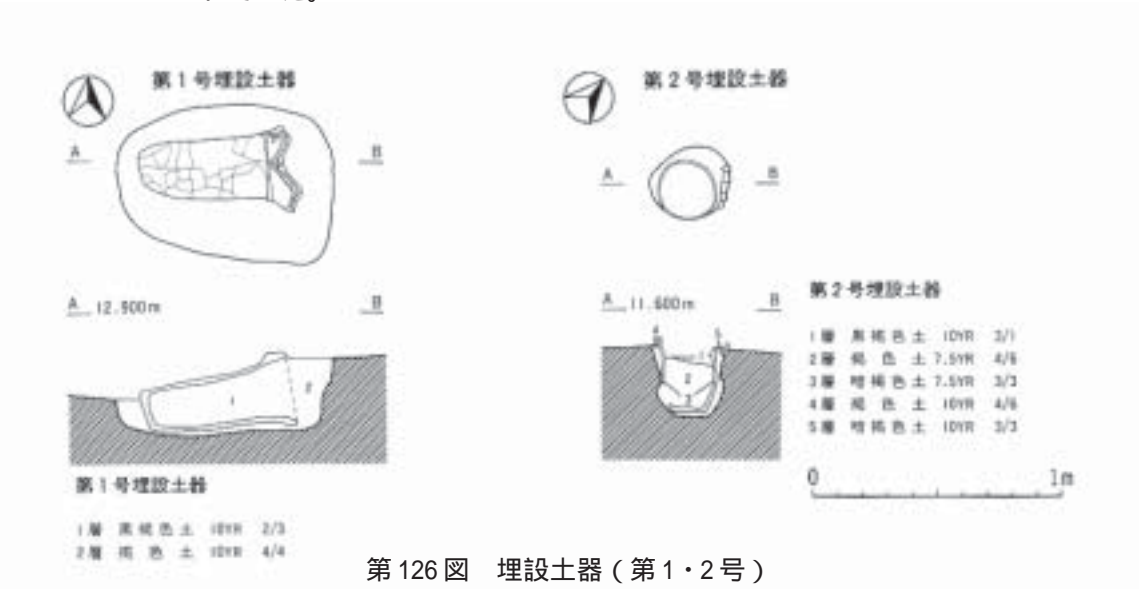
[位置と確認] M-54グリッドに位置し、第1層を精査中に確認した。

[重複] なし。

[形態と規模] ほぼ円形の掘り方を有する。規模は長径33cm、短径30cm、深さ28cmを測る。土器は掘り方の中央部に正立状態で埋設されていた。

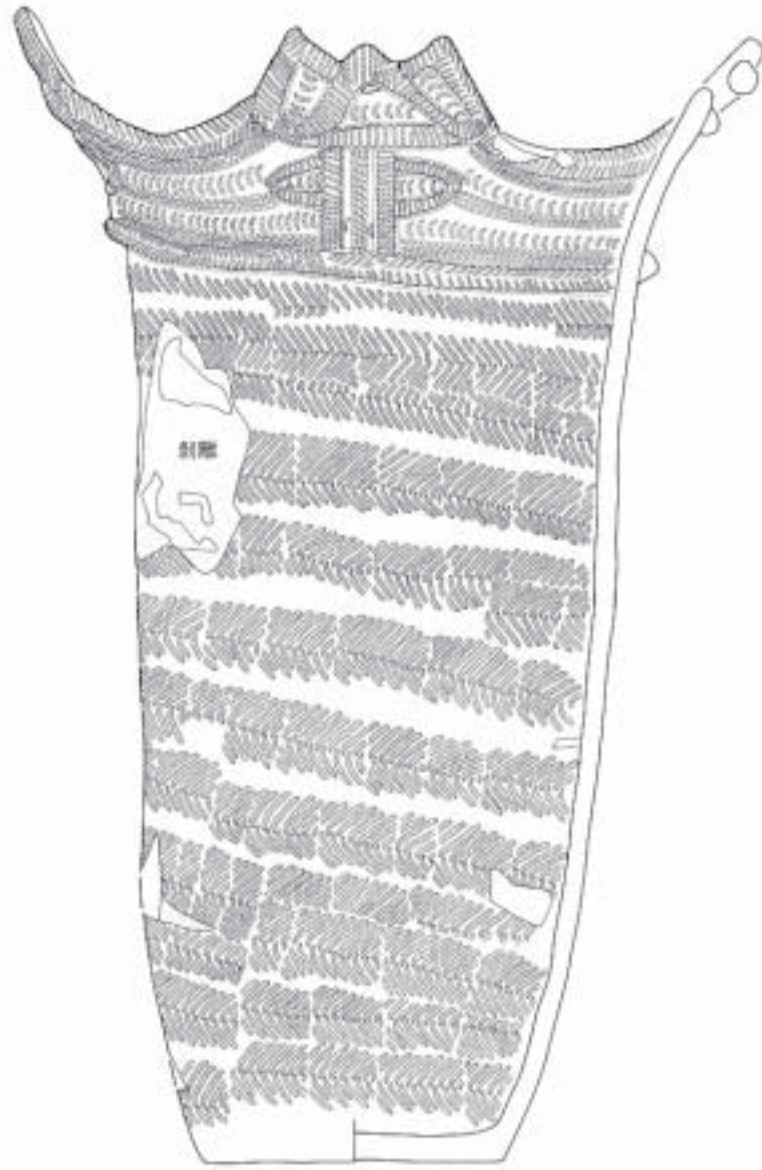
[堆積土] 埋設土器内を3層に、掘り方内を2層の計5層に分層した。堆積土全体に炭化物が含まれる。2層には、焼土粒子が含まれる。

[出土土器] 埋設土器は円筒上層b式土器で、器高28.0cm、口径(24.7)cm、胴径20.3cm、底径10.8cmを計る。口縁部にRLの縄文を圧痕、胴部は結束の羽状縄文が施されていた。



第126図 埋設土器(第1・2号)

第1号埋設土器



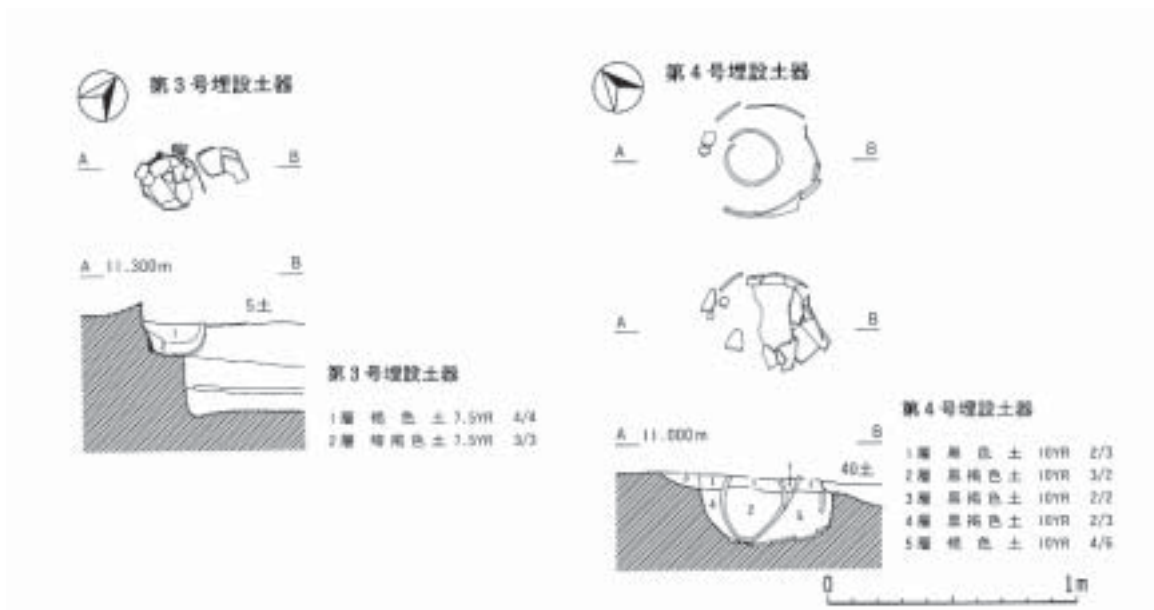
第127图 埋設土器（第1号）

第3号埋設土器遺構（第128・129図）

- [位置と確認] L - 53・54グリッドに位置し、第 層を精査中に確認した。
- [重 複] なし。
- [形態と規模] 東西に細長い楕円形の掘り方を有する。規模は長径52cm、短径30cm、深さ16cmを測る。土器は掘り方の中央部に正立状態で埋設されていた。
- [堆 積 土] 埋設土器内を2層に、掘り方内を2層の計4層に分層した。堆積土全体に炭化物が含まれる。
- [出土土器] 埋設土器は円筒上層式の土器で、底径8.7cmを計る。胴部は単節LR縄文が施されていた。

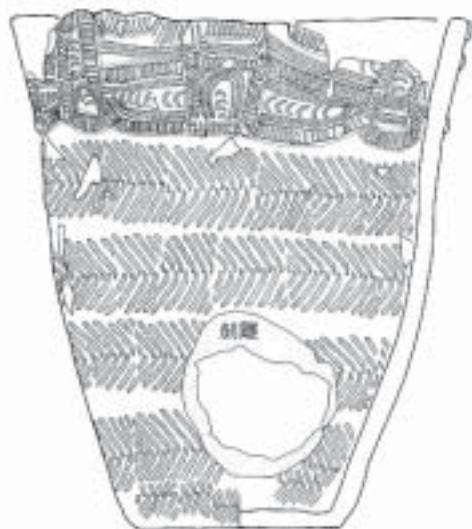
第4号埋設土器通構（第128・129図）

- [位置と確認] J - 56グリッドに位置し、第 層を精査中に確認した。
- [重 複] 第40号土壙と重複し、本埋設土器遺構が新しい。
- [形態と規模] ほぼ円形の掘り方を有する。規模は長径72cm、短径68cm、深さ28cmを測る。土器は掘り方の中央部に正立状態で埋設されていた。
- [堆 積 土] 埋設土器内を2層に、掘り方内を3層の計5層に分層した。2層と3層に炭化物が含まれる。
- [出土土器] 埋設土器は最花式土器で、胴径25.4cm、底径7.8cmを計る。口頸部に2条の平行沈線文、胴部は垂直方向に伸ばした懸垂文が8列とその間に沈線による円形文が2個施されていた。



第128図 埋設土器（第3・4号）

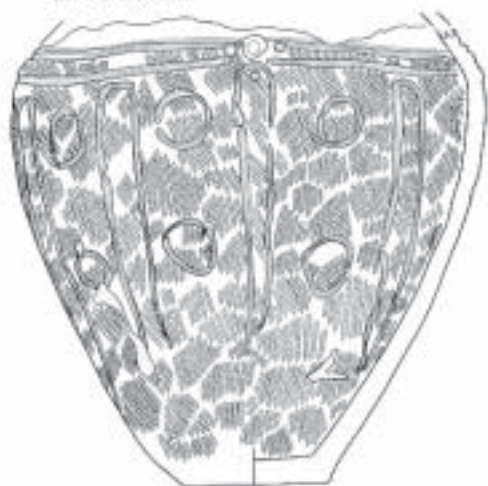
第2号埋設土器



第3号埋設土器



第4号埋設土器



第129図 埋設土器(第2・3・4号)

(4) 焼土状遺構 調査の結果、焼土状遺構が6基検出された。

第1号焼土状遺構(第130図)

[位置と確認] K・L - 83グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は55cm × 100cmの長方形である。

[堆 積 土] 4層に分層した。1～3層に焼土・炭化物が多く含まれる。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。

第2号焼土状遺構(第130図)

[位置と確認] L - 82・83グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は40cm × 60cmの不整な楕円形である。

[堆 積 土] 4層に分層した。1～3層に炭化物が少量含まれる。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。

第3号焼土状遺構(第130図)

[位置と確認] I - 78・79グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は55cm × 100cmの楕円形である。

[堆 積 土] 2層に分層した。堆積土全体に炭化物を含む。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。

第4号焼土状遺構(第130図)

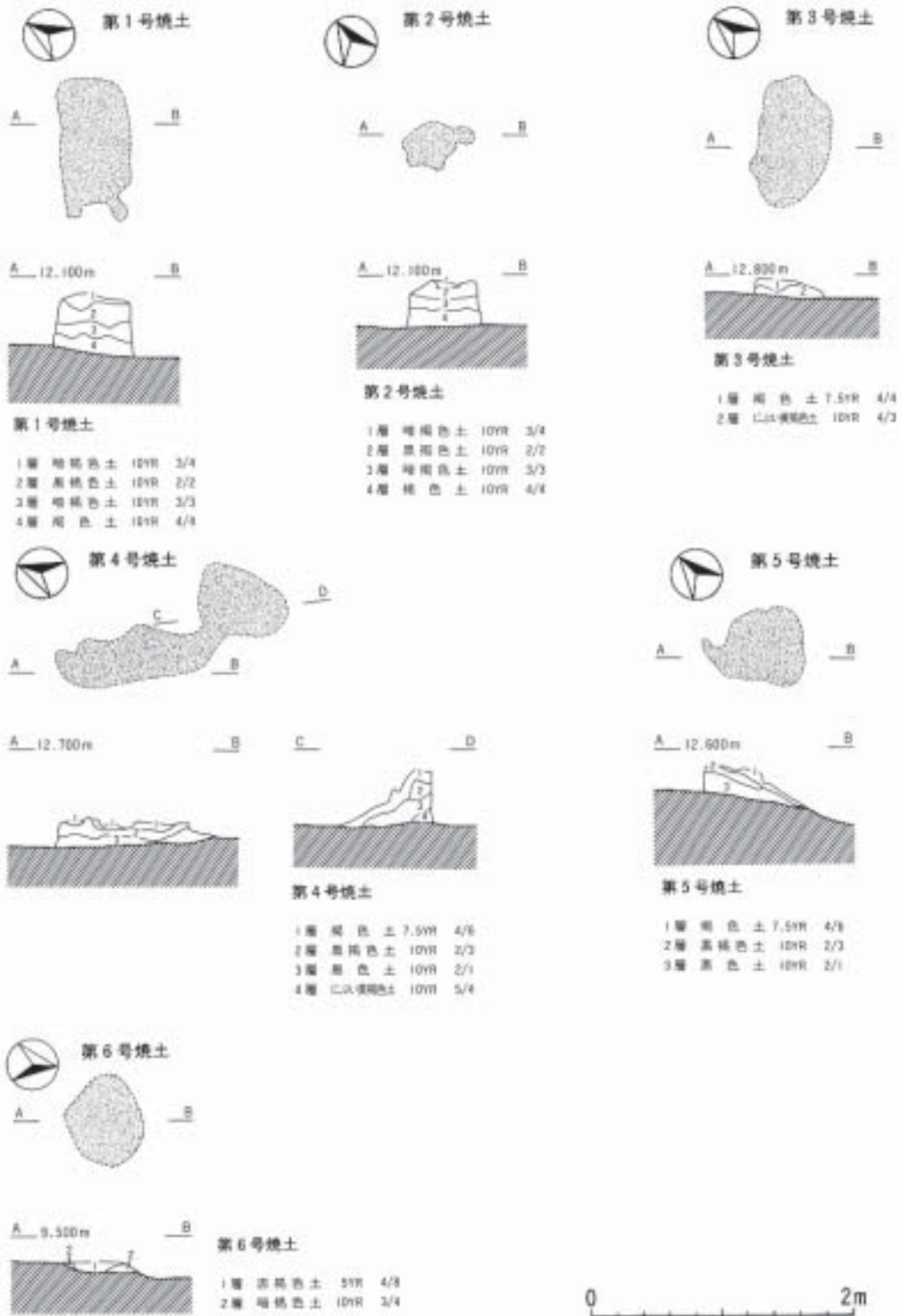
[位置と確認] L・M - 81グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は40cm × 180cmの不整な長楕円形である。

[堆 積 土] 4層に分層した。堆積土全体に炭化物を含む。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。



第130图 烧土状遺構(第1・2・3・4・5・6号)

第5号焼土状遺構（第130図）

[位置と確認] M - 81 グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は50cm × 80cmの不整な楕円形である。

[堆 積 土] 3層に分層した。堆積土全体に炭化物を含む。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。

第6号焼土状遺構（第130図）

[位置と確認] I - 123 グリッドに位置し、第 層を精査中に焼土を確認した。

[重 複] なし。

[形態と規模] 平面形は40cm × 55cmの不整な楕円形である。

[底 面] 底面は南西から北東にかけて傾斜している。

[堆 積 土] 2層に分層した。堆積土全体に炭化物を含む。第1層は焼土の層である。

[出土遺物] なし。

(5) 小ピット群 調査の結果、小ピット群が5か所検出された。

第1号小ピット群(第131図)

K～M - 66～69グリッドで検出された。丁度沼地の沢目から台地上に緩やかに上っていく面に分布する。ピットの大部分は第 層上面で確認された。ピットの規模は小さいものは径20～30cm、深さ6～20cm、大きいものは径50～70cm、深さ26～36cmである。

第2号小ピット群(第131図)

M・N - 70・71グリッドで検出された。第1号小ピット群よりも台地上に近く、緩やかに上っていく面に分布する。ピットの大部分は第 層上面で確認された。ピットの規模は小さいものは径15～50cm、深さ6～32cmである。

第3号小ピット群(第132図)

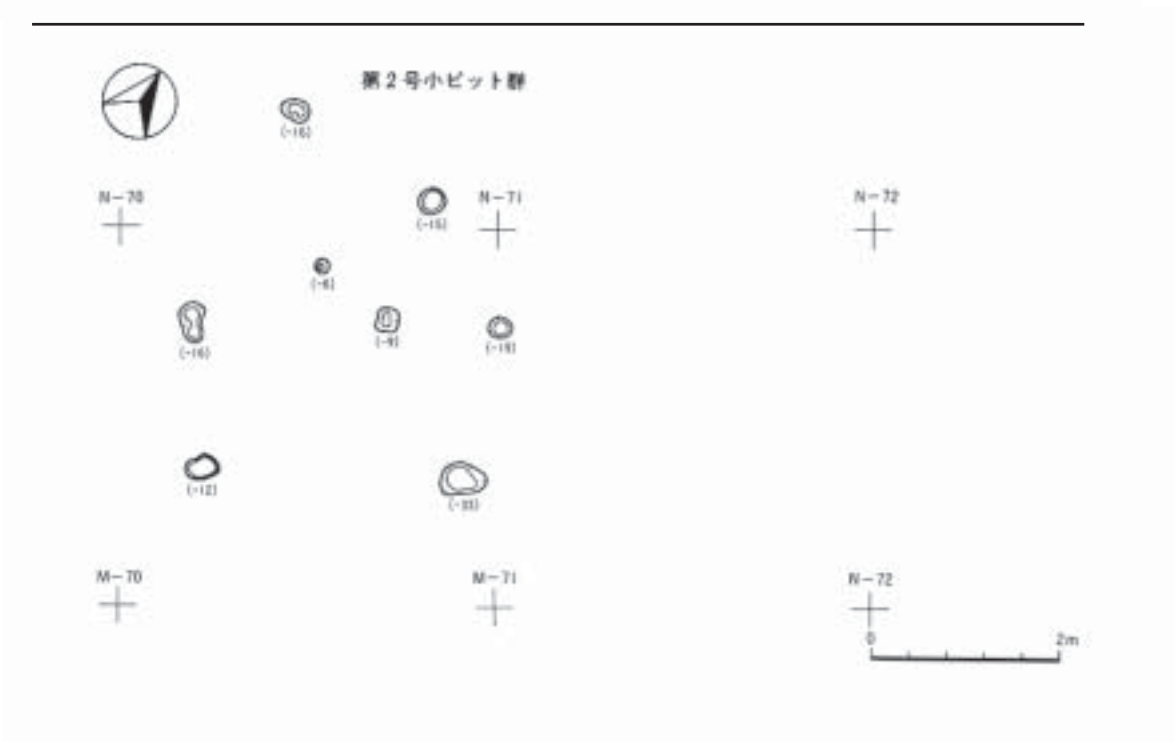
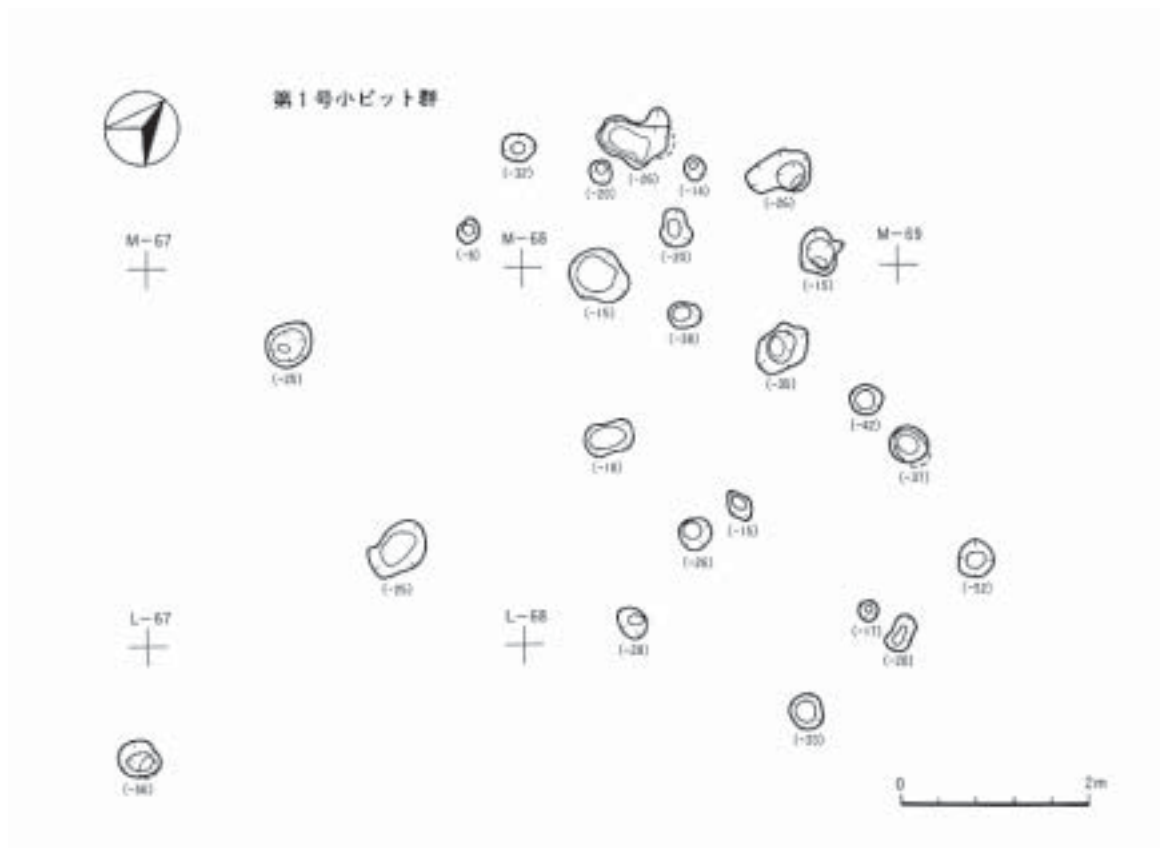
I～N - 75～80グリッドで検出された。縄文と歴史時代の住居跡が見られる台地上の面に広く分布する。ピットの大部分は第 層上面で確認された。ピットの規模は小さいものは径20～30cm、深さ6～25cm、大きいものは径40～50cm、深さ20～47cmである。

第4号小ピット群(第133図)

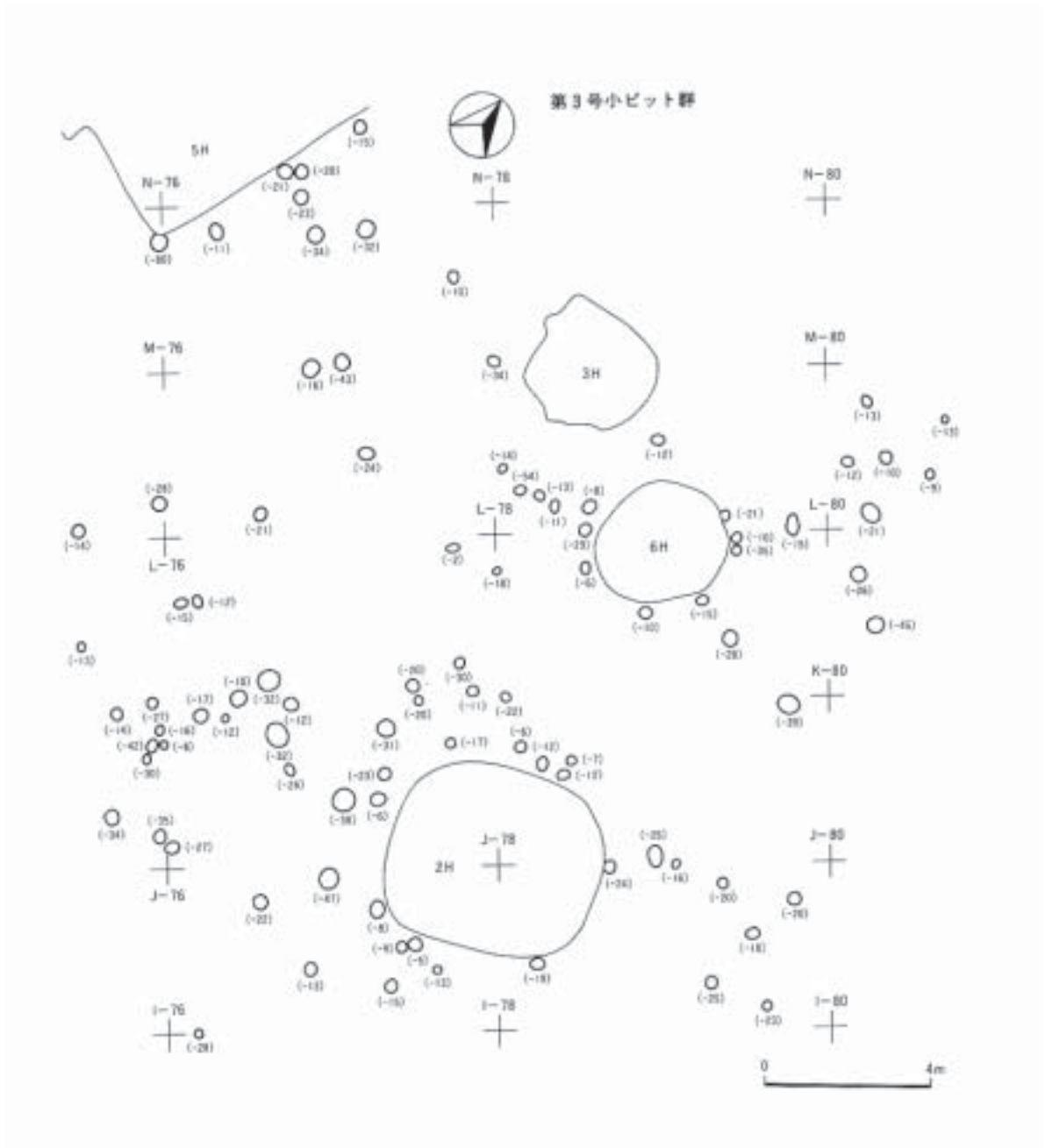
I～K - 69～72グリッドで検出された。第1号小ピット群よりも台地上に近く、第2号小ピット群とほぼ同じ高さの面に分布する。ピットの大部分は第 層上面で確認された。ピットの規模は小さいものは径15～25cm、深さ8～60cm、大きいものは径40～55cm、深さ22～38cmである。

第5号小ピット群(第133図)

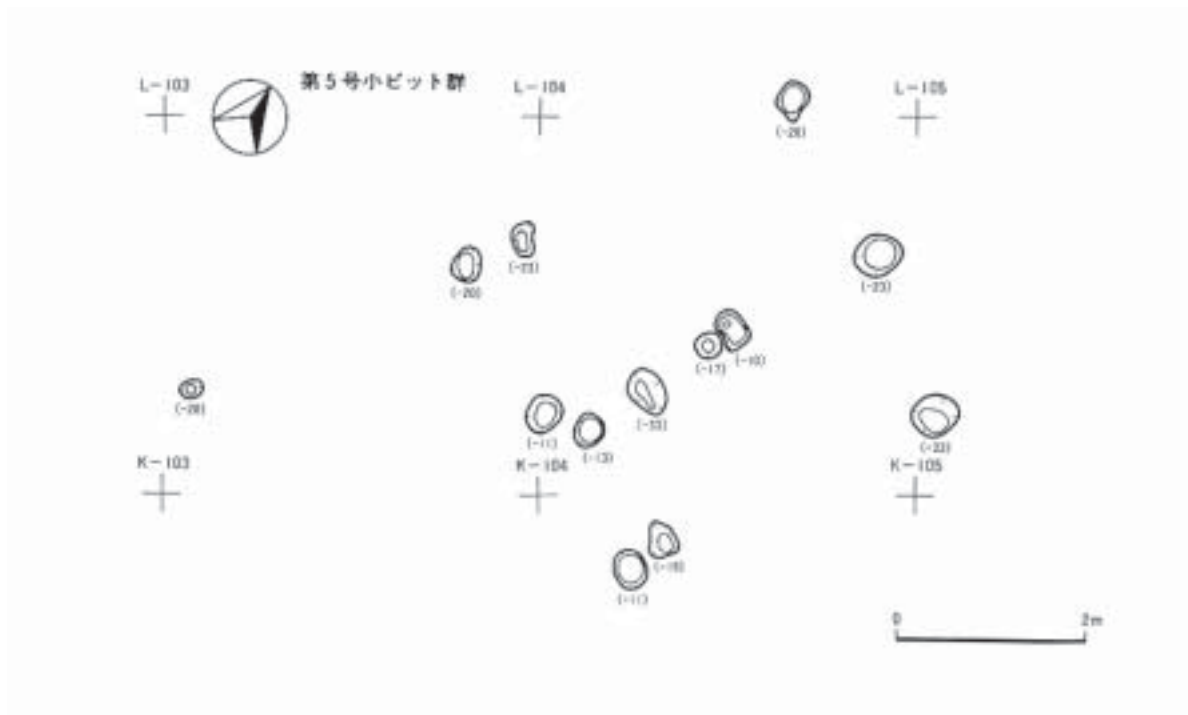
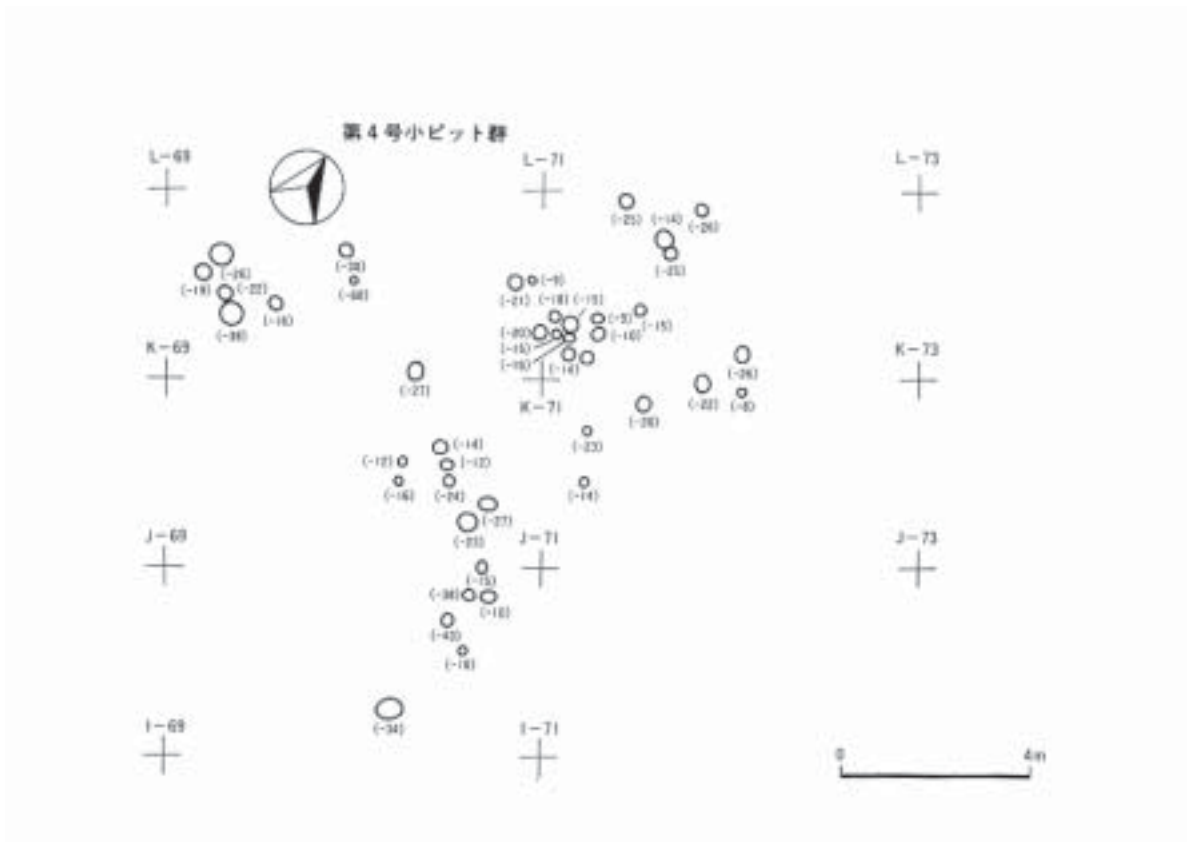
J～L - 103～105グリッドで検出された。縄文時代の土壌・歴史時代の円形周溝や住居跡が多数検出された台地上に分布する。ピットの大部分は第 層上面で確認された。ピットの規模は径22～44cm、深さ10～33cmである。



第131図 小ピット群(第1・2号)



第132図 小ピット群（第3号）



第133図 小ピット群(第4・5号)

歴史時代

本遺跡で平成5年7月に直径10mを越す二つの環状を呈する溝が確認された。この二つの溝は、当初古墳ではないかと想定したが、精査した結果、主体部は検出されず、副葬品や供献物についても出土しなかった。近年これらの類いの溝が県内各地で検出されてきている。そしてこれらの溝を、各調査担当者は円形周溝・周溝遺構・環状遺構の表現で論述している。本報告書では、以上のように溝の形状から古墳という名称を付すことには問題があり、他の類例と同様、形態や形状面から円形周溝と呼ぶことにした。

検出遺構 円形周溝2基、竪穴住居跡11基、溝状遺構2本が検出された。

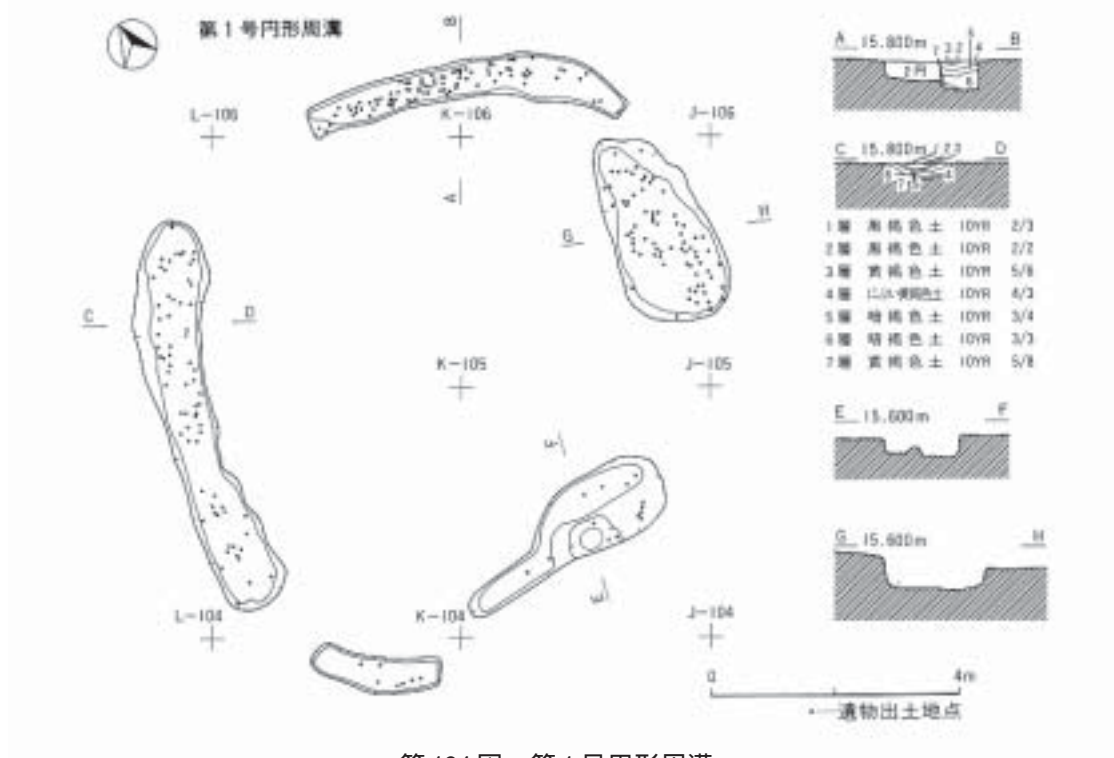
(1) 円形周溝

第1号円形周溝(第134・135図)

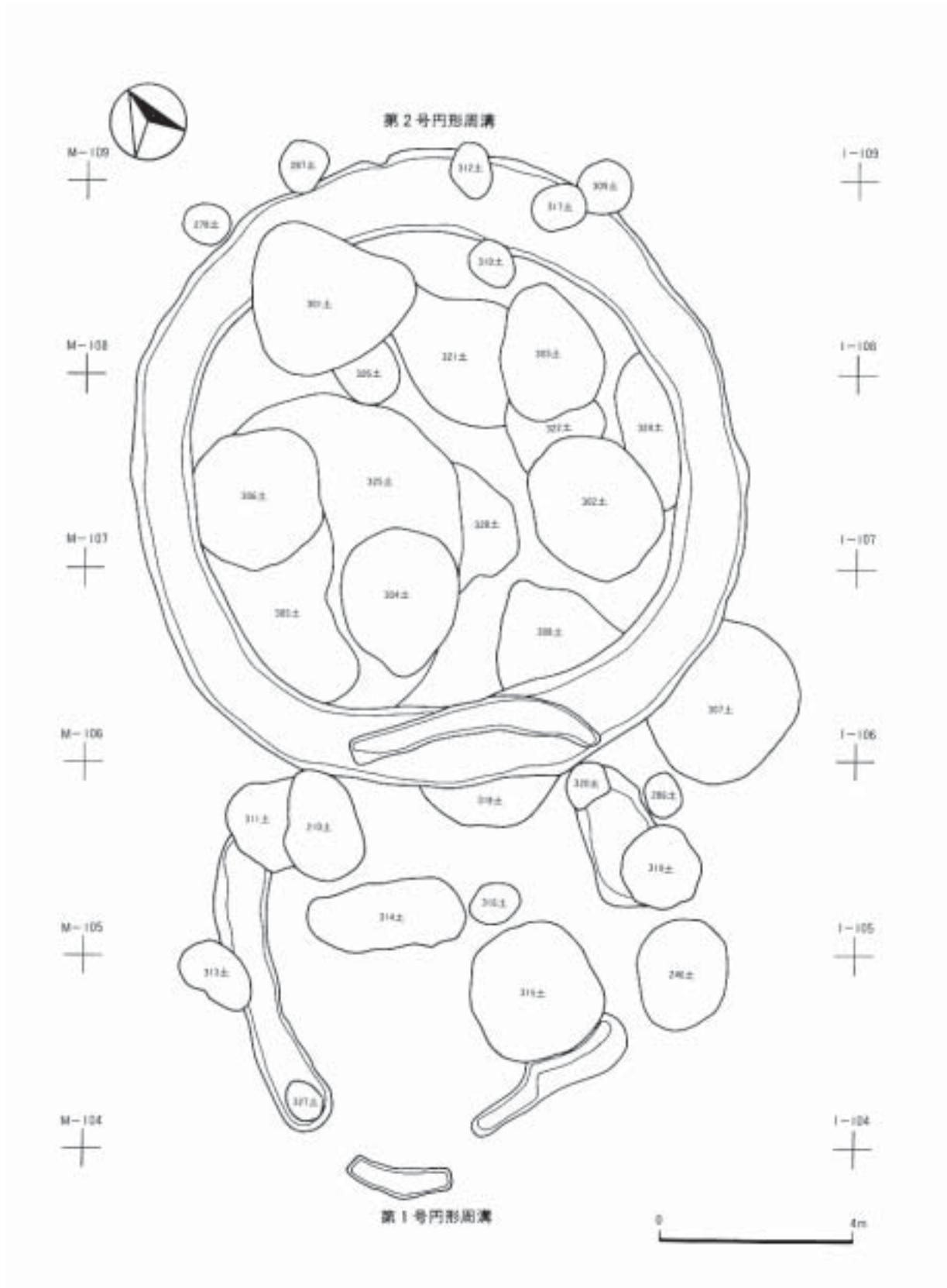
[位置] I - 105、J - 104 ~ 106、K - 103 ~ 106、L - 104・105グリッド、第1層で確認した。

[重複] 311・313 ~ 316・319・320・327号土壌と重複する。

[規模と形状] 平面形は不整形円形を呈する。全体的に攪乱を受けていたと思われ、途中5か所途切れる。外径は10.2m × 9.5m、内径は8.7m × 7.0mであり、周溝の幅は



第134図 第1号円形周溝



第135図 第1号・2号円形周溝付近遺構配置図

最も広い部分で1.7m、狭い部分で0.5mであり、深さは26～60cmである。

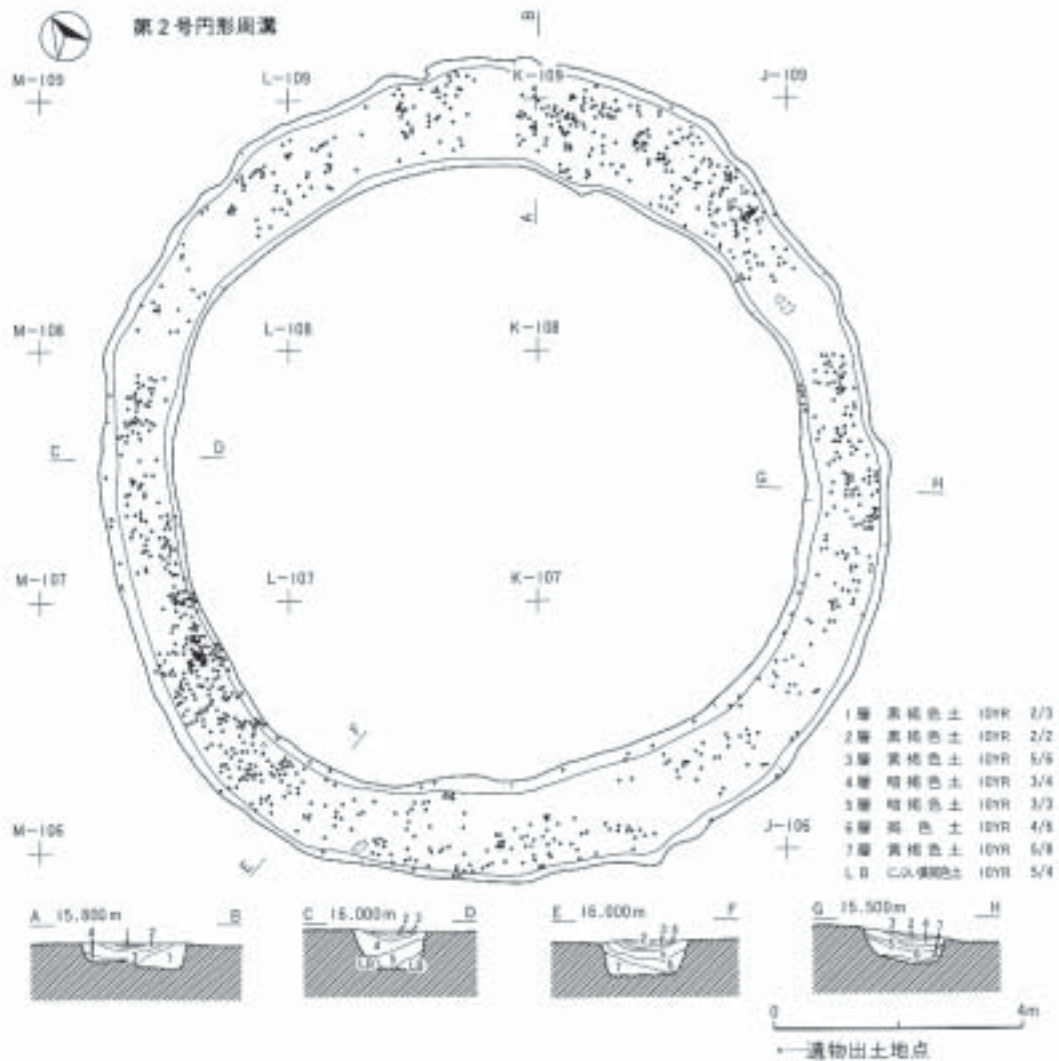
- [壁・床面] 第2号円形周溝を切っている北側～東側の壁は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。それに続く東側～南側の壁は緩やかで、底面はかなりの凹凸をもち、ロームブロックと炭化物粒混じりの褐色土で埋め戻している。南側の壁は急角度と緩やかな立ち上がりで、底面はかなりの凹凸をもつ。西側の壁は急角度で立ち上がり、底面は凹凸である。全体的に上の部分がかかり削平されているため、形がかかり不揃いだったり、周溝が全周せず途中で途切れたものと思われる。
- [堆積状況] 自然の流入土層と考えられる。1層～5層までレンズ状に堆積し、3層には白頭山火山灰が層全体に見られる。
- [遺物の出土状況] 周溝内からは、土器片243点ほど出土した。近くに縄文時代中期円筒上層e式の竪穴住居跡があることから、ほとんど円筒上層の土器片である。石器は60点ほど出土している。また土師器の破片も17点ほど出土した。須恵器は出土しなかった。

第2号円形周溝（第135・136図）

- [位置] I - 106～108、J - 105～109、K - 105～109、L - 106～108グリッド、第層で確認した。
- [重複] 301～310・312・317・318・321・322・324～326・328号土壙と重複する。
- [規模と形状] 平面形は円形を呈する。全体的に攪乱を受けていたと思われる。外径は13.0m×12.7m、内径は10.1m×9.5mであり、周溝の幅は最も広い部分で1.8m、狭い部分で1.1mであり、深さは26～60cmである。
- [壁・床面] 第1号円形周溝に切られている。全体的に壁から底面にかけての形状はU字形を呈する。底面は凹凸に掘り込まれていて、黒褐色土を10～20cmの厚さに埋め戻して底を整えている。
- [堆積状況] 自然の流入土層と考えられる。1～4層までレンズ状に堆積し、3層には白頭山火山灰が層全体に見られる。
- [遺物の出土状況] 周溝内からは、土器片874点ほど出土した。近くに縄文時代中期円筒上層e式の竪穴住居跡があることから、ほとんど円筒上層式の土器である。石器は礫が多く、220点ほど出土した。また土師器の破片も258点ほど出土した。坏や甕の破片である。また須恵器の破片は、8点ほど出土した。

円形周溝出土の遺物

第1号円形周溝			第2号円形周溝		
土器	260点	土器 243点 (土師器 17点) (須恵器 0点)	土器	1,140点	土器 874点 (土師器 258点) (須恵器 8点)
石器	60点		石器	220点	
計	320点		計	1,360点	



第136図 第2号円形周溝

(2) 竪穴住居跡

第5号竪穴住居跡(第137～139図)

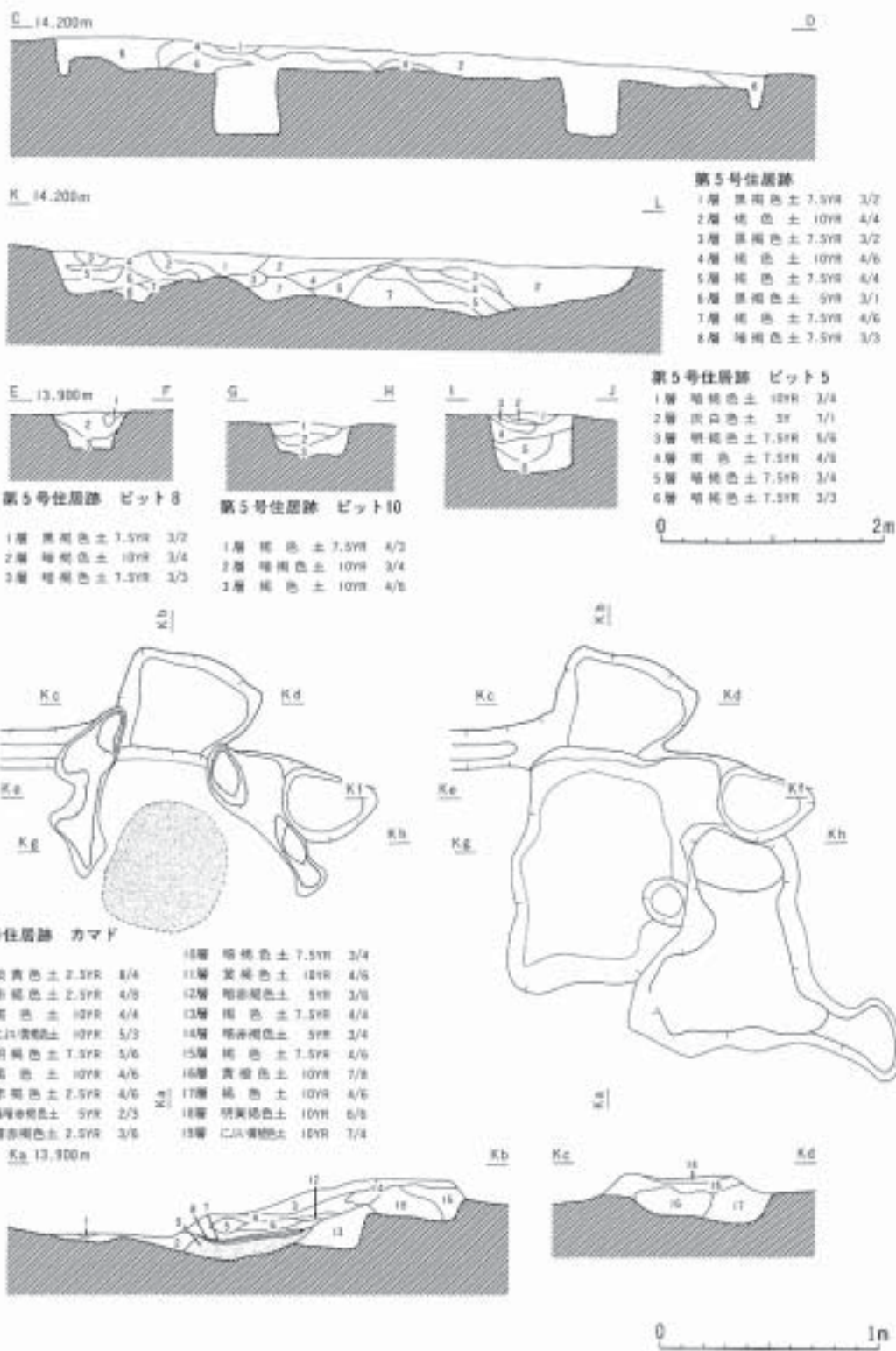
- [位置と確認] N・0 - 75・76グリッド。
- [重複] なし。南壁と西壁の一部が攪乱を受けている。
- [規模と形状] 長軸 6m70cm、短軸 6m60cm の正方形を呈す。
- [堆積土] 6層に分層した。黒褐色～褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 1層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は 12～24cm で、南壁が高く東壁が低い。床面はほぼ全面貼り床で、全体的に凹凸がある。床面から溝を 2条検出した。用途は不明である。
- [柱穴・ピット] 床面から 19個検出した。このうち P₁、P₈、P₁₄、P₁₉ は形状と配列から支柱穴と見られる。P₉ は腰板の押さえるものか、支柱穴と見られる。その他のピットの用途は不明である。P₁₈ はカマドの下から検出した。
- [周溝] 東壁のカマド部分を除き全周する。南壁と西壁の一部は攪乱を受けているため不明。幅は 5～20cm、深さは 7～26cm である。
- [カマド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体はにぶい黄褐色粘土によって作られ、袖部と煙道部が遺存する。燃烧部の焼土は固化している。また、袖部の内壁には火熱を受けた痕がある。袖部は貼り床に用いた粘土を芯材として、その上に粘土をはりつけている。カマドの下に掘り込みがみられた。煙道部は半地下式で、煙出孔に向かい若干傾斜して緩やかに立ち上がる。袖脇より坏が 1点潰れた状態で出土した。
- [出土遺物] カマドの袖から土師器の坏が 1点と、P₃ からは底部が欠損している坏が 1点と甕の口縁部が出土し(第 222 図)、その他には土師器の坏や甕の破片が出土した。また須恵器の破片も 3点ほど出土した。石器は凹石 2点(第 214 図)・敲石 1点(第 214 図)出土した。鉄製品としてカマド脇床直から全長 56cm ほどの刀(第 227 図)が出土した。
- [特記事項] 本住居跡はカマドの設置されている東壁外に 1間×2間の掘立柱の建物を伴う構造である。

第9号竪穴住居跡(第140図)

- [位置と確認] H - 77グリッド。
- [重複] なし。



第173图 住居跡(第5号)

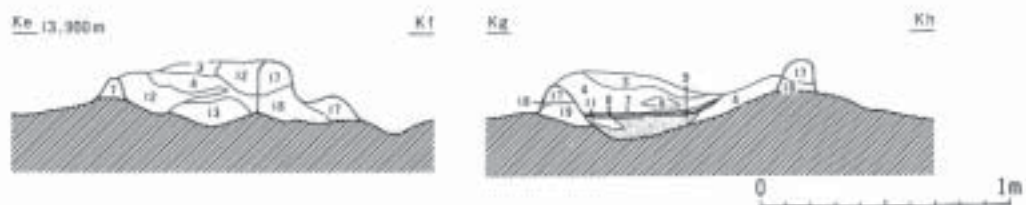


第138図 住居跡(第5号)

- [規模と形状] 長軸 3m72cm、短軸 3m71cm の正方形を呈す。
- [堆 積 土] 12層に分層した。黒褐色～暗褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 1層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は9～30cmで、南壁が高く東壁が低い。床面は全面貼り床で、ほぼ平坦である。
- [柱穴・ピット] 床面から4個検出した。P₂～P₄は対照的な配置が見られず、支柱穴などは不明である。P₁は本住居跡に伴う施設と見られるが、用途は不明である。
- [周 溝] カマド部分の一部を除き全周する。幅は10～21cm、深さは6～21cmである。
- [カ マ ド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体は黄褐色粘土によって作られたと見られるが、ほとんど原形をとどめていない。カマドの下に掘り込みがみられた。煙道部は半地下式である。カマド前面から焼けた礫が出土した。カマドに伴い何らかの形で使用していたと思われるが、用途は不明である。
- [出土遺物] 床直から土師器の坏が1点(第222図)出土した。またカマド脇周溝内と覆土からは甕の胴部から底部がないもの2点と底部だけのもの1点(第222図)が出土した。近くに縄文時代の竪穴住居跡があることから、土器片も多数出土した。石器は石鏃1点(第194図)・P₁からスクレイパー1点(第208図)が出土した。

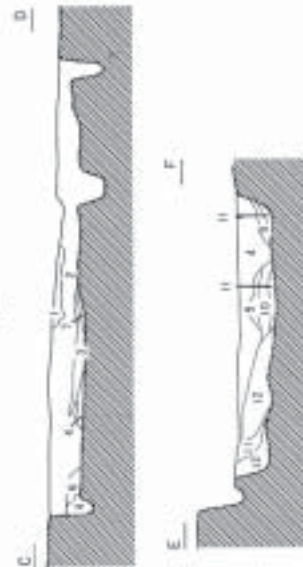
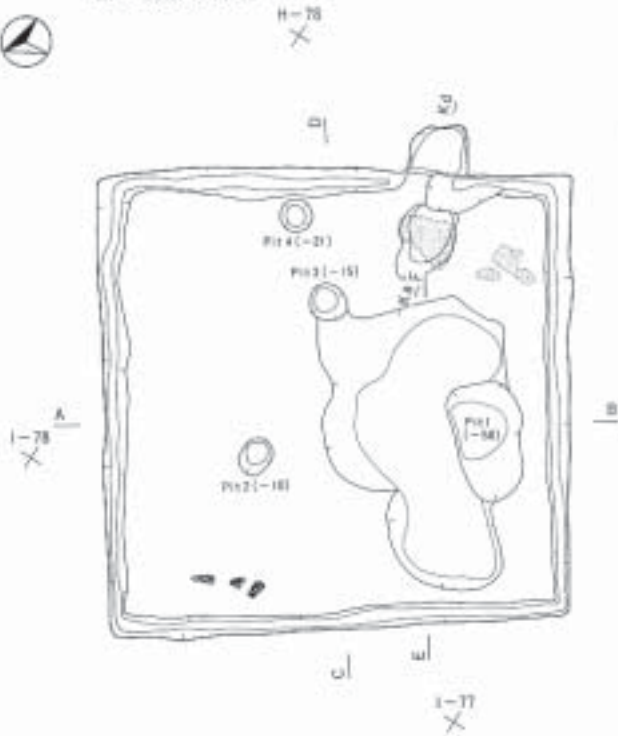
第14号竪穴住居跡(第141・142図)

- [位置と確認] I・J - 73グリッド。
- [重 複] 15H・63土・369土と重複。いずれの遺構よりも本住居跡の方が新しい。
- [規模と形状] 長軸 4m05cm、短軸 3m90cm の正方形を呈す。
- [堆 積 土] 9層に分層した。灰黄褐色～にぶい黄褐色土を主体とし、堆積状況から自然

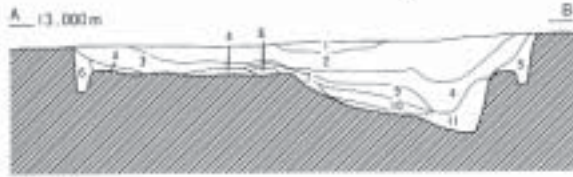


第139図 住居跡(第5号)

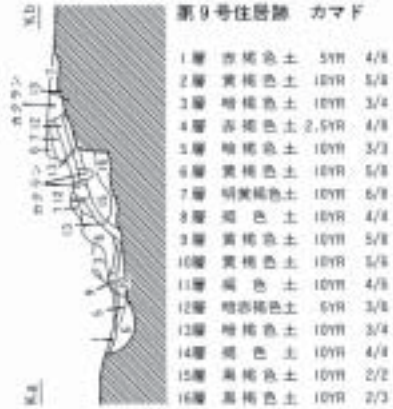
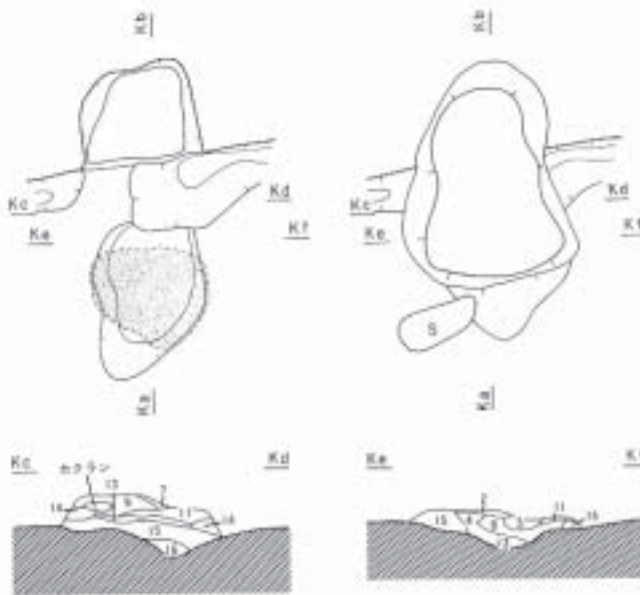
第9号型穴住居跡



第9号住居跡

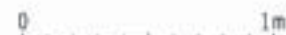


- | | | | | | | | |
|----|--------|------|-----|-----|--------|-------|-----|
| 1層 | 赤褐色土 | 10YR | 2/2 | 7層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/6 |
| 2層 | 赤褐色土 | 10YR | 3/2 | 8層 | 明黄褐色土 | 10YR | 6/8 |
| 3層 | 赤褐色土 | 10YR | 2/3 | 9層 | 赤褐色土 | 10YR | 2/2 |
| 4層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | 10層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/8 |
| 5層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | 11層 | 赤褐色土 | 7.5YR | 2/2 |
| 6層 | ロソ黄褐色土 | 10YR | 4/3 | 12層 | ロソ黄褐色土 | 10YR | 5/4 |



第9号住居跡 カマド

- | | | | |
|-----|-------|-------|-----|
| 1層 | 赤褐色土 | 5YR | 4/8 |
| 2層 | 赤褐色土 | 10YR | 5/8 |
| 3層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 |
| 4層 | 赤褐色土 | 2.5YR | 4/8 |
| 5層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 |
| 6層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/8 |
| 7層 | 明黄褐色土 | 10YR | 6/8 |
| 8層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 |
| 9層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/8 |
| 10層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/8 |
| 11層 | 褐色土 | 10YR | 4/8 |
| 12層 | 暗赤褐色土 | 5YR | 3/8 |
| 13層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 |
| 14層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 |
| 15層 | 黄褐色土 | 10YR | 2/2 |
| 16層 | 赤褐色土 | 10YR | 2/3 |



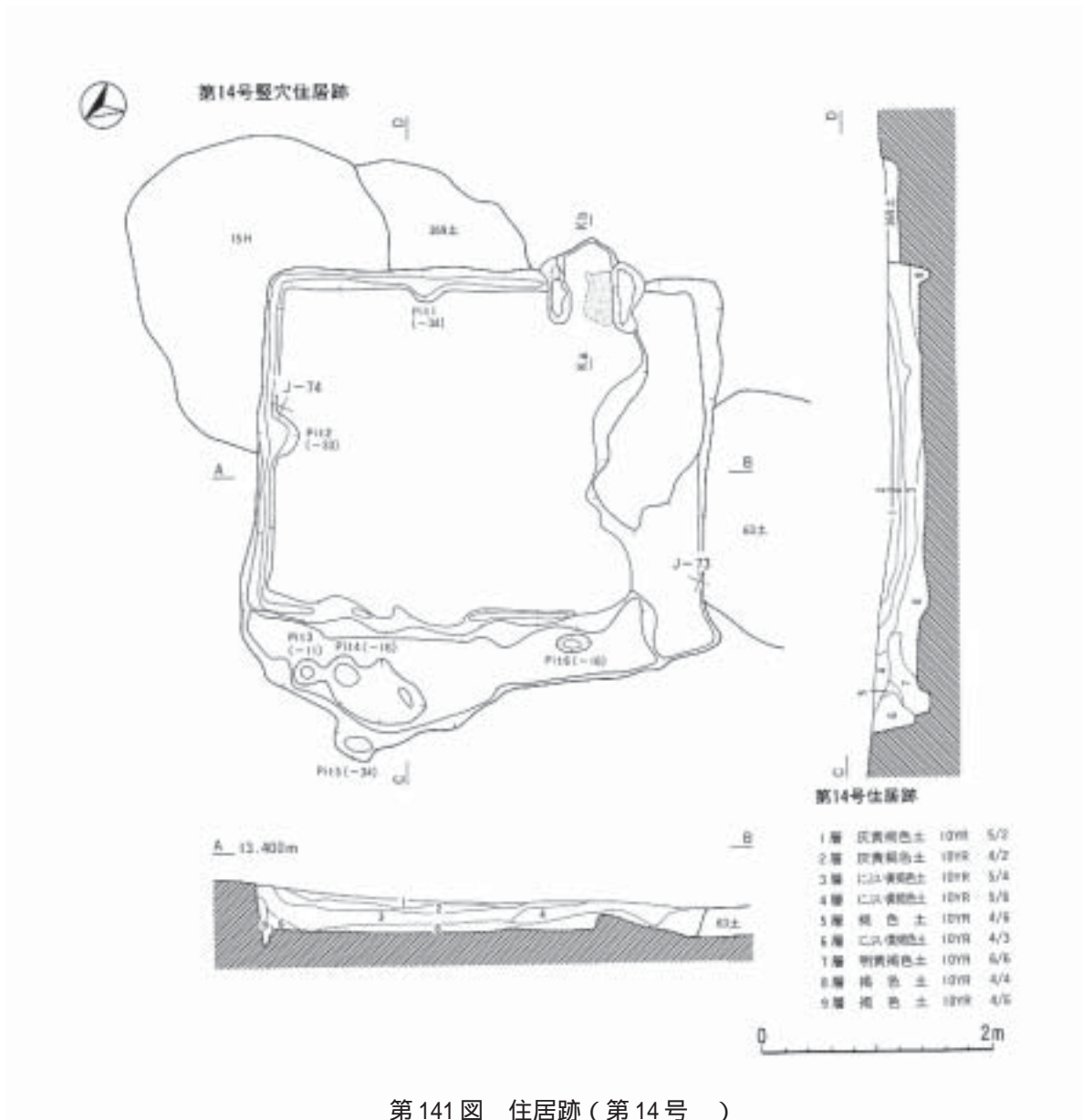
第140図 住居跡(第9号)

堆積と考えられる。

[壁・床面] 各壁とも第 層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は25～40cmで、北壁・西壁が高く、南壁・東壁が低い。床面は全面貼り床で、平坦である。

[柱穴・ピット] 床面から6個検出した。このうちP₁、P₂は腰板の押さえるものか、支柱穴と見られる。P₃～P₆の用途は不明である。

[周 溝] 東壁のカマド部分と南壁を除き約3/4周する。幅は6～16cm、深さは24～37cmである。



[カマド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体はにぶい黄褐色粘土によって作られ、袖部と煙道部が遺存する。袖部は貼り床に用いた粘土を芯材として、その上に粘土を貼りつけている。煙道部は半地下式で、煙出孔に向かい傾斜して緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 覆土から坯の底部2点と甕の口縁部(第222図)が出土した。石器は石鏃1点(第194図)・石槍1点(第201図)が出土した。

第36号竪穴住居跡(第143・144図)

[位置と確認] L・M - 98・99グリッド。

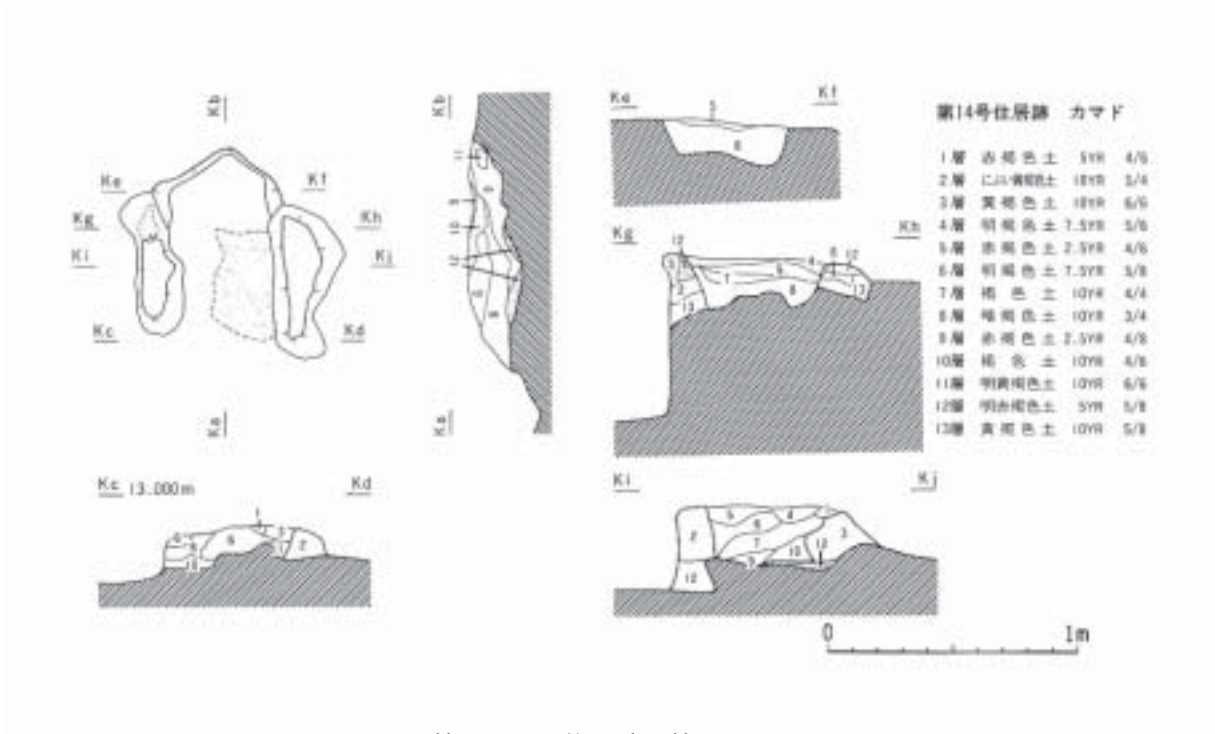
[重複] 187土・201土・213土・377土と重複。いずれの遺構よりも本住居跡の方が新しい。

[規模と形状] 長軸4m94cm、短軸4m84cmの正方形を呈す。

[堆積土] 9層に分層した。黒褐色～明褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[壁・床面] 各壁とも第層を壁面としている。壁は緩やかに立ち上がり、床面からの壁高は6～18cmで、北壁・南壁が高く、東壁・西壁が低い。床面は第層を直接床面としており、全体的に凹凸がある。

[柱穴・ピット] 床面から6個検出した。柱穴と思われるものにP₃、P₄があるが、それに対応

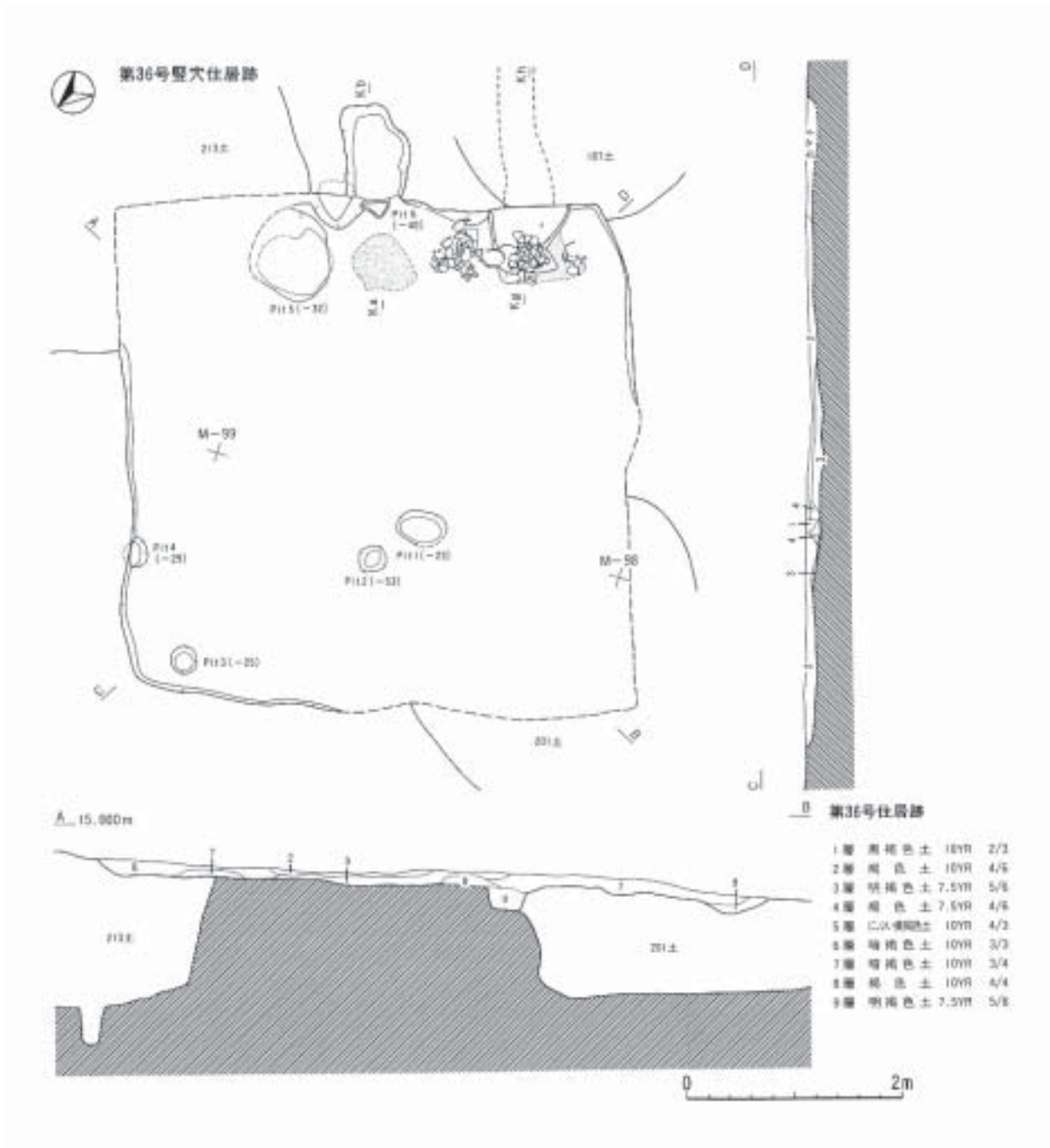


第142図 住居跡(第14号)

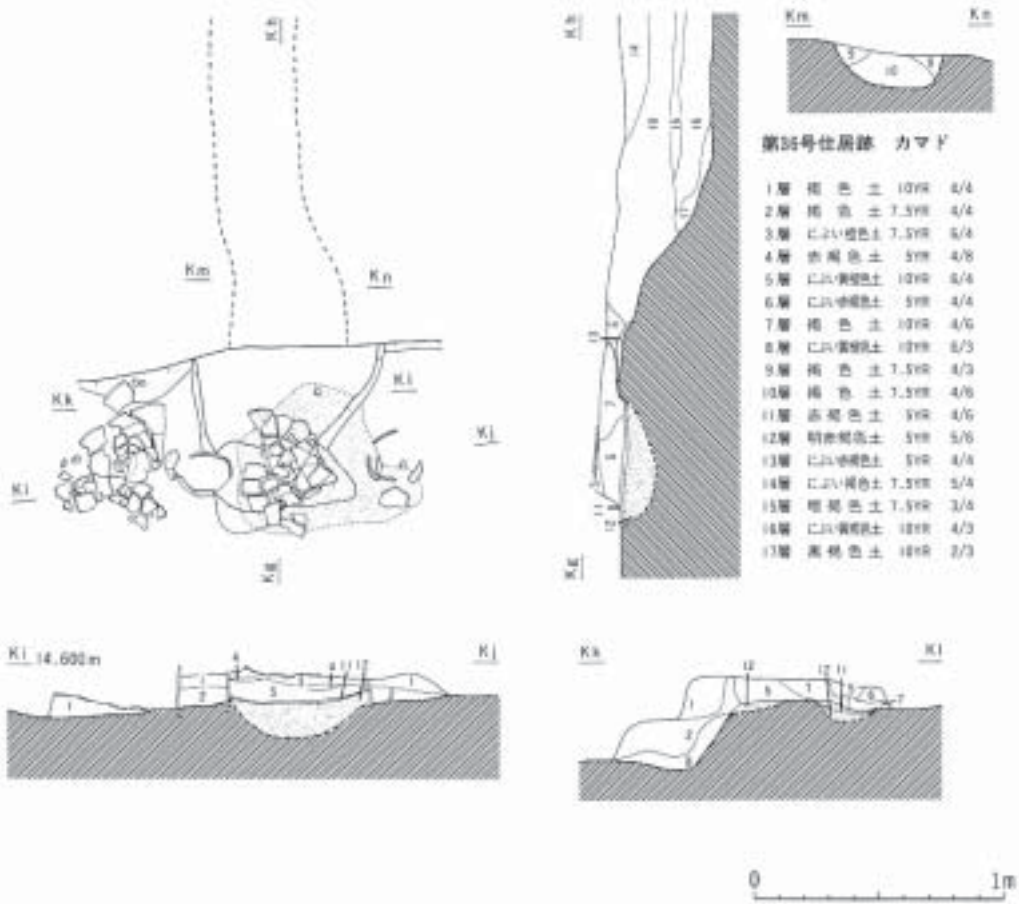
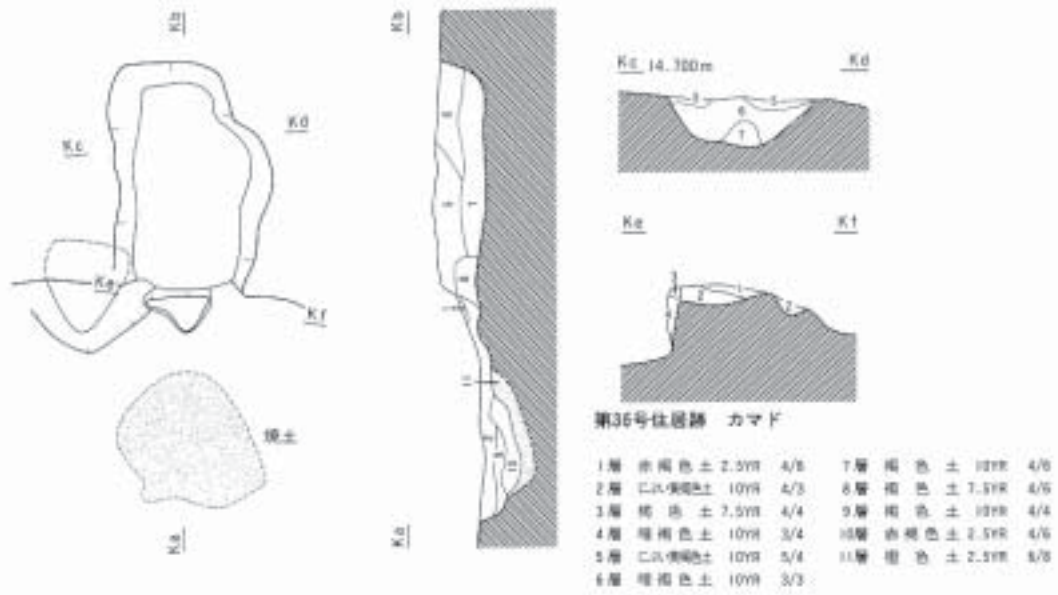
するものは検出されなかった。その他のピットの用途は不明である。

[周 溝] 検出されなかった。

[カ マ ド] 東壁中央に1基(A)、東壁南寄りに1基(B)の計2基のカマドが構築されている。Aのカマド本体はにぶい黄褐色粘土によって作られ、煙道部は遺存するが、袖部は原形をとどめていない。燃烧部の焼土は固化している。煙道部



第143図 住居跡(第36号)



第144図 住居跡（第36号）

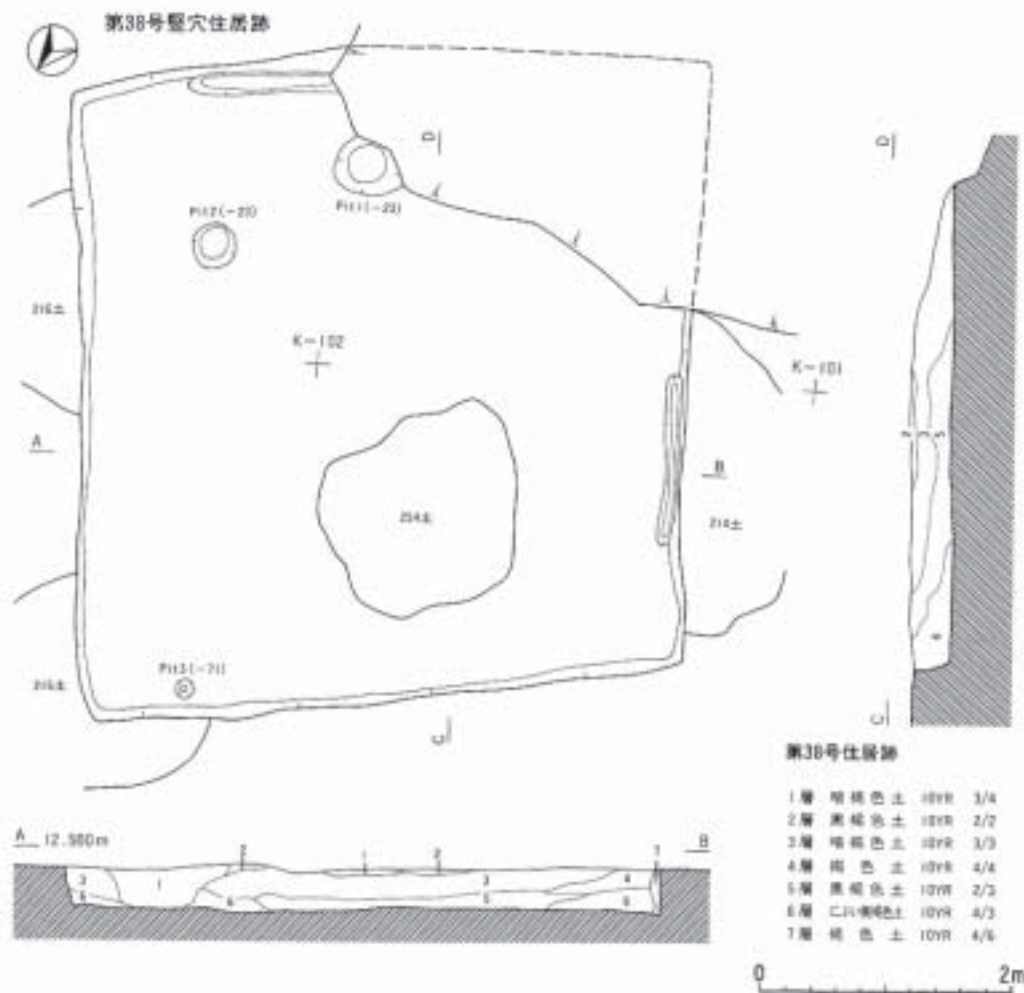
は半地下式である。Bのカマド本体はにぶい黄橙色土によって作られ、煙道部は遺存するが、袖部と天上部は原形をとどめていない。燃烧部の焼土は固化しており、カマド両脇から芯材として使用していたと見られる甕が2点倒立した状態で、またカマド脇と本体上部から甕が潰された状態で出土した。煙道は地下式である。

[出土遺物] カマドから甕の完形が4点(第223図)出土した。須恵器片も12点出土した。

第38号竪穴住居跡(第145図)

[位置と確認] J・K - 101・102グリッド。

[重複] 214 ~ 216・254土と重複。214・254土より本住居跡の方が新しく、215・216土とは新旧関係不明。

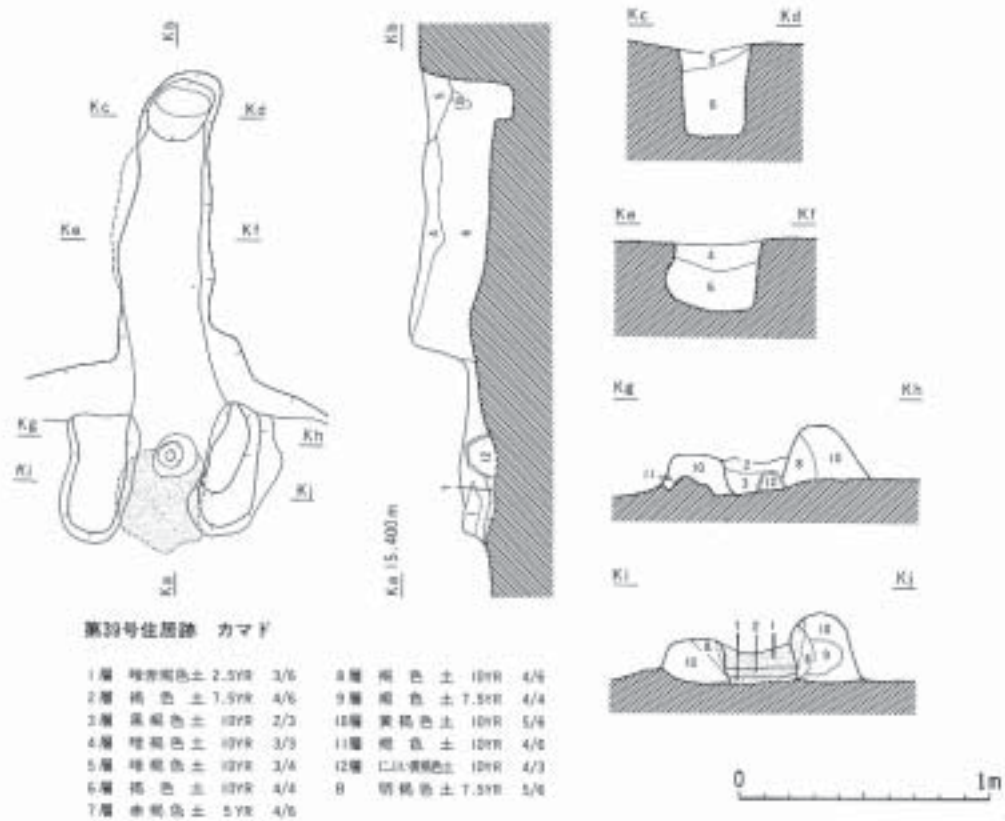
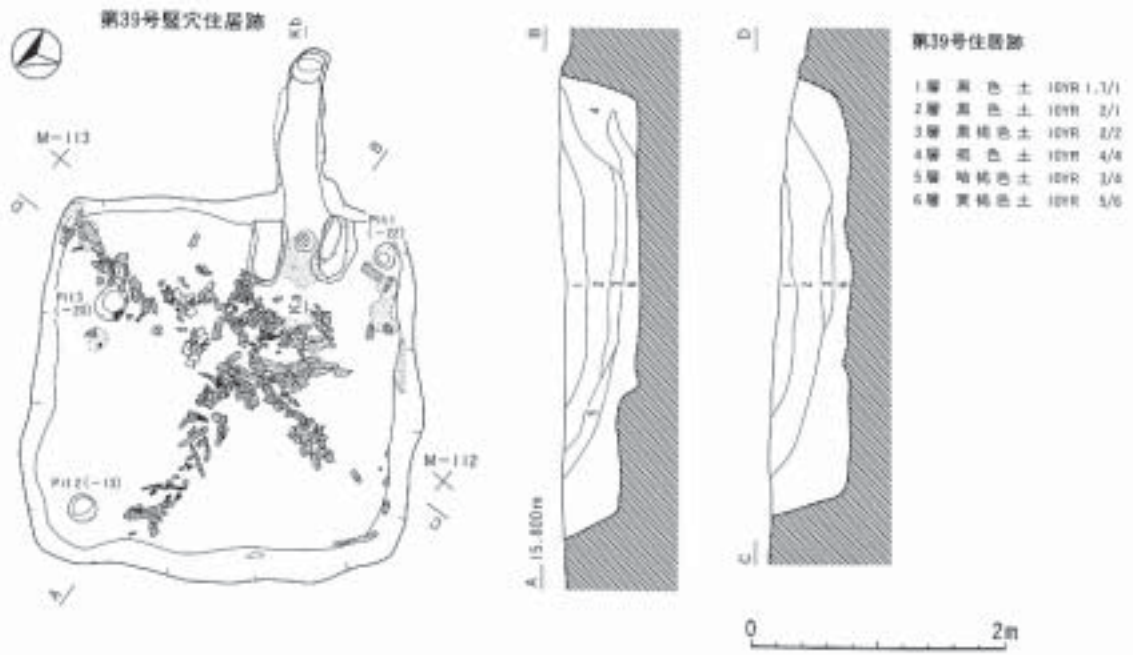


第145図 住居跡(第38図)

- [規模と形状] 長軸 5m21cm、短軸 4m86cm の方形を呈す。
- [堆 積 土] 7層に分層した。暗褐色～褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は 31～35cm である。床面は全面貼り床で、全体的に平坦である。
- [柱穴・ピット] 床面から 3 個検出した。これらのピットには対照的な配置が見られず、主柱穴などは不明である。
- [周 溝] 東壁と南壁の一部に検出した。幅は 8～13cm、深さは 9～16cm である。
- [カ マ ド] 東壁南半分が削平されているため、検出されなかった。
- [出土遺物] 覆土と床直から土師器の破片が多く出土した。須恵器片も 6 片出土した。近くに縄文の竪穴住居跡もあることから、円筒上層の土器片も多数出土した。

第 39 号竪穴住居跡 (第 146 図)

- [位置と確認] L・M - 112 グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸 3m12cm、短軸 3m08cm の正方形を呈す。
- [堆 積 土] 6層に分層した。黒色～黄褐色土を主体とし、堆積状況から第 6 層は人為堆積で、その他は自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 層を壁面としている。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面からの壁高は 33～63cm で、南壁が高く北壁が低い。床面は全面貼り床で、ほぼ平坦である。
- [柱穴・ピット] 床面から 3 個検出した。形状と配列から主柱穴と見られる。
- [周 溝] 検出されなかった。
- [カ マ ド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体は黄褐色粘土によって作られ、袖部と煙道部が遺存する。燃烧部の焼土は固化している。また、袖部と煙道部の内壁には火熱を受けた痕がある。煙道部は半地下式で、煙出孔に向かい緩やかに傾斜して、煙出孔の底面が一旦掘り込まれ、ほぼ垂直に立ち上がる。火床面の壁寄りでは、支脚として使用していたとみられる甕が 1 点倒立した状態で出土した。
- [出土遺物] 土師器はカマドから甕が 1 点と底部だけのもの 1 点 (第 224 図) 出土した。近くに縄文の竪穴住居跡もあることから、最花式の土器 1 点 (第 166 図) が出土した。



第146図 住居跡(第39号)

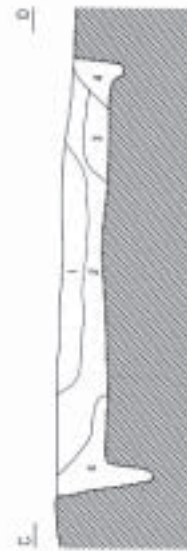
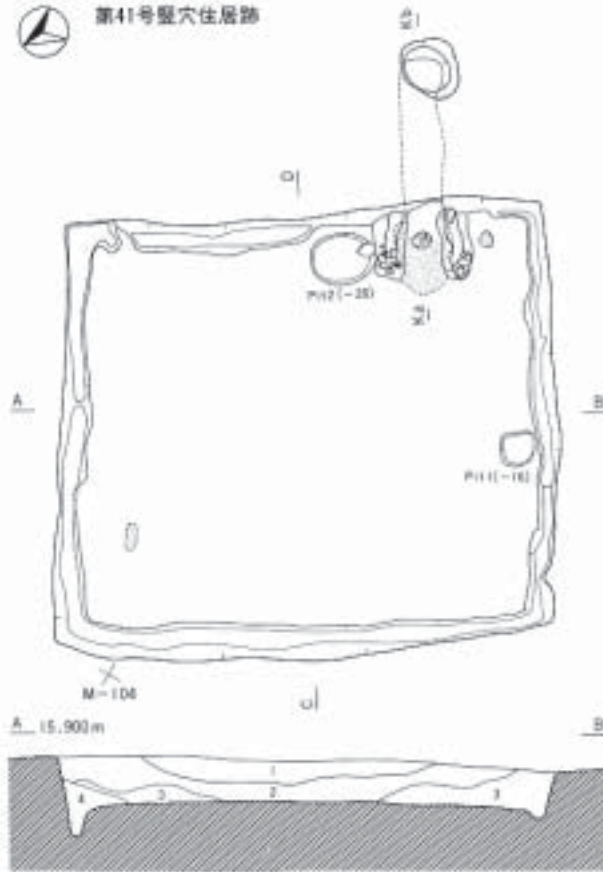
- [特記事項] 本住居跡床面及び床面直上より多量の炭化材が出土したこと、床面・壁が焼土化していることから考え、本住居跡は焼失家屋と考えられる。

第 41 号竪穴住居跡 (第 147 図)

- [位置と確認] K・L - 103・104 グリッド。
- [重 複] 44H・219 土と重複。新旧関係不明。
- [規模と形状] 長軸 3m98cm、短軸 3m52cm の長方形を呈す。
- [堆 積 土] 4層に分層した。暗褐色～褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 1 層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は 30～41cm で、北壁・西壁が高く、南壁・東壁が低い。床面は全面貼り床で、ほぼ平坦である。カマド周辺部から北壁にかけて、堅くしまっている。
- [柱穴・ピット] 床面から 2 個検出した。このうち P₁ は腰板の押さえるものか、主柱穴と見られる。
- [周 溝] 東壁のカマド部分を除き全周する。幅は 7～20cm、深さは 5～32cm である。
- [カ マ ド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体は黄褐色粘土によって作られ、袖部と煙道部が遺存する。燃烧部の焼土は固化している。また、袖部と煙道部の内壁には火熱を受けた痕がある。煙道部は地下式で、煙出孔に向かい緩やかに傾斜している。袖部の両脇から土師器甕が潰れた状態で 2 点、火床面の壁寄りから支脚として使用していたと見られる坏が 1 点倒立した状態で出土した。
- [出土遺物] カマドと覆土から坏が 3 点とカマドから甕が 1 点と床直から甕の底部 1 点 (第 224 図) が出土した。また覆土から須恵器の坏が 1 点 (第 226 図) 出土した。石器は石鏃 1 点 (第 195 図) ・砥石 1 点 (第 217 図) が出土した。
- [特記事項] P₂ はカマドに隣接する。覆土からは焼土が多量に出土した。



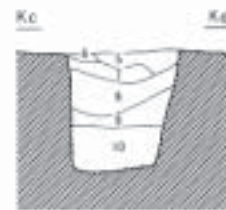
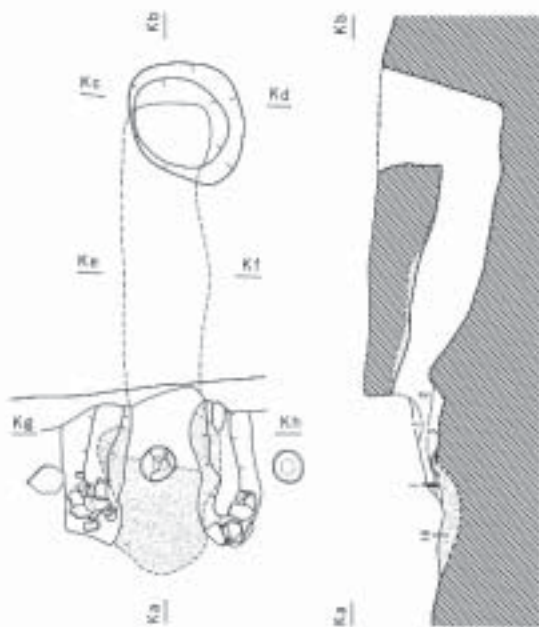
第41号壁穴住居跡



第41号住居跡

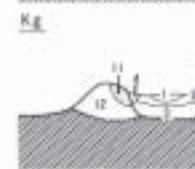
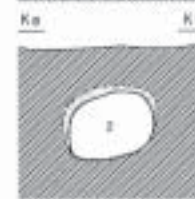
- 1層 暗褐色土 10YR 3/4
- 2層 褐色土 7.5YR 4/4
- 3層 暗褐色土 10YR 3/3
- 4層 褐色土 10YR 4/3

0 2m



第41号住居跡 カマド

- 1層 褐色土 7.5YR 4/6
- 2層 褐色土 7.5YR 4/4
- 3層 暗褐色土 10YR 3/4
- 4層 暗赤褐色土 5YR 3/6
- 5層 褐色土 7.5R 4/3
- 6層 暗赤褐色土 5YR 3/4
- 7層 暗赤褐色土 2.5YR 3/6
- 8層 赤褐色土 10YR 2/3
- 9層 紅褐色土 10YR 4/3
- 10層 暗褐色土 10YR 3/2
- 11層 赤褐色土 5YR 4/6
- 12層 黄褐色土 10YR 5/6
- 13層 褐色土 10YR 4/4
- 14層 赤褐色土 7.5YR 4/3



0 1m

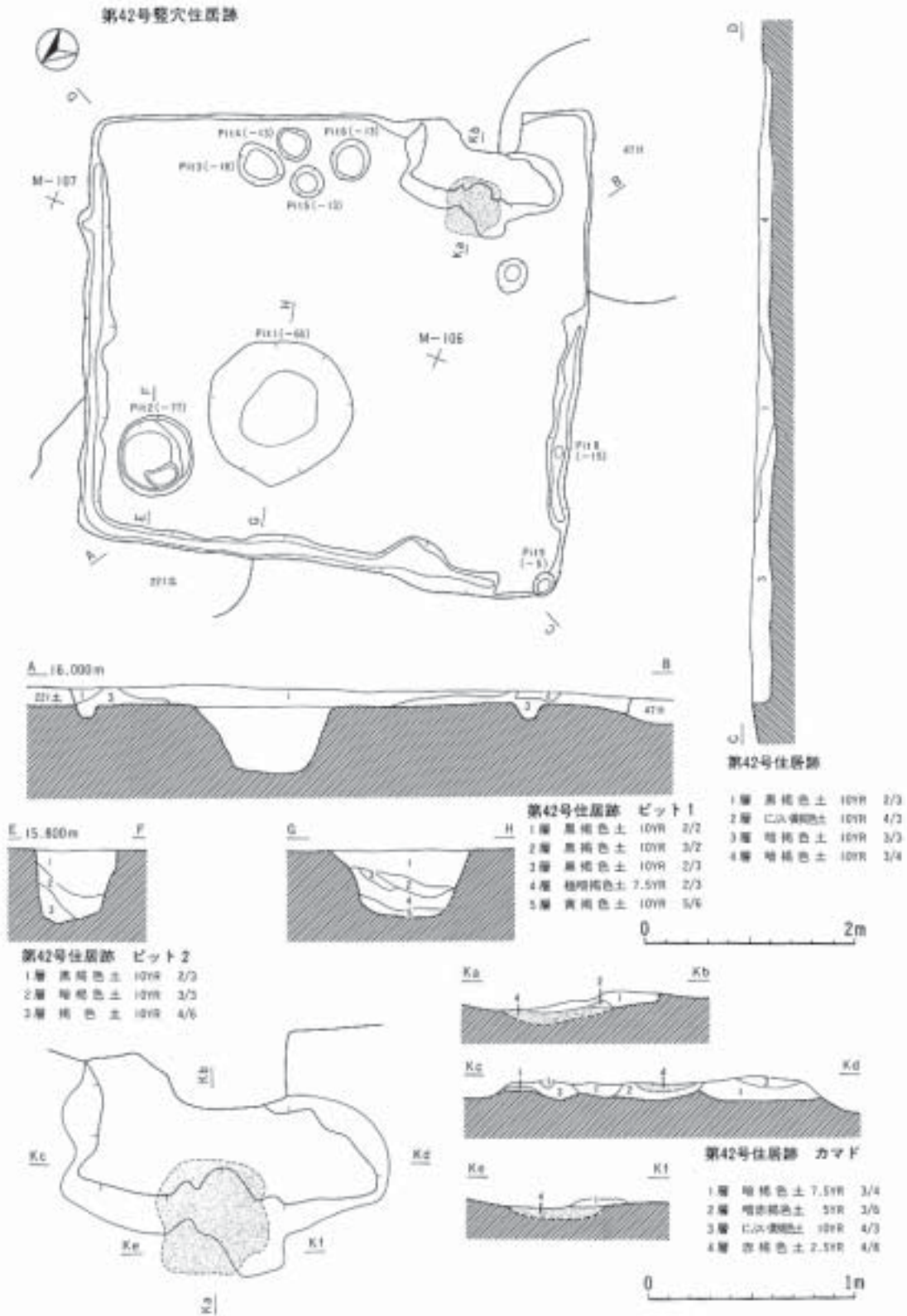
第147図 住居跡(第41号)

第 42 号竪穴住居跡（第 148 図）

- [位置と確認] L・M - 105・106 グリッド。
- [重 複] 47H・221 土と重複。221 土より新しい。
- [規模と形状] 長軸 4m84cm、短軸 4m51cm の長方形を呈す。
- [堆 積 土] 4層に分層した。黒褐色～暗褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は 7～18cm である。床面は全面貼り床で、ほぼ平坦である。
- [柱穴・ピット] 床面から 8 個、周溝内から 1 個検出した。このうち P₉ は腰板の押さえるものか、主柱穴と見られる。その他のピットは対照的な配置が見られず、主柱穴などは不明である。
- [周 溝] 東壁を除き約 3/4 周する。幅は 11～34cm、深さは 4～20cm である。
- [カ マ ド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体はにぶい黄褐色粘土によって作られていたと思われるが、袖部が原形をとどめておらず、煙道も遺存しない。燃烧部の焼土は固化している。
- [出土遺物] 覆土中から坏と甕が 1 点ずつ（第 224 図）出土した。縄文時代の竪穴住居跡（47H）を切って作っていることから、土器片も多数覆土から出土した。

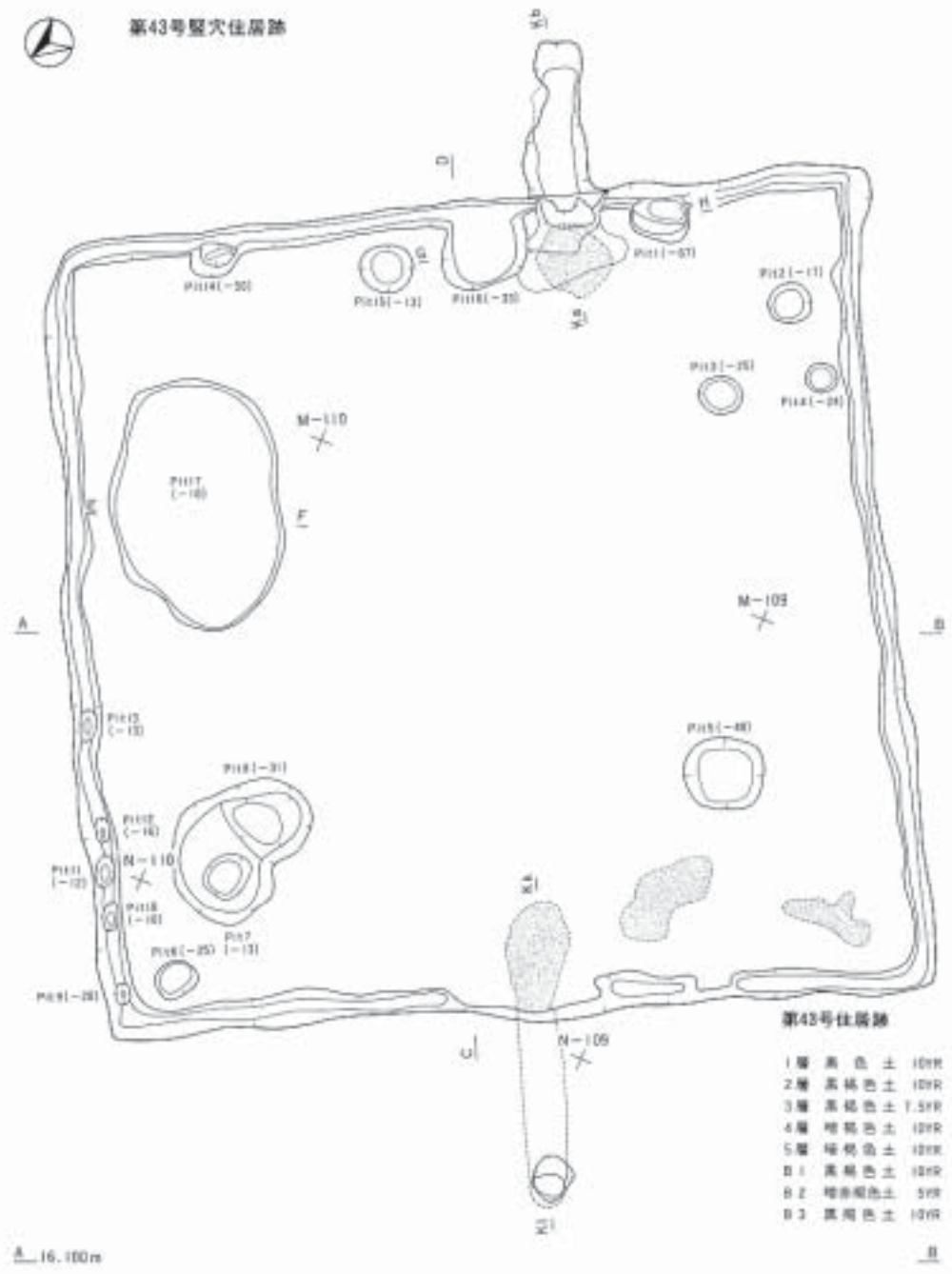
第 43 号竪穴住居跡（第 149～151 図）

- [位置と確認] L・M - 108・109 グリッド。
- [重 複] なし。
- [規模と形状] 長軸 6m94cm、短軸 6m90cm の正方形を呈す。
- [堆 積 土] 5層に分層した。黒色～暗褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第 層を壁面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面からの壁高は 22～33cm である。床面は全面貼り床で、全体的に平坦である。
- [柱穴・ピット] 床面から 17 個検出した。このうち P₁、P₅、P₈、P₁₄ は形状と配列から主柱穴と見られる。P₉～P₁₃ は腰板の押さえるものか、主柱穴と見られる。その他のピットの用途は不明である。
- [周 溝] カマド A の部分を除き全周する。幅は 8～20cm、深さは 8～35cm である。
- [カ マ ド] 西壁中央に 1 基（A）、東壁南寄りに 1 基（B）の計 2 基のカマドが構築されている。A は燃烧部と見られる焼土と煙道部を検出した。カマド本体は遺存



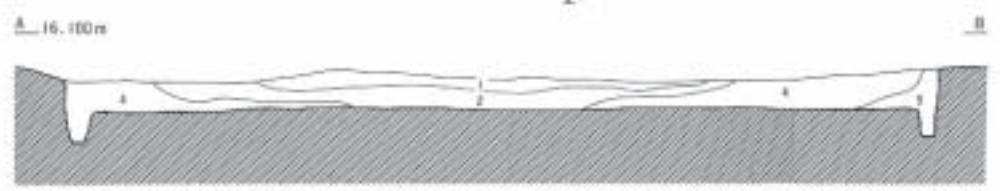


第43号整穴住居跡

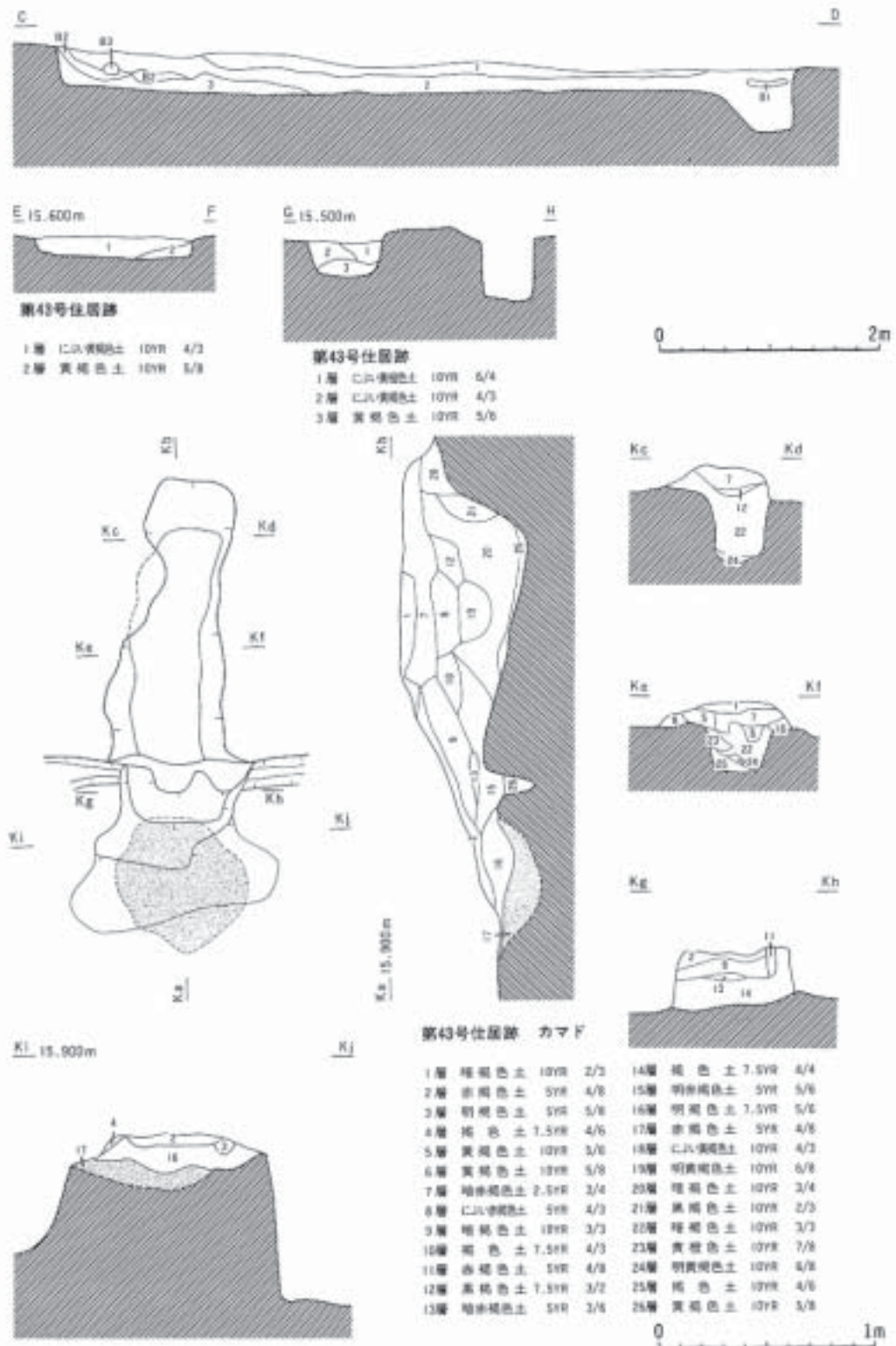


第43号住居跡

1層	黄褐色土	10YR	2/1
2層	黄褐色土	10YR	2/3
3層	黄褐色土	7.5YR	2/2
4層	暗褐色土	10YR	3/4
5層	暗褐色土	10YR	3/3
D1	黄褐色土	10YR	3/2
D2	暗褐色土	5YR	3/3
D3	黄褐色土	10YR	2/2



第149图 住居跡(第43号)

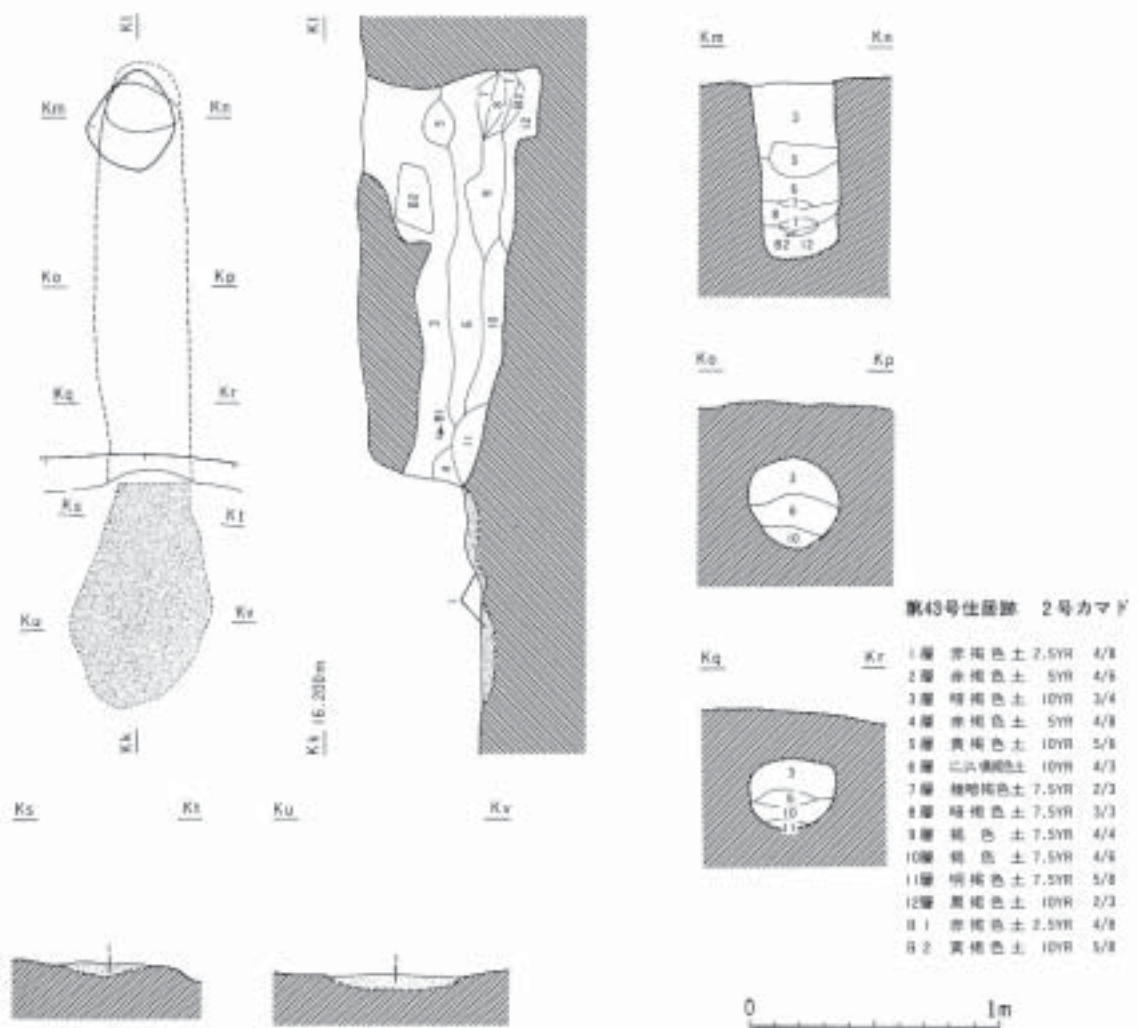


第150図 住居跡(第43号)

していなかった。燃烧部の焼土は固化している。煙道部は地下式である。Bのカマド本体は明黄褐色粘土によって作られ、煙道部の残存状態は良好であるが、袖部と天上部は原形をとどめていない。燃烧部の焼土は厚く堆積し固化している。煙道部は半地下式で、煙出孔に向かい傾斜して緩やかに立ち上がる。カマドBの下には周溝が巡っていた。

[出土遺物 覆土・床直・カマドから完形の坏が7点、底部だけ1点、甕は1点、底部だけ2点（第225図）出土した。須恵器の坏も3点（第226図）出土した。歴史時代の竪穴住居跡の中で、一番破片が多かった。石器は土錘1点（第220図）が出土した。

[特記事項 Ⅱ縁から胴部にかけての擦文土器の甕の破片（第225図）が出土した。



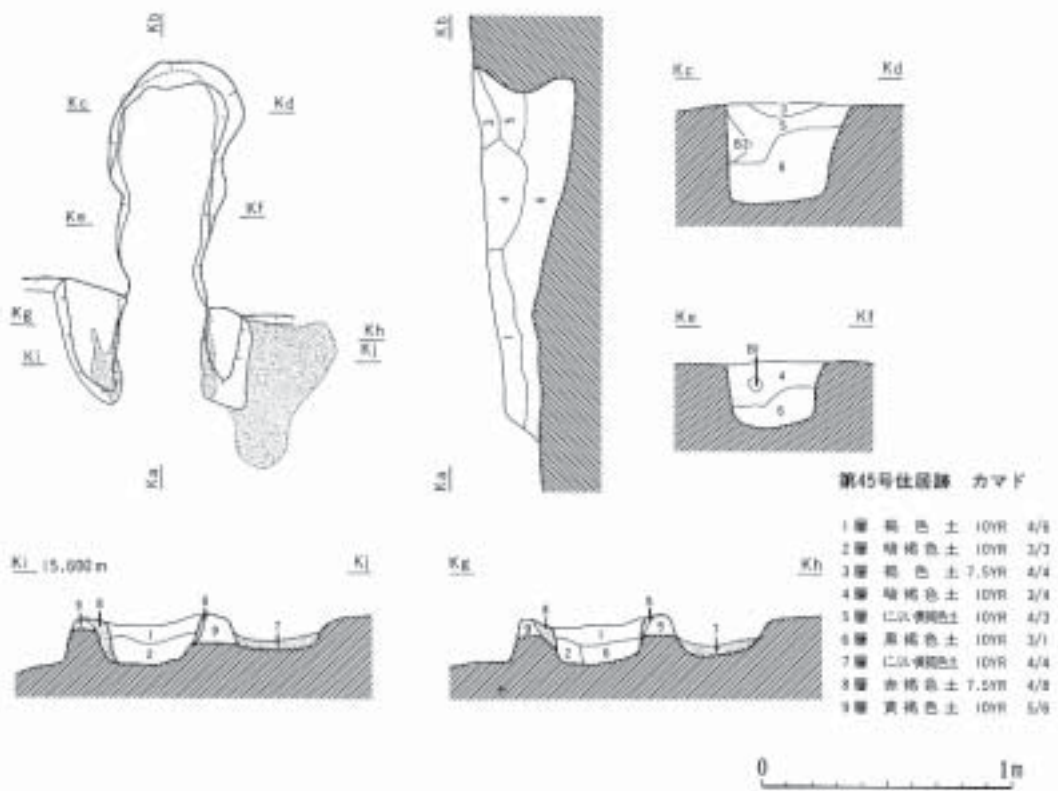
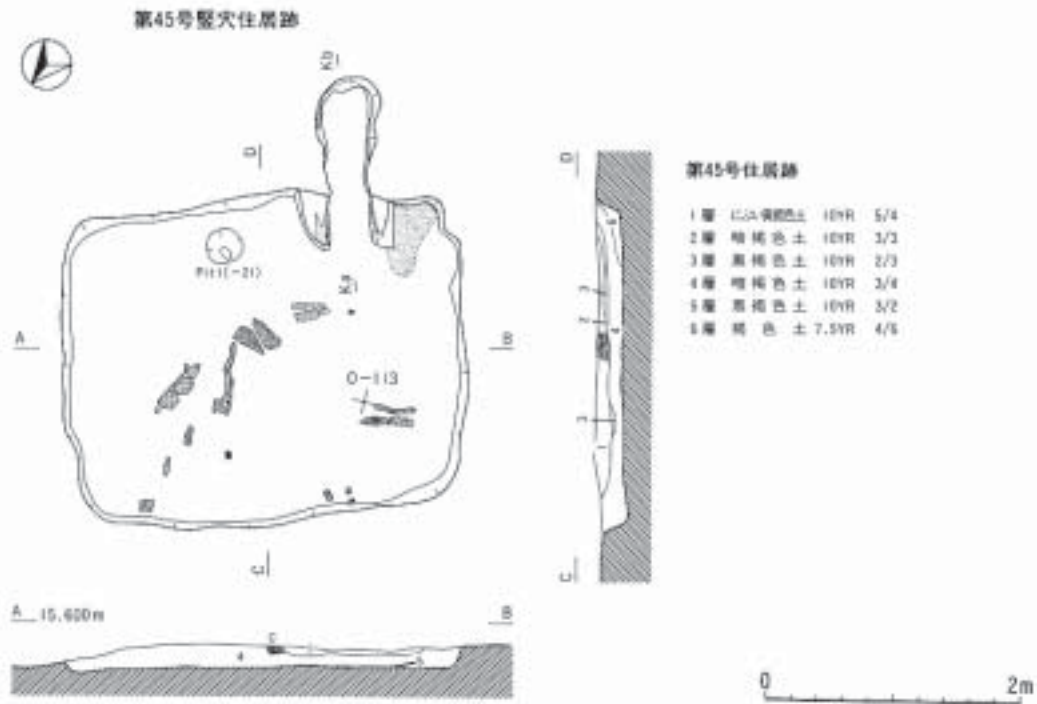
第151図 住居跡（第43号）

第45号竪穴住居跡(第152図)

- [位置と確認] N・O - 112・113グリッド。
- [重複] なし。
- [規模と形状] 長軸 3m21cm、短軸 2m64cm の長方形を呈す。
- [堆積土] 6層に分層した。黒褐色～暗褐色土を主体とし、堆積状況から4～6層は自然堆積、1～3層は人為堆積と考えられる。
- [壁・床面] 各壁とも第1層を壁面としている。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面からの壁高は10～21cmで、北壁が低い。床面はほぼ全面貼り床で、全体的に凹凸がある。かまど付近の床がかたくしまっている。
- [柱穴・ピット] 床面から1個検出した。用途は不明である。
- [周溝] 検出されなかった。
- [カマド] 東壁南寄りに位置する。カマド本体は黄褐色粘土によって作られ、袖部と煙道部が遺存する。燃焼部と見られる部分には焼土は検出されなかったが、袖部の内壁には火熱を受けた痕がある。袖部は貼り床に用いた粘土を芯材として、その上に粘土をはりつけている。煙道部は半地下式で、煙出孔に向かい傾斜してフラスコ状に立ち上がる。袖脇右脇より焼土を検出した。
- [出土遺物] カマドから底部の欠けた甕が1点(第226図)出土した。
- [特記事項] 本住居跡より多量の炭化材が出土しているが、床面・床直の炭化材がない、床や壁が焼土化していないということから、焼失家屋ではないと思われる。

第46号竪穴住居跡(第153図)

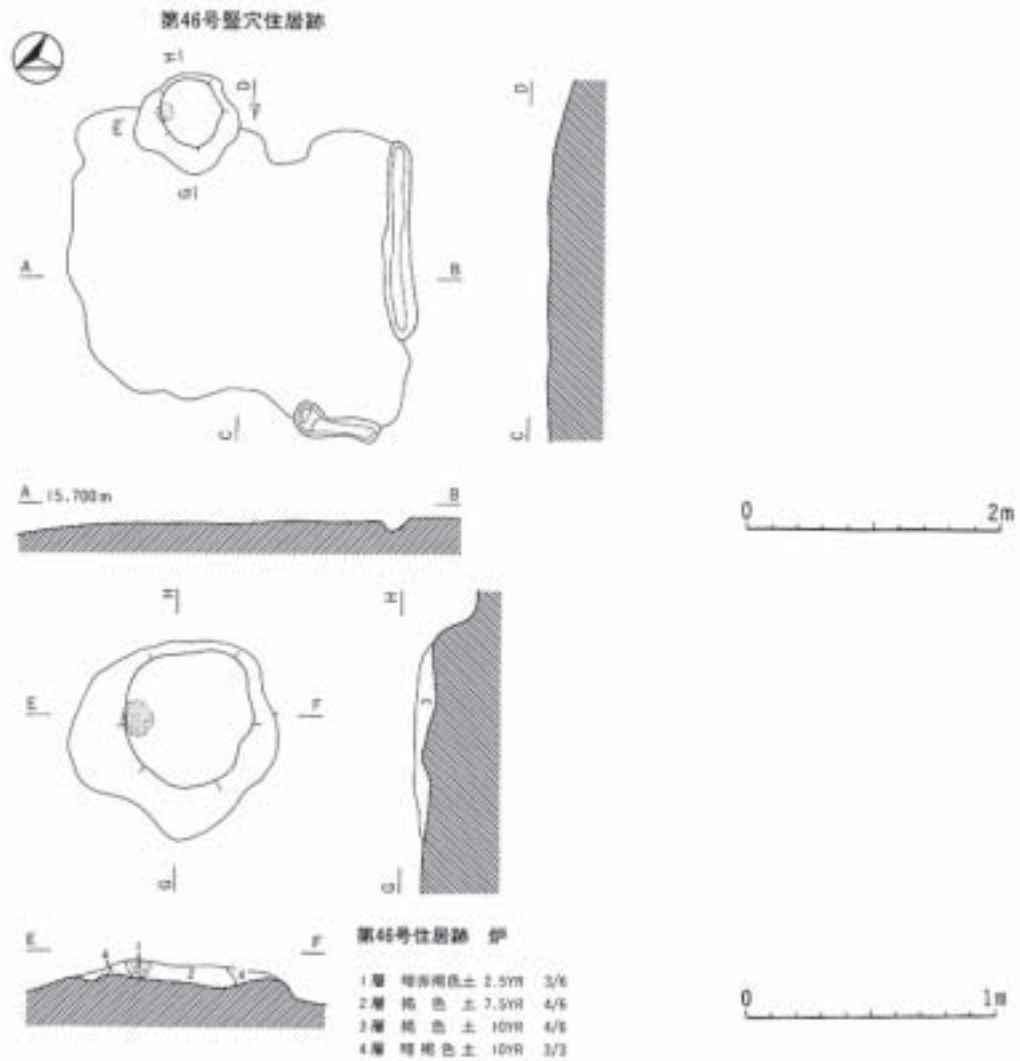
- [位置と確認] M・N - 112グリッド。
- [重複] なし。
- [規模と形状] 長軸 2m72cm、短軸 2m50cm の長方形を呈す。
- [堆積土] なし。
- [壁・床面] 張り床面のみの確認であったため、壁は存在しない。床面は貼り床で平坦である。
- [柱穴・ピット] なし。
- [周溝] 南壁と西壁の一部に検出し、約1/4周する。幅は14～24cm、深さは3～9cmである。
- [カマド] 東壁南寄りに位置する。
- [出土遺物] なし。



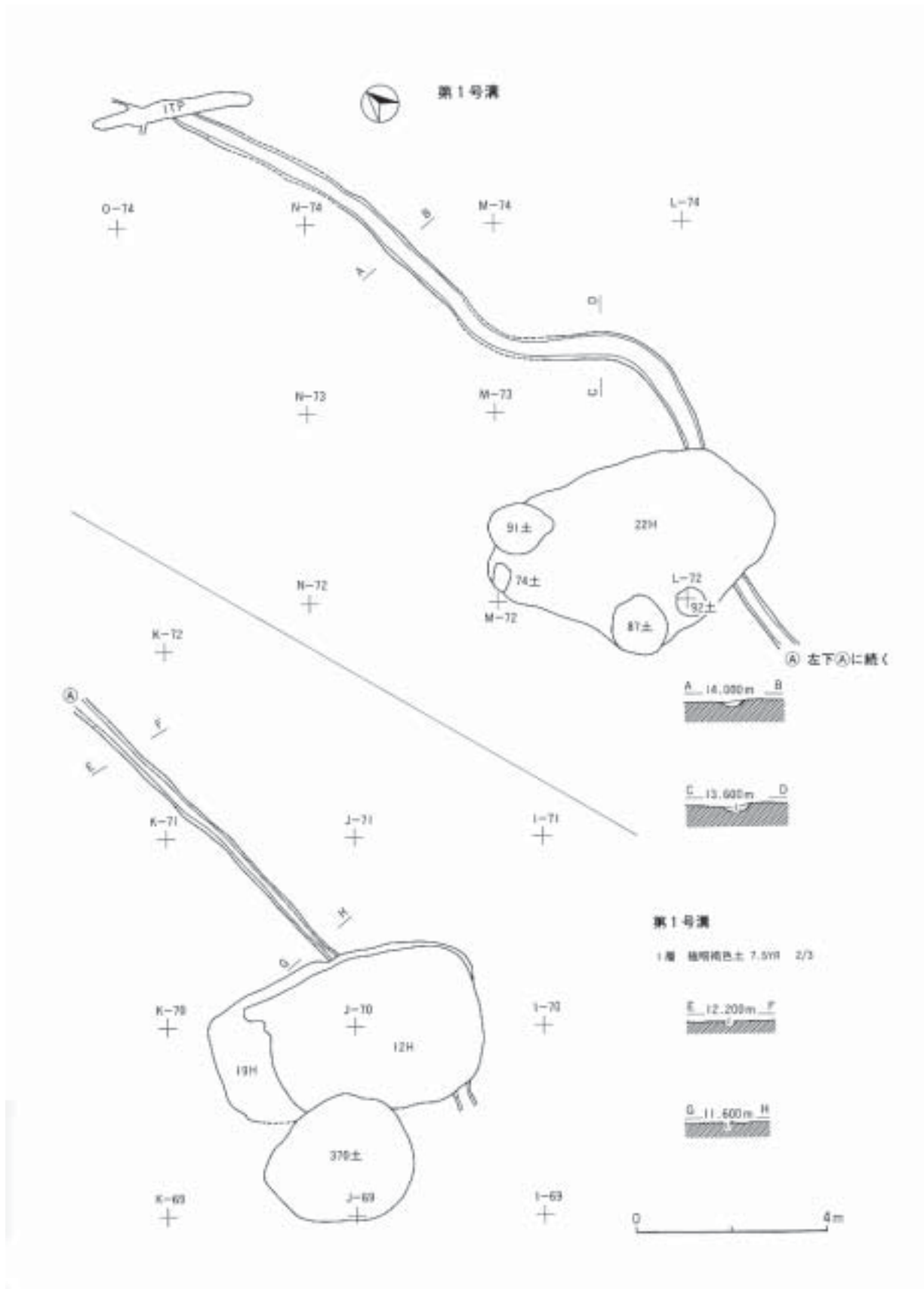
第152図 住居跡(第45号)

住居跡一覧表

住居 番号	グリッド	平面形	規 模 (m)	主軸方向	周 溝	主柱穴 (個)	か ま ど		付属施設	備 考
							位 置	構 造		
5	N・O-75・76	正方形	6.7×6.6	N 69°-W	(全周)	3個	東壁南寄り	半地下式	掘立柱	擾乱されている
9	H-77	正方形	3.7×3.7	N 63°-W	ほぼ全周	3個	東壁南寄り	半地下式		
14	I・J-73	正方形	4.0×3.9	N 59°-W	1/2周	無	東壁南寄り	半地下式		15H・16H・63土と重複
36	L・M-98・99	正方形	4.9×4.8	N 57°-W	無	2個	東壁中央・東壁南寄り	半地下式・地下式		187土・201土・213土・377土と重複
38	J・K-101・102	方 形	5.2×4.8	N 43°-W	1/4周	2個	無	- -		214土・215土・216土・234土と重複
39	L・M-112	正方形	3.1×3.0	N 75°-W	無	3個	東壁南寄り	半地下式		
41	K・L-103・104	長方形	4.0×3.5	N 65°-W	(ほぼ全周)	1個	東壁南寄り	地下式		44H・219土と重複
42	L・M-105・106	長方形	4.8×4.5	N 56°-W	2/3周	1個	東壁南寄り	- -		47H・221土と重複
43	L・M-108・109	正方形	6.9×6.9	N 59°-W	(ほぼ全周)	4個	西壁中央・東壁南寄り	地下式・半地下式		
45	N・O-112・113	長方形	3.2×2.6	N 51°-W	無	1個	東壁南寄り	半地下式		
46	M・N-112	長方形	2.7×2.5	- - -	1/4周	無	東壁北寄り	- -		ほとんど原型をとどめていない



第153図住居跡(第46号)



第154図 溝状遺構（第1号）

(3) 溝状遺構 調査の結果、溝状遺構が2本検出された。

第1号溝状遺構(第154図)

[位置と確認] I - 69・70、J - 70・71、K - 71・72、L・M - 73、M・N - 74、O - 74・75グリッドに位置し、第1層を精査中に確認した。

[重複] 12H・22H・27土・44土・1溝Pと重複しており、本遺構の方が新しい。

[平面形規模] 調査区を南北に横断する形の長い溝である。規模は、長さ約20m、幅20～40cm、深さ5～10cmと浅い溝である。

[壁・底面] 上端から床面にかけて傾斜しており、底面はほぼ平坦で固い。

[堆積土] 黒褐色土1層である。ローム粒を少量含む。

第2号溝状遺構(第155図)

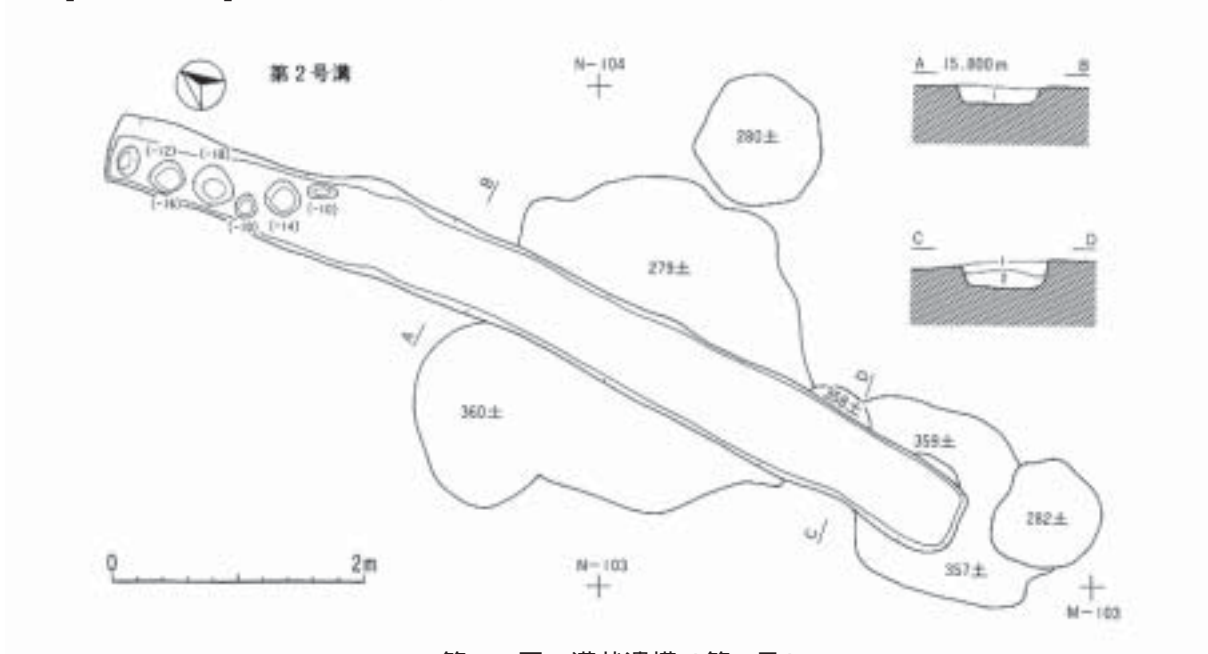
[位置と確認] J - 101、K - 102、L - 102・103、M・N - 103グリッドに位置し、第1層を精査中に確認した。

[重複] 38H・44H・215土・279土・282土・358土・359土と重複しており、本遺構の方が新しい。

[平面形規模] 調査区を南北に横断する形の長い溝である。規模は、長さ約19m、幅40～70cm、深さ15～22cmである。

[壁・底面] 上端から底面にかけて傾斜しており、底面は凹凸があり固い。

[堆積土] 2層に分けられ、堆積土全体にローム粒を含む。



第155図 溝状遺構(第2号)

第4節 A・D・E区の出土遺物

縄文時代

(1) 土器

今回の調査で出土した土器は、ダンボール箱で約150箱分に相当する量であった。その大半は、縄文時代中期末葉の円筒上層e式の土器である。

土器の出土状況をみると、住居跡・土壌・遺構外とそれぞれから出土していた。しかし、調査面積や遺構数に比べると、少ないのではないと思われる。

本報告書では、青森県埋蔵文化財調査センターが作成した『青森県内の土器編年表』(青森県:1990)を参考にして分類を行った。本項では遺構内、遺構外を一括して記述した。縄文時代前期、縄文時代中期、縄文時代後期、縄文時代晩期と大別し、これを時期・器形・文様などからさらに細別した。

縄文時代前期

円筒下層d式に相当するもの。

本類の特徴としては、口頸部の文様は、撚糸を横位・垂直・山形文の押圧。

縄文時代中期

円筒上層a式に相当するもの。

本類の特徴としては、口頸部の文様は、連続縦位短線圧痕文。口縁に設けられた4個の波状突起。口頸部の4箇所貼り付けられた懸垂状の隆帯文(鋸歯状文・菱形状文・「く」字状文)と口頸部と胴部の境に一巡する横位の隆帯。胴部の文様は、斜行縄文と羽状縄文。

円筒上層b式に相当するもの。

本類の特徴としては、口縁に4箇所の弁状突起。口頸部の隆帯は、複雑化し、隆帯文様が連結するようになり、細い。口頸部の文様は、押圧縄文による爪形圧痕文。胴部の文様は、羽状縄文。

円筒上層c式に相当するもの。

本類の特徴としては、口縁に4箇所の弁状突起を有する。口頸部の隆帯は、上層b式

土器より更に幅広くなり、複雑化し、隆帯による「たすき」「めがね」状の曲線文様。
口頸部の文様は、刺突文（竹管状工具・棒状工具）。 胴部の文様は、斜行縄文。

円筒上層d式に相当するもの。

本類の特徴としては、口頸部文様帯は幅が広く、細い粘土紐貼り付けによる隆線文で文様を構成。器形は、底部が小さく、胴部がゆるいカーブで張って、外反する深鉢形。口縁は波状で4箇所小型化した突起。隆帯は、地文縄文の上に粘土紐を貼付。胴部の文様は、斜行縄文と羽状縄文。

円筒上層e式に相当するもの。

本類の特徴としては、器形と口縁部は円筒上層d式とほぼ同様。口縁の突起は4箇所あり、更に小型化。文様は、沈線で縦位及び胸骨文。

榎林式に相当するもの。

本類の特徴としては、口縁は平口縁。口唇部が内反し、隆沈線を渦巻に施文。胴部の文様は、斜行縄文を施し、その上に2～3条の沈線が一組となって、平行沈線・弧状・渦巻状に施文。

最花式に相当するもの。

本類の特徴としては、口縁は平縁で、口頸部の文様は無文。胴部は、縄文を施文した後に、2条・3条の沈線を1単位として縦位方向に逆「U」字状に細長く平行に4～8列施文する長楕円形文。

大木10式に併行するもの。

本類の特徴としては、口縁部が4つの山形突起・外反する平口縁を有する深鉢形。胴部の文様は、全面に縄文を施文した後、「U」・「S」字状の沈線と沈線と隆線を組み合わせたもの。沈線間に刺突。器面に朱を塗る。

中期後葉～末葉に相当（粗製の土器）するもの。

本類の特徴としては、文様は、縄文のみ・撚糸圧痕文・綾絡文・無文。

縄文時代後期

牛ヶ沢式に相当するもの。

本類の特徴としては、口縁部が開き、文様は口縁部から胴部にかけて細い粘土紐を貼付し、方形の区画文。

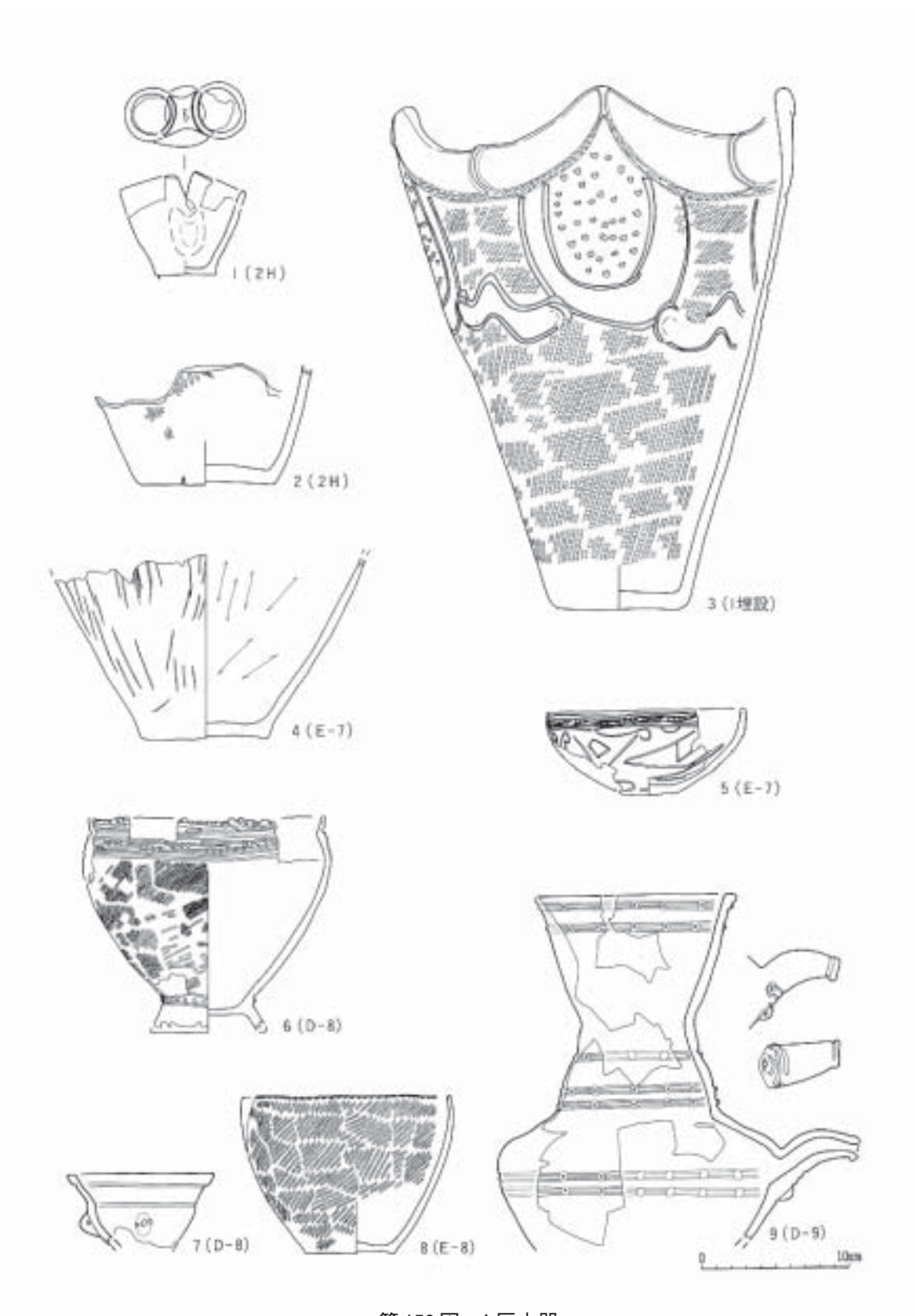
十腰内 式に相当するもの。

本類の特徴としては、注口土器に粘土粒の貼瘤が多くつく。

縄文時代晩期

大洞BC式に相当するもの。

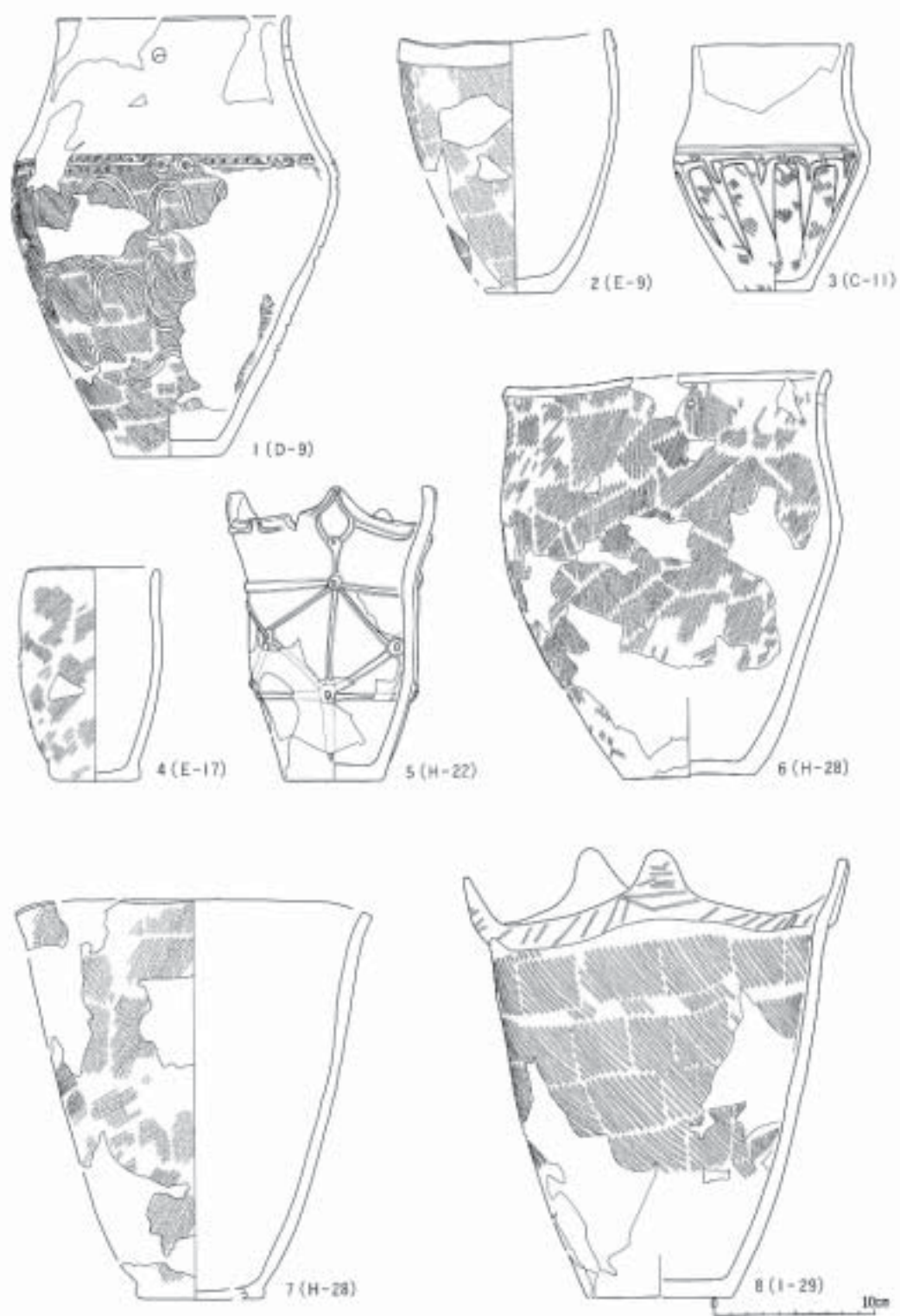
本類の特徴としては、平行沈線間に刻み目や列点文状の刺突。文様は羊歯縄文を施文。



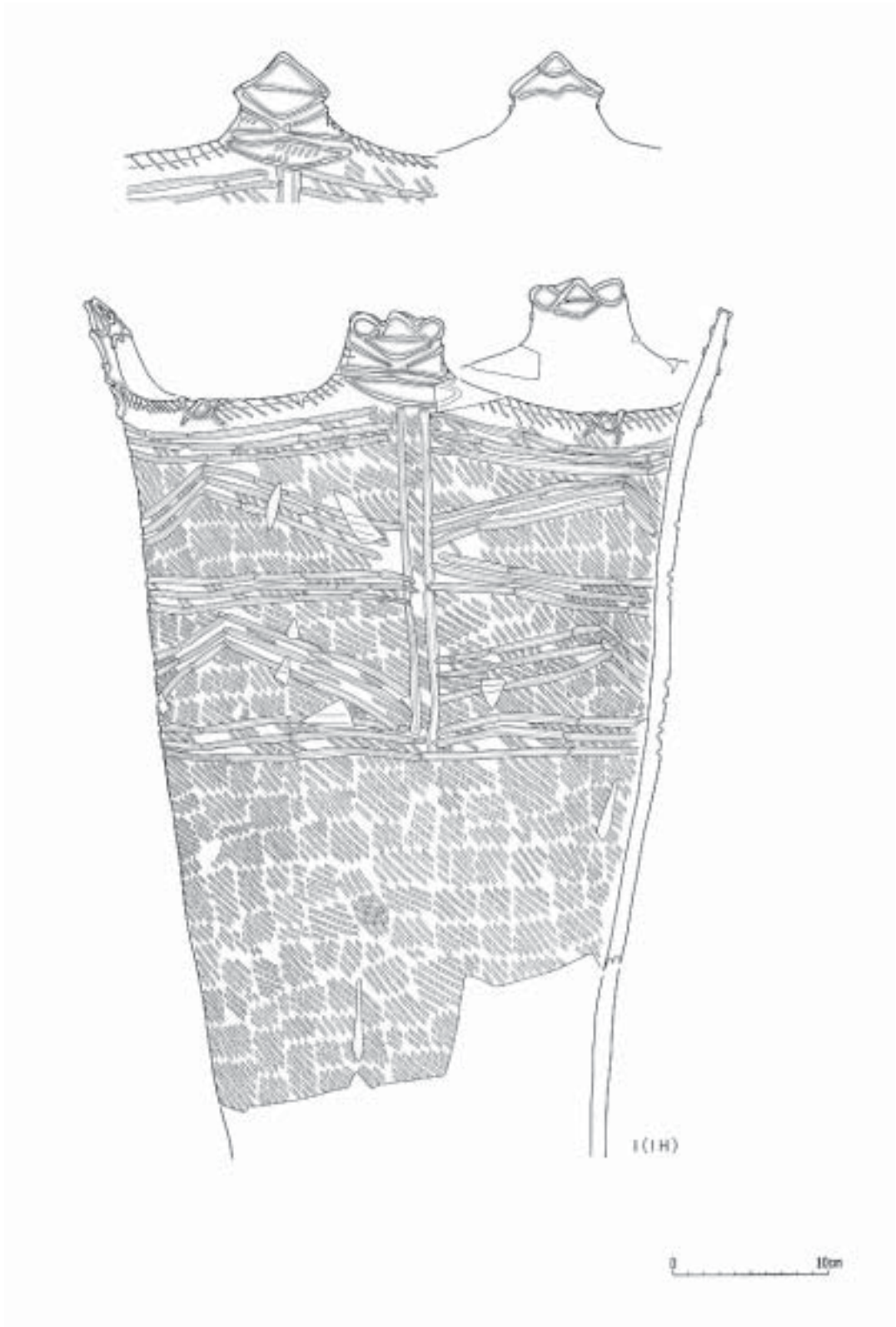
第156图 A区土器



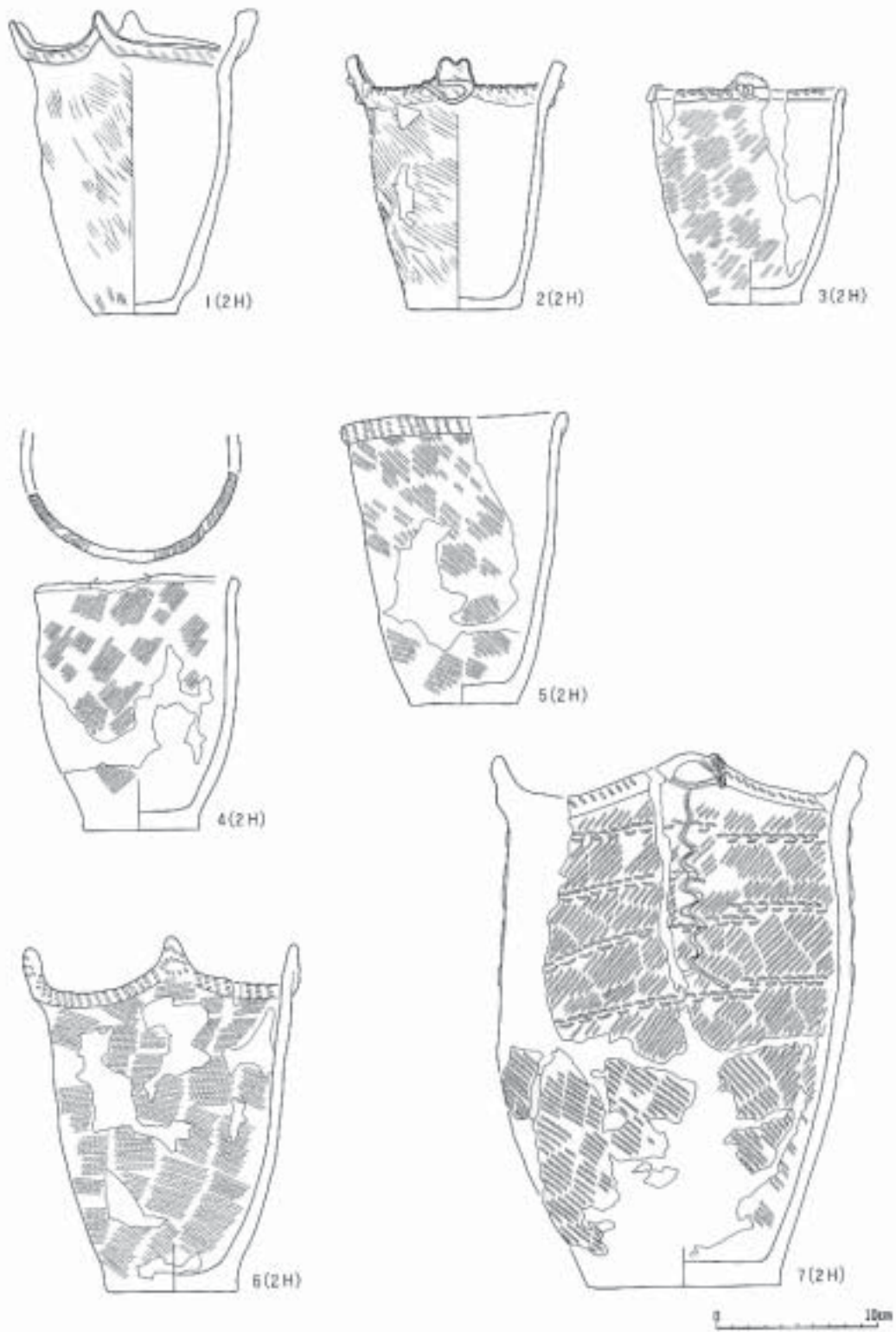
第 157 图 A 区土器



第158图 D区土器



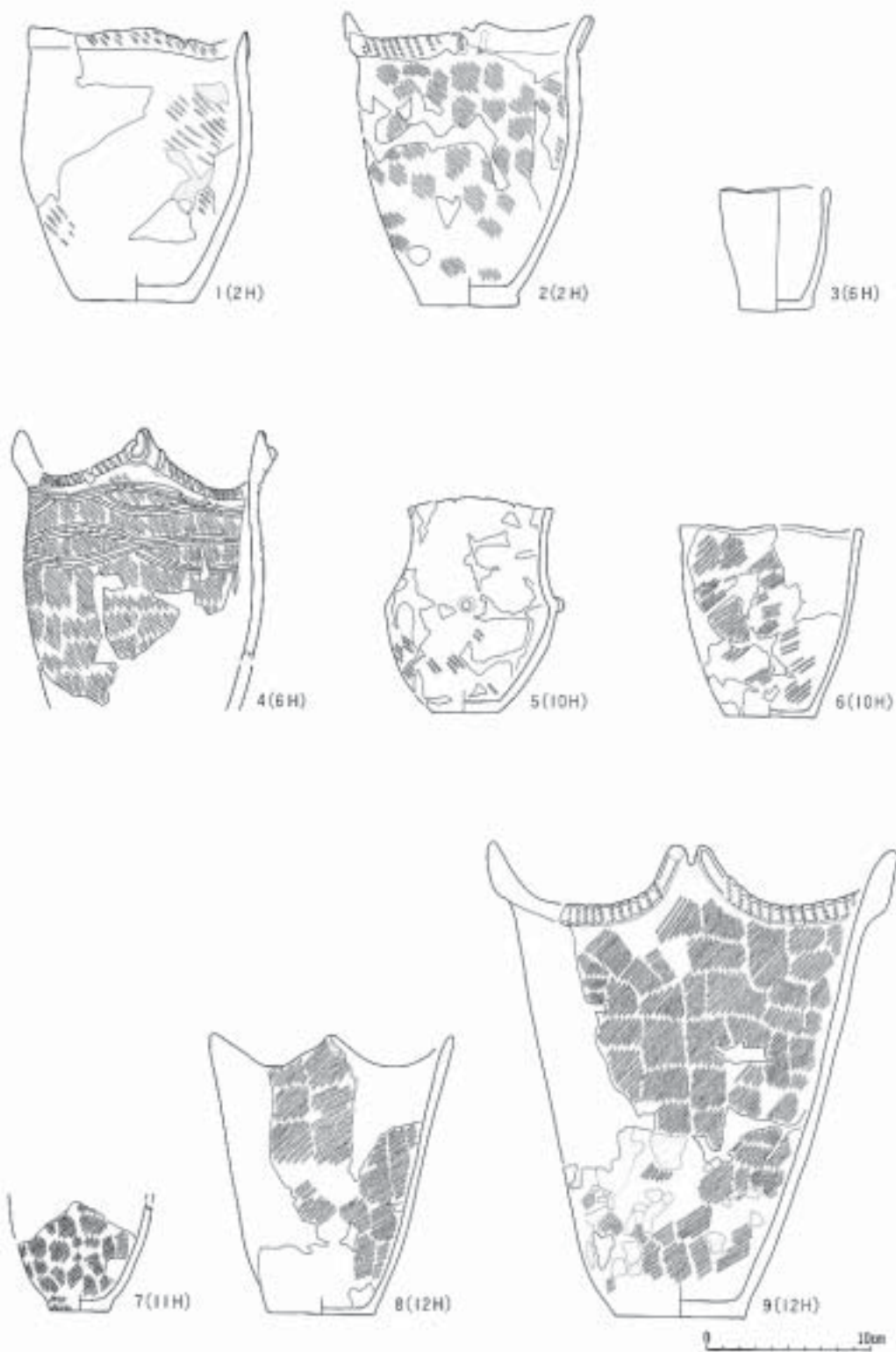
第159图 E区土器



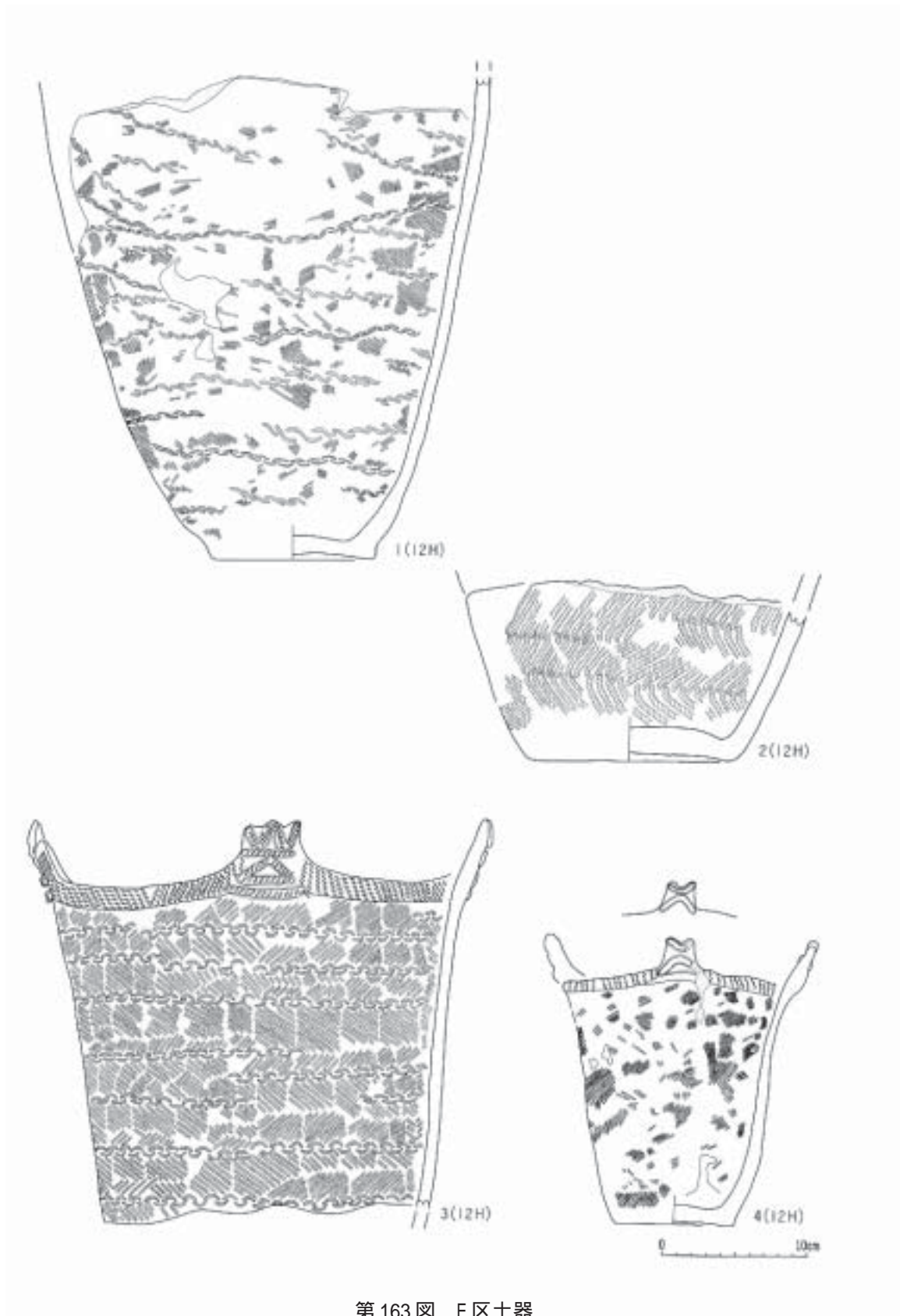
第160图 E区土器



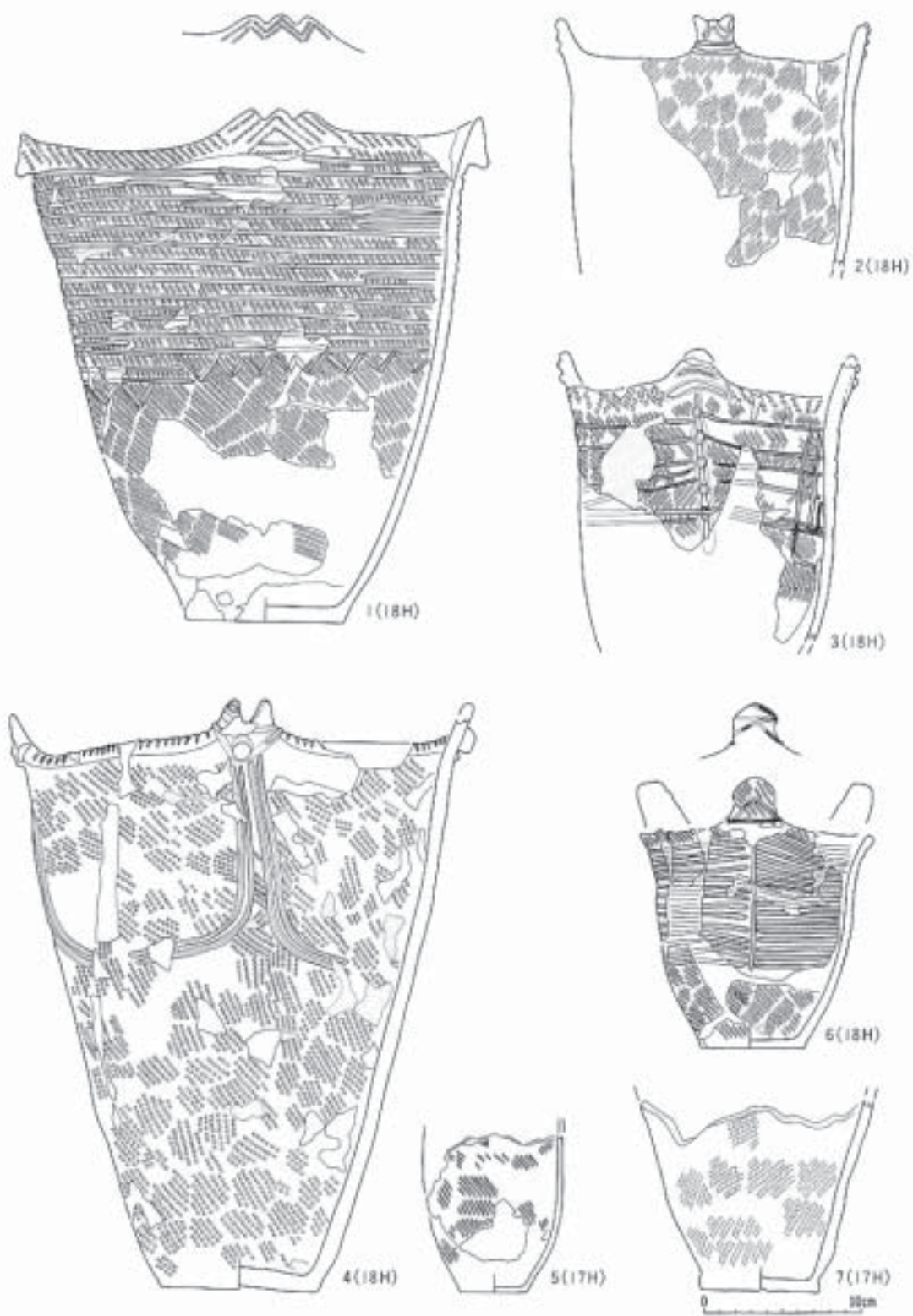
第161图 E区土器



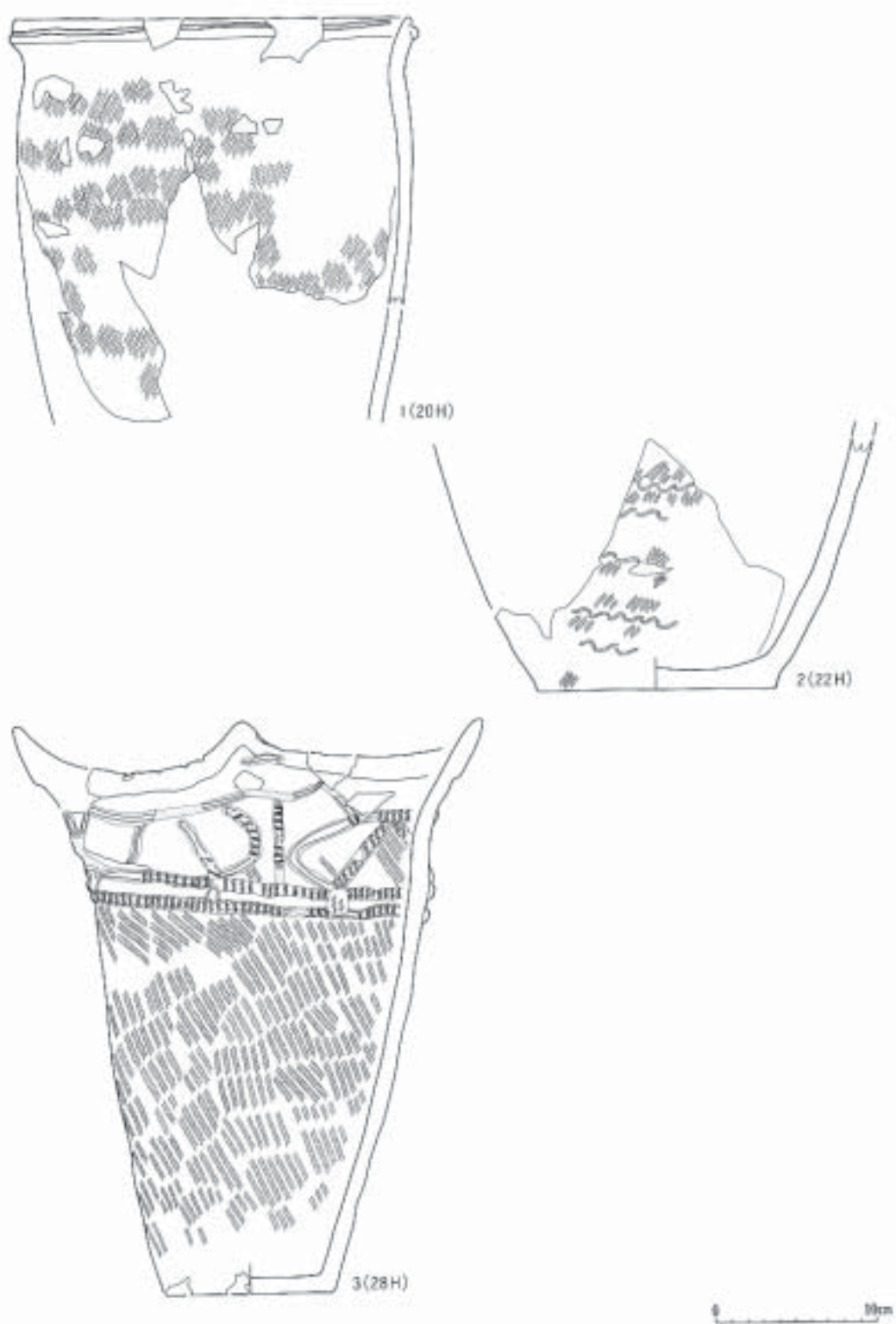
第 162 图 E 区土器



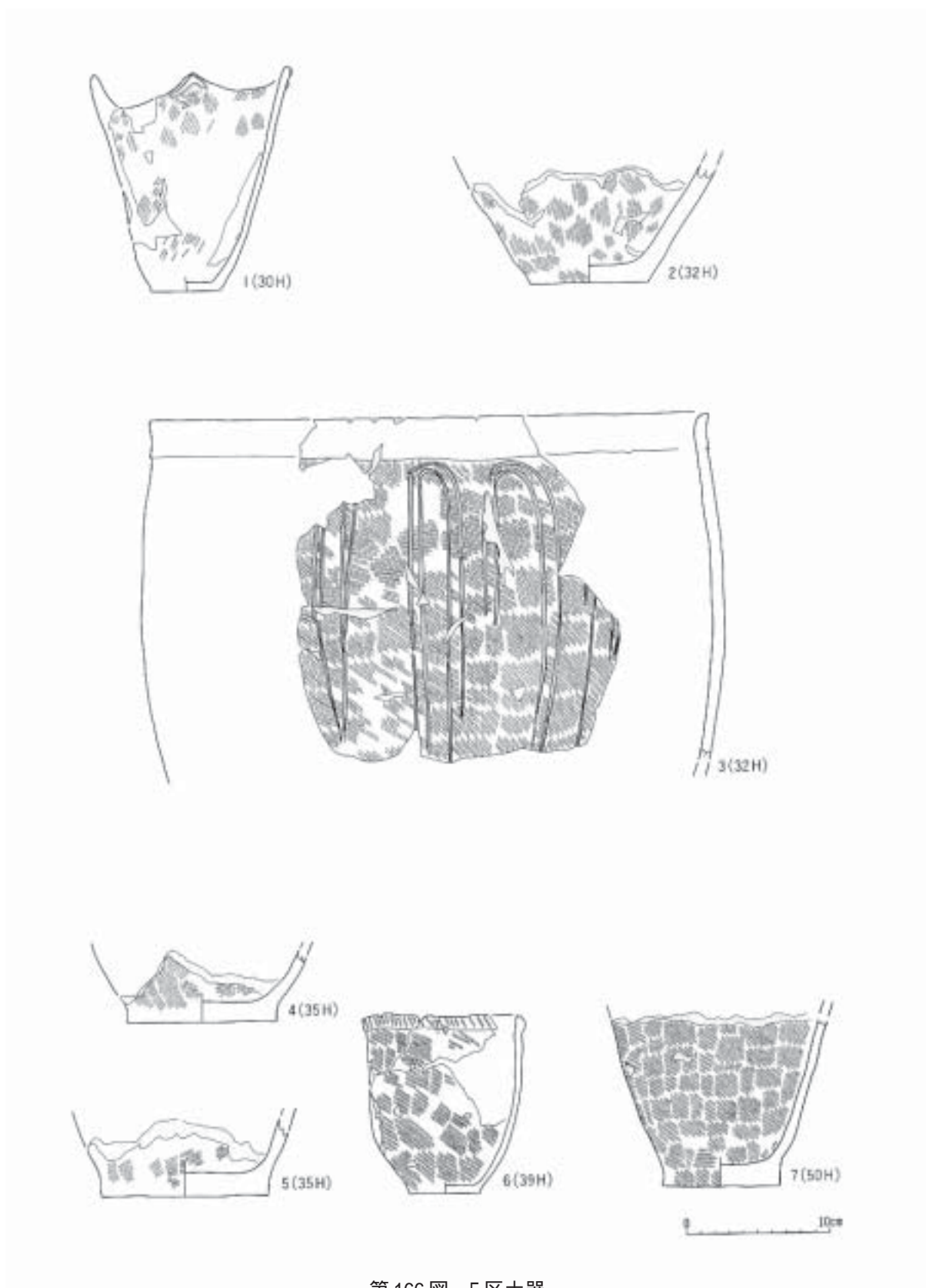
第163图 E区土器



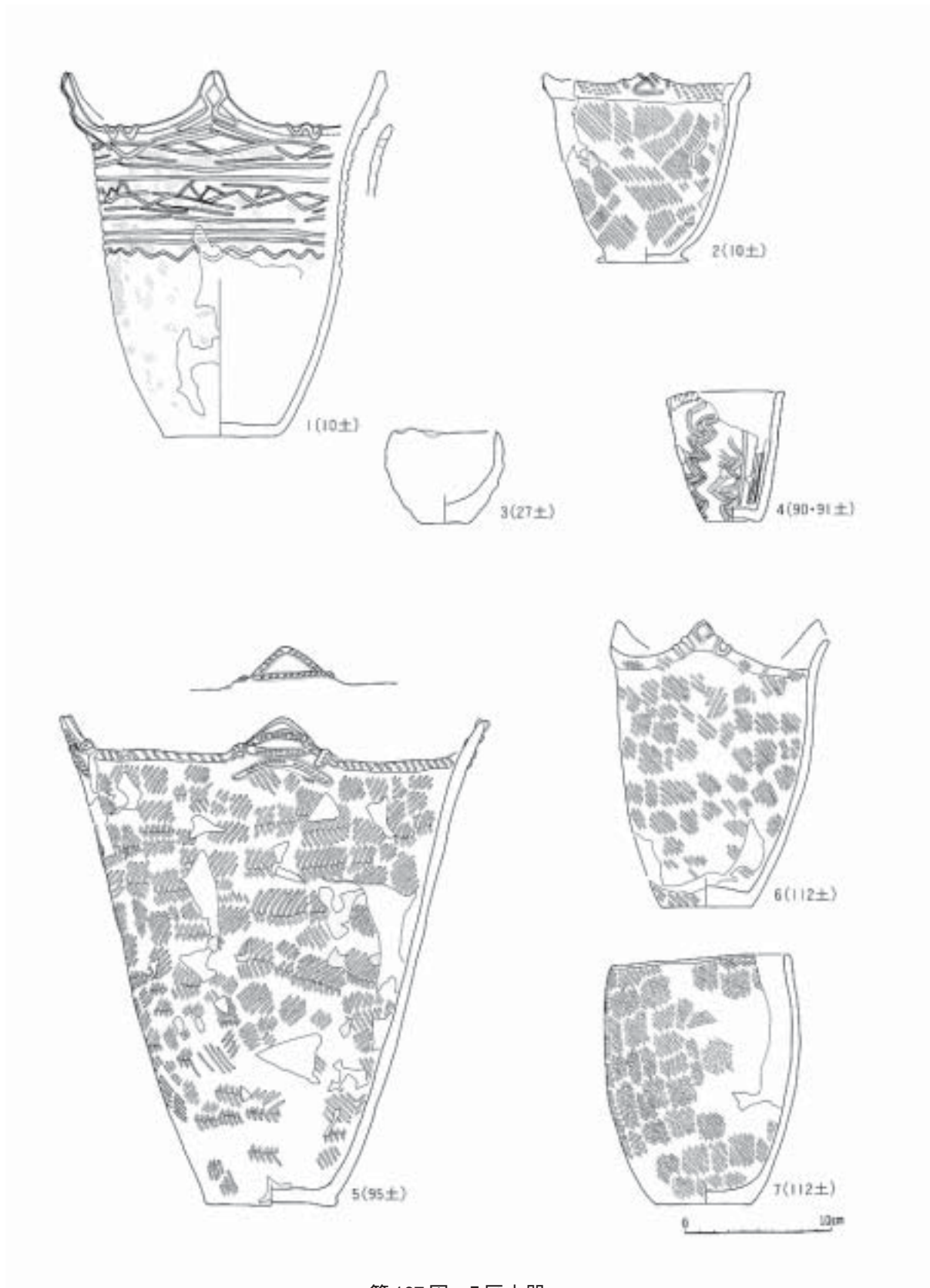
第164图 E区土器



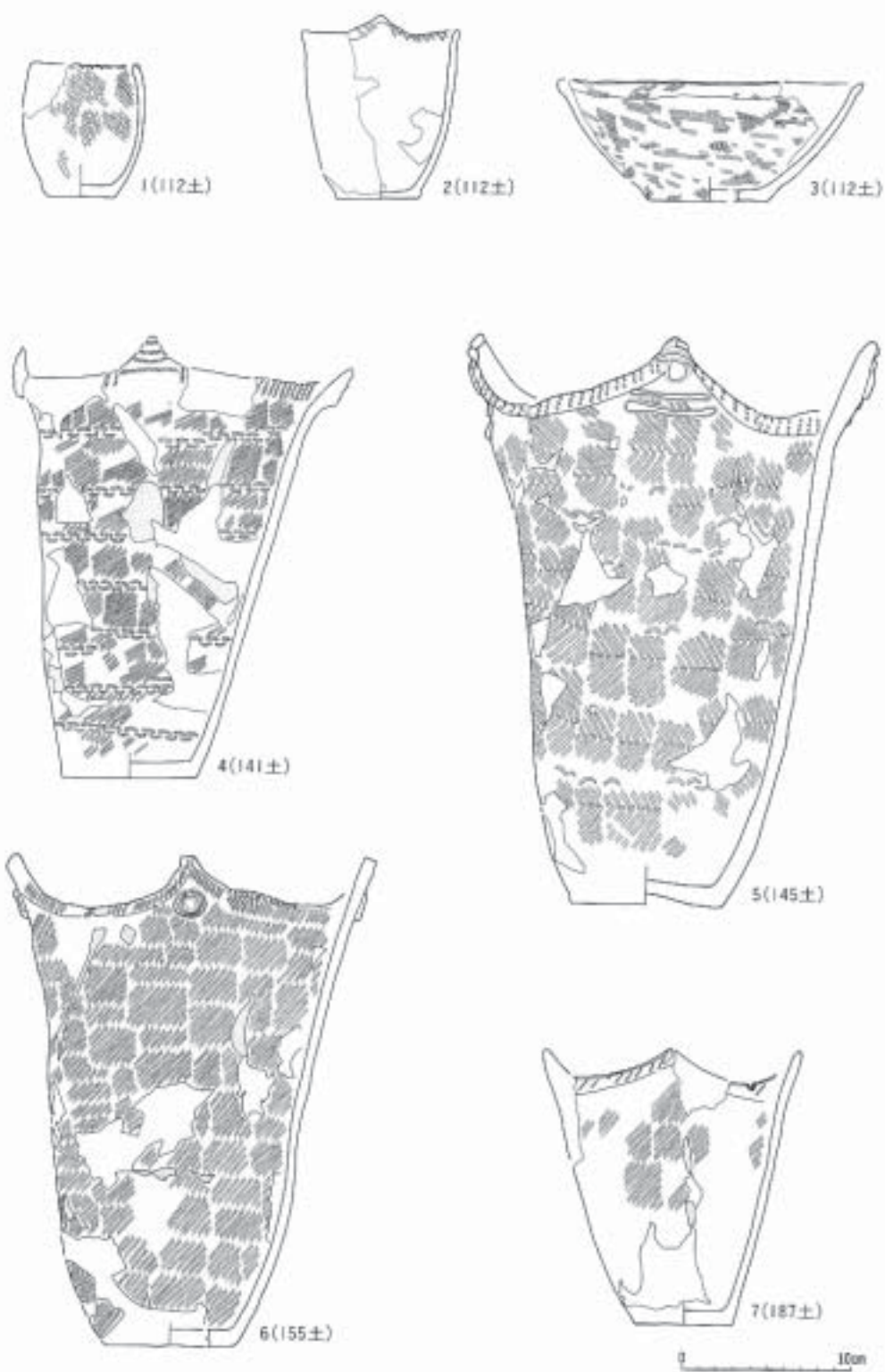
第 165 图 E 区土器



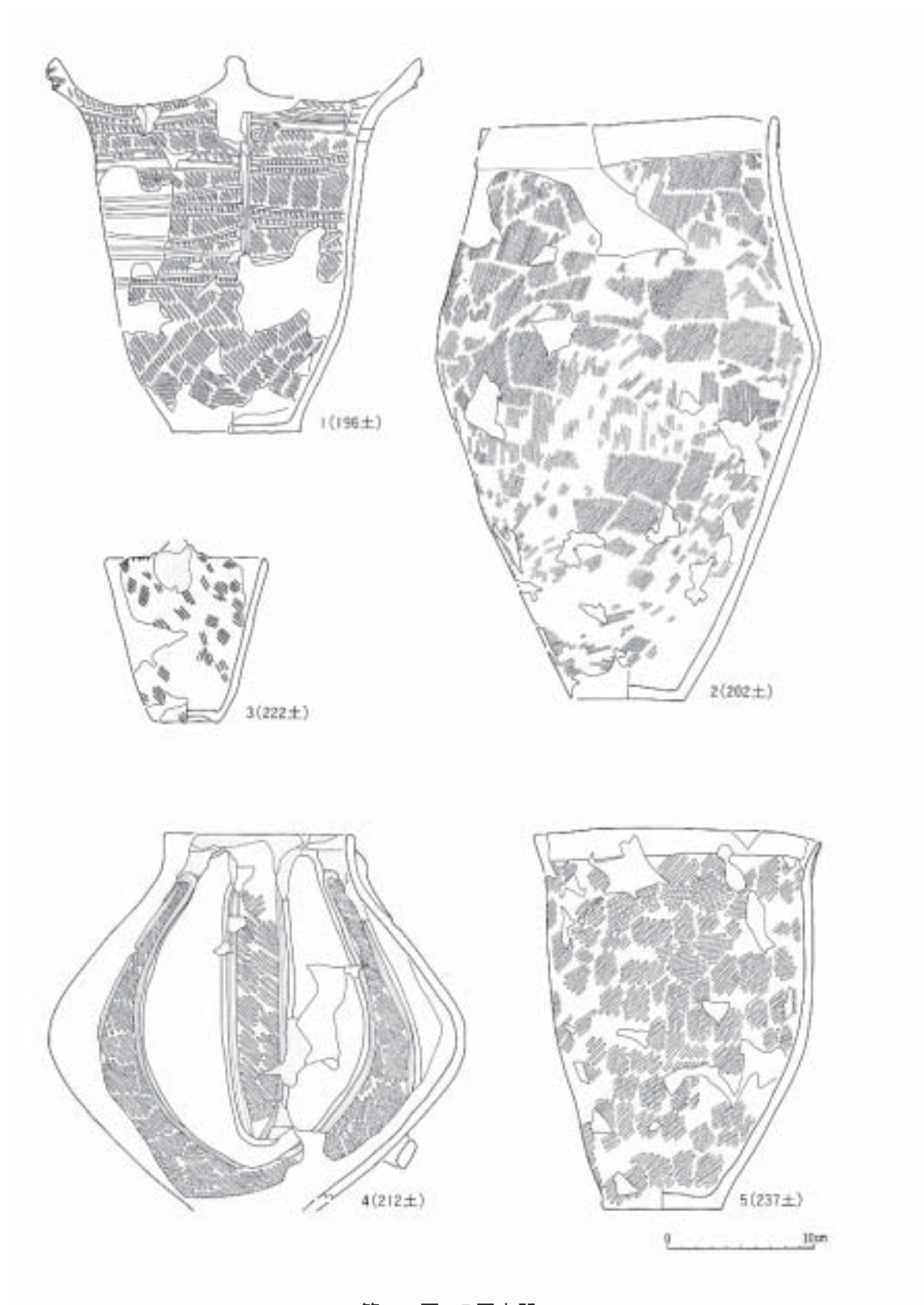
第166图 E区土器



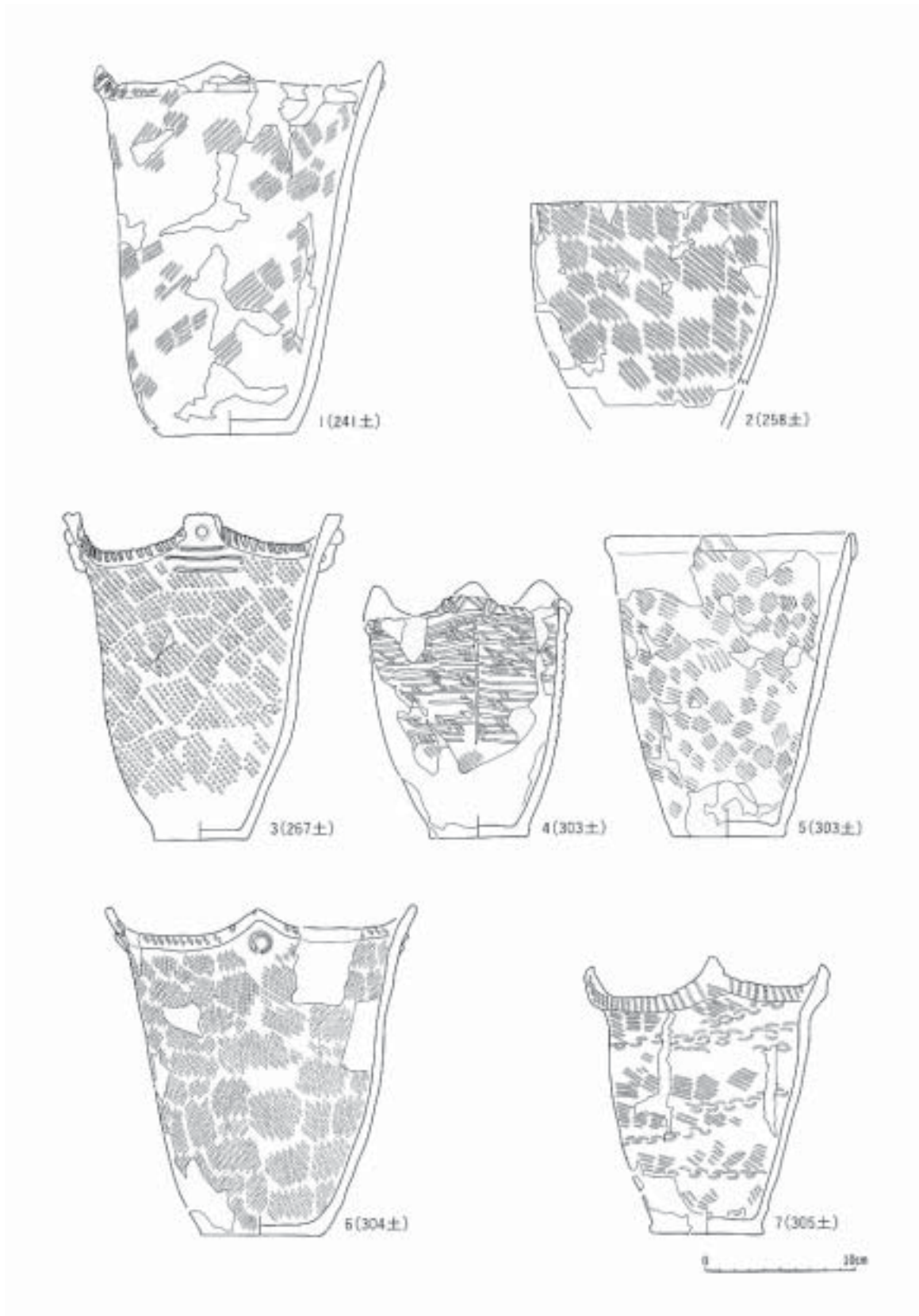
第 167 图 E 区土器



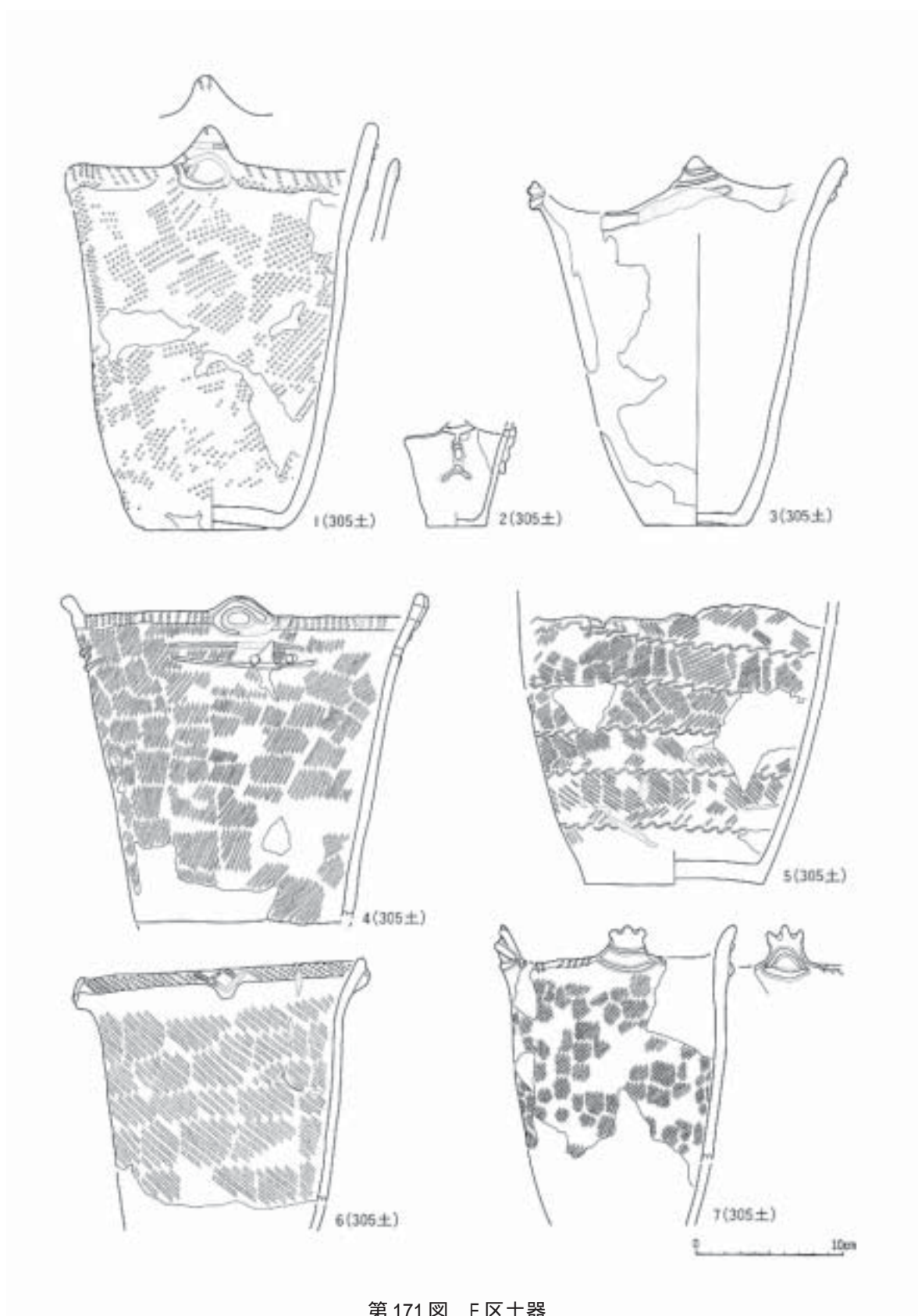
第168图 E区土器



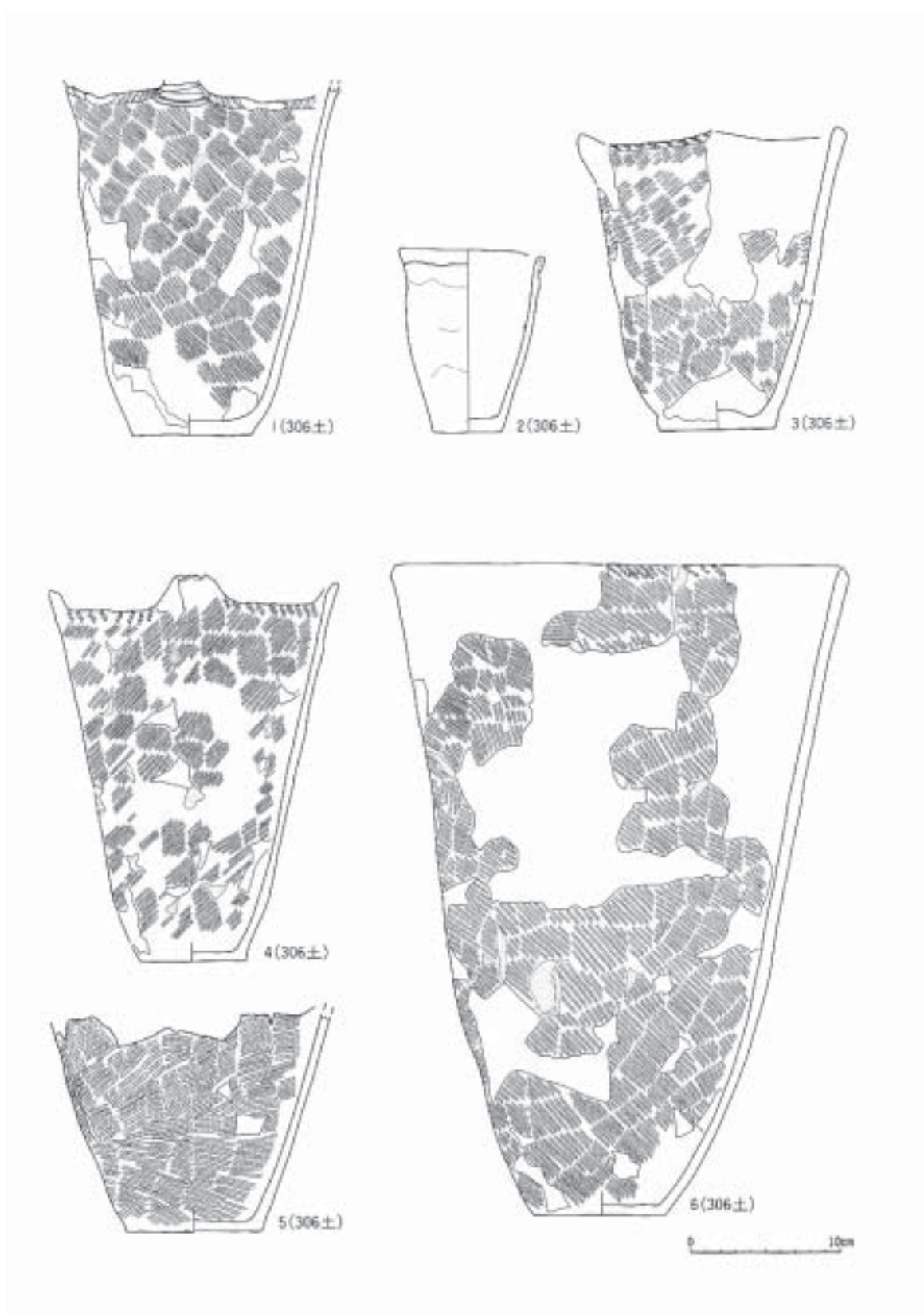
第169图 E区土器



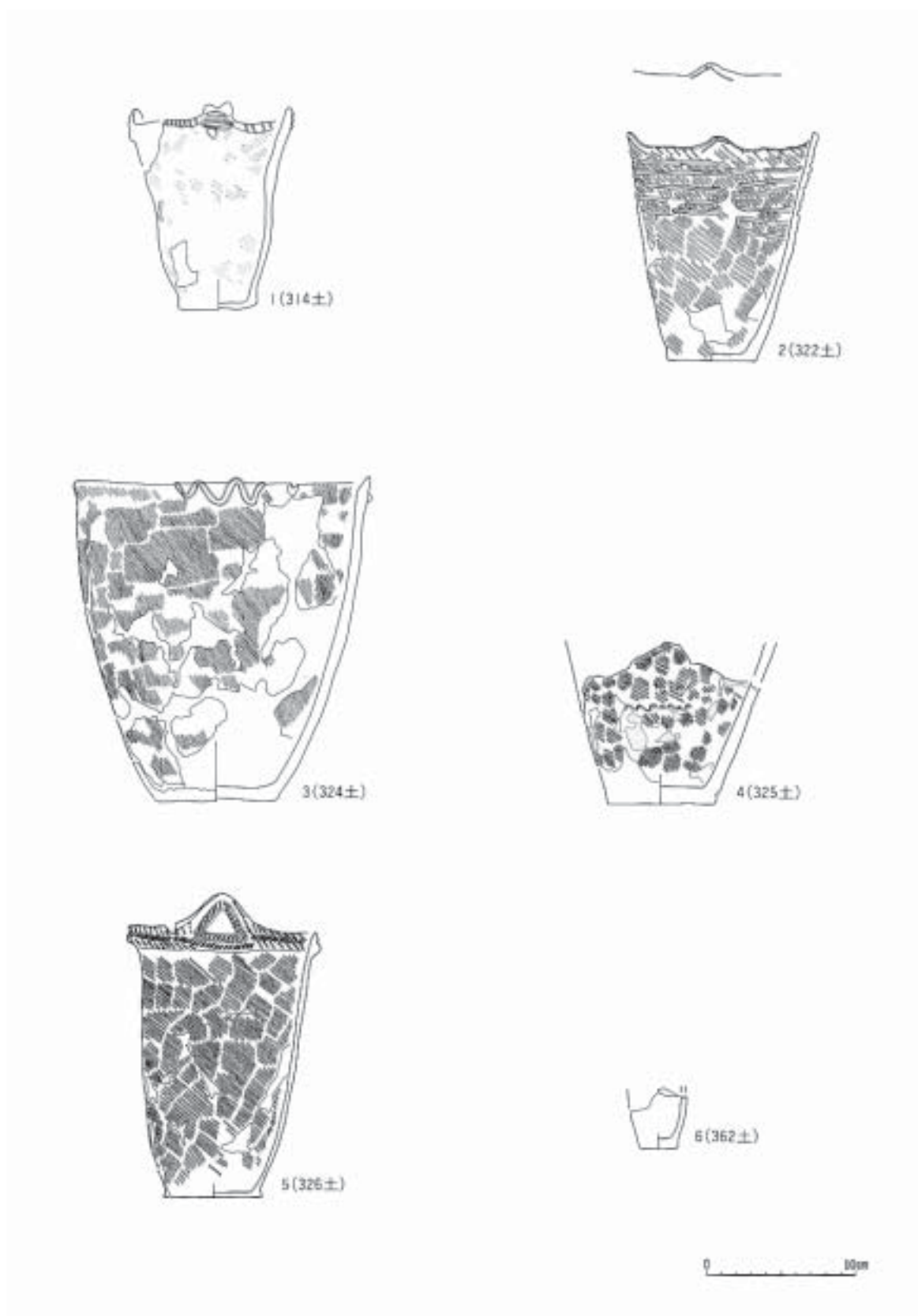
第170图 E区土器



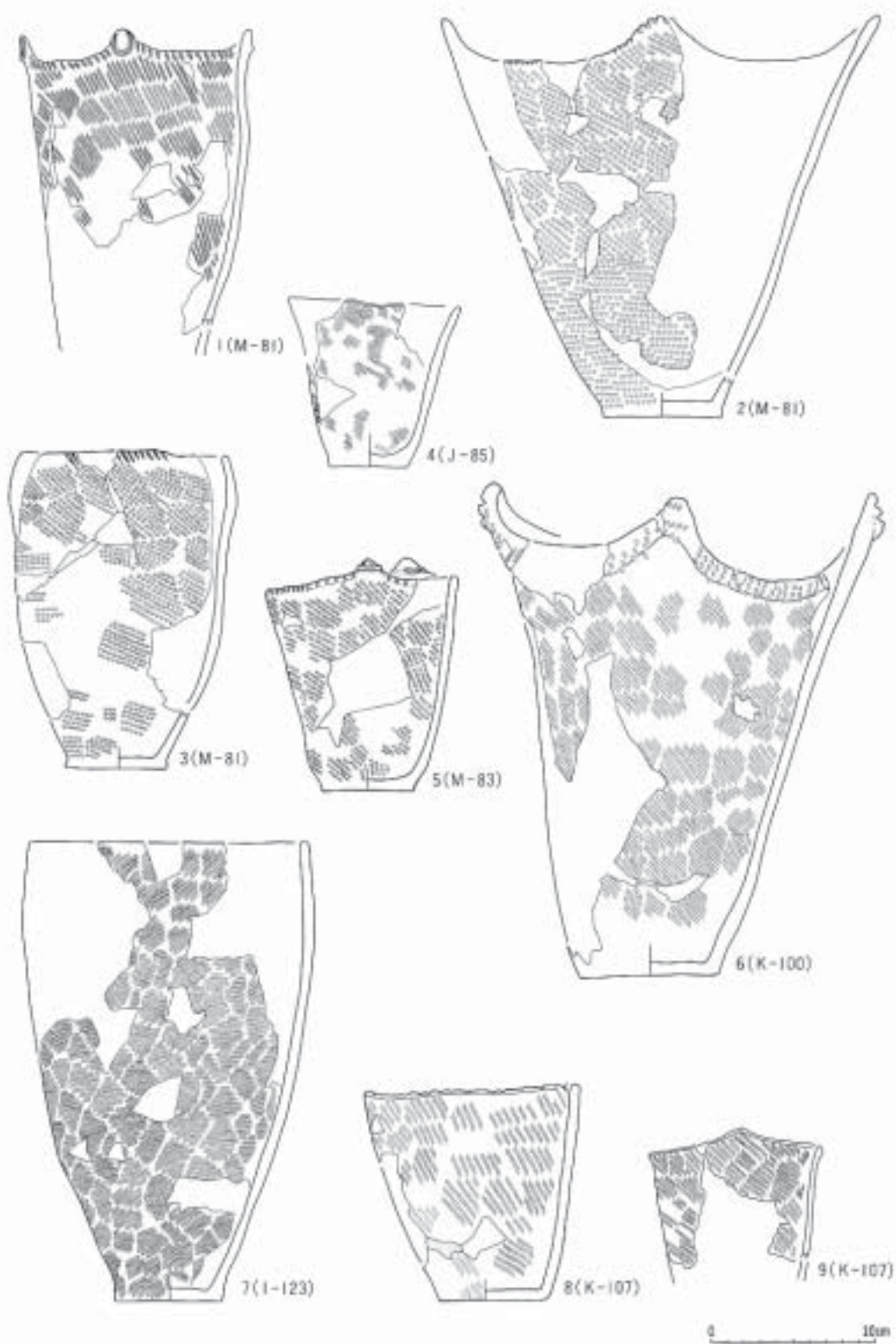
第171图 E区土器



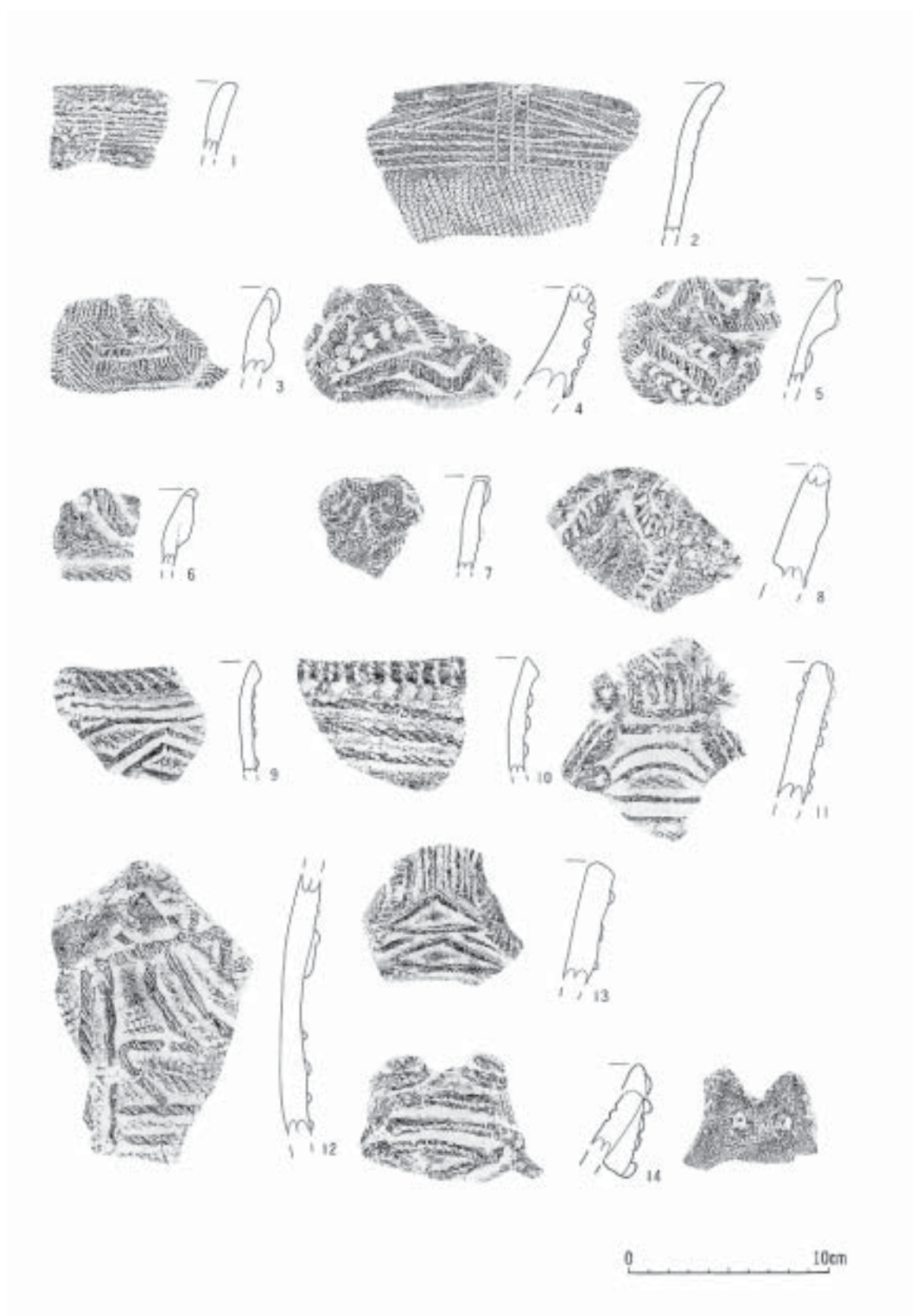
第172图 E区土器



第173图 E区土器



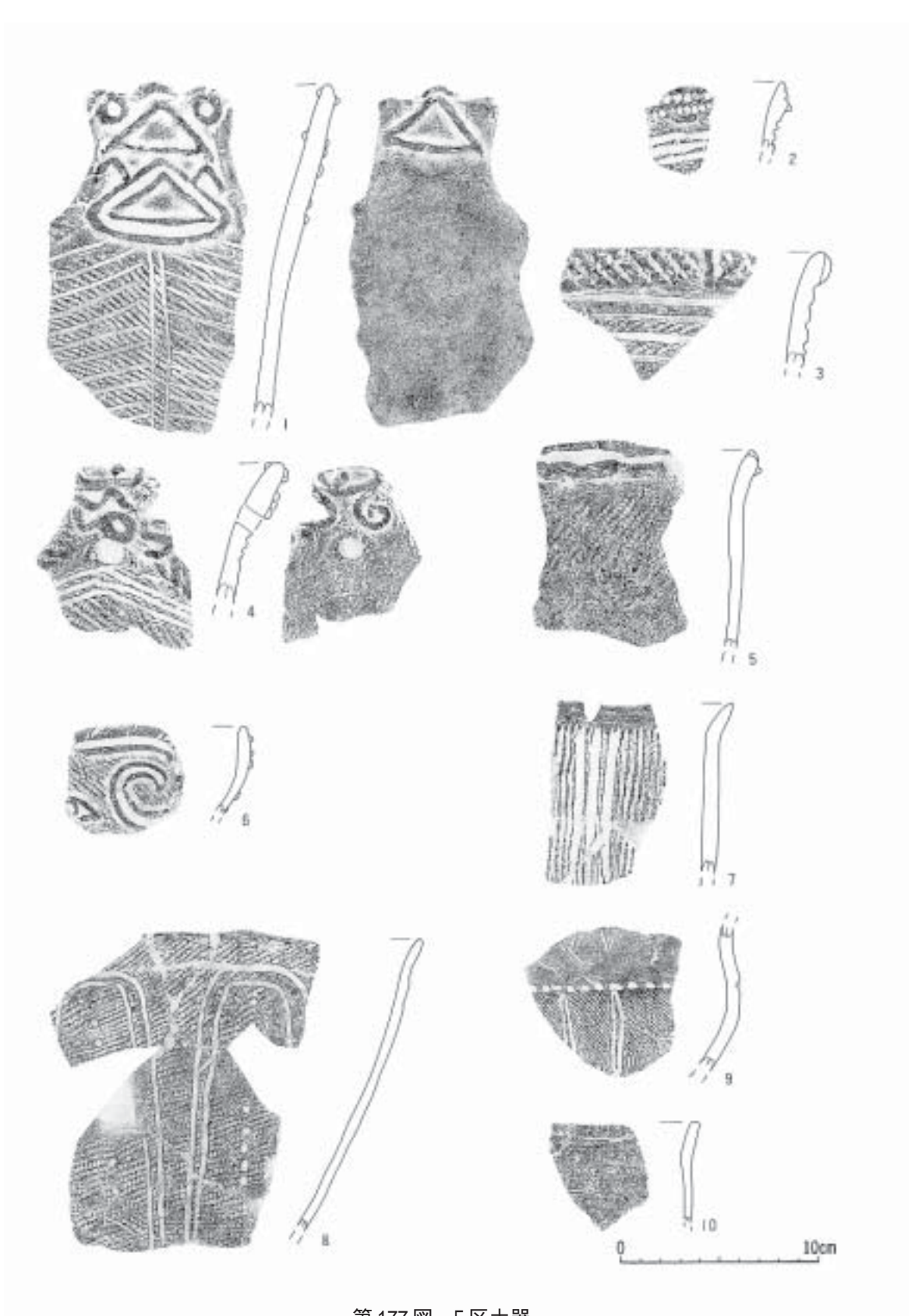
第174图 E区土器



第175图 E区土器



第176图 E区土器



第177图 E区土器

A区(土器観察表)

番 号	出土地区・層位	部 位	外 面 施 文 文 様	分類
第156図-1	2H 覆土	袖珍土器	無文	
第 " 図-2	" "	底 部	L Rヨコ	
第 " 図-3	1埋設	完 形	R Lタテ、沈線	大木10
第 " 図-4	E-7	底 部	無節縄文	
第 " 図-5	" "	ほぼ完形	沈線	大洞BC
第 " 図-6	D-8 "	"	L Rヨコ、沈線	"
第 " 図-7	" "	口 縁	沈線、突起	
第 " 図-8	E-8 "	ほぼ完形	口唇部に刻目、L R単節ヨコ、内外面に炭化物付着	
第 " 図-9	D-9 "	"	沈線、貼付、注口土器	十腰内V
第157図-1	C-9 "	底 部	L R	
第 " 図-2	E-9 "	"	R Lタテ	
第 " 図-3	" "	"	"	
第 " 図-4	D-10 "	完 形	無文	
第 " 図-5	" "	ほぼ完形	口唇部に刻目、沈線	大洞BC
第 " 図-6	" "	"	沈線	"
第 " 図-7	E-10 "	"	無文	
第 " 図-8	" "	"	沈線	大洞BC
第 " 図-9	F-10	完 形	無文	
第 " 図-10	" "	ほぼ完形	沈線	大洞BC
第 " 図-11	" "	"	L Rヨコ、沈線	"
第 " 図-12	" "	底 部	無文	
第 " 図-13	" "	"	R Lヨコ、沈線	
第 " 図-14	G-11	胴部・底部	L Rヨコ	

D区(土器観察表)

番 号	出土地区・層位	部 位	外 面 施 文 文 様	分類
第158図-1	D-9	ほぼ完形	R Lヨコ、口縁に穴(2ヶ所)、沈線(胴部)、刺突	最花
第 " 図-2	E-9 "	"	R Lヨコ	
第 " 図-3	C-11 "	"	L Rヨコ、沈線	最花
第 " 図-4	E-17 "	"	L Rヨコ	
第 " 図-5	H-22 "	"	沈線	牛ヶ沢
第 " 図-6	H-28 "	"	L Rヨコ	
第 " 図-7	" "	"	L Rヨコ	
第 " 図-8	I-29 "	"	口唇部に撚糸文、R Lヨコ	上e

E区(土器観察表)

番 号	出土地区・層位	部 位	外 面 施 文 文 様	分類
第159図-1	1H 炉	口縁・胴	口縁の突起が2種あり、L圧痕、沈線、R Lヨコ	上e
第160図-1	2H 覆土	完 形	Rヨコ、R圧痕(口縁)	"
第 " 図-2	" 柱穴内	"	Rヨコ	"
第 " 図-3	" 覆土	ほぼ完形	R Lタテ、貼付、刻み(口縁)	"
第 " 図-4	" 覆土2	"	R Lタテ	"
第 " 図-5	" 覆土	"	R Lヨコ、R L圧痕(口縁)	"
第 " 図-6	" 覆土2	"	L Rタテ、L R圧痕(口縁)	"

E区(土器観察表)

番 号	出土地区・層位	部 位	外 面 施 文 文 様	分類
第160図-7	2H 覆土2	ほぼ完形	Rヨコ、RLヨコ、圧痕、綾くり	上e
第161図-1	" 覆土	完 形	RLヨコ、沈線、圧痕	"
第 " 図-2	" "	" "	LRヨコ、RLヨコ(口縁)、沈線	"
第 " 図-3	" "	口縁・胴・底の一部	LRヨコ、LR圧痕(口縁)、弧状にRの圧痕	"
第 " 図-4	" "	口縁・胴の一部	RLヨコ・タテ	"
第 " 図-5	" "	完 形	無文	
第162図-1	" "	ほぼ完形	Rヨコ	上e
第 " 図-2	" "	" "	RL圧痕(ヨコ)、粘土貼付	"
第 " 図-3	6H 覆土4	完 形	無文	
第 " 図-4	" 覆土2・4	口縁・胴	口縁に貼付、刻み、沈線(ヨコ)、RLヨコ	上e
第 " 図-5	10H 覆土	ほぼ完形	RLヨコ、胴部3カ所に突起	最花
第 " 図-6	" 覆土2	口縁・胴の一部・底	LRヨコ	
第 " 図-7	11H 床面	胴・底	LRヨコ	
第 " 図-8	12H 覆土1	口縁の一部・胴・底	LRヨコ、貼付LR圧痕(口縁)	上e
第 " 図-9	" 覆土	ほぼ完形	LRヨコ、LR圧痕(口縁)	"
第163図-1	" 炉	胴・底	第2種結束	"
第 " 図-2	" "	底 部	羽状縄文	"
第 " 図-3	" "	口縁・胴	RL圧痕(口縁)、綾くり、RL・LRヨコ	"
第 " 図-4	" 覆土	ほぼ完形	羽状縄文、LR圧痕(口縁)	"
第164図-1	18H 床面・覆土3	"	沈線(ヨコ)、RLヨコ、RL圧痕(口縁)、L圧痕(裏)	"
第 " 図-2	" 床面	口縁・胴の一部	LRヨコ	"
第 " 図-3	" "	" "	RL・LR圧痕(口縁)、貼付、沈線、結束羽状縄文	"
第 " 図-4	" "	ほぼ完形	沈線、RLヨコ・タテ	"
第 " 図-5	17H 覆土3	胴・底	RLヨコ、貼付	
第 " 図-6	18H 床面・覆土3	ほぼ完形	沈線、RLヨコ	上e
第 " 図-7	17H 覆土3	胴・底	LRヨコ	
第165図-1	20H 埋設炉	口縁・胴	LRヨコ、口縁に貼付、沈線	
第 " 図-2	22H 床面	底 部	LR結束	
第 " 図-3	28H Pit埋設	ほぼ完形	RLヨコ、LR圧痕	上c
第166図-1	30H 覆土2	"	Lヨコ	上e
第 " 図-2	32H 覆土1	底 部	RL左下がりがり、底面に網代痕	
第 " 図-3	" "	口 縁	沈線(タテ)、RLヨコ	最花
第 " 図-4	35H 覆土2	底 部	LRヨコ	
第 " 図-5	" "	" "	LRヨコ	
第 " 図-6	39H カマド1・2	ほぼ完形	RLヨコ	最花
第 " 図-7	50H 床直	胴・底部	RLヨコ右下がり	
第167図-1	10土 覆土2	ほぼ完形	無節Lタテ、圧痕、貼付、沈線、貫通孔	上e
第 " 図-2	" "	" "	単節RLヨコ、貼付、RL圧痕(口縁)	"
第 " 図-3	27土 "	口縁・胴・底の一部	無文	
第 " 図-4	90・91土 覆土	" "	沈線、LR圧痕タテ、底面に調整痕	上e
第 " 図-5	95土 覆土2	ほぼ完形	羽状縄文、LR・RLの圧痕、貼付	"
第 " 図-6	112土 覆土5	" "	貼付(口縁)、RLヨコ	"
第 " 図-7	" 覆土4	" "	RLヨコ	
第168図-1	" 覆土5	口縁・胴・底の一部	RLヨコ	
第 " 図-2	" 覆土3・4	" "	L圧痕(口縁)	
第 " 図-3	" 覆土1	半 形	RLヨコ	

E区(土器観察表)

番号	出土地区・層位	部位	外面施文文様	分類
第168図-4	141土 覆土	ほぼ完形	L R 結節、L R 圧痕(口縁)	
第 " 図-5	145土 覆土1	"	結束羽状縄文、R L 圧痕・貼付(口縁)	
第 " 図-6	155土 覆土4	"	L R ヨコ	
第 " 図-7	187土 覆土68	"	L R ヨコ、口縁に刻み	
第169図-1	196土 覆土3	"	沈線、R L ヨコ	上 e
第 " 図-2	202土 覆土2	"	L R ヨコ	大木10
第 " 図-3	222土 "	半形	R L ヨコ	
第 " 図-4	212土 覆土3	"	朱塗り(貼付部分)、把手付、L R タテ一部ヨコ	最花
第 " 図-5	237土 覆土2	ほぼ完形	L R ヨコ、底部に網代痕	大木10
第170図-1	241土 床直	"	L R ヨコ	
第 " 図-2	258土 覆土	口縁・胴	R L ヨコ	
第 " 図-3	267土 覆土	完形	R L R ヨコ、口縁に刻み、貼付	
第 " 図-4	303土 覆土3・4	ほぼ完形	沈線、R L ヨコ、圧痕	上 e
第 " 図-5	" 覆土4	口縁・胴・底の一部	R ヨコ、圧痕(口縁)	
第 " 図-6	304土 覆土3	ほぼ完形	L R ヨコ、圧痕、一部にR L ヨコ	
第 " 図-7	305土 "	"	L R 結束、L R 圧痕	上 e
第171図-1	" 覆土5	"	L R L (複節)	"
第 " 図-2	" 覆土3	口縁の一部欠損・胴・底	貼付	
第 " 図-3	" 覆土4	口縁・胴の一部欠損	貼付、無文	
第 " 図-4	" "	口縁・胴	L R ヨコ	
第 " 図-5	" 覆土5	胴・底	結束羽状	
第 " 図-6	" 覆土4	口縁・胴	R L ヨコ、圧痕、貼付	
第 " 図-7	" 覆土4	口縁・胴(一部欠損)	L R ヨコ	
第172図-1	306土 覆土	ほぼ完形(口縁一部欠損)	R L ヨコ、圧痕、貼付	
第 " 図-2	" 覆土7	完形	無文	
第 " 図-3	" 覆土5	口縁・胴の一部・底	口縁に刻み、R L タテ・ヨコ	
第 " 図-4	" "	ほぼ完形	L R ヨコ、圧痕	
第 " 図-5	" 覆土2	胴・底	L R ヨコ	
第 " 図-6	" "	口縁・胴・底の一部	R L ヨコ	
第173図-1	314土 覆土1	ほぼ完形(口縁一部欠損)	R ヨコ、圧痕、貼付	
第 " 図-2	322土 覆土5	ほぼ完形	沈線、R L ヨコ、口縁にR L 側面圧痕	上 e
第 " 図-3	324土 覆土2	"	R L ヨコ、貼付	
第 " 図-4	325土 覆土1	胴・底	R L 結節	
第 " 図-5	326土 覆土	ほぼ完形	R L ヨコ、圧痕	
第 " 図-6	362土 覆土1	胴・底		
第174図-1	M - 81	口縁・胴の一部	R L ヨコ、口縁に貼付、R L 圧痕	
第 " 図-2	" "	口縁・胴の一部・底	R L R ヨコ	
第 " 図-3	" "	半形	R L R ヨコ	
第 " 図-4	J - 85	口縁・胴・底の一部	R L タテ	
第 " 図-5	M - 83	ほぼ完形	R L R ヨコ、口縁にL R の圧痕	
第 " 図-6	K - 100	"	R L ヨコ、一部に結束羽状、口縁にL R の圧痕	
第 " 図-7	I - 123	口縁・胴・底の一部	L R ヨコ	
第 " 図-8	K - 107	ほぼ完形	R L ヨコ	
第 " 図-9	" "	口縁・胴の一部	R L ヨコ	

E区(土器観察表)

番号	出土地区・層位	部位	外面施文文様	分類
第175図-1	L-82	口縁	平口縁、捺糸押圧(水平)	下d
第 " 図-2	M-54 カクラン	"	平口縁、捺糸押圧(斜位・水平・垂直)	"
第 " 図-3	2円 覆土4	"	波状口縁、隆線(斜位・横位)、隆線間にく字状末端圧痕	上a
第 " 図-4	M-88	"	波状口縁、口唇部に隆線(山形状)、突起部に刺突(縦位)	上b
第 " 図-5	L-92 "	"	平口縁、隆線(横位・斜位・山形状)、隆線間にく字状末端圧痕	"
第 " 図-6	N-114 "	"	折り返し口縁、口唇部に隆線(山形状)、隆線の上面に圧痕	上d
第 " 図-7	11H 床直	"	波状口縁、口唇部寄りに山形状、下位に斜位捺糸圧痕	"
第 " 図-8	327土 床面	"	波状口縁、隆線(山形状)、隆線の上面に刻み、隆線間に刺突	"
第 " 図-9	49H 覆土	"	波状口縁、口唇部寄りに圧痕、隆線(横位・斜位)、LR	"
第 " 図-10	291土 "	"	平口縁、横位隆線、口唇部寄りに捺糸圧痕、RL	"
第 " 図-11	304土 覆土3	"	波状口縁、突起部両端に突起、口唇部に捺糸文(R)2本	"
第 " 図-12	306土 覆土2	"	波状口縁、捺糸文(L)、弧状文(隆線)、隆線の上面に捺糸文	"
第 " 図-13	2円 覆土4	"	波状口縁、口唇部に隆線(山形状)、隆線の上面に縄文	"
第 " 図-14	M-90	"	波状口縁、口唇部寄りに圧痕(LR)、隆線の上面に圧痕(LR)	"
第176図-1	J-92	"	折り返し口縁、隆線(横位)、口唇部寄りに圧痕(LR)	"
第 " 図-2	I-110 "	"	折り返し口縁、口唇部に圧痕(羽状、RLR)	"
第 " 図-3	J-111 "	胴	隆線(横位、縦位)、隆線の上面に縄文(RL)	"
第 " 図-4	L-111	口縁	波状口縁、口唇部に圧痕(RL)、隆線の上面に圧痕(RL、LR)	上e
第 " 図-5	3H 床直	"	波状口縁、横位隆線(LR縄文)、口唇部に圧痕(RL)、綾絡文	"
第 " 図-6	7H "	胴	沈線(横位)	"
第 " 図-7	6H 覆土2	口縁	波状口縁、口唇部寄りに刻み、沈線(横位)、突起部に貫通孔	"
第 " 図-8	10H 覆土4	"	波状口縁、口唇部寄りに捺糸圧痕、隆線(横位、斜位)	"
第 " 図-9	47H 覆土1	"	波状口縁、ボタン状突起	"
第 " 図-10	20H 埋設炉	"	平口縁、沈線(横位)、口唇部寄りに捺糸圧痕RL	"
第 " 図-11	21H 覆土4	"	波状口縁、突起部に隆線、口唇部寄りに捺糸圧痕RL	"
第 " 図-12	2円 覆土5	"	平口縁、口唇部寄りに圧痕(L)、隆線・沈線(横位)、円形隆線	"
第 " 図-13	272土 覆土2	"	波状口縁、RL	"
第 " 図-14	I-69	"	平口縁、口唇部寄りに隆帯(横位)、隆帯上面に圧痕(RL)	"
第 " 図-15	304土 覆土6	"	平口縁、口唇部に圧痕(RL)、沈線(横位・斜位)	"
第177図-1	306土 覆土5	"	波状口縁、口唇部に圧痕(RL)、突起部に隆線、沈線(胸骨文)	"
第 " 図-2	I-83	"	平口縁、口唇部に連続刺突(横位)、隆線・沈線(横位)	"
第 " 図-3	N-101 "	"	折り返し口縁、口唇部に隆線(縦位・斜位)、沈線(横位)	"
第 " 図-4	L-83 "	"	波状口縁、口唇部寄りに圧痕(L)、突起部に貫通孔	"
第 " 図-5	4H 床直	"	平口縁、スス状炭付き、素文の隆線(横位)	榎林
第 " 図-6	2円 覆土4	"	平口縁、口唇部寄りに隆線(横位)、隆線(渦巻状・素文)	"
第 " 図-7	J-81	"	平口縁、沈線(縦位)、捺糸文L(縦位)	"
第 " 図-8	10H Pit4	"	平口縁、連続刺突(縦位)、沈線(長楕円形文)LR	最花
第 " 図-9	K-81	胴	連続刺突(横位)、沈線(縦位)、沈線間に縄文(RL)	"
第 " 図-10	K-75 床直	口縁	平口縁、無文	"

(2) 石 器

今回の調査で出土した石器は、A・D・E区の時期が各々相違がみられるので、区ごとに記述していくこととする。また、出土点数が少ないA・D区は遺構内、遺構外をまとめて記述していく。

敲磨器類には、凹石、磨石、敲石を含むものとする。

A 区

A区では縄文時代中期から晩期にかけての土器が出土しており、石器はその時期に属するものと考えられる。

石鏃は、3点(第180図 - 12 ~ 14)出土した。3点とも凸基有茎鏃であり、その中の2点(12・13)には基部付近にピッチ痕が残存している。石質は3点とも頁岩である。

石錐は、3点(第178図 - 1、第179図 - 6、第180図 - 15)出土した。つまみと錐部があるものの2点(1・6)、先の尖った剥片の先端部を利用したもの1点(15)がある。石質は3点とも頁岩である。

石匙は、9点(第179図 - 7・8、第181図 - 16 ~ 19、第182図 - 20 ~ 22)出土した。縦型が5点(7・8・20 ~ 22)、横型が3点(17 ~ 19)あり、つまみ部付近の欠損品が1点(16)である。横型よりも縦型の方が全体にいい調整を施している。中でも(8)は刃先の部分にバルブがみられる倒立の位置にある石器である。石質は9点とも頁岩である。

石篋は、3点(第182図 - 23・24、第183図 - 25)出土した。基部から刃部にかけて広がっており二等辺三角形を呈しているものが2点(23・24)、基部の幅と刃部の幅がほぼ同じものが1点(25)ある。刃部は直刃のものと同丸刃のものがある。石質は3点とも頁岩である。

スクレイパー類は、8点(第178図 - 2 ~ 5、第179図 - 10、第180図 - 11、第183図 - 26・27)出土した。いわゆる不定形石器であり、刃部の調整も様々である。石質は8点とも頁岩である。

敲磨器類は、凹石が2点(第184図 - 28・29)出土した。表裏または複数の面に1ないし2個づつのくぼみを有する。石質は2点とも安山岩である。

磨製石斧は、6点(第184図 - 30 ~ 35)出土した。5点が完形品で、うち4点が分銅型を呈する。細長い長方形を呈するものが1点(34)あり、石質は粘板岩である。刃部はいずれも両刃である。石質は輝緑凝灰岩2点、安山岩2点、閃緑岩1点、粘板岩1点である。

ピース・エスキューユは、1点(第179図 - 9)出土した。両極打法による剥離と潰れが対をなして認められるものである。石質は頁岩である。

D 区

D区は、縄文時代中期後半から後期初頭の土器が出土しており、石器はその時期に属するものと考えられる。

石鏃は、5点（第186図 - 1～5）出土した。3点が凸基有茎鏃、2点が凹基無茎鏃である。5点のうち4点は両面にていねいな調整が施されている。石質は5点とも頁岩である。

石槍は、基部の欠損品が1点（第186図 - 6）出土した。石質は頁岩である。

石匙は、3点（第186図 - 7・8、第187図 - 9）出土した。すべて縦型である。うち2点は肩部から刃先にかけての幅がほぼ同一であり、両側縁には背面の刃部にのみ調整が施されている。もう1点は幅広のもので背面を全面調整している。石質は3点とも頁岩である。

石篋は、3点（第187図 - 10～12）出土した。完形品2点、刃部の欠損品1点である。完形品の1点（11）は楕円形で刃先に使用痕と思われる微細剥離がみられる。もう1点（12）はバナナ型を呈する。欠損品（10）の刃部は急峻な角度をもつ。石質は3点とも頁岩である。

スクレイパー類は、5点（第187図 - 13、第188図 - 14～17）出土した。うち2点（16・17）は両側縁に調整を施しており、刃先に向かって鋭く尖っている。ほかの3点は、周縁の一部に調整を施している。石質は5点とも頁岩である。

敲磨器類は、23点（第189図 - 18～27、第190図 - 28～38、第191図 - 39・40）出土した。磨石6点、凹石11点、敲石6点である。磨石は、偏平な楕円形の石を利用しているもの、細長い石棒状の石を利用しているものなど様々であるが、そのほとんどの個体では、平坦面ではなく、稜の部分に擦痕がみられる。また、稜を両側から打ち欠いているものもある。一部のものは全面を擦っており、敲打痕をもつものもある。凹石は、偏平な楕円形の石を利用しているものが多く、両面に1ないし数個のくぼみをもつ。また、稜の部分に擦痕がみられるものもある。敲石は、偏平な楕円形の石を利用し平坦面に敲击による敲打痕がみられるものが多い。石質は安山岩が17点、凝灰岩が5点、泥岩が1点である。安山岩は凹石に多く、凝灰岩は敲石に多い。

磨製石斧は、4点（第191図 - 41～44）出土した。完形品は1点（42）であり全面をていねいに磨き、刃部は両刃に調整している。基部の欠損品が2点（41・43）出土しており、（43）は破損した後、磨石もしくは敲石として使用した痕跡が破断面にみられる。また、刃部の欠損品が1点（44）出土しており、片刃に調整している。石質は結晶片岩、輝緑凝灰岩、閃緑岩、頁岩がそれぞれ1点ずつである。

石皿は、6点（第191図 - 45～48、第192図 - 49・50）出土した。すべて欠損品である。石皿の縁の部分の破片が3点（46～48）出土しており、脚をもつもの（48）もある。（49）は平坦

面を擦っており、1ないし2個のくぼみがあり器体全体が焼けている。石質は凝灰岩が3点、安山岩が2点、石英安山岩が1点である。

E 区

E区は縄文時代中期後半と平安時代の土器が出土しており、石器のほとんどは縄文時代に属するものと考えられる。

石鏃は、104点(第193図円1～15、第194図-16～30、第195図-31～45、第196図-46～59、第197図-60～71、第198図円72～86、第199図-87～100、第200図-101～104)出土した。うち80点が遺構内、24点が遺構外出土である。形態で分類すると、有茎のものが79点あり、その中で平基が4点(17、49、62、104)あとはすべて凸基である。無茎のものが24点あり、凹基3点(7、83、92)平基1点(76)その他はすべて尖基である。基部が破損しており、有茎が無茎か判別できないもの(46)が1点ある。ピッチ痕が残っているものが8点あり、うち6点が凸基有茎鏃、2点が尖基無茎鏃である。石質は頁岩が102点、黒曜石が1点(8)玉髓が1点(25)である。

石槍は、16点出土(第200図-105・106、第201図-107～113、第202図-114～119、第203図-120)した。うち14点が遺構内、2点が遺構外出土である。完形品は12点あり、そのほとんどが尖基無茎式で、有茎式は1点(120)のみである。欠損品は4点出土している。石質は16点とも頁岩である。

石錐は、2点(第203図-121・122)出土した。2点とも遺構内出土である。つまみ部、錐部とも明瞭なものではないが、錐部の先端に使用痕と思われる摩滅がみられる。石質は2点とも頁岩である。

石匙は、5点(第203図-123～126、第204図-127)出土した。うち3点が遺構内、2点が遺構外出土である。出土した石匙はすべて縦型である。(123)は背面の右側に稜線が片寄っており、左側から横方向に細長い剥離調整痕がみられ、その裏側は刃部に浅い調整を施している。調整方法が他のものとは明らかに違っている。他の4点については、(125)が比較的ていねいに刃部を調整しているほかは、全体的に雑な作りをしている。石質は5点とも頁岩である。

石篋は、7点(第204図-128～131、第205図-132～134)出土した。うち6点が遺構内、1点が遺構外出土である。基部から刃部にかけて若干広がっているものと逆にすぼまっているものがある。(130)は刃部に使用痕と思われるポリッシュがみられる。石質は7点とも頁岩である。

スクレイパー類は、27点（第206図 - 135 ~ 138、第207図 - 139 ~ 142、第208図 - 143 ~ 150、第209図 - 151 ~ 153、第210図 - 154 ~ 161）出土した。すべて遺構内出土である。石質は27点とも頁岩である。

異形石器は、1点（第211図 - 162）出土した。遺構外出土である。厚みのある剥片の周縁部を調整しており、七つの抉りを作り出している。またすべての抉りには微細剥離がみられる。石質は頁岩である。

フレイク類は、12点（第211図 - 163 ~ 166、第212図 - 167 ~ 174）出土した。すべて遺構内出土である。黒曜石の石鏃（8）が出土しているが、それと同原石と思われるフレイクが10点出土している。石質は頁岩が2点、黒曜石が10点である。

敲磨器類は、21点（第213図 - 175 ~ 182、第214図 - 183 ~ 193、第215図 194・195）出土した。すべて遺構内出土である。凹石4点、磨石13点、敲石4点である。（184）は片方の平坦面に縦に細い溝が走っており、砥石として使用された可能性もある。（194）は磨製石斧の欠損品を再利用したものと思われる。石質は安山岩が12点、凝灰岩が5点、石英安山岩が2点、頁岩が2点である。

磨製石斧は、9点（第215図 - 196 ~ 203、第216図 - 204）出土した。うち5点が遺構内、4点が遺構外出土である。すべてが刃部または基部の欠損品である。（199・201）は偏刃である。石質は頁岩が5点、安山岩が3点、玄武岩が1点である。

石冠は、6点（第216図 - 205 ~ 210）出土した。うち5点が遺構内、1点が遺構外出土である。6点ともいわゆる北海道式石冠である。形状は断面がカマボコ状で、基底部は敲打痕、擦痕がみられ、若干弧を描くものの平坦に近い形状を呈しており、周囲には敲打によると思われる帯状のくぼみが巡っている。石質は安山岩が5点、凝灰岩が1点である。

石皿は、2点（第217図 - 211・212）出土した。2点とも遺構内から出土したものである。石質は安山岩が1点、溶結凝灰岩が1点である。

砥石は、1点（第217図 - 213）出土した。遺構内から出土したものである。柱状節理の原石で、浸食作用によって角が取れたものを利用している。石質は安山岩である。

（田澤 淳逸）

(3) その他の遺物

土製品

A区では、耳飾り・特殊土器・その他不明な土製品が出土した。耳飾り(第185図-36)は滑車形の耳飾りで1点出土した。特殊土器(第185図-37)は小型の台付土器で1点出土した。(第185図-38)は円形・扁平で、片面に線刻が施されている。

D区では、土偶(第192図-51・52)が2点出土した。いずれも板状土偶で欠損品である。51は胸部の破片で、貼付により乳房が表されている。表裏面とも2~3本1単位の撚糸圧痕が施されている。52は胴部下半部の破片で、表裏面とも沈線文が施されている。ややいびつな円形の中に2条の縦の沈線は、陰部の表現と思われる。下端に直径6mmの穿孔が見られる。

E区では、土偶・耳飾り・環状土製品・特殊土器・有孔土製品が出土した。土偶(第218~220図-214~223・226)は11点出土した。いずれも扁平で脚部を具体的に表現していない板状土偶である。内訳は遺構内より6点、遺構外より5点で、遺構内から出土した土偶のうちの3点(216~218)は、底面にピット3つと放射状に7本の溝が走る112号土壌の覆土5層より出土した。216と218は完形品で、他と比較するとやや小さく大きさは7cm程である。目は沈線により、鼻・乳房・へそは粘土貼り付けにより表現されている。へその下に円形の沈線により描かれているものは、陰部の表現と思われる。216は下端から顔面に抜ける貫通孔が見られる。

221は頭部のみを欠いている。その他の土偶はいずれかの部分の残存で、胸部2点、胴部3点、腕部3点である。215と220は粘土貼り付けによる乳房を有し、214と222は粘土貼り付けによるへそを有している。219は土偶の右腕部分だが、胴部接続面に貫通孔が見られる。文様は縄文・沈線により構成されている。沈線のみのも(214・216~222)、縄文施文後沈線により文様を描き出すもの(215)、撚糸の圧痕により文様を描き出すもの(223・226)がある。222の胴部下半に沈線でV字状に表現されたものは、下着のようなものを想像させる。耳飾り(第220図-224)は1点出土した。外径より厚さのある滑車形の耳飾りである。環状土製品(第220図-225)は1点出土した。ドーナツ状を呈し無文である。特殊土器(第220図-227~230)は4点出土した。227は台付土器、228~230は鉢形土器である。229は沈線により施文されているが、他は全て無文である。230の口縁部には1個の穿孔が見られる。有孔土製品(第220図-231~234)は4点出土した。両端がやや先細りする管状の土製品で、長軸方向の中央に貫通孔がある。土錘と思われる。

石製品

A区では、石剣・その他不明な石製品が出土した。石剣（第185図 - 39・40・41）は同じD - 8グリッドから3点出土している。いずれも欠損品で、丹念な研磨により仕上げられており、断面は楕円形を呈している。（第185図 - 40）は敲打によるくびれがみられ、その上下に2条ずつ線刻が施されている。（第185図 - 41）は直刃状で断面形は卵形に近く、柄頭は台形を呈し、両面ともほぼ同じ文様が彫刻されている。柄と刃部の間には、線刻が施されている。（第185図 - 42）は敲打によるくびれが見られる。

D区では、有孔石製品・石棒が出土した。有孔石製品（第192図 - 53）は1点出土した。形態は球形を呈し、石質は凝灰岩である。中央部に両側からの穿孔が見られる。石棒（第192図 - 54）は1点出土した。端部に二重の円が表現されている。

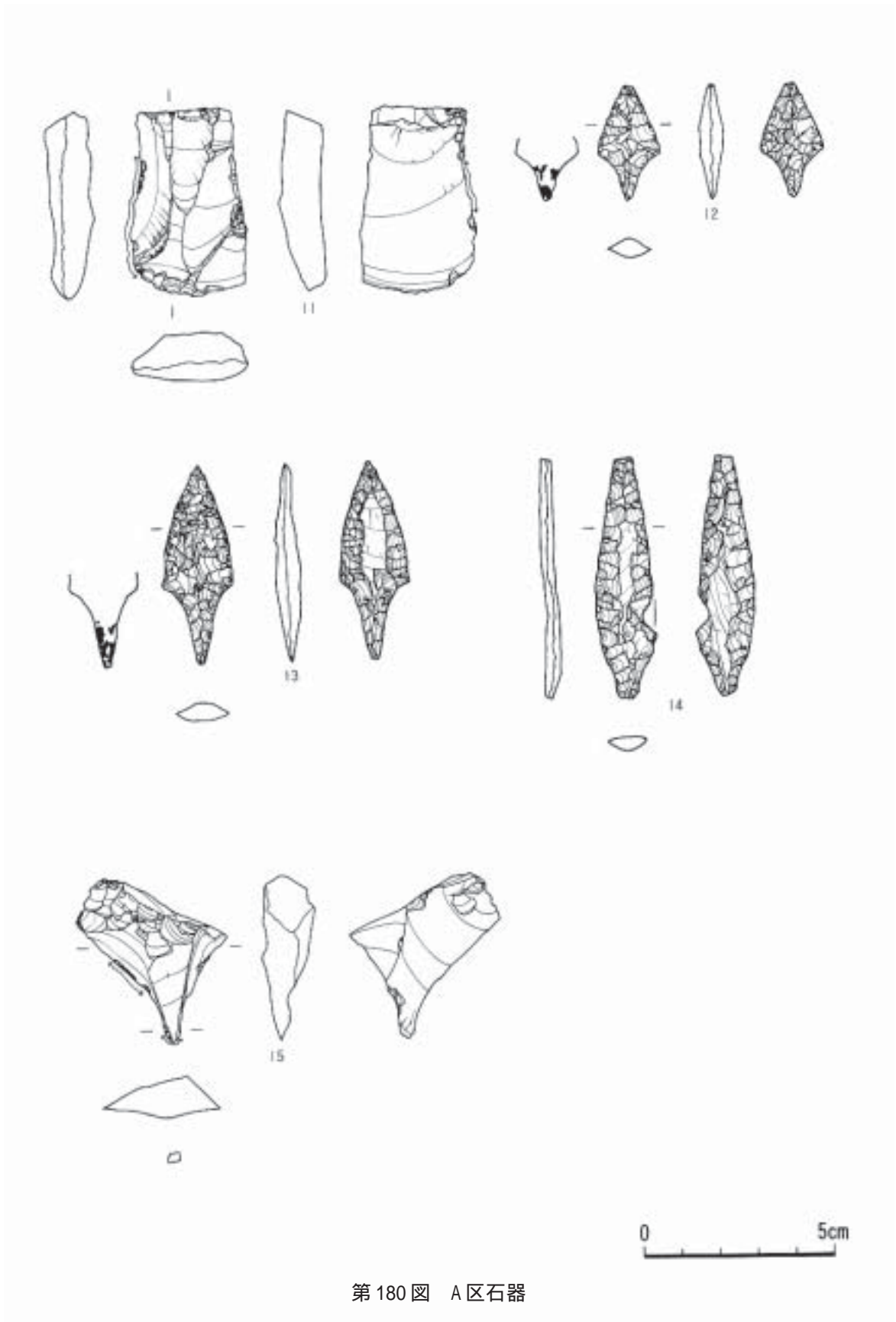
E区では、有孔石製品、石棒、その他不明な石製品が出土した。有孔石製品（第220・221図 - 235 ~ 240・242）は7点出土した。235 ~ 238は扁平な円形を呈し中央部に両側からの穿孔が見られる。239は棒状を呈し、長軸の両端に穿孔が見られる。240は扁平な楕円形を呈し、上方に穿孔が見られる。242は楕円形を呈する礫の長軸方向の中央に貫通孔が見られ、さらにその貫通孔に対し直角に貫通する形での穿孔が見られる。石棒（第221図 - 243）は1点出土した。頭部の欠損品である。



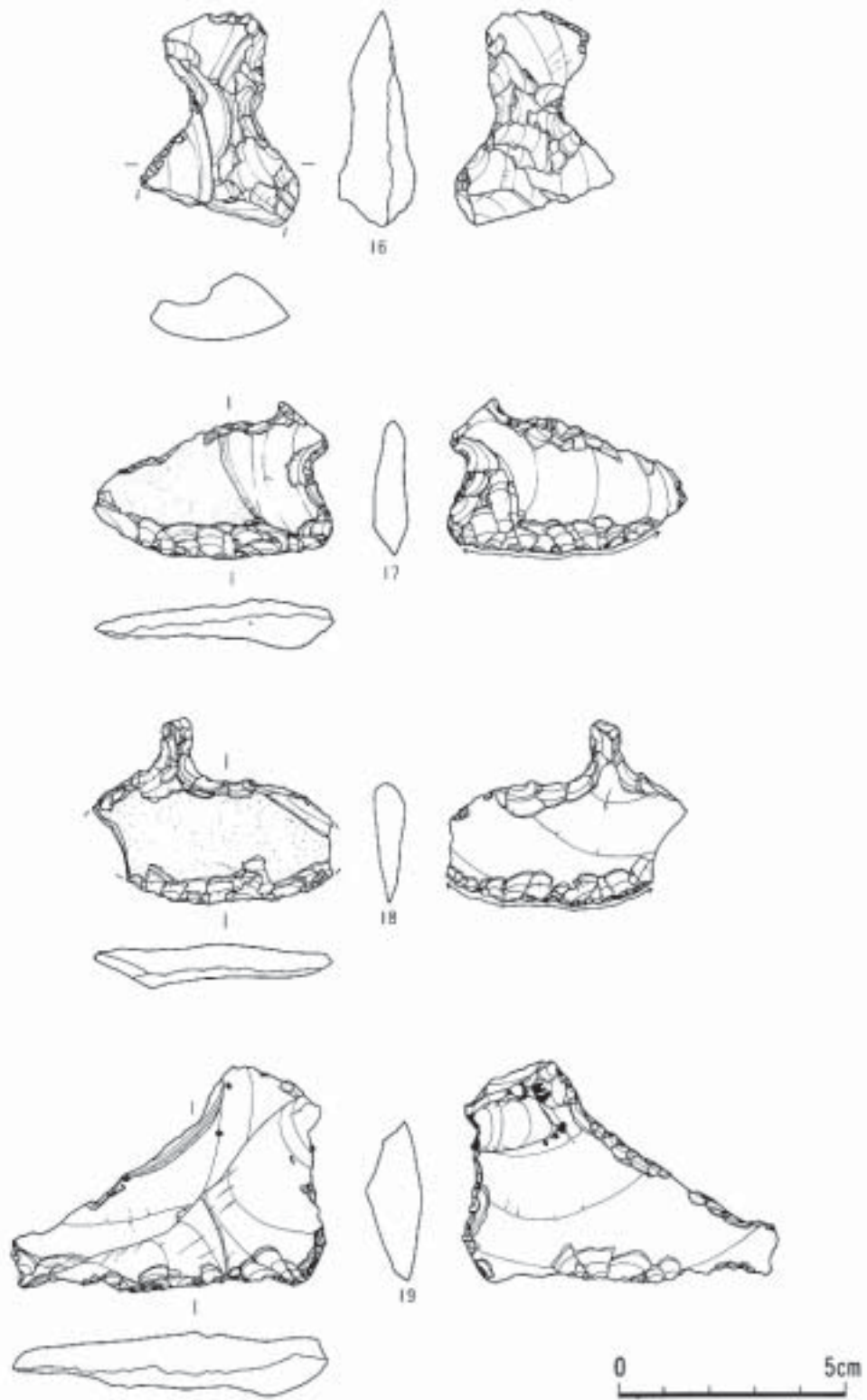
第178图 A区石器



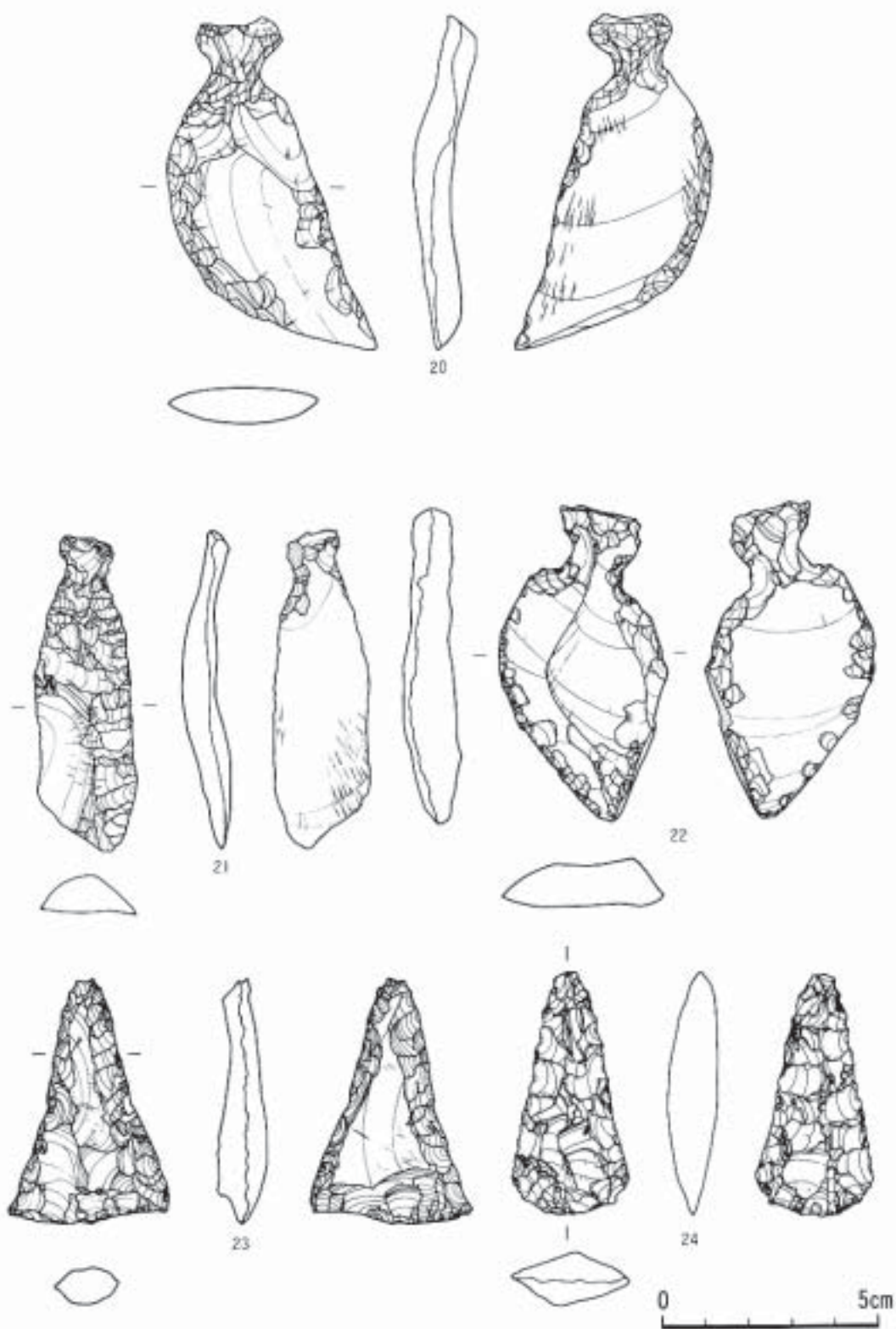
第179图 A区石器



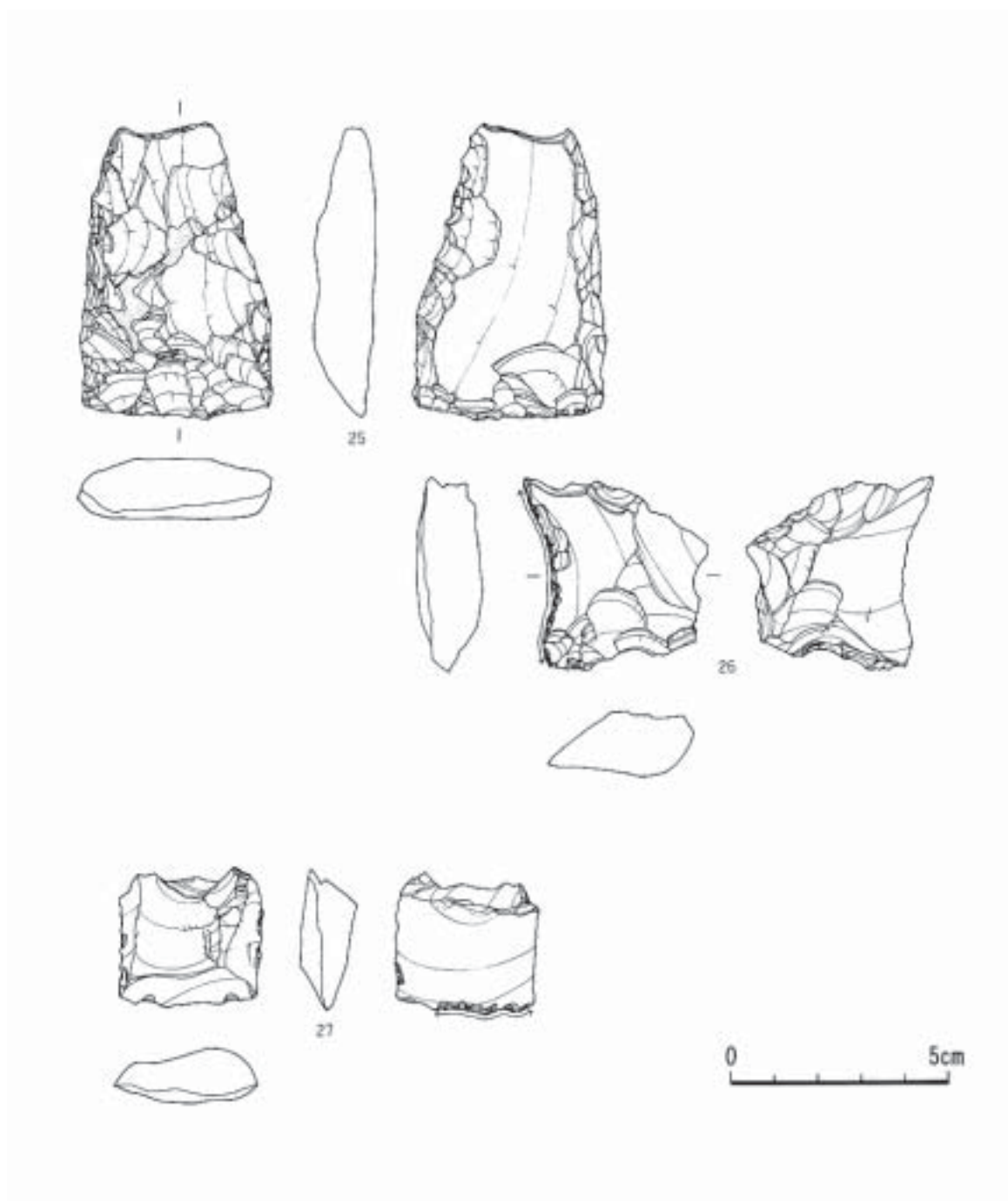
第180图 A区石器



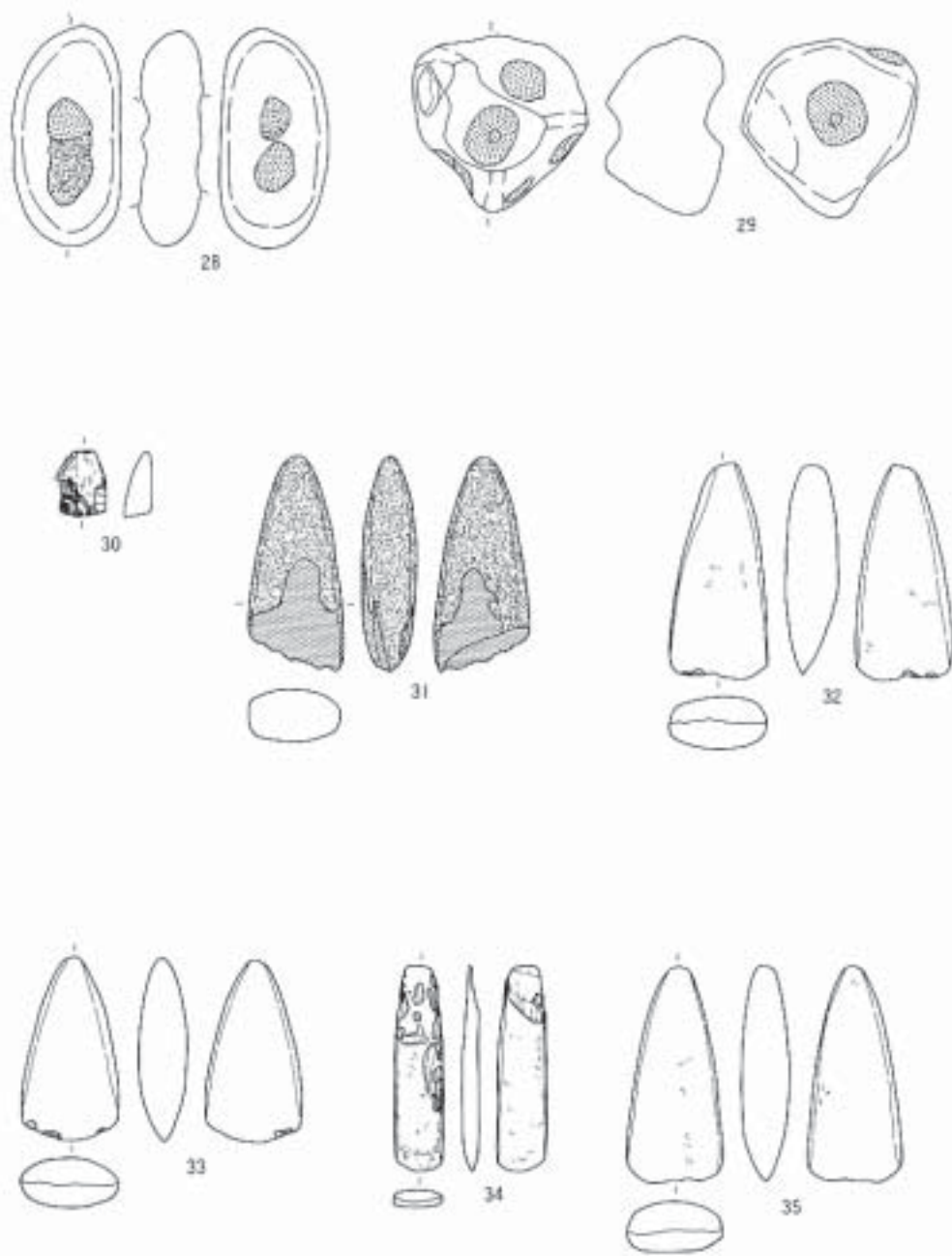
第181图 A区石器



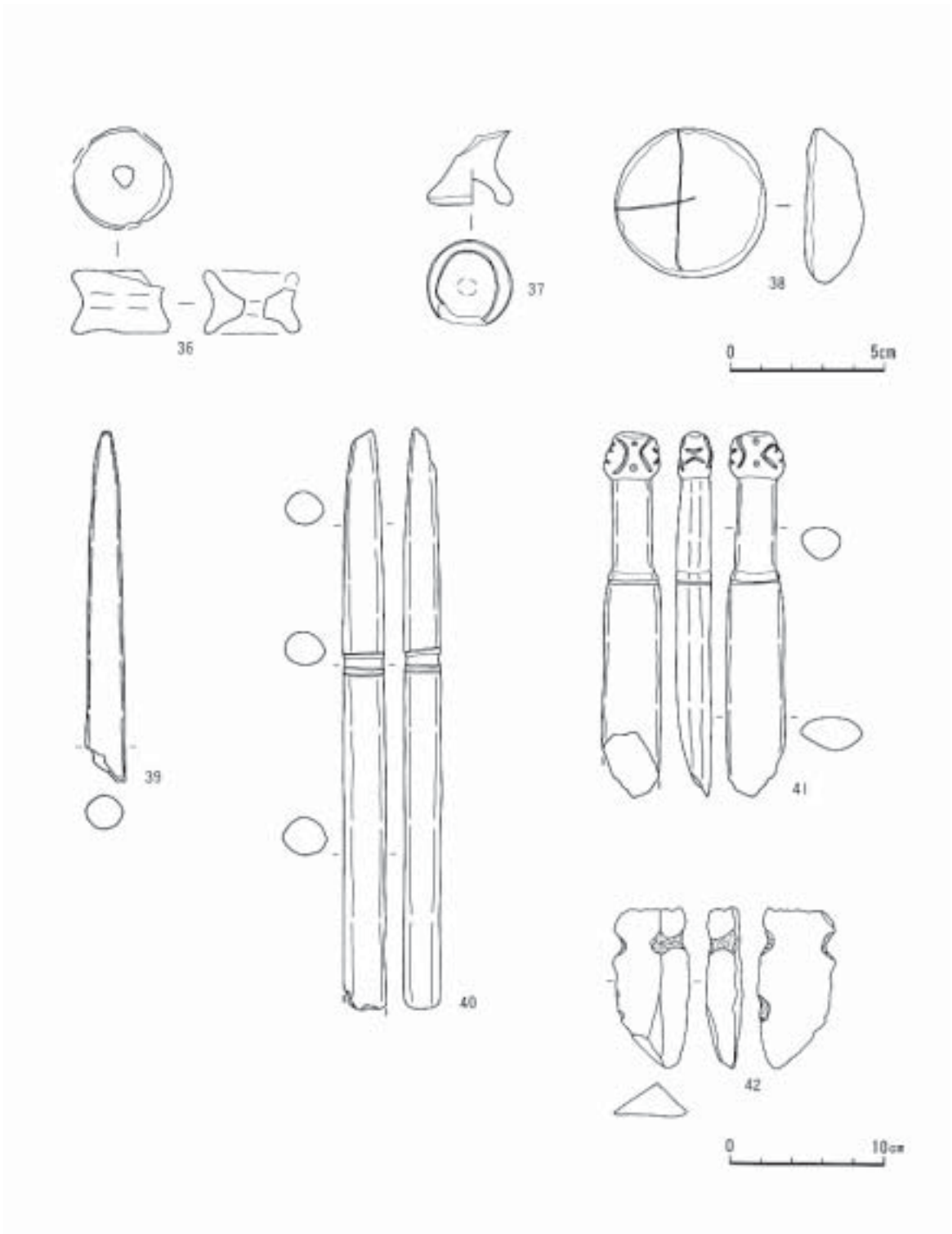
第182图 A区石器



第183图 A区石器



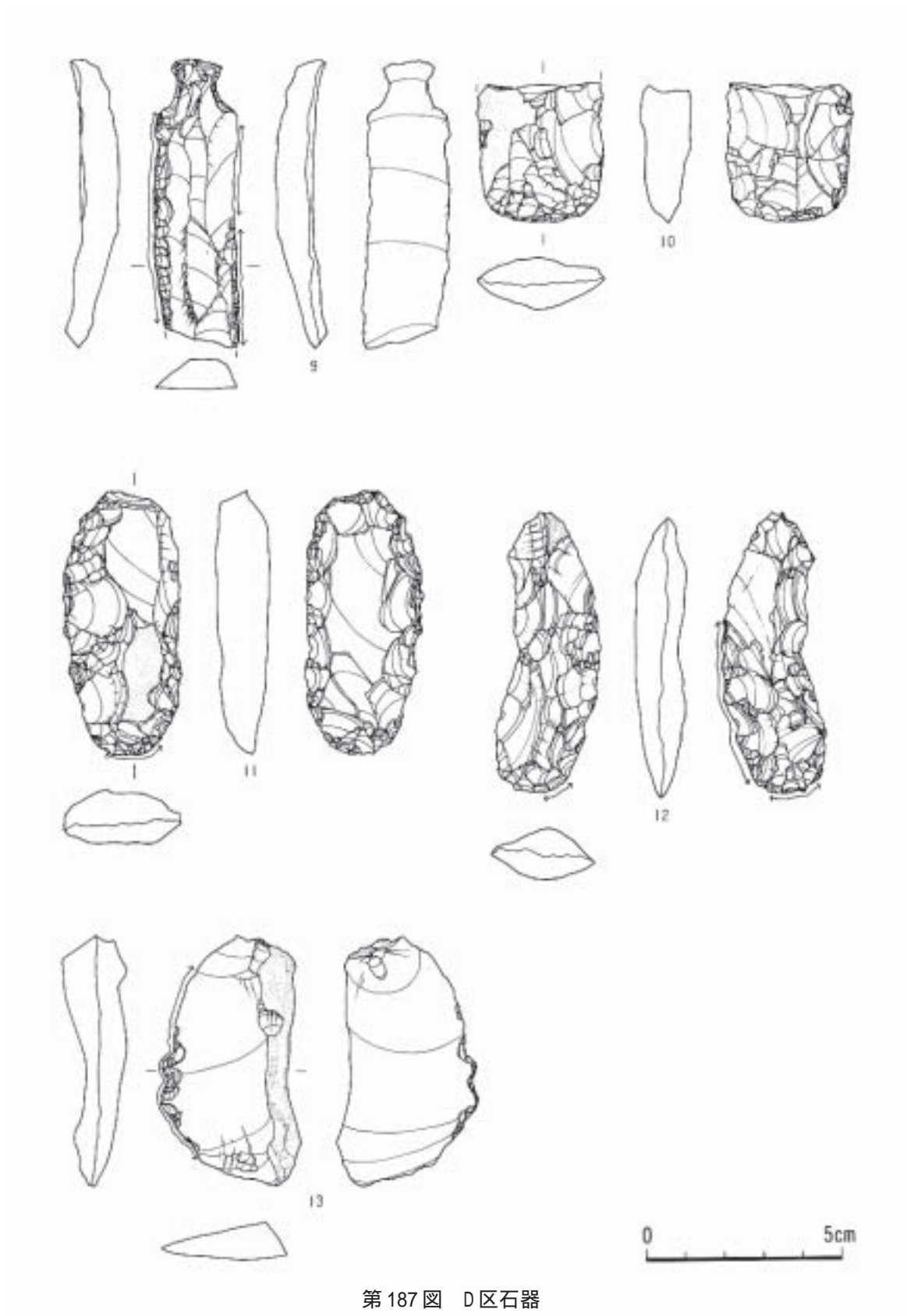
第184图 A区石器



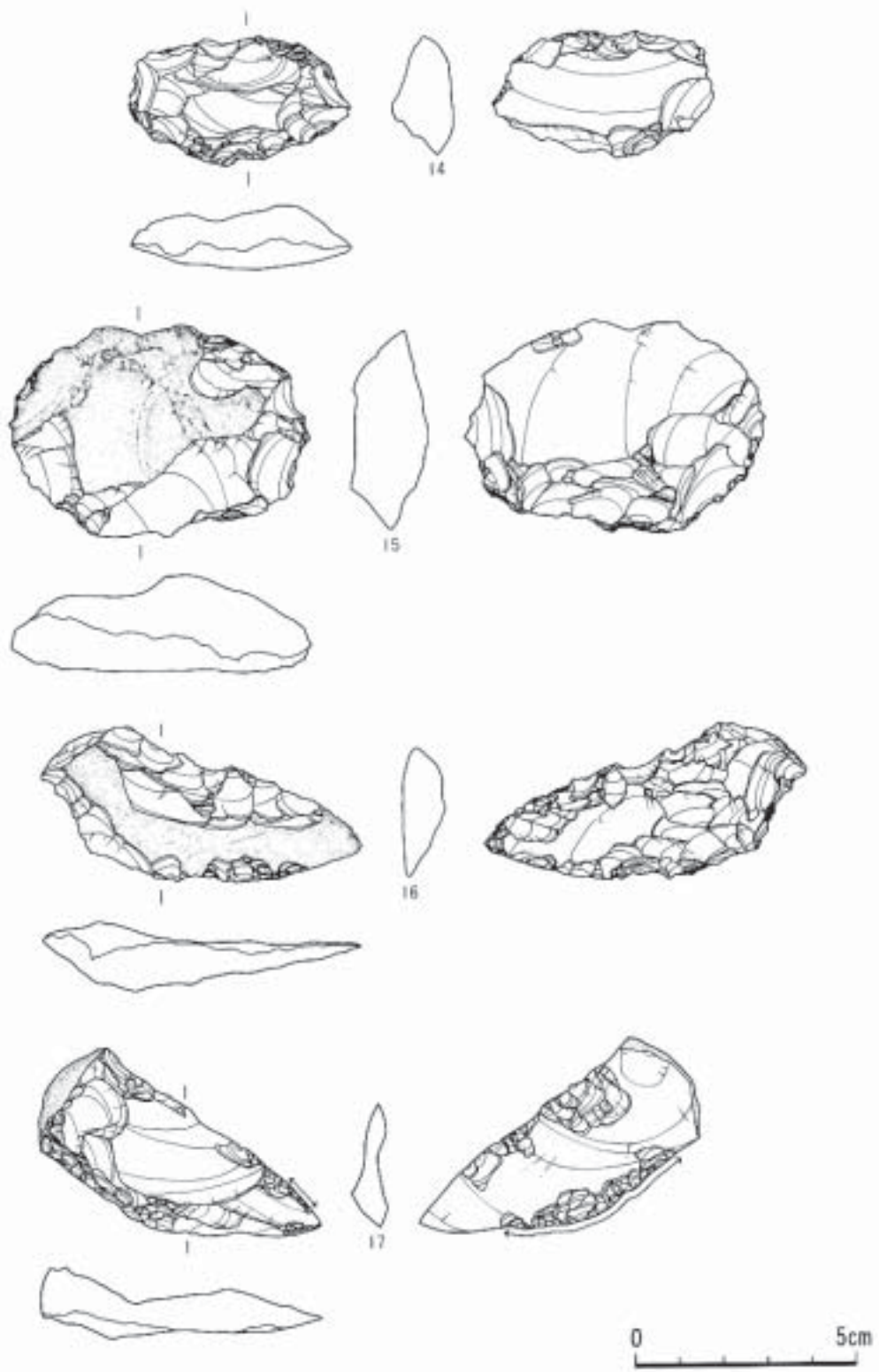
第 185 图 A 区土製品・石製品



第 186 图 D 区石器



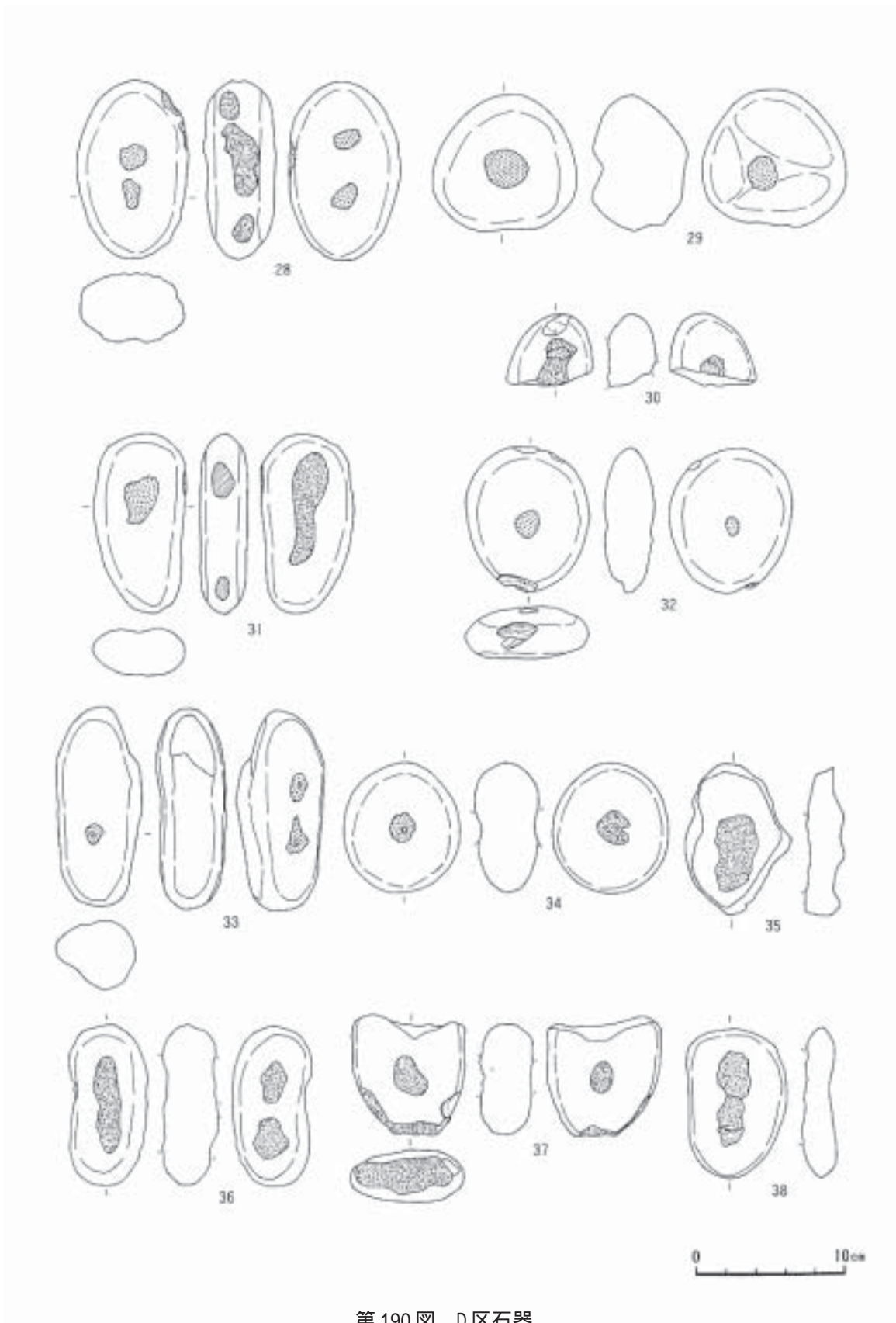
第 187 图 D 区石器



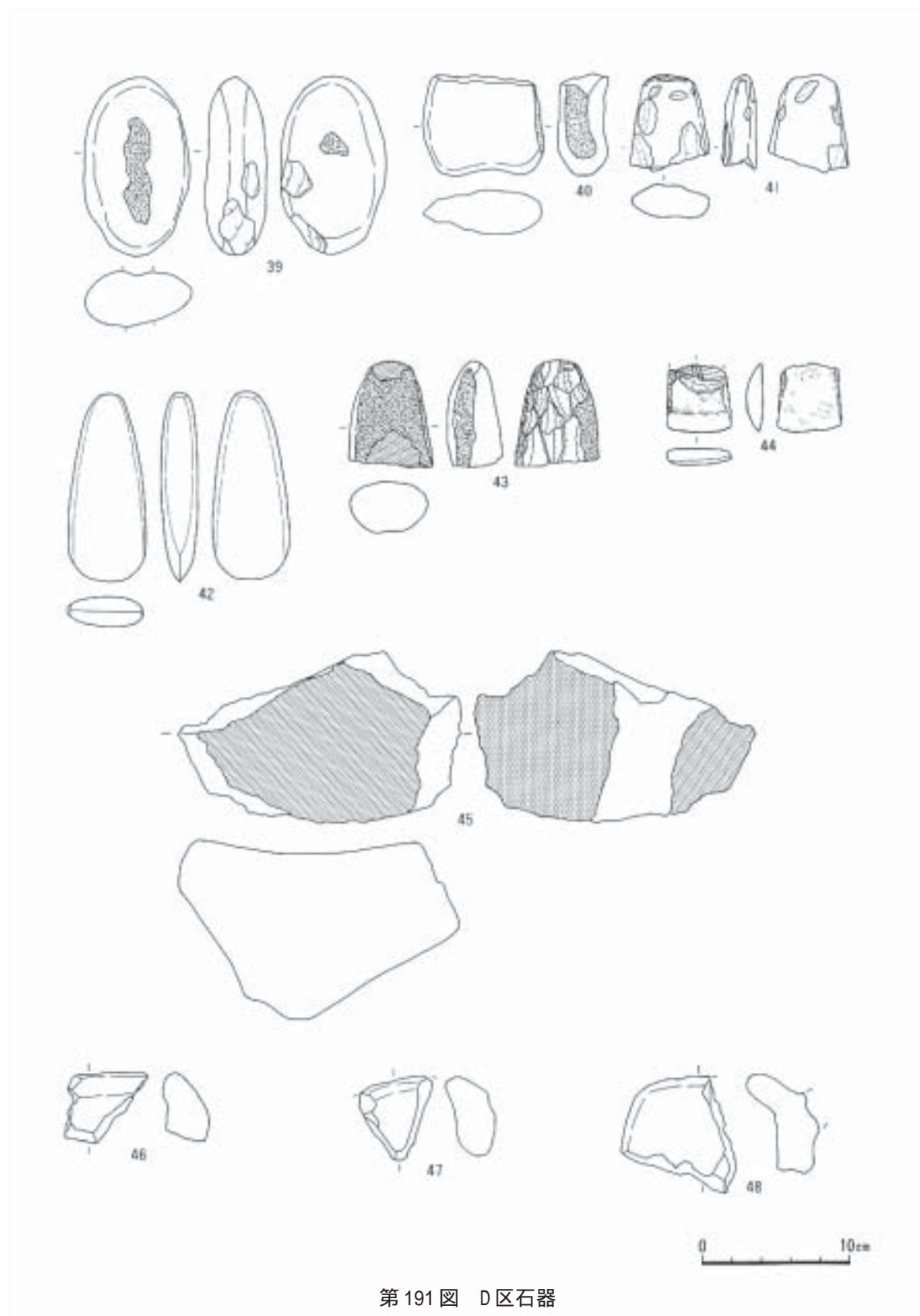
第 188 图 D 区石器



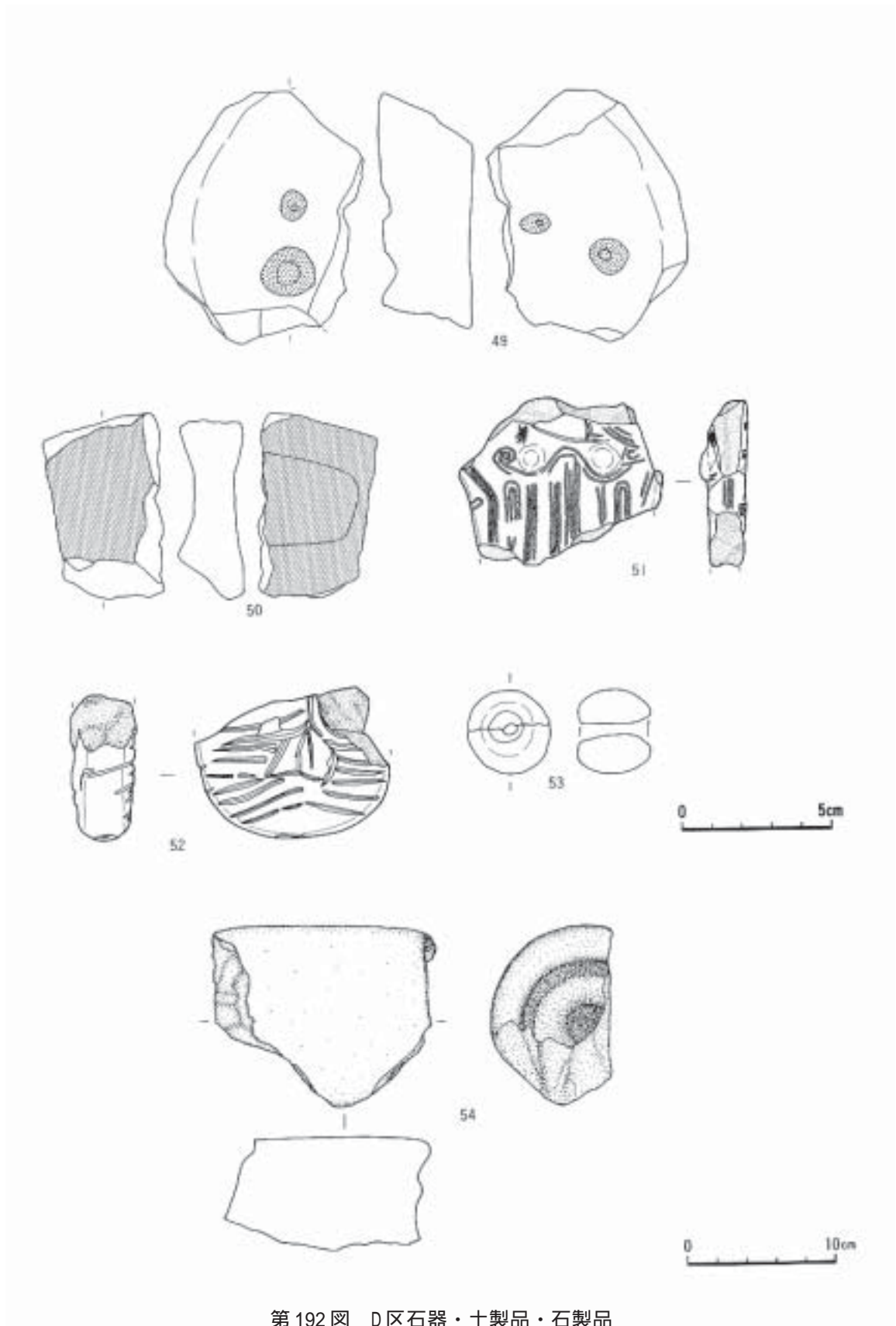
第 189 图 D 区石器



第190图 D区石器



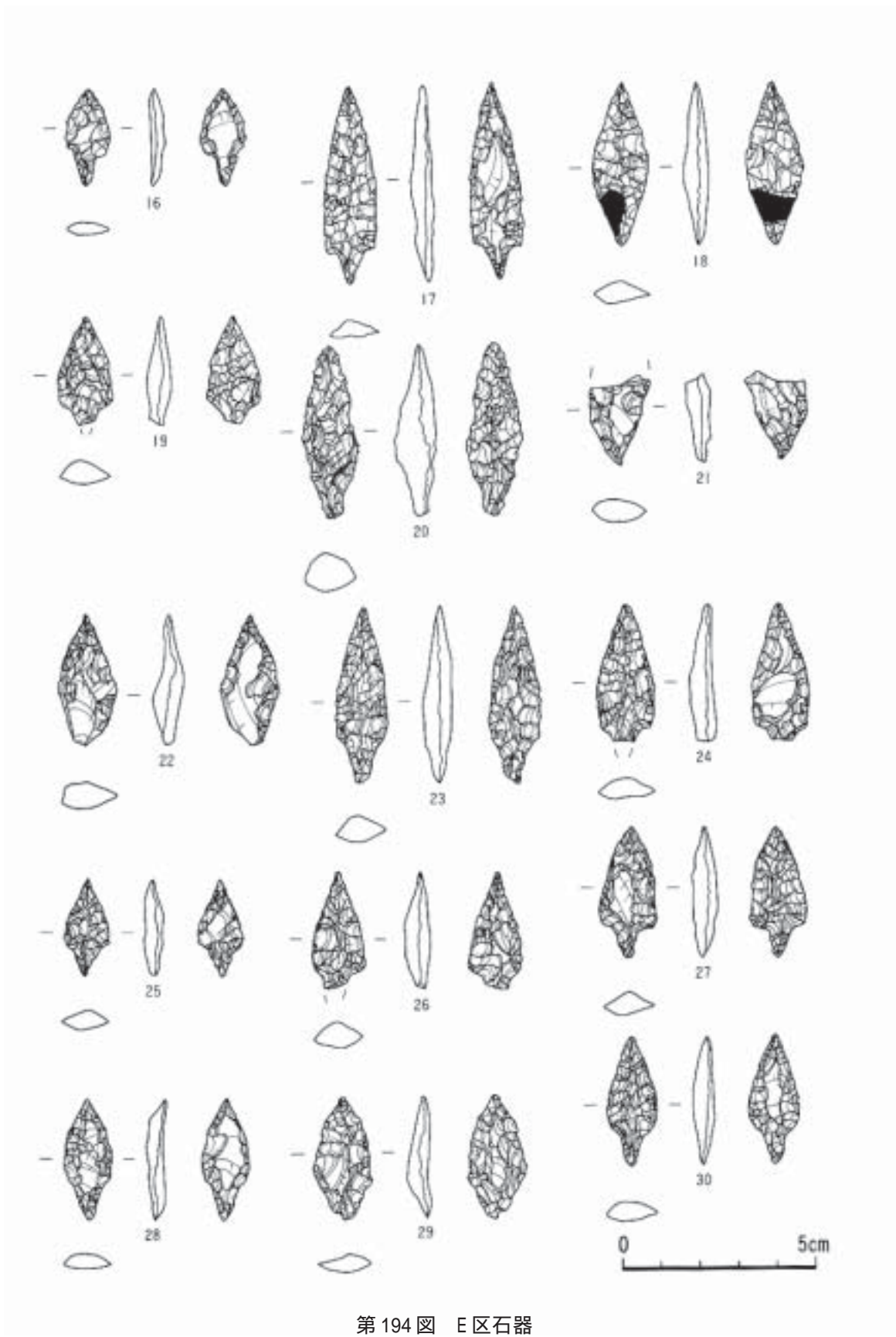
第 191 图 D 区石器



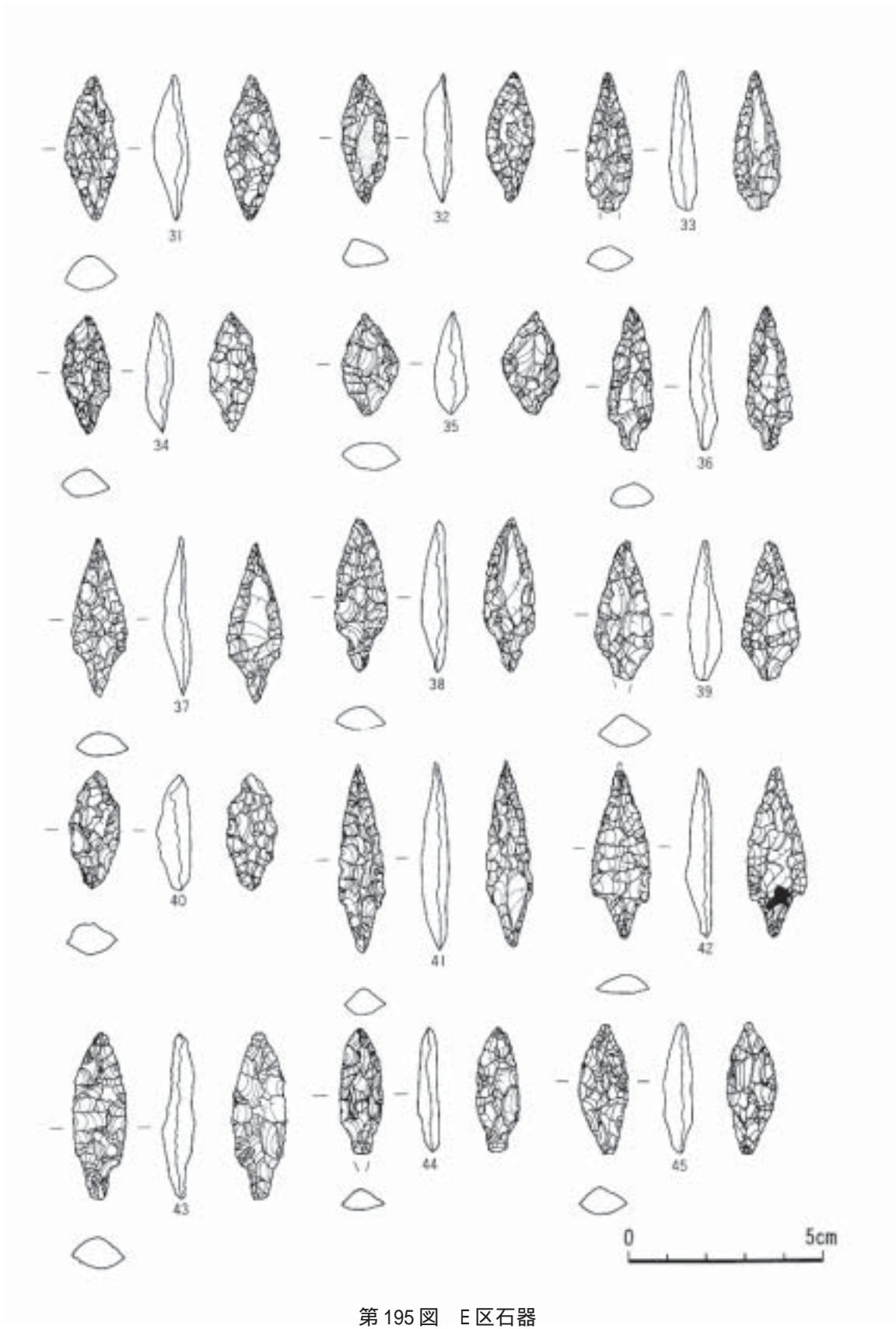
第192图 D区石器·土製品·石製品



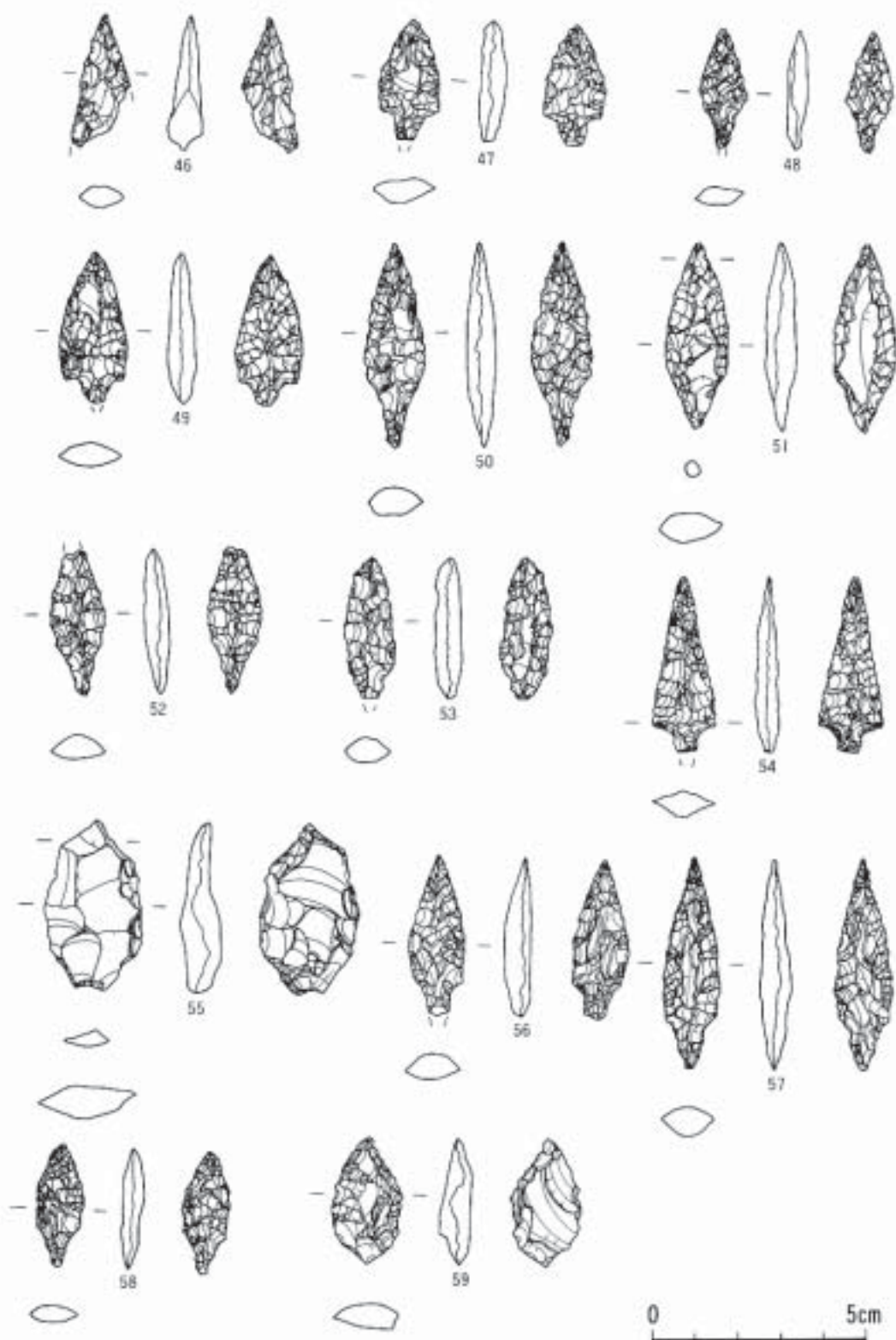
第 193 图 E 区石器



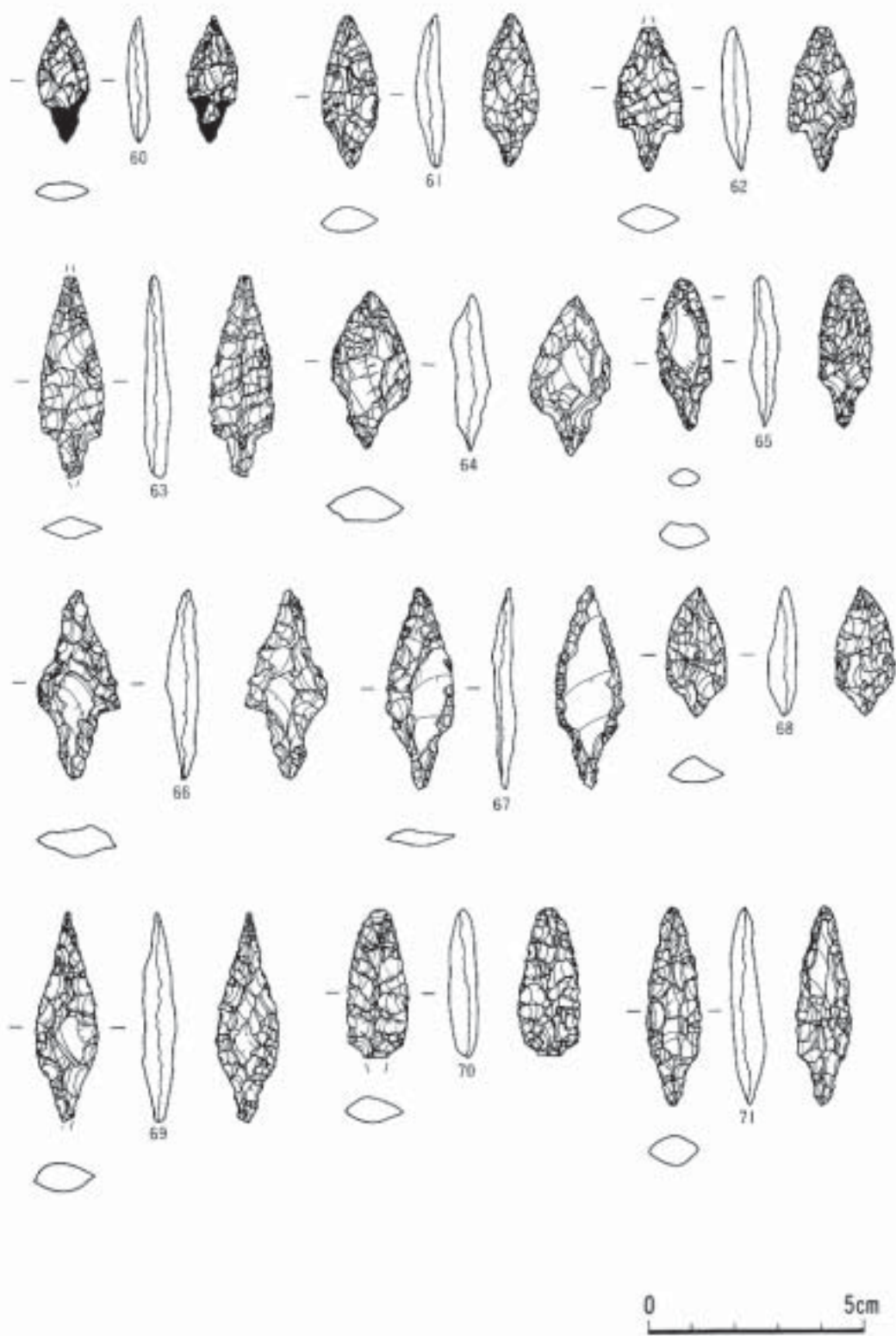
第194图 E区石器



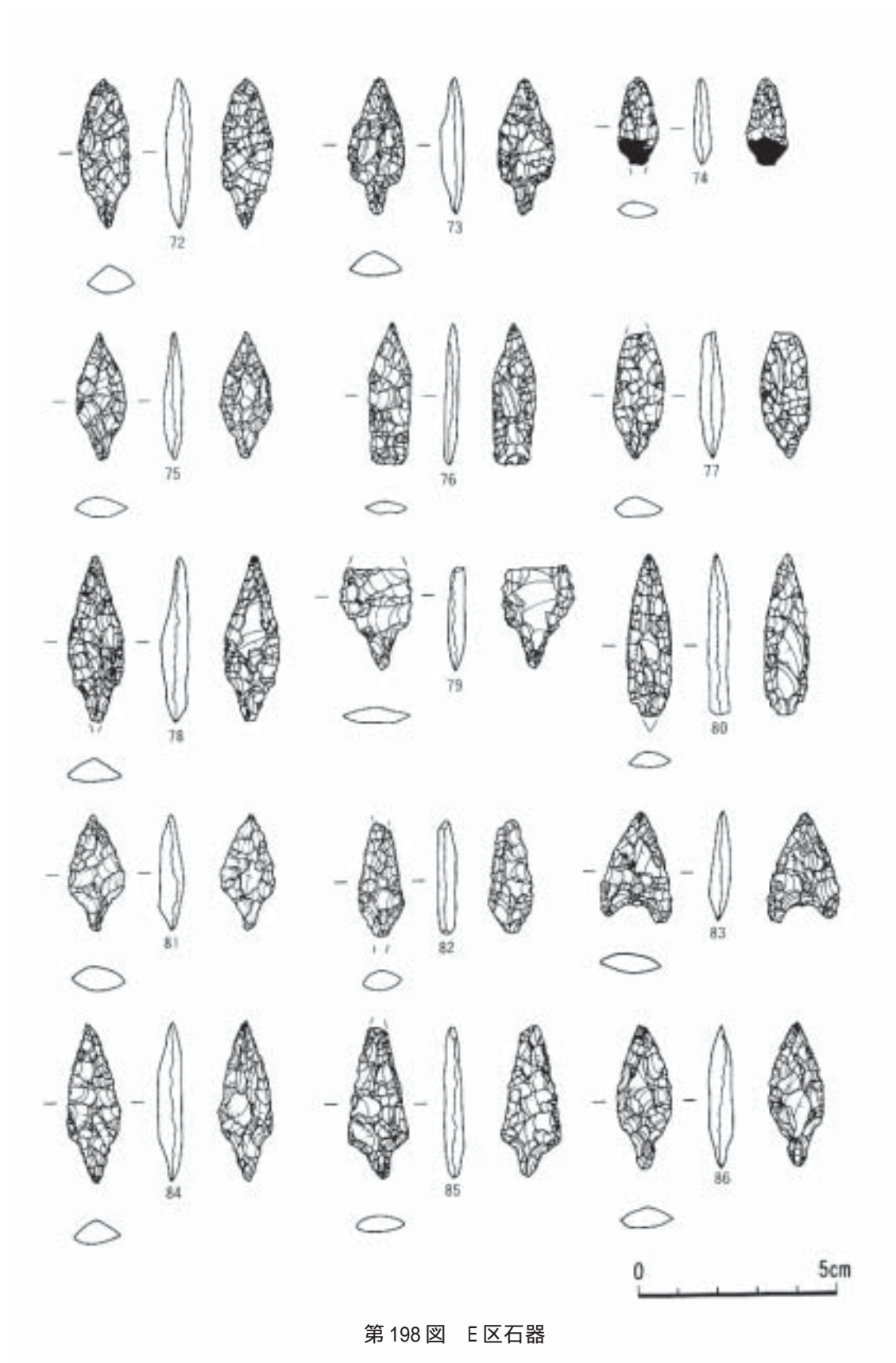
第 195 图 E 区石器



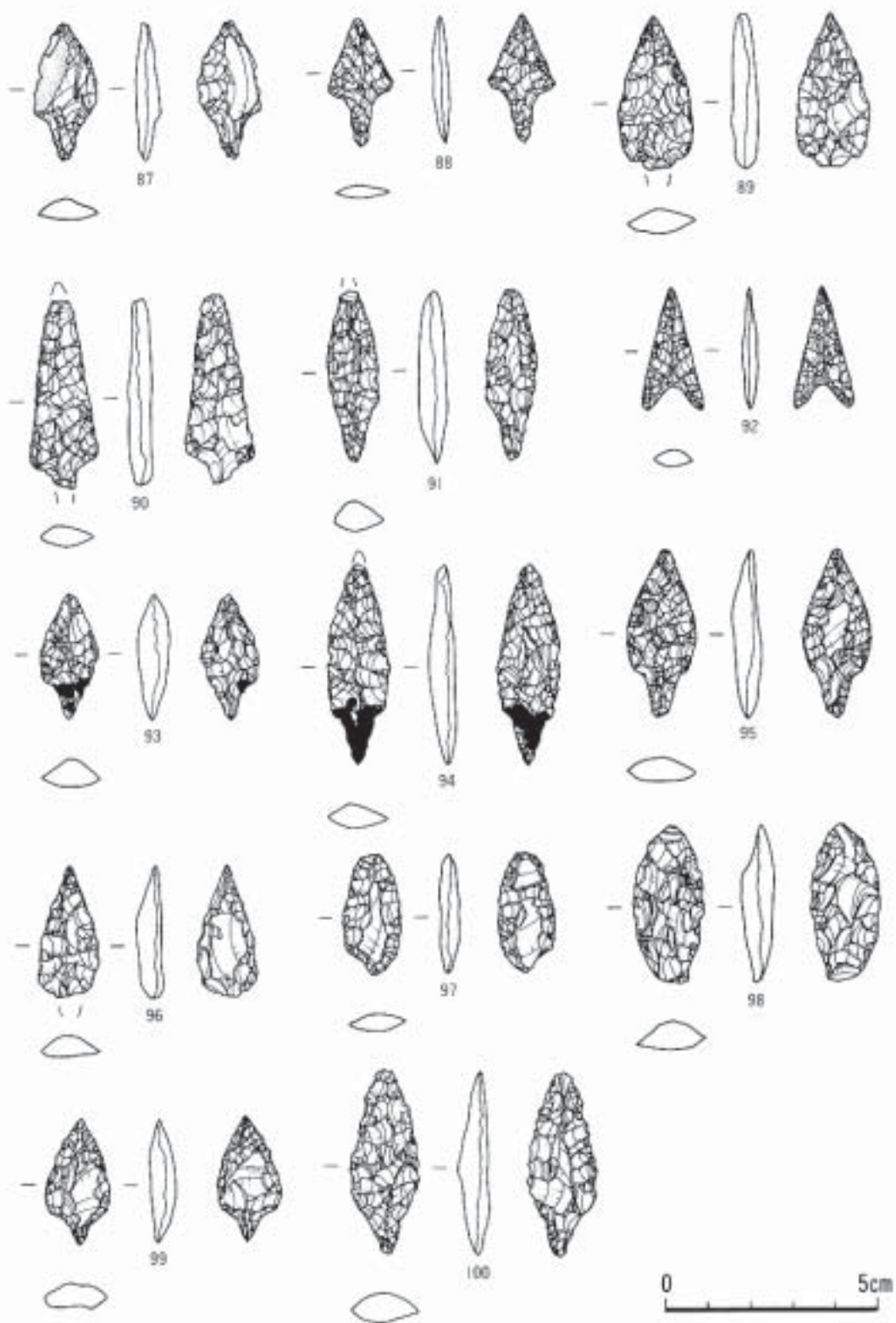
第 196 图 E 区石器



第 197 图 E 区石器



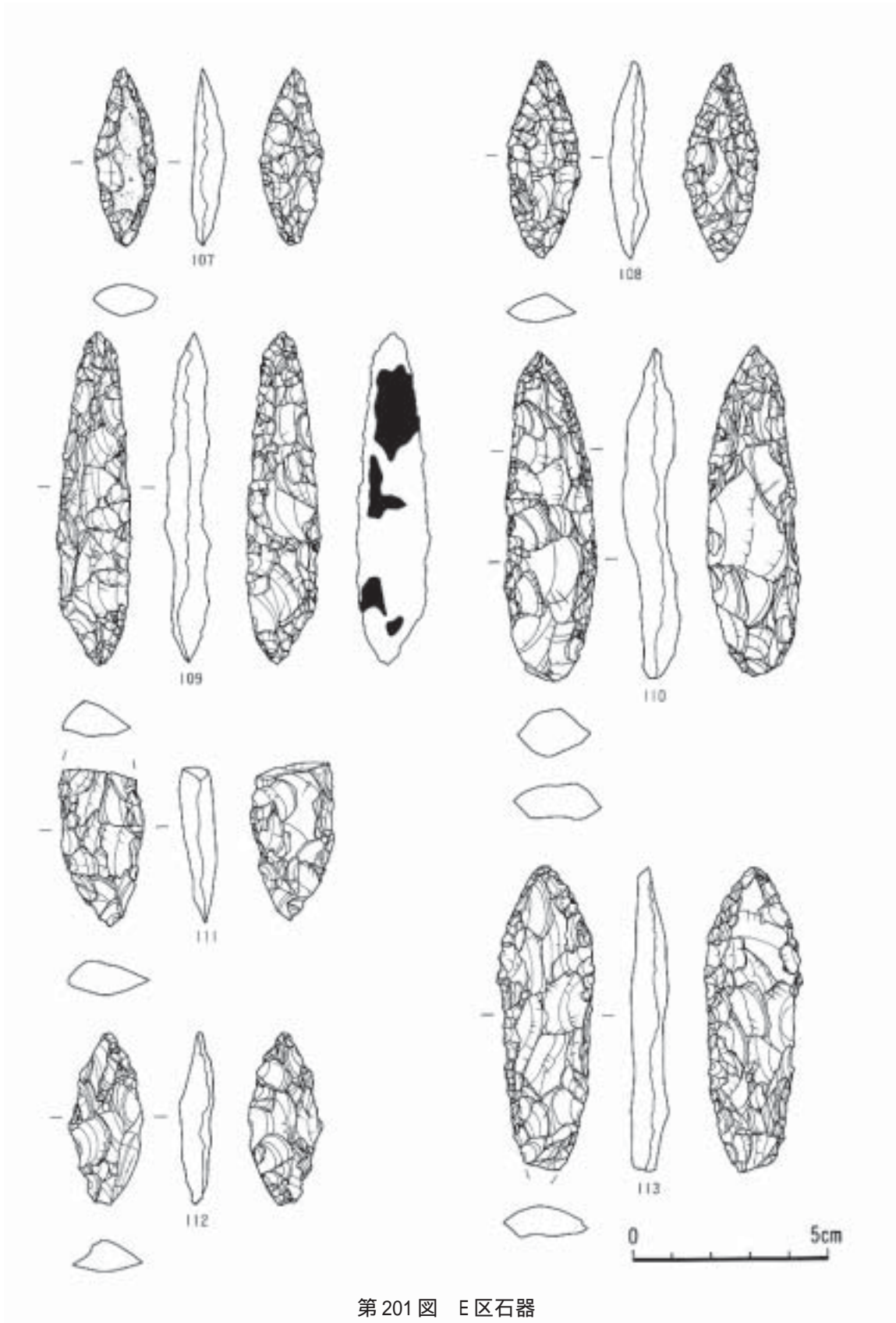
第198图 E区石器



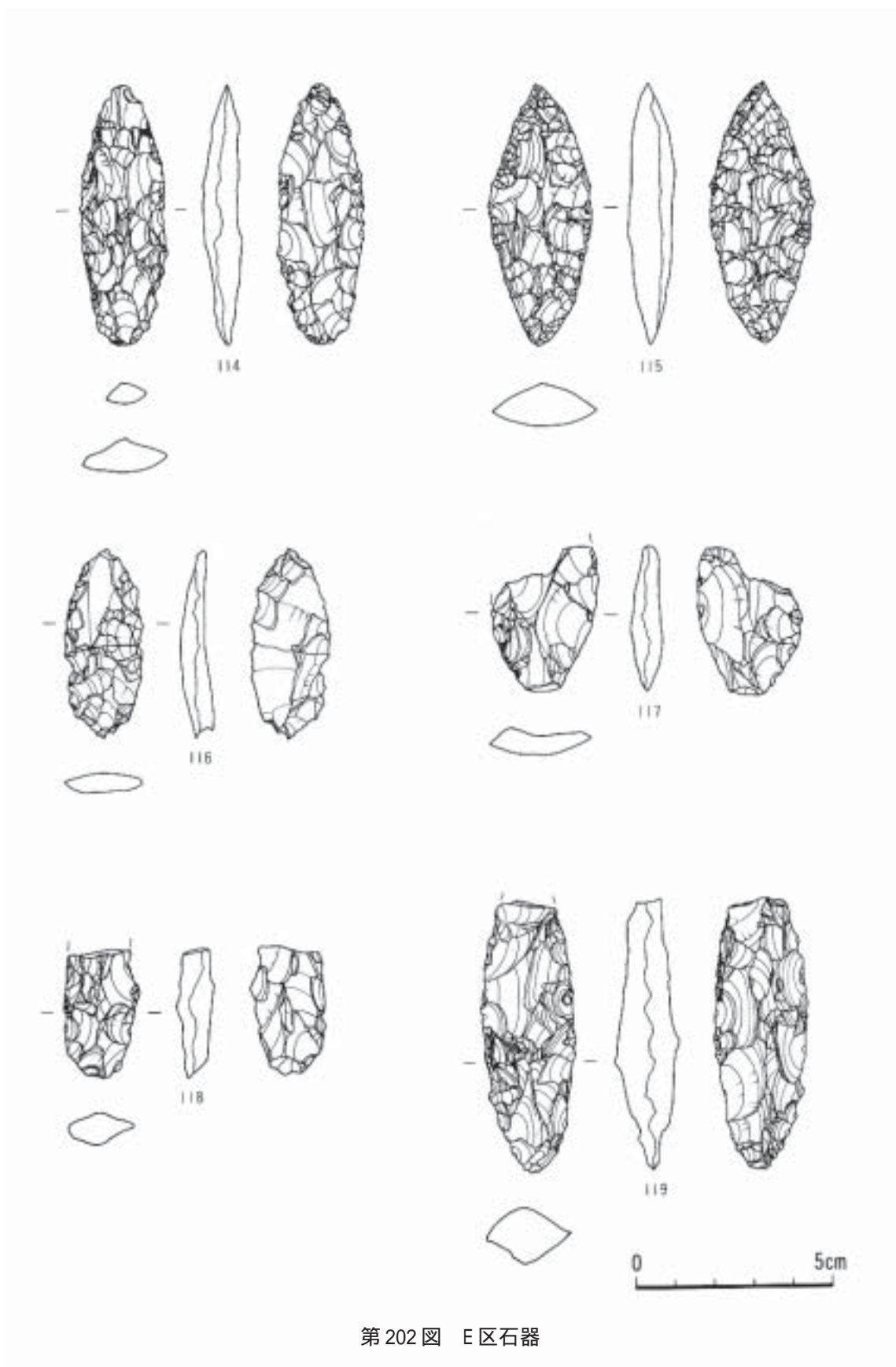
第199图 E区石器



第 200 图 E 区石器



第201图 E区石器



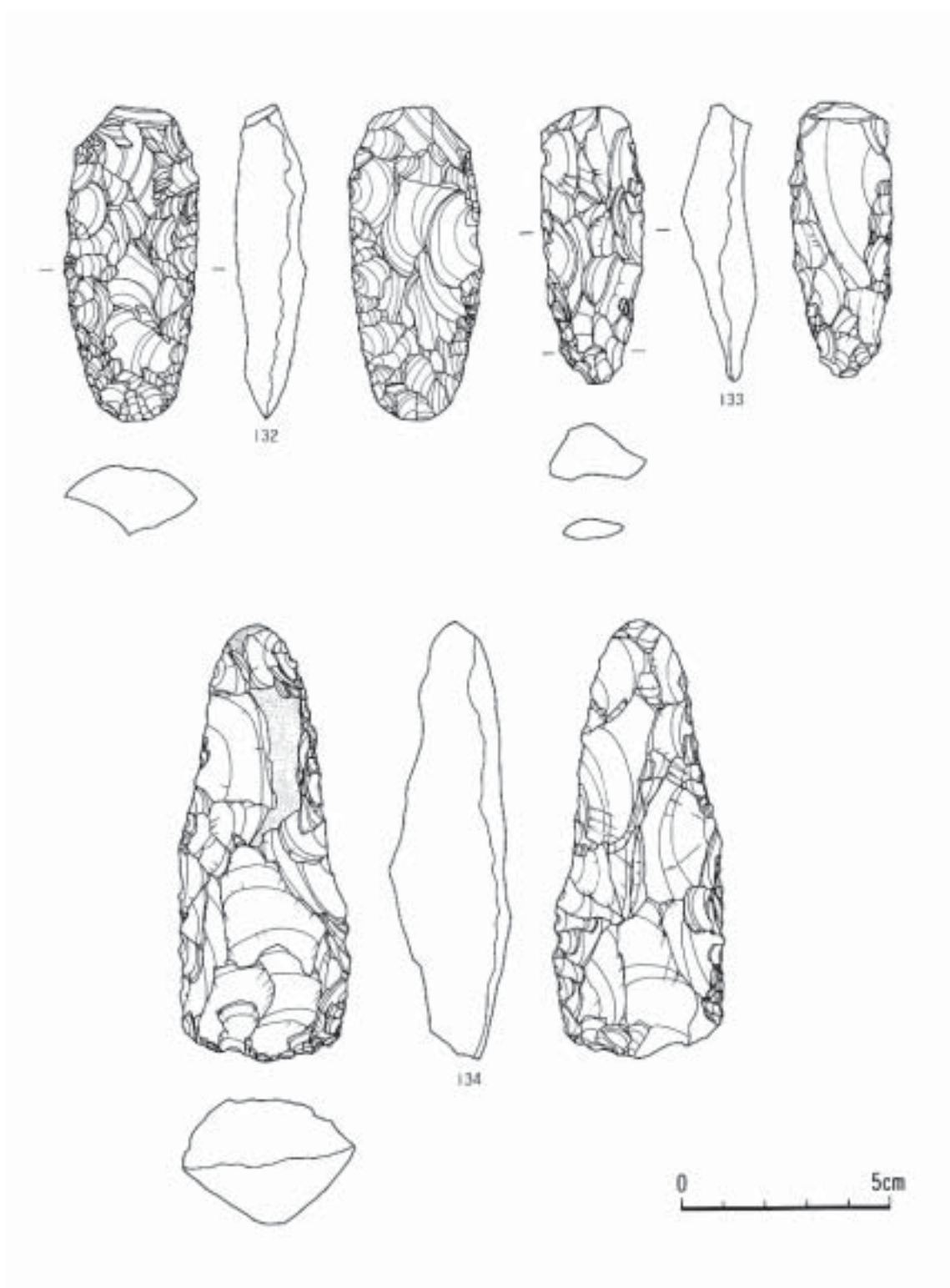
第 202 图 E 区石器



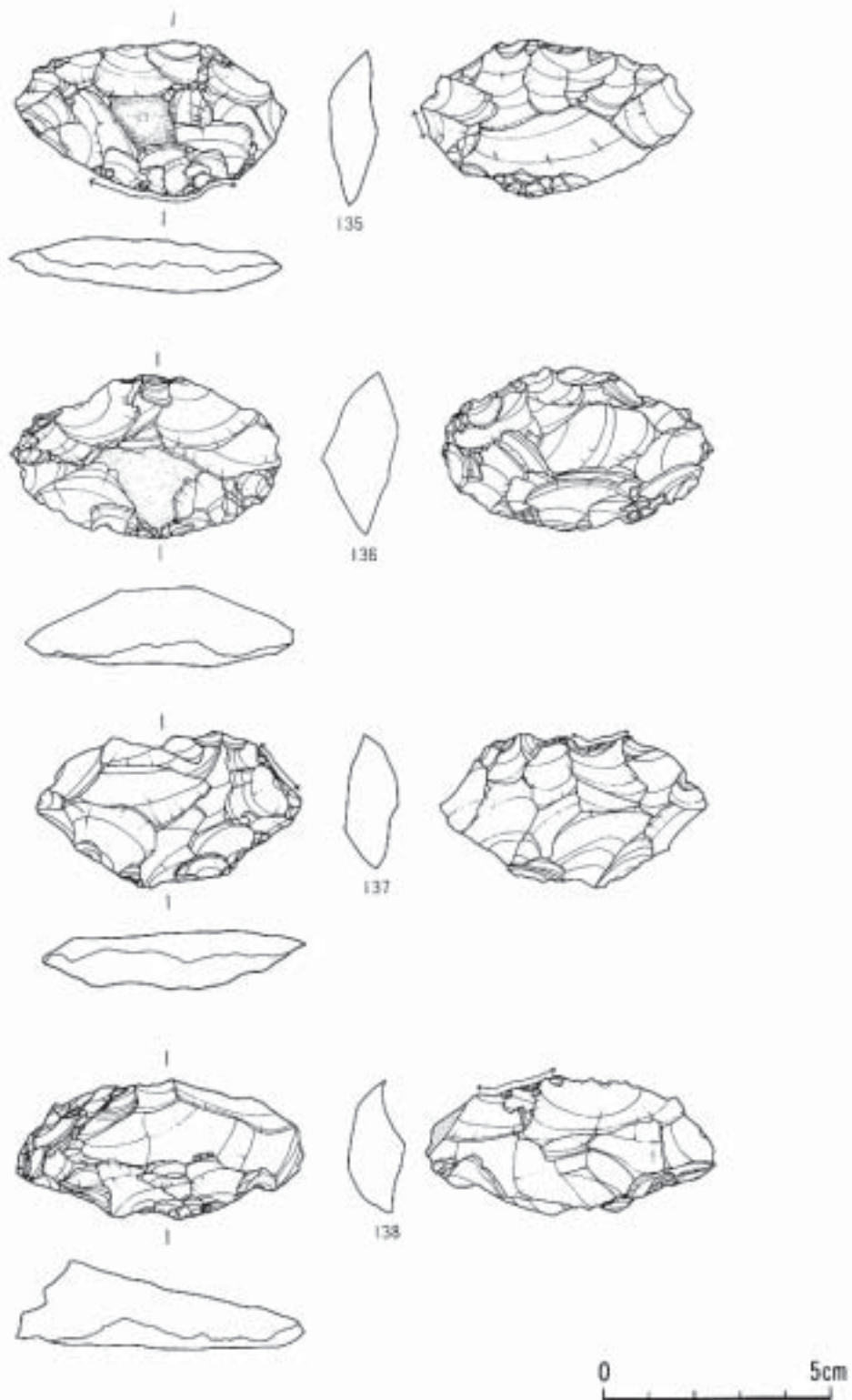
第 203 图 E 区石器



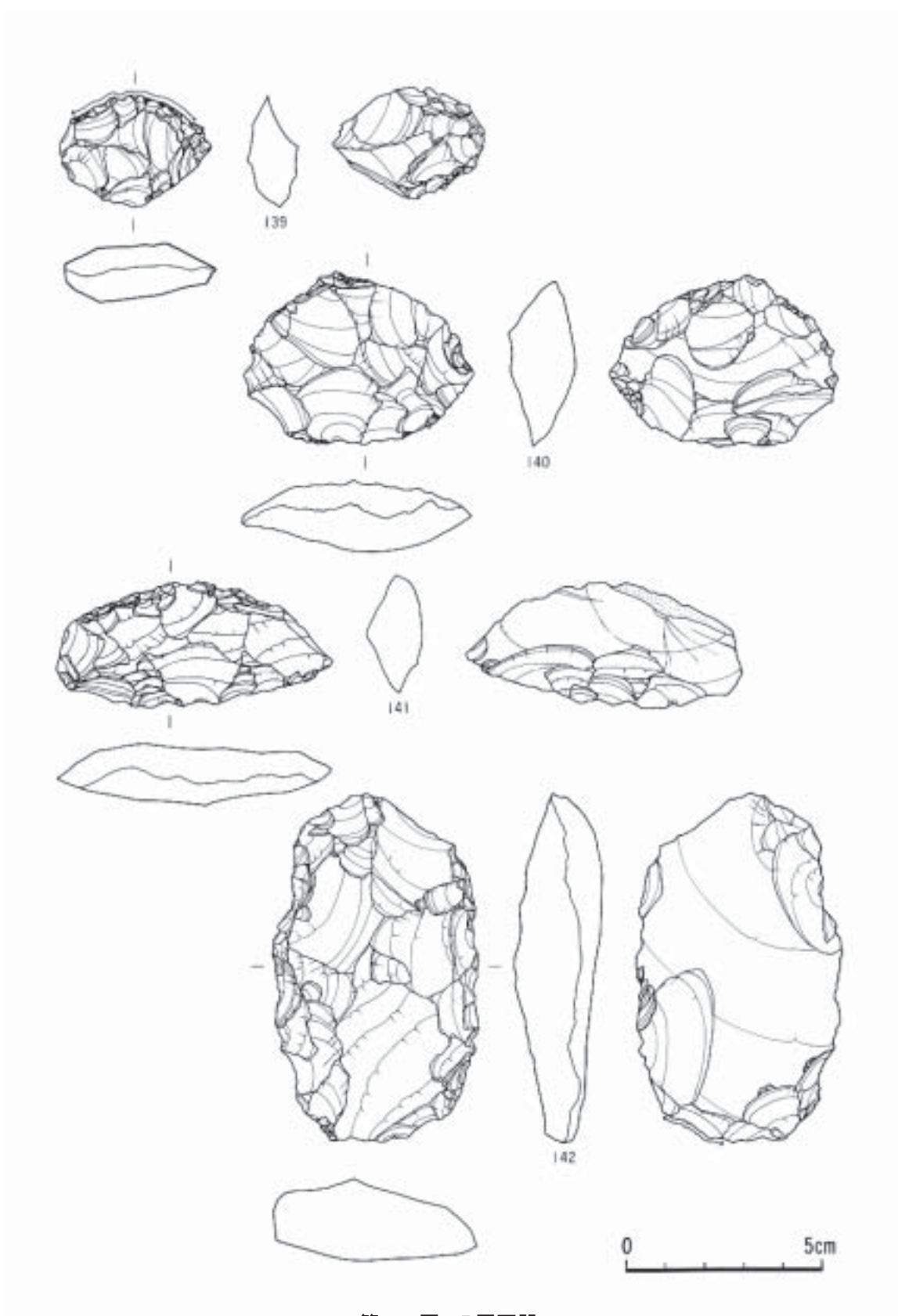
第204図 E区石器



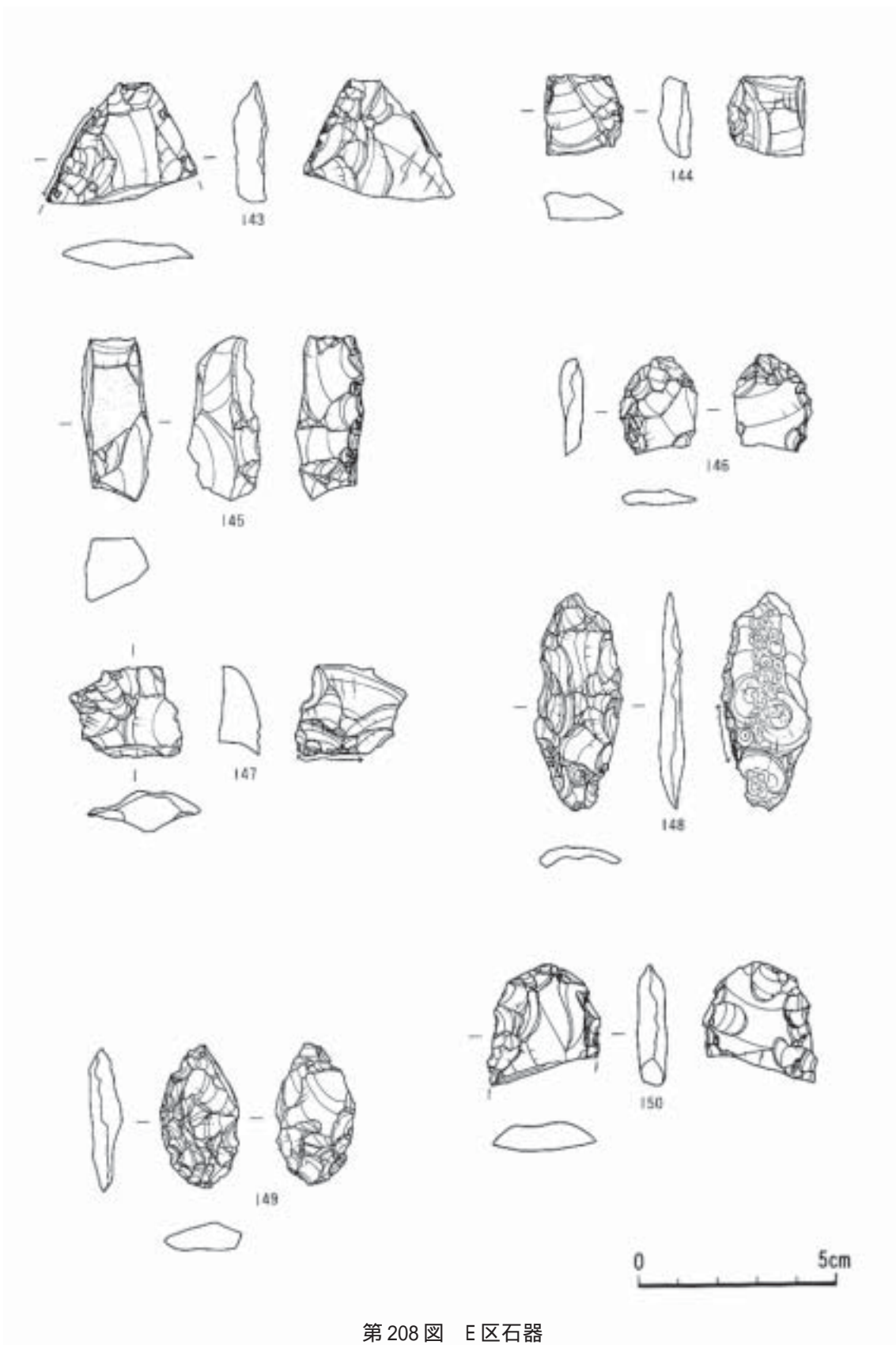
第 205 图 E 区石器



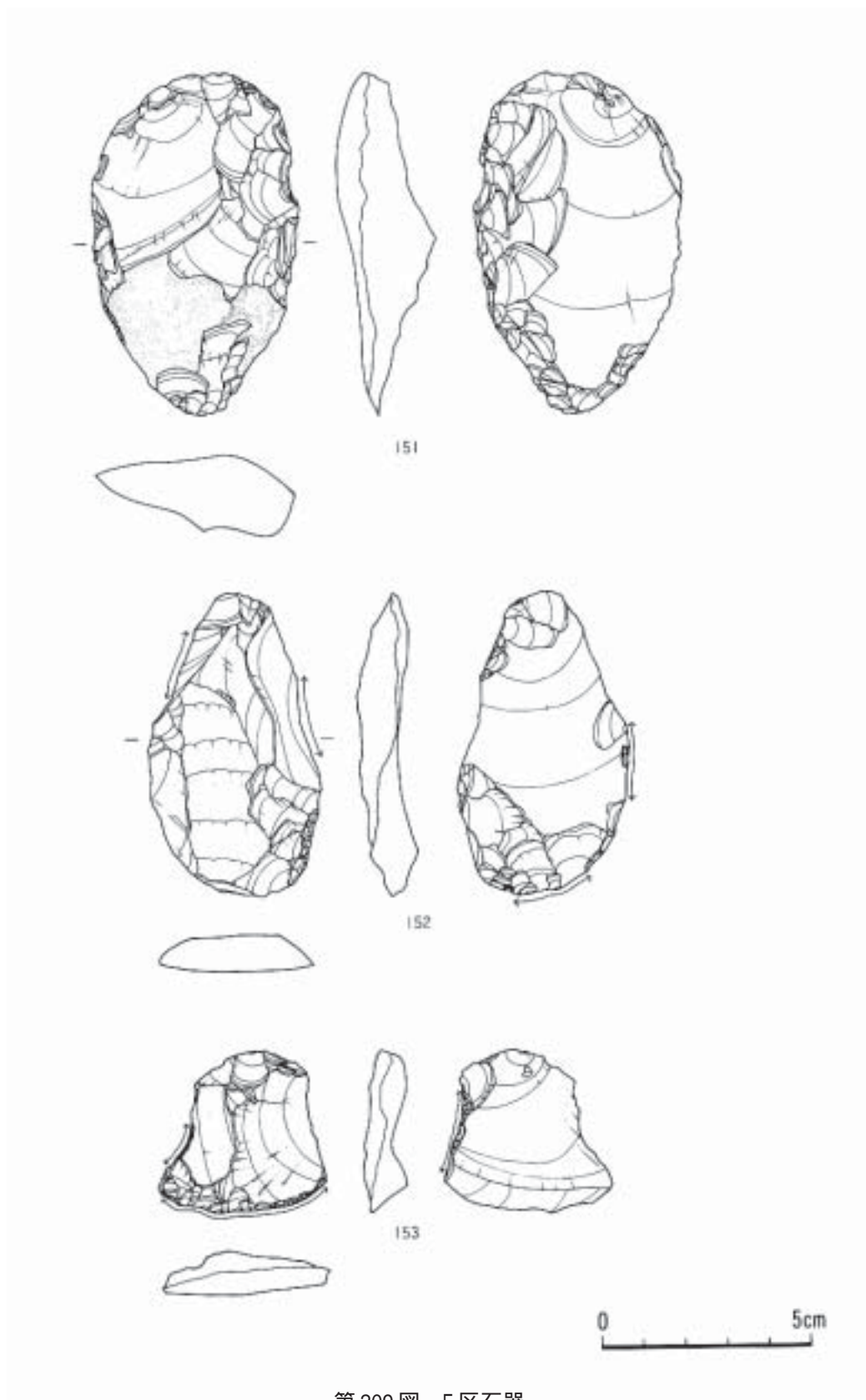
第 206 图 E 区石器



第 207 图 E 区石器



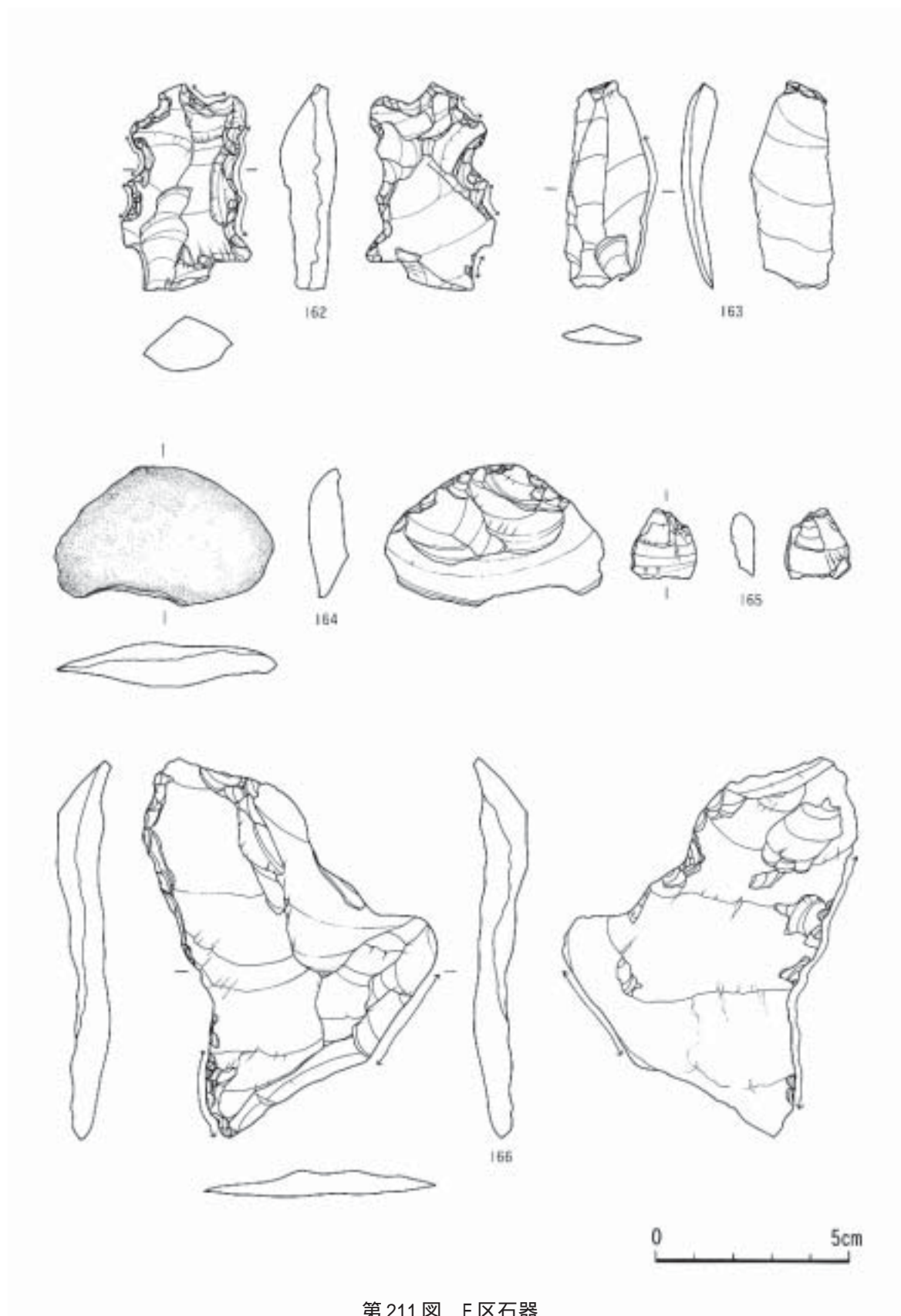
第208图 E区石器



第 209 图 E 区石器



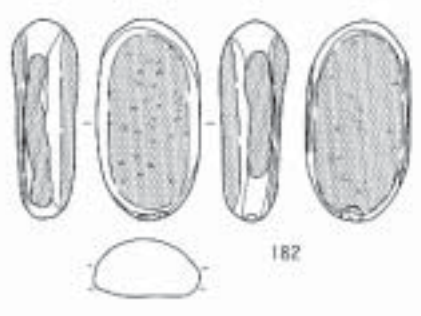
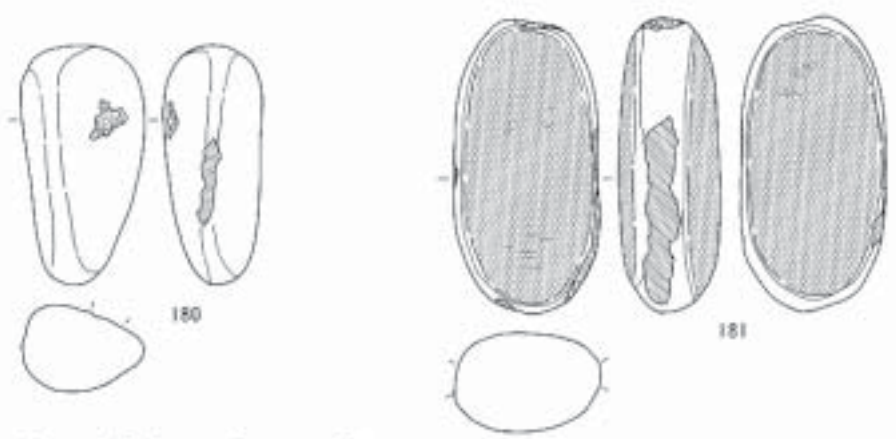
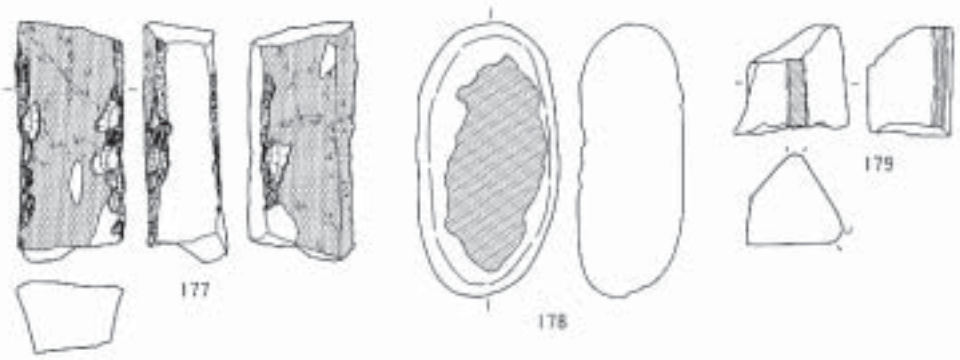
第210图 E区石器



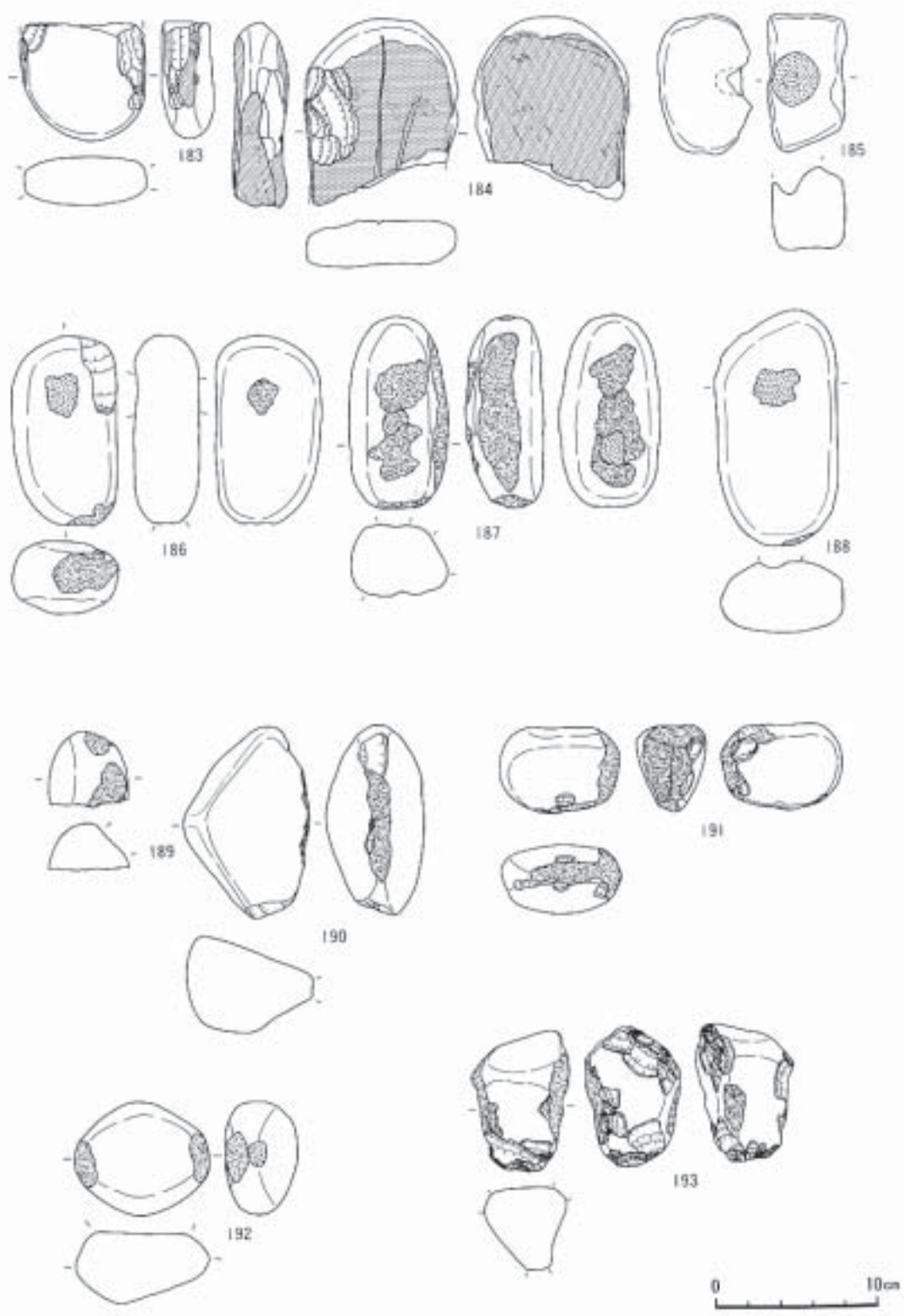
第211图 E区石器



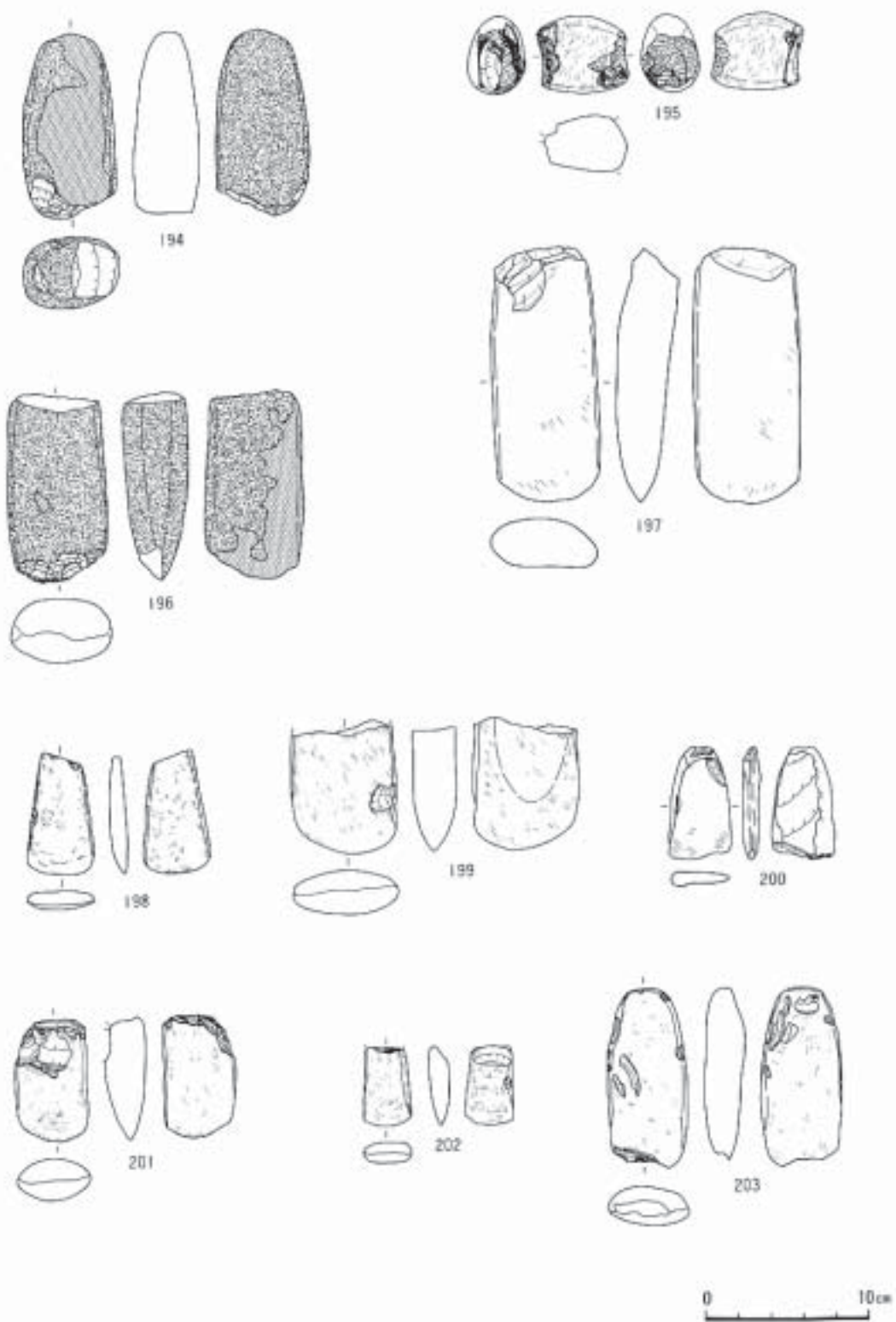
第212图 E区石器



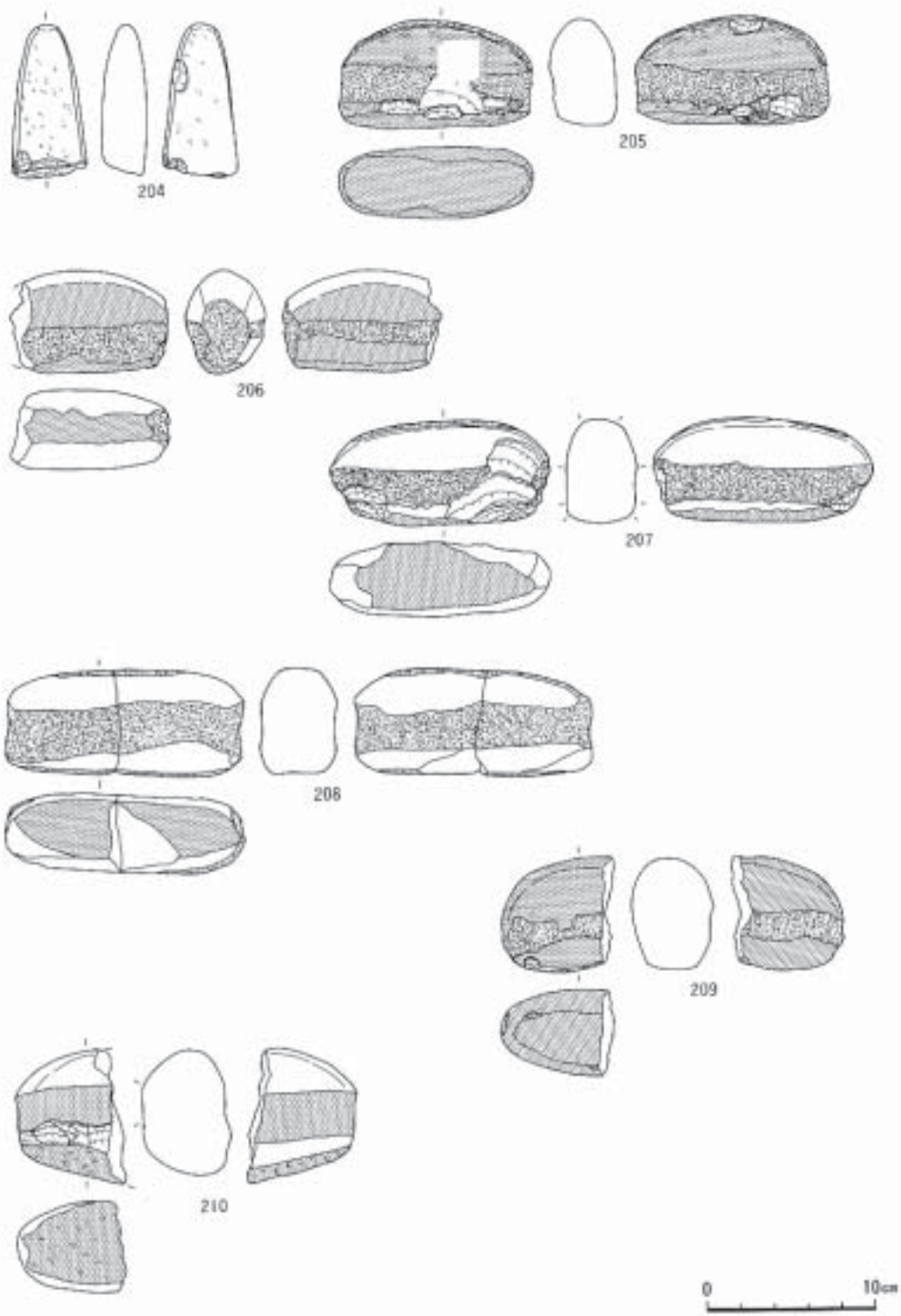
第213图 E区石器



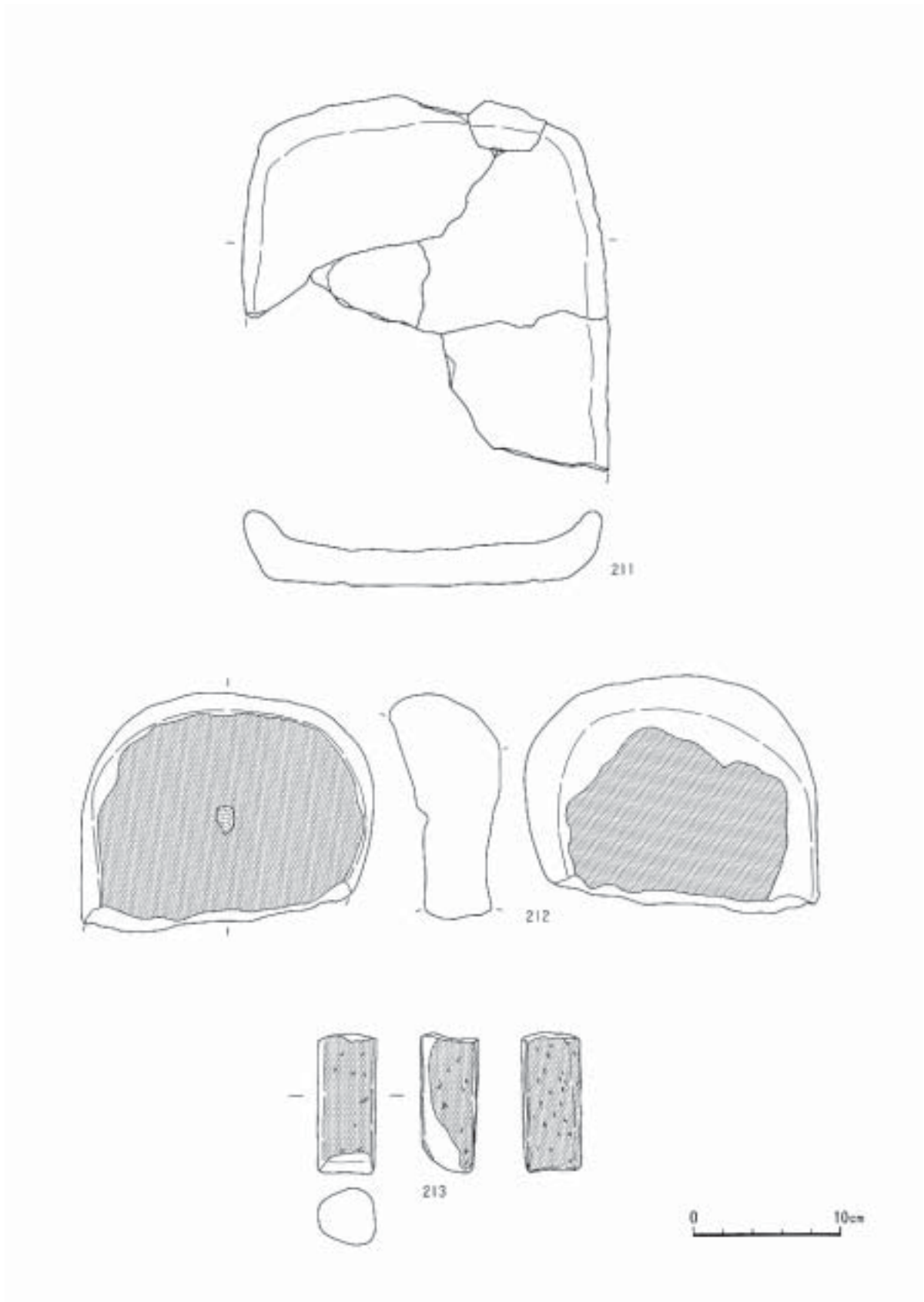
第214图 E区石器



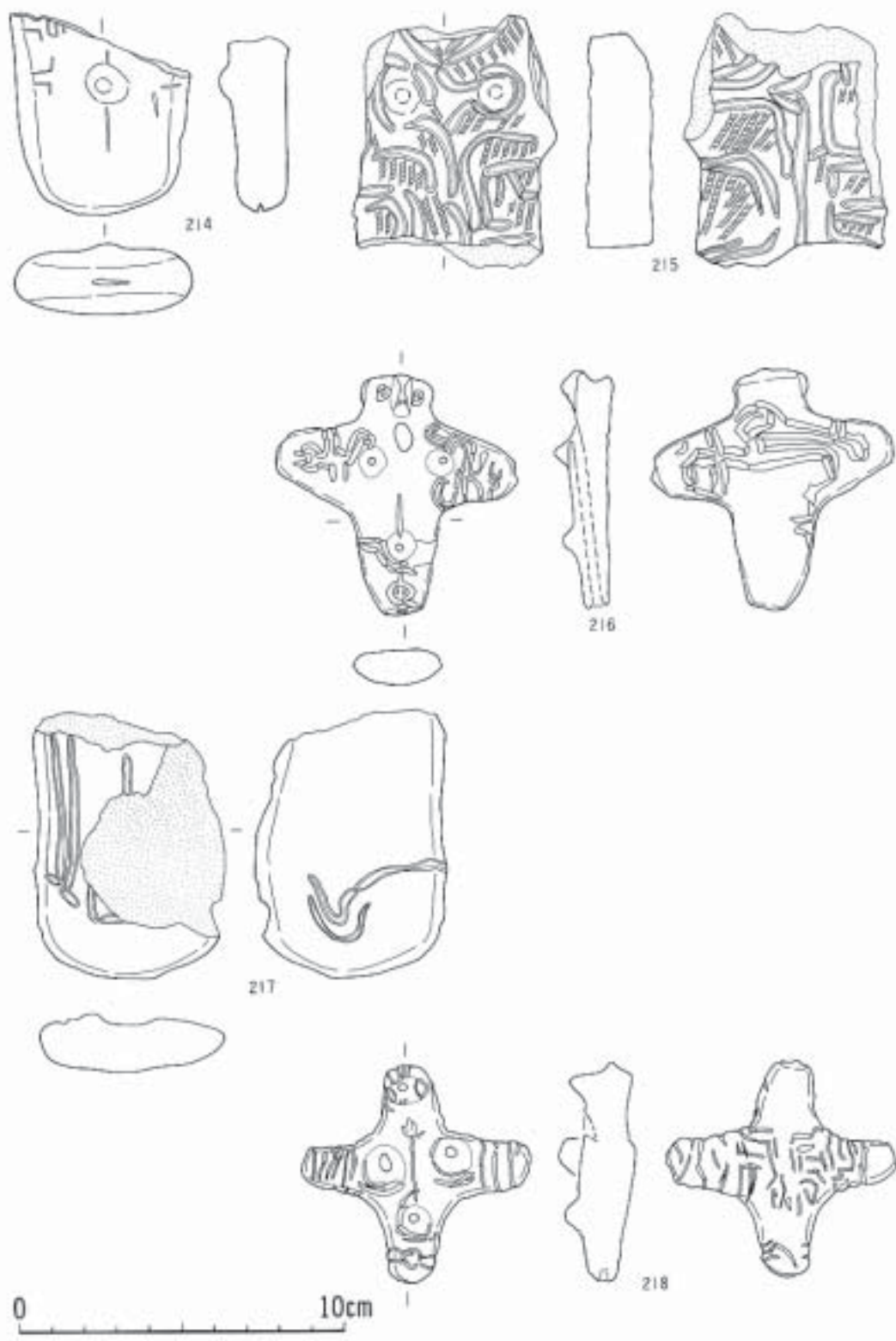
第215图 E区石器



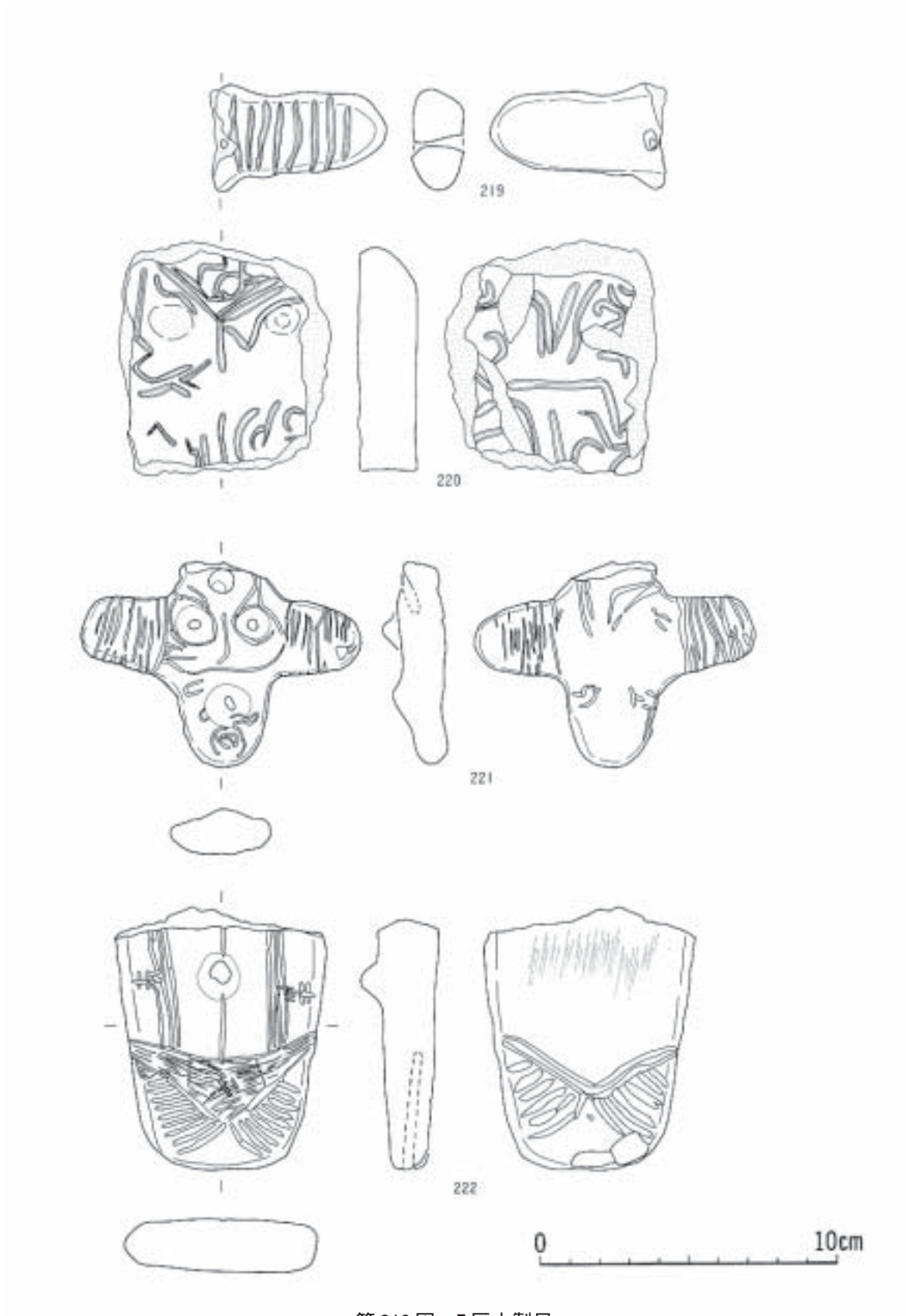
第216图 E区石器



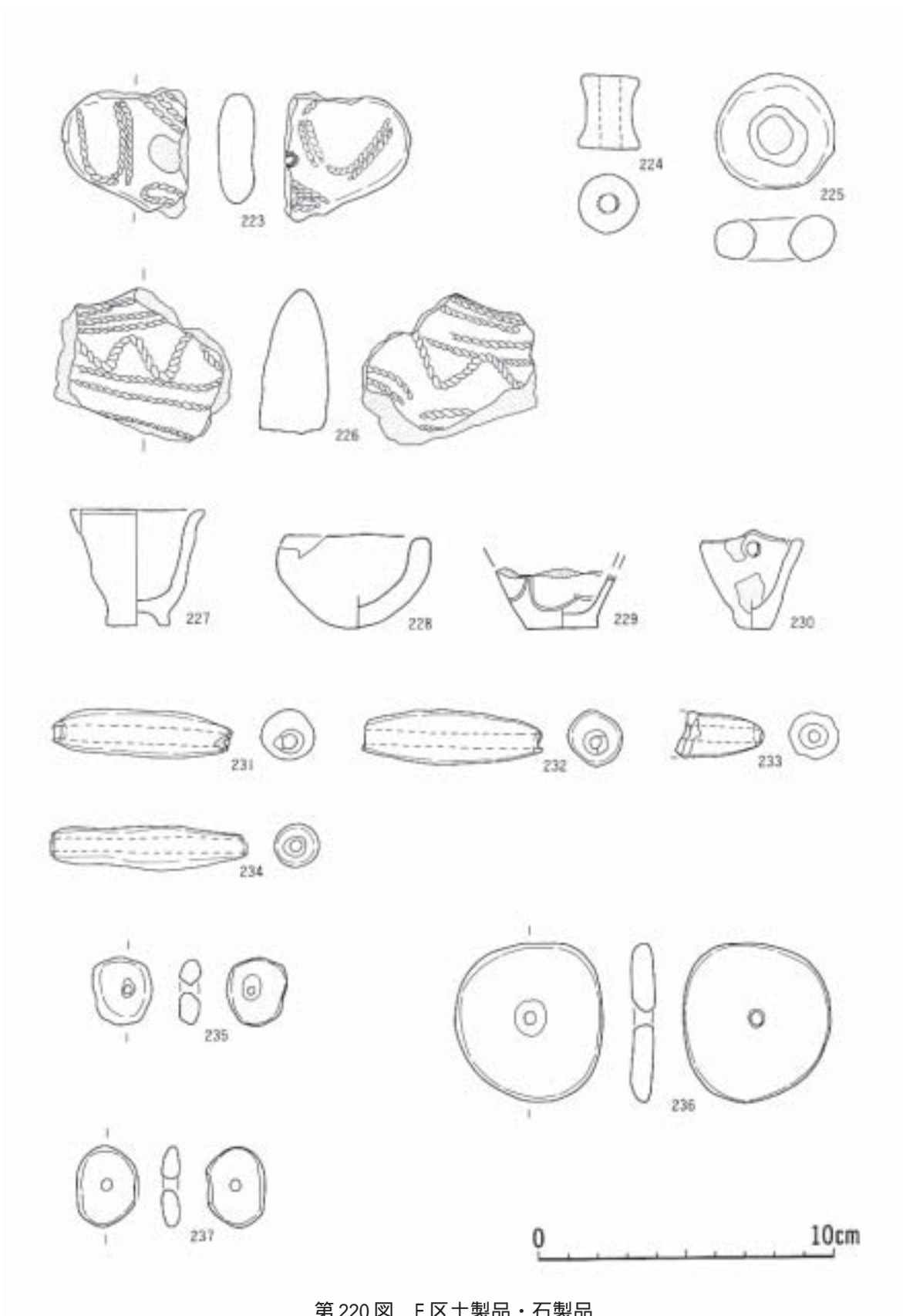
第217图 E区石器



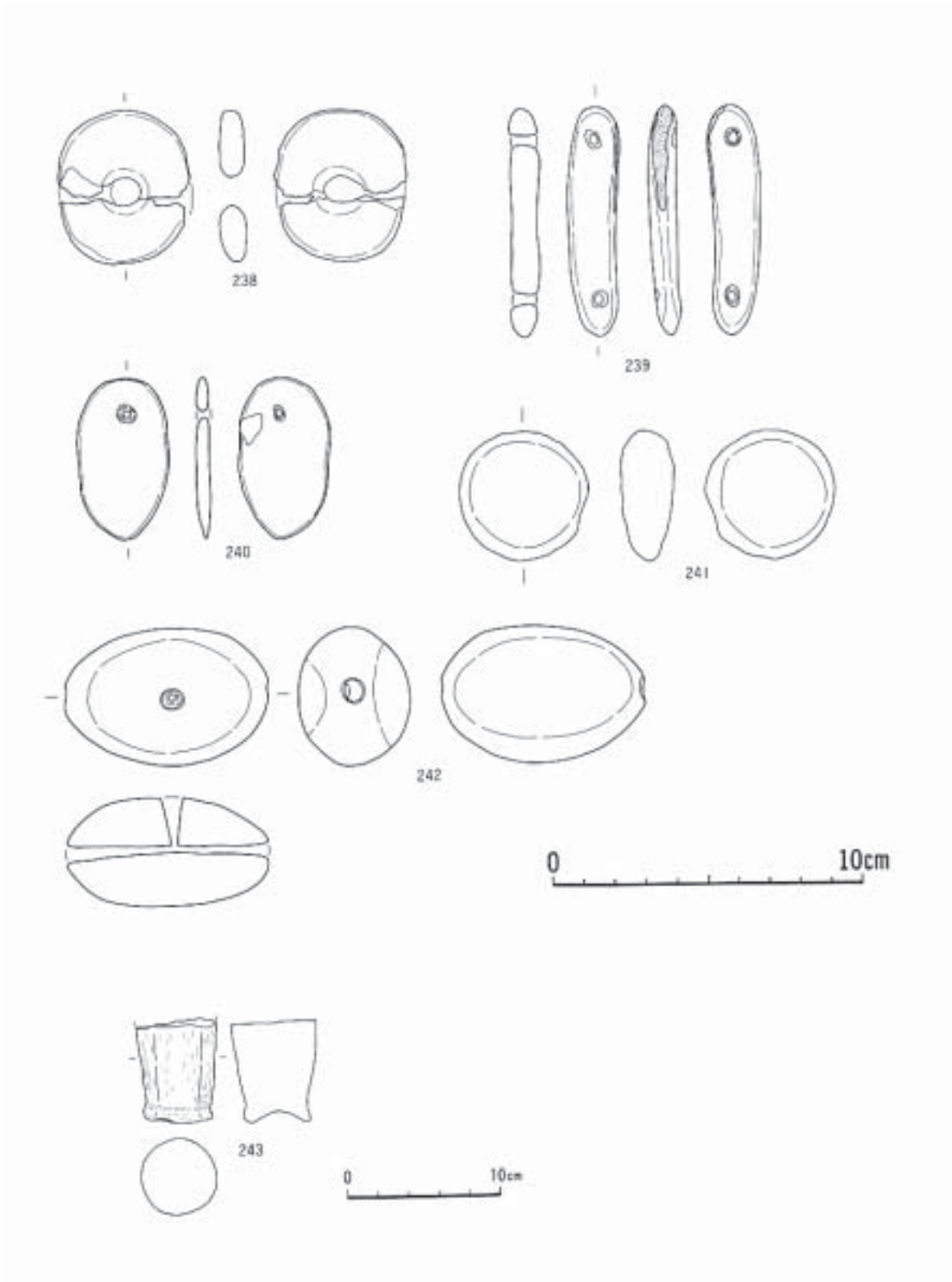
第218图 E区土製品



第219图 E区土製品



第 220 图 E 区土製品・石製品



第221图 E区石製品

A区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第178図-1	1H	覆2	43	39	9	9	7.6	頁	石錐 概報
第 " 図-2	"	Pit2	52	29	13	24	4.7	"	スク3
第 " 図-3	"	覆2	36	34	12	14	4.7	"	"
第 " 図-4	"	"	64	38	16	20	1.1	"	スク4
第 " 図-5	"	"	55	35	14	21	1.8	"	スク1
第179図-6	2H	覆3	34	15	10	3	4	"	石錐
第 " 図-7	"	"	49	36	10	15	3	"	石匙 概報
第 " 図-8	"	"	76	35	16	28	7	"	" "
第 " 図-9	"	"	29	25	11	7	7	"	石匙
第 " 図-10	"	"	79	61	16	47	7	"	スク3
第180図-11	"	"	50	31	13	17	5	"	"
第 " 図-12	D-9	"	30	17	7	1	9	"	石鏃 概報
第 " 図-13	F-9	"	52	19	8	4	3	"	" "
第 " 図-14	D-9	"	63	16	5	3	8	"	" "
第 " 図-15	F-10	"	43	39	14	11	1	"	石錐
第181図-16	"	"	(48)	35	17	16	8	"	石匙
第 " 図-17	E-9	"	53	35	12	15	8	"	"
第 " 図-18	F-9	"	(53)	42	9	14	2	"	"
第 " 図-19	D-7	"	70	50	15	33	4	"	"
第182図-20	E-9	"	77	49	12	25	1	"	"
第 " 図-21	D-8	"	47	25	12	12	3	"	"
第 " 図-22	F-11	"	79	39	14	31	6	"	"
第 " 図-23	E-7	"	57	37	12	16	7	"	石籠 概報
第 " 図-24	F-9	"	57	28	13	14	6	"	"
第183図-25	B-5	"	69	44	14	40	1	"	"
第 " 図-26	F-10	"	44	43	16	23	2	"	スク4
第 " 図-27	"	"	33	42	13	13	0	"	"
第184図-28	1H	覆2	123	59	34	36	8	安	凹石
第 " 図-29	D-7	"	96	93	63	50	2	"	"
第 " 図-30	8土	覆3	(37)	(27)	(17)	24	0	輝凝灰	磨斧
第 " 図-31	G-7	覆2	(116)	53	29	23	7	安	"
第 " 図-32	E-7	"	115	52	28	27	0	"	"
第 " 図-33	D-8	"	98	53	26	18	6	閃緑	"
第 " 図-34	F-8	"	111	26	9	60	1	粘	"
第 " 図-35	E-9	"	117	51	27	23	6	輝凝灰	"

A区(土製品・石製品観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第185図-36	C-10	"	33	(32)	21	14	0	"	耳栓 概報
第 " 図-37	D-7	"	(28)	(28)	(23)	10	0	"	特殊土器
第 " 図-38	E-10	"	49	49	19	40	0	"	土製品
第 " 図-39	D-8	"	227	27	22	15	6	粘	石剣
第 " 図-40	"	"	(368)	28	25	41	9	"	石ノミ
第 " 図-41	"	"	230	38	23	28	4	安	"
第 " 図-42	F-10	"	106	50	24	11	8	"	石製品

D区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第186図-1	6土	覆1	22	21	5	1	5	頁	石鏃
第 " 図-2	"	"	(55)	15	7	4	3	"	"
第 " 図-3	17土	"	45	21	5	3	0	"	" 概報

D区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第186図-4	A-8		45	14	7	3.0	頁	石鏃 概報	
第 " 図-5	E-17	表土	20	12	4	0.6	"	" "	
第 " 図-6	F-20		28	22	12	5.0	"	石槍	
第 " 図-7	G-26	"	72	59	1234	4.7	"	石匙 概報	
第 " 図-8	C-11	"	72	25	1316	.2	"	" "	
第187図-9	E-16		(74)	22	1418	.5	"	"	
第 " 図-10	F-18		(36)	33	1416	.3	"	石篋	
第 " 図-11	B-10	"	67	30	1435	.6	"	"	
第 " 図-12	E-5	"	72	26	1421	.9	"	"	
第 " 図-13	C-7	"	65	36	1715	.1	"	スク4	
第188図-14	I-18	"	50	29	1421	.6	"	スク1	
第 " 図-15	C-13	"	119	48	227	.0	"	"	
第 " 図-16	E-5	"	72	35	1625	.4	"	スク2	
第 " 図-17	"	"	64	43	1720	.7	"	"	
第189図-18	"	"	149	104	3489	.0	安	磨石	
第 " 図-19	I-23	"	143	58	5365	.0	"	敲打痕	
第 " 図-20	H-23	"	194	70	61,2272	.0	"	"	
第 " 図-21	D-10	"	122	73	5573	.0	"	敲打痕	
第 " 図-22	E-7	"	137	75	4359	.0	"	"	
第 " 図-23	F-16	"	(103)	77	2836	.0	凝	"	
第 " 図-24	F-22	"	(132)	74	4145	.0	安	凹石 敲打痕	
第 " 図-25	P-6		82	65	(43)2	.0	"	" "	
第 " 図-26	D-15		95	91	3428	.0	"	" "	
第 " 図-27	F-7・8	"	(91)	59	4222	.0	凝	"	
第190図-28	C-11	"	122	76	1496	.0	安	敲打痕	
第 " 図-29	B-6	"	99	92	6861	.0	"	"	
第 " 図-30	A-7	"	(57)	49	3390	.0	"	敲打痕	
第 " 図-31	D-6		122	62	3134	.0	"	" "	
第 " 図-32	C-6		98	84	3535	.0	"	"	
第 " 図-33	E-4	"	135	59	4739	.0	凝	"	
第 " 図-34	C-6	"	88	80	4533	.0	泥	"	
第 " 図-35	E-8	"	102	73	2524	.0	凝	敲石	
第 " 図-36	D-6	"	110	49	3832	.0	安	"	
第 " 図-37	"	"	(76)	77	3636	.0	凝	"	
第 " 図-38	E-4	"	102	68	2321	.0	安	"	
第191図-39	C-11	"	121	72	4249	.0	"	"	
第 " 図-40	P-14		81	(69)	3329	.0	"	"	
第 " 図-41	D-16		(64)	53	2312	.0	結片	磨斧	
第 " 図-42	E-5	"	123	52	2925	.2	輝凝灰	"	
第 " 図-43	D-6	"	(73)	57	3722	.0	閃	"	
第 " 図-44	D-10	"	(47)	44	1240	.0	頁	"	
第 " 図-45	6土	覆1	(193)	(118)	1252	.0	安	石皿	
第 " 図-46	A-6		(51)	(48)2	862	.0	凝	"	
第 " 図-47	C-7	"	(55)	(48)2	776	.0	"	"	
第 " 図-48	B-6	"	(77)	(76)	(31)1	.0	"	"	
第192図-49	F-22	"	168	126	61,5930	.0	石安	"	
第 " 図-50	F-16	"	126	78	4361	.0	"	"	

D区(土製品・石製品観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第192図-51	F-5		71	58	17	52	.9	土偶 概報	
第 " 図-52	E-6		67	51	28	66	.9	" "	
第 " 図-53	E-7	"	29	29	25	15	.7	有凝石製品	
第 " 図-54	G-28	"	(78)	(62)	(42)			安 石棒 概報	

E区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)			
第193図-1	2H	覆2	3 8	1 8		9 5	2	頁	石鏃
第 " 図-2	"	床直	3 5	1 9		9	5 . 1	"	"
第 " 図-3	"	覆2	4 6	1 6		8	4 . 5	"	"
第 " 図-4	"	"	(3 8)	1 4		9	2 . 7	"	"
第 " 図-5	"	"	3 0	1 2		6	1 . 4	"	"
第 " 図-6	"	"	3 6	1 5		9	3 . 4	"	"
第 " 図-7	6H	"	2 7	1 6		5	1 . 7	"	"
第 " 図-8	"	"	3 0	1 4		1 0	3 . 2	黒曜石	"
第 " 図-9	"	"	(3 8)	1 4		7	2 . 8	頁	"
第 " 図-10	"	覆1	4 2	1 2		8	3 . 7	"	"
第 " 図-11	"	焼土	(3 2)	1 4		7	2 . 5	"	"
第 " 図-12	"	覆2	(3 2)	1 6		8	2 . 3	"	"
第 " 図-13	"	覆4	(2 8)	1 2		7	1 . 9	"	"
第 " 図-14	"	覆3	(3 3)	1 3		5	1 . 7	"	"
第 " 図-15	8H	覆4	3 0	1 3		8	2 . 3	"	"
第194図-16	"	"	2 5	1 1		5	1 . 1	"	"
第 " 図-17	9H	覆2	5 1	7 6		3	1	"	"
第 " 図-18	10H	覆3	4 3	1 5		6	2 . 9	"	"
第 " 図-19	"	Pit4	(2 8)	1 4		7	1 . 9	"	"
第 " 図-20	11H	床直	4 5	1 5		1 1	5 . 2	"	"
第 " 図-21	12H	覆4	(2 3)	1 6		6	1 . 4	"	"
第 " 図-22	"	覆2	3 4	1 6		8	2 . 9	"	"
第 " 図-23	"	"	4 5	1 4		8	3 . 6	"	"
第 " 図-24	"	覆3	(3 5)	1 5		6	3 . 2	"	"
第 " 図-25	"	"	2 5	1 2		5	1 . 0	玉	"
第 " 図-26	"	覆2	3 0	1 4		7	2 . 3	頁	"
第 " 図-27	"	"	3 4	1 5		7	2 . 6	"	"
第 " 図-28	14H	覆3	3 2	1 2		5	1 . 4	"	"
第 " 図-29	17H	覆1	3 2	1 5		7	2 . 3	"	"
第 " 図-30	"	"	3 3	1 3		6	1 . 7	"	"
第195図-31	"	覆3	3 7	1 4		9	3 . 6	"	"
第 " 図-32	"	"	3 3	1 3		7	2 . 6	"	"
第 " 図-33	18H	覆2	3 6	1 2		7	2 . 6	"	"
第 " 図-34	21H	床直	3 1	1 2		7	2 . 3	"	"
第 " 図-35	30H	覆2	2 6	1 4		8	2 . 9	"	"
第 " 図-36	"	床直	3 7	1 2		7	2 . 4	"	"
第 " 図-37	"	"	4 1	1 5		7	2 . 8	"	"
第 " 図-38	35H	覆3	3 9	1 4		6	2 . 9	"	"
第 " 図-39	"	"	3 6	1 5		9	2 . 8	"	"
第 " 図-40	"	覆1	3 0	1 3		9	3 . 2	"	"
第 " 図-41	41H	"	4 8	1 2		7	3 . 1	"	"
第 " 図-42	44H	覆4	(4 3)	1 5		7	3 . 1	"	"
第 " 図-43	47H	覆1	4 3	1 4		9	3 . 9	"	"
第 " 図-44	"	"	(3 2)	1 1		6	2 . 1	"	"
第 " 図-45	26土	覆2	3 4	1 2		8	2 . 9	"	"
第196図-46	27土	床直	(3 1)	(1 3)		8	1 . 4	"	"
第 " 図-47	31土	覆1	(2 8)	1 4		7	2 . 2	"	"
第 " 図-48	44土	"	2 8	1 2		5	1 . 2	"	"
第 " 図-49	95土	覆2	3 5	1 6		5	3 . 2	"	"
第 " 図-50	112土	覆3	4 8	1 4		7	3 . 7	"	"
第 " 図-51	"	"	4 5	1 5		7	3 . 7	"	"
第 " 図-52	140土	"	(3 4)	1 3		6	2 . 0	"	"
第 " 図-53	"	"	(3 3)	1 2		7	2 . 6	"	"
第 " 図-54	146土	覆2	4 1	1 5		6	2 . 4	"	"
第 " 図-55	145土	覆1	4 0	2 3		1 0	6 . 8	"	"
第 " 図-56	146土	覆3	(3 7)	1 3		7	2 . 6	"	"
第 " 図-57	149土	覆7	4 9	1 3		8	3 . 4	"	"

E区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第196図 - 58	154土	覆3	2 8	1 1	5 1	5 1	5	真石鏃	
第 " 図 - 59	187土	覆7	2 9	1 7	8 3	1	"	"	
第197図 - 60	"	覆9	2 9	1 2	5 1	4	"	"	
第 " 図 - 61	188土	覆6	3 6	1 3	7 2	5	"	"	
第 " 図 - 62	196土	覆2	3 4	1 6	7 2	6	"	"	
第 " 図 - 63	198土	覆6	(4 6)	1 5	6	3	0	"	
第 " 図 - 64	218土	覆4	3 7	1 9	1 0 4	3	"	"	
第 " 図 - 65	279土	覆1	3 5	1 3	7 2	1	"	"	
第 " 図 - 66	222土	覆4	4 4	1 9	8 4	1	"	"	
第 " 図 - 67	265土	Pit	4 7	1 6	5 3	0	"	"	
第 " 図 - 68	303土	覆4	3 0	1 4	6 2	2	"	"	
第 " 図 - 69	304土	覆1	(4 9)	1 5	8	4	1	"	
第 " 図 - 70	306土	覆2	(3 5)	1 4	7	3	3	"	
第 " 図 - 71	"	覆5	4 6	1 3	8 3	7	"	"	
第198図 - 72	"	覆2	3 8	1 3	7 2	6	"	"	
第 " 図 - 73	308土	覆3	3 5	1 4	6 2	3	"	"	
第 " 図 - 74	310土	覆2	(2 2)	1 0	5	0	7	"	
第 " 図 - 75	377土	"	3 2	1 2	5 1	7	"	"	
第 " 図 - 76	1円	覆4	3 5	1 1	3 1	6	"	"	
第 " 図 - 77	2円	覆6	3 2	1 4	6 2	1	"	"	
第 " 図 - 78	"	覆4	(4 2)	1 4	6	2	7	"	
第 " 図 - 79	"	"	(2 6)	1 8	4	1	9	"	
第 " 図 - 80	"	"	(4 1)	1 1	6	2	6	"	
第 " 図 - 81	I - 71		2 9	1 4	7 1	9	"	"	
第 " 図 - 82	L - 71		(2 9)	1 1	5	1	8	"	
第 " 図 - 83	M - 81	"	2 9	1 4	4 1	7	"	"	
第 " 図 - 84	"	"	4 0	1 4	6 2	8	"	"	
第 " 図 - 85	"	"	(3 8)	1 5	5	2	2	"	
第 " 図 - 86	"	"	3 6	1 4	6 3	1	"	"	
第199図 - 87	"		3 6	1 4	6 1	9	"	"	
第 " 図 - 88	"		3 0	1 7	4 1	2	"	"	
第 " 図 - 89	M - 84		(4 4)	1 8	7 3	5	"	"	
第 " 図 - 90	N - 84	"	(4 4)	1 6	6	3	2	"	
第 " 図 - 91	L - 88		4 0	1 2	7 3	1	"	"	
第 " 図 - 92	I - 93		2 9	1 4	4 1	0	"	"	
第 " 図 - 93	I - 97	"	4 0	1 3	8 2	3	"	"	
第 " 図 - 94	M - 99	"	(4 7)	1 4	6	3	9	"	
第 " 図 - 95	"	"	4 0	1 6	7 2	1	"	"	
第 " 図 - 96	"	"	(3 1)	1 4	7	2	1	"	
第 " 図 - 97	"	"	2 8	1 4	5 1	8	"	"	
第 " 図 - 98	N - 99	"	3 7	1 6	8 4	3	"	"	
第 " 図 - 99	"	"	3 0	1 6	7 1	9	"	"	
第 " 図 - 100	L - 104	"	4 3	1 6	8 3	5	"	"	
第200図 - 101	L - 105	"	(4 1)	(1 3)	9	4	0	"	
第 " 図 - 102	M - 105	"	3 2	1 5	6 1	8	"	"	
第 " 図 - 103	M - 107	"	(3 8)	1 4	9	3	8	"	
第 " 図 - 104	L - 58	"	5 1	1 8	1 0	7	5	" 概報	
第 " 図 - 105	2H	覆2	6 7	2 8	1 0	6	1	" 石槍	
第 " 図 - 106	"	"	8 5	2 7	1 8	3	3	5	
第201図 - 107	6H	"	4 5	1 6	9 5	7	"	"	
第 " 図 - 108	"	"	5 1	1 9	1 1	7	4	"	
第 " 図 - 109	"	"	8 5	1 9	1 1	1	7	0	
第 " 図 - 110	10H	覆5	8 5	2 4	1 5	2	3	6	
第 " 図 - 111	8H	覆4	(4 0)	2 1	1 0	7	6	"	
第 " 図 - 112	12H	覆1	4 4	1 9	9	6	0	"	
第 " 図 - 113	14H	覆3	7 8	2 5	1 0	9	0	"	
第202図 - 114	48H	覆2	6 6	2 2	1 0	1	3	2	

E区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第202図 - 115	179土	覆4	67	26	13	16	.8	頁	石槍
第 " 図 - 116	187土	覆5	49	21	9	6	.4	"	"
第 " 図 - 117	302土	覆3	(37)	25	8		6.2	"	"
第 " 図 - 118	306土	覆5	(33)	19	9		5.8	"	"
第 " 図 - 119	I - 81		(69)	24	17	21	.7	"	"
第203図 - 120	O - 101	"	65	25	10	13	.3	"	"
第 " 図 - 121	K - 100	"	45	25	9	7	.1	"	石錐
第 " 図 - 122	304土	床直	31	12	8	2	.7	"	"
第 " 図 - 123	18H	覆1	81	35	10	22	.9	"	石匙
第 " 図 - 124	302土	覆4	39	19	7	3	.1	"	"
第 " 図 - 125	N - 117		65	39	15	24	.6	"	"
第 " 図 - 126	K - 84		67	27	8	11	.0	"	"
第204図 - 127	306土	覆2	63	34	10	16	.7	"	"
第 " 図 - 128	10H	覆3	68	29	13	24	.2	"	石籠
第 " 図 - 129	12H	覆1	67	32	18	29	.6	"	"
第 " 図 - 130	305土	覆3	78	34	14	41	.8	"	"
第 " 図 - 131	306土	覆5	72	26	17	29	.9	"	"
第205図 - 132	K - 74		75	31	16	40	.2	"	概報
第 " 図 - 133	2円	覆4	67	25	16	23	.5	"	"
第 " 図 - 134	306土	覆5	105	42	30	94	.2	"	"
第206図 - 135	2H	覆2	60	34	11	20	.3	"	スライパ-
第 " 図 - 136	"	"	60	36	18	28	.5	"	"
第 " 図 - 137	"	"	59	34	13	19	.5	"	"
第 " 図 - 138	"	"	63	31	19	26	.3	"	"
第207図 - 139	"	"	39	29	15	14	.0	"	"
第 " 図 - 140	187土	覆8	59	44	18	38	.5	"	"
第 " 図 - 141	307土	"	70	32	16	30	.4	"	"
第 " 図 - 142	2H	覆2	89	53	23	96	.7	"	"
第208図 - 143	"	"	(39)	(31)	8	7	.7	"	"
第 " 図 - 144	"	"	20	20	8	3	.9	"	"
第 " 図 - 145	"	"	42	18	19	14	.8	"	"
第 " 図 - 146	"	"	25	20	6	2	.7	"	"
第 " 図 - 147	"	"	28	23	10	5	.6	"	"
第 " 図 - 148	9H	Pit1	55	22	(7)	4	.5	"	焼けハジケ
第 " 図 - 149	12H	床直	36	20	8	5	.0	"	"
第 " 図 - 150	2円	覆5	(30)	28	8	7	.1	"	"
第209図 - 151	306土	"	82	50	24	66	.6	"	"
第 " 図 - 152	2円	"	75	42	14	32	.4	"	"
第 " 図 - 153	2H	覆2	41	39	11	9	.6	"	"
第210図 - 154	"	"	27	19	7	2	.8	"	"
第 " 図 - 155	"	"	38	21	10	2	.9	"	"
第 " 図 - 156	201土	覆3	39	18	10	5	.4	"	"
第 " 図 - 157	2円	覆6	27	20	8	2	.9	"	"
第 " 図 - 158	2H	覆2	26	21	6	1	.4	"	"
第 " 図 - 159	324土	覆1	56	28	15	21	.2	"	"
第 " 図 - 160	2円	覆4	41	20	5	2	.8	"	"
第 " 図 - 161	326土	覆2	75	48	19	62	.9	"	"
第211図 - 162	M - 81		54	34	15	21	.1	"	異形石器
第 " 図 - 163	2H	覆2	54	22	9	5	.1	"	Uフレ
第 " 図 - 164	"	"	57	37	12	19	.7	"	Rフレ
第 " 図 - 165	48H	"	18	17	6	1	.7	黒曜石	Uフレ
第 " 図 - 166	306土	覆5	98	77	14	60	.6	"	"
第212図 - 167	30H	床直	27	16	6	2	.9	"	フレイク
第 " 図 - 168	"	"	29	26	6	2	.9	"	"
第 " 図 - 169	48H	覆2	20	14	5	0	.7	"	"
第 " 図 - 170	322土	覆5	26	18	12	5	.0	"	"
第 " 図 - 171	371土	覆3	25	11	5	1	.7	"	"

E区(石器観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第212図 - 172	377土	覆2	2 6	2	2	4 1	6 黒曜石	フレイク	
第 " 図 - 173	2円	覆4	2 1	1 2		7 1	. 1	"	"
第 " 図 - 174	"	覆6	1 5	1 4		4 0	. 9	"	"
第213図 - 175	2H	覆2	(1 2 4)	6 1		4 4 3 4	0 . 0	安	磨石
第 " 図 - 176	"	"	(8 3)	7 3		4 2 3 3	8 . 0	"	"
第 " 図 - 177	18H	"	1 2 9	4 8		4 4 4 7 2	. 0	"	"
第 " 図 - 178	24H	覆4	1 4 4	7 6		5 6 8 3 2	. 0	"	"
第 " 図 - 179	30H	床直	(6 0)	(5 8)		4 4 5 4	8 . 0	"	"
第 " 図 - 180	"	覆2	1 2 7	6 6		5 2 1 5 6	. 0	"	" 敲打痕
第 " 図 - 181	305土	覆1	1 5 4	7 7		5 4 1,0 4 8	. 0	"	"
第 " 図 - 182	"	覆5	1 0 3	5 5		3 5 2 7 0	. 0	石安	"
第214図 - 183	306土	覆3	7 8	(7 5)		3 2 3 0 4	. 0	安	"
第 " 図 - 184	1円	覆4	(1 1 6)	9 7		3 5 3 2 8	. 0	凝	"
第 " 図 - 185	2H	覆2	8 9	5 9		5 1 1 1 1	8 . 0	"	凹石
第 " 図 - 186	5H	床直	1 2 0	6 6		4 6 4 6 2	. 0	安	" 敲打痕
第 " 図 - 187	"	"	1 2 2	6 2		5 0 4 8 6	. 0	"	" "
第 " 図 - 188	24H	覆3	1 4 9	7 7		4 4 7 5 0	. 0	"	"
第 " 図 - 189	2H	覆2	5 0	(4 9)		3 8 6	. 0	石安	敲石
第 " 図 - 190	5H	覆7	1 3 1	7 2		6 2 6 3 0	. 0	安	"
第 " 図 - 191	12H	覆4	7 5	5 5		4 4 2 5 4	. 0	頁	"
第 " 図 - 192	17H	覆3	8 4	7 2		4 5 3 4 2	. 0	凝	"
第 " 図 - 193	18H	床直	8 8	6 1		5 9 2 6 0	. 0	"	"
第215図 - 194	22H	"	1 1 7	5 9		3 9 4 5 0	. 0	"	磨石
第 " 図 - 195	325土	覆1	5 7	4 9		3 7 1 3 4	. 0	頁	敲石
第 " 図 - 196	35H	覆4	(1 1 9)	6 1		4 0 4 4 6	. 0	安	磨斧
第 " 図 - 197	63土	覆1	1 6 0	6 8		3 3 5 6 2	. 0	"	"
第 " 図 - 198	112土	覆3	7 5	4 2		1 2 5 4	. 0	頁	"
第 " 図 - 199	306土	"	8 4	6 5		2 7 2 5 8	. 0	玄	"
第 " 図 - 200	308土	"	(7 1)	3 9		1 1 4 4	. 1	頁	"
第 " 図 - 201	M - 81	"	7 7	4 5		2 7 1 4 2	. 0	"	"
第 " 図 - 202	J - 83	"	4 5	3 0		1 3 3 3	. 1	"	"
第 " 図 - 203	N - 102	"	1 0 9	5 0		2 5 2 4 4	. 0	"	"
第216図 - 204	L - 111	"	9 2	4 5		2 7 1 7 0	. 0	安	"
第 " 図 - 205	12H	覆1	1 1 7	6 6		7 2 5 5 6	. 0	凝	石冠
第 " 図 - 206	22H	床直	(9 5)	6 2		4 8 4 0 4	. 0	安	"
第 " 図 - 207	26土	覆1	1 3 2	6 2		4 4 5 7 8	. 0	"	"
第 " 図 - 208	305土	覆3	1 3 9	6 2		4 3 7 2 2	. 0	"	"
第 " 図 - 209	306土	"	(6 9)	6 9		5 1 3 4 3	. 7	"	"
第 " 図 - 210	J - 123	"	(6 7)	8 1		5 4 3 7 2	. 0	"	"
第217図 - 211	213土	覆6	2 6 0	2 5 2		5 2 1,6 0 2	. 0	溶凝	石皿
第 " 図 - 212	305土	覆3	2 0 3	1 6 4		7 7 1,0 4 8	. 0	安	"
第 " 図 - 213	41H	"	(9 7)	4 1		4 0 2 6 2	. 0	"	砥石

E区(土製品観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第218図 - 214	6H	覆4	6 3	5 5	2 1	6 3	. 1		土偶
第 " 図 - 215	35H	"	7 9	6 3	2 1	1 2	0 . 5		"
第 " 図 - 216	112土	覆5	7 5	7 5	1 7	3 8	. 8		"
第 " 図 - 217	"	"	8 2	5 9	1 9	9 3	. 0		"
第 " 図 - 218	"	"	7 1	6 8	2 2	3 7	. 1		"
第219図 - 219	51H	覆2	3 7	6 0	1 8	3 4	. 8		"
第 " 図 - 220	I - 80	"	7 1	9 6	2 2	1 4	7 . 1		"
第 " 図 - 221	J - 106	"	8 1	7 3	2 1	7 2	. 6		"
第 " 図 - 222	K - 83	"	8 9	7 3	2 7	1 4	3 . 5		"

E区(土製品・石製品観察表)

図版番号	出土地点	層位	最大計測値				石質	分類	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)			
第220図 - 223	M - 110		4 5	4 3	1 3	2 8	. 5		土偶
第 " 図 - 224	27土	覆2	2 6	2 2	2 1	1 0	. 1		土製品
第 " 図 - 225	147土	"	4 1	4 0	1 6	1 2	. 5		"
第 " 図 - 226	J - 124		6 0	5 3	2 4	6 8	. 1		土偶
第 " 図 - 227	266土	覆2	4 0	4 6	2 1	1 2	. 0		特殊土器
第 " 図 - 228	267土	"	3 3	5 3	3 3	9	. 3		"
第 " 図 - 229	2円	覆6	2 1	4 2	2 4	1 2	. 0		"
第 " 図 - 230	L - 87		3 4	3 4	1 1	1 3	. 6		"
第 " 図 - 231	43H	覆3	6 2	1 7	1 7	1 6	. 2		土錘
第 " 図 - 232	L - 114		6 2	1 9	1 9	1 7	. 7		"
第 " 図 - 233	K - 115	"	(3 0)	1 6	1 6	5	. 7		"
第 " 図 - 234	L - 114	"	6 8	1 5	1 5	1 3	. 4		"
第 " 図 - 235	6H	覆1	2 4	2 4	7	2	. 4	安	石製品
第 " 図 - 236	27土	覆8	5 4	5 1	8	2 3	. 7	凝	"
第 " 図 - 237	222土	覆4	2 7	2 1	6	2	. 7	"	"
第221図 - 238	M - 81		5 0	4 4	9	1 7	. 2	安	"
第 " 図 - 239	26H	覆3	7 6	1 8	9	1 2	. 9	凝	"
第 " 図 - 240	268土	覆2	5 3	3 0	5	8	. 8	"	"
第 " 図 - 241	N - 99		4 3	4 3	1 8	9	. 5	軽石	"
第 " 図 - 242	212土	覆6	6 7	4 5	3 6	1 1	5 . 4	凝	"
第 " 図 - 243	2H	覆2	(6 8)	5 4	5 0	2 6	7 . 6	安	石棒

歴史時代

(1) 土師器

本遺跡においては、平安時代の竪穴住居跡が11軒検出された。1軒は張り床面のみの確認であったため遺物は出土しなかったが、それ以外の竪穴住居跡からは土師器は出土した。完形での出土は1点もなく、復原して完形となったものである。完形となった土師器のほとんどは、住居跡からの出土である。また、遺構外においてもその量はそれほど多くもなく、そのほとんどが破片での出土であった。器形は甕が最も多く、次に坏が続き、そのほかには、小型土器が出土した。

坏（第222・224・225図）

製作に際し、いずれもロク口を使用している。切り離し方法は、すべて回転糸切りである。

甕（第222～226図）

製作に際してロク口を使用していないものを（ 類）、製作に際してロク口を使用しているものを（ 類）に分けた。口縁部が「く」の字状に外反するもので、器高の大きいもの（21cm以上）をa類と、中ぐらいのもの（18～21cm）をb類と、小さいもの（18cm以下）をc類とした。

小型土器（第222・225・226図）

坏以外の器高が10cm以下のものを小型土器とした。

壺（第226図）

完形の双耳壺が、269土の覆土中より出土した。

(2) 須恵器

本遺跡において須恵器は、平安時代の竪穴住居跡やその近くで破片で出土した。そのうち竪穴住居跡から出土したものを中心に、復原できたものは6個体である。そのいずれもが坏である。完形にはならなかったものの、甕や大甕の破片も出土した。

坏 (第226図)

41号住居跡の覆土2層から1点出土した。ロクロ使用により成形され、底部は回転糸切りである。43号住居跡の床直から1点と覆土3層から2点の3点出土した。3点ともロクロを使用し、底部は回転糸切りである。2号円形周溝の周溝内の覆土4層から1点出土した。ロクロ使用で底部が回転糸切りである。5H近くの遺構外から1点出土した。ロクロ使用で、底部は静止糸切りである。

甕

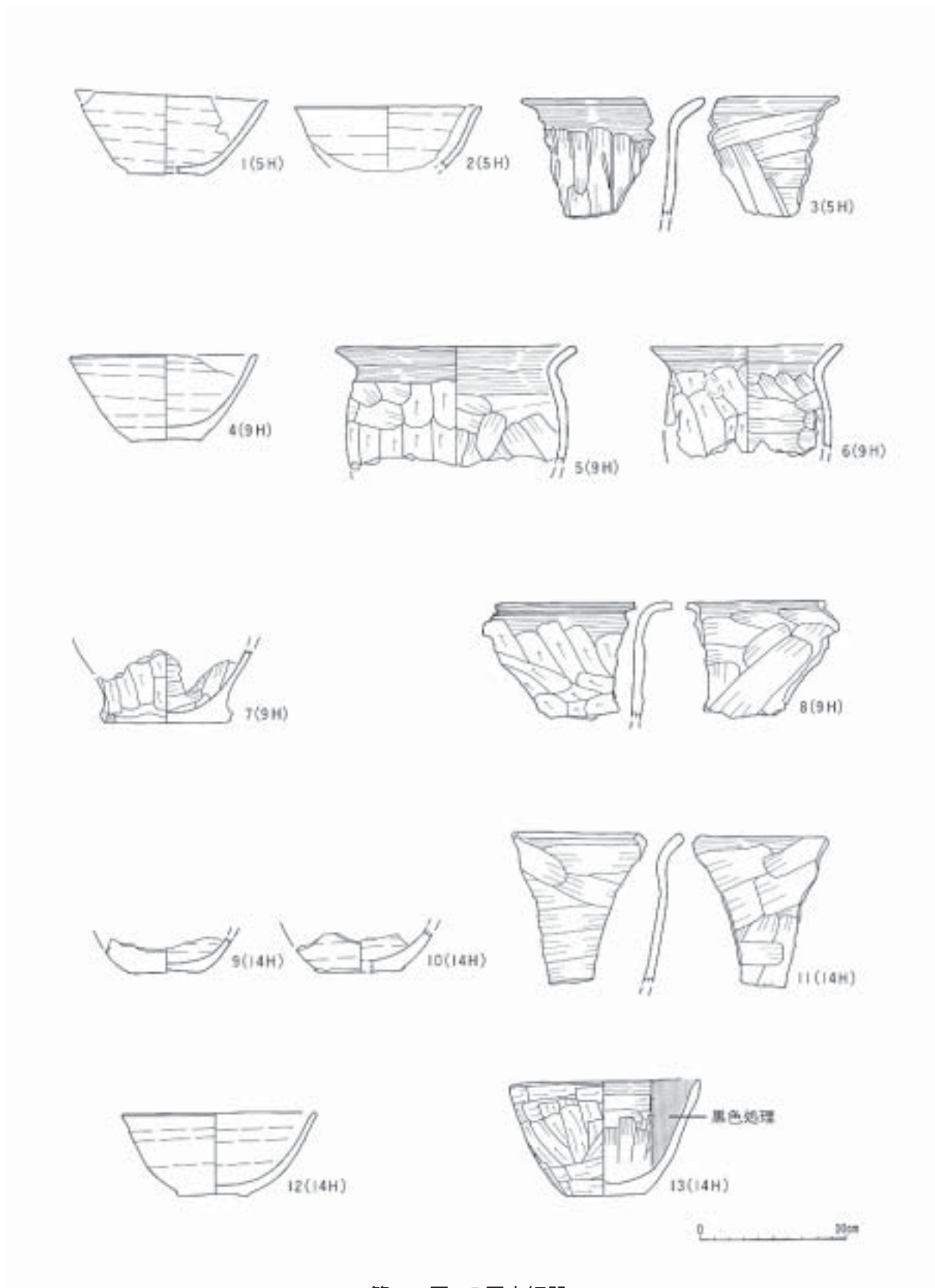
甕は、破片としては各住居跡及び遺構外から出土した。

大甕

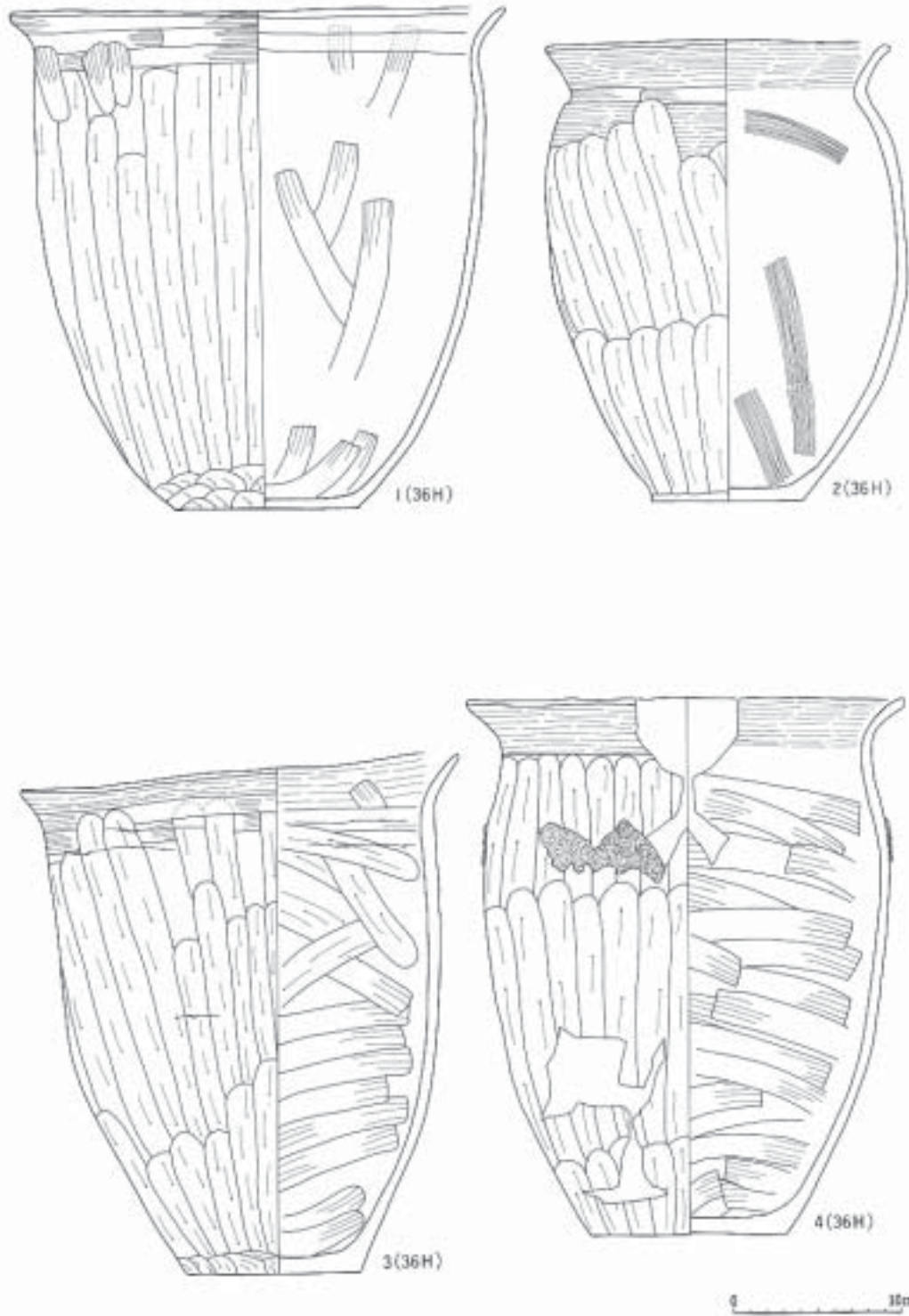
大甕は、破片としては各住居跡及び遺構外から出土した。

擦文土器 (第225図)

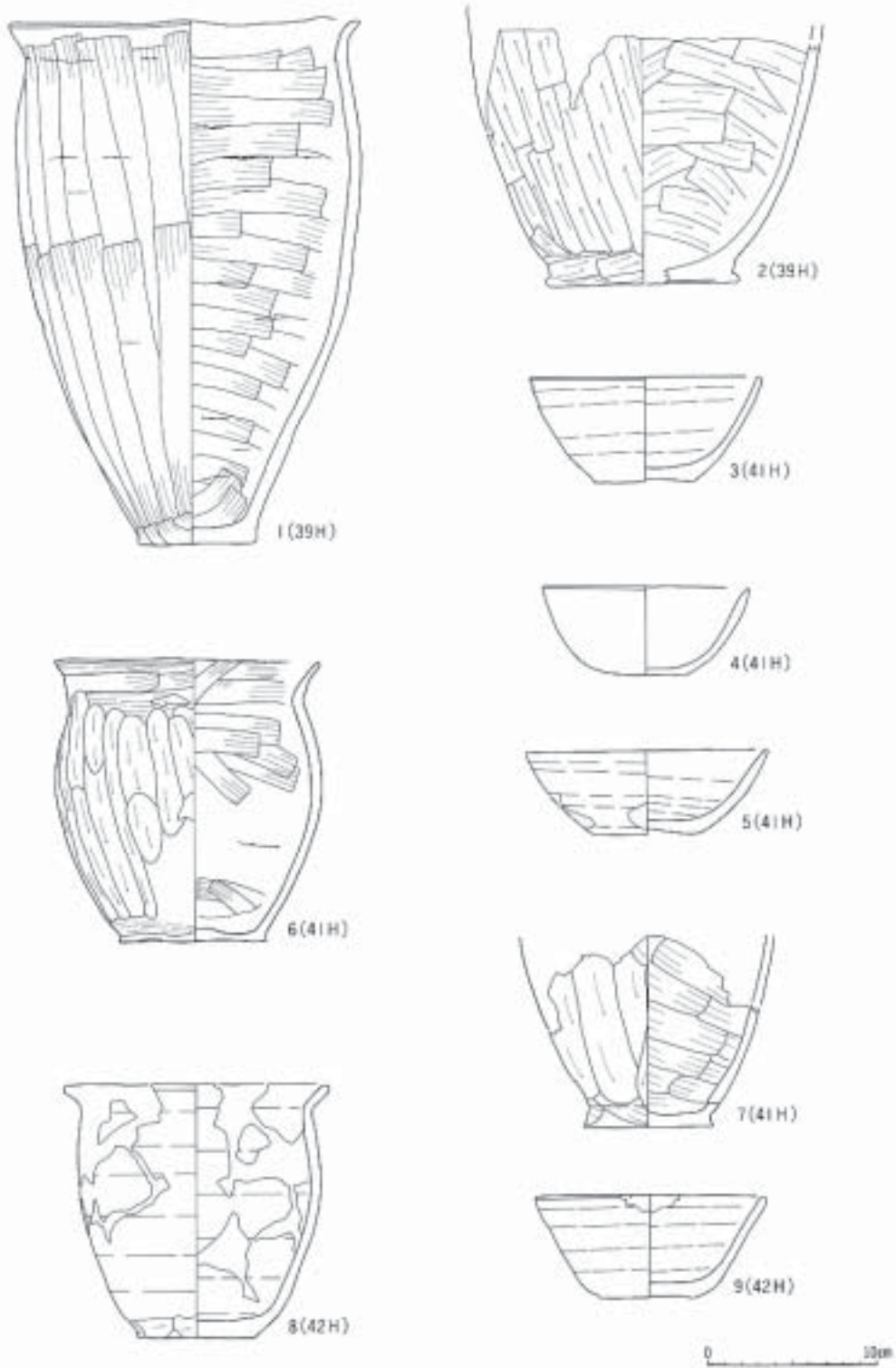
第43号住居跡から、口縁部の破片が出土した。頸部に横走る沈線の上に、交叉状文がみられる。胴部は内外面ともヘラナデで調整を行っている。



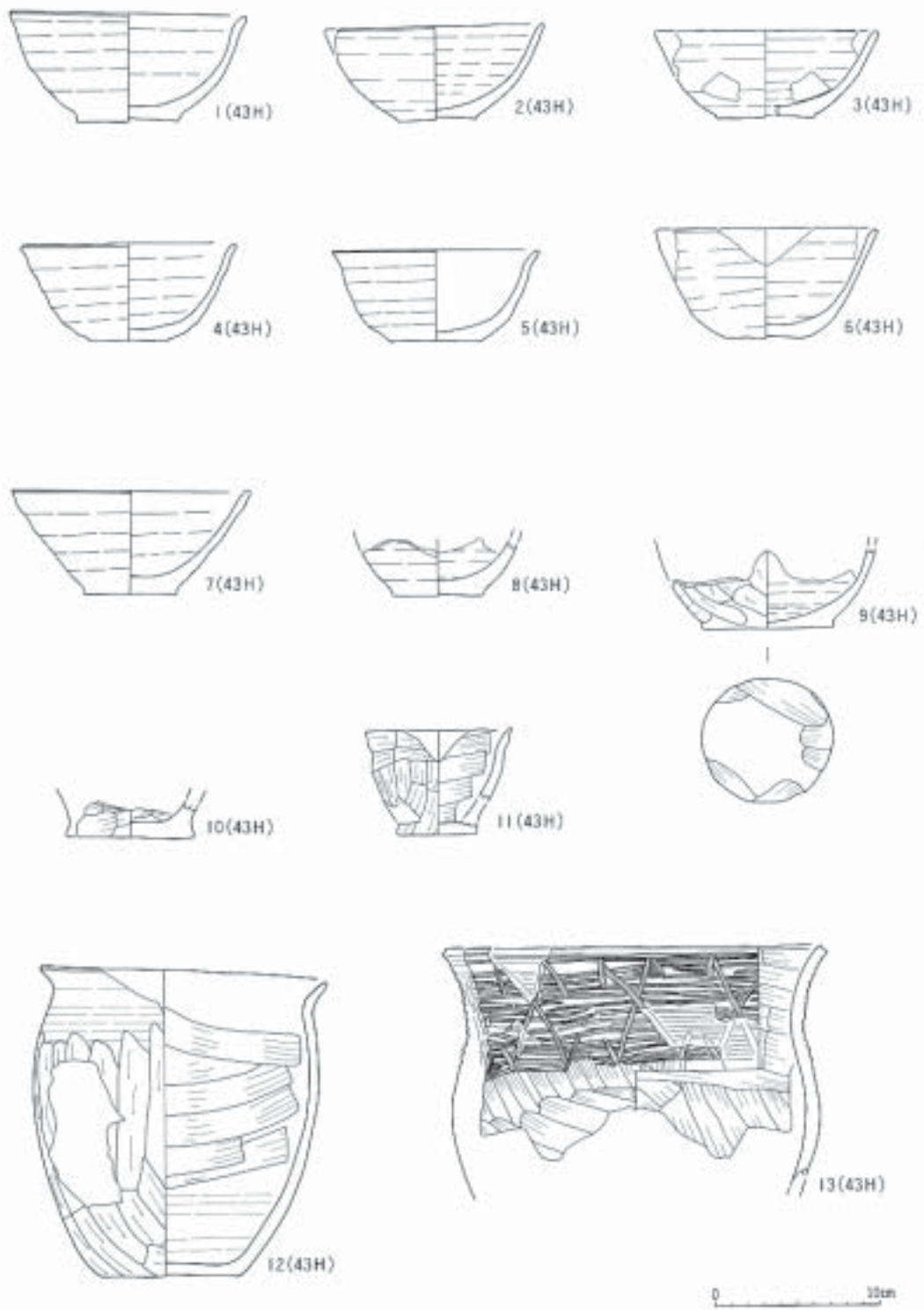
第222图 E区土師器



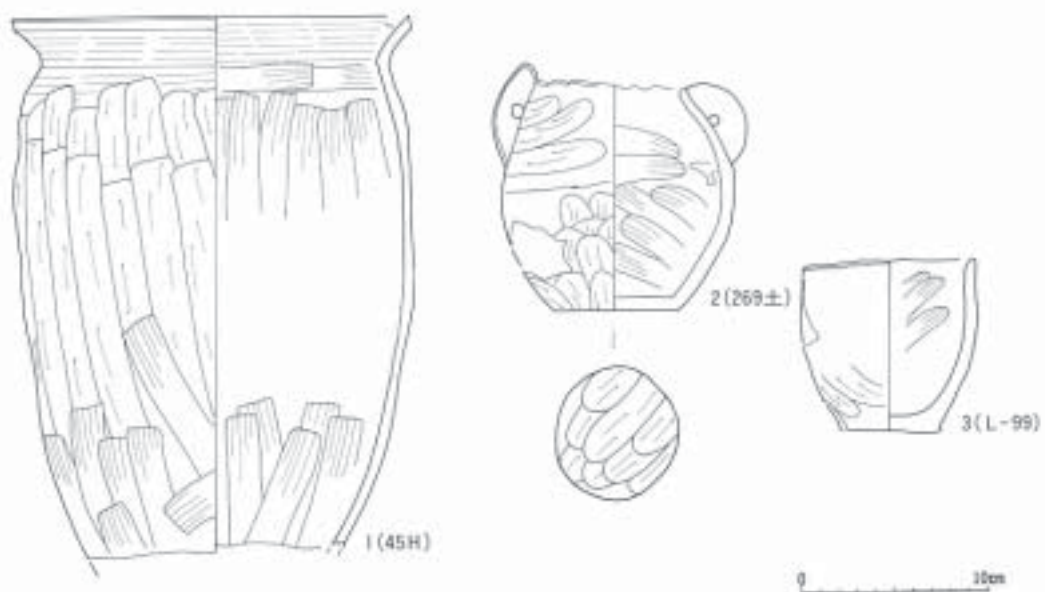
第223图 E区土師器



第224図 E区土師器



第225図 E区土師器



第226図 土師器・須恵器

E区(土師器観察表)

図版番号	出土地点	器種	層位	法 量 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分類	備 考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
第222図-1	5H	坏	カマド袖	13.0	-	-	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	回転系切		
第 〃 図-2	〃	〃	P3	13.3	5.8	5.2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-		
第 〃 図-3	〃	襷	〃	-	-	-	ヨコテ	ヘラテ	-	ヨコテ	ヘラテ	-	-	b	
第 〃 図-4	9H	坏	床直	12.9	6.0	5.0	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	回転系切		
第 〃 図-5	〃	襷	周溝	16.6	-	-	ヨコテ	ヘラテ	-	ヨコテ	ヘラテ	-	-	c	
第 〃 図-6	〃	〃	覆土2	13.1	-	-	〃	ヘラスリ	-	〃	〃	-	-	〃	体部上半に指あと
第 〃 図-7	〃	〃	〃	-	-	8.6	-	-	ヘラスリ	-	-	ヘラテ	砂底	〃	
第 〃 図-8	〃	〃	床直	-	-	-	ヨコテ	ヘラスリ	-	ヨコテ	ヘラテ	-	-	b	
第 〃 図-9	14H	坏	覆土1	-	-	5.0	-	-	ロク口	-	-	ロク口	回転系切		
第 〃 図-10	〃	〃	覆土2	-	-	5.4	-	-	〃	-	-	〃	〃		
第 〃 図-11	〃	襷	覆土1	-	-	-	ヘラテ	-	-	ヘラテ	-	-	-	b	
第 〃 図-12	〃	坏	カマド	13.5	6.0	5.0	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	回転系切		
第 〃 図-13	〃	小型土器	覆土3	13.4	7.9	5.3	ヘラスリ	ヘラスリ	ヘラスリ	ヨコテ	ヘラテ	ヘラテ	-		
第223図-1	36H	襷	カマド	29.9	30.2	11.2	ヘラテ	〃	〃	ヘラテ	〃	〃	-	a	
第 〃 図-2	〃	〃	〃	20.7	27.4	9.2	ヨコテ、ヘラテ	〃	〃	ヨコテ	ハケメ	ハケメ	-	b	
第 〃 図-3	〃	〃	〃	26.3	31.3	20.3	〃	〃	〃	ヨコテ、ヘラテ	ヘラスリ、ヘラテ	ヘラテ	-	a	
第 〃 図-4	〃	〃	〃	25.9	31.9	11.4	ヨコテ	〃	〃	ヨコテ	ヘラテ	ヘラテ	-	〃	
第224図-1	39H	〃	床直	20.6	21.0	7.0	ヘラテ、輪積み痕	ヘラテ、輪積み痕	ヘラテ	ヘラテ	ヘラテ、輪積み痕	ヘラテ、輪積み痕	-	b	
第 〃 図-2	〃	〃	カマド	-	-	11.5	-	-	ヘラスリ	-	-	ヘラスリ	-	a	
第 〃 図-3	41H	坏	〃	13.6	6.2	6.0	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	回転系切		
第 〃 図-4	〃	〃	〃	22.2	5.2	4.8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-		火熱で表裏面剥離
第 〃 図-5	〃	〃	覆土3	14.4	4.9	6.3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	回転系切		
第 〃 図-6	〃	襷	カマド	15.7	16.6	8.2	ヨコテ、ヘラテ	ヘラスリ	ヨコテ	ヨコテ、ヘラテ	ヘラスリ	ヘラスリ	-	c	
第 〃 図-7	〃	〃	床直	-	-	7.6	-	〃	ヘラテ	-	-	ヘラテ	-	〃	
第 〃 図-8	42H	〃	覆土2	15.7	15.0	7.0	ロク口	ロク口	ロク口	ヘラスリ	ロク口	ロク口	回転系切	c	
第 〃 図-9	〃	坏	〃	13.6	6.0	5.5	〃	〃	〃	ロク口	〃	〃	-		
第225図-1	43H	〃	床直	14.5	6.7	6.4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-		
第 〃 図-2	〃	〃	〃	13.4	5.7	4.8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	回転系切・刻線		
第 〃 図-3	〃	〃	〃	13.6	5.3	6.0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	回転系切		
第 〃 図-4	〃	〃	覆土3	13.2	6.0	4.7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-		
第 〃 図-5	〃	〃	〃	12.6	5.7	5.4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	回転系切		
第 〃 図-6	〃	〃	〃	13.6	6.7	5.0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
第 〃 図-7	〃	〃	カマド	14.7	6.3	5.7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
第 〃 図-8	〃	〃	床直	-	-	5.4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
第 〃 図-9	〃	襷	覆土3	-	-	8.0	-	-	ヘラスリ	-	-	〃	回転系切、ヘラテ	c	

E区(土師器観察表)

図版番号	出土地点	器種	層位	法 量 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分類	備 考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
第225図-10	43H	甕	覆土	-	-	7.8	-	-	△ナナ	-	-	△ナナ	木葉痕	c	
第 〃 図-11	〃	小型土器	〃	9.0	6.3	4.8	△カスリ	△カスリ	△カスリ	△ナナ	△ナナ	〃	-		
第 〃 図-12	〃	甕	覆土3	17.7	18.5	8.2	ロク口	〃	〃	-	〃	ロク口	-	c	
第 〃 図-13	〃	〃	〃	23.4	-	-	擦文	△ナナ	-	△ナナ	〃	-	-		擦文土器
第226図-1	45H	〃	カマド	31.5	-	-	ロク口	△カスリ	△ナナ	ロク口	〃	△ナナ	-	a	
第 〃 図-2	269土	壺	覆土	8.1	13.3	6.5	-	〃	△カスリ	-	〃	△ナナ	△カスリ		輪積み痕・双耳壺
第 〃 図-3	L-99	小型土器		9.3	9.2	5.5	ロク口	〃	〃	△ナナ	〃	〃	-		

E区(須恵器観察表)

図版番号	出土地点	器種	層位	法 量 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分類	備 考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
第226図-4	41H	坏	覆土2	13.5	5.7	5.6	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	ロク口	回転糸切		
第 〃 図-5	43H	〃	床直	12.3	4.8	5.9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
第 〃 図-6	〃	〃	覆土3	13.9	4.5	6.3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
第 〃 図-7	〃	〃	〃	14.0	5.2	4.6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		十文字の切り込み
第 〃 図-8	2 円形 周溝	〃	覆土4	-	-	4.4	-	-	〃	-	-	〃	〃		
第 〃 図-9	N-77	〃		-	-	6.2	-	-	ク口・△ナ	-	-	〃	静止糸切		

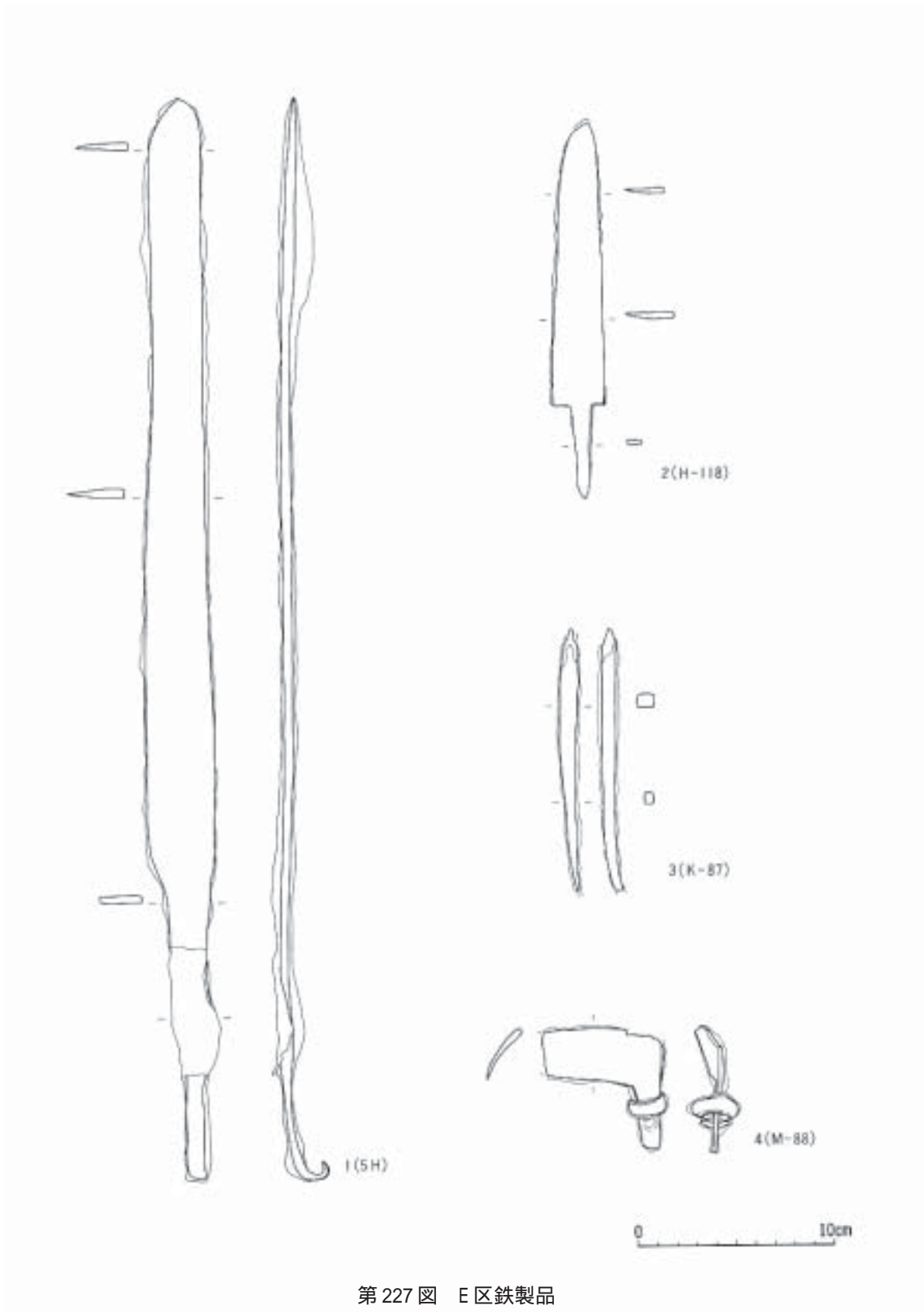
(3) その他の遺物

鉄製品が出土した。そのうち歴史時代の5号竪穴住居跡のカマド脇の床直から出土した刀(第227図-1)は、住居跡の壁に平行な状態で刃先を南に向けた状態で出土した。全長は56cm、刀身長は41.5cm、茎長は14.5cm、元幅2.2cm、先幅2.7cmの刀身が平棟平造りの両刀である。刃は片刃で、茎は先端に行くに従って細くなり、外側に柄反っている。H-118グリッド層から出土の刀子(第227図-2)は、全長19.2cm、刃長14.5cm、刃幅2.7cm、茎長4.7cmの平棟平造りのフクラ切先である。K-87グリッド層から出土の不明鉄器(第227図-3)は、全長13.6cm、幅0.5~0.9cmである。M-88グリッド出土の鎌(第227図-4)は、柄に対して直角に刃を装着するもので、柄の先端部を環状の鉄製品で締めている。

E区(鉄製品観察表)

(単位cm)

図版番号	出土地点	層位	種類	大きさ(長さ・幅・厚さ)	備考
第277図-1	5H	床直	刀	56.0×3.7×0.7	
第"図-2	H-118		刀子	19.2×2.7×0.3	
第"図-3	K-87	"	不明鉄器	13.6×1.0×0.7	
第"図-4	M-88	"	鎌	6.2×2.8×0.4	



第 章 分析と考察

第 1 節 円形周溝

1. 県内の円形周溝（第 228 図）

昭和60年代に入るまで県内の終末期古墳は、昭和30年代に八戸市の鹿島沢古墳だけが調査公表されているだけであった。昭和60年代に入ると同じく八戸市の丹後平古墳が発見されたことを契機に、下田町の阿光坊遺跡、尾上町の前遺跡、そして八戸市の殿見遺跡と相次いで古墳と考えられる環状を呈する溝が検出された。

番号	遺 跡 名	所 在 地	調 査 年 度	検 出 数	最大規模(m)
1	鹿島沢古墳群	八戸市根城	昭和33年	8基	直径12
2	丹後平古墳群	八戸市根城	昭和62年～63年	24基	13.6× 9.0
3	殿見遺跡	八戸市八幡	平成3年～5年	36基	13.2×10.2
4	阿光坊遺跡	上北郡下田町	昭和63年～平成2年	12基	12.6× 8.6
5	原遺跡	南津軽郡尾上町	昭和63年・平成2年	12基	9.5× 7.4
6	三内丸山(2)遺跡	青森市三内	平成4年～5年	2基	13.0×12.7



第 228 図 青森県内の古墳

2. 円形周溝の位置と特徴

[位置] 今回の調査で検出されたものが2基、調査区域外のところにも数基あると思われる。三内丸山(2)遺跡の調査区の中のE区、市街地よりの丘陵の一番標高の高い地点(16m)で(I・J・K・L - 103 ~ 110グリッド) 2基の円形周溝を確認した。第1号円形周溝は、周溝が途中数箇所途切れて、第2号円形周溝を切っていた。第2号円形周溝は、周溝が円形に全周した。

[特徴] 平面形は円形を基調とし、全周するものと数箇所途切れ開口部をもつものが認められる。全周するもの(第2号円形周溝)は、外径13.0m × 12.7m、内径10.1m × 9.5mである。周溝の幅は1.8 ~ 1.1mで、深さは26 ~ 60cmであり、レンズ状に堆積する層が多く自然堆積と思われる。その中の覆土3層には、白頭山火山灰が層全体に見られた。またこの第2号円形周溝は、縄文時代中期後葉の土器を伴う土壌群を切って作っている。途中途切れるもの(第1号円形周溝)は、外径10.2m × 9.5m、内径8.7m × 7.0mである。周溝の幅は1.7 ~ 0.5mで、深さは24 ~ 46cmであり、レンズ状に堆積する層が多く自然堆積と思われる。その中の覆土3層には、白頭山火山灰が層全体に見られた。また、第1号・2号円形周溝ともに、確認面にも白頭山火山灰を確認した。

3. 円形周溝の性格と時期

今回検出された円形周溝は、形態や規模が東北部地域の末期古墳(丹後平古墳・阿光坊遺跡)に伴う周溝と類似している。しかし、古墳と断定できるような墳丘・主体部・副葬品を検出できなかったことや数が2基と少なかったことから、当該遺構を古墳と認定するまでには至らなかった。通常主体部の位置は円形周溝で囲まれた内部の中央付近にあるのだが、今回は検出されなかった。このことは7世紀末~8世紀代の古墳の主体部とは違った埋葬のあり方について、今後検討してみることが必要であろう。(例えば、木棺を表土の上に置き土を積み上げただけの埋葬方法。)

円形周溝の時期については、遺物についてみると周溝内からは土師器の破片が約280点、須恵器の破片が8点出土した。円形周溝の近くに8基の竪穴住居跡が検出されており、その中で第41号・43号住居跡から出土している土師器坏は、いずれもロクロを使用しており、底部の切り離しは回転系切りである。周溝内から出土した土師器の破片も、同じようである。また須恵器坏も回転系切り無調整のものである。火山灰についてみると、遺構確認面上に白頭山火山灰があり、円形周溝内覆土3層にも白頭山火山灰がレンズ状に堆積していた。このことから、円形周溝の築造時期は平安時代(9世紀前半)と推定される。

第2節 遺 構

1. 土 壙

E区から検出された317基の土壙の内、底面に特徴のある土壙（第229図）が検出された。その数は、底面にピットを有するもの（82基）、溝を有するもの（1基）、ピットと溝を有するもの（2基）の85基である。

番 号	備 考	番 号	備 考	番 号	備 考
14土	ピット3	15土	ピット3	26土	ピット4
29土	ピット1	31土	ピット1	36土	ピット1
38土	ピット1	70土	ピット3	71土	ピット1
74土	ピット1	81土	ピット2	100土	ピット1
101土	ピット1	102土	ピット1	111土	ピット3
112土	ピット6、溝7本	118土	ピット5	120土	ピット2
133土	ピット1	140土	ピット3	141土	ピット1
142土	ピット1	148土	ピット1	149土	ピット3
155土	ピット1、溝2本	163土	ピット4	166土	ピット1
167土	ピット2	168土	ピット1	172土	ピット1
187土	溝1本	188土	ピット1	190土	ピット1
191土	ピット2	194土	ピット6	202土	ピット1
203土	ピット1	204土	ピット3	207土	ピット1
212土	ピット2	214土	ピット2	215土	ピット5
219土	ピット1	222土	ピット1	228土	ピット1
233土	ピット2	234土	ピット1	235土	ピット2
236土	ピット1	237土	ピット11	238土	ピット2
239土	ピット1	247土	ピット2	248土	ピット3
249土	ピット7	250土	ピット2	264土	ピット3
265土	ピット1	266土	ピット1	269土	ピット2
270土	ピット1	271土	ピット1	279土	ピット1
286土	ピット1	287土	ピット1	289土	ピット1
299土	ピット3	302土	ピット1	304土	ピット1
306土	ピット2	307土	ピット1	315土	ピット1
319土	ピット1	328土	ピット1	357土	ピット1
362土	ピット3	366土	ピット1	368土	ピット1
370土	ピット1	371土	ピット2	372土	ピット1
374土	ピット1	375土	ピット1	376土	ピット1
377土	ピット2				

* 網掛けは、縦2m×横2m×深さ1～2m位の大きい土壙

112号土壙は、底面の中心に深さ31cmのピットがあり、そこから放射状に7本の溝が壁際に向かって掘り込んでいて、深さは2～3cmであった。壁際には、溝からつながるピットが2個検出された。また底面の周りは、少し掘りくぼませていた。155号土壙はフラスコ状を呈し、112号土壙と同様に底面の中心に深さ25cmのピットがあり、そこから放射状に溝が壁際に向かって

底面に溝とピットを有する土壌



第112号土壌



第155号土壌



底面に溝を有する土壌



第187号土壌



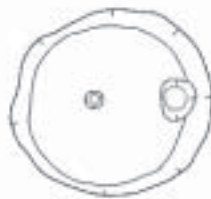
底面にピットを有する土壌



第202号土壌



底面にピットを有する土壌



第233号土壌



第249号土壌



第229図 底面に溝・ピットを有する土壌

掘りこんでいたと思われるが、確認できたのは2本の溝だけである。底面の周りは、少し掘りくぼませていた。187号土壌は、ピットは確認できなかったものの、底面の南側に半周程少し掘りくぼませた溝が検出された。

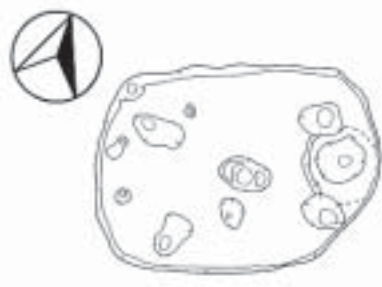
以上三つの土壌については、ある程度明確にピット+溝、溝というように確認できた。では溝の使われ方とはいうと、考えられるのは雨水等の排水のためと思われる。ピットについては、深さ5cm前後の浅いものから56cmに達する深いピットもある、ピットの数も1～11個と違いがあることから、溝と同様に排水のためだけとは考えにくく、他の使われ方もあったと思われる。

2. 特殊施設（第230図）

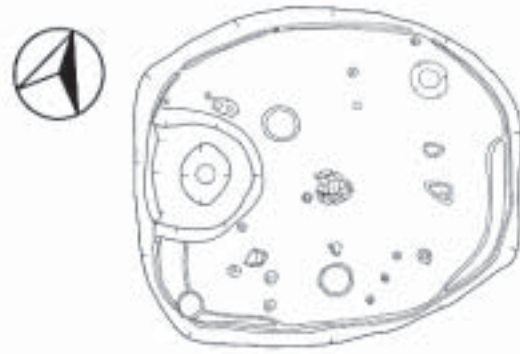
本遺跡で検出した竪穴住居跡内に、ロームによる盛土を馬蹄形状に巡らした施設のことを特殊施設として記述してある。富ノ沢(2)遺跡 発掘調査報告書(青森県埋蔵文化財調査報告書第143集)では、ロームの盛土を馬蹄形状に巡らした施設のことを「モッコリ」と呼び、特殊施設としている。このうち「モッコリ」と呼んでいた特殊な施設は、35軒の住居跡のうち7軒に認められた。特殊施設の付いた住居跡の時期は、明確にわかるものは7軒中4軒が円筒上層e式期、1軒が最花式期で残り2軒については時期不明であるが、おそらくは円筒上層e式期と思われる。構築されている場所は、そのほとんどが住居跡の長軸線上の壁直下である。特殊施設の構造・形態は、半円状の盛土があり住居跡の壁は張り出さない。盛土が巡らされた内側に1個ないし2個のピットが掘り込まれている。さらに脇に数個の小ピットが付いていることもある。県内では青森市三内沢部遺跡、近野遺跡、蛭沢遺跡、八戸市石手洗遺跡、六ヶ所村上尾駮(2)A遺跡、富ノ沢(2)遺跡A地区、富ノ沢(3)遺跡、表館(1)遺跡等で検出されている。

性格・機能については、石棒祭祀の類型遺構(市川:1978)、祭壇とする説(八戸市教育委員会:1989)がある。また、近野遺跡では具体的な性格や機能については論じていないが、市川氏(1978)と同じく石棒祭祀あるいはそれに類するものではないかと考えているようである(三浦:1989)。

本遺跡から検出された特殊施設は、県内で検出されている他の特殊施設と同じように住居に伴う祭祀的な場として考えられるのではないかと考えられる。それは、この特殊施設の位置は、ほとんど住居跡の主軸線上壁直下であり、内側に中央ピットが掘り込まれている等、他の遺跡で検出されているものに該当する。しかし、特殊施設を持たない住居跡や土壌との位置的な関係、祭祀に関連すると思われる遺物(本遺跡でははっきりと検出できなかった)の出土等を含めて、さらに検討を要する問題と考えられる。



第1号竖穴住居跡



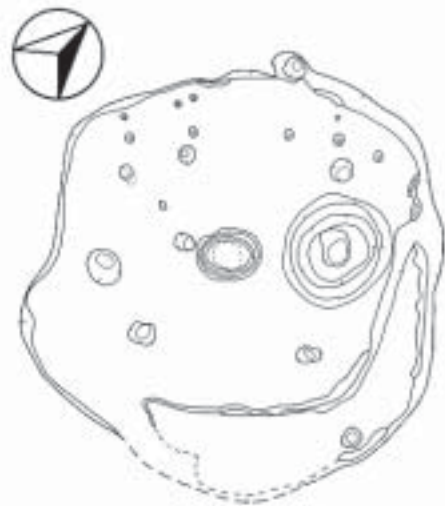
第2号竖穴住居跡



第8号竖穴住居跡



第10号竖穴住居跡



第18号竖穴住居跡



第47号竖穴住居跡



第51号竖穴住居跡



第230図 特殊施設をもつ竖穴住居跡

第 章 自然科学的分析

第 1 節 三内丸山(2)遺跡出土鉄器の金属学的解析

岩手県立博物館 赤 沼 英 男

青森県青森市に立地する三内丸山(2)遺跡から出土した鉄滓の金属学的解析結果について、以下に報告する。

1. 分析資料

分析した資料は、層から出土した刀子、なたをはじめとする鉄器3点、鉄塊1点、鉄滓2点、竪穴住居跡から出土した直刀1点の合計7点である。刀子、なた、およびN-78鉄塊は残存状態が比較的良好である。なお、N-78鉄塊については規格化された形状であり、流通品の可能性も考えられる。分析を行った資料を表1に、また外観を図1、図8に示す。

2. 分析用試料の調製

鉄器・鉄塊の分析には保存処理する際に採取することができた試料片を用いた。採取した錆片のうち最大のものを組織観察に、他は化学分析に供した。

鉄滓試料については中心線にそって切断し、切断面の一方の中央付近より試料を採取した。採取した試料を2分し、一方は粉碎した後、化学成分分析に、もう一方は組織観察に供した。分析用試料の採取位置および鉄滓の切断位置は図1に示すとおりである。

3. 分析方法

組織観察用試料はいずれも樹脂に埋め込み、表面生成錆層の垂直面をできるだけ浅く削り取った後、ダイヤモンドペーストを用いて仕上げ研磨を行った。研磨の工程では試料中の化学成分の溶出を避けるため、水を一切使用しない方法をとった。研磨した試料は金属顕微鏡によるミクロ観察に供し、また残存する代表的な非金属介在物および鉄滓中の鉱物については、EPMAによりその組織を決定した。

化学分析用試料は王水・ふっ化水素酸を使って完全に溶解した後、全鉄(T.Fe)、銅(Cu)、マンガン(Mn)、りん(P)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、チタン(Ti)、けい素(Si)、カルシウム(Ca)、アルミニウム(Al)、マグネシウム(Mg)、バナジウム(V)を誘導結合プラズマ発光分光分析法(ICP-AES法)により定量した。

4. 分析結果ならびに考察

4 - 1 鉄器・鉄塊から採取した試料片の化学組成

表2から明らかなように、1刀子、12鉄塊のT.Feはそれぞれ94.26、96.07%と高いレベルにある。ほぼ健全なメタルからなる試料が分析に供されたものと推定される。4不明鉄器、2直刀のT.Feは67.07、65.06%、3なたについては36.22%と低く、分析に供された試料の錆化が相当に進んでいる。

1刀子のCu、Mn分はそれぞれ0.207、0.356%、3なた、4不明鉄器のMn分は0.136、0.259%、12鉄塊のP分は0.774%ときわめて高いレベルにある。また、1刀子のNi分、3なた、4不明鉄器のCu分もいずれも0.06%以上の値を示している。1刀子、12鉄塊についてはほぼ健全なメタル試料が分析に供されていることから、検出された成分はもとの健全な地金に含有されていたと解釈できる。3なた、4不明鉄器、2直刀については錆化が進んだ試料が分析されたため、検出された成分のすべてがもとの健全な地金に含有されていたとみることができない。しかし、0.1%以上ものMn分、0.06%以上ものCuおよびNi分が土壌中に含有されている可能性は少ない。さらに、鉄器には鉄以外の金属の付着も認められなかったことから、検出された元素の多くは錆びる前の健全な地金に含有されていた可能性が高い。

4 - 2 鉄器・鉄塊から採取した試料片のマクロおよびミクロ組織

図2は鉄器から採取した錆試料片のマクロ組織である。白色部は健全なメタル、灰色部は黒錆、暗灰色部は赤錆、黒色部は亀裂および欠落孔を表す。分析を行った鉄器は4不明鉄器を除き、採取した試料片の多くの部分が健全なメタルによって構成されている。

図3 - aは3なたから採取した試料片、図2 - b領域B部のミクロ組織である。微細な白色を呈した細線状の結晶が観察されるが、これはもとの健全な鋼におけるパーライト層中のフェライト部分が錆化によって失われ、セメントタイトのみが残った組織と推定される¹⁾。この白色を呈した細線状の結晶とその欠落孔によって構成される島状の部分をパーライト相とし、錆化による結晶の膨張を無視すると、もとの健全な地金は炭素含有量0.3～0.4%の鋼と評価される。

図3 - b、cからも明らかなように4不明鉄器、1直刀にも3なた同様セメントタイト、もしくはその欠落孔が観察される。1直刀についてはセメントタイトによって構成される島状の組織がミクロ組織のほぼ全域を占めることから、炭素含有量0.5%強の鋼とみなすことができる。4不明鉄器については、セメントタイトまたはその欠落孔の占める面積割合がきわめて低いことから、炭素含有量0.1～0.2%の鋼と判定される。

なお、1刀子、12鉄塊については、酸を使って腐食させることにより、ミクロ組織の観察が可能であるが、腐食による非金属介在物の消失を防止するため見合わせた。

4 - 3 非金属介在物組織

図4 - aは 1 刀子のメタル中に見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像である。非金属介在物は微細な結晶が析出したマトリックス(M)からなる。図4 - bに示す定性分析結果によると、マトリックス(M)からはFe、Mn、Al、Siが強く検出されている。

図5 - a、bは 3 なたのメタル中に観察された非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像、および定性分析結果である。非金属介在物は暗灰色のFeO - MnO系化合物(Mn)によって構成されていることがわかる。

図6は 2直刀から採取した試料片のメタル中に検出された非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像ならびに定性分析結果である。非金属介在物はTiO₂ - Al₂O₃ - V₂O₅ - MnO - MgO系のチタン酸化物(T)とTiO₂ - SiO₂ - Al₂O₃ - CaO - K₂O - Na₂O - MgO - MnO系のガラス質けい酸塩(D)からなる。酸化物(T)のTi、Oの濃度はきわめて高く、さらにV、Al、Mn、Mgが強く検出されている。一方Feはほとんど含有されないことから、化合物(T)はルチルに近い組成のチタン酸化物とみなすことができる。

図7 - aは 12 鉄塊から採取された試料片のメタル中に見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像である。非金属介在物は明灰色の粒状化合物(S)、灰色の粒状化合物(W)、暗灰色の化合物(P)および黒色領域(D)からなる。

図6 - bはEPMAによる定性分析結果であるが、化合物(S)からはFe、S、化合物(W)からはFeが強く検出されており、それぞれFeS、ウスタイト(理論組成: FeO)、一方化合物(P)はFe、P、Siが高濃度で含有されており、FeO - P₂O₅ - SiO₂系化合物とみなすことができる。また、黒色領域(D)はFeO - MnO - SiO₂ - Al₂O₃ - P₂O₅系のガラス質けい酸塩である。図2 - eから明らかなように、マクロ組織には多数の非金属介在物が観察され、そのほとんどが図7 - aと同様の組成である。

4 - 4 鉄滓の化学成分

表3は鉄滓の化学成分分析値である。11、13鉄滓のT.Feはそれぞれ55.62、48.10%と高いレベルにある。Ca分はそれぞれ1.20、1.44%を示す。CaO/SiO₂、CaO/Al₂O₃を求めると11鉄滓ではそれぞれ0.35、0.32%、13鉄滓では0.13、0.27%と高値をとり、人為的なカルシウム材の使用に伴って生成した鉄滓とみることもできる。

4 - 5 鉄滓のマクロおよびミクロ組織

図9 - a₁は 11 鉄滓のマクロ組織、図9 - a₂は図9 - a₁領域A部のミクロ組織、図9 - a₃

は図9 - a₂をさらに拡大観察したものである。灰色を呈した粒状の結晶(W)、やや暗灰色を呈した柱状の結晶(F)、灰色を呈した角状の結晶(T) および微細な結晶が析出したマトリックス(M)が観察される。また、マクロ組織には鉄滓組織に付着して錆層が認められる。

図10は図9 - a₁領域A部のEPMAによる2次電子像と反射電子像、および定性分析結果であるが、結晶(W)はウスタイト(理論組成: FeO)、結晶(F)はFeO - MgO - SiO₂系化合物(マグネシウムを固溶した鉄カンラン石: 2(Fe, Mg)O · SiO₂と推定される)、結晶(T)はFeO - TiO₂ - Al₂O₃ - MgO系のチタン化合物であり、マトリックス(M)からはFe、Si、Al、Ca、K、Na、Pが検出されている。

図9 - b₁は 13鉄滓のマクロ組織、図9 - b₂は図9 - b₁領域B部のミクロ組織である。灰色の粒状結晶(W)、やや灰色を呈した柱状結晶(F)、暗灰色の結晶(H) およびマトリックス(M)が観察される。図11に示すEPMAによる定性分析の結果、結晶(W)はウスタイト、結晶(F)はFeO - MgO - SiO₂系化合物、結晶(H)はFeO - Al₂O₃系化合物であり、マトリックス(M)からはFe、Si、Al、Ca、K、P、Naが検出されている。またマクロ組織には、錆層の付着も認められる。上述の観察結果に基づけば、13鉄滓は生成した鉄塊にスラグ融液の一部が貫入し固化したものと推測される。

4 - 6 鉄器・鉄塊の製作に使用された地金の材質

鉄器は炭素含有量に応じて鍛造鉄器と鑄造鉄器の2種類に分類される。鉄器から採取した試験片にセメントイトが見いだされた 3なた、 4不明鉄器、 2直刀の3点については、鍛造鉄器であることが明らかである。 1刀子および 12鉄塊についても、その非金属介在物組成から鍛造鉄器と判定される。

鉄器の製作に使用される原料鉱石としては、一応鉄鉱石か砂鉄の2つを挙げることができる。 2直刀を除く4点の鉄器、鉄塊中に観察された非金属介在物にはチタン化合物が検出されなかったことから、鋼の製造に使用された原料鉱石は鉄鉱石である可能性がきわめて高い。さらに、表2に示す化学成分分析値を考え合わせると、 1刀子はCu、MnおよびNi含有量、 3なた、 4不明鉄器についてはMn含有量、 12鉄塊についてはP含有量の高い鉄鉱石が用いられたとみなすことができる。 3なたの非金属介在物からはFeO - MnO系の化合物が検出されていること、および 1刀子のマトリックス中のMn含有量が高いという事実も上述の考察が妥当であることを示している。 2直刀の非金属介在物はルチルに近い組成のチタン酸化物とFe分のきわめて低いガラス質けい酸塩によって構成されている。鋼の製造過程において砂鉄が使用されたことを指摘できる。

4 - 7 鉄生産関連遺跡の性格判定の現状

古代・中世の鋼の製造方法については未だに不明な点が多く、幾つかの仮説が提示されているが、それらを整理すると以下の3つの段階に区分することができる。

ア．原料鉱石（砂鉄もしくは鉄鉱石）から鉄分を抽出する段階

イ．アで抽出された鉄分を精製し目的とする鋼を製作する段階

ウ．イで製造された鋼から鉄器を製作する段階

以下ではアを製錬、イを精錬、ウを小鍛冶と呼ぶことにする。

ところで考古学の発掘によって、わが国においても古代および中世とみなすことができる鉄生産関連炉が相当数発見され、炉跡の確認、遺跡周辺への原料鉱石・還元材の有無、鉄滓の有無等の考古学的所見、ならびに供伴して出土した鉄滓の金属学的解析結果を基に、遺構の性格の判定がなされている。しかし、今日にいたるまで炉内反応は解明されておらず、古代・中世における銑鉄、もしくは鋼の確実な製造方法も不明である。また、北沢遺跡の例にみられるように、炉跡が確認されてもその炉は製錬炉ではなく、精錬炉の可能性が高いことが遺物の金属学的解析によって指摘されている²⁾。従って、鉄滓の化学組成と鉱物組成のみを根拠としての、あるいは炉の検出だけに基づいての遺跡の性格の判定は困難である。炉跡に伴って出土した鉄滓と鉄塊、および遺構内もしくはその周辺から採取される原料鉱石の組成を総合的に検討し、併せて炉内反応の状況を推定しながら慎重に遺跡の性格判定を行う必要がある。

4 - 8 小鍛冶滓の組成

小鍛冶工程では、鍛打、加熱を繰り返して目的とする鉄器への造形が行われるので、鍛打のときは加熱された鋼の表面に生成する酸化鉄（スケール）が剥離（これは鍛造薄片と呼ばれる）する。一方、加熱のときは酸化鉄が半熔融状態になり、火室炉の底部に溜まり、そこで炉壁材と反応して鉄分に富む半熔融状の鉄滓状物質を生成し、加熱炉の底に溜まって固化する。このようにして生成した“椀型状”（供え餅を逆さにした形）の鉄滓状物質が、鉄関連遺跡の発掘調査では小鍛冶滓として扱われている。従って小鍛冶滓は、金属鉄、錆層、ウスタイト（FeO）を主成分とし、他にスケールが炉材と反応した際に生成するFeO - MgO - SiO₂系化合物が混在した組成をとるはずであるが、液体が固化することによって生成した鉄滓ではないため、各化合物を取り囲むガラス質けい酸塩は存在せず、結晶の大きさや析出の方向も不均一であると考えられる。

4 - 4で述べたとおり分析した 11鉄滓にはチタン化合物（T）、FeO - MgO - SiO₂系化合物（F）、マトリックス（M）が観察される。13鉄滓にはFeO - MgO - SiO₂系化合物とFeO - Al₂O₃系化合物が共存しており、そのまわりをマトリックスが取り囲んでいる。また、11および

13鉄滓にはいずれにもウスタイトが認められるものの、組織全体に占める面積割合は低い。従っ

て、上述の2点の鉄滓を小鍛冶滓とみることはできない。原料鉱石からの鉄分の抽出を行う製錬か、鋼の製造を目的とした精錬、すなわち砂鉄を始発原料としての製錬による鋼の製造か、銑鉄を素材とし脱炭材として砂鉄を使用する鋼製錬のいずれかの操作に伴って生成した鉄滓とみることができる。2点の鉄滓は明確な鉄生産関連遺構に伴って検出されたものではなく、さらに鉄滓が検出された周辺からも炉跡は発見されていない。上述の2点の分析結果でもってただちにその鉄滓が生成した状況を特定することは困難である。今後鉄滓が発見された周辺の発掘調査によって炉跡が検出され、鉄滓の他に鉄塊が見いだされその組成が明確になれば、生産実態を明確にすることができるであろう。

4 - 9 遺跡内への鉄器・鉄素材の供給

層から検出された 1 刀子、 3 なた、 4 不明鉄器の3点および 12 鋼塊については、鉄鉱石を原料鉱石として製造された可能性がきわめて高いことはすでに述べたとおりである。

層から鉄器とともに検出された鉄滓は、砂鉄の使用により生成された鉄滓であることから、上述の3点の鉄器が遺跡内で製造された鋼をもとに製作されたもの、あるいは 12 鉄塊を素材とし加工・整形されたとみることもしかない。1 刀子、 3 なた、 4 不明鉄器については、外部からの供給が有力である。これら3点の鉄器の銅、マンガン含有量が高いことから、供給起源としては大陸をも視野にいれて検討しなければならない。P含有量の高い鉄鉱石を原料鉱石として製造されたと考えられる 12 鋼塊も、遺跡外からもたらされたのであろう。この資料は重量約 280g であり、規格化された製品である。目的とする鉄器を製作するための鋼素材の可能性もあり、今後同じ形態の資料の出土状況について注目する必要がある。

竪穴住居跡から出土した直刀は砂鉄の使用によって製造された地金を素材としている。非金属介在物に見いだされたチタン化合物はルチルに近い組成のチタン酸化物であり、さらにチタン酸化物を取り囲むガラス質けい酸塩には鉄分がほとんど含有されない。厳密には上述の非金属介在物と同じ組成の鉄滓の生成温度域を明確にする必要があるが、このような組成のチタン酸化物ならびにガラス質けい酸塩は、砂鉄粒子と熔融銑鉄の接触によって生成した可能性が高い³⁾⁴⁾。2 直刀は間接精鋼法によって製造された鋼を素材として製作されたものとみることができる。表2に示すように、同様の方法によって製造されたと推定される鋼を素材とする鍛造鉄器は、青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査がなされた三内丸山(2)遺跡からも見いだされている⁵⁾。非金属介在物中にチタン化合物が見いだされた上述の2点の鉄器については、外部から供給された銑鉄を素材として遺跡内で製造された鋼をもとに製作された可能性も考えられる。

遺跡内における生産と外部からの供給の状況をより明らかにするためには、今後遺跡内およ

びその周辺での鉄生産関連炉の検出と、供伴して出土する鉄塊・鉄滓の金属学的解析が不可欠である。

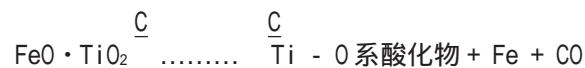
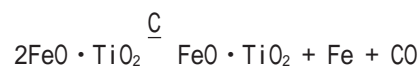
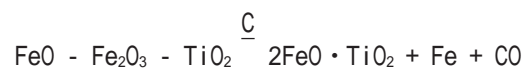
5. まとめ

三内丸山(2)遺跡から出土した4点の鉄器、1点の鉄塊、および2点の鉄滓の金属学的解析を行ったところ、鉄鉱石を始発原料として製造された鋼を素材とする鍛造鉄器3点、鋼塊1点、砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鉄器1点の存在が確認された。鉄器とともに検出された鉄滓は砂鉄の使用による製錬、もしくは精錬のいずれかの操作に伴って生成したものであると考えられることから、鉄鉱石を始発原料とする鉄器、鋼塊は外部より供給されたものとみることができた。また、その供給起源としては、銅、マンガン、もしくはニッケル含有量の高い鉄器の存在を考慮すると、大陸をも視野に入れて検討する必要があることを指摘できた。

なお、鉄器の非金属介在物中に見いだされたチタン化合物は、ルチルに近い組成のチタン酸化物である。溶融銑鉄と砂鉄粒子の接触、すなわち間接精鋼法によって製造された鋼とみなすことができる。さらに、上述の鉄器と共伴して出土した鉄滓の組成を考え合わせると、遺跡内では外部から供給された銑鉄を素材とし、脱炭材として砂鉄を使用する鋼の製造、すなわち間接精鋼法が行われていた可能性も考えられる。

註

- 1) 日吉製鉄史研究会「稲荷山鉄剣の六片の錆」 『鉄の文化史』東洋経済新聞社 1984年
- 2) 赤沼 英男「北沢遺跡出土“鉄滓”の金属学的解析」 『北沢遺跡群』1992年 付編P1～11
- 3) 赤沼 英男、岡田 康博、川上 貞雄「遺物の解析からみた半地下式堅型炉の性格」平成4年度たたら研究会発表要旨
- 4) 銑鉄の砂鉄粒子による脱炭を専門的に説明すれば、つぎのような反応式で表すことができる。



C
Ti TiC (Cの一部をNが置換)

C, Ti は鉄浴中の炭素、チタンを表す。

5) 赤沼 英男「三内丸山遺跡出土鉄器の金属学的解析」三内丸山(2)遺跡 発掘調査報告書
 青埋文報告書第157集

表1 分析資料

No.	資料名	検出遺構	No.	資料名	検出遺構
1	No.1刀子	H-118	5	No.12鉄塊	N-78
2	No.3なた	M- 88	6	No.11鉄滓	J-90
3	No.4不明鉄器	K- 87	7	No.13鉄滓	43H
4	No.2直刀	5H			

表2 鉄器の分析結果

No.	資料名	化 学 成 分 (%)												N.M.I	ミクロ組織から 推定される 炭素含有量
		T・Fe	Cu	Mn	P	Ti	Si	Ni	Co	Ca	Al	Mg	V		
No.1	刀子	94.26	0.207	0.356	0.029	0.007	no	0.069	0.015	0.015	0.045	0.003	0.004	M	-
No.3	なた	36.22	0.061	0.136	0.013	-	-	0.016	0.007	-	-	-	-	Mn	Cm(0.3~0.4%)
No.4	不明鉄器	67.07	0.060	0.259	0.033	0.005	0.596	0.014	0.008	0.059	0.135	0.035	0.001	no	Cm(0.1~0.2%)
No.2	直刀	65.06	0.014	0.004	0.071	0.055	0.909	0.013	0.038	0.015	0.218	0.015	0.004	T,D	Cm(0.5%強)
No.12	鉄塊	96.07	0.021	0.010	0.774	0.006	0.292	0.02	0.011	0.005	0.078	0.002	0.021	W,S,P,D	-

注1) N.M.Iは非金属介在物組成、Wはウスタイト、SはFeS、MnはFeO-MnO系化合物、PはFeO-P₂O₅-SiO₂系化合物、Tはチタン化合物、Dはガラス質けい酸塩、Mはマトリックス、noは見いだされず、は分析せずを表す。

注2) Cmはセメントイトもしくはその欠落孔を表す。

表3 鉄滓の分析結果

No.	資料名	化 学 成 分 (%)													CaO/Si ₂ CaO/Al ₂ O ₃	鉱物組成
		T・Fe	Cu	Mn	P	Ti	Si	Ni	Co	Ca	Al	Mg	V			
No.11	鉄滓	55.62	0.002	0.169	0.089	4.694	2.24	0.002	0.016	1.20	2.78	1.13	0.335	0.35	0.32	W,F,T,M
No.13	鉄滓	48.10	0.004	0.066	0.107	0.288	7.53	0.001	0.007	1.44	3.99	0.516	0.008	0.13	0.27	W,F,H,M

注1) Wはウスタイト(理論組成FeO)、FはFeO-MgO-SiO₂系化合物、HはFeO-Al₂O₃系化合物、Tはチタン化合物、Mはマトリックスを表す。

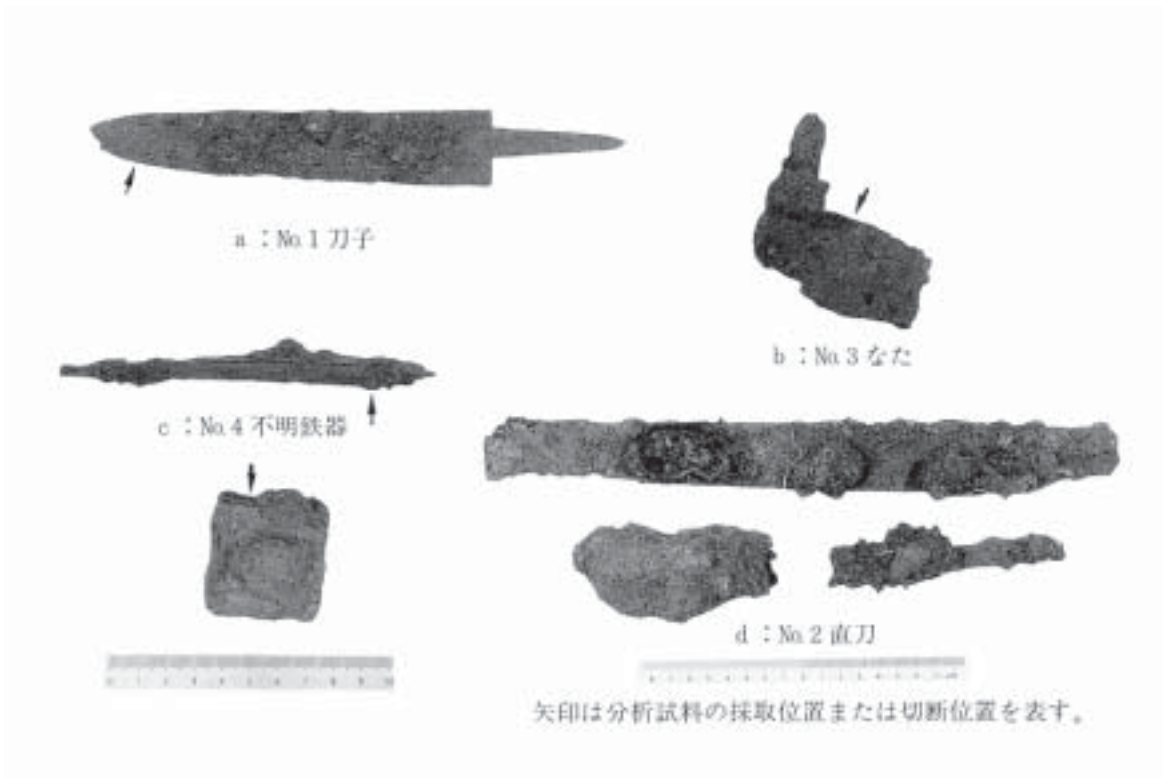
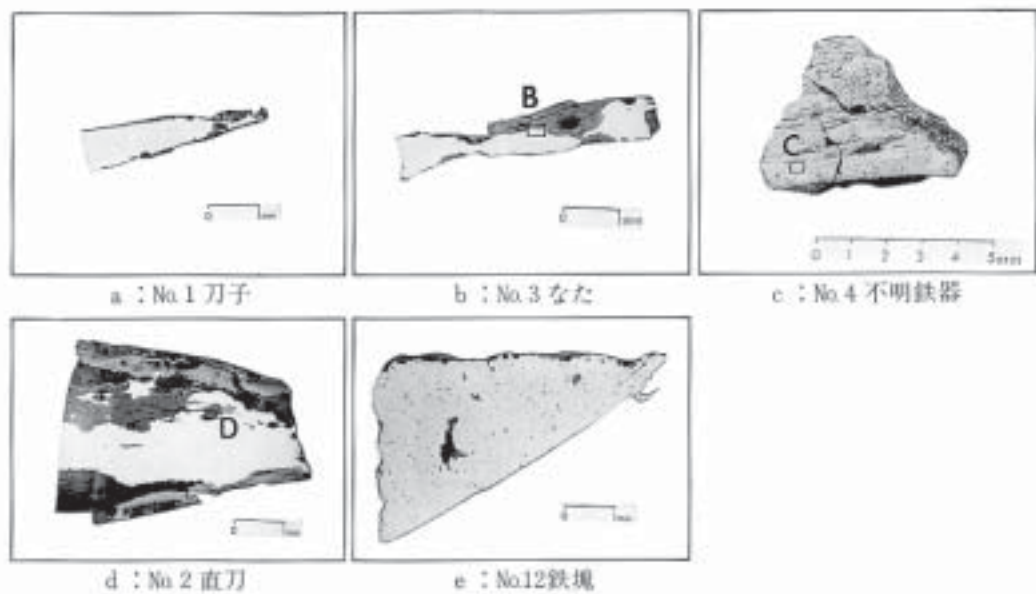


図1 鉄器・鉄塊の外観図



枠で囲んだ領域はミクロ組織観察位置を表す。

図2 鉄器・鉄塊から採取した試料片のマクロ組織

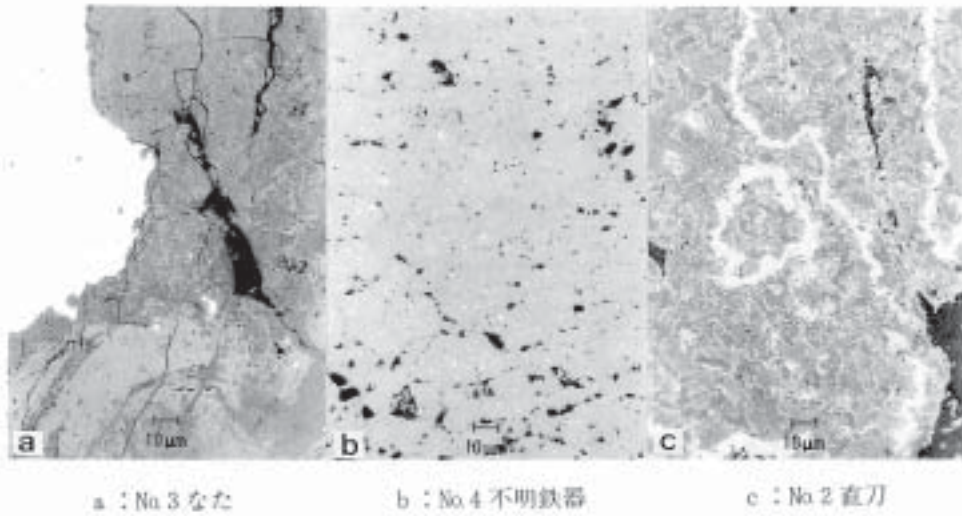


図3 3なた・ 4不明鉄器・ 2直刀から採取した試料片のミクロ組織

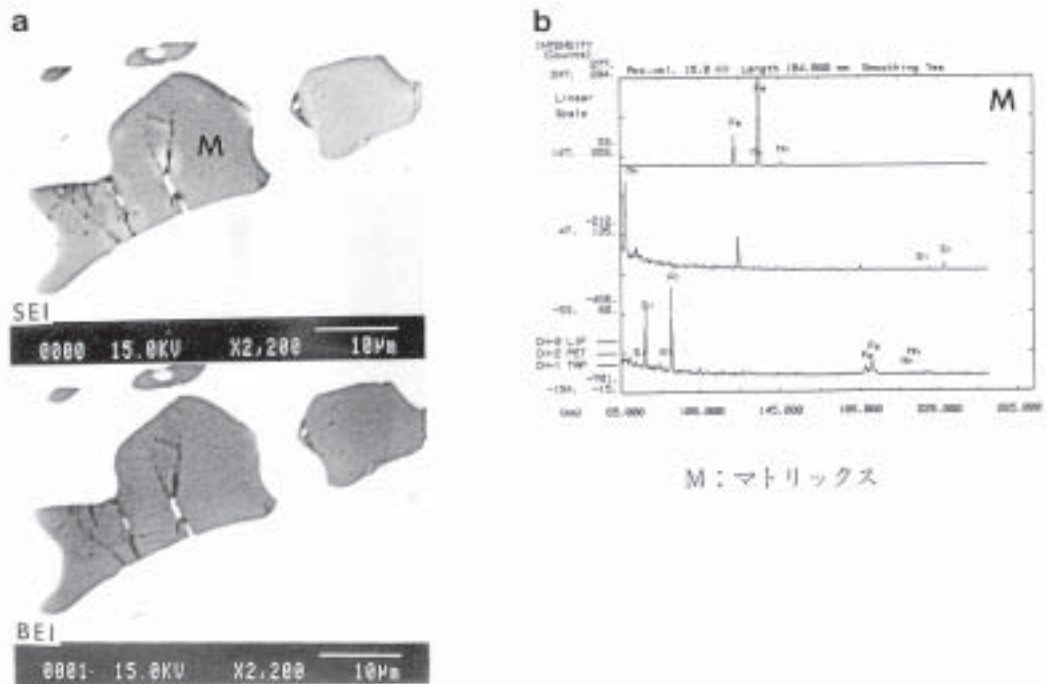


図4 1刀子に見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像、および定性分析結果

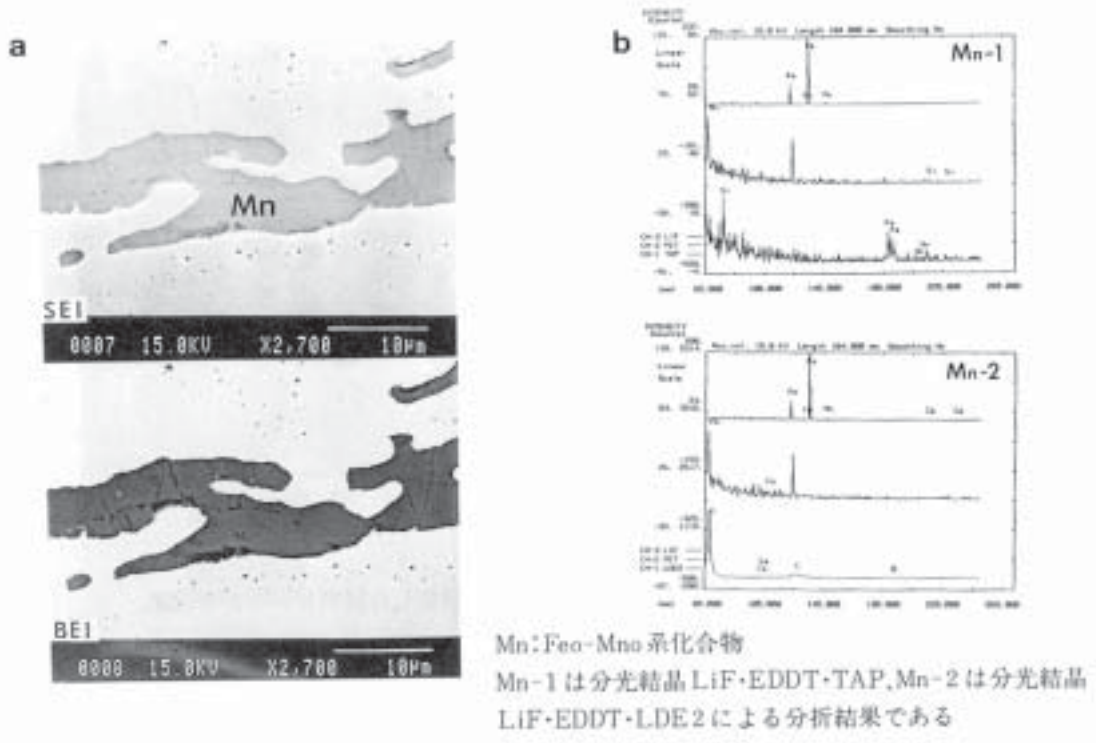


図5 3なたに見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像、定性分析結果

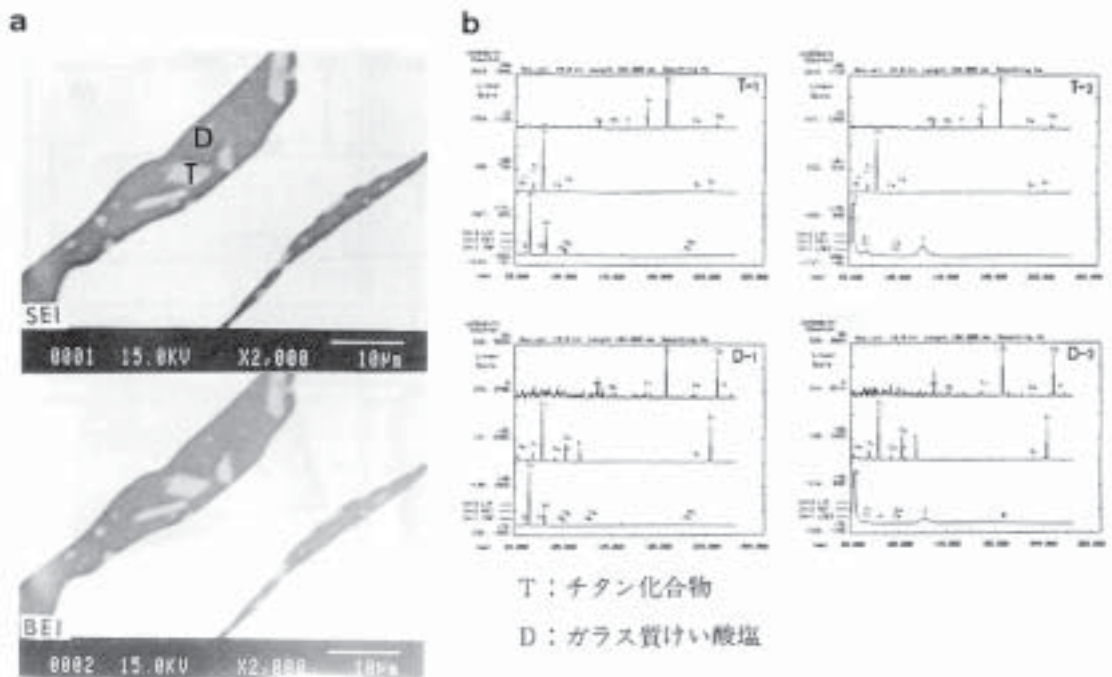


図6 2直刀に見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像、定性分析結果

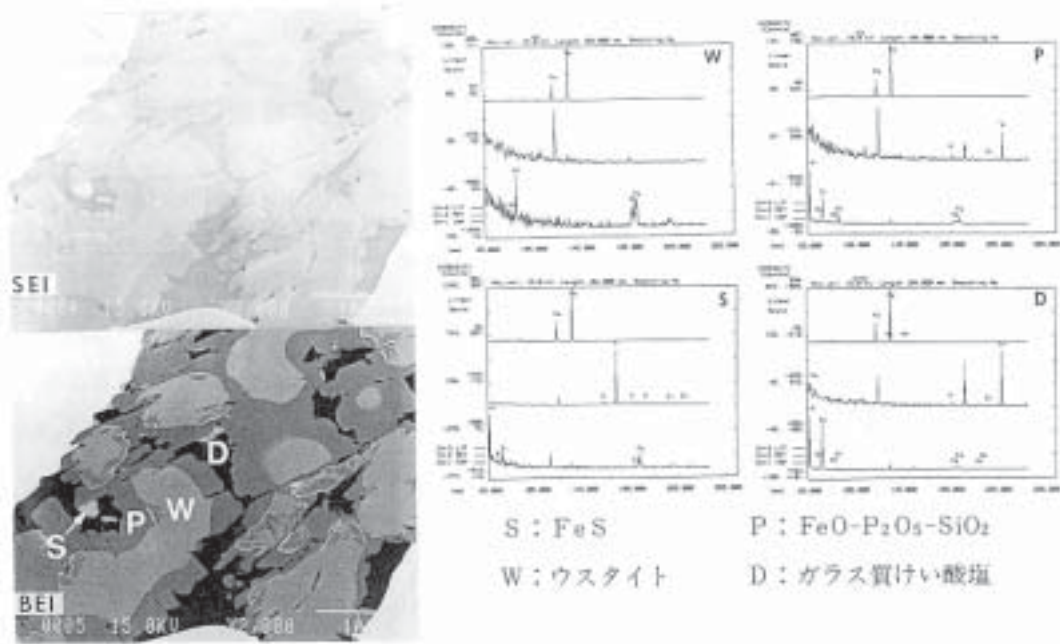


図7 12鉄塊に見いだされた非金属介在物のEPMAによる2次電子像と反射電子像、定性分析結果



図8 No.11、No.13鉄滓の外観

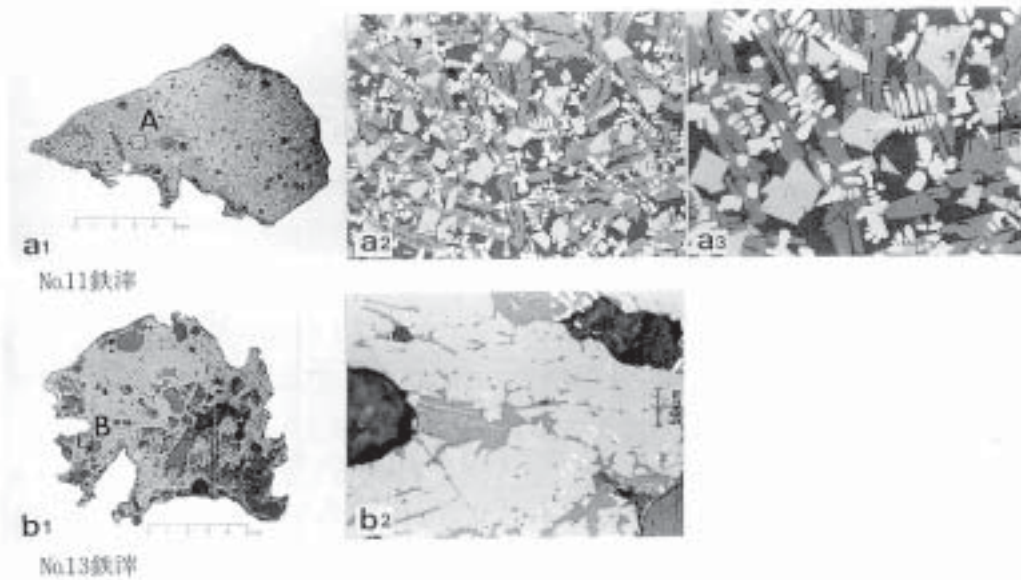


図9 鉄滓のマクロおよびミクロ組織

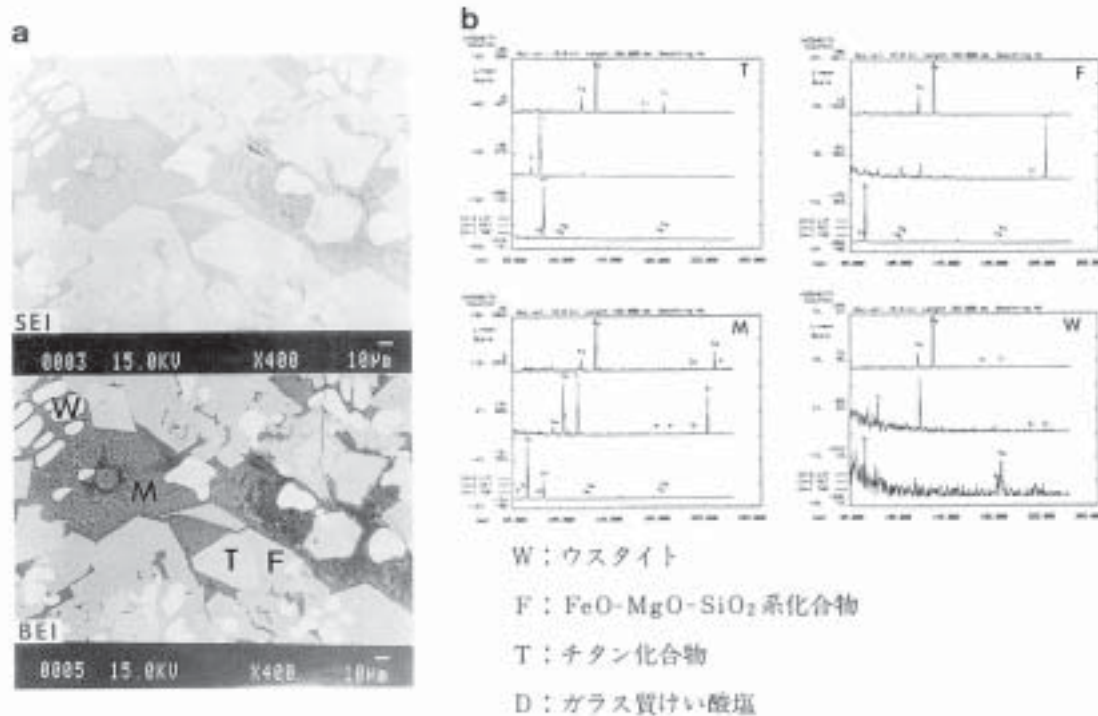


図 10 11 鉄滓から採取した試料片の EPMA による 2 次電子像と反射電子像、定性分析結果

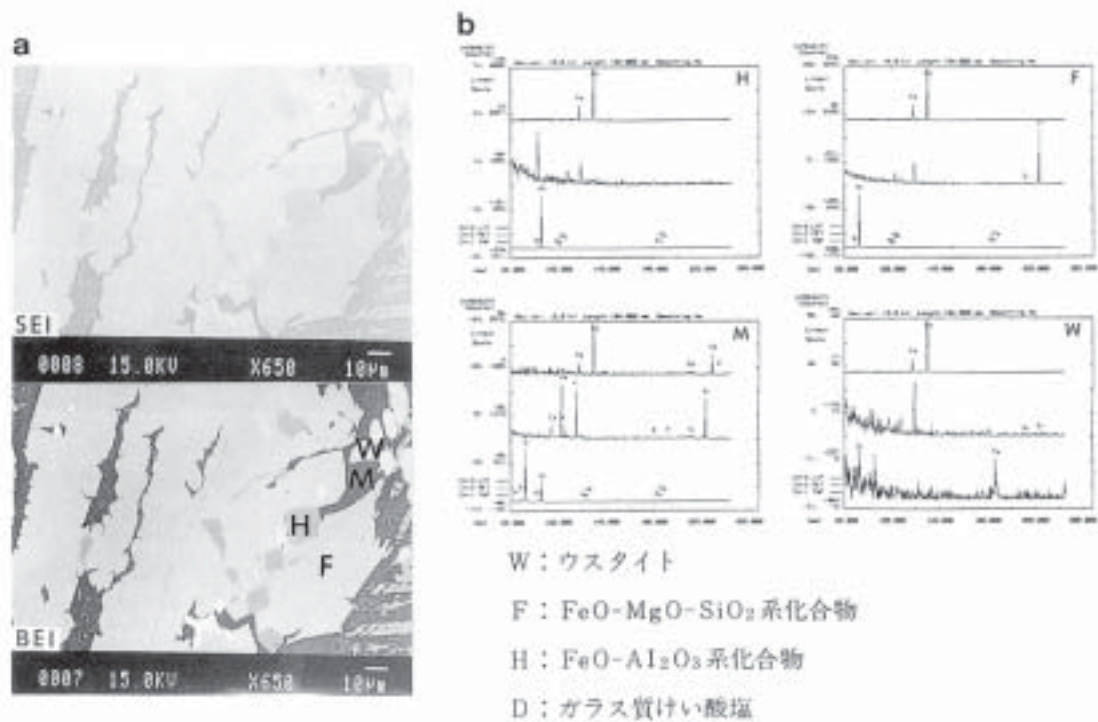


図 11 13 鉄滓から採取した試料片の EPMA による 2 次電子像と反射電子像、定性分析結果

第2節 放射線炭素年代測定結果について

(財)青森県工業技術教育振興会
八戸工業大学助教授 村中 健

受領した木片試料5点についての¹⁴C年代測定の結果を報告する。依頼試料は前処理および化学処理してベンゼンを合成し、これにシンチレーターを加え20mlバイアルを作り測定試料とした。標準試料はNBS 蔞酸標準体SRM4990Cを化学処理して作成したものであり、また、バックグラウンド試料は市販の化学用大理石から処理作成したものをを用いた。

測定装置はアロカ社製の低バックグラウンド液体シンチレーションカウンターシステムLSC - LB であり、年代測定試料、標準試料、バックグラウンド試料について各々50分間ずつ4リピート、10サイクル合計2000分間の測定をおこなった。

年代の算出には¹⁴C半減期としてLibbyの半減期5570年を用い、また、結果は1950年からの年数をBP年代として表記している。なお、付記した誤差は計数値の1に相当する年数である。

記

- HIT - 95 : 三内丸山(2)遺跡 木炭A - 39H, C - 5試料
焼失したと思われる歴史時代の竪穴住居跡の床面から採取
BP年代 : 1090 ± 50年
- HIT - 96 : 三内丸山(2)遺跡 木炭B - 45H試料
焼失したと思われる歴史時代の竪穴住居跡の床面から採取
BP年代 : 1040 ± 50年
- HIT - 97 : 三内丸山(2)遺跡 木炭C - 277土試料
土壌の中間覆土4層から多量の炭化材が出土したため採取
BP年代 : 2680 ± 60年
- HIT - 98 : 三内丸山(2)遺跡 木炭A - 39H, C - 4試料
焼失したと思われる歴史時代の竪穴住居跡の床面から採取
BP年代 : 1070 ± 60年
- HIT - 99 : 三内丸山(2)遺跡 木炭E - J - 108試料
古墳と思われる東側の周湟床面から炭化材が出土したため採取
BP年代 : 1140 ± 60年

第 章 まとめ

2年間にわたる発掘調査で検出・出土した遺構と遺物は、次のとおりである。

	時代	遺構の種類	数	遺物の数(ダンボール箱)		遺物の種類と時期
A 区	縄文 時代	竪穴住居跡	3軒	土器	18箱	土器 (中期・晩期) 石器 (石鏃・石錐・石篋・石匙・その他) 土製品・石製品
		土 壙	13基	石器	8箱	
		埋設土器	1基			
D 区	縄文 時代	竪穴住居跡	1軒	土器	20箱	土器 (中期・後期) 石器 (石鏃・石槍・石篋・石匙・その他) 土製品・石製品
		土 壙	21基	石器	14箱	
		溝状遺構	1本			
E 区	縄文 時代	竪穴住居跡	35軒	土器	52箱	土器 (中期) 石器 (石鏃・石槍・石錐・石篋・その他) 土製品・石製品・鉄製品
		土 壙	317基	石器	28箱	
		埋設土器	4基	土石製品	1箱	
		焼土状遺構	6基			
		小ピット群	5か所			
区	歴史 時代	円形周溝	2基	土師器・須恵器	10箱	土師器 (坏・甕・小型土器) 須恵器 (坏・甕)
		竪穴住居跡	11軒	石器	3箱	
	溝状遺構	2本				

- ・総延長約900mの長い道路建設のための発掘調査ということもあり、調査区によって時期や時代に違いが認められた。遺構は上記のとおりで、遺物はA区は縄文時代中期末葉～晩期、D区は中期末葉が主体で、E区は縄文時代中期末葉が主体で、歴史時代は8～10世紀の遺物が出土した。
- ・遺構については、縄文時代の竪穴住居跡から「モッコリ」と呼んでいたロームの盛土を馬蹄形状に巡らした性格・機能不明の施設が検出された。
- ・数多く検出された土壙の中で、底面にピットを有するもの、溝を有するもの、ピットと溝を有するものが検出され、フラスコ状貯蔵穴のための排水や水抜きと考えられる。
- ・青森市で初めて検出された古墳と考えられる円形周溝は、墳丘・主体部・古墳に伴う副葬品は検出されなかったものの、9世紀に入って築造されたものと思われる。
- ・E区は、限定された道路幅という狭小範囲にもかかわらず、遺構が重複し密集した地域といえる。

紙面及び時間的制約から、良好な資料を十分な検討及び分析を加えぬままで報告したことを反省するとともに、今回の成果が今後の三内丸山(2)遺跡の調査及び研究の一助となれば幸いである。
(担当者一同)

引用参考文献

- | | | | |
|----|----------------|--|-----------------------|
| 1 | 青森県教育委員会 | 1974 『近野遺跡(1)発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 12 集 |
| 2 | 青森県教育委員会 | 1975 『近野遺跡発掘調査報告書()』 | 青埋文報告書第 22 集 |
| 3 | 青森県教育委員会 | 1975 『中の平遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 25 集 |
| 4 | 青森県教育委員会 | 1976 『泉山遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 31 集 |
| 5 | 青森県教育委員会 | 1977 『近野遺跡()・三内丸山()遺跡
発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 33 集 |
| 6 | 青森県教育委員会 | 1977 『水木沢遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 34 集 |
| 7 | 青森県教育委員会 | 1978 『三内遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 37 集 |
| 8 | 青森県教育委員会 | 1978 『三内沢部遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 41 集 |
| 9 | 青森県教育委員会 | 1979 『近野遺跡発掘調査報告書()』 | 青埋文報告書第 47 集 |
| 10 | 青森県教育委員会 | 1985 『尻高(2)・(3)・(4)遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 89 集 |
| 11 | 青森県教育委員会 | 1986 『発茶沢遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 96 集 |
| 12 | 青森県教育委員会 | 1986 『独狐遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 99 集 |
| 13 | 青森県教育委員会 | 1987 『山本遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 105 集 |
| 14 | 青森県教育委員会 | 1988 『小田内沼(1)遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 107 集 |
| 15 | 青森県教育委員会 | 1988 『李平下安原遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 111 集 |
| 16 | 青森県教育委員会 | 1988 『発茶沢(1)遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 116 集 |
| 17 | 青森県教育委員会 | 1989 『富ノ沢(1)・(2)遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 118 集 |
| 18 | 青森県教育委員会 | 1989 『館野遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 119 集 |
| 19 | 青森県教育委員会 | 1990 『空沢遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 130 集 |
| 20 | 青森県教育委員会 | 1991 『富ノ沢(1)・(2)遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 133 集 |
| 21 | 青森県教育委員会 | 1991 『中野平遺跡発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 134 集 |
| 22 | 青森県教育委員会 | 1991 『富ノ沢(2)遺跡 発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 137 集 |
| 23 | 青森県教育委員会 | 1992 『富ノ沢(2)遺跡 発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 143 集 |
| 24 | 青森県教育委員会 | 1993 『富ノ沢(2)遺跡 発掘調査報告書』 | 青埋文報告書第 147 集 |
| 25 | 青森市教育委員会 | 1962 三内霊園遺跡調査概報 | 青森市の文化財 1 |
| 26 | 青森市教育委員会 | 1970 三内丸山遺跡調査概報 | 青森市の埋蔵文化財 4 |
| 27 | 青森市教育委員会 | 1988 三内丸山 遺跡発掘調査報告書 | 青森市の埋蔵文化財 |
| 28 | 青森市教育委員会 | 1992 三内丸山(2)遺跡発掘調査概報 | 青森市埋蔵文化財調査報告書第 18 集 |
| 29 | 村越 潔 | 1974 『増補円筒土器文化』 | |
| 30 | 三宅 徹也 | 1978 円筒土器の概念とその崩壊 | 『青森県立郷土館調査研究年報』 3 |
| 31 | 三宅 徹也 | 1981 円筒土器 | 『縄文文化の研究』 3 |
| 32 | 宇部 則保 | 1989 『青森県における 7・8 世紀の土師器
- 馬淵川下流域を中心として - 』 | 北海道考古学第 25 輯 |
| 33 | 葛西 励・高橋 潤 | 1989 『原遺跡発掘調査報告書』 | 尾上町教育委員会 |
| 34 | 葛西 励・高橋 潤 | 1990 『東北北部における終末期古墳の研究』 | 撚糸文第 18 号 |
| 35 | 工藤 竹久 | 1989 『青森県の末期古墳』『シンポジウム
東日本の末期古墳』 | 八戸市教育委員会 |
| 36 | 八戸市博物館 | 1989 『いにしへの東日本 - 古墳文化をさぐる - 』 | 市制施行 60 周年記念特別展図録 |
| 37 | 八戸市教育委員会 | 1991 『丹後平古墳』 | 八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 44 集 |
| 38 | 八戸市教育委員会 | 1993 『殿見遺跡発掘調査報告書』 | 八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 49 集 |
| 39 | 八戸市教育委員会 | 1994 『殿見遺跡発掘調査報告書』 | 八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 57 集 |
| 40 | 下田町教育委員会 | 1989 『阿光坊遺跡』 | 下田町埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 |
| 41 | 下田町教育委員会 | 1990 『阿光坊遺跡』 | 下田町埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集 |
| 42 | 下田町教育委員会 | 1991 『阿光坊遺跡』 | 下田町埋蔵文化財発掘調査報告書第 3 集 |
| 43 | 青森県埋蔵文化財調査センター | 1990 大地から甦った祖先の足跡 総括編 | 図説「ふるさと青森の歴史」 |
| 44 | 青森県埋蔵文化財調査センター | 1992 青い森の縄文人とその社会 縄文時代中期・後期編 | 図説「ふるさと青森の歴史」 |

写真图版



遠景



遠景



第1号竖穴住居跡



第1号竖穴住居跡 炉



第3号竖穴住居跡



標準土層 (D - 12)

写真1 A区遺構(住居跡ほか)



第2号土壙



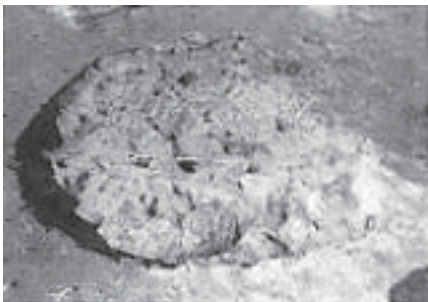
第8・9号土壙



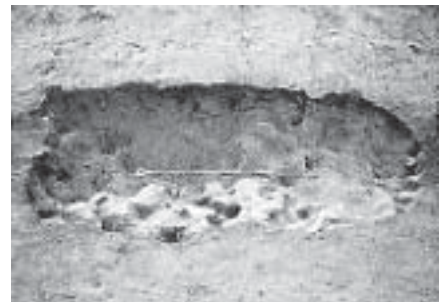
第10号土壙



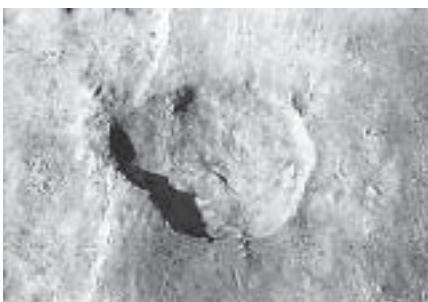
第11号土壙



第12号土壙



第13号土壙



第16号土壙



石剣出土状況 (D - 8)

写真2 A区遺構(土壙ほか)



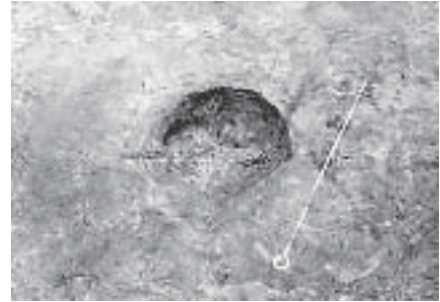
遠景



近景



近景



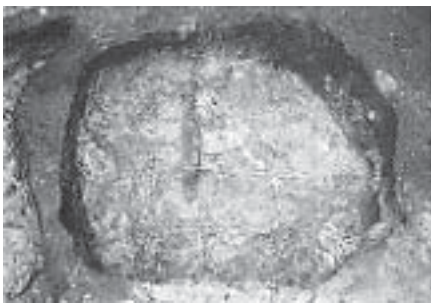
第1号土壇



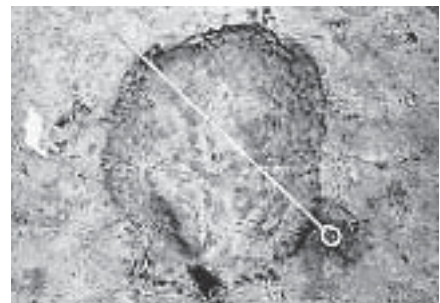
第6号土壇



第7号土壇



第8号土壇



第9号土壇

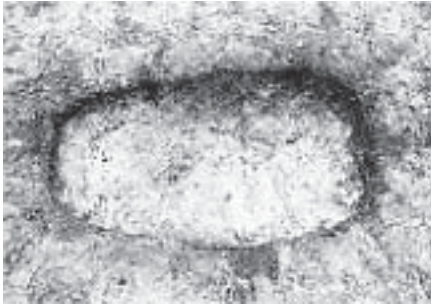
写真3 D区遺構（土壇ほか）



第12号土坑



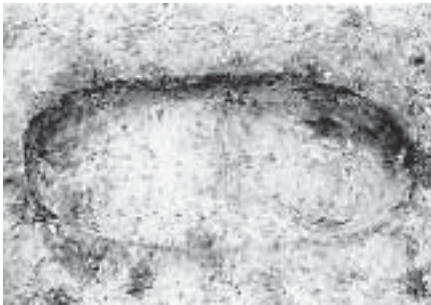
第17・22号土坑



第18号土坑



第19号土坑



第20号土坑



第21号土坑



第1号溝



標準土層 (D - 6)

写真4 D区遺構(土坑ほか)



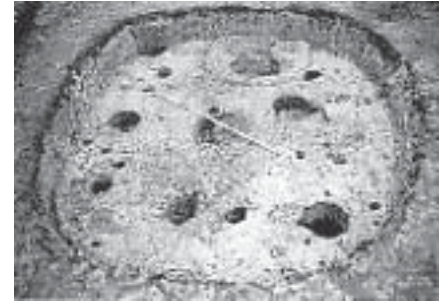
近景



近景



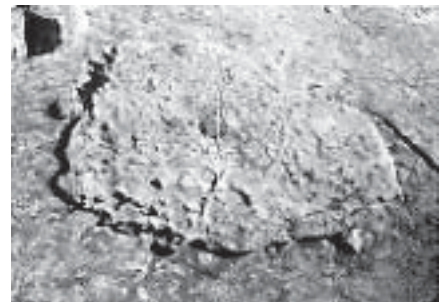
第1号竖穴住居跡



第2号竖穴住居跡



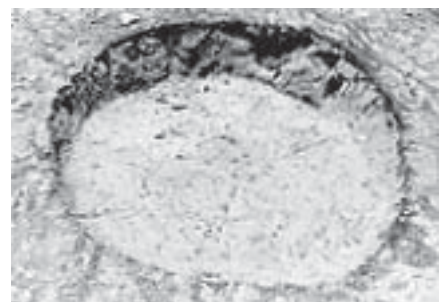
第2号竖穴住居跡 特殊施設



第3号竖穴住居跡

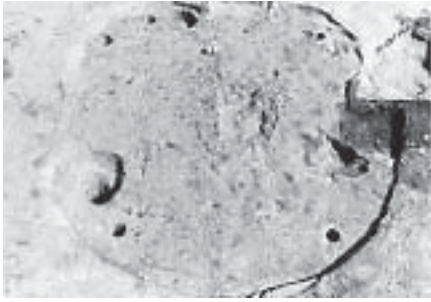


第4号竖穴住居跡



第6号竖穴住居跡

写真5 E区遺構（住居跡ほか）



第7号竖穴住居跡



第8号竖穴住居跡



第10号竖穴住居跡



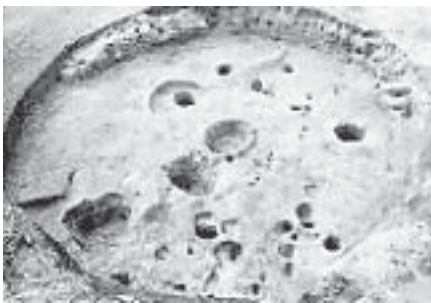
第11号竖穴住居跡



第12・19号竖穴住居跡



第13号竖穴住居跡

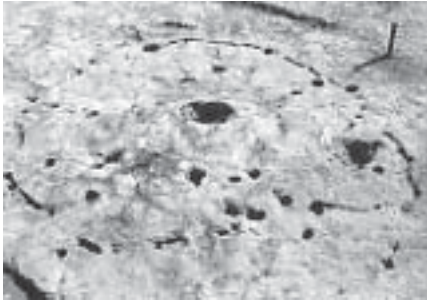


第17号竖穴住居跡

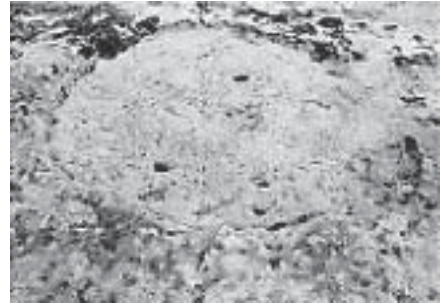


第18号竖穴住居跡

写真6 E区遺構（住居跡）



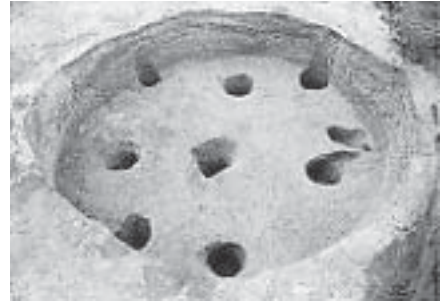
第 20 号竖穴住居跡



第 21 号竖穴住居跡



第 22 号竖穴住居跡



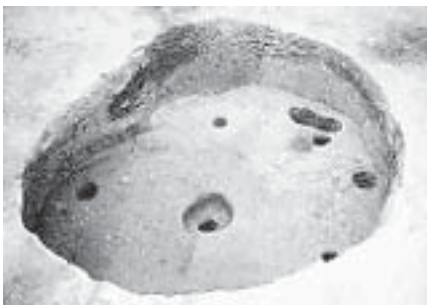
第 24 号竖穴住居跡



第 25 号竖穴住居跡



第 26 号竖穴住居跡



第 28 号竖穴住居跡



第 30 号竖穴住居跡

写真7 E区遺構（住居跡）



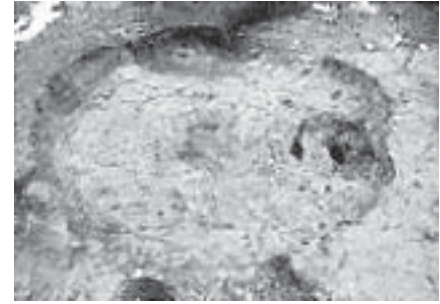
第 34 号竖穴住居跡



第 35 号竖穴住居跡



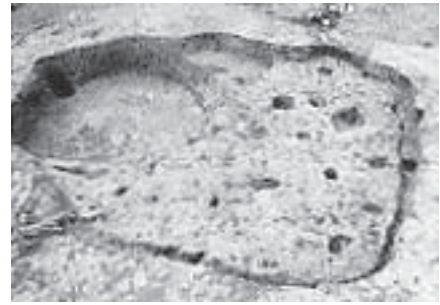
第 44 号竖穴住居跡



第 47 号竖穴住居跡



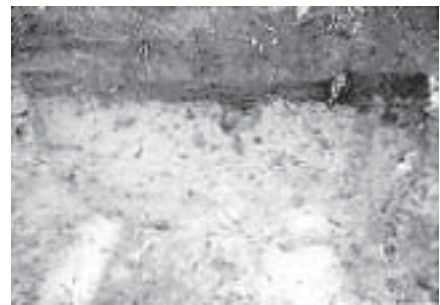
第 48 号竖穴住居跡



第 49 号竖穴住居跡



第 50 号竖穴住居跡



第 52 号竖穴住居跡

写真 8 E 区遺構（住居跡）



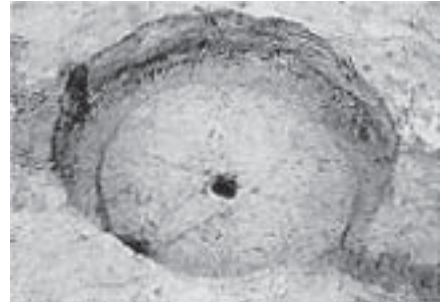
第 27 号土壤



第 93・94 号土壤



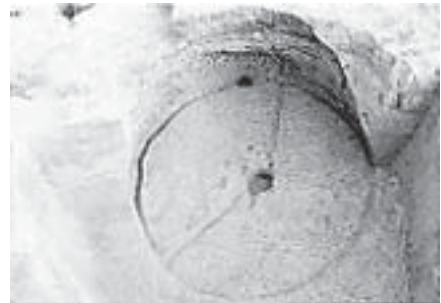
第 112 号土壤



第 112 号土壤



第 155 号土壤



第 155 号土壤

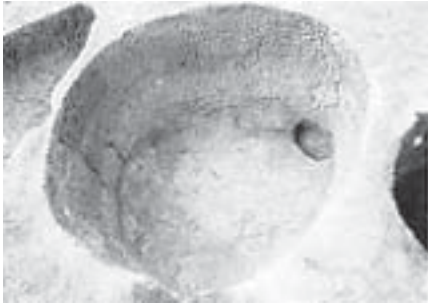


第 163 号土壤



第 187 号土壤

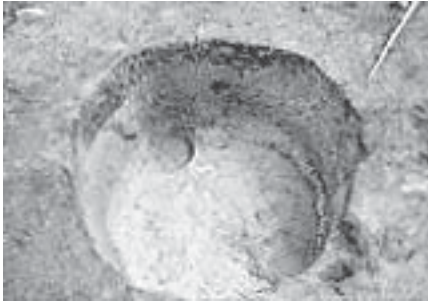
写真 9 E 区遺構（土壤）



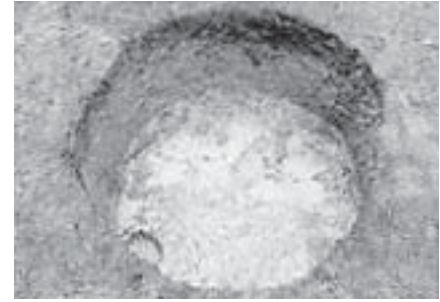
第 191 号土壤



第 194 号土壤



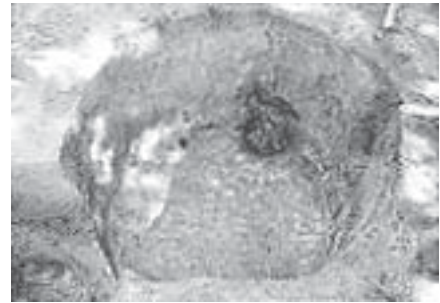
第 202 号土壤



第 203 号土壤



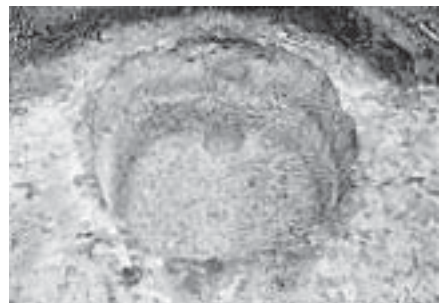
第 212 号土壤



第 222 号土壤

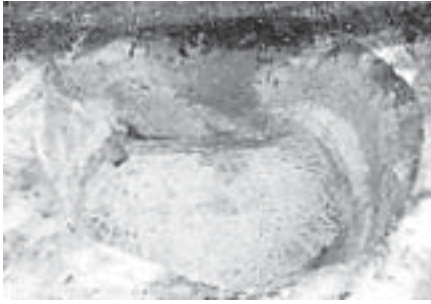


第 232 号土壤



第 233 号土壤

写真 10 E 区遺構 (土壤)



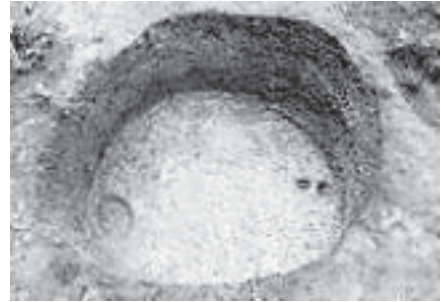
第 235 号土坑



第 236 号土坑



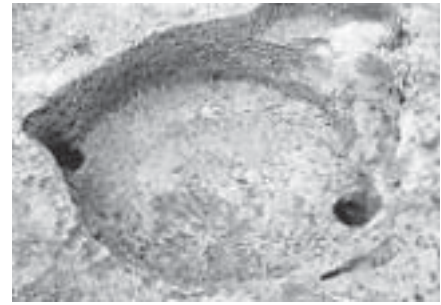
第 237 号土坑



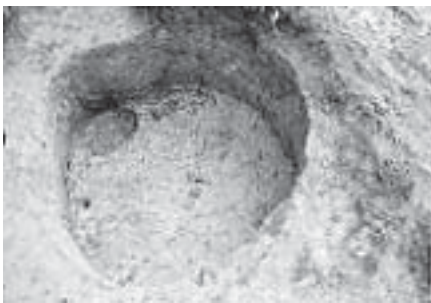
第 248 号土坑



第 249 号土坑



第 250 号土坑



第 264 号土坑



第 271 号土坑

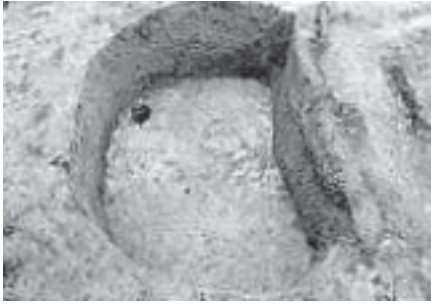
写真 11 E 区遺構（土坑）



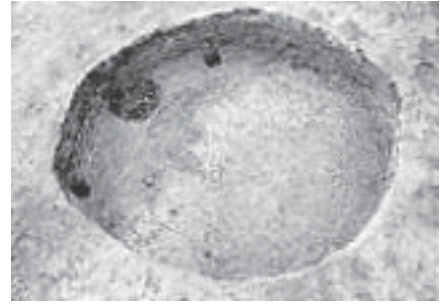
第 302 号土壙



第 304 号土壙



第 307 号土壙



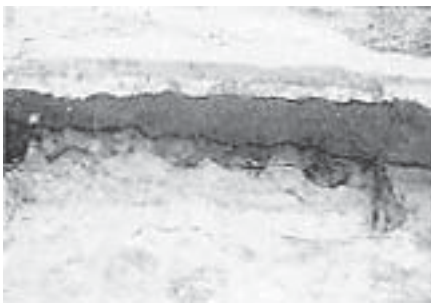
第 371 号土壙



第 374 号土壙



第 1 号 TP



標準土層 (L - 91)



標準土層 (L - 110)

写真 12 E 区遺構 (土壙ほか)



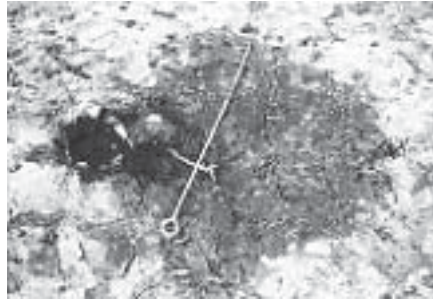
第1号埋設土器



第1号埋設土器



第2号埋設土器



第3号埋設土器



第1号烧土



第3号烧土



第4号烧土



第5号烧土

写真13 E区遺構(埋設土器・烧土)



第1号円形周溝



第1号円形周溝



第1号円形周溝 セクション



第1号円形周溝 セクション



第2号円形周溝



第2号円形周溝



第2号円形周溝 セクション



第2号円形周溝 セクション

写真14 E区遺構(円形周溝)



第5号竖穴住居跡



第5号竖穴住居跡



第9号竖穴住居跡



第2・9号竖穴住居跡



第14号竖穴住居跡



第36号竖穴住居跡



第38号竖穴住居跡



第39号竖穴住居跡

写真15 E区遺構(住居跡)



第 41 号竖穴住居跡



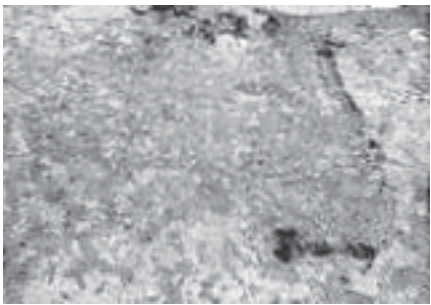
第 42 号竖穴住居跡



第 43 号竖穴住居跡



第 45 号竖穴住居跡



第 46 号竖穴住居跡



第 1 号溝



第 2 号溝

写真 16 E 区遺構（住居跡ほか）

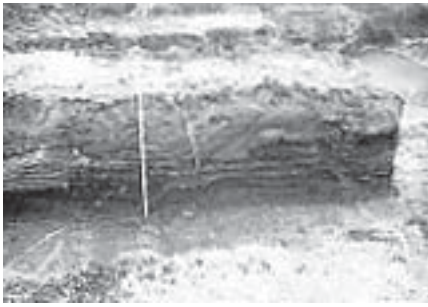
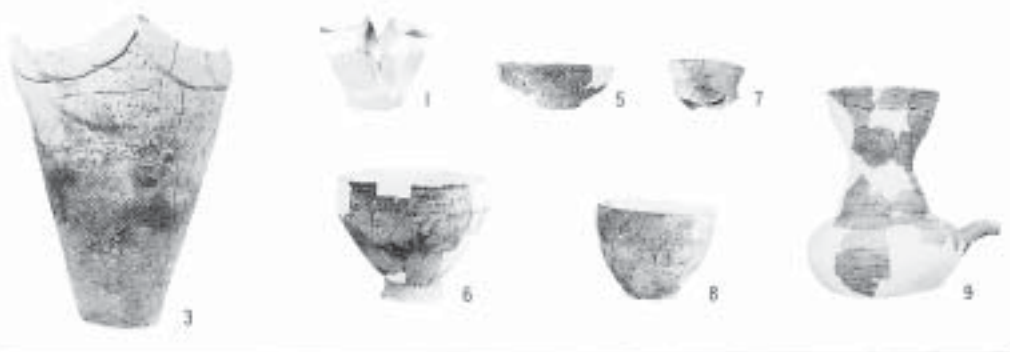
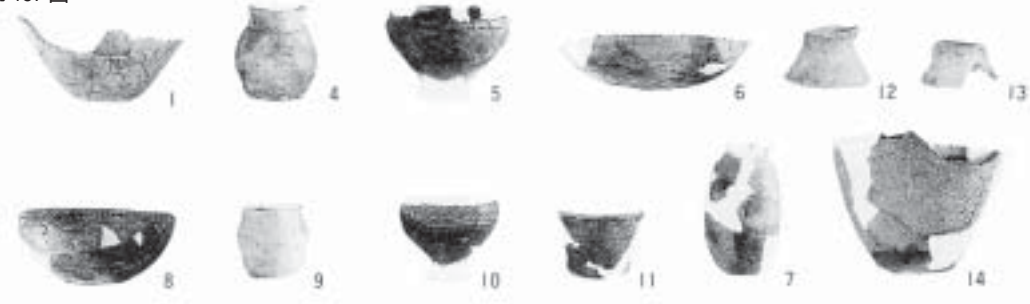


写真17 小三内遺跡トレンチ

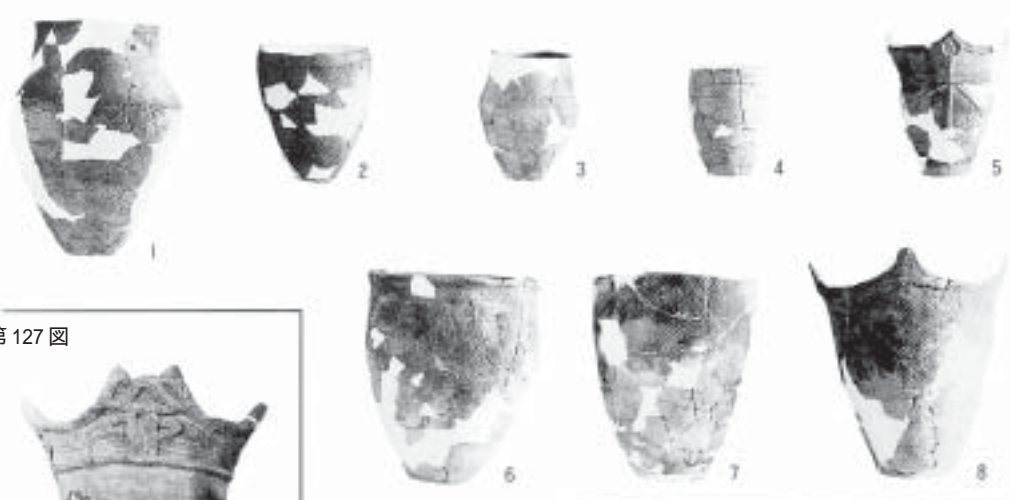
第 156 图



第 157 图



第 158 图



第 127 图



第 129 图

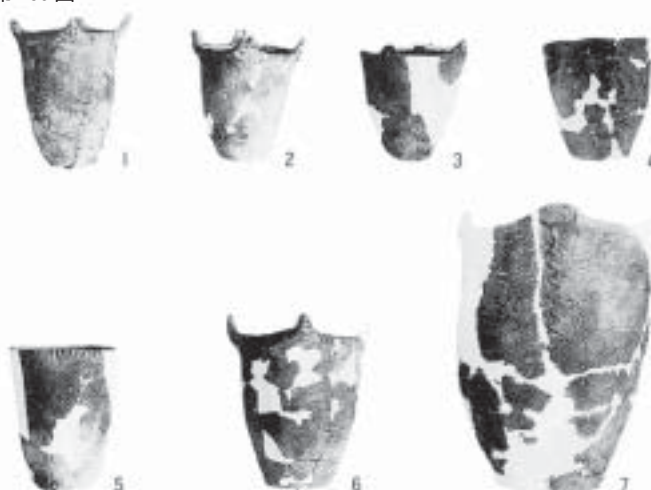


写真 18 A·D·E 区遺物 (土器)

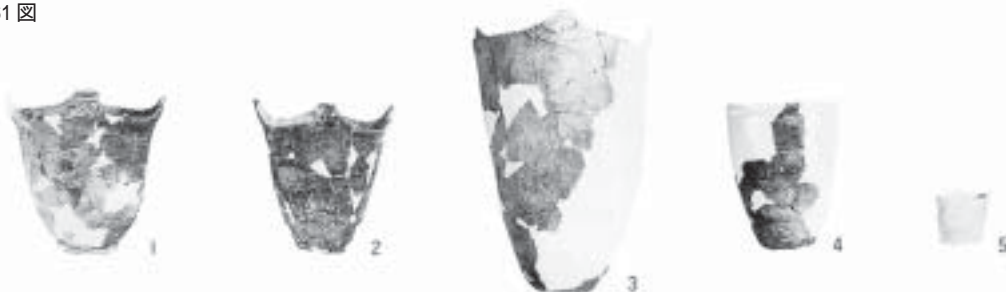
第 159 图



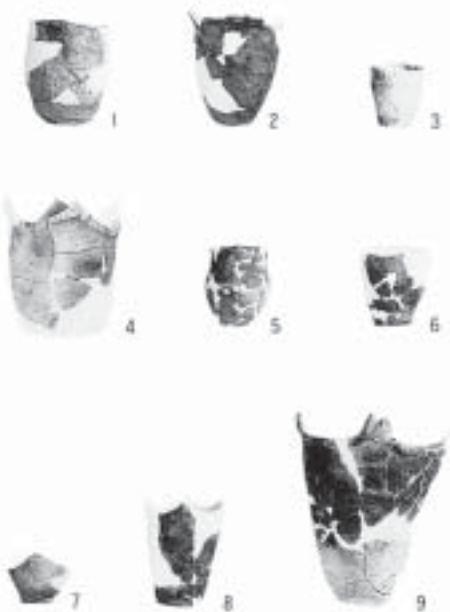
第 160 图



第 161 图



第 162 图



第 163 图

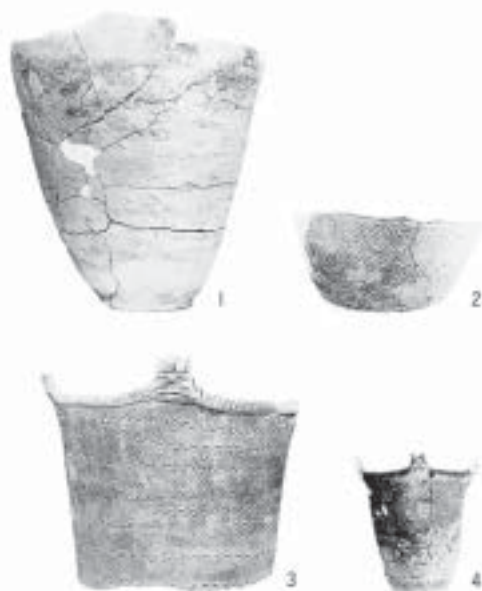
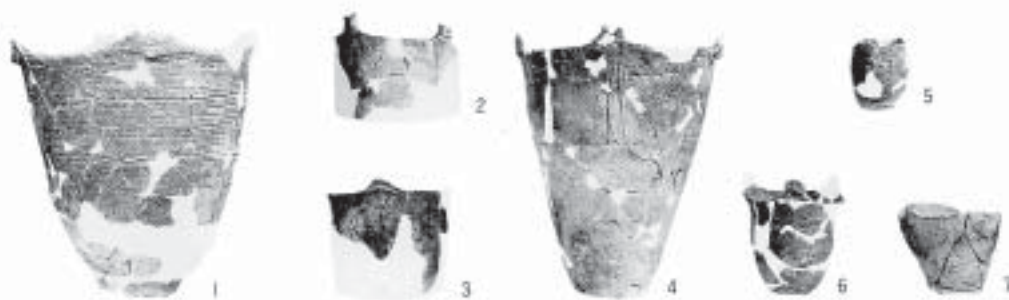
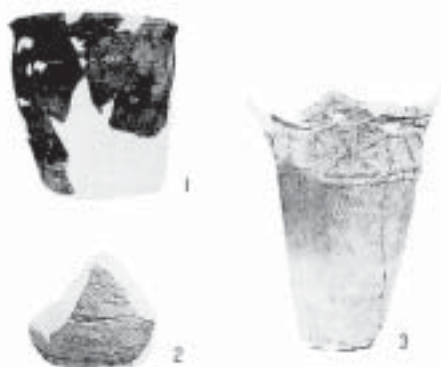


写真 19 E 区遺物 (土器)

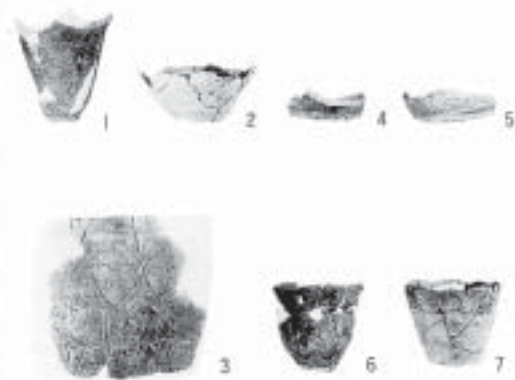
第 164 图



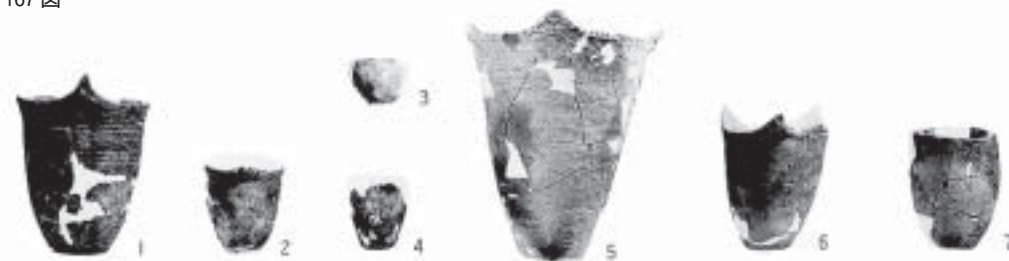
第 165 图



第 166 图



第 167 图

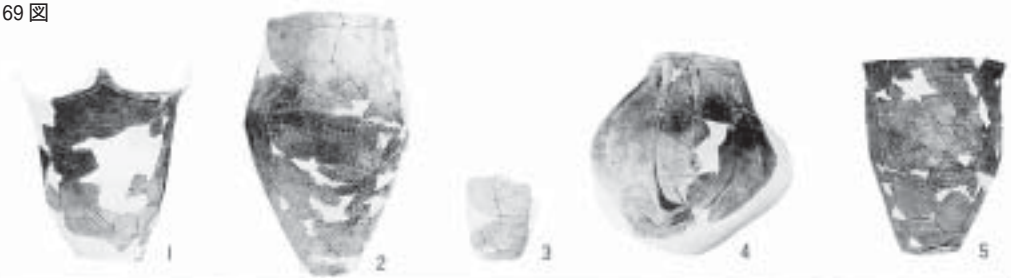


第 168 图



写真 20 E 区遺物 (土器)

第 169 图



第 170 图



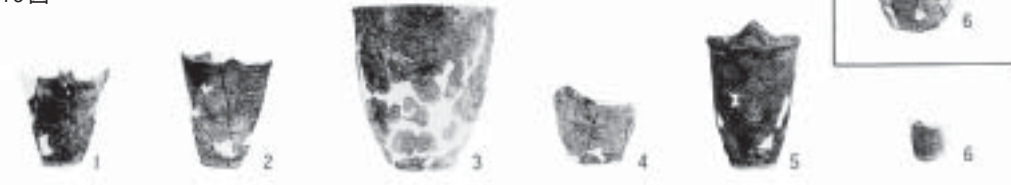
第 171 图



第 172 图



第 173 图



第 174 图

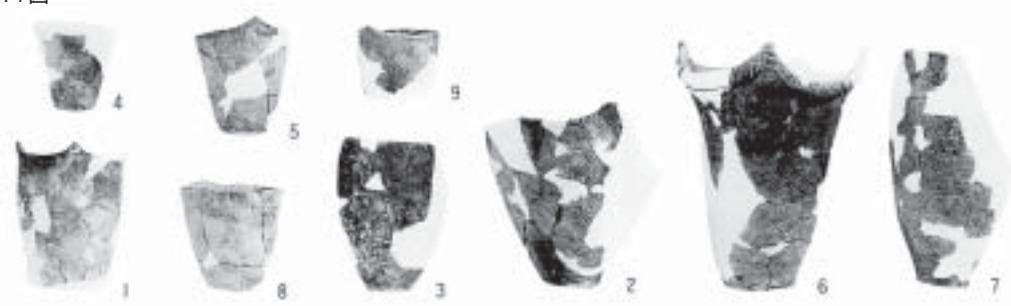
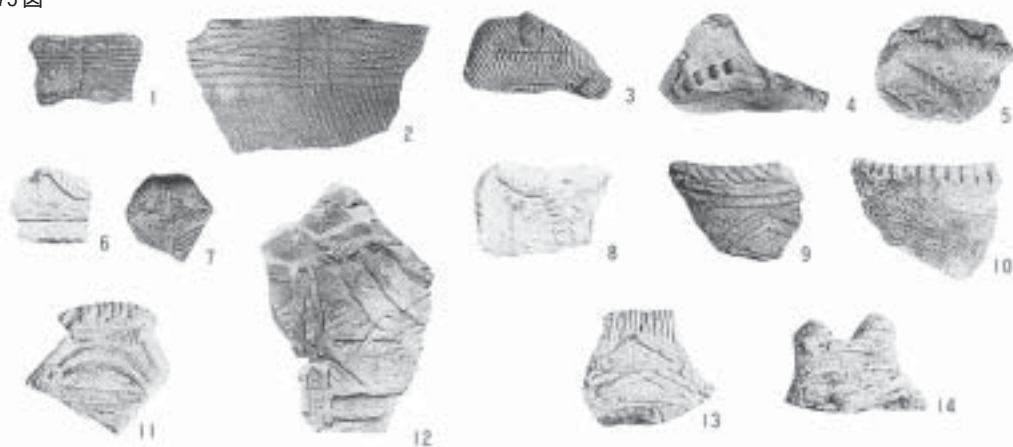


写真 21 E 区遺物 (土器)

第 175 图



第 176 图



第 177 图

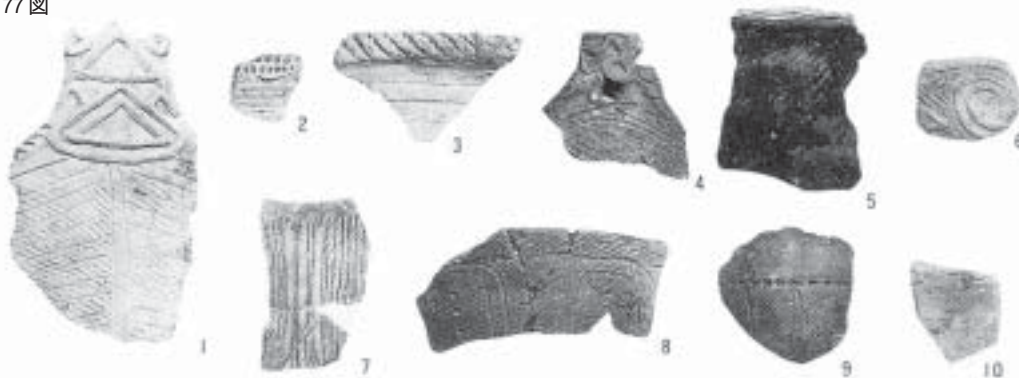


写真 22 E 区遺物 (土器)

第178图~第185图



写真23 A区遺物(石器・土製品・石製品)

第 186 ~ 第 190 图

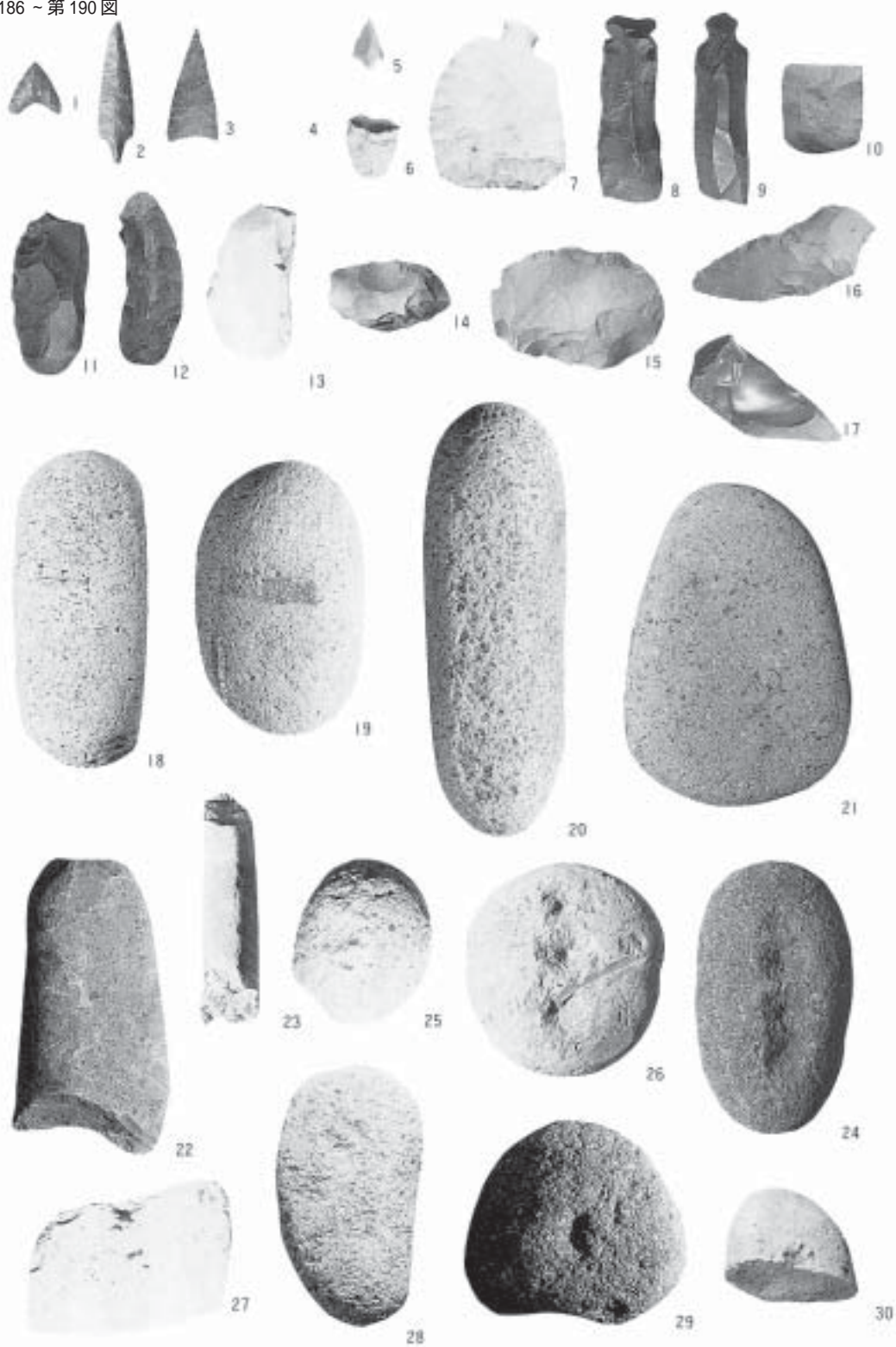


写真 24 D区遺物(石器)

第190图~第192图



写真25 D区遺物(石器・土製品・石製品)

第 193 图 ~ 第 202 图

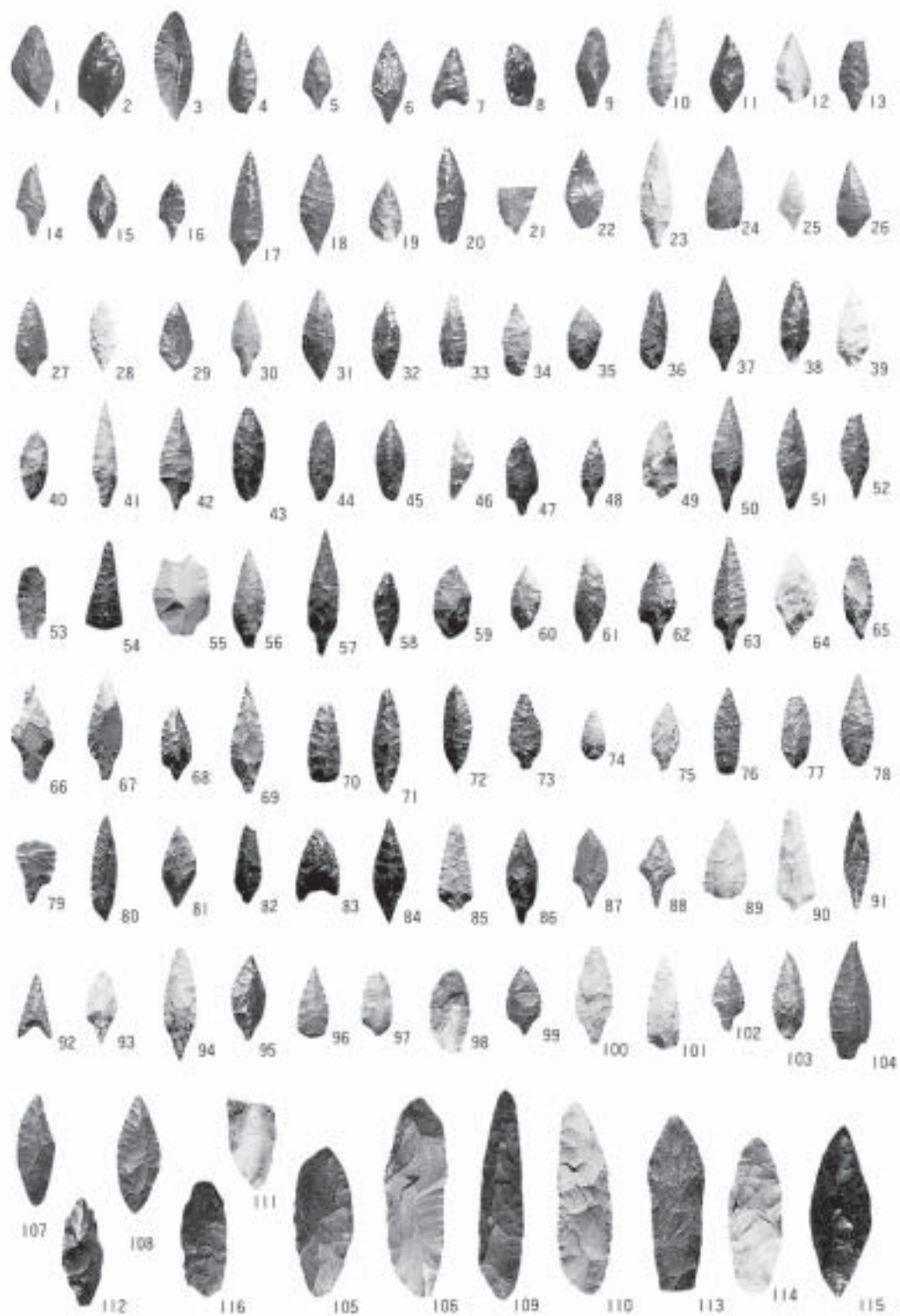


写真 26 E 区遺物 (石器)

第202図～第212図



写真27 E区遺物(石器)

第213图~第216图



写真28 E区遺物(石器)

第216図～第220図

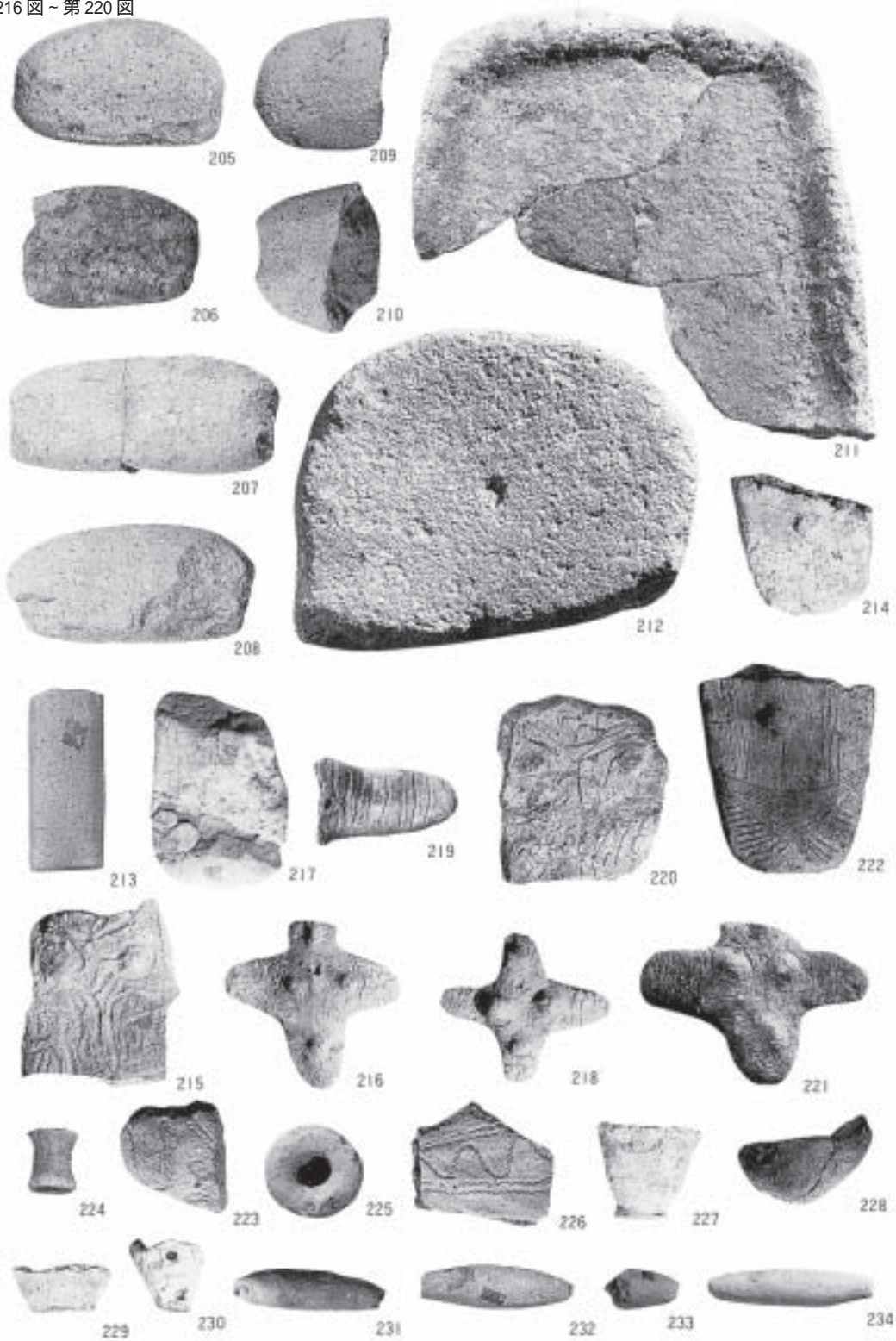
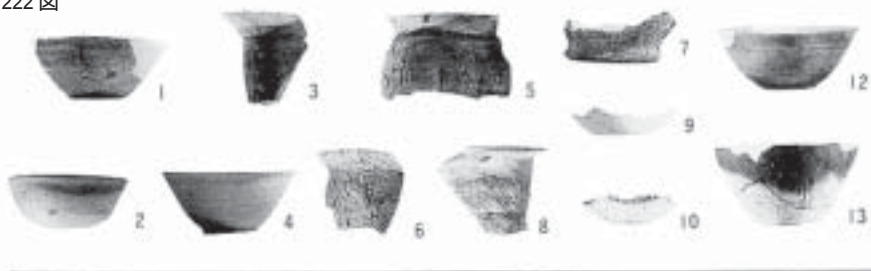


写真29 E区遺物(石器・土製品)

第 222 図



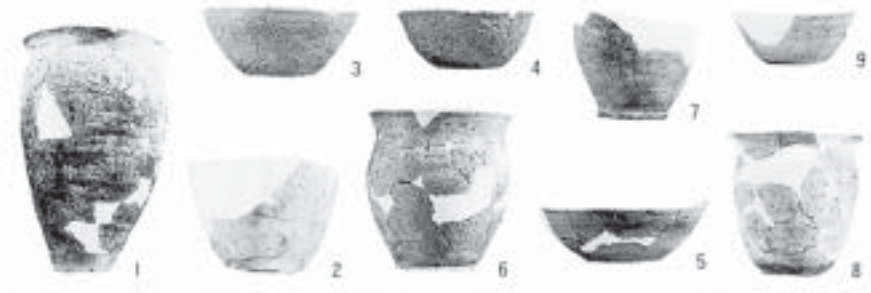
第 227 図



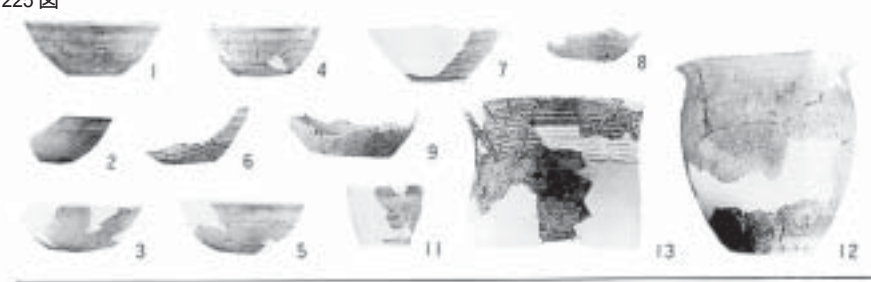
第 223 図



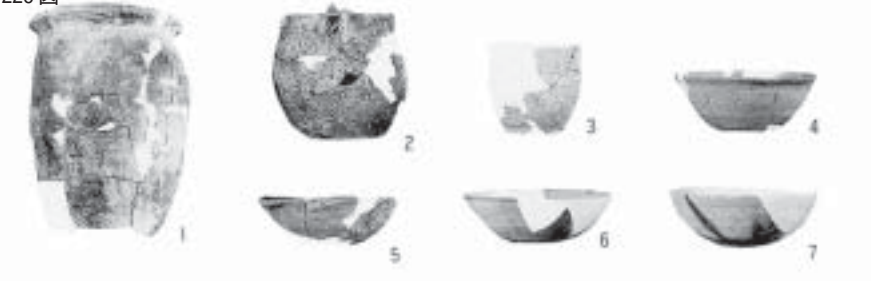
第 224 図



第 225 図



第 226 図



第 30 E 区遺物 (土師器・須恵器・鉄製品)

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ッ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山通跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内通跡発掘調査報告書』
		1979	『蛭沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983		『山野峠遺跡』
〃	1985		『長森遺跡発掘調査報告書』
〃	1986		『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃	1987		『横内城跡発掘調査報告書』
〃	1988		『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書第16集	1991		『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第23集

三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成6年3月31日

発行 青森市教育委員会

〒030 青森市中央一丁目22-5

TEL 0177-34-1111

印刷 青森オフセット印刷株式会社

〒030 青森市本町二丁目11-16

TEL 0177-75-1431
